時間 午前七時 午後七時

中驛・西

醫學博士 岸

樞密院顧問官 文學博士男爵 細川潤次郎題字

文學博士 井上賴圀序文

文學博士 萩野由之序文

姓氏研究會編纂

姓氏明鑑

發行所 東京 姓氏研究會

大正元年十月

細川潤題

序

我が大日本帝國は、血族的に組織せられたる國なれば、おのづから姓氏を貴重する美風良俗を成し、また隨て立身齊家の本據をもなして、道義的感情に强大なる力を與へ、世に所謂る武士道の確立を見るに至れり。姓系の重ずべき事實に斯の如し。そも〱往古皇祖天神の正統より出でたるを皇胤と稱し、その支系分流のすべてを神裔と稱しつれど、これ皆、本の雫末の露の差こそあれ。その淵源一にして二ならず、二にして而も一なりしかば、やがて一國一家のすがたなりけむかし。然るに時うつり星かはり、世々をし經るがまに〱一氏蕃殖生萬姓と國史に見ゆるがごとく、連枝累葉やゝ〱にうまはり來り、又海外の種族も入り交れるからに、遂には亂りか

はしき端ともなりぬるを以て、勘系所を置き、また勘本系使を發遣し、實䙌後證を得たる後、姓氏錄など云ふ書を撰ばせられき。此の書は萬多親王等奉勅して修錄せられ、皇別神別蕃別の三種に分ち物せられ、且その原泉の詳ならぬ諸氏を、この三種別已外に列記せらる。これ即ち其知り得らるゝ祖族を初系として、將來の家訓を遺さしめむ爲にもやありけむ。其後武門專政の頃に至り、源平藤橘の四姓を首始として、諸家系譜を修成せし書甚多く、德川氏治政の時には、系圖改めなど云ふ制もありて、武士道の盛運を計ると共に姓系を貴重したること、古來の慣例に讓らざりき。これ洵に我國史の美を濟せる唯一の要素なれば、子孫たる者、また須らく後鑑とすべき事にはあれども、百科の學、今日の如く開進せざる以前の書は、誤傳

謬説甚少からぬを遺憾とす。この姓氏明鑑は大に是等の點に留意せられ、いと明確に、いと便宜に編述せられたれば、世上に裨益多かる事は更なり、遠く建國の由緒をも推知するに足るを悦ひ、玆に所感を概言して、此書の序文となすにあむ。

大正元年九月二十日

文學博士　井上頼圀識

序

萬世一系の天皇の統治し給へる我國は、國民も亦萬世一系なるものゝ少からず。近頃まで攝關大臣を世々にせる藤原氏は、遠く天照大神に仕へ奉りし天兒屋根命の後にして、又神武天皇の功臣天種子命の苗裔なり。近き頃まで武家政治の首領と仰がれて、政權を掌握せる德川將軍は、流派を淸和の天潢に分ちたるものなり。而して今に皆瓜瓞綿々として、貴族の首班にあり。長き間には時に螟蛉なきにあらずといへども、槪して臣民も亦萬世一系なることを知らん此事は唯貴族のみにはあらず、志摩の國の海人辻淸助といへる家は、古く皇大神宮の五十鈴川上に鎭座ましましゝ時より、年々神料の鰒を獻るを職とし、女系にて連綿たることゝ千有餘年に及べりと

いふ、庶民の間にも亦かゝる類は存せり。

されば中古において、漢韓の歸化人が漸く我國民性に同化するや其祖先を求めて、或は秦の始皇とし、或は漢の靈帝とし、出自を其君主に託して其家系を貴からしめんとせしが如き、源平時代の戰においてく陣頭に立てる武士の、我は桓武天皇幾代の後胤、我祖父は何帝に仕へまつりてしかく〳〵の事業をなし、我父は何の戰にかくかくの勳功ありきと、相互に名乘り合ひて後に勝負を决せしが如き皆この世業を繼述し、家名を墮さじとするの意ありき。

然るに多くの年所を經て、戸口蕃殖するに及びては、家號苗字專行はれ、氏姓を誤り家系を失ひ、遂に祖先の出自を明にせざるもの少からず、今に於ては遠き曩祖の昔に遡りては、知るよしなきものも

無きにはあらねど、其知らるべきを知らず、審にすべきを審にせざらんは、既に祖先を敬する所以にあらず、又報本反始の道にも背けり此書姓氏の源委を詳にし、諸家の出自を明にすることを主とす、余未全編を通覽せずといへども、既に編者の志の徒爾ならざるを信ず、讀者豈無心に看過し去るべきものならんや、讀者は既に我國體の、萬世一系の天皇を奉戴するによりて尊嚴なるを知れり、乃ち又此書によりて、國民も亦祖先以來世々相承けて臣子たる職に服したることを詳にし、以て將來の勵むべき所を明にせざるべからず

大正元年九月盡日

文學博士　萩野由之識

凡例

一本書編纂の目的は、我が姓氏氏族に關する知識を一般に普及せしめんとするにあり。これこの姓氏氏族の事たる、國民教育上必要なるは勿論、又歷史研究上、頗重要なるものあればなり。

一本書の內容を分ちて「序說」「諸姓氏の源流」「著名姓氏の類別」の三大部となす。序說中には、本書を用ふる準備的事項を載せ、諸姓氏の源流中には、本書の中堅として諸姓氏の出自源流をあげ、著名姓氏の類別中には、著名姓氏につき、總括的の記述を試みたり、又別に附錄として時代と氏族との關係を記載せり。

一本書中編は、これを皇別、神別、蕃別、未定の四部に分ち、各部皆頭字の五十音順により頭字畫の簡單なるものより、順次に記載せり其使用法の如きは、諸者自ら覺るべし。

一本書中編に於て、德川時代諸侯の所在地名をあげたるは、多くは

文久二年の現在によれり。故に其以前に多くの異動あり、又其以後にも多少の變動ありしことを忘るべからず。

一本書は主として沼田頼輔、木村梅太郎、羽生永明、折井最一諸氏の執筆に成り、猶文科大學史料編纂掛諸員の助力を得しこと尠なからず、其編纂に際し、參考とせし書籍夥多ありと雖も、殊に帝國大學文科大學史料編纂掛所藏の圖書閲覽を聽許せられ、是等姓氏に關する諸書により便益を得たる事最も多し、玆に特に掲記して感謝の意を表すと云爾。

大正元年十二月五日

編　者　識

目次

前編　序説

中編　諸姓氏の源流

後編　著名姓氏の類別

第二章　神別諸氏

附錄の一

附錄の二

目次終

中編索引

語	讀	頁
三方	みかた	二七九
三谷	みたに	二七九
三宅	みやけ	二七九。五七七
三尾	みを	二七九
三守	みもり	二八〇
三重	みしげ	二八〇
三好	みよし	二八〇。五一〇
三富	みとみ	二八〇
三笠	みかさ	二八〇
三野	みの	二八〇。五一〇。五七八。六三八
三原	みはら	二八〇。五七八
三長	みなが	二八〇
三浦	みうら	二八〇。二八一
三栗	みくり	二八一
三島	みしま	二八一。五一〇
三間	みま	二八一
三賀	みつが	二八一
三澤	みさは	二八一
三國	みくに	二八一
三輪	みわ	二八一。六三八
三淵	みぶち	二八二
三園	みその	二八二
三諸	みもろ	二八二
三石	みついし	五一〇
三雲	みくも	五一〇
三橋	みつはし	五一〇
三隅	みすみ	五一一
三崎	みさき	五一一
三善	みよし	五七七
三林	みはやし	五七八
三井	みつゐ	六三八
三村	みむら	六三八
三神	みかみ	六三八
三枝別	さきくさわけ	一二七
三條源	さんでうげん	一二七
三條西	さんでうにし	四一五
三本寺	さんほんじ	四一五
三枝部	さきくさべ	四一五
三乃屋	みとや	二八三
三川衣	みかはごろも	二八三
三富田	みとみた	二八三
三田	みゐた	二八三
三河口	みかはぐち	二八三
三富部	みとみべ	五一一
三室戸	みむろど	五一一
三ケ尻	みけじり	六三八
三村部	みむらべ	六三八
三間名	みまな	六三八
三歳祀	みとせのまつり	六三八
三分一所	さんぶいつしよ	一二八
三條坊門	さんでうばうもん	一二八
三木松平	みつきまつだひら	二八三
三河長谷部	みかはのはせべ	二八三
三野後國造	みぬのしりのくにのみやつこ	五一一
三河國造	みかはのくにのみやつこ	五一一
大山	おほやま	五八。三七三。五九〇
大内	おほうち	五八。三七四。五五〇。五九四
大友	おほとも	五九。三七四。五五一
大井	おほゐ	五九。五五一
大石	おほいし	六〇。五五一
大平	おほだひら おほひら	六〇。三七四。五九四
大田	おほた	六〇。六一。三七五
大月	おほつき	六〇
大分	おほいた	六〇
大戸	おほと	六〇
大木	おほき	六〇。三七三
大矢	おほや	六一
大甘	おけあま	六一
大寺	おほでら	六一
大宅	おほやけ	六一。三七四
大竹	おほたけ	六一。六二。三七四
大阪	おほさか	六二。三七九
大坂	おほさか	六二
大町	おほまち	六二。五九五
大村	おほむら	六二。三七六
大里	おほさと	六二。五五一
大谷	おほたに	六二。三七五
大串	おほくし	六二
大佛	おさらぎ	六三
大坪	おほつぼ	六三。五九四
大岡	おほをか	六三。三七八
大林	おほばやし	六三
大板	おほいた	六三
大武	おほたけ	六三
大畑	おほはた	六四
大泉	おほいづみ	六四
大屋	おほや	六四。三七九。五九五
大津	おほつ	六四
大島	おほしま	六五
大家	おほやけ おほや	六五。三七七
大桑	おほくは	六六。三七八
大庭	おほば おほには	六六。三七七
大宮	おほみや	六六。三七七
大神	おほかみ おほみわ	六五。三七七。三七八
大倉	おほくら	六六
大原	おほはら	六六。三七七。五五一

		(三)
大高	おほたか	六六
大貫	おほぬき	六七。三七九
大野	おほの	六七。三七八
大鳥	おほとり	六七。三七八
大崎	おほさき	六八
大椎	おほしひ	六八
大森	おほもり	六八。三七八
大隈	おほくま	六八
大須	おほす	六八
大藏	おほくら	六九。五五一
大窪	おほくぼ	六九。五九五
大熊	おほくま	六九。三七九
大網	おほあみ	六九
大幡	おほはた	六九
大槻	おほつき	七〇。三七九
大舘	おほたて	七〇
大澤	おほさは	七〇。三七九
大橋	おほはし	七〇
大關	おほせき	七〇
大藤	おほふぢ	七〇
大饗	おほあひ	七一
大鹽	おほしほ	七一
大椽	だいじよう	一六五
大和	やまと・おほやまと	三〇九、三七八

		(三)
大方	おほかた	三七四
大見	おほみ	三七四
大伴	おほとも	三七五。五五一
大枝	おほえ	三七五
大江	おほえ	三七五
大室	おほむろ	三七六
大草	おほくさ	三七七
大條	・ほえだ	三七八
大賀	ほが	三七八
大貞	おほさだ	三七九
大沼	おほぬま	三七九
大胡	おほこ	三七九
大蒲	おほうら	三七九
大淵	おほぶち	三七九
大濱	おほはま	三七九
大類	おほるゐ	三八〇
大縣	おほあがた	三八〇。五五一
大西	おほにし	五五〇
大丘	おほをか	五五一
大市	おほいち	五五一
大狛	おほこま	五五一
大嵩	おほをか	五五一
大瀧	おほたき	五五一
大坊	だいばう	六一六

		(三)
大辛	おほから	五九四
大岩	おほいは	五九四
大波	おほなみ	五九四
大畠	おほはたけ	五九五
大前	おほまへ	五九五
大柴	おほしば	五九五
大釜	おほかま	五九五
大堀	おほほり	五九五
大鹿	おほしか	五九五
大辟	おほさき	五九五
大部	おほべ	五九五
大柳	おほやなぎ	五九五
大瀬	おほせ	五九五
大場	おほば	五九五
大井田	おほゐだ	五九
大手島	おほてじま	六〇
大中川	おほなかがは	六〇
大田原	おほたはら	六一
大田別	おほたわけ	六一
大多和	おほたわ	六二
大私部	おほきさべ	六三
大河原	おほかはら	六三。三八一
大河戸	おほかはど	六三。三八一
大河野	おほかはの	六三

		(三)
大河内	おほかうち・おほかはち	六四
大和田	おほわだ	六四。三八一
大春日	おほかすが	六五
大相模	おほさがみ	六五
大高坂	おほたかさか	六六
大野木	おほやぎ	六七
大鳥膳	おほとりのかしはで	六八
大須賀	おほすか	六八
大葦原	おほあしはら	六九
大新田	おほにた	六九
大導寺	だいだうじ	一六五。四三八
大和源	やまとげん	三〇五
大中臣	おほなかとみ	三八〇
大久保	おほくぼ	三八〇
大河邊	おほかうべ	三八一
大會禰	おほそね	三八一
大世古	おほせこ	三八一
大三輪	おほみわ	三八一
大谷木	おほやき	三八二
大縣主	おほあがたぬし	三八二
大屋野	おほやの	五五二
大立目	おほたゞめ	五九六
大松澤	おほまつさは	五九六
大田代	おほたしろ	五九六

氏名	讀	頁
大光寺	だいくわうじ	六一六
大膳亮	だいぜんのすけ	六一六
大草松平	おほくさまつだいら	六一六
大給松平	おぎふまつだいら	六一八
大隅隼人	おほすみのはやと	三六一
大島國造	おほしまくにのみやつこ	三六一
大炊御門	おほゐごもん	三六一。三六二
大伯國造	おほはくのくにのみやつこ	三六二
大田祝山	おほたのはふりやま	三六二
大村直田	おほむらのなほた	三六二
大掠置始	おほくらのおきそめ	三六二
大炊刑部	おほゐのおさかべ	三六二
小本	こもと	一一八
小平	こだひら	一一八
小西	こにし	一一八
小寺	こてら	一一八
小池	こいけ	一一九
小坂	こさか をさか	一一九。三二七
小林	こばやし	一一九。四二〇
小知	こち	一一九
小松	こまつ	一一九
小柿	こかき	一二〇
小泉	こいづみ	一二〇。四二〇
小柴	こしば	一二〇
小高	こたか をだか	一二〇。五五八。六四九
小島	こじま	一二〇。一二一。四二〇
小菅	こすげ	一二一
小梨	こなし	一二一
小笛	こふゑ	一二一
小場	こば をば	一二一。三三九
小子	をこ	三三五
小川	をがは	三三五。五四〇。五八三
小山	をやま	三三五。五三九
小勾	をまがり	三三六
小田	をだ	三三六。五四〇。六四八
小尾	をび	三三六
小谷	をたに こだに	三三六。五四一。五八三。六〇七
小見	をみ	三三六。五四一
小原	をはら	三三六。三三七。五四〇
小河	をかは	三三七。五四一
小倉	をくら	三三七。三三八。五四一
小栗	をぐり	三三八
小家	をやけ	三三八
小掠	をぐら	三三八
小瀬	をせ	三三九。六四九
小野	をの	三三九。三四〇
小畠	をはた	三四〇
小鹿	をしか	三四〇
小幡	をばた	三三〇。五四三
小濱	をはま	三三〇。六四九
小澤	をざは	三三一。五四一
小國	をくに	三三一。五四一。五四三
小槻	をつき	三三一
小藏	をぐら	三三一
小出	こいで	四〇九。四一〇
小峰	こみね	四一〇
小堀	こほり	四一〇
小磯	こいそ	四一〇
小代	をしろ	五四一
小道	をみち	五四一
小貫	をぬき	五四三
小塞	をせき	五四三
小須	をす	五四三
小關	をせき	五四二。六四九
小萱	をかや	五四三
小館	をだて	五四三
小俣	こまた をまた	三三八。五五八
小森	こもり	五五八。六〇七
小市	をち	五八三
小向	こむき	六〇七
小塚	こづか	六〇三
小南	こみなみ	六〇七
小杷	たば	六〇七
小木	をぎ	六四八
小方	をかた	六四八
小神	をかみ	六四九
小城	をしろ	六四九
小橋	をはし	六四九
小崎	をさき	六四九
小櫛	をくし	六四九
小中川	こなかがは	一一二
小早川	こはやがは	一一三
小佐平	こさひら	一一三
小長谷	こながや をはせ	一一三。三三三
小荒井	こあらゐ	一一三
小新田	こにた	一一三
小彈正	こだんじやう	一一三
小船津	こふなづ をふなづ	一一三。三三三
小和田	こわだ	六〇七
小子部	ちひさこべ	一八四
小栗栖	をぐるす	三三八
小山田	をやまだ	三三一。五四三
小川内	をがはうち	三三一
小田切	をたぎり	三三一
小佐手	をさて	三三三
小花和	をはなわ	三三三

小笠原 をがさはら 三三二
小徳賀 をとくが 三三二
小治田 をはりた 三三二
小鹿野 をがの 三三三
小鹿島 をがじま 三三三。五四三
小槻山 をつきやま 三三三
小野澤 をのざは 三三三
小野岡 をのをか 三三三
小中山 こなかやま 四一〇
小宮山 こみやま 四一一。六〇七
小沙川 こやながは 四一一
小一條 こいちでう 四一一
小野寺 をのでら 五四二
小野田 をのだ 五四二
小坂部 をさかべ 五四三
小田河 をだかは 五四三
小見野 をみの 五四三
小河原 を・はら 五四三
小野崎 をのさき 五四三
小野宮 をのみや 五四三
小田代 をだしろ 六四九
小田島 をだじま 六四九
小田邊 をたべ 六四九
小野目 をのめ 六四九

小野木 をのき 六五〇
上 かみ 五五二
上松 あげまつ 一
上田 うへだ 四八。三六七
上野 うへの 四八。三六八
上原 うへはら かみはら 四八。七九。三八六。五九七
上神 うへかみ 四八
上坂 うへさか かみさか 四八。七九
上杉 うへすぎ 四八。三六七
上山 かみやま 七八。三八六
上月 かみつき 七八
上平 かみだひら 七八
上地 かみち 七八
上林 かみばやし 七八。七九
上村 かみむら 七九。三八六
上阪 かみさか 七九
上泉 かみいづみ 七九。三八六
上條 かみでう 七九。三八七
上島 かみしま 七九
上道 かみつみち 七九
上領 かみりやう 七九
上總 かづさ 八〇。三八七
上瀬 かみせ 八〇
上木 うへき 三八六

上曾 かみそ 三八六
上妻 かみつま 三八六
上勝 かみかつ 五五二
上羽 うへは 五九一
上倉 かみくら 五九七
上毛野 かみつけぬ 八〇
上有智 かうち 八〇
上野田 うへのだ 三六八
上遠野 かとほの 三六七
上三河 かみみかは 三六七
上冷泉 かみれいぜい 三八七
上曰佐 かみをさ 五五二
上斗米 かみとまい 五九七
上郡山 かみこほりやま 五九七
上海上國造 かみつうながみくにのみやつこ 三八七
下 しも 五六一
下山 しもやま 一四一
下石 しもいし 一四一
下坂 しもさか 一四一
下舟 しもふね 一四一
下田 しもだ 六一〇
下井 しもゐ 六一一
下枝 しもえだ 六一一
下神 しもつみ 六一一

下杉 しもすぎ 六一一
下元 しもと 四二四
下郡 しもごほり 四二四
下島 しもじま 四二四
下妻 しもつま 一四一。四二四
下家 しもいへ 一四一
下養 しもかひ 一四一
下條 しもでう 一四二
下瀬 しもせ 一四二
下道 しもつみち 一四二
下冷泉 しもれいぜい 四二四
下郡山 しもこほりやま 四二四
下須房 しもすは 四二四
下河邊 しもかうべ 四二四
下斗米 しもとめ 一四二。六一一
下毛野 しもつけの 一四二
下曾根 しもそね 一四二
下曰佐 しもをさ 五六一
下海上國造 しもつうながみくにのみやつこ 四二五
山 やま 二九九。五二二。六四三
山入 やまいり 二九九
山上 やまがみ 二九九。五二二。五二三
山下 やました 二九九。五二三
山口 やまぐち 二九九。三〇〇。五二二。五八〇
山中 やまなか 三〇〇。三〇一

姓	讀み	頁
犬養	いぬかひ	三五九
内	うち	四九。五九三
内島	うちじま	四九
内村	うちむら	五〇
内谷	うちや	五〇
内山	うちやま	五〇
内崎	うちさき	五〇
内堀	うちほり	五〇
内田	うちだ	三六八。三六九
内藏	うちくら	五四九
内方	うちかた	五九三
内原	うちはら	五九三
内河	うちかは	五九三
内藤	ないとう	二九〇。四六七
内馬場	うちばば	五九三
牛田	うしだ	四九
牛袋	うしぶくろ	四九
牛窪	うしくぼ	四九
牛奥	うしおく	四九
牛澤	うしざは	四九
牛屋	うしや	四九
牛込	うしごみ	三六八
牛坂	うしさか	五九三
氏家	うぢいへ	三六八
太	おほ	七二
秦太	うづまさ	五四九
太田	おほた	七一。七三。三八二。五五三
太田原	おほたはら	七三
太田垣	おほたがき	七三
片山	かたやま	八〇。三八七。三八八
片切	かたぎり	八一
片桐	かたぎり	八一
片寄	かたより	八一。五九七
片田	かただ	三八八
片原	かたはら	三八八
片倉	かたくら	三八八
片平	かたひら	三八八
片角	かたすみ	三八八
片岸	かたぎし	五九七
片平田	かたひらた	八二
片賀瀬	かたがせ	三八八
方原	かたはら	八〇
方保田	かたほた	三八七
刈敷	かりしき	三八七
刈田	かりた	五九七
欠端	かけばた	五九七
木	き	六〇三
木下	きのした	一〇一。六〇三
木戸	きど	一〇三
木内	きうち	一〇三、六〇三
木田	きだ	一〇三。三九九
木村	きむら	一〇三。三九九
木里	きざと	一〇三
木津	きづ	一〇三。五五五
木原	きはら	一〇三。六〇三
木曾	きそ	一〇三
木梨	きなし	一〇三
木部	きべ	一〇三
木澤	きざは	一〇三。五五五。六〇三
木邊	きべ	一〇三
木西	きにし	三九九
木付	きつけ	三九九
木野	きの	三九九
木脇	きわき	四〇〇
木山	きやま	六〇三
木谷	きたに	六〇三
木室	きむろ	六〇三
木城	きしろ	六〇三
木造	こづくり	一二三
木幡	こはた	六〇七
木田見	きたみ	一〇三
木和田	きわだ	一〇三
公文	くもん	一一〇
毛牧	けまき	四〇九
毛利	もうり	二六八。五〇四。五七六
毛呂	もろ	五一八
毛馬内	けまない	一一八
孔王部	くわべ	六〇四
五島	ごとう	一二三
五條	ごでう	一二三。四一一
五藤	ごとう	六〇七
五味	ごみ	四一一
五辻	いつつじ	二六。三五五
五百藏	いよろい	一七
五十嵐	いがらし	五八八
五日市	いつかいち	五八八
五十幡	いそはた	五八九
支倉	はせくら	二三一
支利井	しりゐ	一四二
少貳	せうに	四三五
反町	そりまち	六一五
手島	てしま	一九三
手塚	てづか	一九三
手賀	てが	一九三
手原	てはら	一九三
手代森	てしろもり	六二二

日出 ひで 二四四
日向 ひむが ひなた 二四四
日田 ひだ 四八七
日奉 ひまつり 四八七
日長 ひなか 四八七
日野 ひの 四八七
日根 ひね 二四四。四八七。五七三
日澤 ひざは 二四四
日戸 ひと 六三一
日置 へき 二五九。四九九。五七六
日下部 くさかべ 二一一。四〇五。六〇四
日比野 ひびの 二四四
日向造 ひむがのみやつこ 二四四
日野西 ひのにし 四七八
日根野 ひねの 四八七
日置部 へきべ 六二四
曰佐 をさ 三三三
比企 ひき 四八八
比留 ひろ 四八八
比田 ひだ 二四五
比留間 ひるま 六三一
比田町 ひたまち 四八八
比多國造 ひたのくにのみやつこ 四八八
匹田 ひきだ 四八八

火 ひ 二四五
火爪 ひつめ 四八八
火撫 ひなづ 五七三
火國別 ひのくにわけ 二五二。五七五
不破 ふは 二五二。五七五
不麻 ふま 五七五
文 ふみ 五七五
文屋 ふみや 二五二
文部谷 ふみべや 五七五
文德源 もんとくげん 二九五
文德平 もんとくへい 二九五
壬生 みぶ 二六三。五一一。六三八
壬生川 みぶかは 二六三
壬生部 みぶべ 六三九
水上 みなかみ 二六三
水谷 みづたに みづのや 二六三。五一一。五一三
水田 みづた 二六三。五一一
水原 みづはら 二六三
水沼 みづぬま 二六三
水野 みづの 二六三。五一三
水間 みづま 二六四
水漏 みづもり 二六四
水江 みづのえ 五一一
水巻 みづまき 五一一

水島 みづしま 五一三
永海 みづうみ 五七八
水雄 みを 五七八
水主 もんど 五一八
水取 もひとり 五一八
水無瀬 みなせ 五一三
水沼別 みぬまわけ 二八四
水野屋 みのや 二八四
水戸家德川 みとけとくがは 二八四
六崎 むつざき 二九一
六角 ろつかく 三一八。五三三
六條 ろくでう 三一八。五三三
六鄉 ろくがう 三一八。五三三
六人部 むひとべ むとべ 五一五。五七九
元吉 もとよし 五一九
王 わう 三一八。五八三
分瀬 わけせ 三一八
分部 わけべ 五三四。六四七
井上 ゐのうへ 三二二。三三三。五三六。五八三
井口 ゐぐち 三三三
井戸 ゐど 三三三。五三七
井代 ゐで 三三三
井沼 ゐぬま 三三三
井關 ゐぜき 三三三。六〇八

井 ゐ 五三六
井出 ゐで 五三七
井平 ゐひら 五三七
井田 ゐだ 五三七
井芹 ゐせり 五三七
井伊 ゐい 五三七
井村 ゐむら 五三八
井面 ゐづら 五三八
井野 ゐの 五三八
井原 ゐばら 六四七
井狩 ゐがり 六四八
井澤 ゐさは 六四八
井藤 ゐよち 五三八
井氣多 ゐげた 六四八
及川 をゐかは 六五〇

【五 書】

甘利 あまり 一
甘糟 あまかす 一
甘繩 あまなは 二
甘南備 かんなび 八三
甘露寺 かんろじ 三八八
尼子 あまこ 二

尼崎 あまさき 二三
穴山 あなやま 二三
穴師 あなし 三四三
穴太 あなふと 五八五
生野 いくの 二七。五八九
生島 いくしま 二七
生江 いくえ なまえ 二七。三五五。六二五
生津 いきつ 二七
生田 いくた 二七。三五五
生葉 いくは 二七
生駒 いこま 二七。三五五
生石 いきいし 三五五
生地 いくち 五四八
生方 なめかた 六二五
石塚 いしづか 二七
石橋 いしはし 二八
石垣 いしがき 二八
石和 いさわ 二八
石川 いしかは 二八。二九。五四八
石河 いしかは 二九
石田 いしだ 二九。五八九
石塔 いしだふ 二九
石堂 いしだう 二九
石坂 いしざか 二九。三五六

石谷 いしや いしがや 三〇。三五六
石城 いしき 三〇
石木 いしき 三〇
石濱 いしはま 三〇
石原 いしはら 三〇。三五六
石黑 いしぐろ 三〇。三五七
石井 いしゐ 三〇
石毛 いしけ 三〇
石神 いしがみ 三〇。三五七
石龜 いしがめ 三〇
石丸 いしまる 三一。三五六
石森 いしもり 三一
石島 いしじま 三一
石崎 いしざき 三一
石野 いしの 三一、三五七。五四八
石上 いそのかみ 三五五
石山 いしやま 三五六
石岡 いしをか 三五六
石尾 いしを 三五六
石作 いしづくり 三五六
石浦 いしうら 三五七
石部 いしべ 三五七
石卷 いしまき 三五七
石邊 いしべ 三五七

石津 いしづ 三五七
石園 いしその 三五七
石占 いしうら 五四八
石村 いはれ 五四八
石寺 いしでら 五八九
石見 いはみ 五八九
石渡 いしわた 五八九
石澤 いしざは 五八九
石場 いしば 五八九
石和田 いしわだ 三一
石母田 いしもだ 三一
石城國造 いはきのくにのみやつこ 三一。三五八
石見國造 いはみのくにのみやつこ 三五七
出庭 いでには 三一
出雲 いづも 三二。三六一
出羽 では 一九四
出家 でいへ 一九四
出浦 でうら 一九四
出田 いでた 三六一
出水 いづみ 五四八
出口 でぐち 六二一
出井 でゐ 六二一
出淵 でぶち 六二一
市原 いちはら 三一

市村 いちむら 三三
市川 いちかは 三二
市部 いちべ 三二
市田 いちだ 三二。三五八
市岡 いちをか 三三
市橋 いちはし 三二。三五八
市場 いちば 三五八
市野 いちの 三五八
市往 いちき 五四八
市野瀬 いちのせ 三三
瓜生 うりふ 五〇
打越 うていち うちこし 五〇
巨海 おほみ 七二
巨椋 おほくら 三八三
巨勢 こせ 一二四
巨勢村 こせむら 一二四
巨勢械田 こせのひた 一二四
正親町 おほぎまち 三八三
正親町三條 おほぎまちさんでう 三八三
加古 かこ 八一
加地 かち 八一
加治 かぢ 八二
加茂 かも 八二
加屋 かや 八三

名	讀	頁
加悦	かえつ	八二
加藤	かとう	八二。三八九
加江	かえ	三八九
加納	かのう	三八九
加賀美	かがみ	八二
加々爪	かゞづめ	三八九
加々江	かかえ	五九八
加宜國造	かぎのくにのみやつこ	八二
甲良	かふら	八二
甲能	かのふ	八三
甲斐	かひ	八三。三八八
甲賀	かふが	三八八
甲可	かふか	五九七
甲田	かふた	五九七。五九八
甲斐荘	かひしやう	八三
甲斐國造	かひのくにのみやつこ	八三
可兒	かじ	八三
瓦林	かはらばやし	三八七
北	きた	一〇三。六〇三
北方	きたかた	一〇四
北村	きたむら	一〇四
北浦	きたうら	一〇四
北畠	きたばたけ	一〇四
北郷	きたごう きたさと	一〇四。五九五
北邊	きたのべ	一〇四
北山	きたやま	四〇〇。五五五
北野	きたの	四〇〇
北島	きたじま	四〇〇
北見	きたみ	六〇二
北角	きたずみ	六〇二
北田	きただ	六〇二
北條	ほうでう きたでう	一六〇。五〇一。六〇三
北酒出	きたさかいで	一〇四
北小路	きたこうぢ	四〇〇
切田	きりた	六〇三
匝嵯	さうさ	一三八。五五九
左	ひだり	六三二
左志	さし	一二八
左井	さゐ	四一六
白川	しらかは	一四三
白土	しらつち	一四三
白戸	しらと	一四三
白井	しらゐ	一四三
白石	しらいし	一四三。四二五。五六一
白岡	しらをか	一四三
白地	しらち	一四四
白鳥	しらとり	一四四。五六二
白須	しらす	一四四
白尾	しらを	四二五
白江	しらえ	四二六
白河	しらかは	四二六。五六二
白華	しらくき	四二六
白倉	しらくら	四二六
白堤	しらつゝみ	四二六
白根	しらね	四二六
白津	しらつ	四二六
白原	しらはら	五六一
白猪	しらゐ	五六一
白岩	しらいは	六一一
白幡	しらはた	六一一
白根澤	しらねざは	六一一
白河國造	しらかはのくにのみやつこ	四二六
四戸	しのへ	一四二
四竈	しかま	一四三
四宮	しみや	四二五
四辻	よつじ	五二九
四瀬	よつせ	五二九
四條	しでう	四二五
四方田	しをで	四二五
丰藤	すどう	四二二
末弘	すゑひろ	一五五
末里	すゑさと	一五九
末野	すゑの	一五六
末元	すゑもと	四三六
末吉	すゑよし	四三二
末武	すゑたけ	五六二
末光	すゑみつ	六一三
末高	すゑたか	六一三
末國	すゑくに	六一三
末多國造	またのくにのみやつこ	一六九
末羅國造	まつらのくにのみやつこ	五〇五
世不	せぎ よぎ	一六〇。五二九
世保	せほ	一六一
世田谷	せたがや	一六一
世良田	せらだ	一六一
世尊寺	せそんじ	四三五
仙石	せんごく	一六一
仙波	せんば	一六一
外山	とやま	一九七。四五八
外越	そとごし	四三六
外島	そとじま	四三六
外村	とのむら	六二三
玉手	たまで	一六六
玉虫	たまむし	一六六
玉山	たまやま	一六六。六一六
玉造	たまつくり	一六六

【六　畫】

名	訓	頁
有富	ありとみ	三四二
有阪	ありさか	三四二
有宗	ありむね	五八五
有浦	ありうら	五八五
有道	ありみち	五八五
有壁	ありかべ	五八五
有光	ありみつ	五八六
有度	うど	五九二
在原	ありはら	二
旭	あさひ	二
合土	あひつち	二
合志	かつし	三八九
安倍	あべ	四
安部	あべ	四
安藤	あんどう	四。三四二
安東	あんどう	四。三四二
安那	あな	四
安保	あほ	五
安生	あんしやう	五
安西	あんさい	五
安藝	あき	五
安房	あは	五
安丸	やすまる	三〇七
安萬	やすま	三〇七
安井	やすゐ	三〇七。五二六
安田	やすだ	三〇七。五二六
安居	やすゐ	三〇七
安室	やすむろ	三〇八
安村	やすむら	三〇八
安富	やすとみ	三〇八
安立	あだち	三四三
安曇	あづみ	三四三
安幕	あまく	三四三
安濃	あの	三四三
安達	あだち	三四二。五四六
安原	やすはら	五二六。六四四
安野	やすの	五二六
安堺	あち	五四六
安敕	あちき	五四六
安永	やすなが	五八一
安岑	やすみね	五八一
安坂	やすさか	五八一
安食	あじき	五八五
安間	あんま	五八五
安見	やすみ	六四四
安岡	やすをか	六四四
安道	やすみち	六四四
安養野	あやの	五
安木田	あきた	五
安居隠	あこゐん	六
安宅木	あたかき	六
安久津	あくつ	五八五
安房國造	あはのくにのみやつこ	三四三
色川	いろかは	三三
池	いけ	三六
池原	いけはら	三六
池上	いけがみ	三六
池田	いけだ	三六。三七。三六一
池尻	いけじり	三八。三六一
池後	いけじり	三八。三六一。五九〇
池長	いけなが	三八
池町	いけまち	三六一
池屋	いけや	三六一
池越	いけごし	三六一
池邊	いけべ	五四一
池谷	いけだに	五九〇
池野	いけの	五九〇
印東	いんどう	三六
印波	いなば	三六
印南野	いんなみの	三六
糸原	いとはら	三六
糸井	いとゐ	三六
糸永	いとなが	五八九
伊奈	いな	三三
伊那	いな	三三。三五九
伊吹	いぶき	三三
伊賀	いが	三三。三四。三五九
伊佐	いさ	三四。三五九
伊作	いさく	三四
伊具	いぐ	三四
伊澤	いざは	三四
伊庭	いば	三四
伊北	いきた	三四
伊南	いみなみ	三四
伊坂	いさか	三四
伊平	いひら	三五
伊野	いの	三五
伊部	いべ	三五。五四八
伊勢	いせ	三五。三六〇
伊木	いき	三五八
伊伎	いき	三五八
伊丹	いたみ	三五九
伊豆	いづ	三五九
伊東	いとう	三五九
伊倉	いくら	三五九
伊香	いかご	三六〇

姓	讀み	頁
百岡	もゝをか	六四二
百舌鳥	もず	五一九
米山	こめた	六〇八
光永	みつなが	二六四。五一三
光孝平	くわうかうへい	一一一
光孝源	くわうかうげん	一一一
庄	しやう	四三六。四二七
庄田	しやうだ	一四一
庄子	しやうじ	六一一
庄屋	しやうや	五六一
島森	しまもり	四二九
島津國造	しまつのくにのみやつこ	四二九
次田	すぎた	四三三
多	おほ	七三
多門	おかど たもん	七三。六一七
多田	たゞ	一七二
多谷	たや	一七二
多名	たな	一七二
多賀	たが	一七二
多氣	たけ	一七二。四四四
多喜	たき	一七三
多胡	たご	一七三
多藝	たき	一七三
多紀	たき	一七三。五六五
多米	ため	四四四
多子	たこ	四四四
多彌	たや	四四四
多可	たか	五六四
多川	たがは	六一一
多谷	たがや	六一七
多賀谷	たがや	一七三
多部田	たべた	一七三
多治比	たぢひ	一七三
多治見	たぢみ	一七三
多々良	たゝら	一七三。五六四
多良木	たらぎ	四四四
多賀山	たがやま	四四四
多羅尾	たらを	四四五
多遲麻竹別	たぢまのたけわけ	一七三
竹	たけ	一七〇
竹中	たけなか	一七〇。四四二
竹村	たけむら	一七〇
竹岩	たけいは	一七〇
竹本	たけもと	一七〇。四四二
竹方	たけかた	一七一
竹西	たけにし	一七一
竹谷	たけや	一七一
竹田	たけだ	一七一。四四三
竹林	たけばやし	一七一。四四三
竹内	たけうち	一七一。四四三
竹野	たけの	一七一
竹城	たけしろ	一七一
竹崎	たけさき	一七一
竹淵	たけぶち	一七二
竹腰	たけごし	一七三。六一七
竹下	たけした	四四二
竹尾	たけを	四四三
竹島	たけしま	四四三
竹原	たけはら	四四三。六一七
竹彦	たけひこ	四四四
竹屋	たけや	四四四
竹澤	たけさは	四四四
竹川	たけがは	六一七
竹生	たけふ	六一七
竹花	たけはな	六一七
竹垣	たけがき	六一七
竹谷松平	たけのやまつだいら	一七三
竹田川邊	たけだかはべ	四四四
宅間	たくま	四四五
血沼別	ちぬまわけ	一八四
机	つくえ	一八八
辻	つぢ	一八八
辻岡	つじをか	一八九
寺	てら	四五六
寺部	てらべ	四五六
寺尾	てらを	一九四
寺島	てらしま	一九四
寺町	てらまち	一九四
寺澤	てらさは	一九四
寺西	てらにし	六三一
寺本	てらもと	六三一
寺村	てらむら	六三一
寺坂	てらさか	六三一
年多部	としたべ	一九八
名村	なむら	二一一
名取	なとり	二一一
名越	なごえ	二一一
名和	なわ	二一一
名倉	なくら	六三五
名久井	なくゐ	六三五
成木	なりき	二一三
成田	なりた	二一三。四六八
成毛	なりけ	二一三
成海	なるみ	二一三
成島	なるしま	二一三
成松	なりまつ	四六八

守永 もりなが 五一九
守田 もりた 五一九
守部 もりべ 五一九
守屋 もりや 六四三
米良 めら 六四三
米井 よねゐ 三一一
米田 よねた 三一二
米倉 よねくら 三一二
米山 よねやま 三一二
米澤 よねざは 五三一
米生 よねふ 五八二
米村 よねむら 六四五
米内 よねうち 六四六
米津 よねづ 六四六
米野 よねの 六四六
吉田 きちだ よしだ 一〇四。三一二。三一三。五三〇。五八二
吉志 きし 一〇五
吉良 きら 一〇五
吉備 きび 一〇五
吉川 よしかは きつかは 三一二。五二九、四〇〇
吉次 よしつぐ 三一三
吉松 よしまつ 三一三
吉見 よしみ 三一三
吉野 よしの 三一三

吉豐 よしとよ 三一一
吉益 よします 二一四
吉香 きつか 四〇〇
吉水 よしみづ 五二九。五八二
吉井 よしゐ 五二九。五八二
吉江 よしえ 五一〇
吉島 よしじま 五三〇
吉弘 よしひろ 五三〇
吉原 よしはら 五三一
吉澤 よしざは 五三一
吉岡 よしをか 六四六
吉田東 よしだひがし 五三〇
吉禰候部 きみこべ 一〇五
好間 よしま 三一四
好島 よしじま 三一四
亘 わたり 五三四
亘理 わたり 三一九。五三四

【七畫】

赤林 あかばやし 六。三四三
赤川 あかがは 六
赤澤 あかざは 六
赤井 あかゐ 六
赤田 あかた 六
赤橋 あかばし 六

赤場 あかば 七
赤前 あかまへ 七
赤松 あかまつ 七
赤尾 あかを 三四三
赤星 あかほし 三四三
赤佐 あかさ 三四三
赤畝 あかうね 三四三
赤須 あかす 三四三
赤堀 あかほり 三四三。三四四
赤染 あかぞめ 五四六
赤間 あかま 五八五
足利 あしかゞ 七。三四四
足立 あだち 三四四。五四六
足助 あすけ 七
足羽 あすは 五八六
足奈 あしな 五八六
足澤 あしざは 五八六
吾河 あがは 七
吾妻 あづま 七。三四四
我孫 あびこ 三四四。五八六
我妻 あがつま 五八六
芋淵 いもぶち 三六二
忌部 いみべ 三六二
妥女 うねめ 三六九

役 えん 三七三
忍坂 おさか おしさか 三五二。五九六
忍壁 おさかべ 三八三
忍海部 おしみべ 七三
辛川 からかは 八三
形原松平 かたはらまつだひら 八三
巫部 かんなぎべ 三九〇
貝山 かひやま 五九八
貝原 かひはら 五九八
私市 きさいち 一〇五
君島 きみしま 一〇五
車 くるま 六〇四
車持 くるまもち 一一一
呉 くれ 四〇五。六〇四
呉服 くればとり 五五六
呉原 くれはら 五五六
佐久 さく 一二九
佐川 さがは 一二九
佐介 さすけ 一二九
佐用 さよ 一二九
佐世 させ 一二九
佐田 さた 一二九。四一六
佐代 さしろ 一二九
佐多 さた 一二九

姓	読み	頁
佐竹	さたけ	一二九
佐々	さゝ さつさ	一三〇。四一七
佐志	さし	一三〇
佐那	さな	一三〇
佐伯	さへぎ	一三〇。四一八
佐味	さみ	一三〇
佐河	さがは	一三〇
佐治	さぢ	一三〇。四一六
佐保	さほ	一三〇。六〇八
佐脇	さわき	一三〇
佐賀	さが	一三一
佐[illegible]	さど	一三一
佐野	さの	一三一。四一七
佐原	さはら	一三一。四一六。五六〇
佐山	さやま	四一六。六〇八
佐[illegible]	さみ	四一六
佐奈	さな	四一七
佐貫	さぬき	四一七
佐都	さつ	四一八
佐爲	さゐ	四一八
佐島	さしま	四一八
佐橋	さはし	四一八
佐藤	さとう	四一八
佐太	さた	五六〇

姓	読み	頁
佐合	さがふ	六〇八
佐嘉	さか	六〇八
佐瀬	させ	六〇八
佐々井	さゝゐ	六〇九
佐々竹	さゝたけ	六〇九
佐[illegible]内	さにない	六〇九
佐努	さぬ	六〇九
佐世保	させは	一三一
佐良木	さらき	一三一
佐々木	さゝき	一三一
々毛	さゝげ	一三一
佐那田	さなだ	一三一
佐久間	さくま	一三一。四一九
佐々布	さゝふ	一三一
佐久良	さくら	一三一。四一九
佐分利	さぶり	一三一
佐川田	さがはだ	一三一
佐々部	さゝべ	四一九
佐夜部	さやべ	四一九
佐牟田	さむだ	四一九
佐久山	さくやま	四一九
佐良良	さらゝ	五六〇
佐波多	さはた	五六〇
佐々木野	さゝきの	一三二

姓	読み	頁
佐々貴山	さゝきやま	一三二
佐渡國造	さどのくにのみやつこ	四一九
里	さと	四一九
里見	さとみ	一三三
里岩	さといは	四一九
里川	さとかは	五六〇
里村	さとむら	六〇九
作原	さはら	一三三
沙田	さすた	五六〇
坂	さか	一三三。四一九
坂戸	さかと	一三三。四二〇
坂田	さかた	一三三。五六〇
坂内	さかうち	一三三
坂[illegible]	さかもと	一三三。一三四。四二〇
坂地	さかち	一三四
坂部	さかべ	一三四
坂梨	さかなし	一三四
坂井	さかゐ	四一九。五六〇
坂原	さかはら	四二〇。五六〇
坂南	さかみなみ	四二〇
坂上	さかうへ	五五九
坂崎	さかさき	五六〇
坂東	ばんどう	一三三
坂入	さかいり	六〇九

姓	読み	頁
坂川	さかがは	六〇九
坂尾	さかを	六〇九
坂牛	さかうし	六〇九
坂野	さかの	六〇九
坂合部	さかあひべ	四二〇
阪東	ばんどう	一三三
阪田	さかた	一三四
阪合部	さかあひべ	一三四
阪田酒人	さかたのさかひと	一三四
宍人	しゝひと	一四四
宍道	しゝみち	一四四
宍戸	しゝど	四一七
宍倉	しゝくら	六一一
芝	しば	六一一
芝井	しばゐ	一四六
芝山	しばやま	一四六。四一七
芝田	しばた	一四六。四二八。六一一
芝居	しばゐ	一四六
志水	しみづ	一四四
志田	しだ	一四四。六一一
志佐	しさ	一四五
志村	しむら	一四五
志茂	しも	一四五
志紀	しき	一四五

花坂 はなさか 六二九
花形 はながた 六三九
花山院 くわさんゐん 四〇五
治田 はるた 二三五
服部 はとり はつとり 二三七。四八三
林 はやし 二三五。四八一。五七一
林田 はやした 二三六
林部 はやしべ 四八三
林原 はやしばら 四八三
法性寺 はふしやうじ 五〇一
東野 とうの 一九八
東條 とうでう 一九八
東郷 とうがう 一九八。一九九
東 ひがし あづま 二四八。二四九。五八六
東竹 ひがしたけ 二四九
東根 ひがしね 二四九
東山 ひがしやま 四九一
東園 ひがしその 四九一
東儀 とうぎ 五六七
東久世 ひがしくせ 二四九
東坊城 ひがしばうじやう 四九一
府川 ふかは 六三三
牧 まき 二七四
牧村 まきむら 二七四

牧野 まきの 二七五。五〇七
牧原 まきはら 二七五
牧西 まきにし 五〇七
松木 まつき 二六九。五〇五
松下 まつした 二六九
松井 まつゐ 二七〇。五七七
松本 まつもと 二七〇。五〇五。五七七
松平 まつだひら 二七〇
松田 まつだ 二七一。五〇六
松江 まつえ 二七二
松村 まつむら 二七二
松岡 まつをか 二七二。五〇六
松原 まつばら 二七二。五〇六
松尾 まつを 二七二。五〇六
松長 まつなが 二七二
松前 まつまへ 二七二
松倉 まつくら 二七二。五〇七
松根 まつね 二七三
松浦 まつうら 二七三
松崎 まつざき 二七三。五〇七
松山 まつやま 五〇五。六三六
松永 まつなが 五〇五
松任 まつたふ 五〇五
松波 まつなみ 五〇六

松屋 まつや 五〇六
松野 まつの 五〇六。五〇七。五七七
松居 まつゐ 六三六
松林 まつばやし 六三六
松坂 まつさか 六三六
松風 まつかぜ 六三六
松津國造 まつのくにのみやつこ 五〇七
股野 またの 二七三
物部 もののべ 一九五。五一九
物忌 ものいみ 五二〇
物集 もづめ 六四二
依上 よりかみ 三一四
依田 よだ 三一四
依羅 よさみ 三一五。五三一。五八三
依光 よりみつ 六四六
和 やまと 五八一
和泉 いづみ 四二。三六二
和久 わく 三一九
和介 わすけ 三一九
和田 わだ 三一九。三二〇。五三四。五八三
和金 わかね 三二〇
和南 わなみ 三二〇
和氣 わけ 三二〇
和珥 わに 三二〇

和賀 わが 三二〇
和太 にぎた 四七五
和樂 やまとのくすし 五八一
和田 わだ 五八三
和智 わち 六四七
和多田 わただ 三二一
和邇部 わにべ 三二一
和仁古 わにこ 五三四
和山守 やまとのやまもり 五二六
和井内 わゐない 六四七
岡 をか 三三五。五四四。五八四
岡山 をかやま 三三五。五四四
岡田 をかだ 三三五。三三六。五四四。五八四
岡林 をかばやし 三三六
岡本 をかもと 三三六。三三七。五四四。五八四
岡見 をかみ 三三七
岡村 をかむら 三三七。五四四
岡松 をかまつ 三三七
岡屋 をかや 三三七。五八四
岡部 をかべ 三三七。三三八。五四四
岡崎 をかざき 三三八。五四五
岡野 をかの 三三八
岡濱 をかはま 三三八
岡原 をかはら 五八四。六五〇

【九 書】

【十畫】

家内　いへうち　三六三
家原　いへはら　五九一
浦　うら　五三
浦上　うらかみ　五三
浦野　うらの　一三
浦田　うらた　三七一。五九一
茨城　いばらぎ　三六三
茨木　いばらき　五三。五九三
茨田　まむだ　二七五。五七七。六三七
茨田下　まむだのしも　二七五
浮穴　うきあな　五三。三七一
浮田　うきた　五四九
浮島　うきしま　五九三
浮田國造　うきたのくにのみやつこ　五三
畝尾　うねび　三七一
畝火　うねび　五四九。五九二
荏原　えばら　五七。三七三
笑原　えばら　三七三
鬼窪　おにくぼ　七三
鬼柳　おにやなぎ　五九六
恩智　おんち　三八三
息長　おきなが　七三
息津　おきつ　三八四
借屋原　かりやはら　九三

唐橋　からはし　九三。三九四
釜内　かまうち　九三
釜石　かまいし　五九九
釜澤　かまざは　五九九
桂　かつら　九三
桂川　かつらがは　九三
桂田　かつらだ　五九九
神　かみ　三九四
神戸　かんべ　九三
神田　かんだ　九三
神出　かみで　九三
神代　かみよ　六三
神平　かんたひら　九四
神吉　かみよし　九四
神門　かんど　九四。三九五
神谷　かみや　九四。三九五
神尾　かんを　九四。三九五
神部　かんべ　九四
神崎　かんざき　九四
神野　かんの　九四
神保　じんぼ　一四七。五六二
神山　かみやま　三九五
神奴　かみやつこ　三九五
神生　かみふ　三九五

神服　かはた　三九五
神松　かみまつ　三九五
神人　みわびと　五一三
神前　かみさき　五五四
神原　かんばら　五九九
神社　かみやしろ　五九九
神沼　かみぬま　五九九
神屋　かみや　六〇〇
神宮寺　じんぐうじ　一四七
神宮部　かみみやべ　三九五
神子田　みこだ　六四〇
兼平　かねひら　九四
兼松　かねまつ　三九四
兼重　かねしげ　三九四
兼康　かねやす　五五四
蚊野　かの　九五
蚊屋　かや　五五四
烏丸　からすまる　九五。三九四
紙屋川　かみやがは　三九三
桐原　きりはら　一〇七。四〇一
桐間　きりま　六〇三
桐窪　きりくぼ　六〇三
桓武平　かんむへい　九四
栗木　くりき　一一一

栗毛　くりげ　一一三
栗田　くりた　一一二
栗村　くりむら　一一三。五五七
栗原　くりはら　一一三
栗野　くりの　一一三
栗崎　くりさき　一一二
栗栖　くるす　四〇六。五五七
栗限　くりくま　六〇五
栗生　くりふ　六〇五
栗前　くりさき　六〇五
栗谷川　くりやがは　六〇五
栗栖野　くるすの　一一二
栗生田　くりふだ　四〇六
桑田　くはた　一一三。五五六
桑名　くはな　一一三。四〇七
桑原　くははら　一一三。四〇七。五五六
桑洞　くははら　一一三
桑山　くはやま　四〇六。六〇六
桑内　くはうち　四〇七
桑島　くはしま　四〇七
桑折　こをり　四一三
倉　くら　六〇四
倉田　くらた　一一三
倉地　くらち　一一三

名	讀	頁
倉科	くらしな	一一三
倉垣	くらがき	一一三
倉橋	くらはし	一一三。四〇五
倉光	くらみつ	四〇五
倉門	くらかど	五五七
倉林	くらばやし	六〇五
倉兼	くらがね	六〇五
倉館	くらだて	六〇五
倉賀野	くらがの	四〇六
郡	こほり	五五九
郡戸	ぐらこ	一一三。四〇五
郡家	ぐらけ	一一四
草	くさ	五五七
原草	くさはら	一一四
草刈	くさかり	四〇六
草野	くさの	四〇六
畔柳	くろやなぎ	一一四
氣田	けた	六〇六
氣比	けひ	六〇六
氣良	けら	一一八
酒依	さかより	一三六
酒部	さかべ	一三六
酒井	さかゐ	一三五。四二一
酒人	さかびと	一三六。五六〇
酒向	さかう	六〇九
酒波	さかなみ	六〇九
酒人小川	さかひとをがは	六〇九
狹山	さやま	四二一
狹々貴山	ささきやま	一三六
眞田	さなだ	一三六
眞野	まの	二七六。五〇九。五七七
眞島	まじま	二七六
眞崎	まざき	二七六
眞壁	まかべ	二七六
眞方	まかた	四二一
眞井	まゐ	六一〇
眞下	ました	五〇九
眞神	まがみ	五七七
眞城	まき	五七七
眞道	まみち	五七七
眞山	まやま	六三七
眞春	まはる	六三七
眞苑	まその	六三七
眞志野	ましの	二七六
眞髪部	まかみべ	二七六。五〇九
眞神田	まかみだ	五〇九。五三七
座光寺	ざくわうじ	一三七
娑婆	さば	四二一
柴山	しばやま	一四七
柴田	しばた	一四七。一四八。四二九
柴村	しばむら	一四八
柴野	しばの	一四八
柴崎	しばざき	一四八
柴橋	しばはし	四二九
柴垣	しばがき	四二九
島	しま	一四八。一四九。四二八。五六二。六一二
島山	しまやま	一四九
島本	しまもと	一四九
島立	しまだち	一四九
島田	しまだ	一四九。四二八
島津	しまづ	一四九
島根	しまね	一五〇
島崎	しまざき	一五〇。四二八
島名	しまな	四二八
島木	しまき	五六二
島岐	しまき	五六二
島野	しまの	五六二
島川	しまかは	六一二
島岡	しまをか	六一二
珠流河國造	するがのくにのみやつこ	四三三
祖式	そしき	六一六
祖父江	そふえ	四三七
高	から	九二。五五四
高力	かうりき	九二
高谷	かうや	九二
高麗	こま	一三五。五五九
高山	たかやま	一七五。四四六
高久	たかく	一七七
高市	たけち	一七五。四四六
高元	たかもと	一七六
高生	たかふ	一七六
高木	たかぎ	一七六。四四六
高井	たかゐ	一七六。五六五
高月	たかつき	一七六
高向	たかむこ	一七七。五六五。六一八
高田	たかだ	一七七。四四七。五六五
高玉	たかたま	一七七
高谷	たかや	一七七
高林	たかばやし	一七七
高畠	たかはた	一七八
高島	たかしま	一七八
高安	たかやす	一七八。五六六。六一八
高洲	たかす	一七八。六一九
高屋	たかや	一七八。四四九
高岸	たかぎし	一七八
高泉	たかいづみ	一七八
高梨	たかなし	一七八

【十一畫】

語	讀み	頁
御厩	おほまや	七三
御前	おまへ	七三
御立	みたち	二六八
御高	みたか	二六九
御長	みなが	二六九
御炊	みかしき	二六九
御使	みつかひ	二六九
御園	みその	二六九
御藏	みくら	二六九
御井	みゐ	五一四。五七八
御代	みしろ	五一四
御名	みな	五一四
御庄	みしやう	五一四
御宿	みじゆく	五一四
御牧	みまき	五一五
御杖	みつゑ	五七八
御春	みはる	五七八
御坂	みさか	五七八
御郷	みさと	五七八
御船	みふね	五七八
御笠	みかさ	五七八
御舘	みたち	五一五
御野	みぬ	五一五
御座	ござ	六〇八
御山	みやま	六四〇
御中	みなか	六四〇
御原	みはら	六四〇
御常	みつね	六四〇
御井原	みゐはら	六四〇
御手洗	みたらひ	六四〇
御代田	みよた	六四〇
御村別	みむらわけ	二六九
御厨屋	みくりや	二六九
御名部	みなべ	二六九
御神本	みかもと	五一五
御子左	みこひだり	五一五
御油松平	ごゆまつだひら	一三五
御手代部	みてしろべ	五一五
堅井	かたゐ	九七
堅田	かただ	三九六
堅部	かたべ	五五四
掃守	かにもり	九五。三九六
掃守田	かにもりた	九九
帷子	かたびら	六〇〇
梶	かぢ	九五
梶川	かぢかは	九六
梶田	かぢた	九六
梶原	かぢはら	九六
梶山	かぢやま	六〇〇
梶野	かぢの	六〇〇
笠	かさ	九六。三九五
笠合	かさあひ	九六
笠毛	かさげ	九六
笠間	かさま	九六。三九五
笠原	かさはら	九六。三九五
勘解田小路	かげゆこうぢ	三九六
清田	きよた	一〇七。四〇一。五五六
清岑	きよみね	一〇七
清春	きよはる	一〇七
清原	きよはら	一〇七
清瀧	きよたき	一〇八
清水	しみづ	一五〇。一五一。五六三
清内	きようち	四〇一
清久	きよひさ	四〇一
清垣	きよがき	四〇一
清岡	きよをか	四〇一。五五六
清須	きよす	四〇二。六〇三
清川	きよかは	五五五
清宗	きよむね	五五五
清仕	きよさう	五五五
清江	きよえ	五五六
清海	きようみ	五五六。六〇四
清端	きよはし	五五六
清根	きよね	五五六
清岡	きよをか	五五六。六〇三
清道	きよみち	五五六
清岳	きよをか	六〇三
清科	きよしな	六〇三
清庭	きよには	六〇三
清野	きよの	六〇三
清和源	せいわげん	一六二
清水谷	しみづだに	四二九
清閑寺	せいかんじ	四三五
浄山	きよやま	五五五
浄村	きよむら	五五五
浄野	きよの	五五五
浄額	きよぬか	六〇三
國	くに	四〇七
國岡	くにをか	四〇七
國栖	くず	四〇八
國井	くにゐ	一一六
國前	くにさき	一一六
國分	こくぶ	一三六。六〇八
國府	こくふ	一三六。四一三
國司	こくし	四一三
國領	こくりやう	四一三

【十三畫】

【十四書】

語	よみ	頁
興野	おきの	三八五
興道	おきみち	三八五
蒲原	かんばら	九八。三九八
蒲生	がまふ	三九七。三九八
嘉村	かむら	六〇一
嘉福寺	かふくじ	九八
輕	かる	五五四
輕部	かるべ	九八。九九。三九八
熊谷	くまがい	一一七、四〇八
熊本	くまもと	四〇八
熊坂	くまさか	四〇八
熊倉	くまくら	四〇八
熊野	くまの	四〇八
熊原	くまはら	六〇六
熊澤	くまざは	六〇六
熊野別當	くまのべつたう	四〇九
窪	くぼ	一一七
窪田	くぼた	一一七
窪寺	くぼでら	六〇六
窪島	くぼしま	六〇六
齋木	さいき	一三九
境	さかひ	一三八
境野	さかひの	一三八
榊原	さかきばら	一三八。四三二

語	よみ	頁
榊田	さかきだ	六二〇
榮山	さかやま	五六一
榮井	さかゐ	五六一
摺澤	すりさは	一五九。六一四
當麻	たぎま	一八二
當世	たきよ	四五〇
當野	たぎの	六一九
當宗	まさむね	五七七
種市	たねいち	一八二
團	だん	一八二
駄所	だどころ	四五〇
圖司	づし	一九二
壺井	づほゐ	一九二
對馬	つしま	一九二。四五六
對馬縣主	つしまのあがたぬし	四五六
遠山	とほやま	二〇四。四六一
遠田	とほだ	四六一
遠藤	ゑんどう	三二四。三二五。三三九
遠江國造	とほたふみくにのみやつこ	四六一
遠淡國造	とほつあふみのくにのみやつこ	四六一
鳴海	なるみ	二一七
鳴瀬	なるせ	二一七。四七一
端山	はやま	二四一
箸本	はしもと	二四一

語	よみ	頁
蓮沼	はすぬま	二四二
榛原	はりはら	二四二
榛谷	はりたに	二四二
榛澤	はりさは	二四二
墓崎	はかざき	四八五
廣橋	ひろはし	四九一
廣戸	ひろと	四九一
廣澄	ひろずみ	四九一
廣峯	ひろみね	四九一
廣田	ひろた	二五〇。五七四
廣根	ひろね	二五〇
廣瀬	ひろせ	二五〇。五七四
廣澤	ひろさは	二五一。四九一
廣岡	ひろをか	二五一。六三三
廣屋	ひろや	二五一
廣幡	ひろはた	二五一。六三三
廣階	ひろしな	五七四
廣井	ひろゐ	五七四
廣宗	ひろむね	五七四
廣原	ひろはら	五七四
廣野	ひろの	五七四
廣篠	ひろしの	五七四
廣津	ひろつ	五七四
廣海	ひろうみ	五七四

語	よみ	頁
廣江	ひろえ	六三三
廣木	ひろき	六三三
廣來津	ひろきつ	二五一
蒜間	ひるま	二五一
蒜田	ひるた	四九一
福井	ふくゐ	二五六。六三三
福角	ふくずみ	二五六
福永	ふくなが	二五六
福田	ふくだ	二五六。四九五
福村	ふくむら	二五六
福林	ふくばやし	二五六
福島	ふくしま	二五六。四九六
福光	ふくみつ	二五六。四九五
禮依	ふくより	二五七
福原	ふくはら	二五七。四九五
福地	ふくち	二五七。五七六。六三四
福家	ふくいへ	二五七
福屋	ふくや	四九六
福富	ふくとみ	五七六
福王	ふくわう	六三三
福守	ふくもり	六三四
福生	ふくふ	六三四
福岡	ふくをか	六三四
福間	ふくま	六三四

中編索引終

姓氏明鑑

姓氏研究會編纂

前編　序說

第一章　國家と氏族との關係

第一節　國家と種族

渾圓球上國を建つる、幾十百、一國民は必ずしも、一種族より組成せらるゝを要せざるは明かなる所にして、又今日發達せる國家にありては、事實上一種族より、組成せられたる國民の存在せざるも、亦確かなる事實なり。國法學者は云ふ、國家とは、一定の土地を占領し、絕對の主權に服從する多數人民の團體をいふと。これ實際上より總合歸納せられたる定義にして、其種族の如何を問はざるを見るべし。然れども、國家强盛の一大要件として、國民の大部國民の中堅は、必ず全一種族により組成せられざるべからざるも、亦明かなる事實なり。例へば英國の如し。英國國民の內には或はブリトン族の分子あり、或はピ

クト族スコツト族の分子あり、或はノルマン族の分子あり、複雜一ならずと雖も、國民の中堅は、そのアングロサクソン族にあるや明かなり。今日英國の强盛なる、これアングロサクソン族の力なり。此中堅的種族にして存在せざらんか、今日の英國、或は見るべからざりしならん。例へば我が國の如し。我が國民は決して單純なる、一種族より成れるものにあらず、古代にありては、蝦夷族あり、土蜘蛛族あり、熊襲族あり、現時にありては、蝦夷族即ちアイヌ族あるは勿論、其他、或は支那人(漢族)あり、或はマレイ的蕃族あり、或はギリヤーク族あり、オロツコ族あり、複雜多種なりと雖も、國民の中堅國民の大部は、所謂大和民族によりて組成せらるゝにあらずや。而してこれ我が國の今日ある最大要素なるは、言を待たざる所なり。然れども以上の言説や、獨斷的なるを免れず、何故に國家强盛の一大要件として、國民の大部は全一種族により、組成せられざるべからざるかの說明を缺く。而してこれを說明せんには、前面より見ず、却つて反對面よりするの容易にして、且つ明瞭なるを見るなり。彼のオーストリア、ハンガリーを見よ、或はいふオーストリア、ハンガリーは、一個の老大國なりと、これ何によりて然るか、種々の理由あるべしと雖も、その根本的の理由は、これ種族の不統一の點にあらざるなきか、換言すれば、その中堅的種族の存在せざるにあらざるなきか。今オーストリア、ハンガリーの種族を見るに、獨逸族あり、

チェッヒ族あり、マジャール族あり、多少の相違はあれども、其勢や頡頏して相下らず、互に反目するの觀あり、其他、ポーランド人あり、モラヴィア人あり、スロヴアク人あり、クロアチア人あり、ルーマニア人あり、セルヴィア人あり、イタリア人あり、言語の數總て二十餘種に及ぶ。かくの如くして、強固なる國家統一を望むも豈得べけんや。その老大國を以て、目せらるゝも亦止を得ざる所なり。次に彼のトルコを見よ、中世紀の終りに於て、その弦月旗の向ふ所、風靡せざるなく破摧せざるなく、遂に歐亞に跨れる大帝國を立て、西南亞細亞は勿論、バルカン半島はいふに及ばず、東、黑海を包み、西、ハンガリーの地に及びぬ。然るに今日の狀態は如何、國勢萎微して振はず、其領土は削られ、其主權は辱められ、以て半身不隨の病的國家とまで、歌はるゝに至れり。是れ何によりて然るか、亦種々の原因ありならずと雖も、國民の幹本たるトルコ種族が、其枝葉たる他の種族に對し、比較的勢力の微弱なりし點にあらざりしか。若し其領内に於て、多數のルーマニア人なくセルヴィア人なく、ブルガリア人なく、モンテネグロ人なく、ギリシア人なくして、其代りに、これと仝數のトルコ人を有せしと假定せば其衰ふる今日の如く、憐むべきに至らざりしならんとは、余の斷言して憚らざる所なり。故に云ふ、一國民は必ず仝一種族たるを要せず。然れども強盛なる國家を造らんには、其一大要件として、國民の大部、國民の中堅は、必ず

全一種族より組成せられざるべからずと。

第二節　國家と氏族

強盛なる國家たらんには、其國民の大部は、必ず全一種族より組成せられざるべからざるは、前述の如しと雖も、未だ以て善美を盡せりといふを得ず、即ち國家の元首たるものと、國民氏族との關係是れなり。共和國は暫らく措き、熟々世界各國の元首につきて觀察するに、或は武力を以て其位置を得たるあり、或は親族關係によりて其位置を得たるあり、或は單に國民の推擧によりて其位置を得たるあり、世界廣しと雖も、多くは此三者を出でず、例へば十九世紀の初半期に於て、ギリシア國民がバヴアリア王ルイス一世の子オットーを迎へて國王と仰ぎたる如き、或は、ベルギー國民が、ドイツ、コブルグ家の、レオポルドを奉じて國王となしたるが如き、是れなり。これ等は、元首と國民との間に於て、些の氏族的血緣なきを見るべし、次に元首と國民氏族との間に、多少の血族的關係ありと雖も、而かも其元首たるや、必ずしも國民氏族に對し、血統上中心的關係に屬せざるもの多し。例へば英國現時の皇室はハノーヴアル家なり。而してこれ國民氏族の血族的中心にあらず。又獨逸現時の皇室はホーヘンツオルレルン家なり。而して是れまた國民の血

族的中心にあらざるや明なり。以上の如きは、たとへ、其國民が全一種族より組成せらるとも、未だ善美の二字を以て賞讃するを得じ。然らば善美なる國家とは何か、曰はく、善美なる國家とは、其國民の大部は、全一種族より組成せらるゝは勿論、其元首と國民氏族とは密接なる關係を有し、而かも其元首たるや、血統上國民氏族の中心的位置にあるものをいふ。

第三節　我が國家と氏族

論じて茲に至れば、我が國家は如何なる組織を有し、世界各國中如何なる位置にあるかを觀察するに、最も適當なる時期とはなれり。

我が國家は、國民の中堅國民の大部は、皆大和民族により組成せらるゝ事は前述の如し。此點に於ても、世界各國殆ど比類なきを見る。次に元首と國民との關係は万世一系の皇統の一語、以てこれを盡せり。實に我が元首即ち皇室と、國民との關係は建國以來確然不動なること、日月の如く照々として、天壤と共に窮りなきものなり。斯の如き國體、地球上に於ては何處にかある。而かも其氏族的關係に於けるや、皇室は國民の宗家にして、國民は皇室の末家なるに於てをや。故にいふ我が國家は世界上最も善美なる國体を有する

ものなりと。

以上の關係により、我が皇室と國民との間には、君臣の義あると共に、父子の親あることをば、直に發見し得べし。世に忠孝一致の說あり。これ他の國にありては、間接的の一致なり。理由を附して其然る所以を知らしめざるべからざるなり。然れども我が國にありては、これ直接的の事實なり。別に其理由を說明せずして、直覺的にこれを知るを得べし。善美なるかな我が國家。

第四節　氏族政治

我が國家の他の國家に比し、異彩を放てるは、其氏族的の關係にあるは前述の如し。而して我が國民は國初以來、この氏族的關係を最も重せり。故に國家の未だ發達せざる上代に於ては、氏族の制を以て、直に國家の政治組織に充てたり。即ち天皇は上に立ちて万姓を統治し、各氏族の長は各々其部下の人民を率ゐてこれに奉任せり。例へば神武天皇即位の時、道臣命、大久米命は大伴久米の二部を帥ゐて、宮門を守り、饒速日命の子、可美眞手命は內物部を率ゐて親衛し、天富命は、諸の齋部を率ゐ天璽の鏡劍を捧げて正殿に安置し、天種子命は天神の壽詞を奏せしが如き是れなり。而して各氏族は、皆其職を世々にし

相侵すことなかりき。然るに世の漸く進むに及び、有力なる氏族より、その族長を擧用し大臣大連となし、各部下の氏族を支配せしむると共に、國家の大政に參與せしめぬ。然るに大臣大連等迭には互に相競爭して政權の爭奪を事とするに至れり。茲に至り氏族政治の弊、漸く現はれ、又世の進運は、氏族政治の複雜なる時勢に不適當なるを覺るに及び、大化の改新となり、從來の氏族政治を廢し、茲に中央集權の郡縣政治を布くに至れり、國家政治と氏族組織とは、相分離するに至れり。これ氏族の事の輕ぜられたるにあらず、唯氏族の制を以てするは、世の進運に伴はざるを以て、是れを分離せしのみ。以後氏族の事は、社會上最も重要なる事として認められたるは勿論、政治上にも依然多少の關係を有したりき。例へば、天智の朝、勅して各氏の氏上を定められしが如き、天武の朝八色の姓を定められしが如き、稍々後れて氏上の制、漸く破れしも源氏橘氏藤原氏等には氏長者ありしが如き是れなり。藤原氏勢力を有するに及び、平安朝の中頃より、朝廷の上に於ては世官世職の風起り、攝關家、淸華家、大臣家、羽林家等、各氏族一定の家格を生じ、以て明治維新に及べり。

第五節　祖先崇拜

我が國民は前述の如く、氏族關係を重んじ。此心發して祖先崇拜となるは、固より。當然の事なり。神武天皇即位の四年、靈畤を大和の鳥見山に造り、皇祖天神を祭り大孝を申べ給ふ。これ祖先崇拜の我が國風を見るべき、絶好の代表者にして、上天皇より下、一般庶民に至るまで、此心を以て心とせざるものなしといひて可なり。さればこそ、各氏族皆祖先の神を崇拜し、これを氏神として奉祀怠らず、佛教傳來後に至りては、有力なる諸氏皆氏寺を建立し、祖先の冥福を祈り、一族繁華を願ひたるなれ。

この祖先崇拜は、單に祖先を崇拜せんが爲に、崇拜するにあらず、此心は引いて祖先の名を辱めてはならじ、祖先の名を益々發揚せざるべからずとの精神となり、一族互に相砥礪するに至る。大伴家持歌ひて曰はく

(前畧) 大伴の、遠つ神祖の、其名をば、大來目主と、負ひ持ちて、つかへし官、海行かば水漬く屍、山行かば草むす屍、大君のへにこそ死なめ、顧みは、せじと言立て、大丈夫の、清き其名を、古へよ、今の現に、流さへる、親の子等ぞ。大伴と、佐伯の氏は、人の祖の、立つることたて、人の子は、祖の名絶たず、大君に、順ふ者と言ひつげる、事のつかさぞ。梓弓、手に取り持ちて、劒太刀、腰に取り佩き、朝守り、夕の守りに、大君の、御門の守り、我れをおきて、人はあらじ。(後畧)

これ獨り、大伴家持の心のみならんや。各氏の有力家は。皆此心を以て其氏族を勵しゝなるべし。菅原の大臣、かうぶりし侍りける夜、母のよみはべりける。

久方の、月の桂も、折るばかり、

いへの風をも、ふかせてしがな。

其家を思ふの厚き、感ずるに餘りあり。又中古武士の戰場に相逢ふや、互に名乘をあぐるを例とす。

而かも其名乘をあぐるや、單に自身の名を擧ぐるのみならず、其氏の氏文を讀むを例とせり。例へば平治の亂、待賢門の戰の時、平重盛、

此門の大將軍は、信頼卿と見るは僻目か、斯く申すは桓武天皇の苗裔大宰大貳淸盛が嫡子左衛門佐重盛生年二十三。

と名乘りかけたるに、臆病なる信頼は、返事にも及ばず「それ防げ侍共」といひて引き退きたりと。かゝる擧動は、武士の最も恥辱とする所なり。此時惡源太義平大音聲をあげ、

此手の大將は誰人ぞ名乘れ聞かん。かく申すは淸和天皇九代の後胤左馬頭義朝の嫡子鎌倉惡源太義平と申す者なり、生年十五歲、武藏大藏の軍の大將として伯父帶刀先生義賢を討ちしより以來、度々の合戰に一度も不覺の名を取らず、年積んで十九歲、見

参せん。

と名乘りたりと。これには多少作者の文飾あるべしと雖も、當時かゝる風俗ありしは、明かなる事實なりとす。而してこれ祖先崇拜氏族を重んずる心より、來りたるはいふを待たず。而して其中に互に祖先を以て誇りとすること、及び決して祖先の名を辱めずとの意氣の見ゆるぞ愉快なる。

以上は唯數例を擧げたるに止まれども。此心流れ〳〵て今日に至れるは、明かに見るを得べし「先祖に對して相濟まぬ」の一語は、我が國民の行動を支配するに於て、無量の感情の含まれ居るを見ても知るべし。世人我が國民精神に命名して、或は曰はく大和魂(やまとたましひ)、或は曰はく武士道と、是れ其内容に大なる差あるにあらず。而して此精神の中心は、祖先崇拜の心にあり、氏族關係の點にありと余は深く信ずるものなり。

第六節　結論

上述せし如く、我が國體の萬國に秀でゝ異彩を放てる點は、万世一系の皇統を戴ける國民の氏族的關係の點にあり。社會上氏族の位置、及びこれに關する觀念、時に浮沈あり一定せずと雖も、時と所とに關係なく、認むるを得べきは、祖先崇拜の念にあり。祖先崇拜は

これ一ヶの祖先敎なり。この祖先敎の觀念は、我が國民精神の主要部をなすものにして、佛敎信者にまれ、耶蘇敎信者にまれ、其他總べての信仰にまれ、皆この精神と調和すべく、又我が國に行はるゝ以上は、是非とも調和せしめざるべからざるものなり。今や本章を結ばんとするに當り我が國家團結の大本は、皇室と國民とは本支の氏族的關係にあることを、自覺せる祖先崇拜の觀念にある事を、重ねて斷言するものなり。

第二章　種族の概觀

第一節　先史時代の住民

我か國、氏族の源流を觀察するに先き立ち、氏族の根元たる種族につき、概觀を與ふるは適當の順序なりと信ず。故に本章に於ては、我が古代には如何なる種族居住せしか、又是等の人民が、後に述ぶる氏族と如何なる關係あるか等の點を觀察すべし。

我が國先史時代、既に一種或は數種の種族存在したりしは、慥かなる事實なりとす。固より何等記錄の存するなしと雖も、今日全國到る處より、發見せらるゝ遺跡遺物等により、これを知るを得べし。而して其人民たるや、極めて野蠻の狀態にあるものにして未だ石(せき)

器時代を離れざるものなり。其遺跡として存在するものには、貝塚竪穴等のものあり、其分布の狀態を見るに、貝塚にありては關東地方に最も多く、西南と東北とには、其數少なきが如し。又竪穴にありては北海道に最も多く、本州に於ては、奥羽の一部にこれを見るに過ぎず。又其遺物にありては、石鏃、石斧、石錐、石匙、石劍、石棒等の石器、及び高坏、德利、土瓶甕等の土器、又各種の土偶等を始めとし、骨器、角器等の品物、其發見全國に亘れり。以て此種族の分布の、廣かりしを知るべきなり。然らばこの種族は、如何なる種族なるかといふに至りては、其說一定せず。或はアイヌ族と全一のものといひ、或は非アイヌにしてアイヌの傳說にあるコロボックルなりといひ、或は土蜘蛛族と全一なりといふ。近頃は鳥居龍藏氏によりて說かれたるアイヌの一種、千島アイヌと全一族ならんといふ說、勢力を得つゝあるものゝ如し。次にこの種族は、吾れ〳〵大和民族と接觸せしものなりや否やの點は不明なり。故に後にあぐる記錄上に存する氏族とは、關係なきものなりと知るべし。

第二節　土蜘蛛族

土蜘蛛の名は、古史に於て屢々散見する所なり。然れども其種族的位置にありては、未だ

定説のよるべきなきも、大和民族、蝦夷族、熊襲族等の外、一種の土蜘蛛族として、存在せりといふは、多くの人の賛する所なり。而して記、紀、風土記に散在するものを總合する時は其分布頗る廣かりしものゝ如し。今二三の例を擧ぐること次の如し。

神武天皇東征の時、新城戸畔、居勢祝、猪祝等の土蜘蛛あり、又吉野の國栖あり。是等により畿内附邊に土蜘蛛の存在せしことは、明かなり。

又九州には、天孫降臨の時、土蜘蛛、大鉗、小鉗の名あり。又景行天皇西征の時にも、土蜘蛛の名多く見ゆ、以て土蜘蛛の九州に存せしことを知るべし。

又東國には、常陸風土記に土蜘蛛に關する傳説を載せあるを見れば、此地方にも蔓延せるを知るべし。其他陸奥風土記には、土蜘蛛の奥州に存在せしことを記載す、猶土蜘蛛に關する記事は、多くあれども以上の數例にて、既に土蜘蛛族の分布の一般を知り得るを以て缺畧せり。

是等の土蜘蛛は、大和民族と接觸の結果、或は討滅せられ、或は壓服せられ、以て一部は大和民族中に全化せられたるものゝ如し。故に土蜘蛛族の血統を引ける氏族もあるべきならんも、明かに知るを得ず。唯々新撰姓氏録神別の部に吉野の國栖を載するのみ。

第三節　熊襲族

上古の史上に於て、九州の南部薩摩大隅の邊を根據として、跳梁せる熊襲の一族ありしことは、皆人の知る所なり。而して其大和民族と異れることは、其風俗の相違せること、及び屢々反抗を企てし事を見ても、畧察するを得べし。然らば熊襲は、如何なる種族なるかこれまた未だ定説なしと雖も、多分南洋より潮流に乘りて、北上し來れるマレイ種族ならんとは、一般に想像せらるゝ所なり。其大和民族との接觸衝突は、既に神代の昔にありしものゝ如くなれど、其明かに史上に現はれたるは、景行天皇の世にあり。天皇の親征、日本武尊の征伐を經て、一たび壓服せられしが、仲哀天皇の朝に至り再び背反し、天皇は親征の途に崩御せらるゝの不幸を見るに至りぬ。然れども間もなく、神功皇后の征韓、其功を奏し、國威西方に揚がるに及び。熊襲は遂に屏息したるものゝ如し。熊襲の名、其後史上に現はれずと雖も、其代に屢々隼人の名を見るに至れり。然らば隼人と熊襲との關係如何、又隼人と大和民族との關係如何、古史によれば、隼人は彥火々出見尊の皇兄、火闌降命より出づとなす、これによれば隼人は、始めより大和民族の一分派なり。然れども其風俗言語の相違といひ、又屢々反抗を企てし事といひ、或は朝廷の此地方に對する施政の相

達といひ、これを考ふる時は、是れを大和民族といふよりも、寧ろ熊襲族に近似するを發見するならん。蓋熊襲族と仝一の種族なるべし。然らば次に起るべき問題は、此族は如何になり行きしかの點なり。これも土蜘蛛と同じく、一部誅滅せられたるものゝ外は、漸次に大和民族に混合融化したるものゝ如し。然らば今日此族の系を受けたる氏族あるべき筈なれども、明かに知るを得ず。唯新撰姓氏錄に、阿多隼人大隅隼人を以て、神別火闌降命より出づとなすあるのみ。

第四節　蝦夷族

蝦夷族は今日のアイヌ族なり。其大和民族との接觸衝突は、史上最も有名なる事實にして、其始めは明かに知るを得ずと雖も、史上記する所は、崇神天皇の朝、四通將軍の派遣あり、大彥命は北陸を巡り、其子武停河別命は東海を巡ぐりし時にあり。次いで景行天皇の朝、日本武尊の大征討あり。爾後蝦夷叛亂の事、史上屢々現れ、奈良朝の頃に至り、益々强暴を極め衝突頻々たりしが、桓武天皇の朝、坂上田村麻呂の征討其功を奏し、大體に於て蝦夷の屛息を見るに至り、猶其餘波は遠く平安朝の末に及べり。此結果蝦夷族の內、服從を欲せざるものは、大和民族の澎脹發達につれ、漸次退きて今の北海道に移り、其餘喘を保

ち、猶大和民族に仝化せず、今日のアイヌとなれり。又一部降服歸順したるものは、長き間に、漸次大和民族と仝化し、其一分子を構成するに至れり。今日大和民族中、その相貌アイヌに近似するもの多きを見て、其血統混合の頗る多かりしを想像すべきなり。殊に此等の相貌を有するもの丶東北に多くあるは、地理的關係上、固より然るべき事なり。但獨り東北地方のみならず全國處々に散在せし事を知らざるべからず。一例をあぐれば、景行天皇の朝、日本武尊東征の結果として、多くの蝦夷を伊勢神宮に獻せし事あり。時に蝦夷等晝夜喧噪出入禮なきを以て、倭姫命はこれを見て、神宮に近かしむべからずとなし、朝廷に獻ず。仍りてこれを御諸山の傍に置かしむ。然るに間もなく、暴行百出して止むべからず、天皇よりこれを畿外に分ち、播磨、讃岐、伊勢、安藝、阿波等に居らしむ。これこの五國の佐伯部の祖なりといふが如き是なり。其後蝦夷を諸國に分置せし事、折々にして其數も多くなれり。寛平七年の太政官符に、件夷俘徒、在諸國、不隨公役、繁息經年、其數亘多とあるが如き、其一般を知るべし。

上述する所によれば、我が國の氏族中、蝦夷の系を受けたるもの、多からんも明かに知らるべきものは少し。例へば陸奥の浮囚の長、安倍頼時等につきては、記錄上より見れば、安倍氏は大彥命の後なれば、固より疑なき皇別なり、然れども玆に揣摩を逞しくすれば、或

はもと蝦夷の歸順せるものにして、安倍氏を冒したるものにはあらざるか、假りに安倍氏の例は當らずとするも、かくの如きもの、多かるべしと信ずるものなり。又明かに蝦夷にして、姓を賜はれるものあり、例へば桓武天皇の時、播摩の蝦夷にて、姓を浦上臣と賜はりしものありしが如きこれなり。其他、蝦夷より出でたる姓には、和我氏、伊治氏、膽澤氏、大墓氏、磐井氏、吉彦氏等猶多くの姓あれども、本書には總て缺畧に從へり。

第五節　歸化民族

我が國には、この歸化民族の、頗る多かりし事を忘るべからず。但、これにつきては、次章改めて記述する所あるを以て、玆には其先祖の必ずしも信據するに足らざるものなることを一言して止むべし。歸化民族の多數は、揃うて皆名門貴族の出ならざるはなし。或は周公の子伯禽の後なりといひ、或は吳王夫差の後なりと稱し、秦の始皇帝、或は漢の高祖の後なりとなす。是等は歸化人が、我が國民の彼地の事情に通せざるを幸とし、己れを高ふせんが爲、かく稱へたるなりと解釋する方、妥當なるを信ず。中には眞に夫れ等の子孫なるもあるべけれど多くは皆此域を脱せざるものならん。而して是等は漸次大和民族中に、同化融合したるはいふを待たず。

第六節　大和民族

大和民族は我が國の根幹なり。この民族は始めより、此國土に居住せしものにあらざることは、今日多くの人の首肯する所なり。然れども其原住地如何の問題に至りては、全く不明に屬し、他日の研究に待たざるべからず。又此種族は、始めより純粹の一種族なりしや、或は數種族の融合混和なりしやも、亦不明の位置にあり。但この國土に土着發展する當時に至りては、決して單純なる一種類を以て目すべからず、幾多の融和混合ありし事は、既に明かなり。此國土には、曾つて土蜘蛛族の居住したることもありき。又熊襲族の居住したることもありき。又一方には蝦夷族あり、歸化民族ありて居住せり。然るに今日これ等特殊の種族は、北海道アイヌ族を除くの外、遂に存在することなし。然らば是等は全く絶滅に歸したるかといふに決して然らず、其一部は皆前述の如く、大和民族中に融合化成せられたるなり。而して是等の融合化成や、單に機械的の混合にあらず、化學的の融化なり否進んで精神的の化成なり。別言すれば肉體精神の兩方面に於て、完全圓滿なる融化一致なり。例を擧ぐるを要せず、我が國には系統上、多くの歸化民あるは明かなり。然るにその歸化魂なるものは、何所にかある、唯渾然たる大和魂あるのみ。故に今日の大和

民族は國初に於ける大和民族より、其範圍の廣きを知るべし。此意味に於て本書說明する所の民族は、獨り大和民族のみなるを知るべきなり。以上參考の爲、氏族の本源につき、其大要を述べたれども、本書氏族を述ぶるに當つては、これ等によつて分つことを避け、古來の說に從へり。

第三章　氏族の三大別

第一節　總觀

嵯峨天皇の時、萬多親王、藤原園人、藤原緒嗣等をして、新撰姓氏錄を編成せしむ。弘仁六年に至り書成り奏上す。これ我國姓氏に關する、最も重要なる書なり。此書の序文に曰はく天神地祇の冑、之を神別といひ、天皇皇子の派、之を皇別といひ、大漢三韓の族、之を諸蕃といふと。これより我が國民を類別するには皇別、神別、蕃別の三に分ち、永世の標準となれり。新撰姓氏錄集むる所、畿內を出でず、其他の諸國に於ては、未た本系を進めず、故に闕いて錄せずといふ。今畿內の姓氏を見るに錄する所、總數一千百八十二氏あり。これを三別に分ち見る時は、皇別三百三十三氏、神別四百四氏、蕃別三百二十八氏を數へ、其他百十七

氏は、未定の雜姓なりとす。玆に注意すべきは、氏族大小の相違こそあれ、蕃別諸氏の數の頗る多きことなり。かく多くの蕃別を有しながら、これを一の大和民族に融合化成したる幹根民族の同化力の强大なる讃嘆に餘りあり。又蕃別諸氏も、初めより我が皇化を慕ひ、我が國土を愛し、自ら進みて歸化したるものなれば、直に融和したるものゝ如し。

第二節　皇　別

神武天皇を始とし、歷代の天皇の子孫蔓延繁殖して、種々の姓を賜はり、地方に分岐したるもの多し、其詳なるに至りては、中編及後編に述ぶべければ、夫れによりて知るべし。大寶の制によれば、皇兄弟及び皇子を親王とし、夫れ以外は皆諸王とす。又親王より五世は、王名を得るも皇親の別にあらずとなす。これ天皇より玄孫までを皇族となし、夫れ以下を人臣の列に下したるものなり。是れ一般に、當時の風習に從ひたるものにして、桓武天皇以前は、實に諸王四世已上姓を賜はりたるものは、極めて尠かりき。桓武天皇の時に至り皇子にして母賤しきもの、姓を賜はりて人臣に列せり。即ち皇子岡成に、姓を長岡と賜ひ同じく安世に姓を良峯と賜ひしが如き、是れなり。普通には、これを以て先例によらざる皇族賜姓の始めとなす。嵯峨天皇の時に至り、諸皇子の未だ親王たらざるものに、姓を源

朝臣と賜ひ、出自は皆六位に叙し、才に隨ひて任用し、以て封戸の費を省く。これ皇族衆多費用給せざるを以てなり。皇族に源姓を賜ふこと玆に始まる。淳和天皇の時に至り、桓武天皇の皇孫、高棟王に平朝臣の姓を賜ふ、これ平氏の始めなり。これより皇子皇孫等に姓を賜はるもの、漸く多く、始めは平氏を賜はりしものもありしが、後には源姓を賜はるを以て恒例となれり。白河天皇の時に至り、皇子を或は法親王となし、或は直に親王號を與へず、僧とする風起るに及び、賜姓の事衰ふ。現時の制は皇室典範にあり、つきて見るべし。

第三節　神別

神別とは、前述の如く天神地祇の冑をいふ。別言すれば、神代の神々より分れ出でたる諸氏をいふ。神別また天神天孫地祇の三に分つ。天神とは、高皇産靈神、神皇産靈神等の如く天に生りませる神等の子孫をいひ、天孫とはもと、天神の內なれども、取り分けて神武天皇以前の天照天神の御子孫をいひ、地祇とは、此國に生りませる神だち、例へば海神の御末などをいふ。猶これを表記すれば左の如し。

高皇產靈尊の子孫＝大伴氏、齋部氏、日奉氏等
神皇產靈尊の子孫＝賀茂氏、滋野氏、祝部氏等

神別

天神
津速産靈命の子孫＝中臣氏、藤原氏、荒木田氏等
饒速日命の子孫＝物部氏、弓削氏、穗積氏等
其他略す

天孫
天穗日命の子孫＝出雲氏、菅原氏、大枝氏等
天津彥根命の子孫＝山背氏、凡河内氏、三枝部氏等
天火明命の子孫＝尾張氏、忠宗氏、津守氏等
火闌降命の子孫＝阿多隼人、大隅隼人等
稻飯命の子孫＝新良貴氏
其他略す

地祇
大國主命の子孫＝大神氏、賀茂氏、宗形氏等
椎根津彥の子孫＝大和氏、物忌氏等
豐玉彥命の子孫＝安曇氏、海犬養氏等
其他畧す

第四節　蕃別

番別は、前章に述べたる歸化民族なり。番別には、二大流派あり、一は漢族にして、一は三韓族なり、漢族中にも、或は周人の子孫といふものあり、或は秦人の子孫といふものあり、或は漢人の子孫、呉人の子孫、唐人の子孫等種々あり。三韓族にも新羅人あり、百濟人あり、高勾麗人あり、復雜を極む。而して多くは、名門貴族の出となすことは、前章これを述べだり。猶一觀し易からしめん爲め、表記すること次の如し。但主要なる源流のみを掲げたり。

漢族

- 周人
  - 周の靈王の後＝山田氏、長野氏等
  - 魯公伯禽の後＝長岑氏、白鳥氏等
  - 呉王夫差の後＝松野氏、
- 秦の始皇帝の後＝秦氏、惟宗氏等
- 漢人
  - 前漢高祖の後＝文氏、武生氏等
  - 後漢光武帝の後＝春井氏、下氏等
  - 後漢靈帝の後＝坂上氏、文氏等
  - 後漢献帝の後＝當宗氏、志賀氏等
- 魏人　曹操（武帝）の後＝高向氏、大崗氏等
- 呉人　孫權（大帝）の後＝牟佐氏、深根氏等

蕃別
- 唐人＝淸宗氏、淸海氏、嵩山氏等
- 三韓族
  - 新羅人
    - 國王の後＝三宅氏、絲井氏等
    - 國人の後＝日根氏、豐原氏等
  - 百濟人
    - 國王の後＝三善氏、菅野氏等
    - 國人の後＝信太氏、杉谷氏等
  - 高勾麗人
    - 國王の後＝高麗氏、高倉氏等
    - 國人の後＝八坂氏、柿井氏等
  - 任那人—國王の後＝多々良氏、道田氏等

第五節　未定の姓氏

本書皇別、神別、蕃別の外、未定の姓氏を置く。未定の姓氏中にも、幾多の階級あり、其出自、全く不明にして、氏族の三別中、其何れに屬すべきかさへ判然せざるものあり。或は皇別か神別か等は、明かなれども、其先祖の曖昧なるものあり。或は苗字にありては、例へば、淸和源氏義光流まで掲げあるも、其先祖の出自充分信據するに足らざるものあり、爲めに此部に入れたるものありて一定せず。

右の内にて殆んど其出自を明かに發見し兼ぬるものあり。例へば、新撰姓氏錄にあげたる未定の雜姓の如きこれなり。近き例にていへば、豊臣秀吉の源流を知らんとするが如き是れなり、又之に反し、例へば寬永諸家系圖傳、及び改選諸家系譜等によりて、姓の何々までも記せるものにても、其出自稍曖昧なるものは、直に此部に入れたるものあり。これ等は、他日の研究に待つことゝせり。

第四章　氏、姓、苗字、家號。

第一節　氏

氏はウヂと訓み、蘇我氏、物部氏の如く、一般に族類を分つの稱として用ふ。拾芥抄によれば、氏は内なりと。此解宜しきを得たるが如し。

神代の昔に於ては、神名は皆それ〴〵ありたれども、未だ一定の氏名とてはなかりき、天孫瓊々杵尊が、天鈿女命に向つて、猿女君の號を賜ひしが如きは、一方に骨名の起源たると共に、一方には氏の稱へ出でらるゝ始めとも、見るべきか。斯の如くにして、世の進むと共に、或は其職により、或は其居所により、氏を稱するに至りしが如し。神武天皇以後、開化

天皇に至るまでは、世に存ずる史實、極めて尠なく、この氏の如きも明かに知るを得ざれども、大體垂仁の頃に至りては、明かに固定せる氏名を發見するを得べし。故に氏を稱ふることは、此頃より追々に發達したるものなりと見るも、先づは過なきものと信ず。

次に氏の稱へ方は、如何なる風にして稱へられたるかを見るに、其主なるものを擧ぐれば、

(一)職業によれるものあり。例へば神祭を齋み淨まり仕ふる長を、齋部首といひ、又物部の士を率ゐて仕へまつるを、物部連といひたるが如き、其他膳臣の御膳に於ける、船連の船舶に於ける三宅連の御宅に於けるが如きこれなり。

(二)地名國名によれるものあり。例へば大倭國造葛城國造の如きは、國名によりたるものにして、胸形君、阿多臣等は、筑前宗像郡、薩摩阿多郡等の地名によれるものなり。又韓國造、百濟宿禰の如く、外國名によりて稱へられたるもあり。

(三)祖名、神名によれるものあり。例へば玉祖命の裔に玉祖連あり。天津久米命の後に久米直あり。田道間守の裔に橘守あり。葛城襲津彦の後に葛木朝臣あるが如き、是れなり。

(四)物名によれるものあり。例へば三枝部造か宮廷の三莖草を採りしに起り、小子部連が蠶兒を誤りて小兒を集めたるに起りしが如き、又殖栗連が栗を植ゑたるに起り、柿本朝臣が家門に柿樹ありしに起りしが如き、皆これなり。

(五)技藝によれるものあり。例へば坂合部連の國界の標を建てしに起り楲田臣の長楲を作りて水田に灌ぎしに起りしが如き、又治田連の田地を新墾せしに起り、的臣の鐵盾を射貫きしに起りしが如き、皆是れなり。

又一族の大なるものには、大氏小氏の別あることを知らざるべからず、例へば阿部氏は大氏なり。これより分れたる、阿倍志斐氏、阿倍間人氏、安倍長田氏、阿倍陸奥氏、阿倍安積氏、阿倍信夫氏、阿倍柴田氏、阿倍會津氏、安倍猨島氏、阿倍久努氏、阿倍小殿氏、等は皆小子なり。例へば、物部氏は大氏なり。これより分れたる、物部肩野氏、物部韓國氏物部依羅氏、物部飛鳥氏物部多藝氏、物部石上氏、物部射園氏、物部淨志氏、物部海氏、物部鏡氏、物部匝瑳氏、物部中原氏、贄田物部氏、相槻物部氏、坂戸物部氏、二田物部氏等は小氏なり。以上の二例により、大氏小氏の區別を知るべし。而して又阿倍志斐氏、物部肩野氏等を、阿倍氏、物部氏等の單姓に對し、これを複姓といふ。

第二節　姓

氏はウヂといひ、族類を分つの稱、姓はカバチといひ、家の尊卑の階級を次第するものなり。例へば中臣連の如き、中臣は氏にして、連は姓(姓の字の代りに尸、骨等の字を充つるこ

とあり、共にカバネと訓み其意同じなりといふは、これ普通の解釋なり。然れども、姓の字の用法は、しかく簡單なるものにあらず。これを大別する時は、三つの用例あるを見るべし。

第一、單に氏の意に用ひらるゝことあり。例へば、天智紀の八年、賜姓爲藤原氏とあるが如きは是れなり。

第二、或は氏に朝臣、宿禰等の姓(狹義の)を加へて用ひらるゝことあり。例へば姓を膳臣と賜ふなどとあるが如き是れなり。

第三、最狹義に用ひらるゝ場合にして、前例示したる中臣連とか臣とかをさしていふ場合なり。

この三つの用例は、何れを是とし、何れを非とすることを得ず。唯其場合により、何れの用例によりたるかを、注意すれば足れり。但姓を氏と對立せしめて、用ふる時は、第三の意義によるものにして、臣、連、伴造、國造、別、直、君、縣主、稲置等を始めとし、祝、史、村主等猶多くの姓あり。さてこの姓を賜はりし始めは、前節述べたる如く、瓊々杵尊の天鈿女命に、猿女君を賜ひたるが始めなるべきか。神武天皇の時、珍彥を倭國造となし、弟猾を猛田縣主となせしなど、玆に國造、縣主等の姓起り、自餘の姓も、追々に現れ來れり。就中、臣、連の姓、最も尊く、

これより大臣、大連等、出でゝ國政に預りしは、本編第一章既にこれを述べたり。後大化の改新に至り、官職と氏姓とは相離るゝに至り、姓の意味漸く變するに至れり。天武天皇の十三年、更に諸氏の族姓を改めて、八色の姓を作り、天下の万姓を混じたり。八色の姓とは、眞人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置の八なり。これより、姓は今の爵の如きものとなり、益々官職と相關せずなりぬ。然れども當時此八姓に皆統一せられざるにや、此後も從來の姓、例へば君、首、造、縣主等を稱ふるもありき。

次に第一の用例は、後世益々多く行はるゝに至れり。本書に姓の字を用ふるに當つて、特別の注意なき以上は、單にこの族類を分つの稱たる氏に、代用したるものと知るべし。

第三節　苗字

氏に大氏小氏あることとは、前々節、既にこれを述べたり。然るに、平安朝の中頃、武家漸く盛ならんとする頃より、小氏に似寄りたるものにて、苗字といふもの、現れ出でたり。例へば源氏、平氏の如きは氏なり。然るに新田氏、足利氏等は、源氏より出でたる苗字なり。又北條氏、三浦氏等は、平氏より出でたる苗字なり。苗字は、何故小氏に似寄りたるかといふに、例へば始め阿倍氏にして、信夫邊に居たるものが、阿倍信夫氏を稱へ、又同じく阿倍氏にし

て、安積邊に居たるものが、阿倍安積氏を稱ふるが如し。而して此等を小氏と云ふ。然るに、源氏にして新田に居たるものが、新田氏を稱へ、又同じく源氏にして足利に居たるものが、足利氏を稱ふ、これ苗字なり。故に其大氏の小氏に於ける關係と、氏の苗字に於ける關係とは、相似たるものなり。唯小氏にありては、大氏の衰へし時には、入つて、大氏の姓を冒しゝが如くなれど、苗字の方には、此の如き例なきのみ。

次に苗字は、如何なるものによりて名づけられたるかを分類し見る時は、大體次に掲ぐるが如し。

(一)地名國名を以て苗字となせるものあり。例へば伊勢新九郎長氏といふが如きは、これ國名を以て苗字とせるものなり。佐々木秀義の子、義清が、出雲氏を稱へたるが如きは、これなり。次に地名を以て苗字とするは最も多し。或は其他を領せしによりこれを稱し、或は其他に居住せしによりこれを稱ふ。苗字の大部は、皆此部に入るべきものなり。

例へば鎌倉氏、大庭氏、千葉氏、秩父氏、等の如し。

(二)昔時の姓(氏)を以て苗字となせるものあり。例へば田中氏、大石氏、田口氏、三枝氏、山邊氏、服部氏、石川氏、等の類これなり。但これ等は、昔時の姓なるを自覺して、苗字としたるにあらず、昔時地名等より此等の姓の出でたるが如くに、後にも同じ理由によりて、苗字

の出でたるか、偶然附合したるもの、多分を占めたるなり。

(三)官職を以て苗字となせるものあり。例へば、齋藤と云ふ苗字は、藤原氏にして、齋宮頭たりし叙用より起り、加藤と云ふ苗字は、藤原氏にして加賀介たりし景道より起り、首藤といふ苗字は、藤原氏にして主馬首たりし助清より起りしが如し。而してこの官職を用ひたるものは、多くは有名なる苗字なりとす。

(四)人名を以て苗字となせるあり。例へば、本阿彌といふ苗字は、もとは妙本阿彌といふ人名より起り、觀世といふ苗字は、觀阿彌、世阿彌の兩名より來れるが如し。但此等の苗字は極めて少數なるを知るべし。

(五)其他或は物名によれるもあり。或は由緣によれるもあり。或は佛語によれるもあり。或は寺號等によれるもあり。其種類頗る多し。

さてこれ等を何故、苗字といふかは、貞丈雜記に曰く、苗字といふ子細は稻、麥、などの生へ初めの時を、苗といふ、其の如く、先祖は、其家々の苗の如し、其先祖の名乘り始めたる氏なる故、苗字と云ふ也とあり。此說宜しきを得たるが如し。

本書には、苗字も何氏と記し、姓も何氏と記し、其間に區別なきが如くなれども、苗字には姓は何氏と必ず其源流を示しあるを以て、直に其苗字なるを知るを得べし。

第四節　家號

武家に苗字あるが如く、公家にも家號（かがう）又は稱號といふもの起れり。この家號は、一般に居住の地、又は所領の地等により、其人を尊敬せるまゝ呼びたるものが、慣例となりて傳はれるものにして、有栖川（ありすがは）宮、閑院（かんゐん）宮、等の皇族方を除けば、大體朝臣にのみ、用ゐられたりといひて可なるが如し。例へば九條家、二條家、三條家等と呼びなすが如し。

この家號は、殆ど苗字と同一のものなれども、稍々異るが如く、感ぜらるゝ所なきにあらず。例へば、苗字にては新田氏、足利氏などいふは、普通の事なれども、若しこれを家號にて近衛（このゑ）氏、九條氏などといふと、おかしく感ぜらるゝにても知るべし。但もと家號なりしものが、後には苗字と同一に呼ばるゝものあり、北畠氏の如きは是れなり。

次に姓と、苗字又は家號との、用ひらるゝ場合異れることあり。今其區別を見るに、武家（苗字）にありては、

一、私用の場合には、一般に苗字を用ふ。

二、公用の場合にても、朝廷に關する儀式的文書以外には、多く苗字を用ふ。

三、然るに、朝廷に關する儀式的の文書には、苗字を用ひず氏を用ふ。

又公家（家號）にありては、

一、私用の場合には、一般に家號を用ふ。

二、然るに、公式の文書の場合には、一切家號を用ひず、氏を用ふ。

以上は、明治の初頃までの一般の慣例なりき。故にこの頃には、九條にまれ、三條にまれ、日野にまれ、公文書には必ず藤原と署記し、又久我にまれ、岩倉にまれ、皆源と署記せり。然るに明治四年に至り、一切の公用の文書、皆氏、姓(朝臣などをいふ)を除き、單に苗字家號を以て呼稱すべしと定められ、夫れより以後は、同じ藤原氏にても、三條實美、近衞篤麿等、別々に家號により、呼稱するに至れり。故に今日にありては、家號も苗字と全く同一のものとなるに至れり。

本書家號を記するには、多くは何家姓は何々と書したれば、以て苗字又は姓との區別を知るべし。(但武家にても何々家とかけるものなきにしもあらず)

第五章　各氏系圖の信僞

第一節　姓氏の紊亂

我が國は、古來祖先崇拜の國風を有し、人々皆其家系を重んじたれば、比較的其族統の紛

亂少なく、正確なるものの如し、然れとも、飜つて又一考すれば、かゝる國風を有するからには、其出自の賤しきものは、これを恥ぢて、成るべく高貴の枝葉なりと僞らんとせしものの、多かりしが如し。これを國史に見るに、允恭天皇の時、氏族漸く蕃息し、諸氏往々僞冐するものあり、上下姓氏紛亂、百姓安んせざりき。天皇よりて詔を發し、探湯瓮を味橿丘に据え多くの氏族を集め、盟神探湯の法を以て、これを正し給ひたりき。これ姓氏紊亂の史に見えし始なり。

大化改新の頃、姓氏につきての流弊、また漸く現る。甚しきに至りては、己れの姓氏を妄りに他人に付し、以て贈賂の手段となすもののあるに至る。然れども、天智天皇の朝に至り、庚午年籍調製せられ、後には戸籍の根幹として、永世に保守すべきものと定められたるものなれは、姓氏の事、また明かに定まれるものの如し。

孝謙天皇の時に至り、蕃族に姓を賜ふことを聽し、請ふ所、直に與へければ、異族にして同姓なるもの、續々現はれ、源流明かならず、賤族にして、華冑に攀緣するものありき。

淳仁天皇の時に至り、紛亂益甚しかりければ、諸儒に詔して、氏族志を撰ばしめしが、適、國難に遭遇し、輟めて作らざりき。

桓武天皇の時に至り、その紛亂依然として存在し。或は同源にして異流なるあり。或は異

系にして同姓なるあり。譜牒改易して本支を辨ずべからざりしかば、天下に布告して、本系帳を進めしめ、漢韓諸蕃また此例に依らしめ、一方には勘系所を設け、勘本系使を置き以て姓氏錄を撰せしむ。已にして姓氏目錄成りしが、主當者、眞僞を辨ぜず、或は新意を加へ、或は神胤を上となし、皇胤を下となすなど、尊卑雜亂して、信を取るに由なかりき。平城天皇の時、民間に倭漢總歷帝譜圖といふものを傳ふ、これには天御中主神を以て首祖となし、魯王、吳王、高麗王、漢高祖等を其後に聯接して、倭漢雜糅、實に天宗を汚すものなりき。然るに愚民は、これを悟らず、以て實錄としたりしかば、詔して諸司官人のこれを有するものは、悉く官に進めしめき。

次いで嵯峨天皇の時に至り、前々章述べし如く、新撰姓氏錄の編成あり、畿內の部成り、姓氏の關係また宜しきを得るに至りぬ。

以上の內注意すべき事は、姓氏の糺正には、力を盡したれども、或は十分に成効せず、或は一時成効するも、其成効永續せざりし事これなり。又最後の新撰姓氏錄は、成効の樣なれども、畿內以外の多くの氏族は、如何なりしか知るに由なきことこれなり。

前述の如く、嵯峨天皇の當時、既に畿內以外の諸姓氏に至りては、不明なるもの多かりき然るにこの不明のものは、其儘に蕃息し、其儘に分居せしなるべし。故にこれ等は到底今

日これを知るに由なし。

嵯峨天皇以前、姓氏の糺正を屢、力められたる時に於てすら、折々紊亂を免れざる情態なれば、其以後、格別、姓氏の糺正を企てざる時代に於ては、又紊亂の度を增したりと想像するも、敢て失當の事にあらざるべしと信ず。

氏族の蕃息は、多くの分流を生じ、氏族の紊亂を生ぜしむるに與つて、力あるものといふべし。故に氏族の益、蕃息せしは、これ益、紊亂を大ならしめしものと見るを得べし。

平安朝の中頃より、朝政殊に地方に及ばず、地方には豪族所々に割據し、勝手に苗字を稱へたるが如きも、姓氏紊亂の一に數ふるを得べし。但、源、平、藤、橘の如き、著明の氏族には、始めは格別の紛亂なかりしものの如し。

大寶の制によれば、嗣子なきものは、養子することを得。されども、四等以上の親屬にて父子たるべき年齡相當なる事を要せしに、後、此制亂れ、異姓勝手に養子する風起れり。これ姓氏の紊亂に、大なる影響を與へたるものなり。

鎌倉時代以後、世の亂離に連れ、甲起乙仆、系譜を失ふものも多かりしならん。殊に戰國時代に至り、人は系譜等を顧みるに遑あらず。多くは舊族仆れ、新族四方に興起し、遂にこれ等の新族、世に時めくに至りしかば、姓氏の不明なるもの、多く著はれ、此時代を境とし、前

後の連絡を失ひたるもの多し。

足利時代頃より、系譜の賣買、折々行はれ徳川時代の末に及べり。是れらは姓氏の關係を紊亂せしめたるや大なり。

世にまた、僞系圖作者なるもの出現し、殊に徳川時代を以て甚しとす。これ等は、僞系圖の著作を以て、己れの職業となし、多くの人の依賴に應じ、近江の人といへば、直に佐々木氏の一族に結び付け、美濃の人といへば、直に土岐氏の一族に結び付くる等、亂暴極まれる事を敢てしたり。是等は姓氏をして益〻紊亂せしめしや明かなり。

明治の世に至り、苗字を有せざるもの等は、勝手に其姓をつくりたるものあり、斯の如きは勿論其源流の知れざるは明かなり。

以上擧げたる所により、今日姓氏の不明なるもの多きは固より當然の事なりといふべし。

第二節　各氏系圖の僞點數例

前節に於ては、嵯峨天皇以前、姓氏に屢紊亂起りし事を述べ、其以後に於ても、幾多の紊亂ありしなるべしとて、其紊亂を起すべき著しき條件數條をあげたり。實際各氏の系圖を

見るに、或は錯誤、或は紛失等の事實頗る多し。殊に足利季世に於て然りしが如し。今參考の爲め多少の疑問を入るべき數氏の系圖につき、簡單なる記述を次に擧ぐべし。

小野氏系圖によれば、小野氏は敏達天皇の皇子、春日皇子より出づとなし「敏達天皇—春日皇子—妹子王—毛人……」等に作る。然るにこは新撰姓氏錄を始め、皇胤紹運錄等にも、記載なき說にして、頗る疑ふべき餘他ありといふべし。(中編を參照せよ以下の諸氏また然り)。

越智氏系圖を見るに、孝靈天皇の皇子に、伊豫皇子あり、其子小子御子、これ越智氏の祖なる由あり。これも前記の二書を始め、正確なる古書に其徵とすべきものなく十分信用し難きを知るべし。

日下部氏系圖によれば、日下部氏は孝德天皇の皇子、有馬皇子より出づ。皇子の子、表米、天智の朝、日下部の姓を賜はりし由あり。これまた他に有力なる徵證なく頗る疑ふべし。

滋野氏、海野系圖によれば、滋野氏は、淸和天皇の皇子貞秀親王より出づとなす。然るに天皇の皇子に、貞秀親王といふものなく、他に徵證するに由なし。

楠氏系圖、楠氏は敏達天皇の後、橘氏より出でたる事は、明かなる事實なるべけれど、楠木正成の父祖に至りては、楠氏系圖、橋氏系圖、梶川氏系圖等、皆其說を異にし、其何れが正確

なりやは、未だ不明の位置にあり。

島津氏系圖、普通の系圖によれば、島津氏の祖忠久は、源頼朝の子、母は比企能員の妹丹後局なりとす。然るに一方には惟宗廣言の子となせり。世々日向の島津莊の莊司たりしより、其領家近衞氏に因みて、藤原氏を冒せしも、元祿以後に至りて、源氏に改めたるが如き頗る曖昧なり。

大友氏は豊後の大族なり。其祖を能直といふ。然るに、能直の出自に異説あり、或は藤原秀郷流となし或は藤原長家流となす。又能直を以て源頼朝の子とする説もあり。其何れに從ふべきか疑問なり。

織田氏は桓武平氏、平資盛の後なりとは、織田氏系圖の説く所なり。然れども中古藤原氏を用ゐしことは、熱田文書に據りてこれを知るべく、又、信秀以前の系圖には、他の實錄と附合せざる點頗る多く、全然信ずべきものにあらざるは明かなり。

德川將軍家は、德川親氏の後なりといふ。親氏松平太郎左衞門在原信重の婿となり、泰親を生むと。然れども、此間諸説紛々として一定せしものあらず。然るに地方には、親氏を以て賀茂右京亮有親の後なりとする説もあり。又家康自ら藤原氏を稱へたることは鴨江寺文書に見えて頗る疑を挿むべきもの多きを知るべし。

以上各氏の系圖には、必ずしも信據するに、足らざるものあるを知らしめんが爲に、著名姓氏につき、其疑問の一端を述べたるものなり。

第三節　信據すべき範圍

以上二節に於て、各氏の系圖は、一として信を取るべきものなきが如くに、懷疑的に記述せり。然らば各氏の系圖は、全く紊亂に歸したるものなりやといふに、決して然らず。固より古代の氏族にして、其系逐に不明に歸したるもの多し。又現今遺れる諸系圖に錯亂を生じたるもの少からず。然れども今日現存する多數の系圖豈不信を以てこれを捨つべき理由あらんや。盡く書を信ずるの不可なるは固よりなれども、又盡く書を排斥するの非なるは言を待たざる所なり。

今各氏系圖の信據すべき範圍を簡單に述ぶべし。

先づ記、記二書を始め、六國史全部、舊事本記等の系譜に關する記事は、中世頃までの氏族を知るに必要缺くべからざるものなり、又新撰姓氏錄の重要なるに至つては、言說を待たざる所なりとす。

次に皇胤紹運錄、尊卑分脈等も、系圖に關する古書にして、最も信用するに足るものなり

固より多少の錯簡は免れざる所なり。

其他群書類從系譜部にあげたる大中臣氏、菅原氏、大江氏、橘氏、紀氏、小野氏、高階氏、清原氏中原氏、小槻氏、和氣氏、丹波氏、安倍氏、加茂氏、豐原氏、巨勢氏等の、古き系圖を始め、多くの武家系圖は、幾多の除外例を設けて、大體は信ずべきものなり。除外すべき二三の例を次にあぐべし。

一の系圖の大部が、他の正確なる系圖實錄等と一致せざるものは、信用せぬ方よろしかるべし。

一の系圖の大部か、他の正確なる系圖實錄等と一致するも、其後世の僞作なること明かに見ゆるものは信ずるに足らず。

一の系圖が古く其出所も正しくして、唯其先祖等に於て、古書の正確なる記述と一致せざるもの等は、其一部を除きたる外は、大體は信用して可なるへし。

二三の系圖にして、其先祖を異にし、而して其何れとも決定しがたく、其他の部分の多くが、其當時の記錄と一致するものは、その先を疑問とし大體は信用して可なるべし。

一の系圖にして、其出所正しく、後世の僞作ならざるは明かなれども、他に比較對照すべき實錄等なきものは、即ちそれを非とすへき反證なき以上は大體信用して可なるべし

徳川時代頃の系圖にして、唯姓は源氏とか、平氏とかあるのみにして、其出自明かならず徳川時代の始め頃より、書き始めたるものは、其時以後の分は信用すべきも、其以前何姓といふは、十分信ずるに足らざるもの多し。

又同一の系圖に數種あり、而して其後世に出來たるものほど、其出自源流につき、詳しく巧に記述しある如きものは、隨分疑はしきものなり。

以上は總べての系圖を盲信することなき樣注意の爲めに二三の要件を述へたるものなり。其他は推して知るへし。然れども是等は全く眞正の意味に於ける研究的の法則等のものにあらず、唯今日多くの人が、系圖を取扱ふ上に於ての手心を述へたるに過ぎず本書中編の各氏源流の中にも唯、稍、信據すへき諸系圖より其儘採取したるもの尠からず。要するに本書にして系圖研究者の津筏ともならば、幸とする所なり。

姓氏明鑑前編 終

中編　諸姓氏の源流

第一部　皇別諸氏

第一章　頭音あ行に屬する姓氏

あの部

【上松氏】　姓は清和源氏、木曾義仲の後なり、立家の祖を家信といふ。信濃國西筑摩郡上松を苗字の地とす。

【天野氏】　家傳によれば、これ後三條天皇の皇子、輔仁親王より出でたる苗字なり。即ち親王三代の孫、天野藤内遠景の後なりと。然れども、他の天野系圖によれば、天野氏は、藤原南家武智麻呂の後なりとなす。今茲に兩說を揭げ疑を存す。但藤原氏の出自となすことと信ずべきが如し。

【天羽氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を直胤といふ。

【甘利氏】　姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を行忠といふ。　賴義―義光―義清(武田)―清光―信義―忠賴―行忠　(甘利)―――

【甘糟氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子、天足彥國押人命の後なり、立家の祖を家基といふ。武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

猶小野姓につきては小野氏の條下を見るべし。

【甘繩氏】 姓は桓武平氏、平國香の流、北條氏より分る。

【穴山氏】 姓は清和源氏、源賴義の子、新羅三郎源義光の後なり、立家の祖を信春といふ。甲斐國北巨摩郡穴山を苗字の地とす。

武田信武—信成—信春—信滿—信重—
—信介—信懸—信弘—信友—信君

【尼子氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を高久といふ。これ有名なる出雲の尼子氏なり。近江國犬上郡尼子鄕を苗字の地とす。家紋四目結

京極高秀—
—高久(尼子)—持久—清定—經久—政久—
—晴久—義久……

【尼崎氏】 姓は清和源氏、足利氏の支流、今川氏より分る、立家の祖を貞兼といふ。

【合土氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、額戸氏と仝祖なり。

【在原氏】 (姓) 平城天皇の皇子、阿保親王より出づ、淳和の朝、親王の子、行平、業平等此姓を賜はる。

【旭氏】 姓は清和源氏、木曾義仲の子、義基の弟、義宗を祖とす。

【有岡氏】 姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。立家の祖を能基といふ。

【有良氏】 (姓) 敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり。

【有澤氏】（姓）天武天皇の皇子、長親王の後なり。

【有田氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後なり、松浦氏より分る。

【有田氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を宗範といふ。

【有馬氏】姓は村上源氏、具平親王の後、久我通名の男、廣益、堀川を稱し、廣之のとき有馬に改む。家紋龍膽丸十六葉菊　五七桐左巴　久我通名―

廣益―廣之―廣春……

【有馬氏】姓は村上源氏、具平親王の後なり。赤松氏より分る、立家の祖を義祐といふ。攝津有馬を苗字の地とす。家紋左巴笹龍膽五七桐◉一に釘拔三巴を以て家紋とす後釘拔を幕紋とす　赤松則村―則祐―

義祐（有馬）―持家―元家―

豊氏―忠頼―頼利……（筑後久留米）◉家紋前出

頼泰―吉政……（上總五井）◉家紋丁子軸五三桐

【有賀氏】姓は清和源氏、家傳に曰はく、源滿仲の弟、源滿快十代諏訪十郎盛重が末孫なりと。先祖、信濃國諏訪の有賀庄を領せしより苗字の地とす。家紋丸に梶葉

種重に仕ふ武田信虎―種貞―貞重―種政―種次……

【有賀氏】科野國造家（神武天皇の皇子、神八井耳命の孫、建五百建命より出づ）の後なり。

【有泉氏】姓は清和源氏、源義光の流なり、逸見氏より分る、立家の祖を道倚といふ、甲斐國武川郷有泉を苗字の地とす。家紋丸に梅鉢花菱　某一に信閑―昌賓―政次―信方―信利―

—信員……

【有瀬氏】 姓は清和源氏、彥右衛門なるものより系現はる、土佐國香美郡有瀬村を苗字の地とす。

【安倍氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、大彥命の裔なり、阿倍御主人より出づ。是れ陰陽家として有名なる安倍晴明等の内なり。又陸奥には、安倍貞任等の一族大に著はる。

【安部氏】 姓は清和源氏、源滿仲の弟、滿快の流、諏訪氏より分る、元眞の時、始めてこれを稱す。駿河國安部郡を苗字の地とす。

家紋 丸に梶葉 丸に三引 連錢

源滿快—諏訪盛重—元眞(安部)—信勝—信盛—信之—信成……(武蔵岡部)

【安藤氏】 姓は清和源氏、源頼信の子、源頼淸(頼義の弟)より出づ、村上氏より分る、立家の祖を長基といふ。 家紋 下藤丸ノ内に安文字 七畫引龍 打拔

安藤—家重—基能—直次—重能—直政……

【安藤氏】 姓は清和源氏、武田信成四男、武續の男、信通、三河國巨海に住して巨海を稱し、忠次のとき外戚の稱號を冒して安藤と改む。 家紋 藤の丸 生橘(巨海氏の時は三ツナリタチバナ)

【安藤氏】 姓は安倍氏、安倍貞任より出づ、貞任の子、高星、津輕藤崎に逃れ、其の子堯恒、安東太郎と稱す、これ安藤氏の祖なり。

【安東氏】 姓は安倍氏、奥州安倍氏より分る、立家の祖を良宗といふ。

【安東氏】 姓は紀氏、孝元天皇の後、武内宿禰の裔なり、立家の祖を能光といふ。

【安那氏】 (姓) 孝昭天皇の皇子、天足彥

國押人命の後なり。

【安保氏】姓は在原氏、在原業平より出づ、立家の祖を師尚といふ。

【安保氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり。立家の祖を實光といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【安生氏】姓は清和源氏、源經基の後、頼信の後胤なり、安生定基の孫、定繼の男、定之徳川氏に仕ふ。　家紋五三桐釘抜

【安西氏】姓は桓武平氏、平良文の子、忠通の支族なり、駿河國、安西村を苗字の地とす。　家紋釘抜　安次（今川義元に仕ふ）—安勝—元眞—
—元春—元仙……

【安西氏】同上、忠通の男、三浦爲通の次男、爲俊の後胤なり、祖を爲景とす。　家紋丸三引五三桐

【安藝氏】姓は後三條源氏、後三條天皇の皇子、輔仁親王の後なり、祖を景光といふ。

【安藝氏】姓は蘇我氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、實光のとき安藝太郎と稱し、次に安喜、後に安藝に改む、土佐國安藝郡を苗字の地とす。

【安房氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、頼光の後なり、祖を親重といふ。

【安養野氏】姓は清和源氏、木曾義仲の後なり、立家の祖を家昌といふ。

【安木田氏】姓は清和源氏、源頼信の子、頼季（頼義の弟）の後なり、井上氏より分る、立家の祖を長光といふ。

【安居隱家】姓は桓武平氏、葛原親王の子、平高棟の後なり、この家號を稱へたるは行兼より始まる、行兼は觀應頃の人なり。

【安宅木氏】姓は清和源氏、源義光の流、小笠原氏の後、三好氏より分る、立家の祖を冬康といふ。

【赤林氏】もと藤原氏、伊藤を稱す、重氏家康に仕へ、子重安、外舅、赤林重道の跡を繼ぎ赤林に改む。赤林は清和源氏、足利義康の分れ、仁木の庶流なり。　家紋 七枚葉櫻花 抱茗荷

重安……重政—重貞—重善—正秀—公利……

【赤川氏】姓は桓武平氏、平良文の末葉、土肥實平の後なり、立家の祖を政忠といふ、信濃國赤川を苗字の地とす。

【赤澤氏】姓は清和源氏、源頼義の子、新羅三郎義光の流なり、小笠原氏より分る、立家の祖を清經といふ。伊豆國赤澤城に住せるを以て苗字の地とす。　家紋 下太松皮菱の内十文字 五七桐

【赤井氏】姓は清和源氏、源頼信の子、頼季(頼義の弟)の後なり、井上氏より分る、立家の祖を爲家といふ。　家紋 黒餅に覆麥 劔雁金 金蔦 十六葉菊 五七桐 ⦿家寧に菊桐の紋は正親町院の勅許により用ふと

【赤田氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後なり、渡邊氏より分る、立家の祖を應といふ。　家紋 三星

【赤橋氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、北條氏より分る、立家の祖を重時といふ。　北條義時—重時—長時—義宗—久時—守時—

【赤塲氏】 姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、越前朝倉の分派なり。此姓につき疑あり、日下部氏の條下を見るべし。

【赤前氏】 姓は宇多源氏、敦實親王の後、佐々木光秀の支流なり、忠光陸中國閉伊郡赤前に住し、氏を赤前と稱す。 家紋四目結

【赤松氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を師季といふ。此族播磨國に於て大に著はる、赤松則村等の家なり。播磨國赤穗郡赤松を苗字の地とす。 家紋十六葉菊 五七桐 引両 龍膽 三頭左巴 三本松 龍膽丸の内若松（一に若松） 浮線綾丸 七星 ◉菊の紋は護良親王より賜はり五七桐は義政引両は義尚より賜はりしといふ

師季（赤松）—季方—季則—頼則—則景—家範—久範—茂則—則村—則祐—義則—滿祐—

【足利氏】 姓は清和源氏、源義家の子に義國あり、其子義重、義康、義重上野の新田に居り新田氏を稱し、義康下野足利に居り足利氏を稱す。足利氏の本宗はいふに及ばず。其支流大に蔓延す。 家紋十六菊 五七桐 二引両

【足助氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を重秀といふ。此苗字は重秀三河國足助に居りしより來れるものなり。

【吾河氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり。猶越智姓につきての疑は、越智氏の條下に見るべし。

【吾妻氏】 姓は清和源氏、源頼信の子、頼

清頼義の弟)より出づ、村上氏の支流なり、立家の祖を親基といふ。

【雨宮氏】姓は清和源氏、村上義次、二男義正の後なり、信濃國雨宮邑を苗字の地とす。家紋丸の内上文字 左三頭巴 十本骨扇 六角轡撿

【雨谷氏】姓は清和源氏、源經基の子、源満政(満仲の弟)の後なり、立家の祖を盛齋といふ。

【雨夜氏】姓は清和源氏、雨谷氏と同じく、満政の後なり、立家の祖を守正といふ。

【雨箭氏】姓は宇多源氏、佐々木氏より分る、立家の祖を季政といふ。

【青木氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の流なり、武田時信より出づ。甲斐國巨摩郡武川筋青木を苗字の地とす。家紋割菱 葉割菱。

【青木氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を直兼といふ。武藏七黨の一なる丹黨に屬す。家紋丸の内洲濱 富士 三銀杏

【青木氏】姓は清和源氏、義光の流、武田の支流なり、はじめ大井なりしが、正寛(大井昌輝二男)のとき青木に改む。家紋九曜の内花菱 割菱

【青木氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、立家の祖を重方といふ。江州愛知郡青木庄を苗字の地とす。

【青沼氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、逸見氏より分る。昌世のとき甲斐國青沼鄕を領せしにより苗字の

地とす。　家紋割菱（昌世のとき武田信虎より與へらる）

【青地氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を基綱といふ。

【青根氏】　姓は中原氏、安寧天皇の皇子、磯城津彦命の後なり。猶中原氏の源流につきては疑あり、中原氏の條下を見よ。

【青柳氏】　姓は清和源氏、源義光の支流なり、南部光行の後胤、實長十四代、義澄を祖とす、信濃國青柳鄕を苗字の地とす。
家紋（井桁の内に三階菱・割菱・丸に横木瓜）

【青柳氏】　姓は清和源氏、源義光の流、佐竹の庶流なり、常陸國行方郡青柳村を苗字の地とす。　家紋（瓜の内水・文字巴）　高親（元和頃）―高信―
―高邦―保高―高伯……

【青野氏】　姓は清和源氏、東條松平の支流東條は義春を祖とす）なり。正峯の祖父、正次の時より賴宣に仕ふ。　家紋（陰向櫻・九曜）

【阿形氏】　姓は桓武平氏、平維衡の流、伊勢氏茂（北條氏を冒す）より出づ、氏茂三男、江馬氏富の後裔但正に至り阿形に改む。

【阿倍氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、大彦命の後なり、大彦命の子孫は、北陸東海奥羽の地方に多く蔓延せり。阿倍氏より出でたる複姓には、阿倍志斐氏、阿倍間人氏、安倍長田氏、阿倍陸奥氏、安倍安積氏、阿倍信夫氏、阿倍柴田氏、阿倍會津氏、安倍猿島氏、阿倍久努氏、阿倍小殿氏、阿倍引田氏、阿倍磐城……等、多きことは前編の例に擧げたり、一族中、阿倍倉梯麻呂、阿倍引田比羅夫

等、殊に著はる。家紋違鷹羽

【阿閉氏】（姓）阿倍氏と同祖、大彦命の後なり。伊賀國阿閉郡を苗字の地とす。

【阿部氏】姓は安倍氏、大彦命の後なり。此苗字は各地方に多く散在す。然れども、祖先の系統明かに知るを得ず。（阿部氏にして藤原氏より分れたるもあり）家紋丸の内鷹羽

正勝家康に仕ふ—正次—忠吉—忠秋……

【阿保氏】（姓）垂仁天皇の皇子、息速別命の後なり。

【阿禮氏】（姓）景行天皇の皇子、大碓命の後なり。

【阿牟氏】（姓）景行天皇の皇子、日向襲津彦皇子の後なり。

【阿波氏】（姓）景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【阿野氏】姓は清和源氏、源義朝の子、全成これを稱す。源義朝—全成（阿野）—隆元—義繼—義泰…

【阿坂氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、北畠氏より出づ。

【阿曾氏】姓は桓武平氏、平貞盛の子、維將の後なり、北條氏より分る、立家の祖を時治といふ。時治は鎌倉時代の末の人なり。北條時頼—宗時—時守—時治（阿曾）…

【阿蘇氏】（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。世々阿蘇神社の社家として著はる。肥後阿蘇郡を苗字の地とす。

【阿蘇谷氏】姓は清和源氏、島津氏より分る、立家の祖を久時といふ。猶此姓につき

疑あり、島津氏の條下を參照すべし。

【阿久津氏】　姓は在原氏、平城天皇の孫、在原業平より出づ、立家の祖を行安といふ。

【阿久澤氏】　姓は淸和源氏、源義光の流なり、桃井氏の庶流にして、加賀國愛久澤を苗字の地とす、後愛字を阿に改む。　家紋二引両　五七桐　◉五七桐は村上帝より桃井刑部左衛門に賜はりしと

須山　行次寬永年頃

―行廣―廣保―行保―行光―

【阿刀部氏】　姓は淸和源氏、源賴義の子、新羅三郎義光より出づ、立家の祖を長朝といふ。

【阿支奈氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【阿太別氏】　（姓）　垂仁天皇の皇子、大中津日子命の後なり。

【阿濃津氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、國香の後なり、立家の祖を貞衡といふ。

【奄智氏】　（姓）　景行天皇の皇子、日向襲津彥皇子の後なり。

【明智氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、土岐氏より分る、立家の祖を賴重といふ。(又明地とも書す)これ有名なる明智日向守光秀の祖なり。もと美濃國土岐郡明智鄕に住せしより此苗字あり。　家紋桔梗　土岐光信―光基―光衡―光行―光定―賴貞―賴基―賴重(明智)……

【明智氏】　姓は淸和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を光行といふ。

【明石氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇

子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を則安といふ。

【芥川氏】姓は淸和源氏、源義光の流なり、小笠原氏の支族、三好氏より分る、立家の祖を長則といふ。攝津國芥川城は其居城地なり。

【芥川氏】姓は桓武平氏、平高望の流なり、攝津國芥川を苗字の地とす。家紋抱魚腸

【近江氏】姓は淸和源氏、源賴信の子、源賴淸(賴義の弟)より出で、村上氏より分る、立家の祖を成高といふ。

【飛鳥君】(姓)垂仁天皇の皇子、大中津彥命の後なり。

【芦屋氏】姓は高階氏、天武天皇の皇子、高市親王の後なり、立家の祖を惟信といふ。

【芦谷氏】姓は淸和源氏、佐々木の支流伊木遠雄の後なり。家紋四方花菱六つ目

【芦名氏】姓は桓武平氏、平將門の弟、次郎將平を祖とす。相模三浦郡蘆名を苗字の地とす。

【姉歯氏】姓は桓武平氏、姉歯右馬丞景高を祖とす。陸前國栗原郡姉歯邑を苗字の地とす。

【厚母氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり。佐々木氏より分る、毛利元春、次男元房の後、元員を祖とす、長門厚母村を苗字の地とす。

【厚科氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、祖を重秀といふ。

【相原氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【姶良氏】 姓は淸和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を忠安といふ。猶島津氏の姓につき疑あり、島津氏の條下を見るべし。

【英多氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫親王の後なり。猶越智姓につきての疑は、越智氏の條下を見るべし。

【英多氏】 （姓） 敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり。

【秋原氏】 姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を國實と云ふ。

【秋山氏】 姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を光朝といふ。甲斐國中巨摩郡秋山を苗字の地とす。 家紋 三階菱（一に下膨松皮菱）堅花菱 九枚篠

義淸―淸光―遠光―光朝（秋山）―光定―時忠―時光……

【秋庭氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義方といふ。

【秋保氏】 姓は桓武平氏、重盛の次男、資盛を祖とす、陸前國名取郡秋保を苗字の地とす。

【秋田氏】 姓は安倍氏、孝元天皇の皇子、大彥命の後なり、安倍貞任より出づ、鹿季は其後胤なり。 家紋 檜扇に鷲羽 獅子に牡丹 ⦿家傳にもさは獅子に牡丹のみを用ひ

しに先祖安東太郎貞方建久年中勲功有しにより後鳥羽院朝鮮國より献上の鷲羽を檜扇に載せて賜はるこれより家紋とすといふ

鹿季―成季―惟季―愛季―
―實季―俊季……

【海氏】(姓) 孝靈天皇の皇子、彥狹島命の後なり。

【荒井氏】姓は淸和源氏、新田氏の族なり、上野荒居に居りしを以て此號あり、後に新井氏と改む。

【荒加賀氏】姓は淸和源氏、源滿仲の子、賴親(賴光の弟)より出づ、立家の祖を賴房といふ。

【荒川氏】姓は淸和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の流なり。 家紋丸に刻鷹羽 矢車蔦

【荒川氏】姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴道といふ。

【荒川氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の裔なり、立家の祖を直衡といふ。

【荒川氏】姓は宇多源氏、佐々木氏の末流なり。以上同一の苗字なれども其源流の異なれるを知るべし、以下斯の如きもの尠からず。

【荒川氏】姓は淸和源氏、吉良義定の後なり。 家紋十六葉菊 八本立矢車 五三桐

【荒河氏】姓は淸原氏(此姓は天武天皇の皇子、舍人親王の裔に出づ)出羽の酋長、淸原武貞これを稱ふ。

【荒尾氏】姓は在原氏(平城天皇の後在原業平の裔なり。尾張國智多郡荒尾村を苗字の地とす。 家紋永樂通寶 九曜

【荒波多氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平

良文の流なり、武藏七黨の一なる村山黨の内にあり。立家の祖を荒波多三郎某といふ。

【麻生氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴親（賴光の弟）より出づ、立家の祖を仲房といふ。

【麻生氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、祖を賴仲といふ。

【麻生氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、大椽氏より分る、立家の祖を麻生三郎といふ。

【商長氏】　（姓）　崇神天皇の皇子、豐城入彥命の後なり。

【淺原氏】　姓は淸和源氏、新羅三郎源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を行信といふ。甲斐國中巨摩郡淺原を苗字の地とす。

【淺野氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光の流なり、土岐氏より分る、立家の先祖を光時といふ。これ今日淺野侯家の先祖なり。光時、尾張國丹羽郡淺野村に住せしにより苗字の地とす。　家紋（一に丸に違鷹羽　二に六本骨扇に澤瀉　丸に三引両）

土岐光信—光基—光衡—光時（淺野）—光忠—光盛—國盛—賴隆—長勝—致長—賴長—光長—宗長—弘長—國長—重長—顯長—長勝—長政—幸長—長晟—（安藝廣島）

【淺羽氏】　姓は淸和源氏、源義光の流なり、先祖、遠江國淺羽庄に住し小笠原を改め、淺羽と稱す。淺羽貞則といふもの今川

義元に仕ふ。家紋五七桐 瓜の内洲濱 折入角の角洲濱

【淺利氏】 姓は淸和源氏、新羅三郎義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を義成といふ。甲州東八代郡淺利を苗字の地とす。武田義淸―淸光―義成―知義……

【淺井氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤益といふ。

【淺井氏】 姓は橘氏、橘諸兄の流、田中政弘の末裔、宗兼、參河國淺井村に住し淺井忠淸と改む。家紋六本骨開き扇 橘 右巴 ⊙家傳に道忠忠節により家康より製て賜はりし扇六本骨なるにより相傳へて家紋とせるなりと 忠淸……道忠 松平信定に屬す

―道多―政道―道次―道重……

【淺井氏】 姓は宇多源氏、佐々木成賴の末葉なり。近江國淺井郡を苗字の地とす

家紋引合釘抜 寄九曜 淺井吉信……吉貞―信貞―忠貞

【淺草氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重高といふ。

【淺海氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子、伊豫皇子の後なり、立家の祖を能長といふ。越智氏の源流につきては疑はしき點あり、猶越智氏の條下を見るべし。

【淺羽野氏】 姓は滋野氏淸和天皇の皇子、貞保親王より出づ、立家の祖を長重といふ。滋野氏の源流につきては疑はしき點あり、猶滋野氏の條下を見るべし

【朝日氏】 姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴親(賴光の弟)より出づ、立家の祖を賴時といふ。家紋丸に一文字 木瓜 横万字

【朝日氏】 姓は淸和源氏、木曾義仲の子、義基これを稱ふ。

【朝倉氏】　姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を宗高といふ。これ有名なる越前朝倉氏の先祖なり、猶日下部氏の條下を見るべし。　家紋三木瓜

◉始め一木瓜なりしが、先祖高清關東に下り白猪を射殺せしとき其賞として頼朝より御簾の紋木瓜をたまひこれより二つを加へて三木瓜に改む。

宗高―高清―高景…孝景―
義景―敎景―忠景…

【朝野氏】　(姓)　孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【朝妻氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を泰重といふ。

【朝夷氏】　姓は淸和源氏、平良文の流なり、三浦氏より分る、もと朝比奈を稱し義春のよき朝夷に改む。　家紋三引

義直―義次―義春…

【朝夷名氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の流なり、三浦氏より分る、和田義秀始めてこれを稱す。道半のとき其父朝比奈に改む。　家紋三頭左巴丸に三引　道半―泰勝―泰成
―泰澄―泰通…

【淡路氏】　姓は淸和淸氏、源爲義の子、爲淸等これを稱ふ。

【淡河氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり。赤松氏より分る、立家の祖を季範といふ。

【淡海氏】　(姓)　天智天皇の皇子、大友皇子(弘文天皇)の後なり、弘文天皇の曾孫、淡海三船最も著はる。

【淡海氏】　(姓)　孝元天皇の皇子、彦太忍

信命の後なり。

【淡海氏】（姓）天智天皇の皇子、川島王の後なり。

【渥美氏】姓は村上源氏、北畠材親の三男、政能、美濃國厚見郡を領し、厚見と稱し、後渥美に改む。家紋三扇の丸十本骨五三桐

【粟氏】（姓）景行天皇の皇子、豐戸別命の後なり。

【粟屋氏】姓は淸和源氏、源義光の流なり、義光の男、義業、子義定、遠江國安田の城に住し、安田を稱へ、親義に至り粟屋を稱す。

【粟津氏】姓は淸和源氏、源賴光の流なり、近江國滋賀郡粟津を苗字の地とす。

家紋丸に大文字五本矢車　粟津義忠……淸定―淸勝―

―淸水―淸紀……

【粟殿氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、立家の祖を義有といふ。

【粟田氏】（姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり、これ文武天皇の頃、著はれたる粟田臣眞人の家なり。

【粟田氏】姓は淸和源氏、源經基の子、滿季（滿仲の弟）の後なり、立家の祖を實淸といふ。

【粟田氏】淸和源氏、源賴信の子、賴淸より出づ、村上氏の分派なり、立家の祖を寬覺といふ。

【粟生氏】姓は桓武平氏、平國香の後なり、大椽氏より分る、立家の祖を幹實といふ。

【粟飯原氏】　姓は桓武平氏、平國香の子、平良文の後なり、立家の祖を常益といふ。

【會田氏】　姓は滋野氏、清和天皇の皇子、貞保親王より出づ、海野幸持信濃國會田郷に住せしより在名を苗字の地とす。

家紋 三本竹 二巴

【會洲氏】　姓は清和源氏、源義光の流なり、武田より分る、立家の祖を忠俊といふ。會洲又愛洲に作るものあり。

【會津氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を光盛といふ。又蘆名氏ともいふ。

義連—盛連—光盛（會津）—泰盛—政盛……

【新氏】　姓は桓武平氏、平正盛の一族にして右馬允貞光の後なり。　家紋 丸の内酸漿 重釘抜

【新山氏】　姓は清和源氏、源頼光の流なり、武田信重の猶子、親信新屋を稱し、松平秀就（輝元の子）の命により新山に改むと。

【新居氏】　姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【新井氏】　姓は清和源氏、新田氏の族なり、始め上野國荒居に居り、荒井氏を稱し、後新井に改むと。これ新井君美の家なり。

家紋 花菱 竹雀 田文字

【新井村氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲、滿政等の弟）より出づ、立家の祖を師景といふ。

【愛子氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼親（頼光の弟）より出づ、立家の祖を頼景

といふ。

【愛智氏】姓は清和源氏、源義朝の子、全成の後なり、立家の祖を頼房といふ。

【愛智氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を家行といふ。

【愛宕家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、中院家より分る、此家號を稱へたるは道福を始めとす。通福の薨は東山天皇の元祿十二年なり。　家紋龍膽笹

【愛甲氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を義久といふ。小野姓につき異説あり、小野氏の條下を見るべし。

【跡部氏】姓は清和源氏、源義光の後、小笠原氏の支族なり、跡部行忠なるもの武田信玄に仕ふ。　家紋松皮菱

【跡部氏】姓は清和源氏、小笠原氏の支族なり、武田信虎の臣横田重晟の三男重政跡部正之の養子となり跡部と改む。

家紋丸に三階菱釘抜　三菊

【綾氏】（姓）景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【綾垣氏】姓は淸原氏、天武天皇の皇子、舍人親王の後なり立家の祖を能通といふ。

【綾小路家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、此家號を稱へたるは雅頼に始まる。

【綾小路家】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、此家號を稱へたるは信有に始まる。信有の薨は後醍醐天皇の正中元年にあり。源雅信―時中―(六代略)―有資―信有(綾小路家)　家紋龍膽笹

【葦名氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、三浦氏の支流なり、立家の祖を盛宗といふ。相摸國三浦郡葦名を苗字の地とす。佐原義連―盛連―光盛(會津)―泰盛―政盛―盛宗(葦名氏)

【葦田氏】姓は清和源氏、源頼信の子、頼季(頼義の弟)より出づ、井上氏より分る、立家の祖を光遠といふ。信濃國佐久郡蘆田を苗字の地とす。

【葦敷氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政の後なり、立家の祖を重頼といふ。

【葦渡氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を貞義といふ。

【葦高氏】姓は村上源氏村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を長貞といふ。

【葦占氏】(姓)　孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【葦北氏】(姓)　孝靈天皇の皇子、吉備津彦命の後なり、敏達天皇の頃葦北日羅著はる。

【葦井稻置】(姓)　懿德天皇の皇子、武石彦奇友背命の後なり。

【飽浦氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇

子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る祖を胤泰といふ。

【飽間氏】姓は清和源氏、足利義康の後なり、其支族吉良氏より分る、立家の祖を治家といふ。

【鮎河氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融より出づ、松浦氏より分る。

【縣氏】(姓)神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【縣主氏】(姓)景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【饗場氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、土岐氏の支流なり、祖を光俊といふ。美濃國揖斐郡に相羽あり、これ恐らくは苗字の地か。

【藍原氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を孝遠といふ。武藏七黨の一なる横山黨に屬す、猶小野姓につきての疑は、小野氏の條下を見るべし。

【蘆田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を爲清といふ。

【蘆田氏】姓は清和源氏、佐々木義秀の後なり、備後國葦田を苗字の町とす。後蘆田に改む。家紋二雁金 裏向

義秀……重則—高彥—宗悟—常徹—利慶……

いの部

【一宮氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源

義光より出つ、武田氏より分る、立家の祖を信隆と云ふ。

【一條氏】　姓は清和源氏、源義光の後、武田氏より分る、立家の祖を信長といふ。

武田信義—信光—信長（一條）—信經—
　　　　　　　　　—時信—義行……

【一井氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、新田義重より出づ、立家の祖を貞政といふ。

【一井氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を家職といふ。

【一色氏】　姓は清和源氏、源義國の子、足利義康の後なり、立家の祖を公深といふ、これ足利時代に有名なる四職の一家なり。公深三河國幡豆郡、一色に住せしより在名を苗字の地とす。　家紋五七桐檜扇

泰氏—公深（一色）—範氏—詮範—滿範……

【一尾氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、もと、久我氏、立家の祖を通春といふ。豊後國一尾を苗字の地とす。　家紋笹龍膽車扇三地紙

三休（久我通堅の二男）通春—通尙—通定—通俊……

【一戸氏】　姓は清和源氏、武田氏の流、南部光行の子、行朝始めてこれを稱ふ。

【入交氏】　姓は嵯峨源氏、源融の後なり、家紋三星一なれば渡邊の族なるべし。

【入山氏】　姓は清和源氏源賴信の子、源賴清（賴義の弟）より出づ、村上氏の支流なり、立家の祖を基輔といふ。

【入野氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、今川氏より分る、立家の祖を俊平といふ。

【入江家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、この家號を稱へたるは定平を始めとす。

【入野屋氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼親(頼光の弟)より出づ、立家の祖を光治といふ。

【犬甘氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源頼光より出づ、立家の祖を安義といふ。

【犬飼氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、先祖信濃國犬飼邑に住せしより在名を苗字の地とす。家紋丸に石疊雪薺 清宗(櫻田の館に仕ふ)—清芳—清章—清元—清丈——

【犬上氏】(姓) 景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【犬塚氏】姓は桓武平氏、平良文の流、千葉常胤の後なり、千葉常久の男、胤宗、三河國幡豆郡、上犬塚村に住せしより犬塚を苗字の地とす。家紋丸に五七桐の花 九曜 丸に鳳文字 月に星

【今宮氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を永義といふ。家紋五本骨月扇

【今井氏】姓は清和源氏、新田義重の後なり。立家の祖を惟義といふ、家紋丸に釘拔 井桁 井桁 丸に

【今井氏】姓は清和源氏、義光の後なり。武田氏より分る、武田信滿の四男、信泰甲斐國今井村に住せしより在名を苗字の

地とす。家紋割菱花菱 信盛(家康に仕ふ)—則房—信盈
—信標—信壽……

【今井氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後、佐々木の庶流、高宮中務大輔信高の後胤、相撲守信經、近江國高島郡今井市城を領せしより今井に改む。

家紋 檜扇

【今西氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る。

【今岑氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を氏光といふ。

【今里氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼清頼義の弟)より出づ、村上氏より分る立家の祖を家國といふ。

【今川氏】姓は清和源氏、源義國の子、足利義康の後なり、立家の祖を國氏といふ。これ駿河に於げる有名なる今川氏なり、國氏の父長氏、三河國幡豆郡吉良庄今川村の地を食みしより苗字の地とす。家紋丸に引両筋五七花桐 足利義氏—長氏—國氏(今川)—
—基氏—國範—範氏—泰範—範政—
—範忠—義忠—氏親—義元—氏眞
—貞世……

【今城氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子、伊豫親王の後なり。祖を家敬といふ。家紋丸の内釘抜角切縮三木 丸の内橘丸の内五三桐 井筒

【今木氏】姓は三宅連、兒島高徳の一族、立家の祖を太郎範秀といふ、備前邑久郡今木(一に今城)を苗字の地とす。

【今木氏】(姓) 開化天皇の皇子、武豊葉

頰別命の後なり。

【今村氏】　姓は宇多源氏、佐々木定賴の子、高谷、尾張國今村城に住みしより苗字の地とす。正武は其末孫なり。　家紋丸に四目結

四目結　正武（常憲院殿に仕ふ）―正俊―正方―正友―正安―正章……

【今村氏】　姓は中原氏、安寧天皇の皇子、磯城津彥命の後なり、猶中原姓につきては、中原氏の條下を見るべし。

【今泉氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子、天足彥國押人命の後なり、祖を伊與僧都といふ。小野姓につき、小野氏の條下を參照せよ。

【今福氏】　姓は清和源氏、源義光の流なり、今福勝正の父、正明岩間家を嗣ぎ、岩間を稱し、勝正のとき今福に改む。　家紋丸に割菱　鎌打違 稻穗の丸

勝正―勝行―勝有―勝彰―勝如―勝已……

【今淵氏】　姓は宇多源氏、敦實親王の後、佐々木氏より出づ、將監某、陸奧國津輕郡今淵に住し、氏を今淵に改む。　家紋四目結

【今久保氏】　姓は桓武平氏、平忠盛の子、致盛の後なり、立家の祖を祐盛といふ。

【今大路氏】　姓は橘氏、始め宇多源氏、佐々木成賴の後裔、馬淵廣貞の三男、堀部成綱の八代を親眞とす。其男正盛、男正紹曲直瀨を稱し、男親清のとき禁裏より橘氏及び今大路の稱號を賜はる。　家紋四目結 五七桐

◉一に家紋傳に桐の紋は先祖親清に後陽成院の賜ふところなりと　笹龍膽

【五辻家】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇

子敦實親王の後なり、此家號は時方より始まれり。家紋龍膽笹

源雅信—時方五辻—仲舒—仲頼……

【五百藏氏】姓は桓武平氏、五百藏正清を祖とす。家紋丸に打違羽

【生野氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏の支流、岩山を稱せしが、のち外家の稱號生野に改む。家紋丸に結雁金裏菊

宗耶(万治年間の人)—眞齋—覺眞—克明—尙義……

【生島氏】姓は桓武平氏、平經盛の男、經正の嫡男、法印源勝後鳥羽院より攝津國生島庄を賜はりしより苗字の地とす。或は源勝の後胤、秀福生島に改むと。家紋揚羽蝶三ツ柏

【生江氏】(姓)孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【生津氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政滿仲の弟)の後なり、立家の祖を重助といふ。

【生田氏】姓は中原氏安寧天皇の皇子、磯城津彦命の後なり、立家の祖を經尙といふ。猶中原氏の條下を見よ。

【生葉氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子、舍人親王の後なり、資一を祖とす。

【生駒氏】もとは藤原氏、政久、宇多源氏、土田氏より入り繼ぐに及び、宇多源氏を稱ふ。これ生駒親正、一正等の家なり。

信正—親正—一正—正俊—高俊—親興……

【石塚氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ佐竹氏の支流なり、立家の

祖を宗義といふ。常陸國茨城郡石塚を苗字の地とす。家紋五本骨月扇

【石橋氏】姓は清和源氏、源義光の流なり、立家の祖を信繼といふ。

【石橋氏】姓は清和源氏、源頼義の子、義綱義家の弟)の後なり、立家の祖を盛俊といふ。

【石橋氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を定範といふ。

【石橋氏】姓は清和源氏、源義國義家の子)の子、足利義康より出づ、斯波氏より分る、立家の祖を棟義といふ。

【石垣氏】姓は清和源氏、足利義康の後なり、立家の祖を滿國といふ。

【石和氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を信光といふ。

【石川氏】(姓) 孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【石川氏】姓は清和源氏、源義家の子、義時これを稱す。これ石川家成、康道等の先祖なり。河内國、石川郷を領せしより苗字の地とす。家紋丸に笹龍膽 丸に三ツ蛇目

義時—義基…忠總—憲之…(伊勢龜山)
　　　　　　　忠總—總長…(常陸下館)

【石川氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、大掾氏より分る、立家の祖を家幹といふ。

【石川氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子、

天足彦國押人命の後なり、立家の祖を經長といふ。武藏七黨の一なる横山黨に屬す。猶小野姓につきての疑は、小野氏の條下を見るべし。

【石川氏】 姓は淸和源氏、源滿仲の子賴親(賴光の弟)より出づ、立家の祖を賴遠といふ。

【石河氏】 姓は淸和源氏、源滿仲の子、賴親の後なり、もと石川を稱へ、有光攝津國に住し柳津と稱し、後に石河と改む、其他の子孫皆石川を稱す。 家紋二鶴連

【石田氏】 (姓) 垂仁天皇の皇子、五十足彦命の後なり。

【石田氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を爲綱といふ。

【石田氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を長氏といふ。猶小野氏の條下を見よ。

【石塔氏】 姓は淸和源氏、源經基の子、滿季(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を慶秀といふ。

【石堂氏】 姓は淸和源氏、足利義康の後なり、立家の祖を賴茂といふ。 足利泰氏─

```
足利泰氏─┬賴茂─義房─┬義基─直房─賴忠……
         │           └賴房
```

【石坂氏】 姓は淸和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を久泰といふ。猶島津氏の出所につきては、島津氏の條下を見るべし。

【石坂氏】 姓は淸和源氏、源滿仲の五代、

多田頼綱の後裔なり、多田通長の男、森通之を稱す。

【石谷氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を慈房といふ。

【石城氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を安忠といふ、

【石木氏】　姓は清和源氏、源義光の流なり、武田信政の孫、信家を立家の祖とす。

【石濱氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を冬重といふ。

【石原氏】　姓は清和源氏、源義家の流、足利の支流、斯波の一族にして、三河國石原城主石原敎邑の後なり。　家紋三巴丸に二引　杏葉

【石黒氏】　姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後、橘諸兄の流なり、石黒光次今川義元臣の三代正仲、紀伊家の臣、久野丹波守に従ひ江戸に來る。　家紋七星蛇目

【石井家】　姓は桓武平氏、葛原親王の子、平高棟より出づ、西洞院家より分る、立家の祖を行豊といふ。行豊の薨は中御門天皇の正德三年にあり。　家紋丸の内揚羽蝶

【石毛氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、大椽氏より分る。

【石神氏】　姓は桓武平氏、平國香の後なり、大椽氏より分る、立家の祖を憲幹といふ。

【石龜氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、義光の流、南部氏の支庶なり。

【石鍋氏】　姓は清和源氏、源義光の流なり、立家の祖を信房といふ。

【石丸氏】姓は清和源氏、源爲義の後胤、一万田貞能攝津國豊島郡萱野の郷、石丸村に住せしより稱號とす、有忠はその後なり。家紋丸に揚羽蝶 丸に五七桐 抱澤瀉　有忠—有次—

—有定—定政—定次……

【石森氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を政教といふ。

【石島氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子、舍人親王の後なり、立家の祖を統廣といふ。

【石崎氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり。石川氏より分る。

【石崎氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子、伊豫親王の後なり、立家の祖を通賴といふ。猶越智氏の條下を見よ。

【石野氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、祖を氏貞といふ。氏貞播磨國石野に住せしにより在名を苗字の地とす。家紋三頭左巴 龍膽 三本松 龍膽丸の內若松 浮線綾の丸 七星

【石野氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子、磯城津彥命の後なり、立家の祖を良清といふ。遠江國山名郡石野村を苗字の地とす。家紋丸に横剣木瓜 雪松笹　勝良—義宗—廣長—

—廣吉—廣茂—長廣……

【石和田氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を光忠といふ。日下部氏につきての疑は、日下部氏の條下を見るべし。

【石母田氏】姓は清和源氏、石母田光賴陸

前國伊達郡石母田城に住せるを以て苗字の地とす。

【石城國造】（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【市原氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木より分る、立家の祖を員綱といふ。

【市村氏】姓は橘、敏達天皇の第八世の孫、橘兼光の後胤にして立家の祖を縫殿助定春と云ひ中納言實康に仕ふ。

【市川氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり。祖を昌忠といふ。甲斐國市川庄を苗字の地とす。 家紋丸に松皮菱

【市川氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を義胤といふ。

【市部氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を信久といふ。

【市田氏】姓は私市氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後、私市家盛より出づ、武藏七黨の一なる私市黨に屬す、立家の祖を保則といふ。

【市岡氏】姓は清和源氏、源爲義の流、木曾義仲の後胤なり、立家の祖を正則といふ。信濃國下伊奈郡市岡村を苗字の地とす。宗重は正則の男なり。 家紋五三桐二巴

忠吉（一に宗重に作る）―忠次―定次―定次……

【市橋氏】姓は清和源氏、源頼親の流なり、石川義重の弟、光治を立家の祖とす。

【市野瀬氏】姓は宇多源氏、佐々木經高男、彌太郎高重の男、相摸太郎兵衞尉信盛を

立家の祖とす。

【出雲氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を義清といふ。

【出庭氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【色川氏】姓は桓武平氏、平重盛の子平維盛の後なり。平氏滅亡の時、維盛逃れて紀伊熊野に至り、海に投して死すとなし、實は牟漏山中に隠れし後の子孫なりといふ。

【伊奈氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出つ、小笠原氏より分る、立家の祖を長綏といふ。

【伊奈氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木より分る、立家の祖を易次といふ。

【伊那氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）より出つ、立家の祖を爲扶といふ。信濃國伊那郡伊那を苗字の地とす。滿快―滿國―爲滿―爲公―爲扶（伊那）―

―公家……

【伊吹氏】姓は宇多源氏、佐々木秀氏（京極の祖、宗氏の二男、貞氏の男なり）の男、氏重、近江國淺井郡伊吹邑に住せしより在名を苗字の地とす。重治は其末孫なり。

家紋　丸に雪笹　四目結

【伊賀氏】（姓）垂仁天皇の皇子、於知別命の後なり。

【伊賀氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彦命

の後なり。

【伊賀氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子源賴光の後なり、立家の祖を光胤といふ。

【伊佐氏】 姓は宇多源氏、佐々木秀義の後なり、立家の祖を行綱といふ。近江國伊佐を苗字の地とす。

【伊作氏】 姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を忠長といふ。島津氏の條下を參照せよ。

【伊具氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、北條氏より分る。

【伊澤氏】 姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を信光といふ。信光、甲斐國伊澤鄕に住せしにより在名を苗字の地とす。 家紋 三菅笠 蔦 柏子木

【伊庭氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を實高といふ。

【伊庭氏】 同上、佐々木經房の男、伊庭行實の後胤なり。 家紋 四目結 三鱗 丸に三龜甲

豊祥(寛文頃の儒者)―清長―清盈―全丘―|

【伊北氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、上總氏より分る、立家の祖を常景といふ。

【伊南氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、上總氏より分る。

【伊坂氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、立家の祖を實直といふ。

【伊平氏】　姓は小野氏、孝元天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を親久といふ。武藏七黨の一なる横山黨に屬す。猶小野姓につきての疑は、小野氏の條下を見るべし。

【伊野氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木より分る。

【伊部氏】　（姓）孝元天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【伊勢氏】　姓は桓武平氏、平高望の玄孫、正度の後なり、立家の祖を盛光といふ、これ伊勢貞親等の家なり。　家紋向合蝶折入菱の紋◉蝶

は朱雀天皇より貞盛に賜はりし唐皮鎧の裾に向蝶の金具あるを以て家紋とすといふ　平貞盛―維衡―正度―季衡―盛光（伊勢）―盛行―頼宗―頼俊―俊經―盛繼―貞繼―貞信―貞行―貞國―貞親……
　　　└盛富

【伊勢平氏】　姓は桓武平氏、平貞盛の後なり、平正盛、忠盛等の族、伊賀伊勢の間に多く居住す、世にこれを伊勢平氏といふ。

【伊勢船木】　（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【伊集院氏】　姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を久兼といふ。猶島津氏の源流につきての疑は、島津氏の條下を見るべし。

【伊彌頭氏】　（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【伊賀水取氏】　（姓）孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【伊余國造】　（姓）神武天皇の皇子神八井

耳命の後なり。

【伊奈宇和別】（姓）景行天皇の皇子、國乳別命の後なり。

【糸原氏】姓は清和源氏、もと大導寺を稱へ、後糸原に改む。家紋三階左巴

正安（北條氏康に仕ふ）—重正—正勝—正純—正乘—

【糸井氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を湛勝といふ。猶日下部氏につきては、其條下を見るべし。

【印東氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、上總氏より分る。

【印波氏】（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【印南野氏】（姓）孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり。

【池氏】姓は桓武平氏、平忠盛の子、頼盛の稱へたる家號なり。

【池原氏】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり。

【池上氏】（姓）敏達天皇の皇孫、百濟王の後なり。

【池上氏】姓は良峰氏、桓武天皇の皇子、良峰安世より出づ、立家の祖を遠高といふ。

【池田氏】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり。

【池田氏】（姓）景行天皇の皇子、大碓命の後なり。

【池田氏】姓は清和源氏、源頼光より出

づ、土岐持益の長男、持兼池田を稱す。

家紋 鷹羽丸 揚羽蝶

【池田氏】 姓は清和源氏、源頼光の流頼政の後なり、頼龍の男、重利のとき外家の稱號を冒して池田に改む。 家紋 丸に桔梗 揚羽蝶

⦿蝶の紋は池田輝政より受くといふ

【池田氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を頼忠といふ。美濃國土岐郡池田を苗字の地とす。又徳川時代有名なる池田氏は其系圖によれば頼光五世の孫、瀧口泰政の後なりといふ。 家紋 揚羽蝶 五三桐

土岐光信—光基—光衡—光行—光定—

—頼貞—頼清—頼忠……

池田輝政—

—利隆—光政—

—綱政—繼政……（備前岡山）⦿家紋 輪蝶 祇園守 笹龍膽

—政吉—政倚……（同岡山）⦿家紋 唸蝶 笹龍膽

—輝録—政晴……（同天神山）⦿家紋 三蝶 三笹龍膽

—忠繼—光仲—綱清……（因幡鳥取）⦿家紋 揚羽蝶 祇園守 菊水

—仲澄……（同）⦿家紋 瓜内に蝶 祇園守 菊水

—清定……（同）⦿家紋 菊輪内蝶 祇園守 菊水

【池田氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を定信といふ。 家紋 丸に釘抜 蝶

定信……秀雄—秀氏—貞雄—貞嗣—

—貞高……

【池田氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、立家の祖を維實といふ。

【池尻氏】 姓は橘氏、楠正儀の後裔彦右衛門尉正治、河内國を沒落し、美濃國池尻に住す、依て在名を苗字の地とす、後織田氏の支族、梶川氏の家を嗣ぎ梶川を稱す正治男正信の子、彦右衛門正繁は池尻を稱す。

【池後氏】（姓） 孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり。

【池長氏】 姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を爲重といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。

【岩城氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、國香の後なり、立家の祖を則道といふ。世々岩城平に住せし氏族なり、此苗字は則道奥州へ左遷せられ岩城郡主たりしより在名を苗字の地とす。 家紋 角引両 五七桐 丸引両

平繁盛—則通（岩城）—清隆—重隆—親隆—
—常隆—貞隆—宣隆……（出羽龜田）

【岩城氏】 姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり。これ奥羽に有名なる清原氏の分派なり、立家の祖を武衡といふ。

【岩崎氏】 姓は清和源氏、岩堀房明嫡男房信の子、房德德川氏に仕ふ。

【岩崎氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、祖を隆久といふ。

【岩崎氏】 姓は清和源氏、源義光の流なり、武田氏より出つ、武田信義の後裔、信隆岩崎に改む。

【岩崎氏】 姓は清原氏、天武天皇の皇子

舍人親王より出つ、これ奥羽に有名なる清原氏の分派なり、立家の祖を貞俊といふ。

【岩井氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼親（頼光の弟）より出つ。

【岩間氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を基清といふ。

【岩間氏】　姓は清和源氏、源經基の子、滿快（滿仲の弟）の後なり、立家の祖を爲綱といふ。

【岩下氏】　姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、海野の族なりといふ猶滋野姓につきての疑は滋野氏の條下を見よ。　家紋丸に雪篠 九曜　家重（織田信蕃に仕ふ）—守胤—守久—幸滕……

【岩田氏】　姓は多治比氏宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を政光といふ。　武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【岩部氏】　姓は良峰氏、桓武天皇の皇子良峰安世より出つ、立家の祖を佐高といふ。

【岩倉家】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子具平親王より出つ、此家號を稱へたるは具起を始めとす。　これ明治維新の際有名なる岩倉具視の先祖なり、　具起の薨去は後西院天皇の時にあり。

家紋龍膽笹

【岩室氏】　姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を良次といふ。

【岩内氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後、北畠氏より分る。

【岩手氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を縄美といふ。縄美甲斐國山梨郡岩手郷に住し、信景のときより岩手を稱すと。家紋割菱

【岩松氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、立家の祖を時兼といふ。上野國新田庄岩松を苗字の地とす。畠山義純―時兼(岩松)―經兼―政經……

【岩山氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を秀信といふ。

【岩上氏】姓は宇多源氏、佐々木秀義の後京極宗氏の男秀信之を稱ふ。

【岩澤氏】姓は桓武平氏、平良文の流千葉常胤の後胤なり、祖を重政といふ。家紋丸に八重菊 丸に橘

【岩本氏】姓は清和源氏、源義光の流なり、先祖甲斐國巨摩郡岩下村に住せしより岩本と稱す、正次といふもの大納言頼宣に仕ふ。紋家五七桐 丸に三引 劍花菱

【岩出氏】岩手氏と同祖なり、信就のとき岩出に改むと。家紋花菱 葉菱

【岩波氏】姓は清和源氏、源義光の流、小笠原氏より分る、もと二木を稱し、後に岩波に改む。家紋三階菱 丸に九枚笹 五七桐 藤

延信（諏訪因幡守に仕ふ）—延幸—延壽……

【岩尾氏】大井氏と同祖なり、大井朝光の男、光長の二男、光泰の末葉にして信濃國大井庄岩尾を苗字の地とす　家紋 松皮菱 丸に劍三星

【的氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後、葛城襲津彦より出づ。

【的氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、猶小野氏の條下を見るべし。

【板垣氏】姓は清和源氏、源頼義の子、義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を兼信といふ。　武田信義—兼信（板垣）—頼重—頼兼—行頼……

【板倉氏】姓は清和源氏、源義國の子、足利義康の後なり、立家の祖を義顯といふ其後裔板倉勝重、重宗等著はる、上野澁川郷板倉村を苗字とす。　家紋 左巴三頭 九曜巴 菊巴 花菱

◉もと左巴三頭を用ひしに重宗父母、紋を汰用すべしとて外戚栗生家の紋九曜の中の星菊なりしを八星を巴に改め中の星をは菊としてこれを九曜巴と名附け代々家紋とす又菊巴は後水尾院より重宗に菊の紋を賜ふさいへども其まゝ用ひんことを憚り三巴の上に菊を畫きて用ふ花菱は東福門院より重宗に賜ふところの琵琶の袋花唐菱織なりしかばこれより其紋をもつて副紋とすといふ。

澁川義顯—板倉勝重—重宗—重郷—重常……（備中松山）◉家紋 前出
　　　　　　　　　重宗—重形—重倘……（上野安中）◉家紋 九曜巴 左巴三頭 花菱
　　　　　　　　　重昌—重矩—重良……（備中庭瀨）◉家紋 九曜巴 左巴三頭 鞠挾
　　　　　　　　　　　　重矩—重種……（陸奥福島）◉家紋 鞠挾 左巴三頭

【板橋氏】姓は桓武平氏、豊島康家の後なり、立家の祖を忠康といふ。　武藏國豊島郡板橋を苗字の地とす。　家紋 丸に三鱗 鐶の丸

忠康（一に盛安、北條氏直に任ふ）―忠政―政重―政郡……

【泉氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快の後なり、立家の祖を公衡といふ。

滿快―（三代畧）―爲扶（伊那）―（四代畧）―
｜公衡（泉）―親衡―滿衡……

【泉氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を義季といふ、此苗字は、和泉氏と同一なるべし。

【泉氏】姓は高階氏天武天皇の皇子高市親王の後なり、立家の祖を惟倭といふ。

【泉氏】姓は清和源氏源經基の子、滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を重滿といふ。

【和泉氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を義季といふ。

【泉出氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、奥州斯波氏より分る、立家の祖を兼義といふ。

【泉田氏】姓は在原氏、天武天皇の皇子阿保親王の後なり。

【家城氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を義氏といふ。

【家田氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫、武内宿禰より出づ、石清水の神主、紀氏の分れなり。

【乾氏】姓は清和源氏、源頼光の流なり、土岐頼貞四男道謙を祖とす。

【乾氏】姓は宇多源氏、佐々木氏より

分る、立家の祖を行範といふ。

【揖斐氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、賴光の後なり、祖を賴雄といふ、美濃國揖斐郡を苗字の地とす。家紋桔梗黑餅

【幾井氏】姓は桓武平氏、平忠盛の後門脇敎經の末流なり、內藏之助盛重之を稱ふ。

【壹岐氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を氏綱といふ。

【壹師氏】(姓) 孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり。

【碇山氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を祐久といふ。猶島津氏の條下を見るべし。

【飯間氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ。立家の祖を實信といふ。

【飯倉氏】姓は清和源氏、源滿仲の子源賴光より出で、立家の祖を長兼といふ。

【飯高氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を秀重といふ。

【飯高氏】(姓) 壹師と同祖、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり。

【飯高氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を政胤といふ。

【飯田氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を爲實といふ。信濃守爲公信濃國伊那郡飯田に任せしより伊那を稱し、爲實のとき飯

田に改む宅重はその末孫なり。

家紋丸に一本竹

宅重（織田信雄に仕ふ）—宅次—武住（この家尾張大納言義直卿に附屬せらる）

【飯田氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼清（頼義の弟）より出づ、村上氏より分る立家の祖を義基といふ。

【飯田氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、道次を祖とす、

【飯田氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ逸見氏より分る。逸見有次のとき本領の地甲斐國飯田を苗字の地とす。家紋割菱花菱

【飯沼氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快の後なり、立家の祖を行俊といふ。信濃國伊那郡飯沼を苗字の地とす。

【飯島氏】姓は清和源氏、源頼清の流なり。家紋丸に揚羽蝶九曜

忠貞（寛永頃の人）—忠廣—忠陸—忠豊……

【飯島氏】姓は清和源氏、源滿快（滿仲の弟）の後なり、立家の祖を爲綱とす。

【飯澤氏】姓は清和源氏、源頼義の子、義光の後なり、立家の祖を朝信といふ。

【飯富氏】姓は清和源氏、源義家の子、義忠より出づ、立家の祖を忠宗といふ。

【飯豊氏】姓は清和源氏、源滿仲の子源頼光の後なり、立家の祖を氏昌といふ。

【飯谷氏】姓は多宇源氏、宇多天皇の皇子敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を玄曉といふ。

【飯塚氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を氏行といふ。武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。猶小野姓につきての疑は、小野氏の條下を見よ。

【飯塚氏】姓は桓武平氏、畠山重能の三男男衾重宗の後胤なり、立家の祖を重世といふ、武藏國秩父郡飯塚を苗字の地とす。　家紋違柏の葉　九曜

重世……泰貞―貞重（佐野昌綱に屬す）
綱重―忠重―正重―重治……

【飯塚氏】姓は清和源氏、源義光の流、秋山光朝の庶流にして後に飯塚を稱す。　家紋糸輪の内二重龜甲花菱　蔦丸

長和―長猶―長隆―光長―矩永……

【飯室氏】姓は清和源氏、源義光の流なり、逸見義成、甲斐國八代郡淺利に住せしより淺利を稱し、其末孫義宗の男義昌のとき同國飯室郷に住せしより在名を苗字の地とす。　家紋丸に五本骨扇　花菱　鶴

【飯尾氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、北畠氏より分る、立家の祖を宗通といふ。

【稻澤氏】姓は清和源氏、源義家の子、義忠より出づ、立家の祖を盛經とす。

【稻垣氏】姓は清和源氏、源義光の庶流なり、大内氏（義信を祖とす）より分る、後竹内に改め、正滔のとき外家の號稻垣を稱すと。　家紋五葉茗荷　三花菱

正滔―正矩―正元―正義―正憲……

【稲葉氏】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【稲葉氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通富といふ、これ稲葉一鐵等の先祖なり、美濃國稲葉山を苗字の地とす。家紋角折敷に三文字桐
◉桐は織田信長より賜はるといふ

稲葉通叅―通祐……義通（一鉄）……（豊後臼杵）◉家紋前出
通村……正通―正知……（山城淀）◉家紋に三文字　折敷の内二篠丸
正員……（安房舘山）◉家紋に三文字　折敷の内三篠丸

【稲毛氏】姓は清和源氏、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を義清といふ。

【稲毛氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、畠山氏より分る、立家の祖を重成とふ、武藏稲毛を苗字の地とす。
秩父重弘―有重（小山田）―重成（稲毛）……
―重政

【稲津氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を光家といふ。猶日下部氏の條下を見るべし。

【稲守氏】姓は清和源氏、源義隆の流なり。家紋稲穗の內抱澤瀉矢筈車　俊正（家康に仕ふ）―實榮……

【稲熊氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、立家の祖を康宿といふ。
……定當―榮正……

【稻度氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、立家の祖を實成とす

【稻野氏】　姓は橘氏、橘諸兄の流、若林直隆の後胤、海老江元喜三男、隆正外家の號稻野に改む。

【稻墻氏】　姓は清和源氏、稻垣三郎重泰の後孫藤助重賢を祖とす。

【稻木氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、土岐氏より分る、立家の祖を光名といふ。

【稻木氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を義貞といふ。

【稻木別】　（姓）　垂仁天皇の皇子、大中津日子命の後なり。

【稻置壬生氏】　（姓）　垂仁天皇の皇子、鐸石別命の後なり。

【磯部氏】　（姓）　仲哀天皇の皇子、譽屋別命の後なり。

【磯部氏】　姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を家俊といふ。　猶日下部姓につきては、日下部氏の條下を見るべし。

【磯部氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木の支流なり立家の祖を秀忠といふ。　家紋五七桐に一文字丸に三目結

秀忠……盛利―盛副―盛安―盛恭―盛中……

【盧原氏】　（姓）孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり。　家紋三頭右巴鶺鴒

【櫟井氏】　（姓）　孝昭天皇の皇子、天足彦

國押人命の後なり。

うの部

【上田氏】 姓は清和姓氏、源頼義の子、頼義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を實定といふ。

【上田氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を定資といふ。

【上野氏】 姓は清和源氏、源義光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を盛長といふ。

【上野氏】 姓は清和源氏、源義家の子、源義隆より出づ、祖を朝氏といふ。

【上野氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、立家の祖を義辯といふ。

【上野氏】 姓は清和源氏、源頼信の子源頼清より出づ、村上氏の支流なり、立家の祖を康宗といふ。 家紋正七桐丸の内二引

【上原氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を家景といふ。

【上神氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、立家の祖を直行といふ。

【上坂氏】 姓は桓武平氏、平良文の流、梶原景時より出づ、江州長濱城主上坂泰貞より系現はる。 家紋九星 左萬字

【上杉氏】 姓は清和源氏、足利義康の流畠山義春、上杉謙信の養子となり上杉を

稱し、のち畠山に復せしも二男長員は猶上杉を稱す。　家紋竹の丸に両飛雀 菊桐

【牛田氏】　姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、祖を吉清といふ。

【牛田氏】　姓は清和源氏、源滿季の流なり、もと平井を稱し、茂氏のとき下總國牛田村に住せしより在名を苗字の地とす

家紋五七桐 十一菱

【牛袋氏】　姓は桓武平氏、平良文の流、千葉常胤の三男武石盛胤五男胤祐の後なり。　家紋九曜

【牛窪氏】　姓は清和源氏、源滿政の流、牛窪六騎の一人能勢丹波守信景の後なり

家紋丸輪 横木瓜内花菱 又葉を附けたる切竹

【牛奥氏】　姓は清和源氏、源義光の後武田氏の支流なり。　始め三枝を稱し、兵部左衞門某、信玄に仕へ、甲斐國牛奥庄を領せしより苗字の地とす。　家紋丸に二引 丸に三蓋松

【牛澤氏】　姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重の後なり、立家の祖を重基といふ。

【牛屋氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を家行といふ。

【内氏】　(姓)　孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【内島氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天照彦國押人命の後なり、立家の祖を盛經といふ、武藏七黨の一なる猪股黨に屬

す、猶小野姓につきての疑は、小野氏の條下を見るべし。

【内村氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を長實といふ。

【内谷氏】　姓は清和源氏、源義家より出づ、立家の祖を希義の子源智といふ。

【内山氏】　姓は清和源氏、源義光の流、加賀美遠光の後胤、大井長明四代の孫永康信濃國佐久郡内山鄕に住せしより在名を苗字の地とす。　家紋松皮（一に松皮菱）丸に三頭合三階菱　唐花菱　丸

【内崎氏】　姓は清和源氏、足利義康の流斯波高經の後なり、祖を兼宣といふ。

家紋五三桐丸に二引

【内堀氏】　姓は清和源氏、源滿快の後なり、はじめ諏訪を稱し、後近江内堀に住し堀内に改む。　家紋梶葉

【打越氏】　姓は清和源氏、小笠原長清七男、大井朝光十一代宮内氏光出羽國由利郡打越鄕に住し在名を苗字の地とす。

家紋松皮菱　丸に一文字三星　◉三星は光隆戰場に於てこの紋の幕を分捕せるにより用ふ

【打越氏】　同上、打越光隆の二男、光種の後裔光輪のとき打越に改む。　家紋十の字三階菱

丸に一文字三星　松皮菱

【瓜生氏】　姓は嵯峨源氏、渡邊氏の支流ならんと博士栗田寛氏の說なり。

【臼井氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常安といふ。

【臼井氏】　姓は桓武平氏、織田信長の一族、臼井護常の後なり。　家紋丸の内無劍梅鉢　丸の内玉の字

【宇川氏】　姓は清和源氏、源頼親の流なり、大森茂治の子、頼行を立家の祖とす。

【宇太氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【宇田氏】　姓は清和源氏、源満仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を康任といふ。

【宇多氏】　姓は宇多源氏、佐々木高則の後裔、宇多高之の後、良茂に至り徳川氏に召出さる。　家紋丸に三引五三桐

【宇久氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり。　武田信義の末流にして五島氏の先、これを稱す。

【宇治氏】　姓は阿蘇氏、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。　これ阿蘇氏の本流にして、世々阿蘇大宮司たり。

【宇野氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子具平親王より出づ、赤松氏より分る、立家の祖を爲助といふ。

【宇田川氏】　姓は清和源氏、宇田川忠良といふもの三河國に居住、後大和國宇陀郡に移住して宇陀川と稱し、のち宇田川に改む。　家紋丸内十五枚笹石持橘

【宇野氏】　姓は清和源氏、源満仲の子、源頼親（頼光の弟）より出づ、立家の祖を頼治といふ。　満仲―頼親―頼房―頼俊―頼治
（宇野）―親弘―親治……

【宇宿氏】　姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を忠秀といふ、島津氏につきては、島津氏の條下を見るべし

【宇自可氏】　（姓）　孝靈天皇の皇子、彦狹島

命の後なり。

【宇賀野氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を高雅といふ。

【宇留野氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を義長といふ。　家紋五本骨月扇

【宇野瀬氏】姓は宇多源氏、佐々木氏より出づ、市野瀬兼綱三男、宇左衛門貞兼を立家の祖とす。

【宇津木氏】姓は桓武平氏、子高望の子、平良文の後なり。

【宇都宮氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を貞高といふ。

【宇多源氏】(姓)宇多天皇の皇子、齋世親王敦慶親王、敦實親王等の孫源姓を賜はるこれを他源氏と區別せんがために、宇多源氏といふ。以上の内、敦實親王の流、最も盛んにして佐々木氏の族殊に著はる

【味酒氏】(姓)孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後、巨勢氏の流なり。

【浦氏】姓は桓武平氏、平良文の流、土肥實平の後裔なり、立家の祖を氏實といふ。安藝國豊田郡浦郷に住せしを以て苗字の地とす。

【浦上氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命のなり、立家の祖を行義といふ一説には浦上氏は蝦夷族より出でしもなるべしと。　家紋瓜の内二引八本骨檜扇

【浦野氏】 姓は清和源氏、源經基の子、滿政(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を重遠といふ。信濃國浦野庄を苗字の地とす。
家紋上り藤稻穗 重遠—重義—重數…重政—
重次—重行—重展……

【浦野氏】 姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を貞信といふ、猶滋野姓につきての疑は、其條下を見るべし。

【海上氏】 姓は桓武平氏、平良文の流、千葉胤直の後なり。下總國海上郡を苗字の地とす。 家紋月に九星九星紋

【海上氏】(姓) 敏達天皇の皇孫百濟王の後なり。

【海野氏】 姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を廣通といふ。猶滋野姓につきての疑は其條下を見るべし。 家紋六連錢一雁金 滋野善淵—滋氏—
爲寅—爲通—則廣—重道—廣通(海野)—
幸恒—幸明……

【茨木氏】 崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なり。

【浮穴氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を爲時といふ。猶越智姓につきての疑は、その條下を見るべし。

【浮田國造】(姓) 崇神天皇の皇子豐城入彦命の後なり。

【梅林氏】 姓は清和弟氏、源經基の子、源滿季(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を景綱

といふ。

【梅戸氏】姓は宇多源氏、佐々木氏より出づ、實頼の弟右近太夫高實を祖とす。

【梅戸氏】姓は、清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり。

【梅溪家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ。この家號を稱へたるは季通を以て始めとす。季通の薨去は、後西院天皇の萬治元年にあり。

家紋 龍膽笹

【堆橋氏】姓は清和源氏、源義光の後なり、小笠原泰清十三代泰伴埋橋を稱し、後堆橋に改む、　家紋 丸の内釘貫 五三桐

【植田氏】姓は清和源氏、源滿政の流なり、立家の祖を輔頼といふ。

【植村氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、土岐氏より分る、祖を持益といふ。此苗字は、持益遠江國上村に住みしより上村を稱し、其植村に改む。

家紋 丸に一文字割桔梗 五七桐 桔梗 ◉家傳に廣忠卿のとき當家は武功隨一のものなれば一文字を家紋とせよとの仰を蒙り桔梗の半を省きて一文字を加へしと

土岐光信……持益(植村)—氏義……家次—家政—家直—家言……(大和高取)

【植木氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を信快といふ。

【植松家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を雅永といふ。雅永の薨去は寶暦四年なり。

家紋 龍膽笹

【魚返氏】姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ。立家の祖を成秀といふ。

【漆戸氏】姓は淸和源氏、源義光の後、武田の支流なり、小佐手某三代の孫信安信玄に仕へ命により漆戸と改む。

家紋輪寶万字　◉輪寶万字の紋は信玄より與へらる

【潮田氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、立家の祖二あり、一を實高といひ、一を實元といふ。武藏國橘樹郡潮田を苗字の地とす。

【潤野氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を盛常といふ。

【薄雲家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子具平親王より出づ。此家號を稱へたるは雅兼を以て始めとす。

【鵜飼氏】姓は後嵯峨源氏、源重國廿四代安中忠淸の三男、忠房伊賀國に仕し、鵜飼五郎左衛門茂政と號す、政長は其後裔なり。家紋丸に一文字五三桐

えの部

【江氏】（姓）神武天皇の皇子、彥八井耳命の後なり。

【江沼氏】（姓）孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【江沼氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を秀重といふ。

【江馬氏】姓は桓武平氏、平國香の後な

り、北條義時の子、朝時より出づ。朝時の子、光時始めてこれを稱ふ。家紋丸の内三鱗 花菱 三本傘

【江那氏】姓は清和源氏、源滿政の流なり、中津爲衡の弟、爲快を立家の祖とす。

【江見氏】姓は村上源氏、具平親王の後なり、赤松頼則の後裔、範資三男宇野と稱し、景俊に至り江見に改む。家紋海老 巴 三

【江田氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重の後なり、立家の祖を滿氏といふ。上野國新田郡江田村を苗字の地とす。徳川義季—頼氏(世良田)—滿氏(江田)—義氏—行氏……

【江草氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を信泰といふ。

【江戸氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重繼といふ。武藏國江戸を苗字の地とす。平忠頼—將恒—武基—武綱—重綱—重繼(江戸)—重長—忠重……

【江川氏】傳へいふ、江川の先祖は、大和源氏、宇野親治が後胤なりと。(宇野氏は源滿仲の子、源頼親の後なり)。英治より系現はる、英元(或は英信)のとき江川に改む。家紋井桁に十六葉の菊 五三桐に二引 ◉家傳に東照宮伊豆國北條郷に放鷹の節太郎左衞門英長江川酒及白餅を献せしかば汝か井の水清くして酒を造るに適せり養老酒ともいふべしとて野菊なりて賜ひければこれより家紋とすと

【江崎氏】姓は清和源氏、もと土岐の氏族にして、美濃國一色を領し、始めて氏を一色といふ。藏人頼昌の時、美濃國江崎に居りて氏を江崎と改む。

【江刈内氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後

佐々木氏より出づといふ。政右衛門某陸中國岩手郡江刈内村に住し、在名を苗字の地とす。家紋六瓜の内に四目結

【江見川原氏】姓は村上源氏、具平親王より出づ、宇野爲頼の弟又二郎景俊を立家の祖とす。

【荏原氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を政氏といふ。猶小野氏の條下を見よ、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【海老名氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、爲平親王の後なり、立家の祖を季兼といふ。上海老名下海老名の二に分る。

【海老名氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を季貞といふ。猶小野氏の條下を見よ、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。苗字の地を相摸高座郡海老名庄とす。

【越前家松平氏】姓は淸和源氏、徳川家康の子、結城秀康、越前に封せられ、子孫繁榮す

結城秀康
- 忠直—光長—宣富…(美作津山) ◉家紋 葵車 三葵
- 忠昌—光通—昌親…(越前福井) ◉家紋 ‥‥
  - 光通—直堅…(越後糸魚川) ◉家紋 葵車 三葵 五三桐
- 直政—綱隆—綱近…(出雲松江) ◉家紋 葵車 三葵
  - 直政—近榮—近時…(同廣瀨) ◉家紋 葵車 三葵 五三桐
  - 直政—隆政—直丘…(同母里) ◉家紋 同前
- 直基—直矩—基知…(武藏河越) ◉家紋 葵車 三葵
- 直良—直明—直常…(播磨明石) ◉家紋 同前

【榎下氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦

太忍信命の孫、武内宿禰の後なり、立家の祖を重望といふ。

【榎社氏】姓は良岑氏、桓武天皇の皇子良岑安世の後なり、立家の祖を眞長といふ。

【頴谷氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を基秀といふ。

【擇田氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を重兼といふ。猶小野氏の條下を見よ、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【鹽冶氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を高貞といふ。出雲國簸川郡鹽冶郷を苗字の地とす。

おの部

【大山氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る。立家の祖を義孝といふ。

【大山氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木より分る。立家の祖を景家といふ。これ薩摩大山の祖なり。

【大内氏】姓は清和源氏、源義光の流なり。立家の祖を義信といふ。伊賀國大内郷を苗字の地とす。平賀盛義─義信(大内)─惟義─惟信……

【大内氏】姓は清和源氏、源義光の後、佐竹氏の族なり。立家の祖を義高といふ

【大内氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子

伊豫親王の後なり。猶越智氏の條下を見るべし。

【大友氏】（姓）弘文天皇の皇子、與多王より出づ。これ六歌仙の一人、大友黑主の先祖なり。

【大友氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る。立家の祖を實秀といふ。

【大井氏】姓は清和源氏、源義光の後なり。小笠原氏より分る。立家の祖を朝光（小笠原長清七男）といふ。家紋松皮菱

【大井氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり。立家の祖を長義といふ。

【大井氏】姓は清和源氏、源義光の流なり、武田信玄の三男信明甲斐國大井庄を領するにより在名を苗字の地とす。家紋三頭左巴花菱

【大井氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり。立家の祖を家綱といふ

【大井氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫、武內宿禰より出づ。立家の祖を實春といふ。

【大井氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子、伊豫皇子の後なり。猶越智氏の條下を見るべし。

【大井田氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【大井田氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子新田義重の後なり。立家の祖を

義繼といふ。里見義俊—義成—義繼(大井田)—氏繼……

【大月氏】姓は桓武平氏平良文の流、畠山重忠の後、立家の祖を十二代の孫、隼之助景世といふ、朝倉義景に仕ふ。

【大分氏】(姓)神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【大戸氏】(姓)孝元天皇の皇子大彦命の後なり。

【大木氏】姓は清和源氏、足利義康の後なり。立家の祖を政義といふ。

【大平島氏】姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。立家の祖を資信といふ。

【大中川氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり。立家の祖を賴定といふ

【大石氏】姓は村上源氏、具平親王の後なり。赤松氏より分る。立家の祖を行村といふ。

【大石氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【大平氏】姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王の後なり。立家の祖を惟行といふ。

【大田氏】(姓)應神天皇の皇子根鳥皇子の後なり。

【大田氏】(姓)景行天皇の皇子大碓命の後なり。

【大田氏】姓は清和源氏、源賴光の後なり。立家の祖を廣綱といふ。

【大田氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子新田義重の後なり。立家の祖を義宗といふ。

【大田原氏】姓は丹治比氏、宣化天皇の皇子上殖葉皇子の後なり。先祖忠清（文中元年死す）武藏國阿保に住し始めて大俵を稱し資清のとき文字を大田原に改むといふ。

家紋　朧月　輪の内釘抜　九曜　五三桐

忠清…資清―繼清―晴清―政清…高清……

【大田別氏】（姓）景行天皇の皇子、豐門入彦命の後なり。

【大矢氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり。立家の祖を致經といふ。

【大甘氏】姓は清和源氏、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を敦義といふ。

【大寺氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親（賴光の弟）の後なり。立家の祖を光治といふ。

【大宅氏】（姓）敏達天皇の皇子、難波王の後なり。

【大宅氏】（姓）孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり。

【大竹氏】姓は清和源氏、源義國の後にして畠山の一族なり、左衞門佐冬重の子重信のとき、武田兵部大輔某より大武の家號を與へられ、のち大竹に改む。

家紋　花菱　田菱　武　◎冬重より以前は小紋村濃を用ひ重信のとき武田兵部大輔某より大武の家號及び丸に割菱の紋を與へられ之を用ふ

【大竹氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり。祖を賴衡といふ。

【大多和氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり三浦氏より分る。立家の祖を義久といふ。

【大多和氏】 姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王の後なり。立家の祖を定義といふ。

【大阪氏】 （姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【大坂氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後、北畠氏より分る。

【大町氏】 姓は清和源氏、源經基の子、滿季（滿仲の弟）の後なり。立家の祖を助繼といふ。

【大村氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子具平親王より出づ。赤松氏より分る。立家の祖を盛勝といふ。

【大里氏】 姓は在原氏、平城天皇の皇子阿保親王の後なり。立家の祖を行昌といふ。

【大谷氏】 姓は桓武平氏、平貞盛の孫、大谷盛胤より出づ。これ大谷吉隆の先祖なり。

【大串氏】 姓は小野氏、天足彦國押人命の後なり。立家の祖を孝保といふ。武藏七黨の一なる横山黨に屬す。猶小野氏の條下を見るべし。

【大佛氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、北條氏より分る。立家の

祖を朝直といふ。北條時房—朝直（大佛）—宗宣—維貞—家時
—宗泰—貞直

【大私部氏】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【大岡氏】姓は清和源氏、大島義繼の男大井田氏繼の後介宗（一に助宗）三河國大岡明神の祀職大岡忠喜の婿となり、姓を藤原に改め大岡を稱し、備前守清相のとき、清和源氏に復す。　家紋（丸に三ツ稻丸、裏蔦）

【大林氏】姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。　立家の祖を重長といふ。

【大板氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり。　立家の祖を貞數といふ。

【大武氏】姓は清和源氏、源義光の流、眞里谷信胤の後胤、源左衛門信昌より出づ、　家紋（丸の内花菱、割菱）

【大坪氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ。　立家の祖を大夫房といふ。

【大河原氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり。　立家の祖を時季といふ。　武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【大河戸氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、三浦氏より分る。　立家の祖を重澄といふ。

【大河野氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇

子、源融より出づ。松浦氏の支流なり。

【大河氏】姓は清和源氏、源頼光の後なり、大河内秀綱の末男忠綱、井戸重綱の蹟を繼ぎのちまた大河内に復す。家紋三連蝶

十六葉小菊 五本骨三扇の丸　忠綱…朝綱―信就―信政―信進―信順……

【大河内氏】姓は清和源氏、源頼光の後なり。立家の祖を兼綱の男顯綱といふ。三河國額田郡大河内鄕を苗字の地とす。家紋浮線綾蝶⦿正綱信綱に至り三つ扇に改む

【大河内氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり。祖を將則といふ

【大河内家】姓は村上源氏、具平親王より出づ。この家號を稱へたるは、顯雅を以て始めとす。北畠親房―顯能―顯泰―顯雅(大河内)

【大和田氏】姓は桓武平氏、平良文の流和田義盛の末裔清廣を祖とす。奥州岩城村大和田を苗字の地とす。

【大畑氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、頼光の後なり、土岐氏より分る。立家の祖を定近といふ。

【大泉氏】姓は桓武平氏、平國香の後なり。

【大屋氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり。立家の祖を政信といふ。家紋丸に釘拔 五三の裏桐　政信……

重昌福島正則に屬す……昌任―明薫―明矩……

【大津氏】姓は清和源氏、源義光の後な

り、武田氏より分る。立家の祖を滿春といふ。

【大春日氏】（姓）孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり。

【大相模氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり。

【大島氏】姓は清和源氏、源滿快の後なり。立家の祖を宗綱といふ。

【大島氏】姓は清和源氏、新田義重の後なり。立家の祖は大井田氏と同じく義繼なり。家紋梅の折枝連の揚羽蝶 三

【大島氏】姓は清和源氏、源頼光の後なり。立家の祖を光吉といふ。

【大島氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を有久といふ。猶島津氏の條下を見るべし。

【大家氏】（姓）孝天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。紀角宿禰より出づ。

【大家氏】楠氏族、大家惟正の家なり。

【大桑氏】姓は清和源氏、源義光の後なり。立家の祖を重氏といふ。

【大桑氏】姓は清和源氏、源頼光の後なり。立家の祖を定頼といふ。

【大庭氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり。立家の祖を景村（平安時代末期の人相摸國高座郡大庭庄を苗字の地とす。

平良文―忠通―景村―景明―景宗―景親……

【大宮氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり。立家の祖を胤景といふ。

【大神氏】姓は豐原氏、天武天皇の皇子

大津皇子より出づ。立家の祖を爲遠といふ。

【大倉氏】姓は清和源氏、源義光の後なり。立家の祖を長隆といふ。

【大原氏】(姓)敏達天皇の皇孫百濟王の後なり。

【大原氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子敦實親王より出づ。佐々木信綱五代大原時親の後にして、先祖近江國甲賀郡に住して村山を稱し、のち大原に復すと尊卑分脈には佐々木信綱の子重綱を祖とすとあり。家紋丸に横木瓜 丸に二引兩

【大原家】姓は宇多源氏、全上敦實親王の後なり。この家號を稱へたるは榮顯を以て始めとす。榮顯の卒は中御門天皇の享保八年にあり。家紋龍膽笹

【大高氏】姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王の後なり。立家の祖を惟頼といふ。

【大高氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫親王より出づ。立家の祖を時通といふ。猶越智氏の條下を見るべし。

【大高坂氏】姓は桓武平氏、平貞盛の後平田經遠の庶子、經興を祖とす。土佐國國澤郷大高坂山を苗字の地とす。

【大草松平氏】姓は清和源氏、松平信光の子光重の流なり。三河國渥美郡大草に住せしによりこの號あり。松平氏を參照すべし。家紋丸に劍菱

松平信光—光重—昌安—親光—三光……

【大鳥氏】姓は清和源氏源頼義の子、源義光より出づ。立家の祖を義成といふ

【大貫氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり。立家の祖を長兼といふ。武藏七黨の一なる横山黨に屬す。猶小野氏の條下を見るべし。

【大貫氏】姓は桓武平氏、千葉常胤の後胤、四郎胤時下總國香取郡大貫村に住み在名を苗字の地とす。家紋三つ花輪違三つ輪

【大野氏】（姓）崇神天皇の皇子、豐城入彦命四世の孫、大荒田別命より出づ。

【大野氏】姓は綾氏、景行天皇の後なり立家の祖を有高といふ。

【大野氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼親の後なり。立家の祖を頼重といふ

【大野氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり。立家の祖を久經といふ。猶島津氏につきての疑は、島津氏の條下を見るべし。

【大野氏】姓は桓武平氏、平高望の子平國香の後なり。祖を光幹といふ。

【大野氏】姓は嵯峨源氏、松浦氏の支流なり。

【大野木氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ。佐々木高綱の後胤高盛江州大野木城に居住、大野木を稱す。家紋丸の内立四目八重桔梗

【大野木氏】姓は橘氏、橘諸兄の流、淺井忠政三男、新八郎秀國男、土佐守秀俊を祖とす。

【大鳥膳氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彦命の後膳氏の族なり。

【大崎氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康より出づ、斯波家氏の後なり。立家の祖を家兼といふ。下總國大崎を苗字の地とす。

【大椎氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり。立家の祖を維常といふ。

【大森氏】姓は清和源氏、源頼親の後なり。立家の祖を茂治といふ。家紋丸に銀杏葉三枚

【大隈氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり。立家の祖を善春といふ。

【大須氏】姓は清和源氏、源頼光の後なり。立家の祖を頼兼といふ。

【大須賀氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり。立家の祖を胤信といふ

【大給松平氏】姓は清和源氏松平親忠の二男乘元の流なり。三河國加茂郡大給を苗字の地とす。松平氏を參照すべし。

松平親忠—乘元—乘正—

—乘勝—親乘—直乘—

—家乘—乘壽—乘久……（三河西尾）◉家紋 蔦 一葉葵

◉家傳にもと丸に三葵なりしが家乘のとき憚りてこの紋に改む出仕のときは一葉葵を用ひず乘完にいたりて乞ふ所ありて營中にても彼の紋を用ふるを憚からずと

—乘政（美濃岩村）◉家紋 細輪に蔦 ◉乘政石川と稱へし時丸に三笹を用ひしが男乘紀の時松平に復しこの紋を用ふと

—直次—乘次—乘成……（三河奥殿）◉家紋 蔦 萬字

—親清—近正—一生……（豐後府内）◉家紋 九曜 丸に釘拔

◎始めは蔦葉を用ひたるも右近將監義重上洛の供奉せしとき宗家の幕紋に嫌あるにより丸に釘抜に改むと

【大新田氏】　姓は清和源氏、源義國義家の子)の子新田義重の後なり。　義俊これを稱ふ。

【大藏氏】　姓は清和源氏、源義光の後なり、小笠原氏より分る。　立家の祖を清隆といふ。

【大藏氏】　姓は桓武平氏、平良文の後なり。　立家の祖を恒宗といふ。

【大窪氏】　姓は桓武平氏、平國香の後なり。

【大窪氏】　姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり。　立家の祖を時清といふ。　武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【大窪氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり。　立家の祖を重村といふ。

【大窪氏】　姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり。　立家の祖を家俊といふ。

【大熊氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり。　佐々木氏より分る。　立家の祖を氏貞といふ。

【大網氏】　(姓)崇神天皇の皇子、豐城入彥命の後なり。

【大葦原氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良將より出づ。　立家の祖を將平といふ。

【大幡氏】　姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏より分る。　立家の祖を時光といふ。

【大槻氏】姓は清和源氏、源頼信の子、頼季(頼義の弟)の後なり、井上氏より分る。立家の祖を遠光といふ。

【大館氏】姓は清和源氏、新田義重の後なり。立家の祖を家氏といふ。上野國新田郡大館村を苗字の地とす。

新田義重―義兼―義房―政義―家氏(大館)

家氏―氏明―義冬―氏信……

【大澤氏】姓は清和源氏、源頼義子、源義光の後なり、佐竹氏より分る。立家の祖を義尚といふ。

【大澤氏】姓は宇多源氏、敦實親王九代の後裔、佐々木定綱の後、恭綱長男忠綱、三河國渥美郡大澤に居住し、在名を苗字の地とす。家紋 蛇目 二つ大文字 釘抜 九曜

【大橋氏】姓は文德源氏、文德天皇第七の皇子、源能有の後なり。能有十代孫康季河内國坂戸牧を領して坂戸と號す、之を坂戸源氏といふ。後大橋に改む。家紋 琺瑁の内三笠松 五三桐 康季―重治(三好長慶に屬す)

重慶―重保―重政―重好―重尙……

【大關氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり。立家の祖を重行といふ。

【大關氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子上殖葉皇子の後なり。立家の祖を高清といふ。武藏國兒玉郡大關を苗字の地とす。家紋 柊丸の内立澤瀉 柊 朧月流波 高清―某

某―氏清―家清(正平頃)……高增……清增

【大藤氏】姓は清和源氏、源頼信の子源

頼清(頼義の弟)より出づ、村上氏より分る立家の祖を家清といふ。

【大饗氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり。立家の祖を正盛といふ。

【大鹽氏】姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり。立家の祖を盛貞といふ。猶滋野氏の條下を見るべし。

【太氏】多氏と同じ。神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。奈良朝の始めに於て、太安万侶古事記の編者として著はる。

【太田氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼親頼光の弟)の後なり。立家の祖を頼基といふ。

家紋 鳩酸草 釘拔　頼基……盛意(忠長に仕ふ)—盛任
—盛良—盛房—盛義……

【太田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を師泰といふ。

【太田氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る立家の祖を光能といふ。

【太田氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を宗成といふ。武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。猶小野氏の條下を見るべし。

【太田氏】姓は清和源氏、源頼光の子源頼國の後なり。立家の祖を資國といふこれ太田道灌等の先祖なり。丹波國太

田を苗字の地とす。　家紋丸に桔梗　◉傳へ云ふ先祖頼政戰場に於て檄文を作る時に傍に水なし陣邊の桔梗の花を採りて硯水とし文を書し遂に大敵を破るを得たりこれより奇瑞として子孫家紋として用ふと

源頼光—頼國—仲政—頼政—仲綱—廣綱—
　隆綱—國綱—資國（太田）—資治—資兼—
　資房—資清—持資—資康—資高
　康資—重政……（遠江掛川）

【太田氏】　同上、太田資高の後胤なり。

家紋丸に桔梗打違鏑矢　正冬家光に仕ふ—正成—正澄—
　資明—資胤—資芳……

【太田氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る。　立家の祖を義資といふ。

【太田氏】　姓は私市氏、開化天皇の皇子彦坐王の後、私市家盛より出づ。　立家の祖を成澄といふ。　武藏七黨の一なる私市黨に屬す。

【太田原氏】　姓は高階氏、天武天皇の皇子高市皇子より出づ。　立家の祖を師行といふ。

【太田垣氏】　姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。　立家の祖を光保といふ。　猶日下部氏の條下を見るべし。

家紋三本瓜九葉笹　一本瓜

【巨海氏】　姓は清和源氏、源頼光の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり。　立家の祖を信通といふ。

【多氏】　（姓）　神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【多氏】　姓は豐原氏、天武天皇の皇子

大津皇子より出づ。立家の祖を自然麻呂といふ。

【多門氏】姓は嵯峨源氏、源綱の末流なり、先祖三河國額田郡大門村に住して大門と稱し。後多門に改む。家紋鐶鳩酸草

重則信光に仕ふ—重利—重信—信清—信利——

【忍海部氏】(姓)開化天皇の皇子、彦湯産隅命の後なり。

【忍海部氏】(姓)開化天皇の皇子、建豊波豆羅和氣命の後なり。

【於曾氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ。立家の祖を光俊といふ

【押田氏】姓は清和源氏、源義家の子、源義隆より出づ。立家の祖を頼廣といふ

家紋五三桐(一に鳩酸草)丸に九曜(一に九星)　◉一に九星の紋は千葉より授かりしといふ

【表作氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ。立家の祖を光清といふ

【音太部氏】(姓)孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【御本氏】姓は清和源氏、源頼義の子、義光の後なり。奈古氏より分る。

【鬼窪氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり。武藏七黨の一なる野與黨に屬するものにして、立家の祖を定綱といふ。北南二家に分る。

【息長氏】應神天皇の皇子、稚淳毛二俣王の後なり。

【御厩氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良將より出づ。立家の祖を將頼といふ

【御前田氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子

天足彦國押人命の後なり。立家の祖を信國といふ。猶小野氏の條下を見るべし。

【落合氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る。立家の祖を信弘といふ。

【落合氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり。立家の祖を國時といふ
家紋丸に三柏 丸に釘抜 重定―重清信長に仕ふ―重長―
―重直……

【落合氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る
立家の祖を秀盛といふ。

【落合氏】姓は清和源氏、源義國、義家の子)の子足利義康の後なり、桃井氏より分る。立家の祖を綱宗といふ。

【路氏】(姓)敏達天皇の皇子、難波王の後なり。

【奥氏】姓は桓武平氏、もと鹿伏兎氏と稱す(伊勢國鹿伏兎)平重盛の子、平惟盛の後なり。代々足利家に仕ふ、盛良の時に至り奥に改むと。家紋揚羽蝶
盛興鹿伏兎を稱す―盛時―盛良……

【奥氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿季(滿仲の弟)より出づ。立家の祖を義盛といふ。

【奥田氏】姓は清和源氏、足利氏の流斯波高經の後なり。立家の祖を利秋といふ。尾州奥田郷を領せしより苗字の地とす。家紋龜甲の内に花菱 丸に横二引 丸に二引龍の七曜

【奥山氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり。立家の祖を貞兼といふ

【奥山氏】　姓は桓武平氏、平良文の後なり、三浦氏の族、佐久間家村十二代の孫、盛通の二男、盛綱織田家に仕ふ、其男盛重信秀及び信長に仕へ、男盛昭に至りて佐久間を改めて奥山と稱す。　家紋丸に横三引　九曜　鞆狹

【奥村氏】　姓は淸和源氏、源頼親の子、頼房の五代宇野親治の後胤、奥村次左衛門友治の後なり。　家紋入角蛇目　蔦葉

【奥谷氏】　姓は宇多源氏、佐々木成頼の後胤、直重の後なり。　家紋瓜の内巴字　丸の内四目結　五三桐

【奥野氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を範道といふ。

【奥平氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ。立家の祖を定政といふ。これ奥平信昌等の先祖なり。

上野國甘樂郡奥平鄕を苗字の地とす。

赤松則景……定政（奥平）……貞能—信昌—家昌—忠昌……（豊前中津）◉家紋　軍配團扇　澤瀉　牛月　九曜　◉家傳に龜姫君入奥ありしより葵及び五七桐の紋を用ふといふ
忠明—忠弘……（武藏忍）◉家紋　軍配團扇　内松竹　九曜　◉家傳に武器に葵の御紋と九曜とを交せ用ふと

【奥瀨氏】　姓は淸和源氏、源義光の流、武田氏より分る、もと小笠原を稱へしが後に奥瀨に改む、定吉といふもの南部信直に仕ふ。

【隱岐氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり。　立家の祖を國時といふ

【隱岐氏】 姓は宇多源氏、佐々木秀義五男義清隱岐國を領せしより苗字とす。

【織笠氏】 姓は淸和源氏、源義光より出づ、武田氏の流、板垣信方の後なり、保貞といふもの南部政直に仕ふ。　家紋 帆掛船 丸内一葵

【織田氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後裔なり。　平重盛の次子、資盛の子に親眞あり、これ織田氏の祖なり。　越前國丹生郡織田庄を苗字の地とす。一説には尾張熱田文書によりて藤原氏と稱するものあり。

資盛—親眞—親基—親行—行廣—末廣—

基實—廣村—眞昌—常昌—常勝—

敎廣—常任—勝久—久長—敏定—敏信

信定—信秀—

信長—信忠

信雄

信孝

信良……(羽前天童)⊙家紋 窠 桐 揚羽蝶 引兩筋 永樂通寶錢 無の子菊　⊙引兩は信長の時義昭より賜はり窠は信秀のとき斯波家より受くと家傳に菊は禁裏より賜ふ所なりと

高良……(丹波柏原)⊙家紋 同前

長益—長政……(大和芝村)⊙家紋 窠 五三桐 揚羽蝶

尙長……(大和柳本)⊙家紋 同前

【織田氏】 姓は桓武平氏、平淸盛の後、織田氏の支流なり、始め柘植を稱し正重(柘植正直の二男)の時、織田に改む。

家紋 五七の花桐 丸に引兩筋 揚羽蝶 三頭左巴

【織原氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を泰房といふ。　武藏七黨の一なる丹黨に屬す

第二章　頭音か行に屬する姓氏

かの部

【川乃氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智姓につきての疑は越智氏の條下を見るべし。

【川口氏】　姓は桓武平氏、平宗淸の末流宗信美濃國川口邑に住し、男宗倫より川口を稱す、宗倫八代の孫宗持、大橋定廣の二男、宗貞を養子とす。　家紋丸に若荷一の字王の字

宗定(信長に仕ふ)—宗吉—宗勝—宗信—宗次—宗恒—宗直……

【川口氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、其系、國直といふものより現はる。

【川田氏】　姓は桓武平氏、平維盛の末流なりと。　家紋龜甲の内に花菱

【川合氏】　(姓)　崇神天皇の皇子、豐城入彥命の後なり。

【川俣氏】　(姓)　開化天皇の皇子、彥坐王の後なり。

【川俣氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を幹行といふ。

【川原氏】　(姓)　宣化天皇の皇子、火焰王の後なり。

【川島氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を元綱といふ、近江國川島を苗字の地とす。　家紋丸の内鳩酸草四目結

【川副氏】　姓は宇多源氏、佐々木氏の庶

流なり、勝重より系現る。　家紋五三桐菊

勝重(蒲生定秀に仕ふ)—正俊—重次—重勝—

—重頼—頼賢—頼常……

【川窪氏】　姓は淸和源氏、源義光の流、武田義淸の後裔なり、信俊甲斐國川窪の地を領せしより在名を苗字の地とす。

【川邊氏】　(姓)　孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

家紋丸に花菱鳩鳩草

【川久保氏】　姓は淸和源氏。源賴義の子、源義光より出づ、川久保又川窪に作る。

【川那部氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり。

【上山氏】　姓は淸和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、奥州斯波氏の支流なり。　立家の祖を滿長といふ。

【上月氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ赤松氏より分る。　立家の祖を頼景といふ。　播磨國佐用郡上月を苗字の地とす。　赤松師季—

—季方—季則—頼則—頼景(上月)……

【上平氏】　姓は滋野氏、淸和天皇の皇子貞保親王より出づ、立家の祖を幸氏といふ猶滋野氏の條下を見よ。

【上地氏】　姓は淸和源氏、源義國(義家の子)の子足利義康の後なり、立家の祖を義久といふ。

【上林氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の男、頼季の後胤、赤井基家の三男秀家を祖とす丹波國上林を苗字の地とす。

家紋丸の内三柏結雁金

【上林氏】姓は宇多源氏、佐々木氏承禎の後裔、上林政重の家なり。政重丹波國上林鄕に出世依て上林を稱す。

家紋左三巴三木杉

【上村氏】姓は淸和源氏、源賴淸の曾孫爲國の後胤なり。越後國村上城主上村淸忠を祖とす。家紋石持の内花菱丸の内三雁金

【上村氏】姓は淸和源氏、源義光の後、佐竹氏の族なり、立家の祖を義定といふ

【上阪氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を景重といふ。

【上坂氏】姓は桓武平氏、平高望の子、良文の後なり、梶原氏より分る。

【上原氏】科野國造家、神武天皇の皇子神八井耳命の裔なり。

【上泉氏】科野國造家神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【上條氏】姓は淸和源氏、源賴信の子、源賴淸（賴義の弟）より出づ、村上氏より分る立家の祖を仲基といふ。

【上條氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源賴光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を賴安といふ。

【上島氏】姓は阿蘇氏、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【上道氏】（姓）孝靈天皇の皇子、雅武彥命の後なり。

【上領氏】姓は淸和源氏、源範賴の後胤

なり、石州の人、吉見政頼の末流、上領隨庵を祖とす。 家紋 五七桐二引

【上總氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を常家といふ、常家の孫に廣常あり著はる。

良文─忠頼─忠常─常將─常長─常兼─
─常家(上總)─常明─常澄─廣常……

【上總氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を信賢といふ。

【上瀨氏】 姓は清和源氏、源義朝の子、源範頼の後なり、立家の祖を頼見といふ。

【上毛野氏】 (姓) 崇神天皇の皇子、豐城入彥命の後なり、猶上毛野氏より分れたる諸氏には上毛野坂本氏、上毛野佐位氏、上毛野名取氏、上毛野陸奧氏、上毛野鍬山氏上毛野中村氏、上毛野賀美氏、上毛野膽澤氏等あり。

【上有智氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、立家の祖を頼資といふ。

【上有智氏】 姓は清和源氏源頼義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を公淸といふ。

【方原氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、義光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を師光といふ。

【片山氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を信經といふ、猶小野氏の條下を見よ

【片山氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源

頼親（頼光の弟）より出づ。宇野親治の男有信、其男頼仲の三男頼次の後胤にして實綱小倉を稱し俊實のとき片山に改む

家紋 梅輪內◉ 三巴（もとは二柏葉の紋を用ふ、先祖家綱近江國天神の社に詣ふて階にて再拜す、ときに梅花一點空中より來りて實綱の肩に止まる、實綱謂らく今梅花の開く時にあらず、これ神の我に賜ふ所なるべしとて、これより梅輪內の紋に改むといふ。）

【片切氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）の後なり、立家の祖を爲基といふ、信濃國伊那郡片桐を苗字の地とす。

【片桐氏】姓は清和源氏、始め片切と稱す、源滿快の流、片切を見よ、これ片桐且元等の家なり。家紋 丸に鷹の割羽 龜甲の內花菱

滿快—滿國—爲滿—爲公—爲基（片桐）……直貞—且元
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　└貞隆……（大和小泉）

【片寄氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を義次といふ。

【片平田氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を通房といふ。

【加古氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子足利義康より出づ、立家の祖を基氏といふ。

【加古氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏の支流なり立家の祖を安重といふ。

【加地氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を盛綱といふ。

【加地氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平

國香の後なり、立家の祖を長成といふ。

【加治氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を經員といふ。武藏七黨の一なる丹黨に屬す武藏國加治を苗字の地とす。

【加茂氏】姓は淸和源氏、源爲義の子、爲宗より出づ。

【加茂氏】姓は淸和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ。立家の祖を重茂といふ。

【加屋氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏より分る、立家の祖を友則といふ。

【加悅氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を泰長といふ。

【加藤氏】姓は淸和源氏、源義光より出づ、勝沼信友の弟、丹後守信厚を祖とす。

【加賀美氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を遠光といふ、甲斐國中巨摩郡加賀美を苗字の地とす。家紋（中太五七桐 松皮菱 割菱 王文字）

【加宜國造】(姓) 崇神天皇の皇子、大入杵命の後なり。

【甘南備氏】(姓) 敏達天皇の皇子、難波王の後なり。

【甲良氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を信仲といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【甲良氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇

子、敦實親王の後なり。立家の祖を高秀といふ。佐々木氏の支流なり。

【甲能氏】（姓）天武天皇の孫、御方大野の後なり。

【甲斐氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を時信といふ。

【甲斐荘氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後楠正成の弟正氏の末裔、正繁を祖とす。河内國錦部郡甲斐庄を苗字の地とす。家紋菊水⦿（はじめ流菊水を用ひのち橘　肘張菊水を用ふといふ）

正繁……俊正（河内國烏帽子形の城に住す）—正治—正房—

—正述—正親……

【甲斐國造】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【可兒氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を直國といふ。

【各務氏】姓は清和源氏、仝上、源賴光より出づ、立家の祖を國定といふ。

【交野家】姓は桓武平氏、葛原親王の子平高棟より出づ、西洞院家より分る、此家號を稱へたるは、時貞を以て始めとす、時貞の卒は靈元天皇の天和元年にあり。

家紋揚羽蝶

【辛川氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親（賴光の弟）より出づ、立家の祖を賴行といふ。

【形原松平氏】姓は清和源氏、松平信光の子與嗣の流なり、三河國寶飯郡形原に住せしによりこの號あり、松平氏參照。

家紋丸に利文字八丁子　蔦葉◉家傳にもとは丸に三葉の向葵を用ひ、後蔦葉及丸に八丁子に改む、利文字の紋は小牧役のさき家信、利即是の三大字を書き旗を指せしにより、このかた家紋に用ふと、

松平信光—興嗣—貞嗣—親忠—家廣—

—家忠—家信—康信—興信—信利……(丹波龜山)

【金子氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を家範といい。武藏七黨の一なる村山黨に屬す武藏國入間郡金子邑を苗字の地とす。　家紋瓜丸の内竹二羽雀白蝶又二巴

賴任(村山黨祖)—賴家—家範(金子)—

—家忠—家高—時家……

【金丸氏】 姓は清和源氏、一色藤直の子伊豆守藤次を祖とす。

【金井氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子新田義重より出づ、立家の祖を繁顯といふ。

【金平氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を長光といふ、武藏野與黨に屬す。

【金田氏】 姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彥命の後なり。

【金田氏】 姓は桓武平氏、平良文の後、千葉常隆の男、賴次上總國金田城に住せしより、金田を名乘り、孫八郎胤泰のとき不總國鏑木郷に住し、のち上總國蕪木郷に住す、これより鏑木と稱し、男常泰に至り又蕪木に改め、常信のとき金田に復す。

家紋三輪違鬼蔦◉始め三星を用ゐ正興のとき輪違に改むと　賴次—康常—

—成常—胤泰—常泰……常正—常信……

【金谷氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子新田義重の後なり。

【金刺氏】 科野國造家、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【金森氏】 姓は淸和源氏、源滿仲の子、頼光の後なり、土岐氏より分る、立家の祖を定近といふ。 定近は土岐成頼の二男定頼の男にして、近江國野州郡金森村に住せしにより在名を苗字の地とす。

家紋 桔梗花 龜甲 裏梅鉢 五枚笹 ◉可重以前表梅鉢を用ひ、重頼より裏梅鉢に改む

定頼―定近―長近（信長に仕ふ）―可重―重頼―
　|頼直―頼業……

【金津氏】 姓は淸和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を資義といふ。

【金重氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を有茂といふ。 武藏野與黨に屬す。

【金窪氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を義直といふ。

【金澤氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、北條氏より分る、立家の祖を實時といふ。 武藏國久良岐郡金澤郷を苗字の地とす。 家紋 佩玉 巴

北條義時―實泰―實時（金澤）―
　|顯時―貞顯―貞將―忠時……
　|實政

【金澤氏】 姓は淸和源氏、源頼義の子、義光より出づ、平賀有義（盛義の子）の子資義を立家の祖とす。

【金田一氏】 姓は淸和源氏、武田氏の流、南部光行の後、四戸氏の分家なりと。 この苗字は陸奥國二戸郡金田一村より出で

しならんか。

【金刺舍人氏】（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の裔科野國造家より分る。

【門脇氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、能登守敎經之を稱ふ。

【河上氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を賴久といふ、猶島津氏につきての疑は其條下を見るべし。

【河内氏】姓は桓武平氏、平良文の流、千葉常胤の後胤なりと。

家紋根笹 丸に陽劔 梅鉢（一に梅輪内）　常胤……常親―知親―胤盛―胤次―胤勝……

【河内氏】姓は清和源氏、源賴信の子、源賴任（賴義の弟）より出づ、三州の住、河内正世の男、正明家康に仕ふ。家紋九曜

【河内氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を義長といふ。

【河内氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る

【河内氏】姓は清和源氏、源義家の子、源義忠より出づ、立家の祖を經國といふ。

【河勾氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を政基といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【河北氏】姓は村上源氏、具平親王の後なり、立家の祖を高則といふ。

【河曲氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿季（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を實忠

といふ。

【河尻氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親(賴光の弟)より出づ、立家の祖を光廉といふ。

滿仲―賴親―賴遠―有光―光家―光盛―
　　|光廉(河尻)……

【河原氏】姓は桓武平氏、平商望の男良兼より出づ、三浦義明五代の孫、杉浦政吉の後胤なり、祖を吉元といふ。

家紋　丸の内一劔鳩酸草　丸の内一文字　三本杉

【河原氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、熊谷氏より分る、立家の祖を直光(熊谷直季二男)といふ。

【河原氏】姓は私市氏、開化天皇の皇子彥坐王の後、私市家盛より出づ、武藏七黨の一なる私市黨に屬す、立家の祖を成直といふ。

【河南氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、立家の祖を行泰といふ。

【河袋氏】姓は宇多源氏。宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を家淸といふ。

【河崎氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を基家といふ。

【河崎氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を資幹といふ。

【河野氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重家といふ。

【河野氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子

伊豫皇子の後なり、立家の祖を玉輿といふ、これ四國伊豫の河野氏として有名なるものなり、猶越智姓につきては越智氏の條下を見るべし。伊豫國温泉郡河野郷を苗字の地とす。家紋折敷三文字（伊豫國越智郡三島神社の三島の三の文字をとりたるなりと）

孝靈天皇—伊豫王子—小千御子—
—(十九代畧)—玉輿(河野)—玉澄—
—(十八代略)—親經—親清—通清—
—通信—通久—通繼—通有—通盛—通朝

【河野氏】 同上の後裔、河野通直の二男通之(弘和年の人)の後なり。家紋圓折敷三文字津卷

【河野氏】 姓は桓武平氏、平良文の流、小山田有重の後胤、河野重吉(武田信玄勝頼に仕ふ)の後なり。家紋角折敷に三文字丸の内揚羽蝶

【河越氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重隆といふ、武藏國入間郡河越を苗字の地とす。重隆は鎌倉初代の人なり。

平忠頼—將恒—武基—武綱—重綱—
—重隆(河越)—能隆—重賴—重時—泰重

【河窪氏】 姓は清和源氏、川久保氏と仝一の氏ならんか、逸見より分る甲斐國川窪を苗字の地とす。

【河端氏】 姓は宇多源氏、佐々木氏より出づ、義昌江州河端郷に居城佐々木を改めて河端と號す。家紋五七桐四目結

【河瀨氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を貞貫といふ。

【河澄氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を重顯といふ。

【河邊氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の〔弟〕）より出づ、立家の祖を重直といふ。

【河原院家】　姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融これを稱す。

【幸田氏】　姓は清和源氏、傳へ言ふ、宇野七郎親治の後胤（親治は源滿仲の子、源頼親の後なり）常治、下總國猿島郡幸田に住せしより家號とせり、其男政治北條氏政に仕ふ。下總國猿島郡幸田を苗字の地とす。　家紋丸三蓋松花菱

【幸智氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る

【幸徳氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、義光の後なり、奈古氏より分る。

【革島氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を義安といふ。

【風早氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤康といふ。

【風早氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の條下を見るべし。

【風見氏】　姓は桓武平氏、平良文の後なり（立家の祖を胤重といふ。

【風祭氏】　姓は桓武平氏平高望王の子國香の流境氏の後なり、相州小田原風祭村住人境久利の男、正治を祖とす。

家紋丸に劔鳩酸草　丸菱　五三桐

【垣氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を清貞といふ。

【垣生氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を恒直といふ。

【垣生氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を親遠といふ。猶越智氏の條下を見るべし。

【垣富氏】姓は清和源氏、源爲義の子、源爲家より出づ、立家の祖を重成といふ。

【垣富氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を高幹といふ。

【春日氏】姓は清和源氏、源義家の流なり、澁川義顯の後裔にして、將賴のとき春日と稱す、半兵衛某は其末孫なり。

家紋丸に打違釘拔　抱茗荷　某半兵衛（一に政秀慶長十年死す）

—將吉—某—久吉—久重—久忠—久武…

【春日氏】（姓）敏達天皇の皇子、春日王の後なり。

【春日氏】姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王より出づ、立家の祖を貞親といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。

【春日山氏】（姓）垂仁天皇の皇子、五十日足彦命の後なり。

【春日部氏】（姓）仝上。

【春日部氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり、祖を實高といふ。

【春日井氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、立家の祖を貞範と

いふ。

【柿本氏】（姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【柏木氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を箕浦義時の弟義兼といふ。

【柏原氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を爲永といふ。

【柏原氏】姓は清和源氏、滿仲の子、源頼平(頼光の弟)の後なり、立家の祖を檜坂頼平の子頼盛といふ。

【柏原氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【柏合氏】姓は清和源氏、源滿政の後なり、立家の祖を重朝といふ。

【柏尾氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を成俊といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【柏崎氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、武藏七黨の一なる野與黨の内にあり、立家の祖を時光といふ。

【狩戸氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、小笠原氏より分る。立家の祖を藤崎泰綱の子、四郎基清といふ。

【香川氏】姓は桓武平氏、平良兼の後なり、鎌倉權五郎景政五代經高、相模國香川庄に住み、在名を苗字の地とす。

【香西氏】姓は綾氏、景行天皇の皇子、日

本武尊の後なり、立家の祖を信資といふ

【香山氏】（姓）敏達天皇の皇子、春日王の後なり。
）

【香宗我部氏】 姓は淸和源氏、源經基の後義光の流なり、祖を親秀といふ。 土佐國香美郡宗我部邑を苗字の地とす。

【高　氏】 姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王より出づ、立家の祖を重氏といふ。 これ師直師泰等の先祖なり、此苗字は其姓の高階氏より來れるものなり。

【高力氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、貞盛の男維將より四代を維方とす、其男盛方の孫、熊谷直貞武藏國小澤に住す、のち其鄕を熊谷と改む、次男直實の後裔、重長を立家の祖とす。 三河國高力を苗字の地とす。 家紋 鳩二羽 丸に橫木瓜 保屋 蔦に向鳩 丸に鳩文字 燕子花 桐 ◉桐の紋 は尊氏より蔦に向鳩は賴朝より鳩二羽は義家より賜ふ所なりと

直實—直家—直重—直忠—忠重—直鎮—
—正直（梁田）—重高（高力）—安長—淸長

【高谷氏】 姓は宇多源氏、佐々木氏信の嫡流、京極道譽の後裔なり。 立家の祖を富永泰行、次男泰種とす。 近江國高谷村を苗字の地とす。 家紋 丸の内二つ茗荷 揚羽蝶

【借屋原氏】 姓は滋野氏、淸和天皇の皇子貞保親王より出づ、猶滋野氏の條下を見るべし。

【海道氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、國香より出づ、立家の祖を安忠といふ。

【海道氏】 姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ立家の祖を武貞の子

眞衡といふ。

【唐橋家】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、この家號を稱へたるは通資を以て始めとす、通資は後鳥羽天皇頃の人なり。

雅實(久我)―雅定―雅通―通資(唐橋)―通時―通清……

【釜内氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を範春といふ。

【桂　氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良繇これを稱ふ。

【桂　氏】 姓は清和清氏、島津忠久の後なり、立家の祖を勝久といふ、猶島津氏につきての疑は島津氏の條下を見るべし

【桂川氏】 姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後胤、中原定祐の末流、正俊二男邦致、桂川を稱す。 家紋 鱗に三星 丸 大根の丸の内九葉笹

【神戸氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、平資盛より出づ、立家の祖を關隆盛の二男盛澄といふ、伊勢國河藝郡神戸を苗字の地とす。 家紋 丸内揚羽蝶 瓜

【神田氏】 姓は桓武平氏、良將の子、將門の後胤なりと。 家紋 木瓜の内十六葉菊 繋馬 丸に三木瓜

將門……正友(一に將友)―正高(一に政高、北條氏康氏政に仕ふ)……
―正俊―正重―正信――

【神田氏】 姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後なり、松浦氏より分る。

【神出氏】 姓は村上源氏具平親王の後赤松氏の流なり、立家の祖を範次といふ

【神代氏】 姓は清和源氏、貞純親王の後

満仲の流なり、立家の祖を兼高(周防國大島郡在城)といふ。

【神平氏】 姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を光長といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。

【神吉氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を則實といふ。

【神門氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を頼季といふ。

【神谷氏】 姓は清和源氏、源頼政の六男新七郎仲忠、若狹國神谷庄に住し、在名を苗字の地とす。 家紋向蝶の内十六葉菊

【神尾氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命より出づ。もと堀田なりしが幸政のとき外家の稱、神尾に改む。 家紋石餅に堅木爪 綾菅

【神部氏】 姓は桓武平氏、平清盛より出づ、藏人盛保の後胤、神部清保の男、保久家康に仕ふ。 家紋二星 五七桐 丸内揚羽蝶 矢車

【神崎氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を師時といふ。

【神野氏】 姓は清和源氏、源頼光の後なり、立家の祖を頼忠といふ。

【兼平氏】 姓は村上源氏、具平親王より出づ、北畠顯家支流、波岡氏より分ると。 奥州喜題といふもの南部重直に仕ふ。津輕郡兼平村を苗字の地とす。

【桓武平氏】(姓) 桓武天皇の皇子、葛原親王、仲野親王等より出づ、就中葛原親王の

流、大に著る、親王の子に、高見王、高棟王あり、高棟王は、平姓を賜はり、平高棟といひ高見王は其子高望に至り、平姓を賜はり平高望といふ、高望の子孫大に著はる、故に俗に、平氏といふ時は、此流を指すことゝなれり。

【蚊野氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を清定といふ、猶中原氏の條下を見よ。

【烏丸家】姓は桓武平氏、葛原親王の子平高棟より出づ、この家號を稱へたるは範輔を以て始めとす。

【掃守氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を盛安といふ。

【掃守田氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【鹿島氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を成幹といふ、此苗字は常陸國鹿島郡鹿島の地名より來りしものなり。

【鹿島氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤實といふ。

【鹿伏兎氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、平資盛より出づ、立家の祖を盛宗といふ、伊勢國鹿伏兎城は其居城趾なり。

【梶氏】姓は清和源氏、能見の松平氏の後裔、忠綱松平の稱號を憚りて外家の號梶と改む。家紋丸に梶葉（一に梶葉）九曜

松平光親の二男親友—忠恒—忠澄—
—忠綱—盛重—光助……

【梶川氏】姓は桓武平氏、傳へいふ、織田氏の支族なりと、梶川平九郎信時池尻正治の武名を聞き家を嗣がしむ、彼の「梶川與三左衛門はこの正治の後裔なりと。

家紋角折敷の内二葵一重菊

【梶川氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、立家の祖を正信といふ

【梶田氏】姓は清和源氏、貞純親王三代源満季の流なり、梶田又十郎安成を祖とす。

家紋丸に鶴印内橘三巴柏葉

【梶原氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を景久といふ。相模國鎌倉郡梶原郷を苗字の地とす。

景久は平安朝末期の人なり。
良文—忠通—景通(鎌倉)—景久(梶原)—
—景長—景清—景時—景季

【笠氏】(姓)孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり、有名なる歌人金村はこの後に係る。

【笠氏】(姓)孝靈天皇の皇子、彦狭島命の後、宇自可氏より分る。

【笠合氏】姓は清和源氏、源義家の子、源義隆の後なり、立家の祖を義定といふ。

【笠毛氏】姓は清和源氏、源満仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を光忠といふ。

【笠間氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常宗といふ。

【笠原氏】(姓)天武天皇の皇子、磯城王

の後なり。

【堅井氏】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【賀茂氏】姓は清和源氏、源滿政の流なり、小島重平の弟六郎重長を祖とす。

【賀茂氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を致房といふ。

【賀崎氏】姓は清和源氏、源爲義の子、新宮行家の弟、爲家を祖とす。

【賀陽氏】（姓）孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり。

【賀陽院家】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源定これを稱ふ。

【賀我國造】（姓）垂仁天皇の皇子、磐衝別命の後なり。

【勝屋氏】姓は清和源氏、土岐賴之（後勝屋に改む）六代利盛三代の孫利時、正親町院の勅命によりて織田信長に仕ふ。賴利は其男なりと。家紋丸に桔梗

利政（一に賴利に作る）—政次—利通—利元……

【勝矢氏】同上、利政及び政次の後裔成庸勝矢を稱すと。

【勝沼氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、武田信虎の弟、太郎信友を祖とす。

【勝部氏】姓は宇多源氏、佐々木信綱四代、賴信の時より勝部を稱ふ。家紋四目結

賴信……正則（北條氏政に仕ふ）—正信—尙正—正房……

【勝島氏】姓は桓武平氏、葛原親王の子平高棟より出づ、立家の祖を南清正の子宗成といふ。

【開田氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)の流なり、立家の祖を重國といふ。

【葛城氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、武内宿禰の子、葛城襲津彦より出づ。

【葛西氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を清重といふ、武藏國南葛飾郡葛西を苗字の地とす。

豐島康家—清光—清重(葛西)—

【葛野氏】 姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、眞田昌幸の弟市右衛門信尹を祖とす。

【郷渡氏】 姓は宇多源氏、京極の庶流にして清宗の時より郷渡を稱す。　家紋 九曜 桐

【萱津氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ。

【萱野氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴益といふ、

【萱間氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を弘光といふ。

【蒲原氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、今川氏の支流なり、立家の祖を氏兼といふ。　駿河蒲原を苗字の地とす。

【嘉福寺氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、祖を三郎成經といふ

【輕部氏】 (姓) 崇神天皇の皇子、豐城入彦命の子八綱多命の後なり。

【輕部氏】 姓は日下部氏、開化天皇の皇

子、彦坐王の後なり、立家の祖を俊通といふ。猶日下部氏の條下を見るべし。

【輕部氏】（姓）孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり。

【樺山氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を資久といふ、猶島津氏につきての疑は島津氏の條下を見るべし

【龜山氏】姓は桓武平氏、平國香の子平貞盛の後なり、平資盛より出づ、立家の祖を國府盛門の弟盛重といふ。

【龜井氏】姓は宇多源氏、龜井は初め紀州の人にして其姓は穗積氏なり茲矩より三代以前出雲に行き、尼子の家臣となる。尼子の舊臣、山中幸盛女を以て茲矩に娶はせ、外舅龜井能登守某の家を繼かしむと。家紋井桁の内に稻穗四目結

龜井茲矩―政矩―茲政―茲親……（石見津和野）

【龜田氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、小笠原氏の支流、三好長慶の弟馬詰十助長三、河波國馬詰庄に住し、其後裔龜田を稱す。家紋三階菱龜甲

【龜谷家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、この家號を稱へたるは基俊を以て始めとす、基俊は花園天皇頃の人なり。

【蕪木氏】姓は桓武平氏、もと鏑木氏常泰に至り、改めて蕪木となす。

【蔭山氏】姓は清和源氏、源義國、義家の子）の子足利義康の後なり、立家の祖を廣氏といふ。父持氏、生害の時廣氏伊豆國

に逃れ、外縁により蔭山氏の許に成長し後蔭山氏を續ぐ。　家紋丸に抱澤瀉（一に丸に三引）九曜

【樫生氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命より出づ、立家の祖を觀念といふ、猶小野氏の條下を見よ。　武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【鴨氏】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【鴨根氏】姓は桓武平氏、平高望の子平良文の後なり、立家の祖を常房といふ。

【鴨國造】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり。

【膳氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【糟屋氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命より出づ、立家の祖を盛經といふ、猶小野氏の條下を見よ、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【鎌倉氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を景通といふ。
平良文—忠通—景通（鎌倉）—景政

【鎌田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香より出づ、立家の祖を清次といふ。

【韓矢田部氏】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり。

【蟹澤氏】姓は清和源氏、足利義康の後なり、奥州斯波氏より分る、立家の祖を兼直といふ。

【鏡氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政より出づ、立家の祖を重義といふ。

【鏡氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を定重といふ。

【鏡氏】姓は村上源氏、具平親王より出づ、立家の祖を惟村とい

【蠣崎氏】姓は淸和源氏、源義光の後なり、若州武田氏の流なる信廣、始めてこれを稱す。武田氏信―信在―信守―信繁―

―信賢―信廣（蠣崎）―光廣……

【蠣島氏】姓は淸和源氏源義光より出づ、倉科信廣の子、若狹守光廣を祖とす。

【鏑木氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤泰といふ。

【竈口氏】（姓）景行天皇の皇子、日本武尊より出づ。

きの部

【木下氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を氏泰といふ。

【木下氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり。始め杉原と號す家定に至り、豐臣秀吉に仕へ木下の號を賜はる。

維衡……光平（杉原）……家定（木下、秀吉の北政所の兄）―

―勝俊（號長嘯子）

―利房―利當―利貞……（備中足守）淳濃　◉家紋　五七桐　切菊

◉家傳に澤瀉は杉原の家紋にして代々之を用ふ家定の時太閤より菊桐の紋を與へられ利房の時まで用ひ來りしが菊桐は禁裏より太閤に勅許なるを以てこれを憚り菊の端を切り輪を加へ中央に巴を畫きてきり菊と呼び又桐の葉の筋を通して用ふといふ

―延俊―俊治―俊長……（豐後日出）◉家紋　澤瀉　胡馬　十六葉菊　五

三桐　五七桐　◉家傳に菊桐の紋は太閤より延俊に設さるといふ

―秀秋

【木戸氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【木内氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常範といふ。

【木田氏】 姓は淸和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、今川氏より分る、立家の祖を政氏といふ。

【木田氏】 姓は淸和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を八島重實の弟三郎重長といふ、美濃國稻葉郡木田を苗字の地とす。 滿政―忠重―
定宗―重宗―重長(木田)―重國……

【木田氏】 姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を光宗といふ。

【木村氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る、立家の祖を成俊といふ。 近江國蒲生郡木村を苗字の地とす。 家紋丸の内角四目結五三桐

【木村氏】 姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流にして行定の養子定國の末孫なりといふ。 家紋四目結

某(一に政綱)―良盛(一に盛眞)―良綱―盛重……

【木里氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命より出づ、立家の祖を行兼といふ、猶小野氏の條下を見るべし。武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【木津氏】 姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の

祖を盛義といふ。

【木原氏】姓は桓武平氏、大和守爲平の子、民部丞實光を祖とす。

【木曾氏】姓は清和源氏、義賢爲義の子の子、義仲これを稱ふ。

爲義　義賢――義仲(木曾)―義基―義茂―基家……

【木梨氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を眞親といふ。

【木梨氏】姓は桓武平氏、平國香の流、清盛六代の孫、杉原光平の後裔、元恒を祖とす、備後後木梨庄を苗字の地とす。

【木部氏】姓は小野氏、天足彦國押人命より出づ、立家の祖を廣兼といふ。猶小野氏の條下を見るべし。

【木部氏】姓は清和源氏、源範頼の後胤なり、木部直重の男、直勝徳川氏に仕ふ。

家紋　丸の内万字　鶴

【木澤氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、金澤資義の子、資直を立家の祖とす。

【木邊氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義綱(義家の弟)より出づ、立家の祖を實總といふ。

【木田見氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を武重といふ。

【木和田氏】姓は清和源氏、源頼光の流、土岐賴康の子、島田伊豆守滿貞の子、伊豫守安連を祖とす。

【北氏】姓は清和源氏源頼義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を義信といふ。

【北方氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を賴興といふ。

【北村氏】姓は清和源氏源義家の後、新田の支流なり、大舘家久の末孫、近江國野州郡北村に住せるを以て在名を苗字の地とす。家紋丸に井筒鍋釣　季吟―湖元―春水―季春……

【北村氏】姓は桓武平氏、葛原親王の皇子、平高棟より出づ。

【北浦氏】姓は安倍氏、奥州安部氏より分る、立家の祖を重任といふ。

【北畠氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、立家の祖を雅家といふ、雅家は龜山天皇頃の人なり。

雅實―雅定―雅通―通親―通方―雅家(北畠)―師親―師重―親房―顯家
―顯信―顯能―顯泰―滿雅……

【北郷氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を基行といふ。

【北郷氏】姓は清和源氏、島津忠久より出づ、立家の祖を資忠といふ、猶島津氏の條下を見るべし。

【北邊家】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源信これを稱ふ。

【北酒出氏】姓は清和清氏、源賴義の子、源義光より出づ、佐竹氏の支流なり、立家の祖を季義といふ。

【吉田氏】(姓)　孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命四世の孫、彦國葺命の後なり。

【吉志氏】（姓）　孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【吉良氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、立家の祖を滿氏といふ、此苗字は滿氏三河國吉良の地に居りしより在名を苗字の地とす。

家紋五三桐　丸に二引　十六葉菊　足利義氏—長氏—
—滿氏—貞義—滿義—滿貞……

【吉備氏】（姓）　孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり。

【吉彌侯部氏】（姓）　崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり、一說に吉彌侯部は蝦夷族にして後三年役の吉彦氏亦同族なりといふ。

【衣山氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常定といふ。

【君島氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を嗣胤といふ。

【行事氏】　姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり、立家の祖を長經といふ

【私市氏】（姓）　開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、武藏七黨の一なる私市黨とはこの一族をいふなり。

【私市氏】　姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、熊谷氏より分る、立家の祖を幹成といふ。

【金吾氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を滿秀といふ。

【金原氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平

良文の後なり、立家の祖を常能といふ。

【狐塚氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を隆清といふ。

【京極氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る氏信の時邸を京都高辻京極に有せるに由りて京極を家號とす。

佐々木信綱—氏信（京極）—滿信
　—宗氏—高氏—高秀…高吉
　—高次—忠高—高和—高豐
　—高或（讃岐丸龜）◉家紋 四目結（一に寄懸四目）丸に角四目結 五三桐 蔦 ◉家傳に佐々木經方の時四目結を以て幕紋に用ふ信綱の代に土御門院より寄掛の紋を賜ふ之より角四目結に改むと
　—高通…（同多度津）◉家紋 五七桐 角四目結
　—高知—高三…（但馬豐岡）◉家紋 四目結 五三桐 二引龍 十六葉菊 雪薺
　　—高通…高供…（丹後峰山）◉家紋 四目結 五三桐 蛇目 薺雪

【京極家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、此家號を稱へたるは雅俊を以て始めとす。

【岸氏】姓は桓武平氏、平良將の子、將門より出づと。家紋 片杭繋馬 下藤に一文字 左藤巴

正吉（一に正明）北條氏照に仕ふ—正久（一に正廣）—正之—
　—正信……

【岸田氏】（姓）孝元天皇の皇子、彥太忍信命より出づ、蘇我稻目の後なり。

【岸本氏】姓は清和源氏、源經基の子、滿季（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を重綱といふ。

【岸下氏】姓は清和源氏、仝上、源義季の後なり、立家の祖を御園範廣の子八郎時綱といふ。

【桐原氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴衡といふ。

【紀　氏】（姓）　孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、武內宿禰の子紀角宿禰より出づ、普通の紀氏系圖に從へば紀氏を以て武內宿禰の子平群木菟宿禰の後となす、茲には新撰姓氏錄の說に從ふ、大日本史また斯の如し。　其の紀氏と稱するは生國紀伊の地名に本づく。

【紀　野　氏】（姓）　孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【紀伊家德川氏】　姓は淸和源氏、德川家康の子、賴宣の流なり。　家紋三葵葵車

賴宣―光貞―綱敎―賴職……（紀伊和歌山）
　　└賴純―賴致―賴安……（伊豫西條）

【淸田氏】　姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ、立家の祖を資嗣とす

【淸岑氏】（姓）　孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【淸春氏】（姓）　天武天皇の皇子、磯城王の後なり。

【淸原氏】（姓）　敏達天皇の皇孫、百濟王の後なり。

【淸原氏】（姓）　天武天皇の皇子、舍人親王より出づ、親王の御子に御原王あり、其孫に淸原夏野あり、著はる、夏野の薨去は仁明天皇の承和四年にあり。

舍人親王―御原王―小倉王―
　└淸原夏野―海雄―房則―葉恒……
　　　　　　　　　　└深養父……

【清瀧氏】（姓）天武天皇の皇子、忍壁親王の後なり。

【喜多氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の條下を見よ。

【喜多見氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、畠山の支族にして江戸氏より分る、木田見氏に仝じ、勝重に至り喜多見と改む。家紋 龜甲

【喜多村氏】姓は村上源氏、具平親王より出づ、源顯房の玄孫師季の後、赤松則村の末裔、播磨國に着はる。家紋 丸に鳩酸車 鎧蝶

【喜多野氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏より分る立家の祖を頼遠といふ。

【喜連川氏】姓は清和源氏、源義國義家の子)の子足利義康より出づ、足利基氏の後なり、立家の祖を國朝といふ。國朝のとき、下野國喜連川に住せしより代々これを稱す。家紋 菊桐 二引龍

足利成氏—政氏—高基—晴氏—義氏—國朝(喜連川)……頼氏……(下野喜連川)

【貴志氏】姓は清和源氏、源頼光の後、土岐頼兼時代美濃國安八郡高田庄に居り高田を稱し兼久の時、同國貴志郷に住み在名を苗字の地とす。家紋 井筒の内鳩酸草 桔梗 釘貫

【菊多氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を安忠といふ。

【給黎氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を宗長といふ、猶島津氏の

條下を見るべし。

【絹谷氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を秀淸といふ。

【樹下氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の條下を見るべし。

くの部

【久下氏】姓は私市氏、開化天皇の皇子彦坐王の後私市家盛より出づ、武藏七黨の一なる私市黨に屬す。 立家の祖を爲家といふ。

【久萬氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を安綱といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【九戸氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、義光の後南部氏の支族なり、戰國の頃九戸政實稍々著はる。

【久世家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、此家號を稱へたるは通式を以て始めとす、通式の甍は後水尾天皇の寛永五年にあり、又武家久世氏ありこれより出づ、山城國愛宕郡久世を苗字の地とす。 家紋龍膽世

又武家久世氏あり、村上源氏、久我(雅實を祖とす)の庶流なり。 家紋丸に鷹羽二本 丸に橘

【久米氏】姓は淸和源氏源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を義武といふ。

【久米氏】(姓) 孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【久米氏】(姓) 孝元天皇の皇子、彦太忍

信命の後なり、蘇我稻目より出づ。

【久米氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を家時といふ。武藏七黨の一なる村山黨に屬す。

【久米氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子のなり、猶越智氏の條下を見るべし。

【久芳氏】姓は桓武平氏、平貞盛の流、北條時政の後裔、江馬實次より出づ、立家の祖を永淸といふ、安藝國豐田郡久芳村を苗字の地とす。

【久留氏】姓は桓武平氏、伊勢氏の後なり、正兼のとき久留に改む。

【久賀氏】（姓）桓武天皇の皇子、明日香親王の後なり。

【久久利氏】姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を行春といふ。

【久久智氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【久保田氏】姓は淸和源氏、其系、與左衞門某といふものより出づ。家紋丸に三柏島居

【久留島氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子より出づ、立家の祖を通房といふ。猶越智氏の條下を見るべし。伊豫國越智郡來島を苗字の地とす。

家紋側折敷に縮三文字　三軍配團扇　丸に三軍配團扇

河野氏―通房―康親―通春―（豐後森）

【公文氏】姓は淸和源氏、貞純親王の後足利義淸の末裔、重益公文所の役を勤めたるより公文を稱號とす。

【日下氏】　姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【日下氏】　(姓)　孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【日下部氏】　(姓)　開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、日下部氏系圖には、其先孝德天皇の皇子、有間王の子表米天智天皇の朝に、日下部姓を賜はる。　とあり、然れども日本書記を按するに、有間王誅せられし時、年十九、其兒女あるを言はず、然るに一方に姓氏錄には日下部氏、彦坐王より出づ、と明かにあり、故に茲には大日本史の說に從ひ、開化天皇の系に置けり。

【朽木氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を義綱といふ、近江國高島郡朽木地を苗字の地とす。　家紋四日結　五三桐　五七桐

◎五七桐は植綱のとき萬松院義晴より與へらろ。

【光孝平氏】　(姓)　光孝天皇の皇子、是忠親王の孫篤行等平氏を賜はる。

【光孝源氏】　(姓)　光孝天皇の皇子、元長、近善等源姓を賜はる、又皇子、是忠親王是貞親王等の子孫も源姓を賜はる、

【車持氏】　(姓)　崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり。

【來島氏】　姓は越智氏、久留島氏に全し猶久留島氏の條下を見よ。

【栗木氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を滿信といふ。

【栗毛氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を時直といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【栗田氏】姓は清和源氏、源頼季より出づ、立家の祖を平井景德の子二郎實清といふ。

【栗村氏】姓は桓武平氏、平良文の後三浦氏の支流比田廣盛の子、泰連を祖とす

【栗原氏】姓は清和源氏、源義光の流、武田信成四男武續始めて栗原を稱す。
家紋 割菱

【栗原氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を信泰といふ。

【栗野氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、立家の祖を國光といふ。

【栗野氏】姓は清原氏天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を成綱といふ。

【栗野氏】姓は清和源氏、源義光の後佐竹氏の族なり、立家の祖を義有といふ。

【栗崎氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を貞幹といふ。

【栗栖野氏】姓は春原氏天智天皇の皇子後基皇子の後なり、立家の祖を良之といふ。

【桑田氏】（姓）敏達天皇の皇孫百濟王の後なり。

【桑名氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香より出づ、立家の祖を良平といふ。

【桑名氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇

子、上殖葉皇子より出づ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【桑原氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を氏經といふ。猶小野氏の條下を見るべし

【桑原氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を弘兼といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【桑原氏】　（姓）崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なり。

【桑洞氏】　姓は淸和源氏、源賴信の子、源賴季より出づ、井上氏の支流なり、立家の祖を光長といふ。

【倉田氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を義綱といふ。

【倉地氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を時滿といふ。

【倉科氏】　姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を信廣といふ。

【倉垣氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を資氏といふ。

【倉橋家】　姓は安倍氏、孝元天皇の皇子大彦命の後なり、この家號は陰陽家の安倍晴明より出づ、祖を泰吉といふ。

家紋浮線綾蝶

【郡戸氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、土岐氏より分る、立家の祖を賴蔭といふ。

【郡家氏】姓は清和源氏、仝上、土岐氏の支流なり、立家の祖を光繼といふ、美濃國揖斐郡郡家を苗字の地とす。

【草原氏】姓は私市氏、開化天皇の皇子彦坐王の後私市家盛より出づ、武藏七黨の一なる私市黨に屬す、立家の祖を忠家といふ。

【畔柳氏】姓は清和源氏、源義光の後、錦織勝元より出づ、助六勝忠のとき黑柳を稱し、男助九郎武重に至り黑を畔に改む

家紋 蛇目

【黑川氏】姓は清和源氏、木曾義仲の後なり、立家の祖を家景といふ。

【黑川氏】姓は清和源氏、源義國義家の子の子、足利義康の後なり、奥州斯波氏より分る、立家の祖を氏直といふ。

【黑田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を宗滿といふ、職隆のとき小寺を稱し、孝高に至りて黑田に復す、忠之のとき松平の稱號を賜ひ、代々これを稱す近江國伊香郡黑田邑を苗字の地とす。

京極氏信—滿信—宗滿(黑田)—宗信—高教—高宗—重宗—重隆—職隆—孝高—長政—忠之……(筑前福岡)◉家紋 藤巴 白餅 永樂錢

　長興……(筑前秋月)◉家紋 三橋 藤巴

◉もと藤の丸に三橋を用ひのち藤巴に改む

【黑田氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、武藏七黨の一なる丹黨の族、中山直張の三男、直邦幼より

外祖父黑田用綱に養はれ黑田を稱す。

家紋升形の内月　角内月　黑餅に木瓜　水月　直邦—直純—

—直亭—直英—直温……

【黑田氏】　姓は橘氏、信濃守定綱京師に住みて大橘を稱す、其子廣綱に至りて黑田に改む。　家紋九瓜　水月　定綱—廣綱—

—久綱（今川氏に屬す）—光綱—直綱—用綱……

【黑谷氏】　姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を國時といふ。　武藏七黨の一なる丹黨に屬す

【黑坂氏】　姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり立家の祖を朝信といふ。

【黑岡氏】　姓は淸和源氏、源賴信の子、賴季（賴義の弟）より出づ、立家の祖を氏家といふ。

【黑澤氏】　姓は淸和源氏、傳へ言ふ、源義家の後、足利氏より出づ、黑澤行綱を祖とす。

【黑澤氏】　姓は桓武平氏、葛西淸重四男時重を祖とす、陸中盤井郡黑澤邑を苗字の地とす。

【黑澤氏】　姓は安倍氏、安信賴良四男官照出羽國置賜郡小松の舘に住し、五男正任陸奥國和賀郡黑澤尻に居る、故に子孫小松或は黑澤と稱し、代々奥羽の間に住す、重久のとき關東に移り黑澤を家號とす。　家紋竹の丸に一文字

【黑澤尻氏】　姓は安倍氏、奥州安倍氏より

分る、立家の祖を正任といふ。

【國井氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源義政頼義の弟)より出づ。

【國井氏】姓は清和源氏、源義光の後、佐竹氏の族なり。

【國前氏】(姓)孝霊天皇の皇子、彦五十狹芹彦命の後なり。

【華山源氏】(姓)華山天皇の皇子、清仁親王の子孫に源姓を賜はる子孫神祇官として其名著はる。

【椋橋氏】姓は良峯氏、桓武天皇の皇子良峯安世の後なり、立家の祖を玄理といふ。

【椚田氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を廣重といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【厨川氏】姓は安倍氏、安倍貞任これを稱ふ。

【葛山氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を義久といふ。

【葛岡氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を爲綱といふ。

【楠氏】姓は橘氏、橘諸兄より出づ、民部大輔盛氏男河内守成綱始めてこれを稱ふ。

【楠木氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子より出づ橘諸兄の後なり正遠に至り始めて楠木氏を稱す。

【楠瀬氏】姓は橘氏、橘諸兄の後、楠正成の末裔、掃部成晴より出づ、正照に至り楠瀬を稱すと。

【熊谷氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、立家の祖を直貞といふ。有名なる直實は直貞の子なり、武藏國大里郡熊谷を苗字の地とす。

北條維方—盛方—直貞(熊谷)—直實—直家—直國

【窪氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼季より出づ、井上氏の支流なり、立家の祖を井上長直の子長時といふ。

【窪田氏】姓は高階氏天武天皇の皇子高市親王の後なり、立家の祖を惟貞といふ。

【窪田氏】姓は清和源氏、源滿仲の後頼季八代長時始めて窪田を稱し、子長親より長義に至る十代小坂、矢井、時田、小室坂等と稱し、長義の男、正長窪田に復す。

家紋　丸に三柏　上藤丸

【鞍智氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より出づ、鞍智叉倉地に作る、立家の祖を時滿といふ。

【櫛田氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る立家の祖を有景といふ。

【櫛代氏】(姓)孝昭天皇の皇子、天足彥國押人命の後なり。

【鯨岡氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を忠基といふ、鯨岡また蚊岡と書けるもあり、暫く疑を存

す。

【観世氏】 姓は桓武平氏、平宗清（貞盛の後裔）より出づ、もとは服部氏次に結崎氏を稱す、後観阿彌世阿彌の名を取りて親世氏といふ。

けの部

【氣良氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、土岐氏より分る、立家の祖を賴數といふ。

【毛馬内氏】 姓は清和源氏、源滿快の後なり、諏訪氏より分る、定照に至り外家の號毛馬内に改む。 家紋梶葉

【毛馬内氏】 姓は清和源氏、源義光の流、南部政康五男秀範を祖とす。 家紋輪貫如染割菱

この部

【小本氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり三浦氏より出づ、土佐某南部利直に仕ふ。 家引三引龍

【小平氏】 姓は桓武平氏、平良文の流、千葉常胤三男、武石胤盛の子宗隆より出づ磐城國亘理郡小平を苗字の地とす。

【小西氏】 姓は宇多源氏、佐々木盛賴の末孫、正隆小西百右衛門某の雁帽子子となるにより小西を稱號とす。 家紋丸に抱稲四日結

正隆（佐々木庶積に屬す）―正重―正次―正治……

【小寺氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、祖を黒田重隆の男美濃守織隆とす。

【小池氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり小池小太郎家貞を祖とす。

家紋丸の内九枚笹 三階松　家貞……貞元（信玄に仕ふ）—

—貞季—貞次—貞晴……

【小坂氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）より出づ。

【小林氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る立家の祖を重弘といふ。

【小林氏】姓は清和源氏、足利義康の後斯波義將六代義忠の後胤、小林源太左衛門某より出づ。　家紋菱井の内舞鶴 花輪違

【小林氏】姓は清和源氏、もと桓武平氏平貞盛の後季衡上總國小林郷に住せしより在名を苗字の地とす。其後胤重定松平親忠に仕ふるとき清和源氏に改むと。　家紋丸に二連揚羽蝶 輪違 車蝶　重定—重時—重次—

—重正—重直—正次……

【小知氏】姓は清和源氏、源頼親の流、大森義治の後なり、正之の男、正重これを稱す。　家紋尾長鳥丸の内 丸の内蔦葉 一文字 九曜星

【小松氏】姓は安倍氏、安倍頼良の後なり、羽州置賜郡小松館に居りしを以てこれを號す。

【小松氏】姓は桓武平氏、平重盛の子、平維盛の後なり、平氏滅亡の時維盛逃れて紀伊熊野に至り海に投して死すとなし實は牟漏山中に隠れしにて其後の子孫なりといふ。

【小松氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源

義光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を吉田有信の子、時信といふ。

【小柿氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴長といふ。

【小泉氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を清國といふ、猶日下部氏の條下を見よ。

【小泉氏】姓は清和源氏、源義光の流なり、小笠原政康六代、上松(始め植松)秦清駿河國富士郡小泉鄕に住す、其子吉次のとき小泉に改む。　家紋丸に泉文字　三文字菱　五七桐　重菱　丸に揚羽蝶

⦿家傳に泉文字の紋は綱吉公の仰によりて用ふと

吉次(今川家に仕ふ)―吉辰―養正―正信―

【小柴氏】姓は清和源氏、源義家の子、義國の後胤、立信これを稱す。

家紋五三桐　二引両　桔梗

【小高氏】姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王の後なり、立家の祖を重長といふ。

【小高氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親賴光の弟)より出づ、立家の祖を光助といふ。

【小高氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、祖を小高太郞と云ふ。

【小高氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、千葉氏より分る。

【小島氏】姓は清和源氏、源經基の子、滿政(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を重平といふ。

【小島氏】姓は清和源氏、木曾義仲の後

なり、立家の祖を義重といふ。

【小島氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ立家の祖を重時といふ。

【小島氏】　姓は宇多源氏宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を實綱といふ。　家紋丸に白鳩二

【小島氏】　姓は多治比氏宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を重光といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【小島氏】　姓は清和源氏、源賴義の子、源義綱より出づ、立家の祖を家平といふ。

【小菅氏】　姓は清源氏、源義光より出づもと小宮山を稱し正重舅小菅攝津守信久に養はるゝにより小菅と改む。

家紋打拔　丸に三菱

【小菅氏】　姓は清和源氏、源義光の流なり、武田加賀守信秋四代甲斐國住、小菅信重を祖とす。　家紋丸の内蔦櫻花

【小梨氏】　姓は桓武平氏、葛西春重四男清胤を祖とす。　陸中磐井郡東山北小梨邑を苗字の地とす。

【小笛氏】　姓は日下部氏、彥坐王の後なり、立家の祖を則方といふ、猶日下部氏の條下を見よ。

【小塲氏】　姓は清和源氏源賴義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を義躬といふ。

【小中川氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を賴定といふ。

【小早川氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を土肥實平の孫景平といふ、毛利氏より養子したる小早川隆景等著はる小早川氏一方には武田流、大内義信の後なり、後故ありて平氏に改むとなすものあり。

【小早川氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を景平といふ、前出桓武平氏より出たる小早川氏と其祖名相仝し、猶考ふべし。

【小佐平氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を永信といふ。

【小長谷氏】姓は清和源氏、吉良義繼(足利の流にして左馬頭義氏の二男)の後裔小長谷久清三河國長谷の郷に住し、後兩家に分れ、一を大長谷と稱し、一を小長谷と稱す、其後久清今川了俊に屬し、駿河國志太郡に移り住せしよりその郷を小長谷と號すこれより四代を道友とす。

家紋花輪違上藤 ⊙家傳に花輪違の紋はもと藤崩しと稱す崩字を忌みて四藤と稱へ其後又花輪違と稱す

道友(今川氏眞に仕ふ)—時重—時之……

【小荒井氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、三浦氏より分る、佐原盛連(義連二男)の五男盛時の子、頼清其子頼時、奥州會津加納庄内、荒居(大荒居、小荒居あり)を領せるにより之を稱す。居を井に作る不明なり。

【小新田氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖を義

兼といふ。

【小彈正氏】　姓は清和源氏、源頼光の後なり、立家の祖を國繼といふ。

【小船津氏】　姓は清和源氏、仝上、源頼光の後なり、立家の祖を宗繼といふ。

【子守氏】　姓は阿蘇氏、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【久我家】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の子師房に出づ、師房の孫に雅實あり、久我家の祖なり、雅實の薨は崇德天皇の大治二年にあり。　家紋龍膽丸

源師房―顯房―雅實―雅定―雅通……

【木造氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、北畠氏より分る、立家の祖を顯俊といふ、伊勢國木造城は其居城趾なり。　家紋左巴

顯俊（北畠顯能の二男）―俊通―俊康―持康―敎親

【木造氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を長政といふ。

【五島氏】　姓は清和源氏、家傳に言ふ、源義光の流、武田信義が四男有義の末流、義政の二男盛時宇久を稱し、純玄に至り五島と稱す。　肥前五島を苗字の地とす。

家紋丸に瞿麥 割菱　五島純玄―玄雅―盛利―盛次―盛勝……（肥前五島）

【五條氏】　姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ、南北朝のとき淸原頼元懷良親王に從ひ、鎭西に赴き矢部城に

居住し、家號を五條といふ。清原頼尙—

—良季—良枝—頼元(五條)—良氏……

【巨勢氏】(姓)孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、武內宿禰の子巨勢小柄宿禰の後なり。巨勢男人、巨勢德太古等著はる。

【巨勢村氏】姓は淸和源氏、源頼義の子源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を信賢といふ。

【巨勢稙田氏】(姓)孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、巨勢氏より分る。

【古志氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を義信といふ。

【古後氏】姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を道房といふ。

【兒玉氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子具平親王より出づ、立家の祖を氏行といふ。

【兒島氏】姓は宇多源氏、佐々木盛綱の孫、重範、蕃別、三宅姓を繼ぎ、兒島三宅と稱す。

【金剛氏】姓は坂戶氏、欽明天皇の皇孫坂戶眞人根麻呂の後なりといふ、立家の祖を金剛善覺といふ。

【狛氏】姓は豐原氏、天武天皇の皇子大津皇子より出づ、立家の祖を光高といふ。

【近藤氏】姓は淸和源氏、源頼淸の流、村

上(爲國を祖とす)の族なり、信濃國更科郡清野に住せしより清野を稱し、後近藤に改む。 家紋丸に鷹羽打違 上藤丸

市正(寛永頃)―宣正―正善―正則―正好―正辰……

【肥塚氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【後三條源氏】(姓) 後三條天皇の皇子、輔仁親王の子、有仁に源姓を賜はり源有仁といふ。

【後嵯峨源氏】(姓) 後嵯峨天皇の皇子、宗尊親王の子、惟康に源姓を賜はり源惟康といふ、然れども後にまた親王となる。

【後深草源氏】(姓) 後深草天皇の皇子、久明親王の孫、宗明に源姓を賜はり源宗明といふ。

【御油松平氏】 姓は清和源氏、松平信光の子則定の流なり、始め三河國五油に住せしにより此號あり、松平氏參照。

家紋丸に一葉の葡萄 丸に鳩酸草 ⦿もと葵を用ひ後憚りて葡萄の葉に改む

松平信光―則定―則忠―信長―忠次―景忠……

【高麗氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を經家といふ。 武藏七黨の一なる丹黨に屬す

【高志池氏】(姓) 垂仁天皇の皇子、五十日足彦命の後なり。

【高志國造】(姓) 孝元天源の皇子、大彦命の後なり。

【高志深江國造】(姓) 仝上、大彦命の後な

り。

【國分氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を胤道といふ。

【國分氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、爲平親王より出づ、立家の祖を有季といふ、國分、一に國府につくる。

【國府】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、平資盛より出づ、立家の祖を關盛政の子盛門といふ。

【惟原氏】(姓)天智天皇の皇子、施基王の後なり。

【許曾倍氏】(姓)孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【許呂母別氏】(姓)垂仁天皇の皇子、大中津日子命の後なり。

【紺戸氏】姓は清和源氏、源義家の子、源義時の後なり。立家の祖を義廣といふ。

【紺口氏】姓　神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【駒井氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を信盛(武田信政三男)といふ。信盛、甲斐國巨摩郡駒井鄕を領せしより苗字の地とす。　家紋　竹菱　丸に花菱　重井桁

【駒井氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を高鄕といふ。

【駒澤氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり立家の祖を提爲氏の子爲廣といふ。

【駒崎氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を清村といふ。

【駒木根氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を重實といふ。

【駒ケ嶺氏】姓は桓武平氏、平良文の後、島山氏より出づ立家の祖を重道といふ。陸貞國二戸郡駒ケ嶺村を苗字の地とす

家紋五七桐 三鱗甲

【極樂寺氏】姓は桓武平氏、平國香の子、貞盛の後なり、北條氏より分る。義時の子重時鎌倉の極樂寺に居る、由りて苗字とす。

第三章頭音さ行に屬する姓氏

さの部

【三戸氏】姓は清和源氏源義光より出づ、南部光行の後裔、利雄の男、信居を立家の祖とす。

【三田氏】姓は清和源氏、源頼光の後、能勢高頼の末流なり、攝津國三田を苗字の地とす。家紋丸に鳩酸草釘抜　政忠家康に仕ふ―政定―

|正吉―正頼―正房―直盈……

【三枝氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を正頼といふ。

【三枝別】（姓）垂仁天皇の皇子、大中津日子命の後なり。

【三條源氏】（姓）三條天皇の皇子、小一條院、及び敦平親王等の子孫に源姓を賜はる、是れ三條源氏なり。

【三分一所氏】姓は桓武平氏、平良文より出づ、鎌倉權五郎景政の後、義景相模國長江に住し、長江を稱し、其數世の孫、宗武本領の三分一を保つ故に三分一所と稱すと或は其の先に此氏を稱へたるものありといふ。

【三條坊門家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、此家號は通方より始まれり。

【左志氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る。

【匝嵯氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常綱といふ。下總匝嵯郡を苗字の地とす。

【早良氏】（姓）孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、平郡木菟より出づ。

【西條氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の條下を見るべし。

【西郷氏】姓は清和源氏、源經基より出づ、大內惟時の男信治を祖とす。

家紋 丸の內作鷹羽 菊桐 ◉菊桐は尊氏より與へらる

正員（今川家に屬し三河國西郷庄嵩山月谷城に住す）—正勝—義勝—家員—忠員—
—廣員—正員—延員—壽員—忠英—員總……

【西郷氏】姓は清和源氏源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴音といふ。

【西郷氏】姓は桓武平氏、高見王の子、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を久

義といふ。

【佐久氏】　姓は清和源氏、源頼信の子、源頼季（頼義の弟）より出づ、立家の祖を時田光平の弟家光の子高義といふ。

【佐川氏】　姓は宇多源氏、佐々木の支流深尾重良の従弟、重三の男、重忠を祖とす

【佐介氏】　姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、北條氏より分る。

【佐用氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏より分る、立家の祖を範重といふ。　播磨佐用郡を苗字の地とす。

【佐世氏】　姓は宇多源氏、佐々木の支族なり、佐々木秀義五男義清の後胤清信出雲國大原郡佐世郷に住み、在名を苗字の地とす。

【佐田氏】　姓は村上源氏、北畠政郷より出づ、具忠の男直昌徳川氏に仕ふ。

家紋　片輪車　菊桐

【佐代氏】　（姓）　崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なり。

【佐多氏】　姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を忠光といふ、猶島津氏の條下を見るべし。

【佐竹氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、義光より出づ、義光の子に義業あり。其子、昌義始めてこれを稱ふ、門葉大に廣し。　常陸國久慈郡佐竹郷を苗字の地とす。

家紋　五本骨の扇に月　源氏香の圖　◉扇の紋は文治五年七月頼朝陸奥國秀衡を征するさき先祖秀義の持ちし旗白くして將軍と別なきを以て頼朝月を畫きたる扇を賜ひ旗の上に着けしむ之れよりのち代々家紋とすさ

義業―昌義―隆義―秀義―重義……
―義宣―義隆―義處―義格（出羽秋田）◉家紋前出
―義長―義道（同秋田新田）◉輪内五本骨扇に月

【佐々氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を佐々木盛綱の孫氏綱といふ氏綱上總國佐々庄に住せしより在名を苗字の地とす。家紋櫻樹葉寺圖

氏綱……長治（天正年頃）―長成―長次―隆直―成澄……

【佐志氏】姓は嵯峨源氏、源融より出づ松浦氏の支流なり。

【佐那氏】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【佐伯氏】（姓）景行天皇の皇子、稻背入彦命の後なり。

【佐味氏】（姓）崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なり。

【佐河氏】姓は在原氏、平城天皇の皇子阿保親王より出づ、在原業平の後なり、立家の祖を眞行といふ。

【佐治氏】姓は桓武平氏、立家の祖を爲綱といふ。

【佐保氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ佐々木氏より分る、立家の祖を時綱といふ。

【佐脇氏】姓は淸和源氏、源經基の後胤なり、佐脇盛重三男、安連織田信秀に仕ふ　家紋鵜の丸笹龍膽

【佐賀氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を常範といふ。

【佐渡氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政滿仲の弟)より出づ、立家の祖を重忠といふ。

【佐野氏】姓は宇多源氏、佐々木氏より分る、立家の祖を朝高といふ。

【佐原氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義連といふ。 相模國三浦郡佐原を苗字の地とす、義連は鎌倉初代の人なり。

家紋丸に三引 丸に二引　三浦義明—義連(佐原)—
　—盛連(義連一男)…良信—泰信—吉久—
　—良之—良重……

【佐原氏】姓は清和源氏、同上佐原義連十九代の孫、高處より系現はる。

家紋藤の丸二引 丸に二引
高處—元久—元村—元正—義勝—正房……

【佐久間代】姓は桓武平氏、平良文の後なり。 三浦氏より分る、賤か岳の戰に、有名なる盛政は其後なり。

【佐久間氏】姓は桓武平氏、平良文の流、三浦義明の後裔、家村これを稱ふ、安房國佐久間庄を苗字の地とす。 家紋圈の內三引

【佐久良氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義綱義家の弟)より出づ、立家の祖を實高といふ

【佐分利氏】姓は桓武平氏なり。

【佐川田氏】姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王の後なり、佐川田昌俊等、著はる

【佐世保氏】 姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融より出づ、松浦氏の支流なり。

【佐良木氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子源賴光の後なり、立家の祖を光俊といふ。

【佐々木氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、立家の祖を扶義(花山天皇頃の人)といふ、門葉大に廣し。近江國蒲生郡佐々木莊を苗字の地とす。

家紋 四目結 桐臺

敦實親王—源雅信—扶義(佐々木)—
—成賴—義經—經方—季定—秀義—
—定綱—廣綱……
—信綱……

【佐々毛氏】 姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を平賀盛義の子安義といふ。

【佐那田氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり。

【佐々木野氏】 姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、立家の祖を資雅といふ。

【佐々貴山氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【里見氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重の後なり、立家の祖を義俊といふ。 上野國碓氷郡里見村を苗字の地とす。

新田義重—義俊(里見)—義成—義基—
—(六代畧)—義實—成義—義通—義豐—
—義堯—義弘……

【里見氏】 姓は清和源氏、源義家の後新

田の支流なり、貞倶山下を稱し、男義永里見に改む。　家紋五七桐 二引龍 十六葉菊

貞倶―義永―政重―義刻―貞丈―義章……

【作原氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を義連といふ。此氏は後にあぐる佐原氏と全一のものなるべし。

【坂氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、賴光の流なり、醫士として坂士佛等名あり士佛は足利初代の人なり。　家紋三桔梗

賴光……土岐光信―坂光角―維良―
―維光―光元―光春―光忠―九佛―
―十佛―士佛……

【坂戸氏】　姓は文德源氏、文德天皇の皇子、源能有の後裔なり、立家の祖を康季といふ。

【坂田氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を重茂といふ。

【坂田氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を貞賴といふ。

【坂田氏】　姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を小鹿野時景の弟大藏左衞門季時といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【坂内氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子具平親王の後、北畠氏より分る。

【坂本氏】　姓は淸和源氏、源義光より出づ、佐竹昌義の後裔、小瀨義春の末孫なりと。　家紋丸に開き扇十本骨　⊙家紋に始めは五本骨を用ふといふ

坂本貞重(信虎信玄に仕ふ)―貞次―貞吉――

【坂本氏】(姓)孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、紀角宿禰より出づ。

【坂地氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親(賴光の弟)より出づ、立家の祖を石川家光の孫光重といふ。

【坂部氏】姓は桓武平氏、平高望より出づ、子孫參州坂部に住す、坂部正利二男又六郎某の男勝之家康に仕ふ。

家紋 丸に横木瓜 三つ葉笹 五三桐

【坂梨氏】姓は阿蘇氏、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【阪田氏】(姓)繼体天皇の皇子、仲王の後なり。

【阪田氏】(姓)應神天皇の皇子、稚停毛二派王の後なり。

【阪田酒人氏】(姓)應神天皇の皇子、稚停毛二俣王の後なり。

【阪合部氏】(姓)孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【相模氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を重時といふ。

【相馬氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良將の後なり、良將の子將門始めて之を稱ふ。然るに師常千葉常胤の二男を以て、相馬氏を相續するに及び、平良文の系に移れり。將門下總國相馬郡に居りしより在名を苗字の地とす。家紋 龜甲に花菱 九曜 繫駒

平良將―將門(相馬)―文國―兼賴――

重國—胤國—師國—師常(養子)—
義胤…盛胤—義胤—利胤……(奥州中村)

【酒井氏】 姓は清和源氏、これ徳川氏の幕下として有名なる酒井氏なり、傳へ言ふ、徳川親氏壯年諸國を經歷し、參河尾張の堺に至る、堺に坂井川あり、其邊を坂井郷といふ、親氏郷人坂井五郎左衛門の聟となり子、廣親を生む、廣親坂井を以て氏となし、後坂井を酒井と改む、是れ清和源氏を稱ふる所以なりとす。代々徳川氏の旗下に仕ふ。

酒井廣親—康忠—
忠通—忠次—家次—忠勝—
忠當……(出羽岡)◉家紋 丸に鳩酸草 澤潟
忠恒……(同松山)◉家紋 隅入角に鳩酸草 井澤潟

家忠—信親—家次—清秀—正親—
重忠—忠世—忠行—忠清—
忠擧……(播磨姫路)◉家紋 丸に劍鳩酸草 中黒 丸に花澤潟 篆書日文字
忠寛……(上野伊勢崎)◉家紋 丸に劍鳩酸草
忠利—忠勝—忠朝……(安房勝山)◉家紋 黒餅の内 劍鳩酸草 井筒
忠直—忠隆……(若狹小濱)◉家紋 丸に劍鳩酸草 井筒
忠稠……(越前敦賀)◉家紋 丸に劍鳩酸草 井桁

【酒井氏】 姓は桓武平氏平良文の子、平國香の後なり、立家の祖を政家といふ。

【酒井氏】 姓は清和源氏、金森可重の七男重澄金森を改めて酒井を稱す。

家紋 丸に劍鳩酸草 裏梅鉢 重稿甲の内花菱 ◉先祖重澄酒井を稱するときより劍鳩酸草を家紋とす

重澄—重知—重英—可賽—忠美……

【酒井氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の流、土肥實平の後なり。 實明のと

き酒井に改む。　家紋鍬鳩酢草 檜扇（一に丸の内澤瀉）

實柔（永祿年頃）……實明―實重―實次―實勝―

―豊忠……

【酒人氏】（姓）　開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【酒人氏】（姓）　繼体天皇の皇子、鵜鷀皇子より出づ。

【酒依氏】姓は清和源氏、源頼義の［子、源義光より出づ、武田氏の末流板垣兼信の後、昌光甲斐國山梨郡酒依郷に住せしより在名を苗字の地とす。　家紋花菱 割菱

【酒部氏】（姓）　景行天皇の皇子、神櫛別命の後なり。

【狹々貴山氏】（姓）　孝元天皇の皇子、大彦命より出づ。

【笹川氏】　姓は清和源氏、源義光次男武田義清の後裔、三好義堯長男昌長を祖とす。

【眞田氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義忠といふ。　相模中郡眞田村を苗字の地とす。

三浦義繼―義實（岡崎）―義忠（眞田）―實忠

【眞田氏】　姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を幸隆といふ、これ信州眞田昌幸の父なり、猶滋野姓につき疑あり、滋野氏の條下を見るべし

家紋洲濱 六連錢 雁金　◉はじめ洲濱を用ひ幸廣のとき六連錢に改む

海野幸恒……幸親（義朝に屬す）―幸廣……

幸隆(眞田)—昌幸—信之—信政
　　　　　　　　└幸村
幸通—信弘……(信濃松代)

【座光寺氏】 姓は清和源氏、源爲義の流にして、爲朝伊豆國大島を去て信濃國伊奈郡下條に住し數代の後同郡座光寺村に移り住せしより在名を苗字の地とす。

爲時—爲重—爲眞—爲治—爲勝……
家紋丸に違鷹羽左重　爲清(一に爲秋信玄に屬す)

【雀部氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【雀部氏】 (姓) 神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【嵯峨源氏】 (姓) 嵯峨天皇より出づ、嵯峨天皇の皇子女五十余人、天皇其國費の增多せんことを恐れ、三十余子に源氏の姓を賜はる、即ち信、弘、常、融、貞姬、潔姬等、是れなり、渡邊氏、松浦氏等これに出づ、嵯峨源氏の人は其名、多く一字名なるを注意すべし。

【堺氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、立家の祖を實能といふ。

【堺氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る。

【棧敷氏】 姓は清和源氏、源賴義の子、源義綱(義家の弟)より出づ。

【稅所氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を成忠といふ

【猿子氏】姓は清和源氏、源満仲の子、源頼光より出づ、土岐氏より分る、立家の祖を國衡といふ。

【境氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を家盛といふ。

【境野氏】姓は桓武平氏、秋保則盛次男盛久を祖とす。上野國秋保郷境野を苗字の地とす

【榊原氏】姓は清和源氏、源義國の子、足利義康の後、花房職之の二男職直家康の命により榊原に改む。家紋（源氏車 蛇目）

職直—職信—職房—職久　職仲—職長—

—職尹……

【榊原氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、立家の祖を利長といふ、これ榊原康政等の先祖なり。利長、伊勢國一志郡榊原村に住せしより在名を苗字の地とす。家紋（車輪 九曜）◉家傳にもとは五七桐を用ひしが利長のとき車輪に改むと

仁木義長—満長—

満將—敎將—貞長—利長（榊原）—勝長—

—青長—長政—康政—康勝—忠政—（越後高田）

【澤氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を信實といふ。

【澤家】姓は清原氏、天武天皇の皇子舎人親王の後なり、この家號を稱へたるは忠量に始まる。忠量の薨去は桃園天皇の寶暦四年にあり。

【澤氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、此家號は師房の子

師忠より始まる。

【澤井氏】　姓は清和源氏、源頼親の流なり、川尻有光の男三郎元光を祖とす。

【澤田氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼親（頼光の弟）より出づ、立家の祖を光義といふ。

【澤田氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を定高といふ。

【澤俣氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を周防部定重の弟四郎定幸と云ふ。

【齊木氏】　姓は桓武平氏、村山元頼の後裔、奥州信夫郡齊木村住人泰忠を祖とす

家紋三鱗　丸の内井筒　上羽蝶　五七桐

【齋田氏】　姓は宇多源氏、佐々木義清の後胤、二位田元氏、和泉國松浦に住す、其男元就の子元定初め松浦を稱し、後二位田に復し元次のとき齋田に改む、

家紋丸に水澤瀉　丸に桔梗

元定―元次―元勝―元利―元信―元道……

【齋藤氏】　姓は清和源氏源義光の後なり、武田氏より分る、齋藤法眼某の二男幸恭、櫻井信忠の養子となり、櫻井を稱し、後齋藤に復す。　家紋丸に瞿麥　割菱

【篠山氏】　姓は村上源氏、北畠雅家の後胤なり、親忠の二男、親紀伊勢國五箇の篠山に住せるを以て在名を苗字の地とす

家紋花横木瓜に二引（一に木瓜）　菊　五七桐　三巴　景助（右府に仕ふ）―

資家（一に景保）―資友―資良―資門……

【櫻井氏】 姓は清和源氏、源義光の流、加賀美氏の後なり、泰治信濃國佐久郡櫻井村に住みしより在名を苗字の地とす。 家紋 九曜 鷹羽菱 松皮菱 舞鶴、

【櫻井氏】 姓は清和源氏、松平內膳正清定を祖とす、一に信高を祖とす 正善のとき堀正信の家號を繼ぎ、堀を稱し、後櫻井に復す。

【櫻井氏】（姓） 孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、蘇我稻目より出づ。 家紋 丸に二葉葵（一に梅鉢） 櫻 九曜

【櫻井氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、信定のとき甲斐國山梨郡櫻井邑に住せしにより在名を苗字の地とす。 家紋 横瓜菱 九曜 割花菱 六櫻花

【櫻井氏】 姓は安倍氏、孝元天皇の皇子大彥命の裔なり、信濃國司次郎光高、同國櫻井に住し櫻井を稱す。 家紋 九曜星 丸內櫻

【櫻庭氏】 姓は宇多源氏、佐々木氏の支流なり、櫻庭光康、南部利直に仕ふ。

家紋 一日結

【櫻澤氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を宗氏といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【櫻邊氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、義綱、義家の弟より出づ、立家の祖を實久といふ。

【櫻井松平氏】 姓は清和源氏、松平長親の子信定の流なり、三河國櫻井に住せしより此號あり、松平參照。 家紋 九曜 蛇目 櫻 ◉家傳にもとは葵を用ひしが忠重のときより憚りて常は九曜以下三つを用ひ武器にはなほ葵を用ひたりと

松平長親─信定─清定─家次─┬忠正
　　　　　　　　　　　　　└忠吉─
┌忠頼─忠重─忠倶……（攝津尼崎）

【讃岐氏】（姓）景行天皇の皇子、神櫛別命の後なり。

しの部

【七美氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を長高といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【七條氏】姓は村生源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏より分る、立家の祖を光則といふ。

【下山氏】姓は清和源氏、秋山光朝の男小太郎光重下山を稱す、甲斐國下山村を苗字の地とす。家紋三階菱釘抜

【下石氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を頼近といふ。

【下坂氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を重秀といふ。

【下舟氏】姓は桓武平氏、平國香より出づ、立家の祖を忠成といふ。

【下妻氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、大掾氏より分る、立家の祖を弘幹といふ、常陸國新治郡下妻を苗字の地とす。

【下家氏】（姓）神武天皇の皇子、彦八井耳命の後なり。

【下養氏】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入

彦命の後なり。

【下條氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼清(頼義の弟)より出づ、村上氏の支流なり、立家の祖を家盛といふ。

【下條氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原氏の支流なり。立家の祖を長能といふ。

【下瀬氏】姓は清和源氏、源義朝の子、源範頼の後なり、立家の祖を頼世といふ、三河國下瀬を苗字の地とす。

【下道氏】(姓) 孝靈天皇の皇子、稚武彦命の男、吉備武彦命の後なり。この姓は備中下道郡に居りしより起る。

【下斗米氏】姓は桓武平氏、平良將の後なり、始め相馬なりしか將屋、陸奥三戸郡關村に住し、關を稱し其後同國二戸郡下斗米に住し在名を苗字の地とす。

家紋 鳩酸草 繋馬 相馬九曜

【下毛野氏】(姓) 上毛野と仝祖、崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり、子孫下野附近に蕃殖す、下毛野氏より分れし氏々には下毛野川内氏、下毛野俯見、下毛野靜戸氏、下毛野陸奥氏等あり。

【下曾根氏】姓は清和源氏、武田の流なり立家の祖を武田信重の五男、賢信といふ

家紋 割菱の内花菱 輪寶

【支利井氏】姓は清和源氏、滿仲の弟滿政の流なり、立家の祖を富塚正佐の弟太郎定隆といふ。

【四戸氏】姓は清和源氏、武田氏の流、南

部光行の子宗朝始めてこれを稱ふ。

【四竈氏】姓は清和源氏、足利氏の支流大崎家兼の後裔、隆秀陸前加美郡大崎に居城せるを以て在名を苗字の地とす。

【白川氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を重義といふ。

【白川家】姓は華山源氏、華山天皇の皇子、清仁親王の後なり、世々神祇伯となる故に又伯家ともいふ。

【白土氏】姓は桓武平氏、平高望王の後岩城安忠の後胤、隆治陸眞國岩城白土城に居る、依て在名を苗字の地とす。

【白戸氏】姓は桓武平氏、平國香の流、はじめ白土を稱し、岩城右近大輔隆良三男隆宗の後、白戸に改む。

【白井氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子源融の後なり、渡邊氏より分る、立家の祖を基といふ。

【白井氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を親信といふ。

【白井氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を胤時といふ。

【白石氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫親王の後なり、立家の祖を行員といふ、猶越智氏の條下を見よ。

【白岡氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を澄意といふ、武藏七黨の一なる野與黨に屬す。

【白地氏】姓は桓武平氏、立家の祖を小二郎屋衡といふ。

【白鳥氏】姓は安倍氏。奥州安倍氏より分る、立家の祖を則任といふ。

【白鳥氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を行房といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【白鳥氏】姓に清和源氏、源義光の後、佐竹氏の族なり。

【白須氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を貞信といふ。家紋 鍋甲輪違 丸に鷹羽

【庄田氏】姓は清和源氏、足利義國の末流、庄田安弘五代安守の三男安次はじめ吉武を稱し、のち庄田に復す。

家紋 根引菊 五三桐 鹿角の一輪菊 結雁金

安信(一に安次)—安照—安勝—安利—安通……

【庄田氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、立家の祖を貞房といふ。

【宍人氏】(姓) 孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【宍道氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を京極高秀の男秀益といふ。出雲宍道を苗字の地とす。

【志水氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子より出づ、立家の祖を小島重光二男三郎光俊といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【志田氏】姓は清和源氏、源爲義の子、義

廣これを稱ふ。

【志佐氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子源融より出づ、松浦氏より分る。

【志村氏】㊂姓は清和源氏、源義光の流、信州佐久郡野澤の城主伴野時直の後、甲斐國の住、志村眞武より出づ。

家紋 鶴の丸内一の字 丸の内五つ丁字

【志村氏】姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王より出づ。代々近江國新村城に住す、よりて新村を稱し、資良の時志村に改む。家紋揚羽蝶

惟章(高階成佐の男)—惟頼

資則—資良—資只—資長—師平

【志茂氏】姓は桓武平氏、其先瀬尾形部某より出づ、數世の後、下と稱し、重綱の子重元に至り義山公の命により下を志茂に改む。

【志紀氏】(姓)神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【志賀氏】姓は清和源氏、源義國の子、足利義重より出づ、はじめ山名なりしが豊繼のとき海老名を稱し、政近のとき南條を稱へ、定繼に至りて外家の號を冒して渡邊と號し、志賀に改むと。家紋 七葉の根笹桐

【志賀氏】姓は宇多源氏、佐々木成頼次男成經を祖とす、江州滋賀郡を苗字の地とす。

【志摩氏】姓は清和源氏、源頼義の子源義光の後なり、立家の祖を忠義といふ。

【志津利氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ。立家の祖を通友と

いふ。

【尙氏】（姓）もとの琉球國王、源爲朝の後裔なりといふ。

【芝井氏】姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を氏淸といふ。

【芝山氏】姓は村上源氏、敦實親王より出づ、三河國住芝山正家の後なり。家紋丸の内五本骨開扇 五三桐 ⦿扇の紋は正家の男正員軍功により家康より賜はると

【芝田氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり。

【芝居氏】姓は淸和源氏、源賴光の後なり。

【信太氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、相馬氏より分る、立家の祖を文國といふ。

【信濃源氏】源經基の子、源滿快（滿仲の弟）の子孫、信濃國に蔓延す、これを信濃源氏といふ。

【品川氏】姓は淸和源氏、源義國（義家の子）の子足利義康より出づ、今川氏の支流なり、立家の祖を高久（今川氏眞二男）といふ。家紋丸に引兩筋 五三花桐

【品川氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、立家の祖を淸實といふ。

【科野國造】（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【重田氏】姓は淸和源氏、源經基の子、滿政の流なり、信濃國の住人、重田守滿の後なり。家紋丸の内梶葉 井桁

【重栖氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を宗茂といふ。

【重見氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通方といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【城　氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を貞成といふ。其支族は、本國越後國古志郡の地名によりて玉虫を稱號とす。其城氏といふは貞成の父繁成より世々秋田城介たりしによる。家紋花輪違の内花菱 花輪違の内八劔

平繁盛―維茂―繁成―貞成（城）―永基―助國……

【茂野氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後、紀角宿禰の後裔なり。

家紋丸に鳩酸草 九曜

【神保氏】 姓は清和源氏、足利義康の後吉田義博より出づ、義博十一代守壽男豊壽徳川氏に仕ふ。家紋十六葉菊

【神保氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の流なり、立家の祖を經忠といふ。家紋丸に二引龍 蔦の葉

【神宮寺氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏より分る、祖を六郎某といふ。

【柴山氏】 姓は村上源氏、具平親王より出づ、永良則春の弟、民部少輔範隆を祖とす。

【柴田氏】 姓は清和源氏、源義光の流、小笠原政康（小笠原の始祖遠光より十二代）

の三男、左京友政三河國額田郡柴田郷に住せしより在名を苗字の地とす。
家紋丸に三階菱 丸に五行 下藤の内一文字
友政―政成
政秀―政忠―政之―康忠(文祿年頃)―
康長―康久……

【柴田氏】姓は清和源氏、斯波氏の支族にして、始祖義勝越後國柴田城に住せしより在名を苗字の地とす。 家紋丸に二雁金 瓜
美勝…勝家―勝政―勝重―勝次
勝興―勝門―勝富……

【柴村氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、朝比奈氏より分る、立家の祖を正次といふ、正次武藏國柴村に生るゝにより柴村に改む。 家紋三頭左巴 五三桐

泰雄(朝比奈道半の二男)―直正―正次―正重―安氏……

【柴野氏】姓は桓武平氏、平良文の後、土肥實平の後裔、柴野重祐の後なり。
家紋五三桐 巴

【柴崎氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重宗といふ。

【島氏】(姓)天武天皇の皇子、舍人親王の曾孫、大湯坐王より出づ。

【島氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、豐臣時代に、島左近あり著はる。

【島氏】姓は桓武平氏、織田氏より分る、先祖一正美濃國島村に住せしより在名を苗字の地とす。 家紋五七桐 揚羽蝶 瓜
信正(織田信定の男)―一正―正利……

【島氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を忠義といふ。

【島山氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏につきての疑は其の條下を見るべし。

【島本氏】姓は清和源氏、源頼信の子、頼清(頼義の弟)より出づ、村上氏より分る、立家の祖を惟國といふ。

【島立氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を氏長といふ。

【島田氏】姓は清和源氏、源義光の後、平賀盛義の後裔にして信濃國島田庄に住せしより在名を苗字の地とす。

家紋 龜甲輪違 九曜　盛相(元祿年頃)—盛貞—盛敷—

—盛暎……

【島田氏】姓は桓武平氏、平國香の後なり、立家の祖を氏幹といふ。

【島田氏】(姓) 景行天皇の皇子、大碓命の後なり。

【島田氏】(姓) 神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【島田氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、土岐氏より分る、立家の祖を滿貞(土岐頼康の二男)といふ。

家紋 丸に三割劔花菱 單桔梗

【島津氏】もと惟宗氏なり、中頃藤原氏を稱へ、家久に至り清和源氏を稱ふ。今普通行はるる系圖に從ひ、暫くこれを清和源氏に納む。其清和源氏となす理

由は、家傳によれば、比企能員の妹丹後局源頼朝に任へ寵愛渥し、其孕めるや夫人政子の嫉妬を避け、西國に赴き住吉に至り一子を生む、即ち島津氏の祖忠久なり忠久惟宗氏の婿となり、惟宗姓を冒すと云ふにあり。然れども確説となすを得ず、又吉見系圖によれば忠久は初めより惟宗廣言の子なりとなす。而してこれ却て當時の事實に合するものゝ如し、故に大日本史には、島津氏を以て惟宗氏の系に入れたり。因にいふ、惟宗氏は、秦の始皇帝の後、功満王の子融通王の苗裔なり、猶蕃別の部を見よ、次に藤原氏を稱へたるは、祖忠久より義久義弘に至るまでにして、其故は島津忠久近衛殿に謁し藤原氏を賜はりしによる。

忠久—忠業—久經—忠宗—貞久—氏久—
—久豐—忠國—友久—忠幸—
—忠良—貴久—義久
—義弘—家久（薩摩鹿兒島）◉家紋 牡丹 桐 丸に十文字
◉十文字の紋は頼朝より忠久に與へられ牡丹桐の紋は近衞基通公より賜はる所なりと
—忠將—次久（日向佐土原）◉家紋 鳩酸草 牡丹 丸に十文字

【島根氏】（姓）敏達天皇の皇孫、百濟王の後なり。

【島崎氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、大椽氏より分る、立家の祖を島崎二郎といふ。常陸國行方郡島崎を苗字の地とす。

【清水氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源

頼光の後なり、立家の祖を頼兼といふ。

【清水氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を長遠といふ。猶中原氏の條下を見よ。

【清水氏】姓は清和源氏、源義賢の子、木曾義仲の後なり、立家の祖を義豊といふ

家紋下藤の内水文字　家次(一に政晴)—政吉—政利—吉春—政聲……

【清水家】姓は清和源氏、徳川將軍家の支流なり、九代將軍家重の子、重好始めてこれを稱す。

徳川吉宗—家重—重好(清水家)……

【斯波氏】姓は清和源氏、源義國義家の子)の子、足利義康の後なり、立家の祖を家氏といふ。これ足利時代管領の一として有名なるものなり。

足利義康—義兼—義氏—家氏(斯波)—宗家—家貞—高經—義將—義重—義淳—義郷—義健—義敏……

【順徳源氏】(姓)　順徳天皇の皇子、忠成王の子、彦仁源姓を賜はる。

【椎木氏】姓は桓武平氏、立家の祖を千葉讃岐守胤房の子、河内守胤繼といふ。

【椎田氏】宣化天皇の皇子、上殖葉皇子より出づ。

【椎名氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤光といふ。

【椎崎氏】姓は桓武平氏、仝上平良文の後なり、立家の祖を胤資といふ。

【進氏】姓は村上源氏、具平親王の後

赤松政則の猶子義村の二男成村を祖とす。家紋 三本扇の丸 丸の内一文字 三頭左巴 岩に竹 岩に唐松 ◉家傳に三本扇の紋は喜太郎成之松平信綱に養はれしより彼家の紋を用ふと

義村―成村―成季―成時―成政―成之―成久……

【進氏】姓は紀氏、海六兵衛成盛の後なり、成盛は壽永の頃の人、子孫伯耆美作に蕃衍す。書紀權守成衡の子、家盛を立家の祖とす。

【進藤氏】姓は清和源氏、源頼政の三代乙部慈賢の後胤なり、代々伊勢氣多郡乙部郷、及越中小針原庄内靜林寺等の地頭職たり、政貫のとき尊氏に仕へ、正次のとき信長を憚りて外家の號進藤に改めしも其姓は改めずといふ。家紋 丸に矢筈 丸に三引 ◉矢筈は乙部の家紋なり進藤に改めしより三引をも用ふ

【新庄氏】姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり、立家の祖を資頼といふ

【新見氏】姓は清和源氏、源義家の流、細川頼春の後胤なり、正成の男正吉外戚の號新見を稱し、のち家康の仰により新見と唱ふと。家紋 丸に一葉蘆 三本杉 ◉家傳に一葉蘆は家康より賜はると

【新村氏】姓は高階氏、天武天皇の皇子高市皇子の後、高階岑緒より出づ、新村資廣を祖とす。家紋 丸陰桔梗 陰菊

【新宮氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を資貞といふ。

【新宮氏】姓は清和源氏、源爲義の子、行

家これを稱ふ。

【新開氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を源覺といふ。

【新添氏】姓は安倍氏、奥州安倍氏の支流なり、立家の祖を右京佐某とす。

【新檀氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、石清水の神主、紀氏よりの分派なり。

【滋水氏】（姓）光孝天皇の皇子、清實滋水の姓を賜はる。

【滋原氏】（姓）應神天皇の皇子、稚停毛二俣皇子の後なり。

【滋野氏】（姓）本書には、滋野氏を以て清和天皇に出づとなす、これ通俗に行はるゝ系圖によりしものにて、帝國圖書館本、諸家系圖纂及び改選諸家系譜によれば、清和天皇の皇子、貞保親王あり、親王の孫に善淵王あり、王姓を滋野と賜はるとあり、然るに、大日本史によれば海野系圖に曰はく、淸和天皇の皇子貞秀親王、信濃白取莊に居り、其孫善淵王始めて姓を滋野と賜はる、即ち海野氏の祖なりとあれども、今、皇胤紹運錄、尊卑分脈等に見るに清和の皇子に、貞秀といふものなし、多分誤りなるべしとの旨を載す、更に滋野氏を以て清和天皇に出づとなすは、大に疑ふべきものなり、帝國圖書館本に、貞秀親王となくして、貞保親王とあるは、後人貞秀親王の全く架空の人物なるを見て、實

在の貞保親王に改竄せしものならん、然らば滋野氏の出自を何れとなすに、大日本史には神別神皇産靈命の後に滋野氏あるを以て、是れを以て海野氏の先祖に當るものとなせり、本書には前述の如く舘本の如く、清和天皇に系すると、共に玆に疑を存し、後人の研鑽を待つことゝせり。

【澁川氏】 姓は清和源氏、源義國の子、足利義康の後なり、立家の祖を義顯といふ

足利泰氏—義顯(澁川)—義春—貞頼
　　　　—義季—直頼……

【澁江氏】 姓は桓武平氏、平良文の後、千葉の庶流なり、代々武藏國岩槻の澁江に住するを以て在名を苗字の地とす。

家紋五瓜の内唐花 銀杏

景胤(足利義氏に仕ふ)—好胤—氏胤—直慰—直治……

【澁江氏】 姓は桓武平氏、仝上平良文の後なり立家の祖を經遠といふ、武藏七黨の一なる野與黨に屬す。

【澁谷氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重國といふ。相模高座郡澁谷庄を苗字とす。

平良文—忠頼—將恒—基家—重家
　　　　—重國(澁谷)—高重……

【慈光寺家】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、此家號は仲淸より始まる。

【標葉氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を隆義といふ。

【篠塚氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、畠山、秩父より分る。

【篠原氏】 姓は清和源氏、足利義康の後なり、桃井義胤の後裔、忠義近江國篠原に住し在名を苗字の地とす。

家紋 丸の内葉笹 二引兩 十六葉菊

忠義―正次(後に勝則)―勝重―勝忠―重寛―勝就……

【鹽屋氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、葛城襲津彦より出づ。

【鹽屋氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を頼泰といふ。

【鹽屋氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を竹淵時胤の弟太左衛門朝信といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【鹽田氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、北條氏より分る立家の祖を義政といふ。

【鹽松氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、奧州斯波氏より分る、立家の祖を持義といふ。

す の 部

【末弘氏】 姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を資忠といふ、猶島津氏の條下につき見るべし。

【末里氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を長村といふ。

【末野氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の弟)の子、足利義康の後なり、立家の祖を氏經といふ。

【角南氏】 姓は桓武平氏、平良文の後千葉常胤の後胤なり。重秀備前國角南に住せしより在名を苗字の地とす。家紋角折敷の内に一文字 角の内に月星

【角倉氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より出づ吉田宗桂の長男光好を祖とす。家紋扇地紙の内鳩酸草 四目結

光好—玄之—玄紀—玄通—玄恒……

【住吉氏】 (姓) 崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり。

【杉田氏】 姓は宇多源氏、佐々木高秀の六男多田滿秀の後裔なり、忠吉のとき杉田を稱すと。家紋鳩の丸 四目結

【杉本氏】 姓は清和源氏、源爲義より出づ、杉本爲國を祖とす。家紋丸に笹龍膽 三つ蔦

【杉本氏】 姓は桓武平氏、椙本氏に全じ頼光の後なり、立家の祖を頼綿といふ。

【杉原氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、立家の祖を義之といふ。

【杉原氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の子、貞盛の後なり、立家の祖を光平といふ。杉原家利の男木下家定はこの光平の裔なりと。家紋荻の丸 ◉又裏蔦を用ふといふ

貞衡—正度—貞清…清綱…維綱—良平—恒平—光平—員平—恒清……

【杉坂氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後、和田氏の流なり、立家の祖を元綱といふ。

【杉岡氏】　姓は清和源氏、源頼親の後なり、杉岡重種を祖とす。　家紋鉞鳩酸草

【杉浦氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、先祖杉本義國は三浦の族なり、其父和田義盛滅亡の後近江國に蟄居す、この時より三浦杉本の一字づゝを取りて杉浦に改む。　家紋丸に三松皮菱　丸に横三引

義國―政重(延德年頃)―政次―吉貞―勝吉
　　―勝次―吉久……

【周布氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の條下につきて見るべし。

【周西氏】　姓は桓武平氏、平良文の後なり、上總氏より分る。

【周防氏】　姓は後三條源氏、後三條天皇の皇子、輔仁親王の後なり、立家の祖を經政といふ。

【周防氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を元宗といふ、一に胤宗に作る、胤宗周防椽たるにより後これに因りて苗字とする。

【周東氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、上總氏より分る。

【周波部氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ、辻岡基齊の弟太郎定重を祖とす。

【洲原氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源

其條下を見るべし。

【須立氏】 姓は清和源氏、天武天皇の皇子、舎人親王より出づ、立家の祖を通助といふ。

【須佐氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【須田氏】 姓は清和源氏、源頼信の子、頼季(頼義の弟)より出づ、井上氏より分る、立家の祖を高梨盛光の弟爲實といふ。 信濃國須田を苗字の地とす。 家紋丸に揚羽蝶・松皮菱

【須賀氏】 姓は桓武平氏、平良兼五代山邊禪師頼尊四代中村座主宗平より出づ土肥の一族なり。

【須黑氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、高家の祖を頼高といふ。 村山黨に屬す、須黑一に勝呂につくる。

【須久毛氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を經元といふ、武藏七黨の一なる野與黨に屬す。

【須保木氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通助といふ、猶越智氏の條下を見よ。

【椙生氏】 姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、立家の祖を友經といふ

【椙本氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を義宗といふ。

【勝呂氏】 姓は桓武平氏、須黑氏に同じ須黑氏の條下を見よ。

【菅井氏】 姓は清和源氏、源義家の子、義國の後裔、盛秀を祖とす、盛秀始め畠山を

稱し、越前菅名郷に住し、在名を苗名の地とし、後菅井に改む。

【菅谷氏】　姓は清和源氏、源義光の流、秋山光朝の庶流なり。　家紋亀甲の内菊 松皮菱

【菅谷氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、立家の祖を勝貞といふ。　家紋亀甲に十葉菊（一に亀甲に根菊） 亀甲に三巴 桔梗

惟頼（中納言貞雄の男）―貞頼……範政―範貞
　　　―範重―政照―範平―貞寄……

【菅生氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を小倉經孝の子有孝といふ。武藏七黨の一なる横山黨に屬す、猶小野氏の條下を見るべし。

【菅沼氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、立家の祖を定吉といふ、美濃國菅沼を苗字の地とす。　家紋桔梗 釘貫

【菅波氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を隆行といふ。

【鈴木氏】　姓は清和源氏、松平信光より出づ、家勝三代重友繼父の苗字を冐し鈴木と稱す。　家紋下藤 蔦

【摺澤氏】　姓は清和源氏、源義家の後、新田氏より出づ、陸中磐井郡東山摺澤を苗字の地とす。

【墨俣氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、土岐氏より分る、立家の祖を周催（土岐頼貞子）といふ。　美濃國安八郡墨俣を苗字の地とす。

【諏訪氏】　科野國造家（神武天皇の皇子

神八井耳命の孫、建五百建命より出づ)の後なり。

【諏訪氏】姓は清和源氏、源滿快の後、手塚氏の末裔、村上正則北條氏直に屬し、後信州諏訪郡金子村に住し、母方苗字小澤を號し、知榮に至り諏訪に改む。

家紋 抱鹿角 鶴丸 丸に三本穀葉

【諏訪氏】姓は清和源氏、源滿快の後なり、立家の祖を盛重といふ。信濃諏訪郡を苗字の地とす。家紋 丸に三葉根あり穀(一に白地に三葉黑梶) 鶴の丸

◉はじめ梶葉數葉を用ふ後一家の末葉に他氏多き故に一葉をさりて彼等に與へしにより三葉を用ふといふ

依田爲實……盛重(諏訪)—盛經—宗經—賴忠—賴水—忠恒—忠晴……(信濃高島)

【諏訪部氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を快衡といふ。家紋 梶葉 九曜の星

【薄氏】姓は多治比氏宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を泰房といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

せの部

【千田氏】姓は清和源氏、源賴信の子、源賴清(賴義の弟)より出づ、村上氏の庶流なり立家の祖を仲淸といふ。

【千田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常房といふ。常房また鴨根氏を稱す。

【世木氏】姓は清和源氏、足利氏の支流今川氏の末葉なり、遠州世木を苗字の地とす。

【世保氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を貞賴といふ。

【世田谷氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、吉良氏より分る、立家の祖を成高といふ。

【世良田氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子新田義重より出づ、立家の祖を賴氏といふ、德川氏の先代世々此苗字を用ひたり。上野國新田郡世良田鄉を苗字の地とす。德川義季―賴氏(世良田)

――敎氏―家時―滿義―義秋……

【仙石氏】家傳に曰はく、土岐氏の末流なりと、然る時は、姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、これ仙石秀久等の家なり。仙石久盛―秀久―忠政―政俊―

―忠俊……(但馬出石)

家紋　永樂錢　丸に無字　五三桐　⦿永樂錢の紋は信長より五三桐は秀吉より與へられたるなりと

桔梗花　櫻九曜

【仙波氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、良文七代、村山家繼の男、家信村山を改めて仙波と稱す。武藏七黨の一なる村山黨に屬す。家紋　丸に花澤瀉　丸に橘

【芹澤氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香より出づ、大椽氏より分る、立家の祖を良忠といふ。相模高座郡芹澤を苗字の地とす。

【洗波氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を家清といふ。

【清和源氏】(姓) 清和天皇の皇子にして直に源姓を賜はれるあり、長淵、長猷の如き、これなり、又皇孫にして、源姓を賜はれるあり、貞元親王の子、兼忠、貞純親王の子經基の如き、是れなり、就中、大に著はれたるは、經基の流なり、故に清和源氏といへば一般に經基の系を指す。

【專當氏】 姓は桓武平氏、平重盛の子、資盛の後なり、土佐國香美郡大忍庄拔山專當職より來れる稱號なり。 子孫、中黑川專當或は專頭を稱す。

【專頭氏】 同上

【善法寺氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり。 石清水の神主、紀氏の分派なり。

【勢坂氏】 姓は日下部氏、開化天皇の皇子彦坐王の後なり、立家の祖を家信といふ。 日下部氏の姓につきての疑は其條下を見るべし。

【關氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を氏昌といふ。

【關氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を安敎といふ。

【關氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、平資盛の子盛國より出づ盛國の子、實忠始めてこれを稱す、伊勢國鈴鹿郡關を苗字の地とす。 家紋揚羽蝶撫角

【關山氏】 姓は清和源氏、源賴信の子、源賴季(賴義の弟)より出づ、井上氏より分る立家の祖を義高といふ。

【關口氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、立家の祖を常氏といふ。

【關口氏】姓は清和源氏、足利義康の後今川國氏四男關口親長の後なり。
家紋 六曜瓜 五七桐 一文字

【關岡氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、新田義重より出づ、大舘氏の支流なり。伊賀國名賀郡關岡を苗字の地とす。

【瀬戸氏】姓は清和源氏、足利義康の後今川貞世四男瀬戸貞兼の後なり。
家紋 輪違の内鋏花菱 橘

【瀬名氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、今川氏より分る、立家の祖を氏俊といふ。駿河國庵原郡瀬名村を苗字の地とす。家紋 丸に引両筋 五七花桐

【瀬橋氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を芳美爲家の孫四郎快俊といふ。

【攝津源氏】清和源氏、源滿仲の子、頼光の流なり、頼光の孫、頼綱攝津多田に居り多田氏を稱す、これこの家なり。

その部

【十河氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、小笠原氏の支流、三好氏より分る、立家の祖を一存といふ。
三好元長―長秀―元長―一存（十河）―
保存……

【十倉氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を長繩といふ。

【宗氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、平知盛の子、知宗平氏なりと雖ども、乳母の姓、惟宗氏となり、男重尚のとき外戚の稱號を用ひて宗と稱し、貞國に至りて平氏に復す、これ對馬に於て有名なる宗氏なり。 家紋丸に四目結 桐 菊 ◉一に四目結 蛇目 二引兩内四目結引兩を幕紋とす

知宗—重尚—助國—盛明—盛國……義純—義智—義成……

【宗岳氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後蘇我氏の胤なり。

【苑氏】 (姓) 孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり。

【曾我氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を祐信といふ、源頼朝に仕ふ。 相模國足柄郡曾我を苗字の地とす。 家紋五七桐 丸に竪二引 起波 ◉五七桐は元助のとき義晴より賜ふところなり

良文—千葉忠恒—胤宗—元宗—恒永—恒信—祐家—祐信—祐綱—祐重……

【曾根氏】 姓は清和源氏、甲州武田の一族なり、逸見清光の末流、曾禰遠次より代々甲斐國八代郡曾根村に住し、曾禰を改めて曾根と稱す。 家紋丸に三頭左巴 鉞 鳩酸草 割菱

良胤(慶長年頃)—胤次—良亮—長渉—亮良……

【曾雌氏】 姓は清和源氏、源義光の流なり。立家の祖を定能といふ、甲斐國都留郡

曾雌村を苗字の地とす。　家紋輪違蔦葉

【曾禰氏】　姓は淸和源氏、源顯義の子、源義光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を嚴尊といふ。

【曾根崎氏】　姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融より出づ、渡邊氏の支流なり、立家の祖を薫といふ。

【園部氏】　（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【蘇我氏】　（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、武內宿禰の子、蘇我石川宿禰より出づ、大化以前の政治上有力なる大氏なり。

【蘇宜部氏】　（姓）仲哀天皇の皇子、譽屋別命の後なり、

第四章　頭音た行に屬する姓氏

たの部

【大椽氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖は國香の子、平維幹なり。　世々常陸大椽たるを以つて苗字となす。

【大道寺氏】　姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、大道寺政繁等後北條氏の臣として著はる。　家紋丸の内上羽蝶丸の内大文字

【丹波氏】　姓は淸和源氏、源爲義の子、源爲宗これを稱ふ。

【丹治氏】　姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子より出づ、立家の祖を峰信といふ。

【丹比部氏】（姓）崇神天皇の皇子、豐城入彥命より出づ。

【玉手氏】（姓）孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【玉虫氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、城氏より分る、立家の祖を貞茂といふ。家紋花輪違の内劍花菱

【玉山氏】姓は桓武平氏、國香の後なり立家の祖を隆治といふ。

【玉造氏】姓は桓武平氏國香の後なり立家の祖を玉造四郎といふ。常陸國行方郡玉造を苗字の地とす。

【田川氏】姓は宇多源氏、佐々木氏の流土田久通孫、右馬介正之始め生駒を稱し讃州田川村を領して田川と稱す。

【田口氏】（姓）孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【田井氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を光義といふ。

【田丸氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり北畠氏より分る、立家の祖を具忠といふ。

【田平氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融より出づ、松浦氏より分る。

【田安家】姓は清和源氏、徳川將軍家の支流なり、八代將軍吉宗の子、宗武始めてこれを稱す。

徳川吉宗━宗武（田安家）━治察━齊匡……

【田中氏】姓は清和源氏、其先は藤原氏中納言範光三河國加茂郡菅生村を領す

其後胤道覺入道崇元、田中を稱す、男義元に至り親忠に仕へ、清和源氏に改むと。

家紋 横木瓜 瓜花 三頭左巴

【田中氏】 姓は清和源氏、もと桓武平氏平良文の流、豐島武常の後なり、武常寛治六年軍功により源頼義新に源姓を賜ふ其後裔、重久に至り田中と改む。

【田中氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を師行といふ。

【田中氏】 姓は紀氏、孝元天皇の後、武内宿禰より出づ、石清水の神主紀氏より出づ、立家の祖を守清といふ。

【田中氏】 姓は高階氏、天武天皇の皇子高市皇子の後なり、立家の祖を惟業といふ。

【田中氏】 姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、其先吉重といふより系出す、これ田中吉政の家なり、

【田中氏】 （姓） 孝元天皇の後、武内宿禰五世の孫、蘇我稻目より出づ、

【田中氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ。立家の祖を義資といふ。

【田中氏】 姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、新田義重の後なり、立家の祖を義清といふ。此氏族はもと上野國新田郡田中村より起りしものなり。 家紋 鐵蝶 石疊

【田中氏】 姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康より出づ、立家の祖を時朝といふ。

畠山義純―時朝（田中）―時國―滿國……

【田中氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を氏綱といふ。

【田中氏】姓は橘氏、橘諸兄より出づ、先祖近江國高島郡田中村に住し、嵩弘のときより田中に改む。

【田代氏】姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を滿經といふ。

【田代氏】姓は後三條源氏、後三條天皇の皇子、輔仁親王より出づ、立家の祖を綱總といふ。

【田付氏】姓は宇多源氏、佐々木承禎の族なり、先祖近江國神崎郡田付村に住せしより在名を苗字の地とす。

家紋 四目結の丸 輪違

景廣―景定（一に泰定）―景澄―景治……

【田原氏】姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴鄕といふ。

【田原氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を信淸といふ。

【田伊氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を有朝といふ。

【田谷氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【田谷氏】姓は淸和源氏、源義光の後、佐竹氏より出づ。

【田伏氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平

貞盛の後なり、北條氏より分る。

【田名氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を廣季といふ、猶小野氏の條下を見よ武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【田村氏】姓は清和源氏、源義光の流、小笠原氏より分る、長忠の弟五郎長貞を祖とす。

【田所氏】宿禰富依、天長三年家原連を賜ふ、侍醫博士善宗より出づ、泉州上條郷國府の人、五社井上清水八幡の神職なり其先宣化天皇より出づ、或はいふ、後漢光武帝の後なりと。 家紋五本骨扇三鱗甲

【田邊氏】姓は紀氏、武内宿禰の後胤、紀長谷雄の三男淑信より出づ。 家紋四本骨扇に八字 五へ骨扇に根松

守眞(信玄に仕ふ)—重實—安直—良榮—良就
|
種應……

【田邊氏】(姓) 崇神天皇の皇子、豊城入彦命、四世の孫、大荒田別命より出づ。

【田尻氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を重綱といふ。

【田總氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子より出づ、立家の祖を高村といふ、猶越智氏の條下を見よ。

【田澤氏】姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王より出づ、立家の祖を幸國といふ、猶滋野氏の條下を見よ。

【田澤氏】姓は清和源氏、武田信滿の二男信長四代の孫、正信甲相兩國の境丹澤

山諸佛の嶽に閑居す、其子正昌の時、武田を改め丹澤を稱し、其孫正忠田澤に改む

家紋 丸に小槌 丸に十文字 花菱

【田屋氏】姓は橘氏、橘諸兄より出づ、淺井備後守清政男時政を祖とす。

【田屋氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を二郎師兼といふ。

【立澤氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤義といふ。

【立脇氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王より出づ、立家の祖を家脩といふ、猶日下部氏の條下を見よ。

【竹氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり、石淸水の神主紀氏より分る。

【竹中氏】姓は淸和源氏、これ竹中半兵衛重治(永祿天正の頃)の家なり。

家紋 丸に九枚笹 黒餅 ◉家傳に半兵衛重治ある時廿三度の戰鬪に出陣せしに胸に矢中りしも餅にて支へ恙なかりしかば是れより黒餅を家紋とす其後故ありて黒田孝高に讓りたりと

重氏—某—重治—重門—重常—重高—

—重長—重榮……

【竹村氏】姓は橘氏、楠正成の後裔、嘉元後に竹村淨阿彌と稱す。家紋 五三桐 菊水

嘉元—善春—道淸—万嘉—

【竹岩氏】姓は桓武平氏、三浦氏の流なり、立家の祖を蘆名盛高の孫盛氏とす。

【竹本氏】姓は淸和源氏、源頼光の流なり、高田光國六代の孫義遠より出づ。

家紋 左三巴 桔梗

【竹方氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、立家の祖を氏高といふ。

【竹西氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり、石清水の神主、紀氏より分る。

【竹谷氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【竹田氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【竹田氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親賴光の弟)より出づ。

【竹林氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)新田義重より出づ、立家の祖を義秀といふ。

【竹林氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を秋重といふ。

【竹内氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を氏治といふ。

【竹内氏】姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり、立家の祖を長繼といふ

【竹野氏】姓は清和源氏、天武天皇の皇子、舍人親王の後なり、立家の祖を元善といふ。

【竹城氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義綱義家の弟)より出づ、三上氏より分る立家の祖を能盛といふ。

【竹崎氏】姓は阿蘇氏、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり、肥後國竹崎を苗字の地とす。

【竹淵氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子より出づ、祖を中村時信二男三左衛門時胤といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【竹腰氏】姓は宇多源氏、佐々木定綱の後裔、大原綱高次男、重綱を祖とす。家紋四目結 梅輪内 鵜の丸

【竹谷松平氏】姓は清和源氏、松平信光の子守家の流なり、三河竹谷に住せしよりこの號あり、松平氏參照。家紋九の内一引 五枚笹

◉もとは三葉葵を用ふ後嗣憚りて一引に改む

松平信光―守家―守親―親善―清善……

【伊達氏】姓は桓武平氏、千葉常胤の第三子、胤盛を祖とす。

【多田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を滿秀といふ。

【多田氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴綱といふ。家紋揚羽蝶 丸に橘

賴光―賴國―賴綱(多田)―明國―行國―賴盛―行綱……

【多谷氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常勝といふ。

【多名氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を長綱といふ、武藏七黨の一なる野與黨に屬す。

【多賀氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彥命より出づ、立家の祖を信景といふ。猶中原氏の條下を見よ近江國多賀を苗字の地とす。家紋七鳩酸草 喰合鶴菱

【多氣氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平

國香の後なり、立家の祖を維幹といふ。

【多喜氏】 姓は宇多源氏、代々近江國甲賀郡多喜を領し、資次のとき沒落して駿河國花澤に至り今川氏眞に仕ふ。

家紋丸に横木瓜

資光—資政—資眞—資次—資元……

【多胡氏】 姓は清和源氏、源義家の子、義隆より出づ、立家の祖を賴幸といふ。

【多藝氏】 姓は清和源氏、源賴光の後なり、立家の祖を賴繼といふ。

【多紀氏】 (姓) 孝昭皇の皇子、天足彥國押人命の後なり。

【多々良氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義春(一書に重春とあり)といふ。

【多賀谷氏】 姓は桓武氏、平良文の後なり立家の祖を光基といふ、武藏七黨の一なる野與等に屬す。

【多部田氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を大須賀胤信の子胤秀といふ。

【多治比氏】 (姓) 宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、多治比島、多治比縣守等の名著はる、此苗字は上殖葉皇子の曾孫、多治比古王の名より來れるものなり。

【多治見氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を國長といふ。

【多遲麻竹別】 (姓) 懿德天皇の皇子、武石彥奇友背命より出づ。

【谷 氏】 姓は宇多源氏、佐々木定綱の

後胤谷衛好の家なり、衛好は福田正之(美濃國席田郡伊地良村住人)の子、始め谷野氏を稱し、後近江甲賀郡谷郷の地名により更に谷氏を稱す。家紋揚羽蝶 五三桐 圓餅

谷衛好―衛友―衛政―衛利……(丹波山家)

【谷田氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香より出づ、石川氏より分る、立家の祖を幹明といふ。

【谷口氏】 姓は宇多源氏佐々木の流、市野瀬時兼二男七郎左衛門兼詮を祖とす

【但遅麻國造】 (姓) 開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【垂水氏】 (姓) 崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なり。

【武井氏】 姓は清和源氏、源義光の後胤武井郷右衛門某男義直より出づ。

家紋井桁菱 結雁金 丸の内蔦

【武田氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を義清といふ、甲斐國を根據として門葉大に廣し甲斐國北巨摩郡武田を苗字の地とす。

家紋割菱 五七桐 鳩酸草 ◉桐の紋は信虎のとき義輝より賜ふといふ

義清(武田)―清光―信義―信光―信政―信時―時綱―信宗―信武―信成―信有―信満―信重―信守―信昌―信縄―信虎―晴信―義信
氏信(若州武田祖) 勝頼

【武石氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤盛といふ、

【武宮氏】　姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ。

【武野氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、新羅三郎義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を紹鷗といふ。

【建部氏】　（姓）景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【建部氏】　姓は宇多源氏、佐々木信時の三男信詮山内を稱し、その孫詮秀近江國神崎郡建部鄉に住するにより健部を稱す。　家紋洲濱中白（◉もとは四目結を用ふ詮秀のとき宗家を憚りて洲濱に改むといふ）

【建屋氏】　姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を俊村といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【高山氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を光圓といふ。

【高山氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を重信といふ。

【高山氏】　姓は桓武平氏、平良文の後、土肥の末葉にして盛聰はじめ裳掛を稱し後高山盛英に養はれ高山に改むと。

家紋五七桐丸に三楓　三頭左巴

盛聰―盛勝―利勝―記通……

【高久氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を景義といふ。

【高市氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり猶越智氏の條下を見よ。

【高元氏】姓は在原氏、平城天皇の孫在原業平より出づ、立家の祖を師尚といふ。

【高生氏】（姓）孝昭天皇の後なり。

【高木氏】姓は清和源氏、源頼光の弟源頼親の後胤信光より出づ、和州高木邑を苗字の地とす。家紋丸に打違鷹羽万字

【高木氏】同上、高木信光の庶流にして光正のとき初めて高木を稱す、西三河高木を苗字の地とす。家紋丸に鷺の裏尾打違蔓上八重菊くるす丸に木文字

【高木氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る、立家の祖を淸氏といふ。

【高井氏】姓は淸和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を光濟といふ。美濃國高井村を苗字の地とす。家紋角切角ニ引両水仔桔梗 ◉もとは丸に引両を用ふ今川氏に仕へし時より隅切角に改むといふ

【高井氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る、立家の祖を信政といふ。

【高井氏】姓は桓武平氏平高望の子、平良文より出づ、三浦氏より分る立家の祖を高茂といふ。

【高井氏】姓は紀氏、彦太忍信命の後なり、立家の祖を淑宗といふ。

【高井氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を兼孝といふ、猶越智氏の條下を見よ。

【高月氏】姓は村上源氏、若槻泰良信濃

國若槻城に住す卅九代の孫信植盧田信
番に仕へ高槻と號し、子孫に至り高月に
改む。家紋丸に上文字三蝶二引
信植―吉久―久利―吉忠―忠次……
【高向氏】(姓)孝元天皇の皇子、彥太忍
信命の後なり。
【高田氏】姓は清和源氏、源經基の子、源
滿政(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を重宗
といふ。
【高田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇
子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る
立家の祖を信高といふ。
【高田氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇
子彥坐王の後なり、立家の祖を盛澄とい
ふ、猶日下部氏の條下を見よ。

【高田氏】姓は清和源氏、源賴光の流な
り、賴兼の男光國、子盛員上野國甘樂郡菅
野庄高田鄕に住せしにより在名を苗字
の地とす。
【高玉氏】姓は清和源氏、もと畠山なり
しが右衛門尉義賢岩代安達郡高玉邑に
住し、在名を苗字とす。
【高谷氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇
子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る
【高林氏】姓は清和源氏、源義國義家の
子)の子、足利義康の後なり、今川氏より分
る。家紋丸に十五枚筵 五七桐 林文字
【高林氏】姓は清和源氏、源義光の後な
り、小笠原長清の末孫、豐後守政信遠江國
高林村に住せしより在名を苗字の地と

す。 家紋三〆字 杉皮菱

【高畠氏】 姓は淸和源氏、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を信行といふ。

【高畠氏】 姓は淸和源氏、源義光の後なり、小笠原氏より分る、立家の祖を長村といふ。

【高島氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を△信といふ。

【高安氏】 姓は坂戸氏、金剛氏の支流なり、猶金剛氏の條下を見よ。

【高州氏】 姓は桓武平氏、平淸盛の後光平(梠原の祖)の末葉、元與に至り高州に改む。 備後國高州庄を苗字の地とす。

【高屋氏】 姓は淸和源氏、經基の子、源滿季(滿仲、滿政の弟)より出づ立家の祖を爲經といふ。

【高屋氏】 姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を義泰といふ。

【高岸氏】 姓は淸和源氏、源滿季の後なり、立家の祖を範季といふ。

【高泉氏】 姓は淸和源氏、源義國の子、足利義康より出づ、斯波氏より分る、大崎詮持次男持家を祖とす。

【高梨氏】 姓は淸和源氏、源賴信の子、源賴季賴義の弟)より出づ、井上氏より分る立家の祖を盛光といふ、信濃國上高井郡高梨を苗字の地とす。 賴信―賴季(井上)―

滿實―盛光（高梨）―盛高―

【高部氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源賴光より出づ、佐竹氏の支流なり、立家の祖を盛義といふ。

【高階氏】（姓）天武天皇の皇子、高市皇子の後なり、祖を峰緒といふ。家紋重打拔木葉

高市皇子―長屋王―桑田王―礒部王―石見王―峰緒―茂範―師尙―良臣…資廣…

【高額氏】（姓）敏達天皇の皇子、春日皇子の後なり。

【高橋氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彥命の子、六雁命の後なり、景行天皇東國を巡狩せし時、六雁命大蛤を供献す、天皇其の美味なるを喜び、命に姓を膳臣と賜ふ、天武天皇の朝、膳臣を改めて高橋朝臣を賜はる。

【高橋氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ。佐々木氏より分る、立家の祖を秀宗といふ。

【高橋氏】姓は大宅氏、孝元天皇の後、武内宿禰より出づ、祖を光盛といふ。

【高橋氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の條下を見よ。

【高室氏】姓は淸和源氏、源義光の後、小笠原氏より分る、先祖甲斐國高室に住せしより在名を苗字の地とす、政秀といふもの武田信玄に仕ふ。家紋松皮菱

【高遠氏】姓は淸和源氏、源爲義の孫、木曾義仲より出づ、立家の祖を義親といふ

【高樋氏】姓は桓武平氏、千葉知胤の後胤、高樋左衛門某の男政胤より出づ、大和國添上郡高樋村を苗字の地とす。

家紋 環の内三巴 九曜星

【高柳氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を弘經といふ武藏七黨の一なる野與黨に屬す。

【高幡氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命より出づ、立家の祖を景淑といふ。

【高野氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義綱義家の弟より出づ、三上氏より分る立家の祖を能賢といふ。

【高野氏】姓は高階氏、天武天皇の皇子高市皇子より出づ、立家の祖を惟眞といふ。

【高篠氏】(姓) 景行天皇の皇子、五百城入彥命の後なり。

【高坂氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、秩父畠山の族なり。

【高楡氏】姓は清和源氏、足利義康の後なり、奥州斯波氏より分る、立家の祖を義直といふ。

【高尾氏】姓は清和源氏、源頼義の子源頼光の流なり、武田氏より分る、もと今井を稱し、昌俊武田信景の後胤高尾伊賀守某の養子となり、高尾を稱す。 家紋 花菱 割菱

【高濱氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る、立家の祖を秀氏といふ。

【高藤氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫武内宿禰の後なり、立家の祖を成忠といふ。

【高岡氏】姓は宇多源氏宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る井宗義男八郎師宗を祖とす。

【楯氏】姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を親忠といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。

【楯岡氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、立家の祖を義直といふ。

【當麻氏】(姓)用明天皇の皇子、麻呂古王の後なり。

【種市氏】姓は清和源氏、武田氏の流、一戸氏の支流なり、光徳陸中九戸郡種市村に住し、在名を苗字の地とす。　家紋鍬花菱

嘉廣―嘉明―嘉會―嘉德……

【團氏】姓は桓武平氏梶原氏の後なり、濃州岩村城主團平八郎景春より出づ

家紋丸ノ内鳩酸草 二本矢羽頭

【橘氏】(姓)敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、難波皇子の子に栗隈王あり其子に美努王あり、王、縣犬養三千代を娶り、左大臣諸兄を生む、三千代は和銅年間橘宿禰姓を賜はる、又諸兄はもと葛城王といひしが、天平八年、橘宿禰を賜はり名を諸兄といふ、これ橘氏の先祖なり、橘奈良麻呂橘氏公橘皇后、橘逸勢等の人達著はる、又橘氏は、古來源平、藤橘といひ、四姓

の一に數へられ、源平藤につひで殊に有名なり。　家紋橘

橘諸兄―奈良麻呂―┐
┌―――――――――┘
├島田麻呂―眞材―峰範―廣相……
└清公―氏公―峰繼……

【醍醐源氏】（姓）醍醐天皇の皇子、高明は源姓を賜はり、又皇子、克明親王、代明親王重明親王、等の子孫、皆源姓を賜はる。

【題橋氏】橘は清和姓氏、島津忠久の後なり、立家の祖を秀久といふ、猶島津氏の條下を見よ。

【檀氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり。石清水の神主紀氏より分る。

【瀧川氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、北畠氏より分る、雄利に至りこれを稱す。　家紋五七桐 二引龍 丸に堅木瓜に 丸に堅木瓜 花菱 丸に花澤瀉

雄利―正利―利貞―利錦―利元……

【瀧川氏】姓は紀氏、紀長谷雄の後なり其系、一勝といふものより出づ、是れ瀧川一益等の家なり、以上寛永系圖傳の説改選諸家系譜には瀧川一益の家を以て神別大伴氏より出づとなす、今兩説を併用し參考に供ふ。　家紋丸に堅木瓜 花筏

一益―一時―一乘―一俊―一好―┐
┌―――――――――――――――┘
└一徧―一因……

【瀧口氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融より出づ、松浦氏より分る、立家の祖を安といふ。

【瀧口氏】　姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王の後なり、立家の祖を惟忠といふ。

【瀧口氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を盛長といふ、猶越智氏の條下を見よ。

【瀧瀬氏】　姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を光直といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【瀧瀬氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命より出づ、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す、猶小野氏の條下を見よ。

【瀧脇松平氏】　姓は清和源氏、松平親忠の子乘清の流なり、三河國瀧脇に住せしにより此號あり、松平氏參照。　家紋丸に蔦澤瀉

松平乘清─乘遠─正乘─正武─正勝─重信（駿河小島）

【鷹巢氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康より出づ、奥州斯波氏より分る、立家の祖を賴種といふ。

【鷹島氏】　姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融より出づ、松浦氏より分る。

ちの部

【千村氏】　姓は清和源氏、源爲義の孫、木曾義仲の後なり、立家の祖を家重といふ家重上野國千村鄕に住せしより在名を苗字の地とす。　家紋丸に鳩酸草五七桐

【千葉氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平

良文の後なり、立家の祖を忠頼といふ。門葉大に廣し、下總國千葉を苗字の地とす。

平良文—忠頼—忠常—常時—常長
—常兼—常重—常胤—胤正—成胤……

【千巻氏】 姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を千巻太郎といふ、猶日下部氏の條下を見よ。

【千種家】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、此稱號は有能に始まれり、有能の薨去は東山天皇の貞享四年にあり。

【千與宇氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命より出づ、立家の祖を孝政といふ、猶小野氏の條下を見よ、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【小子部氏】（姓） 神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり、雄略天皇の時栖輕天皇の勅を奉じ、蠶兒を集むるを誤りて小兒を集めしを以てこの姓を賜ふ。

【中所氏】 姓は清和源氏、宍戸元家弟、元久藝州中所郷を領せるにより在名を苗字の地とす。

【中院家】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、親王の子師房始めてこれを稱ふ、師房は三條天皇頃の人なり、其後通方の流これを稱す、通方の薨去は四條天皇の暦仁元年にあり。

【血沼別】（姓） 懿德天皇の皇子、武石彦奇友背命の後なり。

【長氏】姓は長谷部氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、長谷部信連等の家これなり然るにこの氏族を以て神別物部氏の流となす說あり、猶考ふべし。

【長氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を義季といふ。

【長氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後中原有家の末葉、若林三由の四男信好祖父繁由の家號を冒して長と稱す。家紋裏錢九曜 井筒

信好—信就—貫忠—信政—

【知久氏】姓は清和源氏、源經基より出づ、立家の祖を信貞といふ、信濃國伊那郡知久郷を苗字の地とす。家紋車輪 桔梗 柊葉

◉車輪は先祖祐超のとき之を(室町將軍家の君達)より賜ふところの旗の紋を用ひしと

信貞(中津賴滋の男知久郷神峠の城に住す)—行性—與阿—

—覺性—祐超……

【知多氏】(姓)孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【近山氏】姓は清和源氏、武田信立より出づ、葛山信貞の男安家葛山を改めて近山と稱す、

【近澄氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を吉柯といふ。

【近淡海國造】(姓)孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【近淡海安國造】(姓)開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【珍氏】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり。

【秩父氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を將常といふ、門葉頗る廣し。

【秩父氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子より出づ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【智覺氏】姓は淸和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を忠宗といふ、猶島津氏の條下を見よ。

【道守氏】（姓）開化天皇の皇子、建豊波豆羅別命の後なり。

【道守氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【遖宗氏】（姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【廳南氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、上總氏より分る。

【廳北氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり上總氏より分る、この廳南廳北といふは上總の在廳の地より名つけたるものにして、今長生郡に廳南町あり以て是等の苗字の起源を知るべきなり。

つの部

【土水氏】姓は淸和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）の後なり、立家の祖を滿政といふ。

【土田氏】姓は宇多源氏、佐々木の支流

山内秀遠の男、備前守秀久はじめ美濃國可兒郡土田村に住し、在名を苗字の地とす。

【土田氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子彦坐王の後なり、立家の祖を則高といふ。猶中原氏の條下を見るべし。

【土田氏】姓は阿蘇氏、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【土屋氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を宗遠といふ、宗遠相模國中郡土屋の地に居りしより名づく。宗遠は鎌倉初代の人なり。

家紋 三石疊 井の字

平良文―忠頼―頼尊―常遠―
―常宗―宗平―宗遠(土屋)―宗光……

【土屋氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、一色詮範の二男範貞後に武田家に屬し、軍功により老臣の稱號を許され土屋に改む、昌次、昌恒等の家は是れなり。家紋 三石疊 九曜

【土屋氏】姓は清和源氏、小笠原氏の支流なり、初め林を稱す、安大夫定頼、林光政の後裔)の母は秀康の臣土屋左馬之助政明の女なるにより外家の稱を冐して土屋に改む。家紋 三石疊 九曜

【土屋氏】姓は宇多源氏、佐々木氏の庶流なり虎久(義輝の臣近江國神崎の城主宗信の孫)のとき外舅虎宗の稱を冐して土屋と改む。家紋 四目結 九節竹丸 丸に横鷹羽二

【土橋氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平

良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義貞といふ。

【土橋氏】　姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命より出づ、立家の祖を宗景といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【土橋氏】　姓は桓武平氏、佐々木義晴末孫、隱岐秀通遠州に住し土橋秀綱と改む

家紋　丸の内四目結　梶葉打違　丸の内劒梅鉢

【土御門家】　姓は安倍氏、孝元天皇の皇子大彦命の後なり、この家號は陰陽家の安倍氏より出づ、祖を久脩といふ。

【土御門家】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、この家號は定通より始まる定通は四條天皇頃の人なり。

久我雅實—雅定—雅通—通親—定通—(土御門)—顯定……

【机氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流、佐々木氏より分る。

【佃氏】　姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、足利氏の支流岩松氏より分る、立家の祖を十成といふ

【角氏】　(姓)　孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり。

【角鹿氏】　(姓)　孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり。

【角田氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり。上總氏より分る。

【辻氏】　姓は清和源氏、源滿政の後なり、立家の祖を維正といふ。

【辻氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇

子、敦實親王の流、佐々木氏より分る。

【辻岡氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿政滿仲の弟)より出づ、立家の祖を善積惟家の末源太基齊といふ。

【坪井氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、小笠原氏より分る。

【妻木氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、土岐氏より分る、隱岐守光定、美濃國土岐郡妻木村に住し土岐を稱し、光政九代の孫、弘定のとき妻木に改む

家紋桔梗

【恒本氏】　姓は桓武平氏、良文の後なり立家の祖を右衛門尉盛胤といふ、

【恒岡氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、太田氏より分る、其先を資重といふ。

【柘植氏】　姓は桓武平氏、葛原親王の子平高棟の後なり立家の祖を宗清といふ

家紋 三頭左巴丸に一引　高棟―惟範―時望―眞村―信實―宗清―宗俊…

【柘植氏】　姓は桓武平氏、始め織田氏を稱し、正俊のときより柘植と稱す。

家紋 瓜 五七花桐 揚羽蝶 丸に引兩筋 三頭左巴

行正―正俊―正時―正直―光正…

【津川氏】　姓は清和源氏、源義國義家の子)の子、足利義康の後なり、斯波氏より分る立家の祖を義近といふ。

【津守氏】　(姓)　孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【津守氏】　姓は清和源氏、島津忠久より

出づ、立家の祖を厚久といふ、猶島津氏の條下を見るべし。

【津毛氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を常盤光宗の弟經氏といふ。

【津田氏】 姓は桓武平氏、もと藤原氏、生駒親重の後一英織田信武の家を繼ぐべき約あり、平氏となり津田と稱す。

平紋 五三桐 瓜桐の丸

【津田氏】 姓は桓武平氏、平清盛の流なり、はじめ織田を稱し、秀重のとき津田に改む。 家紋 糸巻の内花菱 瓜

秀敏(織田敏定の男)―秀重―
―秀政―正重―正勝……

【津田氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、平重盛の子に資盛あり、資盛の子に親眞あり、これ津田氏の祖なり此苗字は親眞の匿れし所の近江國蒲生郡津田の地名より來れるものなり。 親眞九代の孫、常昌より相繼ぎ織田となる(織田氏參照)

【津金氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義家の後なり、武田氏の支流佐竹昌義の後裔對馬守某、甲斐國巨摩郡津金村に住せしにより家號とす。 家紋 丸に九枚篠 竹に雀

【津野氏】 平城天皇の皇子、阿保親王の曾孫、經高土佐國高岡郡津野山の內床鍋に住し、津野を以て稱號とす。

【津門氏】 (姓) 孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり。

【津久井氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平

良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義行といふ、相模國三浦郡津久井を苗字の地とす、義行は鎌倉初代の人なり。

三浦義繼—義行(津久井)—高行—義通—
|高重

【常意氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を秀元といふ。

【都保氏】(姓)孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【都祁氏】(姓)神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【都筑氏】姓は清和源氏、松平信忠の男親直の孫、政武これを稱す。 家紋丸の内萬字

【都努山氏】(姓) 孝昭天皇の皇子。天足彥國押人命の後なり。

【筑紫氏】(姓)孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【筑見氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を行忠といふ。

【筑井氏】姓は桓武平氏、津久井氏に同じ其條下を見よ。

【筑紫三家氏】(姓)神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【堤氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり。立家の祖を片切爲基の弟爲氏といふ。

【堤氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、石清水の神主、紀氏よ

りの分れなり。

【罪田氏】　姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を家經といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【塚原氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、國香の後なり、大椽氏より分る、立家の祖を安幹といふ。

【塚原氏】　姓は清和源氏、源義光の後なり、立家の祖を昌吉といふ、甲斐國塚原鄕を苗字の地とす。　家紋丸に二引

【塚越氏】　姓は清和源氏、酒井忠倘の男九右衛門某より塚越を稱す。
家紋丸に鳩酸草 抱澤瀉

【對馬氏】　姓は清和源氏、源義家の子、源義親より出づ。

【壺井氏】　姓は清和源氏、源賴義の庶流にして、河內國古市郡壺井村に住せしより苗字の地とす。　家紋丸に三引 一重菊 三葉柏 鞠挾
長清—長勝(北條家に仕ふ)—永重—重信—信俊……

【圖司氏】　姓は清和源氏、源範賴の後吉見正安男、正友三代、賴眞二男末眞圖司を稱す。　家紋引両 三笹丸

【蔦木氏】　姓は清和源氏、源義光より出づ、川村盛信の後裔、之保、信玄に仕ふ、知見寺を稱し、男盛之のとき蔦木に改むと、甲斐國武川蔦木を苗字の地とす。
家紋丸の內打拔 丸の內蔦

【續氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を能連といふ、猶小野氏の條下を見よ、

【鶴　氏】（姓）清和源氏新田氏の支流
脇屋義助の後なり。家紋 腹合せ鶴丸 輪違

ての部

【手　島　氏】（姓）神武天皇の皇子、彦八井耳命の後なり。

【手　島　氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を義兼といふ。

【手　島　氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、立家の祖を政國といふ。

【手　塚　氏】　科野國造家神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【手　塚　氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲滿政の弟）より出づ、立家の祖を信澄といふ。

【手　賀　氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を新幹とい

【手　原　氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、義綱（義家の弟）より出づ、三上氏より分る、立家の祖を實保といふ。

【天　神　氏】　姓は桓武平氏、平國香の後なり、大掾氏より分る。

【天　童　氏】　姓は清和源氏、足利義康の後斯波直家二男頼直羽州天童城に居住、依て稱號とす。

【天　童　氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子足利義康の後なり、奥州斯波氏より分る、立家の祖を頼直といふ。

【天神林氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を義成といふ。

【寺尾氏】姓は清和源氏、新田氏の支流脇屋義助の後なり。　家紋結鐶唐花 左三巴

【寺島氏】姓は清和源氏、源經基の後胤今川國氏の後なり、寺島元朝を祖とす、駿河國寺島村を苗字の地とす。
家紋井桁結雁金 五七桐

【寺町氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫親王の後なり、立家の祖を河野時高二男宗綱といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【寺澤氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、紀長谷雄の子、淑望の後なり、これ寺澤廣高等の家なり。
家紋蟹

【出羽氏】（姓）孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【出羽氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を重氏といふ。

【出家氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を重齊といふ。

【出浦氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼清頼義の弟）より出づ、村上氏の支流なり、立家の祖を成國といふ。

【勅使河原氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子上殖葉皇子の後なり、立家の祖を直時といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【條久氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る立家の祖

【島海氏】 姓は安倍氏、孝元天皇の皇子大彦命より出づ、奥州安倍氏よりの分派なり、立家の祖を家任といふ。

【豊島氏】 姓は清知源氏、源満仲の子、源頼親（頼光の弟）より出づ、立家の祖を親弘といふ。

【豊島氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏より分る立家の祖を助重といふ。

【豊島氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、畠山秩文の族なり、立家の祖を康家といふ、武藏國豊島郡を苗字の地とす。 家紋丸に九曜 剱鳩酸草

平忠頼―將恒―武常―常家―康家……

【土岐氏】 姓は清和源氏、源満仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を光信といふ、光信の孫光衡の時より、子孫美濃に留まり門葉甚だ廣し。 美濃國土岐郡を苗字の地とす。 家紋桔梗 ◉家傳に光衡對戰のとき桔梗の花を兜に指して大勝利を得しより家紋とす

頼光―頼國―國房―光國―光信（土岐氏）―光基―光衡……

【土岐氏】 姓は清和源氏、源頼光の後、土岐頼重美濃國土岐郡明智郷に住し明智を稱し、定政のとき外家の稱菅沼を稱しのち土岐に復す。 家紋桔梗

【土居氏】 姓は清和源氏、源頼光の後なり、立家の祖を頼繼といふ後世に至り、號

を土井に改む。

【土居氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通增といふ、猶越智氏の條下を見よ。

河野通久—通繼—通增(土居)—

【土井氏】 姓は淸和源氏、前項土居氏と同し、始め土居を稱せしが利勝に至りこれを土井と改む。 家紋水車澤瀉◉始め横木瓜なりしが利勝のとき水車に改む又利勝生れしとき東照宮賜ふ所の短刀の飾に澤瀉を彫りてありし故家紋に用ふ。

土井利勝—利隆—利重—利益……(下總古河)
　　　　—利長—利意—利庸……(三河刈屋)
　　　　—利房—利知—利寛……(越前大野)

【土肥氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、祖を土肥實平といふ、源賴朝に屬し有名なり、此苗字は實平相模國足柄郡土肥の邑に居りしより來れるものなり。 平良文……忠賴—賴尊—常遠—
—常宗—宗平—實平(土肥)—遠平—
—雅平……

【友庄氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を成助といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【止美氏】 (姓) 崇神天皇の皇子、豐城入彥命の後なり。

【戸口氏】 姓は淸和源氏、武田氏より出づ、小笠原長久の男長正其男長吉戸口と稱す。

【戸田氏】 姓は淸和源氏、源義家の男森義隆の後胤なり、母方の苗字戸田に改む

家紋 鶴丸に六星 六星

【戸坂氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼親(頼光の弟)其子頼氏の末戸坂冠者頼基を祖とす。

【戸島氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼平(頼光頼親等の弟)の後なり、立家の祖を範弘といふ。

【戸崎氏】姓は清和源氏、源義國義家の子)の子、足利義康の後なり、立家の祖を義宗といふ。

【戸村氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を義倭といふ。

【戸張氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、千葉常胤の男、相馬師常の孫胤綱下總國戸張村に住み戸張に改む

【戸澤氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、立家の祖を衡盛といふ、奥州岩手郡戸澤郷を苗字の地とす。

家紋 丸に輪貫九曜 鶴の丸戸の字 九曜 ◉戸の字の紋は正誠の時より用ふと

【戸部氏】姓は豐原氏、天武天皇の皇子大津皇子の子なり、立家の祖を春近といふ。

【戸前氏】姓は清和源氏、足利義康の後なり、戸崎義宗の子、荒川滿氏の後、右馬助義重を祖とす。

【戸賀崎氏】姓は清和源氏、其祖前掲戸崎氏に同じ。

【外山氏】姓に清和源氏源滿仲の子、源頼光より出づ、土岐氏より分る、立家の祖

を光明といふ。

【百々氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を綱家といふ、近江坂田郡百々を苗字の地とす。

【百々氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、先祖近江國犬上郡百々村に仕せしより苗字の地とす、

家紋九枚笹百の字 安行(信長に仕ふ)—直安(秀吉に仕ふ)—安政—安集……

【年田部氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子源融より出づ松浦より分る。

【伴野氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり。小笠原氏より分る、立家の祖を時長といふ。時長、頼朝に仕へ、信濃國佐久郡伴野庄を賜ひ伴野と稱し、代々前山の城に住す。家紋松皮菱 丸に唐花 日足

【東野氏】姓は桓武平氏平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常縁といふ。

【東條氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、一條忠頼の男東條五郎高秀安房國に住し、その子頼行武田信玄に仕ふ。家紋五三桐 割菱

【東條氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、大掾氏より分る、立家の祖を忠幹といふ。

【東郷氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を胤時といふ。備前兒島郡東郷を苗字の地とす。

【東鄕氏】姓は桓武平氏平高望の子平國香の後なり、立家の祖を隆道といふ。

【東鄕氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を貞景といふ、猶日下部氏の條下を見るべし、

【杼窪氏】姓は清和源氏、源義家の後、吉田義博三州吉田庄に住し、吉田を稱し、其子石橋和義の後、廣義三男治氏、其子廣氏羽州置賜郡長井庄杼窪に住し、孫廣國に至り杼窪と稱す、

【時田氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼季(頼義の弟)より出づ、井上氏より分る立家の祖を光平といふ。

【得平氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を頼景といふ。

【得能氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通俊といふ、猶越智氏の條下を見るべし、此苗字は伊豫國周桑郡得能の地名より來りしものなり。

河野通信—通俊(得能)—通秀—通純—
　—通村—通綱

【得川氏】德川氏に同し、其條下を見よ

【鳥山氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖を時成といふ。

【鳥山氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ佐々木氏より分る立家の祖を輔綱といふ。

【鳥羽氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を高信といふ、

【鳥羽氏】 姓は文德源氏、文德天皇の皇子、源能有の後なり、立家の祖を季能といふ。

【鳥羽氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を兼隆といふ。

【鳥居氏】 もと神別穗積氏にして穗積押山の後なり、高倉天皇の時、平姓を賜はる、關が原戰の時、德川家康の爲に伏見城を守りし鳥居元忠は其後なり。

家紋 竹に雀丸 鶴の鳥居

鳥居忠吉—元忠—忠政—忠恒
　　　　　　　　　　└忠春……(下野壬生)

【鳥脇氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【鳥越氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり佐々木氏より分る

【常田氏】 姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を矢澤賴綱の弟出羽守某とす。

【常葉氏】 姓は清和源氏源賴信の子、源義政(賴義の弟)より出づ。

【常葉氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、北條氏より分る、立家の祖を政村の後茂時といふ。

【常葉氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を國幹といふ。石川氏の分派なり。

【富樫氏】姓は清和源氏源頼義の子源
頼光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を光宗といふ。

【富田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、四郎左衛門師泰を祖とす。　家紋丸に鷹羽打違 大根打違 四目結

【富田氏】姓は桓武源氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を基行といふ。

【富田氏】姓は清和源氏、源滿政の男、陸奥守忠重の後なり。　家紋丸に二引 揚羽蝶

直久（義輝に仕ふ）—久次—兼久—景久……

【富安氏】姓は桓武平氏、佐々木盛綱の後、兒島高德の末裔、富安五郎左衛門直救より出づ。　家紋枝付牡丹 花 三頭右巴

【富岡氏】姓は桓武平氏平國香の後なり、立家の祖を隆時といふ。

【富永氏】姓は宇多源氏、佐々木實吉佐々木を改めて富永を稱すと、これを政直の父とす。　家紋角四目結 三石 五三桐

政直（早雲氏綱氏康に仕ふ）—直勝—政辰—直則—勝由……

【富永氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る
家紋街道四目結 五三桐 角四目結 筒守 左文字源 丸に立木瓜 花輪違 ⊙丸に立木瓜の紋は小田原陣の時重吉蒲生氏郷の陣に夜討して鎗幕等を分捕す北條氏政之を賞し其幕紋を以て家紋とすべしといへるより用ふ

吉實—某—重政（北條早雲及氏綱に仕ふ）—重次—
—重久—重吉……

【富松氏】姓は清和源氏、足利尊氏の後義晴三男、攝州富松城主富松大和守重晴の後なり。　家紋月の字 上り藤 丸に二引 五葉菊

【富塚氏】 姓は清和源氏、源滿政の子、齋頼第四男隆祐出雲國富塚郷に住せるにより苗字の地とす。

【富塚氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ、善積齋頼の末、入道正佐を祖とす。

【登美氏】 (姓) 用明天皇の皇子、來目王の後なり。

【登美氏】 (姓) 崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なり。

【道智氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり。 立家の祖を頼意といふ武藏七黨の一なる野與黨に屬す。

【豐田氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、大庭氏の支流なり、立家の祖を景俊といふ。

【豐田氏】 姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を重國といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。

【豐田氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を善積家齋の末齋範といふ。

【豐田氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり大掾氏より分る、立家の祖を正幹といふ。

大津皇子—粟津王—
公連(豐原)……時元—時秋—利秋—忠秋……

【豐原氏】 (姓) 天武天皇の皇子、大津皇子の後なり、皇子の子に粟津王あり、備前邑久郡豐原莊に居りしより始めて豐原姓を賜はる。

【豊岡氏】 姓は清和源氏源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖を義行といふ。

【豊國氏】(姓) 敏達天皇の皇孫、百濟王の後なり。

【豊野氏】(姓) 天武天皇の皇子、高市皇子の後なり。

【豊階氏】(姓) 開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【豊峯氏】(姓) 天武天皇の皇子、高市皇子の後なり、桓武の朝、此姓を賜はる。

【徳川氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子新田義重の後なり、義重の子、義季上野國世良田郷徳川に住し、徳川を以て苗字とす、徳川又得川とも書けり、徳川氏は家康に至り大に盛となりしことは言を待たず人の知る所なり、一門繁榮せし内にも、尾張、紀伊、水戸の御三家、田安、一橋清水の御三卿等、殊に著はる、かく盛なる徳川氏の系にして、猶疑ふべきものありこは松平氏の條下に說くべし。

新田義重—義季(徳川)—頼氏—教氏—
家持—滿義—政義—親季—有親—
親氏—泰親—信光—親忠—長親—
信忠—清康—廣忠—家康……

【徳井氏】 始め何姓なるか、詳かならず河野通泰の子、通久繼くに及び河野の分派となる、即ち越智氏を稱ふ。

【徳山氏】 姓は清和源氏、もと坂上田村麿四代の孫、貞守より美濃國大野郡徳山

を領し、その末孫貞信に至り徳山を稱し貞長土岐の庶流にして家を繼しより源氏に改む。始めトコノヤマと稱せしを則秀のときよりトクノヤマと唱ふといふ。家紋丸の内三地紙桔梗

【徳力氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木行定の後なり、祖を良安といふ。家紋寄掛目結五三桐

【遠山氏】姓は清和源氏、源頼光の後、太田重正持資の裔、四男資爲外家の稱號、遠山を稱へ男資隆のとき太田に復す。

【遠山氏】同上遠山資爲の三男、資信の後なり。家紋丸に桔梗違矢打違

【鴇田氏】姓は清和源氏、源滿仲の後、頼季の次男滿實信州井上莊に住し、井上を稱し、光平に至り井上莊鴇田に住し在名を苗字の地とす。

【藤堂氏】姓は宇多源氏、佐々木氏の支流なり、祖を貞虎といふとあり、然るに一方には、藤堂を以て藤原氏の支流となすあるも暫らく玆に收む。

佐々木高久……貞虎—高虎—高次—
- 高久……(伊勢津)◉家紋 蔦 丸に鳩酸草
- 高通……(伊勢久居)◉家紋 丸に蔦 丸に鳩酸草

第五章　頭音な行に屬する姓氏

なの部

【中氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を大夫房といふ。

【中山氏】姓は桓武平氏平高望の子平
國香の後なり、立家の祖を隆眞といふ。

【中山氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子上殖葉皇子の後なり、先祖高麗五郎經家武藏國高麗郡加治郷に住み加治を稱し、其後裔家勝に至り同郷中山村に移り住せるを以て中山を稱す。 家紋升形の内月 水月 虎杖

家勝（上杉家に仕ふ）—家範—照守—直定—直守—直房……

【中川氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、小笠原氏より分る、立家の祖を清政といふ。

【中川氏】姓は桓武平氏、平良文の後、秩父氏より出づ、重清の時、攝津に至り國人中川某の聟となり、其家を繼ぐ、これ中川清秀の父なり、中川氏、多田源氏の後裔た

を以て改めて源氏を稱す　家紋

中川清秀—秀政—秀成—久盛……（豐後岡）

【中川氏】姓は桓武平氏、平清盛の後、織田氏より分る、八郎左衛門某のとき中川に改む。 家紋鳩酸草 五七桐 某（一に信則）—某—八郎左衛門某（一に重政信長に仕ふ）—忠勝—光重—重勝……

【中井氏】姓は橘氏、その先は巨勢小柄宿禰より出づ、巨勢吉範の後胤、正清（家康に仕ふ）のとき外家の姓橘に改めて中井と稱す
家紋橘輪違

【中西氏】姓は清原氏、舍人親王の後なり、立家の祖を賴家といふ。

【中村氏】姓は清和源氏、武田信義次男兼信板垣を稱し賴重の四男、長兼武田を稱し、信貞甲斐國中村庄に住し、子兼邦在

名を苗字の地とす。

【中村氏】　姓は桓武平氏、平高望の子平良文より出づ、立家の祖を宗平といふ。

【中村氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を光長といふ。

【中村氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を清長といふ。

【中村氏】　姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を重晴といふ。

【中村氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、立家の祖を忠遠といふ。

【中村氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を清孝といふ、武藏七黨の一なる横山黨に屬す、猶小野氏の條下を見るべし。

【中村氏】　姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を時重といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【中原氏】（姓）　中原氏系圖によれば、中原氏本姓十市宿禰、天延二年十二月、宿禰を改めて朝臣を賜はる、安寧天皇第三の皇子、磯城津彥命の後なりとあり、又有象に至り、中原姓を賜はるとなす、次に經濟雜誌社本、群書類從、本朝皇胤紹運錄を見るに、磯城津彥命の條に猪使連中原氏の祖なりとあり、然るに大日本史氏族志には、其出所正確ならずとなし、これを出自不詳の部に入れたり、猶考究を待つ。

【中原氏】（姓）天武天皇の皇子、舍人親王の後なり。

【中屋氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後なり、渡邊氏より分る、立家の祖を貞といふ。

【中津氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を爲衡といふ。

【中條氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を朝光といふ。

【中野氏】姓は清和源氏、源爲義の子、源行家より出づ、立家の祖を新宮行家の孫爲貞といふ。

【中野氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇

ふ、猶日下部氏の條下を見よ。

【中野氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、奥州斯波氏より分る、立家の祖を滿基といふ。

【中沼氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を高久といふ、猶島津氏の條下を見るべし、

【中留氏】姓は清和源氏、位竹流、立家の祖を掃部頭義長といふ。

【中島氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏より分る、立家の祖を佐用範家の子、定明といふ。

【中島氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を景康とい

ふ、猶日下部氏の條下を見よ。

【中島氏】 姓は清和源氏、小笠原氏の支流なり、伴野時長の末流にして盛信といふもの北條氏直、氏輝に仕ふ、のち改めて中島と稱す。 家紋九曜巴 三頭左巴 團扇

【中尾氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を經信といふ。

【中澤氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を胤直といふ。

【中澤氏】 姓は清和源氏、源義光の流なり、佐竹昌義の後胤、坂本貞茂の三男、丹波貞勝外家の號中澤に改むと、坂本系には貞重とありこの貞茂と同人ならんか。

家紋丸に七本骨開扇

【中根氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、平忠正(忠盛の弟)の子、正時これを稱す。 家傳に忠正の末男七郎正持中根を稱す、正行は其後裔なりと。

家紋丸に抱茗荷 花茗荷 揚羽蝶　正行(先祖より三河國額田郡箱柳に住す土人その所を呼びて中根と稱す)—正信—正重—正成—正勝……

【中間氏】 姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彥命の後なり、立家の祖を師政といふ、猶前項中原氏を見よ。

【中裂氏】 姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彥命の後なり、立家の祖を忠直といふ、猶中原氏の條下を見よ。

【中山田氏】 姓は清和源氏、源經基より出づ通長二男康義の子、秀通土佐國香美郡中山田城主となり中山田を稱し、宣光の

【中麻績氏】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり。

【内藤氏】 姓は清和源氏、武田氏の支流なり、世々若狭の武田に住す、武田國信の三男元信の後裔、内藏助某（一に政信）の時内藤に改む。 家紋七葉下藤丸に内文字割菱

【永井氏】 姓は桓武平氏、平良兼の流、長田親致十代の孫を廣政（一に白次）といひ其孫直勝家康に近侍せるとき、長田は義朝を討ちたる家號なれば改むべしとの命ありしかば大江氏となり永井を稱す廣正の二男、白吉の子孫は相繼で長田を稱す。

┬倚庸—直政……（美農加納）
◉家紋 一文字に三星 丸に奈花 松葉松笠 ◉家啣に松葉松笠の紋は直勝の時家康より賜ふよりて家紋とすさ

└直清—直時—直種……（攝津高槻）
◉家紋 一文字に三星 黑餅の内奈花松笠
◉家紋 丸に一文字三星 黑餅内鐵仙 ◉鐵仙の紋は直清のとき家光より賜ふ所なりと

【永田氏】 姓は宇多源氏、高島高信の三男、信胤近江國高島永田の地を領せしより家號とすと。 家紋釘拔

正久—久琢（信長に仕ふ）—重直—重乘—重春┬重俊—重種—

【永田氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る

立家の祖を胤信（佐々木高信の三男）といふ、近江國蒲生長田村を苗字の地とす、のち永田に改む。家紋丸に角立四目結

信胤……正貞（信長に仕ふ）―貞行―正次―正勝
―正義……

【永吉氏】姓は清和源氏、足利長氏四代の孫、有義の庶流なり。

永吉宗鞆―宗隆―宗明―宗繼……

【永原氏】（姓）天武天皇の皇子、高市皇子の後なり。

【永沼氏】姓は桓武平氏、立家の祖を左馬進敏隆といふ。

【永原氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る。

【永谷氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を貞滿といふ。

【永良氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を則綱といふ。

【永松氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、立家の祖を神首といふ。

【半井氏】姓は和氣氏、垂仁天皇の皇子鐸石別命の後なり、醫を以て著はる。子孫明親のとき京師烏丸の宅地に井あり其水清潔なりしかば半ば禁裏の御料となし、半ば家に汲む、後柏原院これを半井と名つけ給ふより代々家號とすと。

家紋 裏菊 五三桐 澤瀉 ◉菊は義政より與へられたりと

【行方氏】 姓は桓武平氏平高望の子平

國香の後なり、大掾氏より分る、立家の祖を忠幹といふ。

【仲氏】 (姓) 神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【仲根氏】 姓は清和源氏、源義光の後、佐竹氏の族なり。

【名村氏】 姓は桓武平氏、北條義時次男朝時の後胤金右衛門某尾州名越に住して名越を稱し、長吉に至りて名村に改む

【名取氏】 姓は清和源氏、源義光の後、武田信武九代の孫、信親陸奥國名取郷を領せしより苗字の地とす。　家紋丸に岩澤瀉　武田菱内花菱

長信(信玄に仕ふ)—長次—長知—長盛—信突—長矩—長恒……

【名越氏】 姓は桓武平氏平國香の子平

貞盛の後なり、北條氏より分る、北條義時の子、朝時これを稱ふ。

北條義時—朝時(名越)—時章—公時—時家—貞家—高家

【名和氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、立家の祖を行高といふ、子に長年あり、南朝の忠臣として、有名なり、伯耆國西伯郡名和を苗字の地とす。

行盛(具平親王十一代後胤)—行高(名和)—長年—義高……

【名和氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、今川氏より分る。

【成木氏】 姓は私市氏、開化天皇の皇子彦坐王の後なり、桓藏七黨の一なる私市黨に屬す、立家の祖を家信といふ。

【成田氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子源賴親賴光の弟)より出づ、立家の祖を光治といふ。

【成毛氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を八郎致胤といふ。

【成海氏】 桓は良峯氏、桓武天皇の皇子良峯安世より出づ、立家の祖を光眞といふ。

【成島氏】 姓は清和源氏、源義光の後、小笠原氏の流、秋山光朝の庶流なり、甲斐國巨摩郡成島を苗字の地とす。

家紋丸に左重鷹羽 唐人笠 信次……信遍……和鼎……

【長山氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を隆友といふ。

【長井氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義季といふ、近江國長井を苗字の地とす。

三浦義明―義季(長井)―義兼―義泰……

【長吉氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を信清といふ。

正勝(信長に屬す)―正次―正成……

【長田氏】 姓は桓武平氏、立家の祖を致賴といふ。

【長江氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る

立家の祖を定成といふ。

【長江氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を義景といふ。

【長江氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彥命の後なり、立家の祖を成家といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【長坂氏】姓は淸和源氏、源義光より出づ、小笠原持長の三男、守重足利將軍に仕へ、山城國長坂村に住せる以て苗字の地とす。　家紋丸に三階菱五七桐

【長倉氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、佐竹氏の支流なり、立家の祖を義綱といふ、常陸國那珂郡に長倉城あり、これを苗字の地とす。

【長尾氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を大庭景宗弟景弘といふ、爲景景虎(上杉謙信)等の先祖なり、相模國高坐郡長尾を苗字の地とす。

家紋三頭左巴釘拔　平良文—忠通—景村—景明—景弘(長尾)—貞景……

【長屋氏】姓は桓武平氏、平良文より出づ、鎌倉權五郎廿一代正吉を祖とす。

家紋五七桐

【長岡氏】姓は淸和源氏、足利氏の支流細川氏より出づ、始め細川藤孝、織田信長に屬し、軍功あり、山城長岡郡桂川の西の地を賜はる故にまた長岡を以て稱號とす。

【長岡氏】(姓)桓武天皇の皇子、岡成この姓を賜はる。

【長岡氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖を氏經といふ。

【長岡氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る、立家の祖を貞高といふ。

【長統氏】 (姓) 景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【長澤氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を光助といふ。

【長崎氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、平資盛の子、盛國より出づ盛國の次子に盛綱あり、これを稱す、世々北條氏の執事として有名なり、長崎圓喜長崎高資等著はる。 家紋 丸に抱茗荷三 九若荷 長字くづし

盛綱—元家(一益に仕ふ)—元通—元政—元義—
元仲—元嘉……

【長篠氏】 姓は清和源氏、源賴光の後なり、立家の祖を三郎左衞門滿成といふ。

【長濱氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を信光といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【長濱氏】 姓は清和源氏、源義光より出づ、立家の祖を信國といふ。

【長鹽氏】 姓は良峰氏、桓武天皇の皇子良峰安世より出づ、立家の祖を利景といふ。

【長野氏】 姓は在原氏、平城天皇の皇孫在原業平の後裔なり、上野蓑輪城主長野業政の家なり。

【長野氏】姓は桓武平氏平高望の子平
良文の後なり、立家の祖を畠山重忠の子
重清といふ。

【長野氏】姓は清原氏天武天皇の皇子
舍人親王の後なり、立家の祖を助道とい
ふ。

【長幡部氏】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王
の後なり。

【長狹國造】（姓）神武天皇の皇子神八井
耳命の後なり。

【長澤松平氏】姓は清和源氏、松平信光の子
信重の流なり、三河國長澤に住せしより
此號あり。　家紋　五七桐　鶴丸　篠丸

信重—信次—正次—正綱—

信綱—

信興—輝貞……（上野高崎）

正信—正久—正貞……（上總大多喜）

【那須氏】姓は清和源氏、源經基の子、源
滿快（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を爲信
といふ。

【波生氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平
良文より出づ、立家の祖を恒直といふ。

【波瀬氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇
子、具平親王の後なり、北畠氏の分派なり

【波岡氏】姓は村上源氏、北畠顯家の後
なり、吉右衛門某南部信直に仕ふ。
家紋　鍬菱

【波川氏】姓は蘇我氏、孝元天皇の皇子
彦太忍信命の後なり、蘇我稻目の末孫に

して代々土佐國高岡郡波川城主たり、清宗に至り波川を稱す。

【奈古氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を田井光義の弟義行といふ、甲斐國中巨摩郡奈胡を苗字の地とす。

武田義清—清光—義行(古奈)—行信—
　—頼行—爲頼……

【奈須氏】　(姓)孝元天皇の皇子、大彦命より出づ、

【奈佐氏】　姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、奈佐勝村を祖とす。但馬國城崎郡奈佐谷を苗字の地とす。

家紋 三ッ木瓜 三本熨斗 五七桐

【奈古屋氏】　姓は桓武平氏、千葉氏の後なり、多部多胤季の弟七左衛門重信を祖とす。

【直江氏】　姓は中原氏、安寧天皇(ー)皇子磯城津彦命の後なり、樋口兼光より出づ上杉氏の臣として直江兼續大に著はる

【南部氏】　姓は清和源氏源頼義の子、源義光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を光行といふ、甲斐國南巨摩郡南部を苗字の地とす。

武田義清—清光—遠光—光行(南部)—
　—實光—時實—政光……利直—重直—
　—重信—行信……(陸奥盛岡)◉家紋 丸に向鶴胸 に九曜 割菱 ◉初割菱を家紋とせし所應永十八年守行秋田と合戰のとき夢に九曜を見また二つ鶴軍中に舞下ろ而してその戰勝利を得たりしかば後家紋とす
　—直房—直政……(陸奥八戸)◉家紋 同前

【南條氏】姓は桓武平氏なり祖某俗者……

一州を領し、南條紀伊守と稱せり。

家紋上藤鶴菱

【並河氏】其先は相馬氏の族なりといふ、然れば姓は桓武平氏なり、これ並河天氏の家なり。

【夏目氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）より出づ、滿快七代の孫、二柳國忠、賴朝に仕へ、泰衡追討のとき軍功ありしにより、信濃國伊那夏目村の地頭職となる、其子國平のときに至り夏目村を苗字の地とす。家紋間狹菊（マセギク）

國平（嘉祿元年死）─國宗─國泰─信泰─國信─吉信……

【楢崎氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇

子、敦實親王より出で佐々木氏より分る……

立家の祖を長康といふ。

【楢村氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、立家の祖を玄生といふ

【鳴海氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を淸時といふ。

【鳴瀬氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、猶小野氏の條下を見よ武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【難波氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を賴信といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【難波氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彥命

の後なり。

【難波田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を金子家範の子小太郎高範といふ。

【鯰江氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を高久といふ、近江國愛宕郡鯰江を苗字の地とす。

にの部

【二宮氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を安井清隆の子隆頼といふ。

【二宮氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を友平といふ。相模二宮を苗字の地とす。

【二宮氏】姓は桓武平氏、仝上平良文の後なり三浦氏より分る立家の祖を義國といふ。

【二河氏】姓は清和源氏、源満仲の子、頼親より出づ。

【二階堂氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を信眞といふ猶中原氏の條下を見よ。

【二本松氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、立家の祖を畠山時國の男、高國といふ。

【入戸野氏】姓は清和源氏、武田氏の支流なり、門定(一に門光)甲斐國巨摩郡武川の入戸野邑に住せしより苗字の地とす。

【仁木氏】　姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、立家の祖を實國といふ、此苗字は實國三河國仁木の地に居りしより苗字の地とす。

家紋　五三桐　丸に二引　根篠

義康(足利)—義清—義實—實國(仁木)—┬義俊—義繼—義秀—義政—義重……
　　　　　　　　　　　　　　　　　　└師義—頼直……
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　└義勝—頼章……
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　└義長……

【仁井氏】　姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり。

【仁保氏】　姓は桓武平氏、平良文の後なり、祖を重頼とす。

【仁科氏】　姓は清和源氏源義光の後胤、武田信玄四男信州高遠城主仁科盛信の後なり。　家紋　割菱　澤瀉

盛信—信久—信衡—信道—|

【仁科氏】　姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、立家の祖は承久の亂に有名なる、仁科盛遠なり仁科氏の城趾は信濃國北安曇郡仁科(大町)にあり。

【仁明源氏】（姓）　仁明天皇の皇子、多、冷、光、覺、効、登、等皆源姓を賜はる、又皇子、人康親王の御子などにも、源姓を賜はる、これ仁明源氏なり、

【仁明平氏】（姓）　仁明天皇の皇子、本康親王の皇子雅望王平姓を賜はる。

【仁田山氏】　姓は清和源氏、源義國の子、新

田義重の後なり、里見氏より分る、立家の祖を氏連といふ。

【仁賀保氏】姓は清和源氏、源頼義の子、義光の後なり、小笠原氏の流なり、大井朝光の末孫、友光の男友擧出羽國由利郡仁賀保に住せしより苗字の地とす。 家紋一文字三星 ◉先祖某北畠顯家に屬せしとき其武功隨一なりとて顯家の作意を以て品一の字を顚倒して家紋とすと

【丹羽氏】(姓)神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【丹羽後】氏は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、加治家茂の弟左衛門助季を祖とす、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【丹羽氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子足利子康より出づ、一色氏より分る、立家の祖を氏明(一色範氏の男)といふ、尾張國丹羽郡丹羽庄を苗字の地とす。 家紋九本骨上り總檜扇五七桐 ◉家傳に一色を稱へし時は丸の内二引両雪笹五七桐紋を用ひ丹羽を稱せしより檜扇及び桐を家紋とすといふ

【丹羽氏】姓は良峯氏、桓武天皇の皇子良峰安世の後なり、立家の祖を玄理といふ。 家紋雪輪の内薺丸に籐

【丹波氏】姓は桓武平氏、平高望の流なり、始め武井を稱し、後三河國庄田に住して在名を苗字とし、榮郡のとき外家の稱丹羽に改む。 家紋七寶の内花菱丸に橘

【西　氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を東行頼二男二郎行廣といふ。 家紋三蓋松三星

【西川氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源
頼清(頼義の弟)より出づ、村上氏の支流なり。

【西山氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ、立家の祖を國遠といふ。

【西山氏】姓は大宅氏、孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり、立家の祖を季光といふ。

【西井氏】姓は清和源氏、太田備中守資清男伊賀守資德の後なり。

【西方氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を盛義といふ。

【西内氏】姓は清和源氏、足利義康の後

細川頼春の男詮春を祖とす。

【西村氏】姓は清和源氏源義光より出づ、武田氏の支流なり、信賢を以て祖となす。

【西村氏】姓は清和源氏、源義家の後、新田の支流なり、其先岩松氏の族にして鳥銃の術を修めんと大隅國種子島に渡り西村を稱し、能重に至り伴と改め、復西村に復す。家紋丸に藤巴 丸に三柏

【西村氏】姓は清和源氏、源義光の流、足利氏より出づ、立家の祖を道信といふ。

頼春……則英(西内祖)—義敎……道信(西村)—道則—道良……

【西室氏】姓は清和源氏、源義國義(家の子)の子、足利義康の後なり、奥州斯波氏よ

り分る、立家の祖を持頼といふ。

【西尾氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分るもと深尾氏と云へり、正義の時家康の命により西尾と改む。　家紋丸に鞠挾四目結

【西尾氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康より出づ、吉良氏より分る、吉良持廣の子吉次西尾氏を稱す、三河西尾を苗字の地とす。　家紋櫛松稲穗鐵鳩酸草

◉忠永の時鐵鳩酸草の紋を交へ用ふ

吉次―忠永―忠照―忠成―忠尙……（遠江横須賀）

【西竹氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命より出づ、石淸水の神主紀氏よりの分派なり。

【西條氏】　姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を光政といふ。

【西條氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を長綱といふ。

【西郡氏】　姓は淸和源氏、源義光より出づ、武田氏の支流なり、前項と仝しく信賢より出づ。

【西本氏】　姓は桓武平氏、三浦流なり、立家の祖を七郎國盛といふ。

【西脇氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を季忠といふ、武藏七黨の一なる野與黨に屬す。

【西澤氏】　姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後、源義家の臣、淸原成衡の末葉なりといふ。　家紋庵に穗蓼丸に庵　安時（成田泰親に仕ふ）

正時―時里―里令―令方―方顯―正里……

【西　保　氏】姓は綾氏景行天皇の皇子日
本武尊の後なり、立家の祖を清定といふ

【西北條家】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子源勤これを稱す。

【西洞院家】姓は桓武平氏、葛原親王の皇子平高棟より出づ、立家の祖を行時といふ。行時の薨は北朝後圓融天皇の應安二年にあり。家紋 丸の内揚羽蝶

【庭田家】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、この家號は經資より始まれり、經資は後伏見天皇頃の人なり。源雅信―時中―濟政―資通―政長―
有賢―資賢―時賢―有資―經資(庭田)……

【新田氏】姓は清和源氏、源義家の子に義國あり、其子義重上野國新田に住し新

孫繁榮、其支流の最も大なるものを德川氏となす。

【新納氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を忠光といふ、猶島津氏の姓につきて疑あり、島津氏の條下を見るべし。

【新屋氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を行景といふ。

【新居氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智姓につき疑問あり、越智氏の條下を見るべし。

【新野氏】姓は清和源氏足利氏の支流今川氏より分る、立家の祖を俊國といふ

【新村氏】姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を定平といふ。

【新里氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子より出づ、立家の祖を恒房といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【新津氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を盛義といふ。

【新妻氏】姓は桓武平氏、千葉常將次男常兼四代の孫常親を祖とす。

【新關氏】姓は桓武平氏、立家の祖を荒次郎實重といふ、土肥實平の弟なり。

【新田部氏】（姓）安寧天皇の皇子、磯城津彦命の後なり。

【韮山氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【蜷淵氏】（姓）用明天皇の皇子、殖栗王より出づ。

【錦戸氏】姓は清和源氏、源義光の流、錦織休意祥景三男崔菴某を祖とす。

【錦織氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を義高といふ。

【贄川氏】姓は清和源氏、源爲義の孫、木曾義仲の後なり、立家の祖を光信といふ、信濃國東筑摩郡贄川を苗字の地とす。

ぬの部

【沼田氏】姓は清和源氏、木曾義仲の後

なり、立家の祖を木曾基家の子家仲といふ。

【沼田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の流なり、三浦氏より分る、三浦泰村の二男景泰始めてこれを稱す。上野沼田を苗字の地とす。

【額田氏】(姓)孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【額田氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を義直といふ義直を義重と書けるもあり考ふべし、常陸國那珂郡に額田城趾ありこれを苗字の地とす。

【額田氏】(姓)孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、

【額戸氏】姓は淸和源氏源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖を得川義秀の弟、經義といふ。

ねの部

【根氏】(姓)孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【根井氏】姓は滋野氏、淸和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を行親といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。

【根津氏】姓は滋野氏、淸和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を海野幸恒二男小次郎直家といふ。

【根岸氏】姓は村上源氏、具平親王の後なり、北畠親房の末葉、始め木造を稱し、左

中將具康長男雄雅羽柴を賜はり後に至りて根岸に改む。家紋鏡蔦五三桐

【根岸氏】姓は桓武平氏、平維將の流、熊谷直實の末孫、長直の次男、實勝武藏國比企郡根岸村に住せしより、苗字の地とす 家紋寓生蔦頭合三蔦 ◉もとは鳩字を用ふ

實勝—俊直—定直—定仍—直勝—直利—直英……

【根森氏】姓は桓武平氏、千葉氏より出づ、主計某を祖とす、陸奥國二戸郡根森村を苗字の地とす。家紋三柏下に一文字

【禰津氏】姓は滋野氏、貞保親王の後なり、立家の祖を道直といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。家紋丸の内違鷹羽花菱

のの部

【乃木氏】姓は宇多源氏、野木に同じ、野木氏の條下を見よ。

【乃美氏】姓は桓武平氏、土肥實平の後裔、小早川景興、小早川を改めて乃美と稱す。

【延生氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤光といふ。

【信田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良將(國香の弟)の後なり、立家の祖を將國といふ。

【能世氏】姓は清和源氏、源頼光の後なり、立家の祖を國能といふ。

【能義氏】姓は宇多源氏、野木氏に仝し

野木氏の條下を見よ。

【能美氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【能登氏】（姓）崇神天皇の皇子大入來命の後なり。

【能瀬氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を高賴といふ。

【能勢氏】姓は清和源氏、仝上、源賴光の後なり、立家の祖を國基といふ、攝津國能勢郡を苗字の地とす。

家紋 獅子に牡丹 矢筈十文字 桔梗 五七花桐 十二目結 ◉桐の紋は足利將軍家より賜ふところなりと

【能見松平氏】姓は清和源氏、松平信光の子光親の流なり、三河國能見に住せしにより此號あり、松平氏參照。

家紋 丸に花菱 飯笹 丸に鳩酸草 玉分銅 五七桐 ◉家傳にもとは丸に三葵及三布白の幕を用ふと雖も慶長年中よりこれを憚るといふ

松平信光—光親—重親—重吉—重勝—
重忠—重直—英親—重榮……（豐後杵築）

【野氏】姓は清和源氏、源滿仲の後なり、立家の祖を太郎賴清といふ。

【野木氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を高綱といふ、野木又能義と書けるもあり。

【野上氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ、立家の祖を魚純といふ。

【野上氏】姓は多治比氏宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を政經

といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【野口氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、小笠原氏の支流、三好氏より分る、立家の祖を冬長といふ。

【野口氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を景義といふ。

【野口氏】 姓は宇多源氏、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を盛定といふ。

【野中氏】 (姓) 孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり。

【野中氏】 姓は村上源氏、赤松義範弟志摩守貞國を立家の祖とす。

【野本氏】 姓は清和源氏、足利氏經の孫繼久時代大和國鴫に住じ野本と改む。

家紋瓜の内二引龍五七桐

【野平氏】 姓は滋野氏、淸和天皇の皇子貞保親王より出づ、立家の祖を幸廣といふ猶滋野氏の條下を見よ。

【野平氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命より出づ、立家の祖を廣賢といふ、猶小野氏の條下を見よ。

【野内氏】 姓は小野氏、天足彦國押人命より出づ、立家の祖を重時といふ、猶小野氏の條下を見よ、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【野田氏】 姓は村上源氏北畠滿雅より出づ、其男野田顯房其子滿成共に足利家に仕ふ、其子を親成とす、男成次のとき外家の號松木に改め、安成に至りて野田に

復す。　家紋左片藤丸 割菱

【野尻氏】　姓は橘氏、橘諸兄の末葉なり織田信長の臣野尻吉景より出づ。

家紋丸の内橘 下藤丸

吉景—吉正—正元—正護—正矩—正史—

【野尻氏】　姓は清和源氏、源頼光の後なり、深栖光重の男仲重の庶流保義信濃國伊奈郡野尻に佐せしにより苗字とす。

家紋糸輪の内右三巴 笹龍膽 稻三巴

【野村氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を盛季といふ、近江國野村を苗字の地とす。　家紋丸の内四目結 三星 右三巴 連錢

【野與氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤宗といふ。武藏七黨の一なる野與黨の祖なり、野與黨に屬する苗字には、多名、金平、鬼窪、萱間道智、多賀谷、大藏等猶多し。

平良文—忠頼—胤宗(野與黨の祖)……

【野巻氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を横山義兼の子、大夫盛兼とす。

【野崎氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を澁江光茂の子光員といふ、野與黨に屬す、

【野呂氏】　姓は桓武平氏、立家の祖を彌八郎盛宗といふ。

【野澤氏】　姓は清和源氏、源義光の流、佐竹氏の族なり、祖を秀辰といふ

家紋丸に扇 七本骨 丸に文字

【野澤氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命より出づ、立家の祖を横山義孝の男賚孝弟家光といふ、猶小野氏の條下を見よ。

【野部氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命より出づ、立家の祖を義兼といふ、猶小野氏の條下を見よ、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【野邊氏】姓は桓武平氏、平清盛の後なり、織田左馬頭敏宗の男當信(信秀より諱の一字を與へられ秀當と改む)遠江國野邊庄を領せしより苗字の地とす。
家紋 桐

【野邊氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を快次といふ。

【野呂里氏】姓は清和源氏源義賢の後なり、立家の祖を左馬丞家盛といふ。

【野一色氏】姓は清和源氏、佐々木盛綱七代の孫、秀長近江國坂田郡野一色村に住せしより苗字の地とす。家紋 四ツ結 丸に一文字 丸に鱗

秀長……秀政―秀俊―長俊―秀勝―秀高―行久……

【野々山氏】姓は清和源氏、源爲義の後なり、其先島津氏の庶流にして三河國野々山に住せしより在名を苗字の地とす。
野々山政兼松平廣忠に仕へ、三河牛田の城來高寺八橋駒場の郷を領す。
家紋 丸に十文字 丸に三笹

第六章　頭音は行に屬する姓氏

はの部

【八戸氏】姓は清和源氏、源義光の流、南部氏の支庶なり。七戸愛信の弟利戡を祖とす。

【八田氏】（姓）應神天皇の皇子、稚停毛二俣王の後なり。

【八多氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後、武内宿禰より出づ。

【八條氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を光平といふ。武藏七黨の一なる與野黨に屬す。

【支倉氏】姓は桓武平氏、平高望七代孫景常曾孫常隆次男常久の子、久成陸前柴

【丈部氏】（姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【丈部氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【丈部氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【羽川氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、新田義重の後なり。

【羽木氏】姓は清和源氏、源頼親の流なり、立家の祖を一戸行朝の弟實氏とす。

【羽仁氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を澤俣定重の子有幸といふ。

【羽田氏】（姓）應神天皇の皇子、稚停毛

二俣王の後なり、前述八田、又は波多に作れるも皆同一のものなり。

【羽田氏】　姓は清和源氏、足利義康の後斯波高經の後なり、羽田民部正越前羽田に住し、在名を苗字とす、五代の孫義眞秀次に仕ふ。

【羽生氏】　埴生氏を參照すべし。

【羽切氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を實繼といふ。

【羽崎氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を光直といふ。

【羽黒氏】　姓は良峰氏、桓武天皇の皇子良峰安世より出づ、立家の祖を長後といふ。

【羽束氏】　(姓)　孝昭天皇の皇子、天足彥國押人命の後なり。

【羽牀氏】　姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【羽咋氏】　(姓)　垂仁天皇の皇子、磐衝別命の後なり。

【羽茂氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を惟忠といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【羽井田氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を頼秀といふ。

【早川氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を信平といふ。

【早水氏】　姓は清和源氏、源義光の後な

【早内氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す、猶小野氏の條下を見るべし。

【伴氏】姓は淸和源氏、源義光の男、加賀美遠光の後胤、伴野時長の末葉武藏國の住人昌之伴野を改めて、伴と稱す。

【走水氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり。

【伯家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、この家號は顯仲より始まる、神祇伯たりしより此號あり。

【伯家】姓は華山源氏、華山天皇の皇子、清仁親王より出づ、親王の孫康資王より。

【坊城家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、この家號は國信より始まる。

【判乃氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、武藏七黨の一なる丹黨に屬す、立家の祖を三郎基兼といふ、武藏入間郡飯能を苗字の地とす。

【坂東氏】姓は淸和源氏、源滿季の流なり、立家の祖を小椋景遠の孫、孫三郎義盛といふ。

【阪東氏】姓は淸和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を忠頼といふ。

【初鹿氏】姓は清和源氏、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を政頼といふ。

【初鹿野氏】姓は清和源氏、武田太郎七代伊豆信氏の男公信を祖とす。

【花井氏】姓は清和源氏、源義家の流、松平支流なり、美濃國愛知郡鳴海村花井といふ古井の邊に兒あり、酒井忠次に養はれ、花井源次郎と稱す、後酒井忠實の養子となり、花井越中守忠吉といふ。

家紋割桔梗の内桔梗井桁

吉高―吉久―吉武―忠雄―秀和……

【花田氏】姓は橘氏、楠正盛の末流、河内國住、和田長盛より出づ、花田正久を祖とす。家紋丸に劔花菱山吹花

【花田氏】姓は清和源氏、源經基より出づ、澁川義顯の後なり、立家の祖を將朝といふ。

【花村氏】姓は清和源氏、廣瀨丹波男正資武田信玄に仕へ、永祿年中河中島合戰のとき軍功あり信玄の命により廣瀨を改めて花村と稱す。

【花房氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、立家の祖を義辨三男職通といふ、職通、常陸國花房郷に住せしより苗字の地とす。

家紋三雁金蛇目 ◉家傳に古昔は丸に三雁金を用ふといふ

【長谷家】姓は桓武平氏、葛原親王の子平高棟より出づ、此家號は忠康より始まる、忠康の薨は靈元天皇の寛文九年にあ

【長谷氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を隆氏といふ。

【長谷川氏】　姓は橘氏、橘諸兄より出づ、先祖より美濃國に住し、越中守某（一に重矩）齊藤義龍に仕ふ。家紋檜扇

【長谷部氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【治田氏】　（姓）　開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【波多氏】　姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融より出づ、松浦氏より出づ。

【波多氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、彦天忍信命の後なり、前述八多氏と仝一のものならん。

二派王の後なり、前述八多氏と仝一のものなり。

【波多氏】　（姓）　景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【波美氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【波沙氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、義光の後なり、奈古氏より分る。

【波木井氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、南部光行の男、實長これを稱ふ。

【林氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後、武内宿禰より出づ。

【林氏】　姓は良峯氏、桓武天皇の皇子

良峯安世の後なり、立家の祖を高綱といふ。

【林氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原清宗二男光政故ありて信濃國林郷に潜居す、松平親氏の仰により林と改む。 家紋丸に三頭左巴下に一文字三階菱 五七桐
◉家傳に巴は光政のとき親氏君の仰によりて用ひまた侍頭となりて御杯を一番に賜はるにより一文字を加ふと

【林氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を快次と云ふ。

【林氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を氏村と云ふ。

【林氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通村と云ふ、美濃國安八郡林村を苗字の地とす、通村三代勝利外家の號南部を稱し、其男正利に至り林に復すと云ふ。
家紋 丸に抱柊 杏葉牡丹 松皮菱 林文字

勝利(信長に屬す)—正利—┬勝正—勝明—正榮—正虎……信勝
　　　　　　　　　　　　└春勝—信篤……

【林田氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿季(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を岸下時綱の弟泰範と云ふ。

【拜志氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫親王の後なり、猶越智姓につき疑あり、越智氏の條下を見るべし。

【芳美氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を中津爲衛の弟三郎爲家と云ふ。

【芳美氏】 姓は清和源氏、源頼信の子、源

立家の祖を重光と云ふ。

【芳香氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後武内宿禰より出づ、立家の祖を長有といふ。

【芳賀氏】　姓は紀氏武内宿禰の後なり立家の祖を朝有といふ、此苗字は下野國芳賀郡の地より來りしものなり、下野國志には芳賀を以て天武天皇の皇子、舍人親王の流となす。

【服部氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義綱（義家の弟）の後なり、立家の祖を石橋盛行の子盛重といふ。

【服部氏】　姓は桓武平氏、平宗清（貞盛の後裔）より出づ、能樂家たる觀世氏は、此家國服部村に住み氏を服部と改む。

【春庭氏】　（姓）　孝靈天皇の皇子、彦狹島命の後なり、宇自可氏より分る。

【春苑氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、大彦命の後なり、宍人氏よりいづ。

【春原氏】　（姓）　天智天皇の皇子、河島王の後なり。

【春近氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【畑氏】　姓は村上源氏、具平親王よりいづ、北畠顯能の裔、世々伊勢國北畠を領し、單に畠、後に畑を稱す。

【畑山氏】　姓は在原氏、平城天皇の皇子阿保親王よりいづ、在原業平の後なり、立

家の祖を忠重といふ。

【原氏】 姓は嵯峨氏、嵯峨天皇の皇子源融の後なり、松浦氏より分る。

【原氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)よりいづ、立家の祖を八島重實の孫、光成といふ。

【原氏】 姓は良峯氏、桓武天皇の皇子良峰安世の後なり、立家の祖を高成といふ。

【原氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光よりいづ、土岐氏の支流なり、立家の祖を師親(蜂屋氏よりいづ)といふ。

【原氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を常金といふ。

【原氏】 姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を家時といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【原井氏】(姓) 孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり、武内宿禰の子、葛城襲津彥よりいづ。

【原口氏】 姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を通村といふ。

【畠山氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義家より出づ、立家の祖を義純といふ、これ足利時代、三管領の一として有名なる畠山なり、此苗字は義純、下項にあげたる畠山重忠の滅びし後其邑を與へられたるより來れるものなり。

家紋 五七桐 二引兩 雪薺

―貞國―家國―國淸……

義深―基國―滿家―持國

―義成―義豐―義英

政長―尙順―稙長

【畠山氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重能といふ、これ有名なる畠山重忠の父なり、此苗字は重能、武藏國大里郡畠山の莊司たりしより來れるものなり。

秩父重弘―重能（畠山）―重忠―重保

【馬場氏】　姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を定義といふ。

【馬場氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子源

後裔甲斐國敎來石に住し、在名を苗字とし、代々武田家に仕へ、信明の時武田信重の婿となり馬場に改む、信房に至り武田の一族に列なり花菱の紋を受く。

家紋割菱　賴光―賴國―賴綱―仲政―

―賴政―仲綱―宗綱―公綱

【馬場氏】　姓は淸和源氏、源爲義の孫、木曾義仲よりいづ、立家の祖を家佐といふ

家紋笹龍膽釘拔　◎はじめ二引を用ひ昌次のとき釘拔に改む

【馬場氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を資幹といふ、石川氏より分る。

【埴田氏】　姓は淸和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）よりいづ、立家の祖を輔賴

といふ。

【埴生氏】もと波生に作る或は埴生に作る、姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を時常といふ、信濃國伊那郡羽生氏はこの裔なり。

【這見氏】姓は桓武平氏、仝上平良文の後なり、立家の祖を常廣といふ。

【間人氏】（姓）仲哀天皇の皇子、譽屋別命の後なり。

【鼻和氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を義俊といふ。

【塙氏】姓は桓武平氏、平國香の後なり、先祖塙盛幹より代々常陸國塙村の城に住す、其末流頼重に至り斯波家に屬し尾張國春井郡山田庄に移り住す。

家紋丸に万字　頼重……重友（一に直政、信長に仕ふ）
　安友―宗安……

【葉木氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、今川氏より分る、立家の祖を直秋といふ。

【葉山氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王よりいづ、赤松氏の支流なり立家の祖を則春といふ、葉山一に端山に作るものあり。

【葉栗氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を國綱といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【葉栗氏】（姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【萩原氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源

【萩原氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり佐々木氏より分る立家の祖を茂頼といふ。

【萩原氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王よりいづ、赤松氏の支流なり立家の祖を光則といふ、甲斐國萩原を苗字の地とす。

【蜂屋氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を頼經といふ。

【蜂屋氏】　姓は清和源氏、仝上、源頼光よりいづ、土岐氏の支流なり、立家の祖を定親（土岐光定男）といふ、定親初め美濃國加茂郡蜂屋村に居り氏を蜂屋と改む。

家紋　丸に桔梗　鯉文字

頼光よりいづ、土岐氏の支流なり、立家の祖を菅沼定賢子定廣といふ。

【蜂須賀氏】　出自充分明かならず系圖には源三位頼政の流となす、此苗字はもと尾張國蜂須賀の地に住せしより來る至鎭の時初めて松平の稱號を賜はる。

家紋　丸に卍字　五三桐　柏丸　⊙先祖の家紋柏丸たりと雖も阿波守至鎭のときまん字に改む桐の紋は修理大夫正勝に義昭より賜ふ所なりと雖とも豊臣太閤の時に當りて憚りてこれを用ひず

蜂須賀正利（小六）─正勝─家政─至鎭─忠英……（阿波德島）

【端山氏】　姓は村上源氏、葉山氏に仝し葉山氏の條下を見るべし。

【箸本氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、義光の流なり、武田氏の支族、一條氏より分

る、立家の祖を時光といふ。

【蓮沼氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命よりいづ、立家の祖を内島忠俊弟國家といふ、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す、猶小野氏の條下を見よ。

【播摩氏】 (姓) 景行天皇の皇子、稻背入彥命の後なり。

【榛原氏】 (姓) 神武天皇の皇子、大山守命の後なり。

【榛谷氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重朝といふ。

【榛澤氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を長濱信光弟成房といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【箱羽氏】 姓は良峰氏、桓武天皇の皇子良峰安世よりいづ、立家の祖を吉高とす

【箱石氏】 姓は宇多源氏、佐々木氏の支流なり、義如南部重信に仕ふ。 家紋四目結五七桐

【箱崎氏】 姓は阿部氏、大彥命の後なり親直南部重直に仕へ慶修に至り箱崎に改む。 家紋違鷹羽

【橋本氏】 これ楠氏の族、橋本正員、正茂等の家なり。

【濱氏】 姓は清和源氏、源爲義の流なり、源爲朝子爲頼、次子爲信伊豆の蝦蟆ヶ淵に生る、よりて蝦蟆氏を稱す、子宗氏鎌倉由井ヶ濱に居城せるを以て由井ヶ濱と稱し、後單に濱と稱す、後宗氏信濃諏訪に移り住す。

【濱河氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を秀信といふ。

【濱岡氏】　姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を重澄といふ猶滋野氏の條下を見るべし。

ひの部

【一柳氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を宣高（通直の男）といふ、猶越智氏の條下を見るべし
家紋 丸に釘抜 ◉もと三文字を用ふといふ

河野通宣―宣高（一柳）―直盛―┬直興
　　　　　　　　　　　　　　└直照―直増―直長……（伊豫小松）

【一橋家】　姓は清和源氏、徳川將軍家の支流なり、八代將軍吉宗の子、宗尹初めてこれを稱す。

徳川吉宗―宗尹（一橋家）―治濟―齊敦……

【人見氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を政經といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す、武藏國人見村を苗字の地とす。　家紋 丸に六曜 六爪

【土方氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼親（頼光の弟）よりいづ、立家の祖を秀治といふ。　家紋 三頭左巴 揚羽蝶

【土形氏】　（姓）　應神天皇の皇子、大山守命の後なり。

【久島氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源

頼光の後なり、立家の祖を頼重といふ。

【久尻氏】 姓は清和源氏、源頼光の後なり、立家の祖を久江といふ。

【久枝氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子よりいづ、立家の祖を盛資といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【久田氏】 姓は清和源氏、源經基の後、高屋實遠の支流、久田頼房より出づ。

家紋 石持の内四目結 扇の内四目結

【日出氏】 姓は清和源氏、天武天皇の皇子、舍人親王の後なり、立家の祖を道公といふ。

【日向氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を頼員といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【日向氏】 姓は清和源氏、源義光の流、武田氏より出づ、初め新津を稱す、玄東齋某幼より祖母に養はる、祖母は武田信玄の臣、日向大和守某の母なりよりて日向と改む。 家紋 黑餅の内違鷹羽 割菱 ◉初め新津を稱へしとき松皮菱を用ゐ玄東齋の時より日向家の紋違鷹羽に改む割菱は信玄の與ふる所なりと

【日向造】 (姓) 景行天皇の皇子、豊國別皇子の後なり。

【日根氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、立家の祖を永盛といふ。

【日澤氏】 姓は清和源氏、小笠原氏より出づ、陸奥三戸郡日の澤を苗字の地とす。

家紋 三階菱

【日比野氏】 姓は清和源氏、小笠原長清の後裔にして初め村井を稱し、忠次のとき

より日比野と稱す。　家紋石井筒の内三階菱 中陰三菱

【火氏】（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【火國別】（姓）景行天皇の皇子、豐戸別命の後なり。

【比田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、三浦氏の支流なり、立家の祖を廣盛といふ。

【平子氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を廣長といふ武藏七黨の一なる横山黨に屬す、猶小野氏の條下を見るべし。

【平山氏】姓は小野氏、仝上、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を時宗といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【平山氏】姓は紀氏孝元天皇の皇子、彦太忍信の孫、武内宿禰より出づ、石清水の神主紀氏より分る。

【平戸氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を寛幹といふ。

【平内氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を清常といふ。

【平井氏】姓は桓武平氏、鳥居正定の孫敎重のとき祖父の實父の家號を用ひ平井と稱す。　家紋三頭左巴 波の丸

【平井氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿季（滿仲、滿政の弟）より出づ、立家の祖を景綱といふ。

【平井氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇

子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を高島泰氏の男師綱といふ。

家紋左巴

【平井氏】姓は清原氏、舍人親王の後なり、立家の祖を通秀といふ。

【平井氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を清隆といふ。

【平田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を頼直といふ。

【平田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤俊といふ。

【平田氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を少輔房といふ。

【平田氏】姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり、立家の祖を資信といふ

【平流氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を家長といふ。

【平流氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を實信といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【平塚氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を爲高といふ、武藏國平塚を苗字の地とす。

家紋龜甲の内梅鉢 丸の内三引 二重龜甲の内梅鉢

【平塚氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快の後なり、立家の祖を輔光といふ。

【平尾氏】姓は綾氏、景行天皇の皇子、日

本武尊の後なり。

【平野氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を重季といふ。

【平野氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を賴重といふ。

【平野氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後北條の流なりといふ、これ平野長泰の家なり、但し長泰の父は清原姓より養子せるものなり。 家紋丸に三鱗形九曜

◉はじめ木瓜を用ひのち九曜に改むさ

【平岡氏】 姓は清和源氏、源賴光の後なり、溝杭賴資の後、賴勝のとき平岡に改む河內國平岡郡を苗字の地とす。

家紋五鐶の內に九曜三輪違 ◉初め九曜を用ふ貞恒のとき常憲院殿の仰によりて五鐶を加ふさ

【平岡氏】 姓は清和源氏、源賴光の男賴國の弟賴資より出づ、祖を資光といふ、河內國平岡を苗字の地とす。 家紋丸に十文字九曜

【平岡氏】 姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を明生といふ、猶越智氏の條、下を見るべし。

【平地氏】 姓は清和源氏、源賴信の子、源賴清より出づ、村上氏より分る、立家の祖を仲康といふ。

【平屋氏】 姓は清和源氏、仝上、源賴清より出づ、立家の祖を出浦成國の子親國といふ。

【平賀氏】 姓は清和源氏源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を盛義といふ。信濃國佐久郡平賀を苗字の地とす。

家紋爪

頼義─義光─盛義(平賀)─有義……

【平松氏】 姓は橘氏、始め石黒を稱し、後外家松平を繼ぎしも其稱號を憚りて平松と稱す。 家紋蛇目蔦

光幸……在幸─孝篤─幸靜─幸展─忠勝……

【平松家】 姓は桓武平氏、桓武天皇の皇子、葛原親王の子平高棟より出づ、この家號を稱へたるは時庸に始まる時庸の薨は後光明天皇の承應三年にあり。

【氷上氏】 (姓) 天武天皇の皇子、新田部王より出づ。 家紋揚羽蝶割菱

【氷田氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏より分る、立家の祖を忠長といふ。

【東氏】 姓は清和源氏、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を政義といふ。

【東氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、義光の流、南部氏の支庶なり。

【東氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)の後なり立家の祖を善積惟家の弟四郎忠淸といふ。

【東氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を胤頼といふ。

【東氏】 姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を遠俊といふ。

【東氏】 姓は淸和源氏、源經基の子、源

滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を行賴(滿快二男)といふ、此苗字は、西氏に對して起りたるものなり。

【東氏】　姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を家廣といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【東氏】　姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彥命の後なり、立家の祖を家廣といふ、猶中原氏の條下を見よ。

【東竹氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命の孫武內宿禰の後なり、石淸水の神主紀氏より分る。

【東根氏】　姓は淸和源氏、源義國(義家の弟)の子、足利義康の後なり、奧州斯波氏より分る、立家の祖を賴高といふ。

【東久世家】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、この家號は通廉に始まる、通廉の甍は靈元天皇の貞享元年にあり。　家紋龍膽笹

【肥田氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を光房といふ。

家紋桔梗 五三桐 鳩酸草

【肥田瀨氏】　姓は淸和源氏、源賴光より出づ、池田賴忠の弟直氏の子宮內少輔詮直を祖とす。

【飛多氏】　(姓)　敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり。

【飛彈瀨氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を太郎國成といふ。

【彥坂氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を山田重滿の弟重親といふ、美濃國山縣郡彥坂村を苗字の地とす、重親の後宗重親鸞上人の弟子となり、是れより代々下間を稱し、重清に至り彥坂に復すと。

家紋 丸に劍鳩酸草 六劍

【彥部氏】 姓は高階氏、天武皇皇の皇子高市親王より出づ、立家の祖を光朝といふ。

【蛭河氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を景義といふ。

【廣田氏】 姓は宇多源氏、宇宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る。

【廣根氏】 (姓) 光仁天皇の皇子、諸勝この姓を賜はる。

【廣瀨氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親(賴光の弟)より出づ、立家の祖を宇野有治の子俊治といふ。

【廣瀨氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、立家の祖を秀泰といふ、佐々木氏の支流なり。

【廣瀨氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を本鄉直賴の弟師範といふ。

【廣瀨氏】 姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を光高といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【廣澤氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、立家の祖を義利といふ。

【廣澤氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ。

【廣岡氏】 姓は村上源氏、具平親王の後なり、赤松氏より分る立家の祖を廣瀬師範の弟則弘といふ。

【廣岡氏】 (姓) 敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、

【廣屋氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を廣屋六郎といふ、武藏七黨の一なる村山黨に屬す。

【廣幡家】 姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源弘これを稱ふ。

【廣幡家】 正親町天皇の皇子、智仁親王より出づ、立家の祖を忠幸といふ、忠幸の薨は靈元天皇の寛文九年にあり。

家紋十六菊

【廣來津氏】 (姓) 崇神天皇の皇子、豊城入彦の後なり。

【蒜間氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を經高といふ。

【檜坂氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴平(賴光賴信等の弟)より出づ、立家の祖は賴平の子忠季なり。

【樋口氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿季(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を良賀といふ。

【樋口氏】　姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、中原兼遠の子兼光より出づ、兼光は木曾義仲の臣なり、猶中原氏の條下を見よ。

ふの部

【二谷氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を行氏といふ。

【二柳氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿快（滿仲の弟）の後なり、立家の祖を忠康といふ。

【文屋氏】　（姓）天武天皇の皇子、長親王の後なり、祖は文屋眞人淨三なり。

【不破氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴胤といふ。

【古川氏】　姓は清和源氏、源義光の後なり、市川廣紀（信玄に仕ふ）四代の孫渡邊宗綱の後德高の男德郡古川を稱す。

家紋　三輪の内花澤瀉

【古川氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、立家の祖を重繼といふ。

【古市氏】　姓は小野氏、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を親保といふ、猶小野氏の條下を見るべし。　武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【古庄氏】　姓は小野氏、仝上、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を景久といふ。　猶小野氏の條下を見るべし。　武藏七黨

の一なる横山黨に屬す。

【古田氏】姓は淸原氏、立家の祖を古後時助の男源六助通といふ。

【古江氏】姓は淸和源氏、源滿快の流、片桐爲基の後胤なりと。家紋左一巴鬼蔦

【古郡氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を忠重といふ猶小野氏の條下を見るべし。武藏七黨の一なる橫山黨に屬す。

家紋丸の内三文字

【古郡氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を中村時經の子時員といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【古澤氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、武藏七黨の一なる橫山黨に屬す。猶小野姓の出所につき疑あり、小野氏の條下を見るべし。

【古池氏】姓は淸和源氏、源賴信の子、源賴淸（賴義の弟）より出づ、村上氏より分る立家の祖を滿實といふ。

【古後氏】姓は淸原氏、立家の祖を次郎爲言とふ。

【古橋氏】姓は桓武平氏北條義時の後胤石川元房の男元憲外家の稱古橋に改む。家紋笹龍膽藤巴

【布勢氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【布勢氏】（姓）仲哀天皇の皇子、忍稚命の後なり。

【布勢氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を滿春といふ。

【布留氏】　(姓)　孝昭天皇の皇子、天足彥國押人命の後なり。

【布施氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を助高といふ。

【布師氏】　(姓)　孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【舟木氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を眞野定時の男時信といふ。

【舟尾氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を隆勝といふ。上舟尾下舟尾の二に分る。

【舟田氏】　姓は桓武平氏、立家の祖を長門守長恒といふ。

【伏木氏】　姓は桓武平氏、平維茂の後なり。　家紋 丸の内橘 三つ輪違

【伏見氏】　姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後橘諸兄より出づ、立家の祖を俊綱といふ。

【伏原家】　姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王より出づ、この家號を稱へたるは賢忠に始まる、賢忠の薨去は靈元天皇の寬文六年にあり。

【吹良氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義行といふ。

【船橋家】　姓は清原氏、天武天皇の皇子

舍人親王より出づ、この家號を稱へたるは秀賢に始まる、秀賢の薨去は後水尾天皇の慶長十九年にあり。
家紋　丸の內唐花　藤巴　丸の內一の字

【船木氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を土岐賴定の弟賴重といふ。

【富士氏】姓は和邇部孝昭天皇の皇子天足彥國押人命より出づ、立家の祖を兵部信忠といふ、駿河國富士郡を苗字の地とす。　家紋　丸に櫻欄葉　丸に三階菱

信忠（今川義元に屬す）—信重—信成—信宗—信良……

【富士名氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【深川氏】（姓）應神天皇の皇子、額田大中彥皇子より出づ。

【深津氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり立家の祖を光重といふ。

【深津氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を義長といふ。

【深栖氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を仲重といふ。

【深澤氏】姓は清和源氏、仝上、源賴光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を定氏といふ。　家紋　丸の內二重桔梗　丸の內一重桔梗

【深尾氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、立家の祖を高義といふ、佐々木行實の弟兵庫助行定の後なり。　家紋　角四目結　五三桐　向梅

【深溝松平氏】姓は清和源氏、五油松平氏よ

り分る。始め三河國額田郡深溝に住せしにより此號あり、松平氏參照。

家紋 五葉の實橘 重扇 ◉初め丸に重扇を用ひ忠房の時に重扇に改む橘の紋に忠刻の時より之を用ふ

松平信光—則定—忠景—忠定…好景…伊忠—家忠—忠利—忠房—忠雄…(肥前島原)

【普恩寺氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛より出づ、北條氏の支流也。

【淵上氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を師家といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【福井氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【福角氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の條下を見るべし。

【福永氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【福田氏】姓は文德源氏、文德天皇の皇子、源能有の後なり、立家の祖を惟康といふ。

【福村氏】姓は清和源氏、源義光の流なり、山本正直の二男、勝正外家の家號を冒し福村と稱す。家紋 石疊

【福林氏】姓は宇多源氏、佐々木成頼の後胤なり、伊賀國住人福林都吉男、都春家康に仕ふ。家紋 丸の内四目結 丸の内鳩酸草

【福島氏】姓は清和源氏源滿仲の子、源頼光の後なり立家の祖を滿隆といふ。

頼光—頼國—師光—滿隆(福島)—經光……

【福光氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源

頼光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を土岐頼貞の子頼直といふ。

【福依氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を泰秀といふ。

【福原氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を景行といふ。

【福地氏】姓は桓武平氏、立家の祖を柘植彌兵衛宗清の弟宗俊とす。

【福家氏】姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり、立家の祖を資基といふ

【福釜松平氏】姓は清和源氏、松平長親の子親盛の流なり、三河國碧海郡福釜に住せしにより此號あり松平氏參照。

家紋丸に向梅　⊙支流の家はもとは葵なりしが康親のとき憚りて梅を用ふと

松平長親—親盛—親次—親俊—康親……

【懐島氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、大庭氏より分る立家の祖を景義といふ、相模高座郡懐島郷を苗字の地とす。

【藤方氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後伊勢國司北畠氏の一族なり、北畠敦具の男敦賢同國藤方城に居り子を朝成といふ。　家紋丸に割菱五七桐

【藤本氏】姓は桓武平氏、服部信清三男觀世の祖、清次より十一代服部重清四男稠賀(一に重賀)始め觀世を種し後藤本に改む。　家紋上り藤丸重ね二鱗

【藤井氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源

義光より出々、佐竹氏より分る、立家の祖を義貫といふ。

【藤田氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を政行といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【藤谷氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、立家の祖を經家といふ。

【藤村氏】 姓は宇多源氏、佐々木盛綱より出づ、岩代國河沼郡蜷川莊藤村に住し氏とす。

【藤野氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を忠清といふ。

【藤島氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を義詮といふ。

【藤倉氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を盛泰といふ。

【藤崎氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、小笠原氏より分る、立家の祖を行長といふ。

【藤崎氏】 姓は安倍氏、孝元天皇の皇子大彦命の後なり、奥州安倍氏より出づ、立家の祖を堯恒といふ。

【藤掛氏】 姓は桓武平氏、平重盛の子、平資盛の後にして織田氏の末流なり、立家の祖を永勝といふ。 家紋楫丸に三文字

永継（信長に仕ふ）―永勝（母は藤懸善右衛門某の女）―永重―
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　|―永俊―

【藤沢氏】　姓は清和源氏、新田義親（新田参河守某四代の孫）三男義春藤沢と改む

【藤井松平氏】　姓は清和源氏、松平長親の子利長の流なり、三河國藤井に住せしにより此號あり、松平氏參照。

家紋　唱酸五三桐　櫻　⊙家傳に丸に葵は憚りて葵の裏を象りて鳩酸草を用ひ之をカタバミと稱す桐は信一箕作城に先登せし賞として織田右府より桐の紋の障羽織を賜はりしより用ひ櫻は信吉實家の紋なるを以て副紋とすと

松平長親―利長―信一―信吉―
　　　　　　　　　　　　　|―忠國―信之―忠之―信通……（出羽上の山）
　　　　　　　　　　　　　|―忠晴―忠昭―忠周―忠愛……（信濃上田）

【豊後氏】　姓は宇多源氏、佐々木氏の流なり、立家の祖を二郎義信といふ。

への部

【日置氏】（姓）　應神天皇の皇子、大山守命の後なり。

【平群氏】（姓）　孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫武内宿禰の子、平郡木菟宿禰より出づ、其子平群眞鳥等著はる。

【平群氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を永盛といふ。

【別府氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を顯清といふ。

【別府氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通廣（河野氏より出づ）といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

ほの部

【北條氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、立家の祖を維時といふ、此氏族は鎌倉時代に執權として天下の政を取りしは人のよく知る所なり、伊豆國田方郡北條を苗字の地とす。

平貞盛―維將―直方―維方―時家―時政……

【北條氏】姓は越智和、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を親孝といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【北條氏】姓は桓武平氏、平維衡の流伊勢氏より出づ、氏茂(又長氏ともいふ)の伊豆に據るや北條氏を冒す、世に後北條氏

【別所氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を圓光といふ。家紋三頭左巴 二引 龍膽車 裏菊 五七桐

赤松茂範―則村―圓光(別所)―敦光―敦範―宗秀―則治―光治―安治―長治

【部垂氏】姓は清和源氏、源義元の後、佐竹氏の族なり、立家の祖を義元といふ。

【逸見氏】姓は清和源氏源頼義の子、源義光より出づ、武田氏より分る、立家の祖を光長といふ、甲斐國北巨摩郡逸見を苗字の地とす。家紋花菱

武田義清―清光―光長(逸見)―基義―惟義―義重……

といふは是れなり。家紋角所敷内二文字三鱗

伊勢盛富—盛種—盛定—氏茂(早雲)—

氏綱—氏康—氏政—氏直

氏規—氏盛—氏信—氏宗……(河内狹山)

【本目氏】姓は清和源氏、大給の祖松平乘元の三男親正、家康の仰により本目を稱すと。家紋丸に本文字五七桐

親正—親繼—親光—正光—正久—直信—

直富……

【本目氏】姓は清和源氏、大給松平の末子、義長三河國加茂郡下の屋鋪に住して松平を稱し、男義正のとき本目に改む。家紋五七鬼桐揚羽蝶

【本堂氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る

【本堂氏】姓は清和源氏、源爲義の流、賴朝の子(母は祐親の女)忠賴、其嫡男某の三男伊勢守忠朝出羽國本堂城に住して本堂を稱す。家紋笹龍膽八埶

【本郷氏】姓は村上源氏、源師房の男攝津守廣綱より四代美作守季定の男を親光とし、其男朝親若狹國本郷に住せしより在名を苗字の地とす。家紋丸に杏葉永樂錢

朝親(信長につかふ)—有泰—某—泰朝—隆泰—

貞泰—家泰……

【本郷氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を朝倉氏景男下總守正景といふ。

【本郷氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平

國香の後なり、立家の祖を直親といふ。

【本郷氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を直頼といふ。

【本郷氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流佐々木氏より分る。

【本田氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を氏重といふ。

【本間氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、爲平親王の後なり、立家の祖を能忠といふ、佐渡の本間及び南北朝時代に有名なる本間資氏等は此内なり。

村上天皇―爲平親王―顯定
能忠(本間)―能久

【本間氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり立家の祖を義忠といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

家紋 丸に十六目結 獅子頭扇 三巴

【本間氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を政義といふ。

【本庄氏】 姓は綾氏、景行天皇の皇子、日本武尊の後なり、立家の祖を高資といふ

【本莊氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を成胤といふ。

【本條氏】 姓は清和源氏、源頼親の流なり、二宮隆頼の子隆時を祖とす。

【本阿彌氏】 姓は宇多源氏、佐々木氏の族なり、本氏は多賀氏、光二に至り本阿彌氏の養子となり其家を繼ぐ。

【帆足氏】　姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり立家の祖を貞成といふ。

【保科氏】　姓は淸和源氏、源賴信の子、源賴季（賴義の弟）より出づ、井上氏より分る德川秀忠の子正之これを繼ぐに及び、大に著はる、信濃國高井郡保科を苗字の地とす。　家紋丸に三葵花葵　◉保科を稱せしときは角九曜枕の葉を用ふ

保科正直―正光―正之―正經
　　　　　　　　└正容（松平）……（奥州會津）
　　　└正貞―正景―正賢
　　　　└正殷……（上總飯野）

【保科氏】　同上、正之の後正容のとき松平の稱號及び葵の紋を賜はりて本姓に復す、故に保科の正系は正直の二男正貞とす。　家紋並九曜枕の葉

【保々氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を則貞といふ。　家紋九枚笹の丸に龜甲の内花菱水色桔梗

【品遲氏】　（姓）　開化天皇の皇子彥坐王の後なり。

【星合氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、北畠親泰伊勢國星合城に住せるより苗字とす。　親泰は滿雅三代政鄕の三男なり。　家紋瓜の内十六葉菊五三桐

◉家紋具種は三引兩具泰は丸に三引具枚より三星を用ふと

親泰―具種―具泰―具枚―基顯……

【星川氏】　（姓）　孝元天皇の皇子、彥太忍信命の孫、武内宿禰より出づ。

【裘綿氏】　姓は村上源氏、北畠親房の後

なり、陸中閉伊郡褁綿村を苗字の地とす
家紋 笹龍膽 三巴

【細谷氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重の後なり、此氏族はもと上野國新田郡細谷村の地名より起りしものなり。

【細川氏】 姓は清和源氏、源義國の子、足利義康の後なり立家の祖を義季といふ足利時代三管領の一として大に著はる此苗字は義季三河國額田郡細川の地に居りしより來れるものなり。

義康—義清—義胥—義季(細川)—俊氏—
—公頼—和氏—清氏
　　　頼春—頼之
　　　　　頼元—滿元—持之—

—勝元—政元—澄之
　頼貞—顯氏—高國
　　定禪　澄元—晴元

德川時代盛なりし細川氏の略系左の如し、細川頼之の弟を頼有とす。

頼有—(五代畧)—元有—元常—藤孝—
—忠興—忠利—光尙
　綱利……(肥後熊本)◉家紋 九曜 松笠菱 桐 二引兩 九曜 櫻
　家傳に頼有元中八年中國平夷の賞として義滿より桐の紋藤孝永祿十二年三好松永等征伐の賞として義昭より桐及引兩紋を賜ふ九曜及櫻の紋は忠興の時より用ふと
　利重……(肥後高瀬)◉家紋 九曜 五三桐 二引兩 櫻
　立孝—行孝—有孝……(肥後宇土)◉家紋 九曜 五三桐
　興元—興昌—興隆……(常陸谷田部)◉家紋 蛇目 橘 五三桐 九曜

【細田氏】 姓は清和源氏、足利義康の後

細川支流なりと。 家紋丸に万字永樂錢

康勝(家康に仕ふ)―康政―康次―康重―康清―
―康行―康元……

【細見氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫武内宿禰より出づ、立家の祖を之滿といふ。

【堀氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を深栖光重の男頼重といふ。

【堀氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を長綱といふ。

【堀口氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖を里見義繼弟家貞といふ、此氏族はもと上野國新田郡堀口村より出でしものなり。

新田義重―義兼―義房―政義―
―家貞(堀口)―貞義―貞滿―義滿……

【堀口氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を光直といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【堀内氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、里見氏より分る、立家の祖を時兼といふ。

【堀内氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、立家の祖を光重といふ。

【堀田氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫武内宿禰の後なり、立家の祖を正重といふ、これ堀田正盛、正俊等の家なり。

堀田正重……正利─正盛─
─正信─正休─正朝……(近江宮川)堅木瓜 ◉家紋 黒餅の内三橋 丸に堅三引 政和通寶錢 ◉家傳にもとは木瓜を用ゐのち黒餅の内堅木瓜に改むといふ
─正俊─正仲─正虎……(下總佐倉)◉家紋 田文字 黒餅の内堅木瓜
◉はじめ隅切角に堅木瓜を用ふ正俊のとき延寶七年七月廿二日に今の紋に改む
─正高─正峰……(下野佐野)◉家紋 丸に堅木瓜 丸に堅三引 政和通寶錢 五三桐 香包 三橋 九枚笹 ◉家傳に堅三引は川の文字なりと

【堀川家】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、この家號は通具より始まる通具は順德天皇頃の人なり。

久我雅實─雅定─雅通─通親……通具(堀川)

【堀川家】 姓は村上源氏、仝上、具平親王より出づ、立家の祖を定房といふ。

【堀尾氏】 姓は高階氏、天武天皇の皇子高市皇子より出づ、立家の祖を忠泰といふ。 家紋 抱茗荷 六目結 法者 ◉六目結は忠晴に至りこれを用ふと

天武天皇─高市皇子─長屋王─
┆高階峰緒……忠泰(堀尾)……泰政─泰時─
─吉晴─忠氏─忠晴

【堀部氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり佐々木氏より分る立家の祖を長江定成の弟成綱といふ。

【堀部氏】 姓は清和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を重氏といふ。

【堀場氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を宗氏といふ。

【堀越氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の

子)の子、足利義康の後なり、今川氏より分る、立家の祖を貞臣といふ。遠江國堀越村を苗字の地とす。家紋丸に引両 五七花桐 丸に立波舞千鳥

【穗積氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彦命の子、建沼河別命より出づ。

【穗保氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を氏直といふ、前述保々と全一のものならんか、考ふべし

【穗國造】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【寶生氏】姓は桓武平氏、平貞盛の後裔平宗滿の後なり、立家の祖を寶生蓮阿彌といふ、觀世世阿彌の弟なり。

第七章　頭音ま行に屬する姓氏

まの部

【丸子氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を家重といふ。

【丸山氏】姓は清和源氏、武田安藝守信滿の末流、彈正忠清昌(足利時代)信州諏訪郡に住み、丸山を稱す。家紋丸に花菱

【丸毛氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を兼頼といふ。家紋丸に桔梗 三階菱

【丸谷氏】姓は清和源氏、源義光の後なり武田氏より分る、立家の祖を信賢といふ。

【丸茂氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源

義光の後なり、小笠原氏より分る。

【毛利氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり佐々木氏より分る其先森を稱せしが、高政に至り毛利輝元より毛利氏の姓を授けらる。

佐々木滿綱─高久(鯰江)……高次(森)─高政(毛利)─高成─高尚─高重……(豊後佐伯)

家紋 矢羽圖 五三桐 鶴丸 ◉家傳にもとは四目結を用ひのち鶴丸を家紋として矢羽圖を副紋とす高政元祿年中朝鮮の役に軍船の幕に矢羽圖の紋を付けしを太閤其由緒を尋ねらる高政これは外戚瀬尾の家紋なるにより用ふ瀬尾は梶原景時の後裔なりと答ふ太閤聞きて然らば今より汝が家紋とせよとの命ありしかとなほ副紋とせしがいつの頃よりか矢羽圖は家紋鶴丸は副紋となりしといふ

【毛利氏】同前、重政(高政の兄)も毛利輝元より毛利氏の姓を授けらる。

家紋 一文字に三星 澤瀉(一に桔梗) ◉家傳に古は鶴丸を用ふと

重政(信長に屬しのち秀吉に屬す)─重次─重長─元教─元智……

【正木氏】姓は桓武平氏、先祖三浦直盛(義滿時代)鎌倉より會津に下り、のち正木に改む。 家紋 丸内三引 左二巴

【正木氏】姓は清和源氏、新田義重の後里見義俊の末葉弘隣より之を稱ふ。

家紋 下藤の内井桁 丸の内井桁

【正木氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を時綱といふ、安房國正木鄕を苗字の地とす。 家紋 丸に三引中白 松皮菱

時綱……賴忠(三浦時忠の五男)─康長(里見家に屬す)─康可─任成─康村……

【正岡氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子

伊豫親王の後なり、立家の祖を經孝といふ、猶越智氏の條下を見よ。

【末多國造】（姓）應神天皇の皇子、稚停毛二派王の後なり。

【町田氏】姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を資久といふ、猶島津氏の條下を見るべし。

【町田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり。

【曲木氏】姓は清和源氏、源賴親の後胤基光磐城石川郡に往み石川を稱し、其十八代信光二男晴義同郡曲木に住し在名を苗字とす。　家紋 若松喰飛鵰 丸の内半角

【曲淵氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の庶流なり、朝日賴時の後胤、賴定より曲淵を稱す。
家紋 丸に横木瓜 披傘

【曲直瀨氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫親王の後一柳宣高の末孫恕心の男正琳より曲直瀨を稱す。

家紋 丸に二重釘拔 下藤　◉はしめ片折敷に三文字を用ひのち丸に二重釘拔に改む

【松木氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を貞時といふ。

【松下氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐木氏より分る、立家の祖を高長といふ、遠州松下は此出なり。　家紋 丸に四目結 十六葉菊　五七桐　◉菊桐の紋は太閤より授けらるといふ

高長（四條氏綱の男）─長信─國長─國綱─定綱

長尹……

【松井氏】　姓は清和源氏、源爲義の子、源維義これを稱ふ、維義備中國松井庄に住せしより苗字とす。　家紋蔦の葉裏葵　◉はじめ岩根笹を用ふ天正三年諏訪原城攻のとき戰場に蔦かづらふりて康親の鎧の綿囓に懸りしを東照宮御覽ありて家紋とすべき旨仰ありしより蔦の葉に改むといふ

源爲義―維義(松井)……康親―康重―
　　―康映……(陸奥棚倉)

【松井氏】　前同祖にして維義より十七代義行今川氏親に仕へ遠江國二俣城に住す、宗保は其三代の孫なりと。　家紋岩に根笹

宗保(今川義元に仕ふ)―宗直―宗利―幸宗―

【松本氏】　姓は清和源氏、清經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を行光といふ、行光は伊那爲扶四代植田公光の二男にして、信濃國松本に住せしより家號とす、正信は其後裔なり。　家紋葉鋪牡丹牡丹巴

(一に釘拔)

正信(成田氏長に使ふ)―正吉―正重―重政―忠重

【松平氏】　姓は清和源氏、普通の系圖によれば松平氏は、もと、在原姓なりしが如きも、徳川親氏、來りて其婿たるに及び、清和源氏を稱せり、此親氏以來の松平氏の系圖は、即ち徳川氏の系圖なれば、最も注意すべく、又其系圖につきての疑問は、直に徳川氏の系圖につきての疑問なるを知るべし。　今普通の説を述ぶれば徳川親氏、三河に入りて後、坂井村の富豪坂井五郎左衛門の婿養子となり廣親を生む(廣親は後の酒井氏の祖なりといふ)廣親の母、死せし後、親氏は更に、全國松平村の

郷士、松平太郎左衛門在原信重の婿養子となり、子泰親を生む（一説泰親を弟となす）其系、親氏より廣忠まで所謂三河八代を經て、以て德川家康に至るとなす、然るに茲にまた異說あり、松平氏はもと、賀茂氏なり、親氏の父を、賀茂右京亮有親といふ、其他家康を藤原家康とかける古文書なども あり、堂々たる德川氏の系圖にして猶かく曖昧の点あり、本書には普通の說を取れり、以上述べし如く、松平氏の本家は、家康に至り、德川を稱へたれども其支流、猶松平を稱へ多くの分派あり即ち竹谷松平、形原松平、大草松平、御油松平、深溝松平、能見松平、長澤松平、岩津松平、大給松平、瀧脇松平、福釜松平、櫻井松平、東條松平、藤井松平、三木松平等是れなり、其他御三家始め越前家等より分れたる松平氏は皆夫れ等の條下を見るべし。

松平泰親—信光—守家（竹谷松平）
- 信光の子
  - 親忠
    - 親長（岩津松平）
    - 乘元（大給松平）
    - 長親
      - 信忠—清康
        - 信孝（三木松平）
      - 親盛（福釜松平）
      - 信定（櫻井松平）
      - 義春（東條松平）
      - 利長（藤井松平）
    - 乘清（瀧脇松平）
  - 與嗣（形原松平）
  - 光重（大草松平）
  - 則定（御油松平）
    - 則忠
      - 忠景（深溝松平）
  - 光親（能見松平）
  - 信重（長澤松平）

【松田氏】　姓は宇多源氏、敦實親王の後

なり、佐々木氏より分る、立家の祖を家綱といふ。

【松江氏】 姓は源氏、高木氏より分る、立家の祖を昌佳といふ。

【松村氏】 姓は橘氏、楠文正三代の孫武藏國住正胤和田を稱し後、松村に改むといふ。 家紋五三桐菊水

【松岡氏】 姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を良明といふ。

【松原氏】 姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彥命の後なり、立家の祖を親義といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【松原氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【松尾氏】 姓は文德源氏、文德天皇の皇子、源能有の後なり、立家の祖を季定とす

【松尾氏】 姓は清和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を信賢といふ。 家紋菱の内上二葉菊三頭巴

【松長氏】 姓は桓武平氏、平清盛の後、織田支流なり、織田信定の男信康妾腹の子信武を祖とす。 家紋輪違の内左三巴菊

【松前氏】 姓は清和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、若狹の武田信廣松前に入り蠣崎修理大夫の婿となり、始め蠣崎を稱へ居りしが公廣の時に至り、松前氏と改む。 家紋丸に割菱丸に花菱

【松倉氏】 姓は橘氏、橘諸兄より出づ、小幡直寬の二男重勝外家(母は松倉重次の

女)を繼ぎ松倉を稱す。　家紋九曜 三手杵 丸に抱茗荷

【松根氏】　姓は清和源氏、源經基より出づ、最上茂守三男漆山茂房の男光廣を祖とす、光廣羽州庄內鶴岡松根城に住せるを以て苗字とす。

【松浦氏】（姓）　神武天皇の皇子、彥八井耳命の後なり。

【松浦氏】　姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後なり渡邊綱の子、久始めてこれを稱す此苗字は肥前國松浦郡の地名によれるものなり。　久は平安時代末期の人なり。　家紋二引兩 三星 梶葉　◉家傳に一引兩は多々良濱合戰のとき尊氏より上松浦黨に與へらる三星は三光に象り元祖より用ふ梶の葉は源大夫判官久松浦郡梶谷に住せしより梶の葉を家紋とせりと

源融―昇―仕―宛―綱（渡邊）―久（松浦）―……鎮信―久信―隆信―鎮信……（肥前平戶）

【松崎氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を深栖光重の弟重清といふ。　家紋丸に揚羽蝶 三頭左巴

【股野氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を景久といふ、俣野と仝一なり、相模國高座郡俣野を苗字の地とす景久は源平時代の人、大庭景義の子なり。

【俣野氏】　前項股野氏と仝し。

【前川氏】　姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を重俊といふ。

【前口氏】　姓は良峰氏、桓武天皇の皇子良峯安世の後なり、立家の祖を眞遠といふ。

【前部氏】 姓は良峰氏、仝上良峰安世の後なり、立家の祖を清眞といふ。

【前野氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり。

【前野氏】 姓は良峰氏、良峰安世の後なり、立家の祖を時綱といふ。

【前澤氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を片切長清の子盛友といふ。

【牧氏】 姓は清和源氏、斯波修理大夫高經の後裔なり、義長に至り津川を稱し二男長治(一に正勝)外家の號牧を稱す。

家紋 枝橘 棄

長治(信長に仕ふ)—長正—長勝—長重—勝秋……

【牧村氏】 姓は清和源氏、足利義康の後桃井氏の胤なり、勢州岩出の城主利貞牧村を稱す。 家紋 丸に上羽蝶 丸に花菱

【牧野氏】 讃岐の人、阿波民部大輔成良(重能又成能に作る)の後胤成朝に至り三河國寶飯郡牧野村に住して始めて牧野を稱す、後右馬允成定、永祿九年徳川氏の麾下に屬するとき源氏に改む、其先は田口氏(姓)孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なりと、猶考ふべし。 家紋 丸に三葉柏 六葉菊 登梯十 九曜 五七桐

【牧野氏】 姓は田口氏、孝元天皇の皇子彦太忍信命の後武内宿禰の胤蝙蝠臣の胤なり、古白(成時の號)三河國寶飯郡牧野村に住し牧野を稱し、今川家に屬す。

家紋 丸に三槲 十六葉菊 五三桐 ◉家傳にもと菊桐を用ふ成時三河國吉田の城に住せしとき若宮の社頭に於て瑞應のことありしかば槲葉三枚をとり三社の神酒を酌て之をのむこの時より三槲葉に改む

【牧原氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を貞家といふ。

【茨田氏】（姓）神武天皇の皇子、彦八井耳命の後なり。

【茨田下氏】（姓）景行天皇の皇子、櫛角別王の後なり。

【益子氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後裔、紀長谷雄の後なり、宇都宮氏の部下として著はる、此苗字は下野國芳賀郡益子郷の地名より來れるものなり。

【益田氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を氏綱といふ。

【馬工氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【馬淵氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を廣定といふ。

【馬淵氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を信基といふ。

【馬籠氏】姓は桓武平氏もと眞籠、千葉氏より出づ、馬籠重吉を祖とす、陸前本吉郡馬籠を苗字の地とす。

【馬屋原氏】姓は清和源氏、貞純親王より出づ、源義家の弟義綱上總國馬屋原に住み在名を苗字の地とし、元政に至り前原に改め、之勝に至り本名に復す。

【麻佐氏】（姓）景行天皇の皇子、日本武

尊の後なり。

【眞野氏】（姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命三世の孫、彦國葺命の後なり。

【眞野氏】姓は桓武平氏、北條時政の末葉眞野有國を祖とす。 家紋下藤巴

【眞野氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を定時といふ。 家紋丸の内角四目結

【眞野氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を時連といふ。 家紋丸に抱茗荷 藤巴

【眞島氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を宣義といふ。

【眞崎氏】姓は清和源氏、仝上、源義光より出づ、佐竹氏の支流なり、立家の祖を義綱といふ。 家紋左三巴 五三桐 打違丁子 三牡丹

【眞壁氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、大椽氏より分る、立家の祖を長幹といふ。

【眞志野氏】科野國造家（神武天皇の皇子神八井耳命の孫建五百建命より出づ）の後なり。

【眞髪部氏】（姓）孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり。

【間宮氏】姓は清和源氏、武田信義の末葉三河守信次上總國眞里谷に住して苗字とし、信正のとき外家の號間宮を稱す 家紋四目結 割菱

信次（一に信嗣）—直信—信正—┬
　　　　　　　　　　　　　　└正次—信敏—信輝……

【間宮氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇

子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を信景といふ、伊豆國宮郷を苗字の地とす。 家紋角四目結 五三桐

【間島氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を上月景盛の子景能といふ、赤松氏より分る。

【間淵氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の流なり、武田氏より分る、立家の祖を信基といふ、これ前述の馬淵氏ど全一のものなるべし。

【圓井氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を光經といふ。

【萬木氏】 姓は宇多源氏、立家の祖を六郎左衞門惟綱といふ。

【萬刀氏】 姓は清和源氏、源義家の子源義時より出づ、立家の祖を義資といふ。

【萬爲氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を信盛といふ

【萬里小路氏】 姓は清和源氏、今川貞世の子左衞門佐仲秋を祖とす。

【萬里小路家】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ。

【蒔田氏】 姓は清和源氏源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、吉良氏より分る、立家の祖を頼久といふ。

【幕士氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す猶小野氏の條下を見

よ。

【幕内氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を義秀といふ。

【増田氏】姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を重俊といふ。猶滋野氏の條下を見るべし。

【増坪氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を光經といふ。

【増島氏】姓は桓武平氏、北條早雲の庶子、重胤長男増島重興を祖とす。
家紋丸内横二引 丸内無根橘

【舞岡氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり三浦氏より分る立家の祖を義則といふ。

みの部

【三川氏】姓は清和源氏、源頼信の後立家の祖を三郎太郎基信といふ。

【三山氏】(姓) 天武天皇の皇子、長親王の後なり。

【三木氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を宗秀といふ。

【三木氏】姓は清和源氏、松平氏の庶流なり、清康の弟信教を立家の祖とす。

【三上氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木滿高(京極宗氏の六男時滿三代の孫)四男滿冬を祖とす、滿季は其三代の孫なり、近江國野州郡三上を苗字の地

とす。家紋丸に三引四目結　季次（一に満季）—季直

「季正—季次—季明—季信……

【三上氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義綱（義家の弟）の後なり、義綱の子、盛實始めて三上を稱ふ。

【三戸氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり三浦氏より分る、立家の祖を友澄といふ。

【三方氏】姓は日下部氏、開化天皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を清尋といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【三田氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、將門八代の孫次郎胤光のとき武藏國荏原郡三田村に住し其男小太郎常光より三田を苗字とす、美濃守某は其末孫なりと。家紋二本杭繫馬三頭左巴　基—綱勝（北條氏輝に屬す）

「守綱—守長—守良—守常……

【三谷氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を胤村といふ。

【三宅氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【三宅氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫親王の後なり、立家の祖を信綱といふ、猶越智氏の條下を見よ。

【三宅氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木盛綱の孫重範三宅を稱す。家紋輪寶桐菊　三星右巴四目結

【三尾氏】（姓）孝靈天皇の皇子、稚武彥命の後なり。

【三尾氏】（姓）垂仁天皇の皇子、磐衝別

命の後なり。

【三守氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を維幹といふ。

【三重氏】 姓は桓武平氏、仝上平國香の後なり、立家の祖を政平といふ。

【三好氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原氏の支流なり、立家の祖を長房(小笠原長清二男)といふ。これ足利時代の末に、有名なる細川氏の臣、三好長慶等の祖なり、阿波國三好郡を苗字の地とす。 家紋三階菱釘抜

【三富氏】 姓は清和源氏、源爲義の孫、木曾義仲より出づ、立家の祖を家範といふ

【三笠氏】 (姓) 敏達天皇の皇子難波皇子の後なり。

【三野氏】 (姓) 開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【三野氏】 (姓) 孝靈天皇の皇子若武彦命の後なり。

【三原氏】 (姓) 天武天皇の皇子新田部王の後なり。

【三長氏】 (姓) 天武天皇の皇子、舍人親王の後なり。

【三浦氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を貞連といふ。

【三浦氏】 姓は桓武平氏、三浦時綱安房國正木郷に住せしより正木を稱し、爲春に至りて三浦に復す。 家紋丸に三引松皮菱

三浦義明―義連(佐原)―盛連―盛時―

―頼盛……時綱―時忠……爲春―爲時……

【三浦氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を爲通といふ、門葉甚だ廣し、三浦義明、義澄等の家なり、正次のとき土井を稱し後三浦に復す、相模國三浦郡を苗字の地とす。家紋三澤瀉三引（回）澤瀉は土井家より受く

平良文―忠通―爲通（三浦）―爲繼―

―義繼―義明―義澄―義村―家村

……正次―安次―明敦……（美作勝山）

【三栗氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を滿仲といふ。

【三島氏】（姓）舒明天皇の皇子、賀陽王の後なり。

【三島氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を親清といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【三間氏】姓は清和源氏、源義光の胤、小笠原氏の末葉なりと。家紋丸の内鳩酸草轡十六字

【三賀氏】姓は桓武平氏、平維將の流、北條仲時の二男、頼仲の後なり伊勢國三賀村を苗字の地とす。家紋向三蝶の内菊丸に三星

【三澤氏】姓は清和源氏、片切爲綱の子飯島爲滿の後、爲長始めて三澤を稱す。

【三國氏】（姓）繼体天皇の皇子、椀子王の後なり。

【三輪氏】姓は清和源氏、源滿快の流なり、始め長谷川を稱し久勝のとき三輪に

改む。 家紋丸に打違鷹羽五本骨扇 久宗(織田家に仕ふ)

―久勝―久吉―伊久―量久―城久……

【三淵氏】 姓は清和源氏、細川氏の支流に屬す、立家の祖を藤英といふ、但三淵氏は、これ以前よりあり、細川藤孝の如きもこの三淵氏より細川氏に養子せしにて姻戚の間柄にありしを、玆に至り細川の支族となりしなり。

【三園氏】 (姓) 天武天皇の皇子、磯城王の後なり。

【三諸氏】 (姓) 天武天皇の皇子、長親王の後なり。

【三刀屋氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を扶永といふ。

【三川衣氏】 (姓) 垂仁天皇の皇子、祖別命の後なり。

【三富田氏】 姓は清和源氏、源義賢の後なり、立家の祖を左京亮家範といふ

【三井田氏】 姓は清和源氏、源義綱の子、三郎氏繼を立家の祖とす。

【三木松平氏】 姓は清和源氏、松平信忠の子信孝の流なり、三河國三木に住せしより此號あり。 家紋丸に蔦鬼蔦

松平信忠―信孝―重忠―忠利……

【三河口氏】 姓は清和源氏、源賴信の流なり、始め野村を稱し、忠政のとき三河口に改む、賴玄また野村を稱へ、輝昌のとき三河口に復す。 家紋丸に揚羽蝶丸に三櫻

忠政―賴玄―清輝―輝重―正勝―輝昌……

【三河長谷部氏】（姓）景行天皇の皇子、五十狹入彦命の後なり。

【壬生氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、七左衛門通倫を祖とす。

【壬生氏】（姓）孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり。

【壬生家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、この家號を稱へたるは雅賴より始まる。

【壬生川氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、祖を壬生川攝津守といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【水上氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光の後、小笠原氏の流なり、時利甲斐國水上に住せるを以て苗字とす。
家紋丸に三階菱五七桐

【水谷氏】姓は桓武平氏、平國香の後なり、立家の祖を隆重といふ。

【水田氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、立家の祖を義和といふ。

【水原氏】姓は桓武平氏、平高望の子平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を實久といふ。

【水沼氏】（姓）景行天皇の皇子、國背別命の後なり。

【水野氏】家傳によれば、清和源氏、源滿仲の弟、源滿政の流なりといふ、山城國嵯峨水野里を苗字の地とす。

源滿政…清房(水野)…忠政—信忠—忠重—勝成—勝俊…(下總結城)◉家紋 丸に二 本澤瀉 裏永樂錢 ◉往昔は菊水に一文字を家紋とす曩に出陣の時三河國池鯉鮒明神の靈夢によりて澤瀉を取り笠袖の驗となし其日の軍に勝利ありよりて之に改む永樂錢の紋は旗幕或は家臣等の兜の驗にせしを東照宮これ織田右府より信元及忠重に與へしところなり以來は永樂通寶の文字を除き裏永樂と唱ふべしとの仰にて家紋とすと

忠重—忠清—忠職…(駿河沼津)◉家紋 丸に澤瀉 永樂錢

忠清—忠增…(上總鶴牧)◉家紋 黑餅に澤瀉 永樂錢

信忠—忠守—忠元—(遠江濱松)◉家紋 水澤瀉 永樂錢 ◉參內のとき永樂錢を捧げ家紋とす

【水間氏】(姓) 景行天皇の皇子、武田凝別命の後なり。

【水漏氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を維幹といふ。

【水沼別氏】(姓) 景行天皇の皇子、國乳別命の後なり。

【水野屋氏】 姓は桓武平氏、平國香の後なり、立家の祖を隆秀といふ。

【水戸家德川氏】 姓は清和源氏、德川家康の子、賴房の流なり。 家紋三葵車

賴房—賴重—賴常—賴豊…(讃岐高松)

賴房—光圀—綱條—吉孚…(常陸水戸)

賴房—賴元—賴貞—賴寬…(奧州守山)

賴房—賴隆—賴如—賴明…(常陸府中)

賴房—賴雄—賴道—賴慶…(仝宍戸)

【光永氏】 姓は阿蘇氏、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【身毛津氏】(姓) 景行天皇の皇子、大碓命の後なり。

【南氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、義光の流、南部氏の支流なり、立家の祖を遠江守長義といふ。

【南氏】 姓は高階氏、天武天皇の皇子高市親王の後なり、立家の祖を宗繼といふ。

【南氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、佐竹氏の支流なり、立家の祖を義隣といふ。

【南氏】 姓は桓武平氏、葛原親王の子平高棟の後なり、立家の祖を清正といふ

【南氏】 姓は越智氏孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通泰といふ、猶越智氏の條下を見るべし。

【南淵氏】 (姓) 應神天皇の皇子稚野毛二派王の後なり。

【南浦氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を扶清といふ。

【南飯塚氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を盛氏といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【南荒居氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を堀口光直の弟重直といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【南酒出氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る立家の祖を義茂といふ。

【美乃氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、義

綱(義家の弟)より出づ、義綱の子、義明これを稱ふ。

【美作氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を高重といふ。

【美津氏】 姓は清和源氏、天武天皇の皇子、舍人親王の後なり、立家の祖を爲通といふ。

【美作田氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を滿平といふ、

【美濃氏】 姓は清和源氏、源賴親の後なり、石橋義綱の孫、太郎盛宗を祖とす。

【美濃源氏】 清和源氏なり、源賴光の子、賴國の子孫、多く美濃國に蔓延す、故にかく稱す、土岐氏最も著はる、又源滿政流をもかく稱せり。

【峰氏】 姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後なり、松浦氏より分る。

【峰氏】 姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後、平資盛より出づ、關氏より分る、立家の祖を政實といふ、伊勢國峰城は其居城なり。

【峰田氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親(賴光の弟)より出づ立家の祖を清兼といふ。

【峰岸氏】 姓は清和源氏、今川國氏九代堀越貞基の後胤、上野國住堀越吉久男瑞澄を祖とす。 家紋丸ノ内三引 五三桐

【宮丸氏】 姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を資久といふ、猶島津氏の

條下を見るべし。

【宮川氏】　姓は清和源氏、清和天皇の皇子、貞保親王より出づ、海野幸恒の後裔幸重より宮川を稱す。

【宮川氏】　姓は清和源氏、源爲義の庶流なり、始め宍戸を稱し、のち宮川に改む。

家紋　丸に洲濱、丸に鱗

政次（秀忠に仕ふ）―政儀―政盛―政之―政庸―

【宮内氏】　姓は中原氏、巖城津彦命の後なり、立家の祖を遠忠といふ、猶中原氏の條下を見よ。

【宮内氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を時行といふ、猶小野氏の條下を見よ。

【宮田氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を貞澄といふ。

【宮寺氏】　姓は桓武平氏、仝上、平良文の後なり、立家の祖を家平といふ、武藏七黨の一なる村山黨に屬す。

【宮里氏】　姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を泰忠といふ、猶島津氏の條下を見よ。

【宮村氏】　姓は桓武平氏、平良文の後、河越重時の後裔にして景重これを稱す。

家紋　丸に折鎧、上羽蝶

【宮原氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、足利基氏より出づ、立家の祖を義照といふ、上總國宮原を苗字の地とす。　家紋　菊、丸に二引、五七桐、葉菊

【宮野氏】　姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難

波王の後なり立家の祖を角左衛門といふ。

【宮野氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、奥州斯波氏より出づ、立家の祖を隆倘といふ。

【宮部氏】 姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を直政といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【宮城氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後秩父の支流にして豊島家清の後裔なり、武藏國宮城を苗字の地とす。
家紋 鳥居形に龜甲 丸に龜甲 丸に陰龜甲

【宮道氏】 (姓) 景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【宮崎氏】 姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり、大納言麿の後裔日向守某、日向國宮崎に住す、これより宮崎を稱す、其孫泰光信虎に仕へ甲斐國より信濃國座光寺村の東島に移り住す、泰滿は其男なりと。 家紋 鳥居の上に鳩一羽 三頭左巴 丸に井桁

泰滿―泰景―泰重―重次―重景―安仲―仲平……

【宮石松平氏】 姓は清和源氏、大給の庶子、貞次世々其領内宮石に住し宮石を稱す、家傳に大給乘元の三男、乘次三河國額田郡宮石に住せしより宮石の松平と稱すと。
家紋 丸に筋抜蔦

【都氏】 (姓) 崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なり、平安朝の中頃、學者として都良香著はる。

【御立氏】 (姓) 景行天皇の皇子、五百城

入彦命の後なり。

【御高氏】（姓）天武天皇の皇子、忍壁親王の後なり。

【御長氏】（姓）天武天皇の皇子、舍人親王の後なり。

【御炊氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【御使氏】（姓）景行天皇の皇子、五百城入彦命の後なり。

【御園氏】　姓は淸和源氏、源經基の子、源滿季（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を平井景曲の弟範廣といふ。

【御藏氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫、武内宿禰の後なり、立家の祖を安弘といふ。

【御村別氏】（姓）景行天皇の皇子、武國凝別命の後なり。

【御厨屋氏】　姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子源融より出づ、松浦氏より分る、立家の祖を淸といふ。

【御名部氏】（姓）開化天皇の皇子、建豊波豆羅和氣命の後なり。

【溝口氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る。

【溝口氏】　姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、逸見氏より分る、（但、小笠原氏の庶流にも溝口氏あり）逸見義重（逸見光長四代の孫）の後裔にして、代々美濃國に住み、後尾張國溝口の郷に住せしより家號とす。　家紋 播摺菱 菱井桁

【溝江氏】姓は村上源氏、具平親王の後赤松氏より出づ、始め宮川を稱ふ、左衛門某次男溝江吉清を祖とす。

【溝杭氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を頼資(頼國二男)といふ、攝津國溝杭七村を苗字の地とす

【道氏】(姓)孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【箕勾氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を爲經といふ、武藏七黨の一なる野與黨に屬す、武藏箕輪郷を苗字の地とす。

【箕田氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後なり、立家の祖を宛といふ、宛は融の曾孫に當れり。

【箕浦氏】姓は宇多源氏、佐々木秀義の流なり、京極氏より出づ、立家の祖を新三郎某といふ、近江國箕浦郡服部に居住せるを以て在名を苗字の地とす。

某(平大夫、福島正則に仕ふ)—某(佐十郎)—某(新三郎)(箕浦)

【箕浦氏】姓は清和源氏、小笠原氏の支流、三好氏の後なり、左馬介某、姓を箕浦と改む。

【箕浦氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を義明といふ。

【箕輪氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、朝倉氏の族、猶中原姓につきては其條下を見るべし。

むの部

【六崎氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤朝といふ。

【向氏】　姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を朝倉氏景弟久景といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【向山氏】　姓は嵯峨源氏、渡邊綱の後裔知の二男、盛吉武田信玄の命により向山の名跡を繼ぎ向山を稱ふ。　家紋隅切角に梶葉　右巴

【向井氏】　姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後、仁木三郎義任の後胤なり。　家紋上藤丸

【牟久氏】　(姓)　孝靈天皇の皇子、稚武彦命の後なり、笠氏より分る、若狹に居り若狹神社の社務を取る。

【牟邪氏】　(姓)　孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【牟義氏】　(姓)　景行天皇の皇子、大碓命の後なり。

【牟禮氏】　姓は在原氏、平城天皇の皇子保阿親王の後なり、國高讃岐國牟禮に住せるを以て苗字とす。　家紋上藤内三笠松　丸内九枚笹

【牟禮別】　(姓)　垂仁天皇の皇子、大中津日子命の後なり。

【村氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を義高といふ。

【村氏】　(姓)　孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【村上氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源

滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を爲邦といふ。滿快―滿國―爲滿―爲公―爲邦(村上)―國高……

【村上氏】姓は淸和源氏、源賴信の子、源賴淸(賴義の弟)より出づ、其村上氏を稱へたるは、賴淸の曾孫爲國なり、信州村上氏として一族の分岐甚だ多し村上義光村上義淸等の家なり、信濃國更級郡村上鄕を苗字の地とす。家紋丸に上文字 丸に鳩酸草 五三桐

賴信―賴淸―仲宗―顯淸―爲國(村上)―安信……

【村上氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後、河野氏の支族なり、始め村上氏は村上源氏にして河野の家老たり通泰入つて河野氏を繼ぐに及び遂に河野氏の支族といふ關係となる。

【村上氏】姓は村上源氏、北畠顯家の男師淸北畠を改めて村上と稱す。

【村上氏】姓は淸和源氏、源賴淸の流なり、常勝は本庄宗資の庶子にして藤原氏なるも外戚の號村上を稱し淸和源氏に改むと、村上は爲國を祖とす。

家紋丸に上文字 十六菊葉 五七桐

常勝―常良(綱吉に仕ふ)―常倫―常榮―幸福……

【村山氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を賴任といふ、武藏七黨の一なる村山黨はこの苗字より來る。平良文―忠賴―胤宗(野與黨)―元宗―基永……
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　―賴任(村山黨)……

【村木氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【村井氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る

【村田氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、立家の祖を賴兼（岩松時兼の二男）といふ。家紋（丸に井桁　丸に二引　五七桐　九曜）攝津國村田を苗字の地とす。

【村岡氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）を祖とす。

【村岡氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文始めてこれを稱ふ、一族分岐甚だ多く、桓武平氏中、其族最も大なるものといふも可なり、此苗字は良文、相摸國高座郡村岡の地に居りしより來れるものなり

良文は平安朝時代中頃の人なり。

【村恒氏】姓は清和源氏、宇野親治の後胤、大森治貞の後なり、駿河國益津郡村恒郷を苗字の地とす。家紋（角餅内左三巴　一輪牡丹）

【村擧氏】（姓）崇神天皇の皇子、豐城入彥命の後なり。

【村越氏】姓は清和源氏、源義家の子、石川義時の流なり、顯光のとき家康の命により村越を稱す。家紋（丸に鳩酸草　笹龍膽）

光（一に光勝）―光（一に顯光）―正重―正好―正弘―弘督

【村上源氏】（姓）村上天皇の皇子、致平親王、爲平親王、具平親王等の子孫に、源姓を賜はる、就中具平親王の流大に著はる。

【虫生氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る

立家の祖を信實といふ。

【武川氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を一條信經の子、時信といふ。

【武佐宍】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を爲定といふ、此苗字は近江國蒲生郡武佐の地名より來れるものなり

【武射氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を胤隆といふ。

【武射氏】孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【室氏】姓は桓武平氏、熊谷直實より出づ、室直淸の家なり、備中國盤河室地を苗字の地とす。家紋 鳩酸草 憂柏

【室賀氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を盛快といふ。

【室賀氏】姓は清和源氏、源賴信の子、源賴淸(賴義の弟)の後なり、屋代正重の二男勝永信濃國更級郡室賀鄉に住せしにより苗字とす。家紋 丸に上文字 三笹丸 鶴菱

【室伏氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を廣保といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる橫山黨に屬す。

【椋梨氏】姓は桓武平氏、平良文の流なり、土肥實平の後裔國平を祖とす。

【陸奥氏】姓は清和源氏、源賴親の後なり、愛子賴景の子、彌六惟風を祖とす。

【陸奥氏】姓は桓武平氏、北條時政の後なり、立家の祖を實泰といふ

【無動寺氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【聟木氏】（姓）崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なり。

もの部

【文徳源氏】（姓）文徳天皇の皇子、毎有、能有、本有、定有、等皆源姓を賜はる、能有の流稍々著はる。

【文徳平氏】（姓）文徳天皇の皇子、惟彦親王の孫、寧幹平姓を賜はる。

【本宮氏】姓は清和源氏、足利義康の後畠山國詮の男滿國を祖とす。

【本巣國造】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【守氏】（姓）景行天皇の皇子、大碓命の後なり。

【守山氏】（姓）敏達天皇の皇子、難波王の後なり。

【物部氏】（姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【茂市氏】姓は宇多源氏、佐々木氏より出づ、祖を光賓といふ、陸中閉伊郡茂市村を苗字の地とす。

【餅田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る

立家の祖を經氏といふ。

【桃井氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、立家の祖を義胤といふ、此苗字は義胤、上野國群馬郡桃井に居りしより來れるものなり。

足利義兼—義胤(桃井)—頼氏—胤氏—滿氏—尙義—頼直—貞頼—直常

【桃井氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ。

【師岡氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を興秀といふ。

【森氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を行重といふ。

【森氏】姓は清和源氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を通元といふ。

【森氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿季(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を小椋景遠の末、源太重家といふ。

【森氏】姓は清和源氏、源義家の子、源義隆より出づ、森可成、長可等の家は是なり、相摸森鄕を苗字の地とす。

義家—義隆(森)—頼隆—頼定…可行—可成—長可—忠政—長繼

長武…(播州赤穗)◉家紋 舞鶴 桐 笹 二鶴

長俊…(同三ケ月)◉家紋 五三桐 舞鶴

【森川氏】姓は宇多源氏、佐々木の支流なり、はじめ堀部を稱し、宗氏のとき堀場

に改め氏後のとき家康の命により森川に改む。　家紋丸に鳩酸草 四目結

【森山氏】　傳へいふ、もと平氏の流族にして近江國守山に住し、後信濃國佐久郡に移り、その所を森山と呼ぶ、もと近江の守山より出づる故に守山を稱號とす。

豊後守俊盛のとき森山に改む、
家紋三地紙の内一文字 糸輪瓜

盛明（信濃佐久に住す）―盛定―俊盛（信玄に任ふ）―盛房……

【森本氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を時仲といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【森田氏】　姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後なり、松浦氏より分る。

【森戸氏】　姓は清和源氏、源義光の後佐竹氏の後なり。

【望月氏】　姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり立家の祖を廣重（信州佐久郡望月城主）といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。

家紋七曜 割菱　下藤 九曜　花菱

【最上氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康の後なり、奥州斯波氏より分る、立家の祖を兼賴といふ、兼賴出羽國最上郡に任せしよりこれを稱す。

家紋丸に二引両筋 五七桐　丸の内竹に雀 十六葉八重菊

斯波宗氏―高經―家兼―兼賴―直家―滿直―滿家―義春―義秋―滿氏―義淳―義定―義守―義光……

【諸井氏】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【諸星氏】姓は清和源氏、武田の支流なり、板垣信祐男信形二代、諸星信俊を祖とす。 家紋 九曜星 花菱

第八章 頭音や行に屬する姓氏

やの部

【八木氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を朝倉高清二男安高といふ、但馬國養父郡八木谷を苗字の地とす。 家紋 丸楓葉 三木瓜 ◉家傳に楓葉の紋は守直の時秀忠公より賜ふさ

安高（朝倉高清の二男）―高吉……信貞（秀吉に仕ふ）―光政―守直……

【八下氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、北畠氏の支流なり。

【八代氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を淺利義成の弟信清といふ。

【八代氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を家國といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【八島氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政の後なり、立家の祖を重實といふ。

滿政―忠重―定宗―重宗―重實（八島）……

【八居氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、土岐氏の支流なり、立家の祖を國行といふ。

【八幡氏】姓は清和源氏、源爲義の子、源爲成これを稱ふ。

【八野巻氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を盛兼といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【八國府氏】姓は小野氏、仝上、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を師義といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【山　氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【山入氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を師義といふ。

【山上氏】（姓）孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【山上氏】姓は清和源氏、源滿季の後なり、立家の祖を梅林景綱の子實綱といふ。

【山上氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を定有といふ。

【山下氏】姓は清和源氏、源爲義の孫、木曾義仲より出づ、立家の祖を義豊といふ信濃國山下郷を苗字の地とす。

家紋三頭左巴（一に丸に三頭左巴）井筒

【山口氏】姓は清和源氏、源頼季の流なり、立家の祖を赤井時家の四男直之といふ、信濃國山口を苗字の地とす。

家紋丸に結雁金瞿麥

【山口氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、三浦氏の支流なり、立家の祖を有繼といふ。

【山口氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子彦坐王の後なり、立家の祖を家政といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【山口氏】姓は清和源氏源頼義の子、源義綱(義家の弟)より出づ、三上氏より分る立家の祖を助盛といふ。

【山口氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を頼定といふ。

【山口氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を光兼といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【山口氏】(姓)孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫、武内宿禰の後なり。

【山中氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、小笠原氏の支流なり、立家の祖を政宗といふ。

【山中氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を頼定といふ。

【山中氏】姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、初め海野を稱し、逍遙軒某信濃國に住し、根津を稱へ、市左衛門之房母方の苗字山中に改む。

家紋 丸の内松皮菱 抱茗荷

【山中氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波王の後、橘諸兄より出づ、先祖近江國甲賀郡山中村に住せしより苗字とす。

家紋 丸に三成枝橘 五枚笹 五七桐 ◉桐の紋は長俊のとき太閤より與へらると

某—勝俊—兼俊—某—爲俊（代々佐々木家に仕ふ）
—長俊—宗俊……

【山中氏】姓は桓武平氏、關實忠の末孫なり、山中盛元北條早雲に屬し、其子盛高は氏綱及氏康に仕ふ。家紋揚羽蝶

盛高—某（一に元定）—元吉—元茂—盛英—盛如……

【山内氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を信詮といふ。

【山本氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、立家の祖を義定といふ。

家紋鳥居笠木の上鳩二羽内に石疊丸に石疊

頼義—義光—義定（山本）—義經—義弘—義重

【山本氏】姓は源氏、吉野冠者重季の後なり、山本晴幸は此家より出づ、一説晴幸は神別藤原氏閑院家の後より出づ。

【山本氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を俊直といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【山本氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、石川氏より分る、立家の祖を武幹といふ。

【山代氏】姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融より出づ、松浦氏の支流なり。

【山田氏】姓は清和源氏、武田の支流なり、一條義長の十代元氏、武田信縄に仕へ甲斐國山田村に住せしより苗字の地とす。家紋三巴（一に丸に巴）花菱

元氏—元重（信玄に仕ふ）—
—元繼—元清—元親—元貞……

【山田氏】姓は清和源氏、源經基の子、源

満政(満仲の弟)の後なり、立家の祖を重満といふ。尾張國春井郡山田郷を苗字の地とす。家紋要文字三鱗◉もと鳩酸草を用ふ重利大坂再陣のさき首を得て台德院殿の實驗に備へしかば御手づからスハマといふ菓子三を賜ひ家紋とせよとの仰ありしにより三鱗に改むといふ

重實(八島)—重遠—重直—重滿(山田)—

—重忠—重繼—重親……

【山田氏】姓は清和源氏。源經基の子、源滿季(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を實賢といふ。

【山田氏】姓は清和源氏、源賴信の子、源賴清(賴義の弟)より出づ村上氏より分る立家の祖を仲綱といふ。

【山田氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を長野助道男道成とす。

【山田氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を判乃基兼の弟政成といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【山田氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後なり、立家の祖を賴仲といふ。

【山田氏】姓は清和源氏、島津忠久より出づ、立家の祖を忠繼といふ、猶島津氏の姓につき疑あり、島津氏の條下を見よ。

【山田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏より分る立家の祖を盛高といふ。

【山守氏】(姓)垂仁天皇の皇子、五十足彥命の後なり。

【山名氏】姓は清和源氏、新田義重より

青木信種二男信明といふ。始め青木を稱せしが、甲斐國巨摩郡山寺の鄕を領せしより家號とす。家紋丸に花菱 丸に割菱

【山於氏】（姓）敏達天皇の皇孫、百濟王の後なり。

【山宮氏】姓は淸和源氏にして義光の後なり、立家の祖を倉科信廣の弟信安といふ。

【山岡氏】姓は淸和源氏、源賴光の子、源賴國の後なり。

【山高氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を信武といふ、甲斐國巨摩郡山高村を苗字の地とす。家紋花菱 山字 ◉家傳にもとは割菱を用ふといふ

【山城氏】姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、山名豊守の五男泰豊（母は金田正勝の女）山名矩豊の養子となり、金田を稱し後本氏に復す。家紋五七桐 七葉笹二 糸輪の内二引両

【山名氏】姓は淸和源氏源義國（義家の子）の子、新田義重より出づ、立家の祖を義範といふ、これ足利時代に有名なる、山名氏なり、義範、上野國綠野郡山名庄に住せしよりこれを稱す。家紋五七桐 七葉根笹 丸に二引両

新田義重―義範（山名）―義節―重國―

―重村―義長―義俊―政氏―時氏―

―師義―氏幸……

―氏淸―滿氏……

―時義―時照―持豊……

【山寺氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光の後、武田氏の庶流なり、立家の祖を

出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を親綱といふ。

【山佐氏】 姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を秀清といふ。

【山家氏】 姓は清和源氏、足利義康の後最上氏より出づ、最上直家三男家信を祖とす、羽州山本庄山家を苗字の地とす。

【山根氏】 姓は宇多源氏、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を長清といふ。

【山道氏】 (姓) 應仁天皇の皇子、稚停毛二俣王の後なり。

【山瀬氏】 姓は橘氏、橘諸兄の後楠正成の裔なり、紀伊國住山瀬正信を祖とす。

家紋 菊水 蔦

【山邊氏】 (姓) 天武天皇の皇子、舍人親王の後なり。

【山邊氏】 (姓) 垂仁天皇の皇子、鐸石別命の後なり。

【山邊氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、立家の祖を義忠といふ。

【山邊氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を賴尊といふ。

【山脇氏】 姓は橘氏、橘諸兄の後、楠正成庶流の裔なり、立家の祖を松雪といふ、近江國淺井郡山脇村を苗字の地とす。

家紋 橘丸に千葉椿 山吹流

【山﨑氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子

天足彦國押人命の命なり、立家の祖を兼光といふ、猶小野氏の條下を見るべし。武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【山崎氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義綱の後なり、三上氏より分る、立家の祖を盛重といふ。

【山崎氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を憲家といふ、憲家は佐々木家行の男にして、始め相摸國山崎に住し、後近江國犬上郡山崎の城に居り佐々木氏に屬す。家紋 緋扇の内に四目結

【山崎氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の流なり、立家の祖を頼資といふ。

【山縣氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、立家の祖を國直といふ、此苗字は美濃國山縣郡の地名より來りしものなり。

頼光―頼國―頼綱―
國直(山縣)―國政―頼清……

【山野邊氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子足利義康の後なり、斯波氏より分る、立家の祖を義忠といふ。

【山邊別】 (姓) 垂仁天皇の皇子、大中津日子命の後なり。

【大和氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を行平といふ。

【大和源氏】 清和源氏なり、源滿仲の子、源頼親頼光の弟)より出づ。

【矢木氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を常家といふ。

【矢井氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼季(頼義の子)より出づ、井上氏より分る立家の祖を忠長といふ。

【矢田氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原氏の支流なり、立家の祖を長綱といふ(矢田を益田に作れるものあり)

【矢田氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後即ち足利の支流なり、立家の祖を義清といふ。

家紋 六葉抱茗荷 三矢の字丸 十の字

【矢部氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を爲行といふ。

【矢部氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を統康といふ。

【矢原氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を信景といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【矢淵氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を直村といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【矢橋氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、先祖村岡を稱し、代々近江國矢橋村に住す、忠重のとき在名を苗字の地とす。 家紋 丸に五星根笹

【矢野氏】姓は橘氏敏達天皇の皇子、難波王の後なり。

【矢澤氏】姓は滋野氏、清和天皇の皇子

眞保親王の後なり、眞田幸隆弟薩摩守頼綱を立家の祖とす。

【矢澤氏】　姓は淸和源氏、源滿仲の子、源頼親（頼光の弟）より出づ、立家の祖を光村といふ。

【矢嶋氏】　姓は淸和源氏、木曾義仲九代遠江國住木曾隼人助義方矢嶋を稱す。

家紋　菊丸、根竹三つ團扇、五階菱

【矢頭氏】　姓は淸和源氏、足利義康の流なり、吉良貞義の三男、荒川貞弘より十二代の孫頼久强弓の譽ありしかば矢頭を以て苗字とす。　家紋　丸に矢筈、五三桐

頼久……重政（家康に仕ふ）―重次―重定―重好―

―長英……

【安丸氏】　姓は橘氏、橘諸兄より出づ、土佐香美郡安丸を苗字の地とす。

【安丸氏】　姓は桓武平氏、平忠盛の後門脇敎經の後なり、經時安丸に住し依て安丸を稱す。

【安万氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫、武內宿禰より出づ、立家の祖を忠景といふ。

【安井氏】　姓は淸和源氏、源義光の後なり、立家の祖を加々美遠光弟淸隆といふ。

【安田氏】　姓は淸和源氏、源義光の後なり、立家の祖を加々美遠光弟義定といふ安田後に保田に改めしものあり。

武田義淸―淸光―義定（安田）―義輔―

―義房―義高……

【安居氏】　姓は中原氏、安寧天皇の皇子

磯城津彦命の後なり、朝倉氏の族、立家の祖を景健といふ。猶中原氏の條下を見よ。

【安室氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を則正といふ。

【安村氏】姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛より出づ。

【安富氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫、武内宿禰より出づ、立家の祖を盛家といふ。

【谷地森氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、柳澤良貞の次男貞元陸前加美郡谷地森を領せるを以て苗字の地とす。

【保田氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、始め安田氏を稱せしが、逸見清光の四男忠宗に至り、これを保田と改めたり、紀伊國在田郡保田庄を苗字の地とす。家紋追州流

【保田氏】姓は清和源氏、源義光の後なり、大井氏より分る、守直に至りこれを稱す。

【屋代氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼清(頼義の弟)より出づ、村上氏の支流なり、村上爲國より十五代頼國の二男、能登守滿照、信濃國埴科郡屋代鄕に住せしより苗字とす。家紋上文字 丸に上文字 丸に九枚笹

【屋代氏】姓は清和源氏、源頼義の子源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を信清といふ。

【柳　氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿季（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を小椋景遠の子冠者宗質といふ。

【柳津氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親（賴光の弟）より出づ、立家の祖を有光といふ。

【柳澤氏】　姓は清和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を信興といふ、これ有名なる柳澤吉保の家なり。

一條信長┬柳澤信興……吉保─
　　　　├吉里─信鴻……（大和郡山）◎家紋　葵　四陽葵　陽葵の內八文字　四菱　葉葵　四舞鶴
　　　　├經隆……（越後黑川）◎家紋　葵　四陽葵　葉葵　四菱
　　　　└時睦……（越後三日市）◎家紋　同前

【泰野氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を景泰といふ。

【梁田氏】　姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後なり、立家の祖を重長といふ。

【陽成源氏】（姓）　陽成天皇の皇子、淸遠、淸蔭等源姓を賜はり、皇子、元良親王元平親王等の子孫もまた源姓を賜はる。

【楊井氏】　姓は私市氏、開化天皇の皇子彥坐王の後、私市家盛より出づ、武藏七黨の一なる私市黨に屬す、立家の祖を憲春といふ。

【楊梅氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親（賴光の弟）より出づ、立家の祖を基輔といふ。

【楊梅家】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、この家號を稱へた

るは顯雅に始まる。

【燒野氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を恒淸といふ。

【箭口氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、彥太忍信命の後なり。

【彌部氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を時景といふ、武藏七黨の一なる、丹黨に屬す。

【藥師寺氏】 姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波王の後なり、祖を胤長といふ。

ゆの部

【由木氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を保經といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【由井氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を家實といふ。

【由比氏】 姓は桓武平氏、平良文の後、三浦の支流なり、杉本義宗三男、和田宗實の男、由比實常の後裔なり。 家紋丸に竪三引九曜

光正(一に常重、家康に仕ふ)―光勝―光運―光憲―光儀……

【由良氏】 姓は淸和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重の後なり、立家の祖を成繁といふ。 新田義貞―貞氏―(六代畧)―

―成繁(由良)―國繁……

家紋五七桐 二引兩 ⦿家傳に慶長の頃まで丸に三葉葵な用ひしが將軍家と等しき故葵に水と改むといふ
丸の內葵に水

【由良氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇

子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を新里恒房の孫光綱といふ、

【由良藤氏】　姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【油川氏】　姓は淸和源氏、源義光の流なり、武田氏より分る、立家の祖を信惠といふ。

【油比氏】　姓は大宅氏、孝元天皇の皇子彥太忍信命の孫、武內宿禰の後なり、立家の祖を光高といふ。

【湯氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を政通といふ。

【湯野氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【湯河氏】　姓は淸和源氏、源賴義の子、義光の後なり、奈古氏より分る、油川氏と仝一のものなるべし、紀伊國熊野湯川に居りしより此號あり。

【結崎氏】　姓は桓武平氏、平宗淸貞盛の後裔の後なり、もと服部氏、立家の祖を淸次(觀阿彌)といふ。

よの部

【万木氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を惟綱といふ、此苗字は近江國高島郡万木の地名より來りしなるべし

【米井氏】　姓は淸和源氏、源經基の子、源

滿季(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を泰親といふ。

【米田氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、立家の祖を長村といふ。

【米倉氏】姓は淸和源氏、源義光より出づ、武田氏の支流なり、立家の祖を米倉信繼といふ、甲斐國東八代郡米倉を苗字の地とす。家紋丸に花菱 丸に花橘

【米山氏】姓は宇多源氏、佐々木秀義より出づ、高綱の子、野木光綱の孫泰俊を祖とす、甲斐國富士山下米山を苗字の地とす。

【吉川氏】姓は宇多源氏、佐々木秀義の嫡流、六角高賴の庶子廣直、近江國野州郡吉川村に居城、よつて佐々木を改めて吉川と稱す。家紋羅の内鶴

【吉田氏】姓は淸和源氏、源賴義の子、源義光より出づ、武田氏の庶流なり、立家の祖を有信といふ。

【吉田氏】姓は淸和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、立家の祖を義博といふ。

【吉田氏】姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり、立家の祖を嚴秀といふ、近江國吉田を苗字の地とす。家紋三重扇地紙の内鳩酸草 角四目結

【吉田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を淸幹といふ。

【吉田氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の姓につき

ての疑は其條下を見るべし。

【吉田氏】　姓は清和源氏、源頼信の子、源頼清（頼義の弟）より出づ、村上氏の支流なり、立家の祖を宗季といふ。

【吉田氏】　姓は清和源氏、櫻井松平の支流なり。　家紋裏櫻

【吉次氏】　姓は桓武平氏、平高望より出づ、義次土州香美郡に住し苗字を義次と稱し、後吉次に改む。

【吉松氏】　姓は清和源氏、源爲義の後なり、祖を正親といふ。　家紋松葉菱の内三石 丸の内三石

【吉見氏】　姓は清和源氏、源義朝の子、源範頼より出づ、立家の祖を爲頼といふ。
源範頼―範圓―爲頼（吉見）―頼宗……

【吉野氏】　姓は清和源氏、源義家の後、新田の支流なり、里見義俊十七代の後胤、堯光三代堯成より出づ。　家紋剣四目結 丸内櫻花

【吉野氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）の後なり、立家の祖を木田重長の孫重泰といふ。

【吉野氏】　（姓）　敏達天皇の皇孫、百濟王の後なり。

【吉野氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を禪師觀念の子太郎重季といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【吉豐氏】　姓は清和源氏、島津忠久の後なり、立家の祖を豐久といふ、猶島津氏の姓につき疑あり、島津氏の條下を見るべし。

【吉益氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康の後なり、畠山氏より分る、德川時代醫を以て著はる。

【好間氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を清秀といふ。

【好島氏】 姓は桓武平氏、仝上平國香の後なり、立家の祖を隆清といふ。

【良枝氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、大彦命の後なり、大戸氏より分る。

【良峯氏】 (姓) 桓武天皇の皇子、安世母賤しきの故を以て、親王とならず直に此姓を賜はる、安世の子に、僧正遍照あり著はる。

桓武天皇―良峯安世―宗貞―素性

【依上氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る立家の祖を宗義といふ。

【依田氏】 姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を盛忠といふ。 猶滋野氏の條下を見るへし。

【依田氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴親(賴光の弟)の後なり、宇野親弘の男、親治大和國宇野に住す、其子有氏信濃國依田城に住してより依田を稱す、子有光の子孫、依田某の後裔右馬允仝良上野國板鼻城に住し板鼻を稱し、後三代仝眞信濃國平原に居城し平原を稱し、盛繁に至り依田に復す。 家紋丸に蝶花形 丸に三蝶

【依田氏】 姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を爲實

といふ、信濃國小縣郡依田庄を苗字の地とす、行俊及び資行二代は飯沼を稱し、唯心某のとき依田に復す、經光に至り同國佐久郡蘆田村に移り、これより子孫或は蘆田を名乘り或は依田を稱す、康國に至り松平の稱號を賜ふ。家紋丸に三蝶

行俊(依田實信の二男)―資行―唯心某…經光
…滿春―隆春―信守―信蕃―康國…

【依羅氏】(姓)　開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【依羅氏】(姓)　開化天皇の皇子、建豐波豆羅和氣命の後なり。

【善積氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を惟家といふ、近江國高島郡善積鄕を苗字の地とす。

・源滿政―忠隆―齊頼―惟家、善積―…共齊…

【善理氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を重康といふ。

【寄合氏】　姓は清和源氏、源頼信の子、源頼清(頼義の弟)より出づ、村上氏の支流なり、立家の祖を延時といふ。

【與語氏】　姓は桓武平氏、平國香の後、餘吾將軍維茂の後なり。

【與等氏】(姓)　孝元天皇の皇子彦太忍信命の後なり。

【與利井氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を定隆といふ。

【横川氏】 姓は醍醐源氏、醍醐天皇の皇子、源高明より出づ、高明の孫、顯基これを稱す。

【横山氏】 姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を家光といふ、武藏七黨の一なる村山黨に屬す。

【横山氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を義孝といふ。猶小野氏の條下を見るへし。猶武藏七黨の一なる横山黨とはこの横山氏の一族を指すものなり、而して武藏國南多摩郡横山を苗字の地とす。

家紋 黒餅に右万字 丸に右万字 重一万字

【横山氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を賴信といふ。

【横手氏】 姓は清和源氏、源賴義の子、義光の流なり、武田氏の支族、一條氏より分る、立家の祖を信俊といふ。

【横田氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり佐々木義綱始めてこの苗字を稱す、近江國横田川を苗字の地とす。 家紋 四目結 釘拔 矢羽車

【横島氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を重家といふ。

【横瀬氏】 姓は小野氏天足彦國押人命の後なり、立家の祖を重政といふ、猶小野氏の條下を見るへし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【横瀬氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇

子上殖葉皇子の後なり、立家の祖を横脛時經二男時綱といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【横瀨氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖を義貞の子貞氏といふ。 家紋五七桐 二引兩 丸の內葵に水

【横野氏】 姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彥坐王の後なり、立家の祖を弘景といふ、猶日下部氏の條下を見るへし。

【横根氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、小笠原氏より分る、立家の祖を阿一といふ。

【横脛氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、祖を中村時房(時重の父)の弟時經とす、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【横澤氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、横山義孝の後胤信元より横澤を稱す。 家紋丸に万字

【横須賀氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を時連といふ。

第九章 頭音ら行に屬する姓氏

りの部

【利見氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を義氏といふ、

【利生氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を弘經といふ。武藏七黨の一なる野與黨に屬す。

【陸田氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫武内宿禰の後なり、立家の祖を俊連といふ。

れの部

【冷泉家】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、この家號を稱へたるは持房に始まる。

ろの部

【六角氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を泰綱といふ。　これ足利時代の歴史に有名なる六角氏なり。

【六條家】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、この家號を稱へたるは通有に始まる通有の子、有房の薨年は後醍醐天皇の元應元年にあり。

【六鄕氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、立家の祖を冬重といふ。

第十章　頭音わ行に屬する姓氏

わの部

【王氏】　華山源氏、華山天皇の皇子、清仁親王より出づ、清仁親王の孫、康資王の系をかく稱す又伯家ともいふ。（廣き意味にて王氏といふ時は平安朝の頃賜姓せられたる皇族諸氏をいへり）。

【分瀨氏】　姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を經有といふ、猶中原氏の條下を見るへし。

【亘理氏】姓は桓武平氏、千葉常胤の子胤盛の後なり、祖を宗胤といふ、奥州亘理郡亘理城に居住せるを以て苗字とす。

【別氏】（姓）景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【別氏】（姓）開化天皇の皇子、彦坐王の後なり。

【別宮氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏につきての疑は其條下を見るへし。

【和久氏】姓は在原氏、平城天皇の皇子阿保親王の子在原業平より出づ、立家の祖を守行といふ。

【和介氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏につきての疑問はその條下を見るへし。

【和田氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波王の後橘諸兄より出づ、立家の祖を親遠といふ。

【和田氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を氏家といふ。

【和田氏】姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光の後賴衡より出づ。近江國甲賀郡和田村を苗字の地とす。家紋丸に横木瓜の内左巴　裏菊輪

氏家―某―宗立―惟政―惟長―惟重……

【和田氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿季（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を柳宗實の子、孫九郎賴信といふ。

【和田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平

良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義盛といふ、これ源頼朝に仕へたる有名なる和田氏なり、義盛相模三浦郡和田を苗字の地とす。　家紋丸の内横木瓜 丸の内三引

三浦義明─義盛(和田)─常盛─朝盛
　　　　　　　　　　├義氏
　　　　　　　　　　├義秀
　　　　　　　　　　├義直
　　　　　　　　　　└義重等
　　　├義茂
　　　├宗實
　　　└義長─胤長

【和田氏】　姓は良峰氏、桓武天皇の皇子良峰安世より出づ、立家の祖を遠包といふ。

【和田氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、佐々木氏の支流なり。

【和田氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、立家の祖を貞盛といふ。

【和金氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を時季といふ、猶小野氏の條下を見るへし。

【和南氏】　姓は清和源氏、源満季の後なり、立家の祖を三郎實經といふ。

【和氣氏】　(姓)　垂仁天皇の皇子、鐸石別命の後なり、有名なる和氣清麻呂及び和氣廣世等の家なり。

【和珥氏】　(姓)　孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【和賀氏】　姓は清和源氏、源為義の孫、源頼朝の庶子、多田式部大輔頼忠を祖とす

【和多田氏】姓は清和源氏、武田信綱三男信利の後裔なり、和多田利滿を祖とす。家紋七つ割四目結 抱柊

【和邇部氏】(姓) 孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【若月氏】姓は清和源氏、源義隆より出づ、立家の祖を頼茂といふ。

【若林氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後、諸兄より出づ、祖を直隆といふ、豊後國若林を苗字の地とす。家紋丸の内蔦 蛇の目

【若林氏】姓は清和源氏、源義家の後、松平支流なり、三河國若林郷を苗字の地とす。家紋丸に井桁 五本骨扇

忠直(家康に仕ふ)—忠吉—豊忠—義次—義豊……

【若林氏】姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なりと。家紋井桁 藤(チキリ)

某(一に就定)—直則—三山—直方—直道—直良

【若宮氏】(姓) 孝元天皇の皇子、大彦命より出づ。

【若槻氏】姓は清和源氏、源義家の子、義隆これが祖たり。

【若櫻部氏】(姓) 孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【若狭國造】孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【度守氏】(姓) 孝昭天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【脇屋氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖は、甫

北朝時代に有名なる新田義貞の弟義助なり。

【渡邊氏】 姓は村上源氏、赤松則村十二代の孫、則國男則景攝州渡邊に住し在名を苗字の地とす。 家紋月丁子車

【渡邊氏】 姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子源融より出づ、融四代の孫に綱あり、始めてこれを稱ふ、綱は有名なる源頼光の四天王の一人なり、子孫繁榮、門葉大に廣し。 家紋三星一文字 三本骨扇 月に夕顔

源融―昇―仕―宛―綱(渡邊)―久―安―傳―滿―省―授……

【渡瀬氏】 姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、立家の祖を詮繁といふ。

【鷲尾氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、立家の祖を家衡といふ。

【鷲巣氏】 姓は清和源氏、源滿仲の子、源頼光の後なり、土岐氏より分る、立家の祖を之康といふ。 家紋桔梗

ゐの部

【井上氏】 姓は清和源氏、源滿仲の後、源頼光より出づ、祖を頼實といふ。

【井上氏】 姓は清和源氏、源頼信の子、源頼季(頼義の弟)より出づ、これ有名なる井上氏にして支族甚だ多し、信濃國上高井郡井上を苗字の地とす。 家紋井桁 五七桐 三巴 丸に二雁金

頼信―頼季(井上)―滿實―遠光―光盛―忠長……

【井上氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を行實といふ。

【井口氏】 姓は淸和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を直賴といふ。

【井口氏】 姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命より出づ、立家の祖を是經といふ、猶中原氏の條下を見るへし、近江國井口村を苗字の地とす。

【井口氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、立家の祖を高俊といふ。

【井戸氏】 姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を眞茂といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【井代氏】 (姓) 孝元天皇の皇子、天足彦國押人命の後なり。

【井沼氏】 姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を光長といふ、猶小野氏の條下を見るへし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【井關氏】 姓は淸和源氏、源賴親の流なり、井關源右衛門宗安を祖とす。

【爲那氏】 (姓) 宣化天皇の皇子、火焰皇子より出づ。

【猪子氏】 姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を盛淸といふ。

【猪本氏】 姓は淸和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)の後なり、立家の祖を大屋

政信弟是政といふ。

【猪俣氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を横山孝泰二男時資といふ、猶小野氏の條下を見るへし、猶又武藏七黨の一なる猪俣黨といふは、この猪俣氏の一族を指すものなり。　家紋北斗星軍配團扇 ◉軍配團扇は賴朝より賜ふ所なりと

【猪使氏】(姓) 安寧天皇の皇子、磯城津彥命の後なり。

【猪隈家】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、此家號を稱へたるは雅賴に始まる。

【猪苗代氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、佐原盛連の長男經連を祖とす、會津猪苗代麻谷庄を苗字の地とす。

ゑの部

【會加氏】(姓) 孝元天皇の皇子、大彥命の後なり。

【惠良氏】姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を道載といふ。

【惠良氏】姓は阿蘇氏、神武天皇の皇子神八井耳命の後なり。

【惠義氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、三浦氏より分る、立家の祖を義益といふ。

【遠藤氏】姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫親王の後なり、立家の祖を盛孝といふ、猶越智氏の條下を見るへし。

【遠藤氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、千葉常胤の六男胤頼下總國香取郡東庄に住せしより東を稱し、のち六郎盛數に至り遠藤を稱す。

家紋　一龜甲　十曜
　　　三龜甲　九曜

胤頼—重胤—胤行—行氏—時常……

をの部

【乙葉氏】　姓は清和源氏、源頼信の子、頼季(頼義の弟)井上氏を稱し、又乙葉を以て稱號とせり。

【乙部氏】　姓は清和源氏、源頼光の後、高田光國の弟慈賢を祖とす。

【小子氏】　姓は小野氏、天足彦國押人命の後なり、猶小野氏につきては小野氏の條下を見るへし。　武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【小川氏】　姓は清和源氏、源滿政の流なり、小川重房を祖とす。　家紋　十六葉裏菊　五七桐

重正(斯波家に仕ふ)—正範—正吉—長正—長保—
—安則……

【小川氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を宗義といふ。

【小山氏】　姓は日下部氏、彦坐王の後也、立家の祖を家綱といふ、猶日下部氏の條下を見るへし。

【小勾氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、小笠原氏の支流なり、立家の祖を清家といふ。

【小田氏】姓は清和源氏、源義朝の後なりといふ。猶神別小田氏の條を見よ。

【小田氏】姓は小野氏、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を義春といふ、猶小野氏の條下を見るへし。

【小田氏】姓は清原氏、天武天皇の皇子舎人親王の後なり、立家の祖を成通といふ。

【小田氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ立家の祖を忠重といふ。

【小田氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿快(滿仲の弟)より出づ。

【小田氏】姓は清和源氏、源義光より出づ、小笠原氏の支流なり、立家の祖を清家といふ。

【小尾氏】姓は清和源氏、源頼義の子源義光より出づ、武田氏の末流にして代々甲斐國小尾村を領せしにより家號とす

家紋 庵の内に花菱 丸に花菱

【小谷氏】姓は清和源氏、源頼信の子源頼季(頼義の弟)より出づ、井上氏より分る立家の祖を明範といふ。

【小谷氏】姓は日下部氏、開化天皇の皇子、彦坐王の後なり、立家の祖を家春といふ、猶日下部氏の條下を見るべし。

【小見氏】姓は桓武平氏平國香の後なり、大椽氏より分る、立家の祖を棟幹といふ。

【小原氏】姓は清和源氏、源滿季の後な

り、立家の祖を親實といふ。

【小原氏】姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、新田義重より出づ、里見氏より分る、立家の祖を忠義といふ。

【小坂氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼季(頼義の弟)より出づ、井上氏より分る立家の祖を時田光平の孫、光頼といふ。

【小坂氏】姓は清和源氏、源義光の流なり。家紋七星 檜扇

政吉(信秀信長に仕ふ)—雄吉—雄長—雄忠……

【小坂氏】同上、小坂雄吉の五男、吉長の姉聟山口重政に養はれ山口を稱し、子許之のとき小坂に復す。

家紋七曜 檜扇 唐菱 丸に九枚笹 飛雀二 ◉家傳に菱及笹の紋は吉長山口と稱せしときより用ふと

【小河氏】姓は清和源氏、源滿政の後なり、立家の祖を葦敷重頼の弟三郎重房といふ。

【小河氏】姓は清和源氏、源頼義の一族太郎義弘の後なり、義弘常陸國小川の庄に住せしより小川と稱し、のち益胤のとき小河に改むと。家紋尾長鳥尾を以て丸とし内に一文字 燕矢の下に一文字 隅入角の内に一文字

【小倉氏】姓は清和源氏、はじめ菅原氏にして大學頭在宣の男、三河國在廣、山城國小倉に住せしより苗字とす、其五代實綱今川義元に仕へ、故ありて清和源氏に改む。家紋梅鉢 三木瓜 ◉もと二柏を用ひ實綱の時梅鉢に改むさ

【小倉氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を景遠といふ。

【小倉氏】　姓は小野氏、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を經孝といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【小倉氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の流なり、佐々木氏より分る

【小栗氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平國香の後なり、大椽氏より分る、立家の祖を重義といふ、常陸國眞壁郡小栗を苗字の地とす。　家紋 角の内に月 丸に立波

【小栗氏】　姓は小野氏、天足彦國押人命の後なり、立家の祖を忠家といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【小栗氏】　姓は清和源氏、源義家の末流政宗の後なりといふ。

【小栗栖氏】　姓は春原氏、施基皇子の後なり、立家の祖を親之といふ。

【小家氏】　(姓)　孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後葛城襲津彦より出づ。

【小椋氏】　姓は清和源氏、源經基の子、源滿季(滿仲の弟)より出づ、立家の祖を景遠といふ、其他同族景實孝綱の流も、小椋氏を稱す、近江國小椋を苗字の地とす。

【小俣氏】　姓は清和源氏、源義國(義家の子)の子、足利義康より出づ、立家の祖を賢寶といふ。

【小俣氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【小場氏】 姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出つ、佐竹氏より分る、立家の祖を義躬といふ。

【小瀬氏】 姓は清和源氏、仝上、源義光より出づ佐竹氏の支流なり、立家の祖を義春といふ。

【小野氏】 （姓） 孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、小野妹子小野篁小野春風等の人物著はる、門葉繁榮、支族頗る多し、猶小野氏の出自につきて異說あり普通の系圖本には多く敏達天皇の皇子春日皇子、其子、小野妹子これ小野氏の祖となす、然れども新撰姓氏錄皇胤紹運錄等の書に見えず、確證として據るべきものなし、故に茲には新撰姓氏錄の說に從ふ、近江國滋賀郡小野村を苗字の地とす。

小野妹子─毛人─毛野─永見─┬─峯守┬─篁……
　　　　　　　　　　　　　　　　　└─葛玄……

【小野氏】 姓は清和源氏、源賴清より出づ、村上氏の支流なり、立家の祖を宗實といふ。

【小野氏】 姓は清和源氏、源義光の後なり、立家の祖を平賀盛義三代朝信といふ

家紋左三巴丸に橘

【小野氏】 姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を證觀といふ。

【小野氏】 姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、江戶忠重の男重行外戚（重

行の祖母は小野篁の末孫小山經隆の女）の苗字小野を稱す。家紋丸に鷹羽打違

重行—重光—重房—重傘……高政—高盛……

【小野氏】姓は春原氏、天智天皇の皇子施基皇子、の後なり、立家の祖を之基といふ。

【小野氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彥太忍信命の孫、武內宿禰の後なり、立家の祖を嚴首といふ。

【小畠氏】姓は淸原氏、天武天皇の皇子舍人親王の後なり、立家の祖を武國といふ。

【小鹿氏】姓は淸和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康より出づ、今川氏より分る、立家の祖を範慶といふ。

【小幡氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、赤松氏より分る、赤松則景の末男、氏行外家畠山某に養はれ小幡を稱す。家紋株竹龍膽、扇

氏行—崇行—高行……信眞（信玄に仕ふ）—直之……

重昌—重厚……

【小幡氏】同上始め葛俣を稱し、盛次の時小畠に改め、昌盛に至りて小幡信眞の稱號を受け、小幡に改む。家紋立竹に虎◉小幡信眞この紋を讓るこれ小幡氏庶子の紋なりといふ

【小濱氏】姓は桓武平氏、和田義氏の男平尾盛氏の後胤なり、盛繼のとき北畠顯家に仕へ、伊勢國小濱鄕を領せしより苗字の地とす。家紋左三巴

盛繼—某—隆綱—景隆—光隆—嘉隆……

廣隆……

【小澤氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を重政といふ。

【小澤氏】　姓は私市氏、開化天皇の皇子彦坐王の後、私市家盛より出づ、武藏七黨の一なる私市黨に屬す、立家の祖を有光といふ。

【小澤氏】　姓は清和源氏、源義家流なりもと能見松平の庶流にして松平を稱す忠重のとき小澤に改む。

【小澤氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、猶小野氏の條下を見よ、武藏七黨の一なる横山黨に屬す。

【小國氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、立家の祖を賴行といふ。

【小槻氏】（姓）　垂仁天皇の皇子、於知別命の後なり、これ平安朝中頃より、官務の家、算道の家として有名なるものなり。

【小藏氏】　姓は清和源氏、源義光より出づ、小笠原氏より分る、立家の祖を行長といふ。

【小山田氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を有重といふ。

【小川内氏】　姓は嵯峨源氏、其先渡邊を稱し、肥前國松浦縣に住み、後小川内城に居る、これより世々小川内を稱す。

【小田切氏】　姓は滋野氏、清和天皇の皇子貞保親王の後なり、立家の祖を堯元といふ、猶滋野氏の條下を見るべし。

家紋　丸に二引　丸に桔梗　丸に九枚笹

【小佐手氏】 姓は清和源氏、源義家の流武田の支流なり、武田信重の二男永信、甲斐國山梨郡小佐手村に住せしより在名を苗字の地とす。 家紋花菱(一に割菱)

【小花和氏】 姓は在原氏、平城天皇の皇子阿保親王の子、業平の後胤にして、長野を稱し、後上野國群馬郡小塙村に住し、小塙を稱へ、又小花和に改むと。 家紋五本骨檜扇蛇目

【小笠原氏】 姓は清和源氏、源義光の後なり、武田氏より分る、立家の祖を長清といふ、これ有名なる信濃の小笠原氏にして子孫蔓延支族頗る多し、甲斐國北巨摩郡小笠原を苗字の地とす。

義清—清光—遠光—長清(小笠原)—

—長經—長房……

—長忠……貞宗—政長—長基—政康—

—持長—清宗—長朝—貞朝—長棟—

—長時—貞慶—秀政—

—忠脩……(播磨安志)⦿家紋五七桐 三階菱

—忠眞……(豊前小倉)⦿家紋五七桐 三階菱 ⦿家傳に三階菱は後醍醐天皇のとき馬を師範し奉りしに王の字を家紋とすべき旨勅命ありと雖、憚りて王の字を象りて松皮菱の下太と稱し家紋とす今三階菱は即ちこれなり又五七桐は曩祖遠光より用ふといふ

—忠知……(肥前唐津)⦿家紋五三桐 三階菱 ⦿初五七桐のち五三桐に改む

—光康—家長……信之……(越前勝山)⦿家紋五十桐 三階菱

【小徳賀氏】 姓は嵯峨源氏、嵯峨天皇の皇子、源融の後、松浦氏の支流なり。

【小長谷氏】 (姓) 神武天皇の皇子、神八井耳命の後なり。

【小治田氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【小鹿野氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、祖を中村時高二男掃部左衛門時景といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【小鹿島氏】姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり、

【小船津氏】姓は清和源氏、源滿仲の後なり、大中川賴定の弟、五郎宗繼を祖とす。

【小槻山氏】（姓）垂仁天皇の皇子、於知別命の後なり。

【小野澤氏】姓は清和源氏、源賴信の子、源賴清-賴義の弟-より出づ、村上氏より分る立家の祖を實氏といふ。

【小野岡氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、立家の祖を義人といふ。

【曰佐氏】（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫、武內宿禰の後なり。

【他田氏】（姓）孝元天皇の皇子、大彦命の後なり。

【他田舍人氏】（姓）神武天皇の皇子、神八井耳命の裔、科野國造家より分る。

【刑部氏】姓は清和源氏、源賴義の子源義光より出づ、立家の祖を祐義といふ。

【折井氏】姓は清和源氏、源賴義の子、源義光の後なり、武田氏より分る、武田時信六男、青木時光の三男、時次甲斐國巨摩郡武川の折居に住す、依て苗字の地とす、次

忠に至り折井と改む。

家紋　割菱　三木桁　三井桁（一に井桁）　黒餅に八文字

【折敷氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、立家の祖を通信といふ。

【尾本氏】　姓は中原氏、安寧天皇の皇子磯城津彦命の後なり、立家の祖を師景といふ、猶中原氏の條下を見るべし。

【尾里氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ、土岐氏より分る、立家の祖を國定といふ。

【尾張氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康より出づ、立家の祖を宗家といふ。

【尾崎氏】　姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康より出づ、今川氏の支流なり。

【尾塞氏】　姓は清和源氏、源滿仲の子、源賴光より出づ。

【尾津氏】　（姓）景行天皇の皇子、日本武尊の後なり。

【尾喜氏】　姓は清和源氏、源賴義の子、義光の後なり、奈古氏より分る。

【尾園氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彥國押人命の後なり、立家の祖を木里行兼弟、家高といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【尾張部氏】　（姓）神武天皇の皇子、彥八井耳命の後なり。

【尾張三野別】（姓）垂仁天皇の皇子、大中津日子命の後なり。

【尾張家徳川氏】姓は清和源氏、徳川家康の子、義直の流なり。家紋三葵葵車

家康―義直―光友┬綱誠┬吉通
　　　　　　　　│　　└繼友―（尾張名古屋）
　　　　　　　　└義行―義孝―義淳……（美濃高須）

【男衾氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を河勾忠兼、弟重任といふ、猶小野氏の條下を見るべし武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。

【岡氏】姓は清和源氏、源經基の子、源滿政（滿仲の弟）より出づ、立家の祖を維義といふ。

【岡氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、もとは岡部氏より出づ、猶小野姓につきては、其條下を見るべし。家紋丸に打違鷹羽 ◉もと丸に十万を用ひしが鷹羽に改むといふ

【岡氏】（姓）天武天皇の皇子、舍人親王の後なり。

【岡山氏】姓は清和源氏、源義國（義家の子）の子、足利義康より出づ、吉良氏の支流なり。

【岡山氏】姓は清和源氏、岡山左五八之於の二代、岡山新十郎之英次男之典の後なり。家紋丸に三鱗 松皮菱 下藤

【岡田氏】姓は清和源氏、源義家の後、新田の支流なり、其先下總國岡田郡に住せ

しより苗字の地とす。家紋丸に鳩酸草 桐

政亮―忠俊―安忠―忠郷……

【岡田氏】姓は清和源氏、源滿政より出づ、山田重親の二男、泰親より四代重政、其孫重賢尾張國岡田原に任せしより在名を苗字の地とす。家紋鳩酸草 丸に桔梗 繋五星

【岡田氏】姓は清和源氏、源頼信の子、源頼清(頼義の弟)より出つ、村上氏より分る立家の祖を實重といふ。

【岡田氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源頼光より出づ、佐竹氏より分る、立家の祖を義高といふ。

【岡田氏】姓は宇多源氏、宇多皇天の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る立家の祖を秀隆といふ。

【岡田氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子、上殖葉皇子の後なり、立家の祖を時繼といふ、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【岡田氏】姓は清和源氏、源頼義の子、源義光より出づ、武田氏より分る、佐竹昌義の子、岡田冠者親義を祖とす、信濃國筑摩郡岡田村を苗字の地とす。

家紋三本扇 二に鱗 三日月に鳩

【岡田氏】(姓)孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【岡林氏】姓は清和源氏、源義家の流なり、立家の祖を義政といふ。

義家……義秀―基秀―秀行……義政……

【岡本氏】姓は桓武平氏、平良文の後なり、立家の祖を富高といふ。

【岡本氏】　姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波王の後なり。家紋橘

重之―重信―諸品（慶長頃の醫）―介球―祐昌―壽昌―篤敬……

【岡本氏】　姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の孫、武内宿禰の後、宇都宮芳賀の末流なり、其系正重より現はる。

【岡本氏】　姓は清和源氏、もと穂積氏なり、鈴木重家の末孫にして重於のとき清和源氏、岡本に改む。家紋丸に三鱗　下藤　松皮菱

【岡本氏】　姓は醍醐源氏、醍醐天皇の皇子、源高明より出づ、高明の子、忠賢これを稱ふ。

【岡本氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王より出づ、赤松氏より分る、立家の祖を定村といふ。

【岡見氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、相馬氏より分る、立家の祖を師房といふ。

【岡村氏】　姓は桓武平氏、平良文の後、和田義盛の四男義直の後裔なり、直成に至り外戚の稱岡村に改む。家紋石井筒の内矢筈打違　丸に結雁金　勝扇　結雁金

【岡松氏】　姓は高階氏、天武天皇の皇子、高市親王より出づ、立家の祖を頼基とす。

【岡屋氏】　（姓）孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【岡部氏】　姓は清和源氏、源頼義の子、源義光の後なり、佐竹氏より分る、佐竹義重の後、これを稱ふ。

【岡部氏】　姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり、立家の祖を忠經といふ、猶小野氏の條下を見るべし、武藏七黨の一なる猪股黨に屬す。　家紋十万丸に十文字　万字　九曜

【岡崎氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、立家の祖を通家といふ。　通家は二條天皇頃の人なり。

【岡崎氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文より出づ、三浦氏より分る、立家の祖を義實といふ。

三浦爲通―爲繼―義繼―義實（岡崎）

【岡野氏】　傳へいふ、北條時行か末流なりと、然れば、姓は桓武平氏、平國香の子、平貞盛の後、北條氏の支流なり。　先祖より數代伊豆國田方郡狩野庄田中鄉を領せしにより泰行に至り田中を稱し、融成のとき北條氏政の旨を受けて板部岡に改め、後秀吉の命によりて岡野と稱す。

家紋丸に鳩酸草

【岡濱氏】　姓は桓武平氏、平良文の後なり立家の祖を常宗といふ。

【長田氏】　姓は宇多源氏、宇多天皇の皇子、敦實親王の後なり、佐々木氏より分る、立家の祖を胤信といふ。

【長田氏】　姓は桓武平氏、平高望の子平良文の流なり、立家の祖を致賴といふ。

【長田氏】　姓は村上源氏、村上天皇の皇子、具平親王の後なり、立家の祖を行明といふ。

【長田氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良兼の後なり、立家の祖を忠致といふ、これ源義朝を殺せし人なり。

平良兼—公雅—致頼—致經—致房—行致—親致—政俊……重廣—廣正—忠致—景致—白吉—忠勝……

【長田氏】姓は多治比氏、宣化天皇の皇子上殖葉皇子の後なり、武藏七黨の一なる丹黨に屬す。

【荻原氏】姓は清和源氏、源義光の流なり、武田信昌の後胤、常陸介昌勝、甲斐國山梨郡荻原村に住せしよりこれを稱す。

家紋 丸に右万字 丸に十文字 花菱

昌勝—昌明—昌之—昌友—友村……

【荻原氏】姓は村上源氏、具平親王の後なり、村上天皇九代の後、流落して甲斐荻原に住し其子孫荻原を稱す。 家紋 丸に一文字三星 丸に釘拔

重次（一に興重 武田信玄に屬す）—無重（一に反重）—重正—重成—重道……

【荻野氏】姓は村上源氏、村上天皇の皇子、爲平親王の後なり、立家の祖を季時といふ。

【荻野氏】姓は小野氏、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の後なり立家の祖を季重といふ、猶小野氏の條下を見るべし。

【荻野氏】姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、鎌倉氏より分る。

【麻績氏】姓は清和源氏、頼義の子、源義光の後なり、立家の祖を長親といふ。

【越智氏】（姓）越智氏の系圖本によれば孝靈天皇の皇子に、伊豫王あり、其子に、小千御子あり、これ越智氏の祖となす、然るに皇胤紹運錄新撰姓氏錄等には、これを載せず、頗る疑ふべきものあり、而して新撰姓氏錄によれば、越智氏は、神別饒速日命より出づとなす、故に大日本史には孝靈天皇より出づとなすは、これ、後世の僞訛ならんとなし、これを神別中に納めたり、本書には、暫くこれを孝靈天皇の系におくと共に、玆に疑を存すること、斯の如し、此姓は伊豫國越智郡の地名によれるものなり。

【越智流松平氏】　姓は清和源氏、德川綱重（家光將軍の次子）の次子、清武の流なり、清武の母、懷姙の後、甲府の士越智喜清に托せられ、清武は其宅に於て生る、故に始め其雄を冒し、後松平と改む。　家紋丸に揚羽⦿家傳蝶左巴に清武葵の御紋の附きたる上下を賜はり長く家の紋とする事を許さるゝも辭して用ゐず武器の類及昔賜はりし物は用ふさ

清武―武雅―武元―武寛……（石見濱田）

【越智氏】　姓は橘氏、敏達天皇の皇子、難波皇子の後なり。

【溫泉氏】　姓は越智氏、孝靈天皇の皇子伊豫皇子の後なり、猶越智氏の條下を見るべし。

【園城寺氏】　姓は桓武平氏、平高望の子、平良文の後なり、立家の祖を貞政といふ。

第二部　神別諸氏

第一章　頭音あ行に屬する姓氏

あ　の　部

【天田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、立家の祖を式宣といふ。

【天方氏】　家傳にいふ、元は首藤と稱す豊後守通秀に至り、遠州天方城に居る、故にこれを稱ふと。　首藤氏は、藤原氏、北家魚名の流、藤原秀郷の後なり。

【天草氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を經賴二男經長といふ。

【天野氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を景光といふ。　天野藤内と稱す、其子に天野遠景あり。　猶皇別天野氏を見よ。　世々伊豆國田方郡天野の地に居りしより天野を苗字とす。

工藤爲憲—時理—時信……景光（天野）—遠景—政景……　家紋 丸に三本松三日月 八本扇

◉家傳に八本扇は庶流天野豊前守長宗東福門院より十二本骨扇を賜ひ仰により家紋とす後八本骨に改め同族これを用ふといふ

【天語氏】　（姓）　神皇產靈命の後なり。

【天草國造】（姓）神皇産靈命の後なり。

【穴師氏】（姓）天富貴命の後なり。

【有馬氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子長良の流なり、これ九州に於て有名なる有馬晴信の家なり。肥前高來郡有馬を苗字の地とす。家紋瓜

藤原長良……純友……經澄……貴純―純鑒

―晴純―義貞―義純―晴信―直純―

―康純……（越前丸岡）

【有賀氏】姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【有富氏】姓は大江氏、天穂日命の後なり、立家の祖を直衡といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【有阪氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流、工藤、狩野等の族なり、立家の祖を祐朝といふ。

【有澤氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の流なり、六郷道行の弟勝元を立家の祖とす。

【安立氏】姓は藤原氏、藤原魚名の流なり、藤原秀卿より出づ、立家の祖を俊成といふ。

【安東氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原利仁（魚名六代の孫）より出づ、後藤氏の支流なり。

【安曇氏】（姓）海神、豊玉彦命の子、穂高見命の後なり。

【安幕氏】（姓）饒速日命の後なり。

【安濃氏】（姓）神皇産靈命の後なり。

【安藤氏】姓は藤原氏、もと安倍姓にし

て仲麻呂の後裔、安倍朝任、鳥羽院より藤原氏を賜ひ、兩氏の各一字を併せて安藤と稱す、家重は其十五代の孫なりと。

家紋 下藤丸の内に安文字 打板 七畵引龍

【安達氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、立家の祖を小野田兼廣の子盛長といふ。盛長は鎌倉時代の初め後鳥羽天皇頃の人なり。

安達盛長―景盛―義景―泰盛―宗景―貞泰

【安房國造】(姓)天穗日命の後なり。

【赤尾氏】姓は伊香氏、天兒屋根命の後伊香津臣命の流なり、立家の祖を助淸といふ。

【赤林氏】姓は藤原氏、北家、伊藤重祐十三代重氏(信長に仕ふ)の後なり。

家紋 筋無抱茗荷の内石 餅 七葉櫻

【赤星氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を經直の弟經俊といふ。

【赤佐氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の流なり、立家の祖を井伊盛直の子、俊直といふ。

【赤畝氏】姓は渡會氏、神皇産靈尊の後なり、渡會神主より分る。

【赤須氏】姓は藤原氏、藤原魚名の流、藤原秀郷の後なり、立家の祖を通成といふ。

【赤塚氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子魚名の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を河合助宗の子、右衛門大夫宗景とい

ふ。

【赤堀氏】姓は藤原氏、北家、秀郷の流なり、美濃國赤堀友正の後なり。

家紋 三頭左巴 庵内八十萬丸の內茶の實

【足立氏】姓は藤原氏、北家、魚名の流にして遠元（一に遠基）の後胤なりと。

家紋 花輪違に鳩酸草 花輪違

【足利氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、立家の祖を成行といふ。世々下野國足利郡足利莊を食みしより足利を苗字とす。

秀卿─千常─文修─兼光─頼行─兼行─成行（足利氏）……

【我孫氏】（姓）大巳貴命の後、天八現津彦命の後なり。

【吾妻氏】姓は藤原氏北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、立家の祖を兼助といふ。

【青山氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、藤原魚名の流なり、藤原秀郷より出づ立家の祖を定俊といふ。家紋 抱葉菊

【青山氏】姓は藤原氏、花山院家忠の後なりといふ、略系を左に示す。

家忠…藤原師賢─信賢─師資─師重─（青山）…忠茂─忠俊……（丹波笹山）◉二紋無字錢葉菊（一に一花二葉）丸に葉菊草の花

◉傳へらく無字錢は師賢後醍醐天皇より無字錢を賜ふ男師資のときその賜により無字錢を家紋とす。葉菊は師資將軍の宣旨を家り日月菊花文の錦の御旗を賜ふこれより菊花を旗紋とす時に楠家の旗紋も亦菊花なりし故これと別たんため兩葉を加へ代々家紋とす後忠門の代に東照宮幼稚にして三河國法藏寺の後の山を遊覽の時忠門從ひたるに葉菊草の花咲きたるをこれは何花そと問はせらる葉菊草なりと答

へ奉りしかばろの花を採りて忠門にたまひ汝の紋なり
と仰ありこれよりこの花に丸を加へて家紋に並び用ひ
來るところ故ありて數代中絶せしが忠裕のときより再
ひこれを用ふと

——幸成……（美濃郡山）◉家紋 葉菊 黒餅に九曜

【青山氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、秀郷の流なり、初め首藤を稱す、豊後守通秀遠江國天方城に住し天方を稱し、主馬成展に至りて靑山に復す。

家紋 細輪に葉菊 一文字

【青井氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を丸野頼成の弟前成といふ。

【青海氏】（姓） 神武天皇の時の功臣推根津彦命の後なり。

【青野氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を泰輔といふ。

【芦島氏】姓は藤原氏、北家、藤原利仁の流なり、宇田成貞の子、太郎元貞を祖とす。

【芦澤氏】姓は大江氏、天穂日命の後なり、立家の祖を忠秀といふ。猶大江氏の條下を見るべし。

【味岡氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の流なり、那須氏より分る、立家の祖を花原朝資弟廣資といふ。

【姉小路家】姓は藤原氏、藤原師資の子、公季の流なり、三條家より分る、立家の祖を公宣といふ。公宣の薨は後堀河天皇の元仁二年にあり。

三條實行—公教—實房—公宣（姉小路家）……

【姉小路家】姓は藤原氏、北家、藤原良門（冬嗣の子）の子高藤の流なり、葉室家より分

る、立家の祖を宗房といふ。

【姉小路家】 姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、立家の祖を師平といふ。

師尹―濟時―通任―師成―師季―尹時―師綱―親綱―家時―師平―(姉小路)……

【油小路家】 姓は藤原氏、北家、藤原魚名の子、末茂の後なり、四條家より分る、この家號は隆蔭に始まる。 隆蔭の薨去は北朝後光嚴天皇の貞治三年にあり。 家紋花菱

【明石氏】 (姓) 神武天皇の時の功臣、椎根津彦後のなり。

【明樂氏】 姓は藤原氏、北家、秀卿の流、下河邊行義の末孫、紀伊國住、寒川正長男正親の後なり。 家紋六梅 丸内茗荷 黒餅に横木瓜

【阿刀氏】 (姓) 饒速日命の後なり。

【阿南氏】 姓は大神氏、素戔嗚命の子、大國主命より出づ、立家の祖を大野基平の弟惟季といふ。

【阿部氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流、八田知家の後なり、これ徳川氏の世臣として有名なる阿部正次、忠秋等の家なり。

阿部正俊―正宣―正勝―正次―重次―定高(備後福山 ◉家紋 黒餅 丸に右重鷹羽)
　　　　　　　　　　　　　　　　重次―正春(上總佐貫 ◉家紋 黒餅 丸に左重鷹羽)
　　　　　　　　正勝―正吉―忠秋―正能……(奥州白河 ◉家紋 丸に鷹羽 黒餅の内鷹羽)

【阿野家】 姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、藤原公季より出づ、閑院家に屬す、此家號を稱へたるは公佐に始まる。 公佐は

鎌倉初代の人なり。家紋松皮花菱

滋野井實國―公佐(阿野)―實直……

【阿佐美氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、藤原伊周より出づ、立家の祖を遠廣といふ。武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【阿曾沼氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、魚名四代の孫藤原秀郷より出づ、立家の祖を足利有綱の子廣綱といふ。下野國安蘇郡淺沼村に一城趾あり、これ此氏の居城にして其苗字の由つて出づる所なり。

【阿瀬河氏】　姓は紀氏、神皇產靈尊の後、天道根命より出づ。

【阿多隼人】　(姓)　彥火々出見尊の御兄、火闌降命の後なり、一族九州の南部、薩摩地方に蔓延せり。

【阿岐國造】　(姓)　天湯津彥命の後なり。

【阿尺國造】　(姓)　天湯津彥命の後なり。

【阿武國造】　(姓)　神皇產靈命の後なり。

【阿波忌部】　(姓)　高皇產靈命の後、祖を天日鷲命といふ。

【奄　智　氏】　(姓)　天津彥根命の後なり。

【奄智縵氏】　(姓)　饒速日命の後なり。

【飛　鳥　氏】　(姓)　大國主命の子、事代主命の後なり。

【飛鳥井家】　姓は藤原氏、北家、藤原師實の五男、忠敎の後なり。難波家より分る、立家の祖を雅經といふ。雅經の薨去は順德天皇の承久三年にあり。

師實―忠教(難波)―賴輔―賴經―

―雅經(飛鳥井)……

【秋元氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり。宇都宮賴綱の男泰業嘉祿年中上總國秋元庄を領せしより苗字とす、其後裔貞朝宇都宮時景の子を養ひこれを泰朝と稱す。 家紋源氏車 瓜

秋元泰朝―富朝―喬知―喬房―喬求……(羽前山形)

【秋鹿氏】 姓は藤原氏、もと橘氏にして橘朝芳出雲守に仕せられ秋鹿郡に住し初めて秋鹿を稱す、其四代朝慶源賴朝に仕へ藤原姓を賜ふ。 家紋角内三頭左巴 魚葉七つ巴

【秋篠氏】 (姓) 天穗日命十二世の孫可美乾飯根命の後なり。

【秋田城介】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、立家の祖を相繼といふ

【海犬養氏】 (姓) 海神豐玉彥命の後なり

【扇谷氏】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤の後なり、上杉氏にして鎌倉扇谷に居りしもの、これを稱す、祖を朝定といふ。

【相河氏】 姓は藤原氏、藤原魚名の流、藤原秀鄕の後なり、立家の祖を直通といふ。

【荒木氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、波多野氏より分る、これ荒木村重等の家なり。

秀鄕……波多野義通……朝村(荒木)―貞村―

―景村 重村―家村―高村―吉村―村重……

【荒木氏】 同上波多野義通三代義定の後裔氏義丹波國天田郡荒木邑に住せし

より在名を苗字の地とす。

家紋蔦　三木瓜　矢車　◉一に牡丹を家紋とすといふ

某（一に定氏）—某（一に氏元）—元清（荒木村重に屬す）—元滿—

—元政—元知—政羽—政明……

【荒田氏】（姓）高皇産靈命の後なり。

【荒城氏】（姓）津速魂命三世の孫、天兒屋根命の後なり。

【荒木田氏】（姓）天兒屋根尊の後、天見通命の後なり、神主最上の時より荒木田の氏起る、伊勢の神主にして支流頗る多し。

【麻生氏】姓は藤原氏、北家、宇都宮朝綱の後、山鹿時家の二男、小次郎資時を立家の祖とす。

【麻田氏】、姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を淸長といふ。

【麻原氏】姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を吉川元春三男實廣といふ猶大江氏の條下を見るべし。

【淺井氏】姓は藤原氏、文明頃の人、藤原公綱を祖とす、これ近江に有名なる淺井長政の家なり。或はいふ、淺井氏本姓は物部氏なりと。近江國淺井郡を苗字の地とす。家紋丸に根笹

公綱—重政—忠政—賢政—亮政—

—久政—長政……

【淺羽氏】姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を入西資行の男行業といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【淺羽氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、小田氏より分る、立家の祖を知尚といふ。

【淺波氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼より出づ、宇都宮氏の支族なり、立家の祖を八田知實の子重家といふ。

【淺香氏】 姓は藤原氏、北家、秀郷の流なり、成田下總守顯泰の後なり。

【淡路國造】 (姓)神皇産靈命の後なり。
家紋丸内二本矢 丸内橘

【朝來氏】 (姓)天火明命の後なり。

【朝岡氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流、宇都宮泰藤の男藤綱の後なり、立家の祖を泰之といふ。 家紋三頭左巴

【朝岡氏】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり、立家の祖を秀茂といふ。

【朝比奈氏】 姓は藤原氏、家傳にいふ、北家藤原冬嗣の子、良門三代堤中納言兼輔の後裔なりと、駿河國朝比奈を苗字の地とす。 家紋三頭左巴 一重桔梗 ◉蒔へいふ國俊公俊允弟の領せし所の朝比奈岡部二邑の川その流れ同じく返し渦を卷きて三巴の形に似たりよりて家紋とすと

元長—信直—宗利—良明—良豊……俊永(今川氏親に仕ふ)

【粟生氏】 姓は藤原氏、藤原道長の子、賴通の流なり、立家の祖を廣隆といふ、此苗字は能登國粟生の地名より來れるものなり。

【粟生氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子魚名の流、齋藤氏の族なり、立家の祖を助方といふ。

【粟野氏】　姓は荒木田氏、天兒屋根命の後天見通命の後なり。

【粟田口氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の四男、巨勢麻呂の流なり、熱田大宮司家より分る、立家の祖を範智といふ。

藤原忠通—基實(近衞)—基通
　└忠良(粟田口)—基良—良教……

【粟田口家】　姓は藤原氏、藤原基實の子、忠良より起る。

【粟國造】　(姓)　高皇產靈命の後なり。

【綾部氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流、齋藤氏の族なり、立家の祖を大見範廣の子清範といふ。

【愛甲氏】　姓は藤原氏、南家乙麻呂の流なり、稻富賴貞の弟九郎某を祖とす。

【葦澤氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を惟綱といふ

【葦崎氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流、齋藤氏の族なり、立家の祖を元貞といふ。

【葦野氏】　姓は藤原氏、北家藤原道長の子、長家の流なり、那須氏より分る、資忠二男二郎資之を立家の祖とす。

家紋　丸に一文字下に左巴二
　　　一文字の下に左巴

【網戸氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、結城氏より分る、立家の祖を朝村といふ。

【網部氏】　(姓)　饒速日命の後なり。

【熱田大宮司】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の四男巨勢麻呂の流なり、立家の祖を

季兼といふ。季兼は平安朝の中頃、村上天皇頃の人なり。

巨勢麻呂―貞嗣―(六代畧)實範―
　|季兼(熱田大宮司)―季範……

【鮎川氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、立家の祖を家員といふ。

【鮎澤氏】姓は藤原氏、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を惟兼といふ。

【縣氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、工藤、狩野等の族、立家の祖を祐治といふ。

【縣使氏】(姓)饒速日命の後なり。

【縣犬養氏】(姓)神魂命八世の孫、阿居太都命の後なり。

いの部

【一色氏】姓は藤原氏、もと唐橋を稱へ在通武家に仕へて外家の號一色を稱し在種のとき唐橋に復し、昭種のとき一色に復す。家紋丸に二引　梅鉢　◉二引の紋は義昭より賜ふ所なりと

【一條家】姓は藤原氏、北家藤原道家の子、實經に始まる、攝關家なり。實經の薨去は後宇多天皇の弘安七年にあり。

兼實(九條)―良經―道家―|―敎實
　|―良實
　|―實經(一條)―家經―內實―內經……

【一條家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、賴宗の後なり、持明院家より出づ、賴宗は後三條、白河頃の人なり。

藤原道長―頼宗―俊家―基頼―通基―
通重(一條)―能保……

【一條家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の九男、公季より出づ、閑院家三條より分る立家の祖を實隆といふ。實隆は龜山天皇頃の人なり。

公季……公清(八條)―實隆(一條)―公頼……

【一條家】姓は藤原氏、公季の後なり、閑院家西園寺より分る、立家の祖を實有といふ、實有は後深草天皇頃の人なり。

【一條家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、伊尹の後なり、行房に至りこの號を用ふ。

【一瀬氏】姓は神氏、大國主命の子健御名方命の後なり。

【一万田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、祖を時景といふ。猶大友氏の條下を見るべし。

【入江家】姓は藤原氏、北家、藤原道長五代の孫俊成の後なり、冷泉より分る、此家號は相尙より始まる、相尙の薨去は中御門天皇の享保元年にあり。

【入江氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の四男、乙麻呂の後、工藤の流なり、立家の祖を景兼といふ。

【入西氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、祖を資行といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【入田氏】姓は藤原氏、北家藤原房前の

子、魚名の後藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を秀直といふ、大友氏の出自につき疑あり、大友氏の條下を見るべし。

【入間氏】（姓）天穗日命の後なり。

【今木氏】（姓）神皇産靈命の後なり。

【今木氏】（姓）饒速日命の七世の孫、大賣布乃命の後なり。

【今居氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【今西氏】姓は渡會氏、神皇産靈尊の後なり、渡會神主より分る。

【今村氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を川村秀家の子秀村といふ。

家紋 藤の丸に發（イシダ丶ミ）花輪違

【今村氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を頼面といふ。

【今城家】姓は藤原氏、北家、藤原師實の二男家忠の後なり、花山院家より分る、立家の祖を定淳といふ、定淳の薨去は元祿元年にあり。

中山忠親―(十三代略)―爲親―爲尙―定淳(今城)―

【今城氏】姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を俊平といふ。

【今園家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男高藤より出づ、勸修寺家よ

り分る、祖を信豊といふ、始めて家を芝山と稱せり。

【今小路氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、立家の祖を源基といふ

【今出川家】　姓は藤原氏、北家藤原師輔の子、公季五世の孫、西園寺通季より分る、立家の祖を兼季といふ、兼季の薨去は北朝光明天皇の暦應四年にあり。

西園寺通季―公通―實宗―（三代略）―實兼―兼季（今出川）……

【五辻家】　姓は藤原氏、北家、藤原師實の子、家忠の後なり、花山院家より分る、立家の祖を家經といふ、家經は土御門天皇頃の人なり。　家忠（花山院）―忠宗―忠雅―兼雅―家經（五辻）……

【犬養氏】（姓）　神魂命十九世の孫、田根連の後なり。

【生石氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、祖を泰廣といふ。　猶大友氏の條下を見るべし。

【生江氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後藤原利仁の流なり、立家の祖を能範といふ。

【生田氏】（姓）　天兒屋根命十一世の孫雷大臣の後なり。

【生駒氏】　姓は藤原氏、其先、信義四代良房、大和生駒庄を領せしより子孫に至り此號あり。

【石上氏】（姓）　もと物部氏、饒速日命の

後なり、光仁天皇の頃石上宅嗣著る。

【石山家】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗の流なり、園家より分る、この家號は師香に始まる。　師香の薨去は中御門天皇の享保十九年にあり。

【石丸氏】　姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流にして大友能直の後なりといふ。

家紋丸に石の古文字　丸に揚羽蝶

【石坂氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を家季といふ。

【石原氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を基行といふ。

【石岡氏】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子良門の後なり、立家の祖を浄覺といふ。

【石尾氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子魚名の後、藤原秀郷の流なり、荒木氏義の末葉、荒木元清の三男治一のときより荒木を改めて石尾と稱す。

家紋丸に蔦　矢車　牡丹　三木瓜

治一（秀吉に仕ふ）―治昌―

氏一―氏信―氏茂―氏記―氏封……

【石作氏】　（姓）　火明命六世の孫、建眞利根命の後なり。

【石谷氏】　家傳に曰はく、もとは二階堂氏なりと、然れば、姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、政清遠江國石谷村に居りしを以て、苗字の地とす。　家紋九曜

政信―政勝……

行秋―行晴―行清―清長―政清―

【石浦氏】姓は藤原氏、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を爲輔といふ。

【石黒氏】姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、齋藤氏の支流なり。

【石部氏】（姓）渡會氏より出づ、神皇産靈命の後なり。

【石野家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子頼宗の流なり、持明院家より分る、この家號は基顯に始まる。基顯の薨去は櫻町天皇の寛保元年にあり。

基頼（持明院）―（十八代略）―基時―基顯（石野）……

【石野氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、始め貫名を稱す、立家の祖を直友といふ。

【石卷氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の後、爲憲より出づ。家紋丸に三蔦、鶴

（一に康俊北條氏政に仕ふ）

―康敬―康貞―康元―康宗―康久―

【石邊氏】（姓）大物主命の男、久斯比賀多命の後なり。

【石津氏】（姓）天穗日命十四世の孫、野見宿禰の後なり。

【石神氏】姓は藤原氏、藤原魚名の流、藤原秀郷の後なり、立家の祖を通房といふ。

【石園氏】姓は藤原氏、北家、良門の後なり、谷津五郎左衛門直村弟、土佐坊淨覺を祖とす。

【石見國造】（姓）神皇産靈命の後なり。

【石城國造】（姓）天津彥根命の後なり。

【市田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の後なり、上杉より分る、立家の祖を氏盛といふ。

【市場氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を資通といふ。

【市野氏】姓は藤原氏、近江の淺井氏の族なり、遠州長上郡市野を苗字の地とす

家紋 井桁の内鷹羽 抱橘

【市橋氏】姓は藤原氏、三條家の末流なり、美濃市橋鄕に住む、依て苗字とす、其先專順池坊の元祖なり。

家紋 菱に丸餅 重ね餅 柊葉 ◉先祖某敵城を攻むること數年終に陷る時に正月元日なりよりて鏡餅の上に菱餅三を加へ壽く此家例によりて家紋さすと

專順—長利（信長に仕ふ）—

—長勝—長政—政信—信直—直方—直擧……

【市橋氏】姓は藤原氏、もと武藤氏を稱ふ、長吉に至り市橋と改む、武藤氏は藤原魚名の後、藤原秀鄕の流なり。

家紋 菱 丸餅 柊 某—重成—長吉—（幼にして市橋長勝に養はる）

—長綱—長知—長能—長丞……

【伊木氏】姓は壹伎氏、天兒屋根命の後なり。

【伊木氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の流なり、立家の祖を伊木五郎といふ。

【伊木氏】姓は中臣氏、松尾社家の流なり、立家の祖を重舍といふ。

【伊伎氏】（姓）津速魂命三世の孫、天兒屋根命の後なり。

【伊佐氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の

子、魚名の流なり、伊達氏より分る、立家の祖を爲宗といふ。

【伊丹氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、加藤次景廉の後にして、立家の祖を雅扶といふ、攝津國河邊郡伊丹城を苗字の地とす。

家紋　藤丸に加文字　六藤　帆掛船　九字　三十六茶菊　蛇目　六出雪齊　巴　菱藤　三礎　左萬字　九曜　七曜

【伊那氏】姓は菅原氏、天穗日命のなり立家の祖を修正といふ。

【伊豆氏】姓は藤原氏、南家、武智麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を祐兼といふ。

【伊東氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の四男乙麻呂の流なり、立家の祖を祐親といふ、此苗字は伊豆國田方郡伊東の地名より來れるものなるへし、祐親は源平時代の人なり。狩野維次―家次―

―祐家―祐親―祐清（伊東）……

【伊東氏】姓は藤原氏、工藤爲憲の後、祐經の二男祐時に至り伊東に改む。

家紋　月に星九曜　庵木瓜　一文字　◉家紋に日星九曜の紋は先祖祐時のとき頼朝の命よりて千葉介常重より受くといふ

祐時―祐光―祐宗―貞祐―祐持―氏祐……

【伊倉氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を隆定の子定直といふ。

【伊賀氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、立家の祖を公季といふ。秀郷―千常―文修―

―文行―公光―公季（伊賀）……

【伊香氏】（姓）津速魂命三世の孫、天兒屋根命より出づ。

【伊勢氏】（姓）天底立命六世の孫、天日別命の後なり。

【伊藤氏】姓は藤原氏、伊東祐久の三男祐信故ありて伊藤に改む。

家紋 庵木瓜 月十曜 下藤丸

祐信（北條氏康に仕ふ）―信重―重元―重利―利賢……

【伊藤氏】姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の流なり、立家の祖を基景といふ伊藤武者景綱、伊藤五忠清等の家はこれなるへし。佐藤公清―公澄―知基―基景（伊藤）―基清

【伊蘇氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を永政といふ。

【伊蘇志氏】（姓）天道根命の後なり。

【伊志良氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、小田氏より分る、立家の祖を八田知家の子有知といふ。

【伊王野氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の流なり、那須氏より分る、立家の祖を資頼の子資長といふ。

【伊與田氏】姓は藤原氏、藤原鎌足の後胤山内經俊の末孫親正參河國伊與田邑に住せしにより在名を苗字の地とす。

【伊與部氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を實遠といふ。

【伊與部氏】（姓）高皇産靈命の後なり。

【伊與部氏】（姓）天火明命の後なり。

【伊福部氏】（姓）天火明命の後なり。

【伊久國造】（姓）天湯津彦命の後なり。

【伊甚國造】（姓）天穗日命の後なり。

【伊豆國造】（姓）饒速日命の後なり。

【伊佐世利氏】（姓）天火明命の後なり。

【伊勢麻績氏】（姓）長白羽命の後なり。

【出田・氏】姓は藤原氏、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を長坂經綱の弟經信といふ。

【出雲氏】（姓）天穗日命の子天夷鳥命の後なり。

【池田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、立家の祖を知信といふ。

【池尻氏】姓は大中臣氏、藤原氏と同祖天兒屋根命の後なり、立家の祖を助長といふ。

【池尻氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を祐朝といふ。

【池町氏】姓は渡會氏、神皇産靈命より出づ、春彦に至りこれを稱ふ。

【池屋氏】姓は藤原氏、藤原武智麻呂の後、工藤狩野等の族なり。　立家の祖を清章といふ。

【池越氏】姓は藤原氏、藤原武智麻呂の後、工藤狩野等の族なり、立家の祖を入江清定の子景兼といふ。

【池後家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を共孝といふ。　共孝の

薨去は靈元天皇の天和三年にあり。

【芋淵氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家より出づ、那須氏より分る、立家の祖を佐島泰隆の弟幹隆といふ。

【忌部氏】（姓）高皇產靈命の子、天太玉命の後なり。

【和泉氏】姓は藤原氏、北家、秀鄕の流なり、泉泰衡の弟、三郎通衡を祖とす。

【岩本氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を良範といふ。

【岩田氏】姓は藤原氏、藤原師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を長憲といふ。

【岩田氏】姓は中臣氏天兒屋根命の後なり、立家の祖を家親といふ。

【岩田氏】姓は大江氏、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根の後なり、立家の祖を政廣といふ。猶大江氏の條下を見るへし

【岩尾氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を景家といふ。

【岩出家】姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を隆通といふ。

【岩倉氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、上杉氏より分る、立家の祖を朝方といふ。

【岩間氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の後秀鄕の流なり、立家の祖を盛通といふ。

【岩室氏】姓は藤原氏、藤原秀鄕の後なり、立家の祖を俊行といふ。

【岩淵氏】姓は渡會氏、神皇產靈命の後なり、彥章に至りこれを稱ふ、

【岩野氏】姓は藤原氏、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を朝氏といふ。

【岩野氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を重兼といふ。

【岩藏氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、葉室家より分る、これ四條家の別號なり。

【岩城氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を經隆といふ

【狗月氏】姓は藤原氏、藤原魚名の後、秀鄕の流なり、立家の祖を俊忠といふ。

【板戸氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり、立家の祖を板戸三郎某といふ。

【板津氏】姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を成景といふ。

【勇山氏】（姓）饒速日命の後なり。

【茨城氏】（姓）天津彥根命の後なり。

【家內氏】（姓）高皇產靈命の後なり。

【家田氏】姓は荒木田氏、津速魂命の後なり。

【泉氏】姓は藤原氏、藤原魚名の後、利仁の流なり、齋藤の族、立家の祖を富樫家經の弟高家といふ。

【泉氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の

子、魚名の後、秀郷の流なり、祖を忠衡といふ。忠衡は秀衡の子なり。

【泉氏】姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【泉氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を俊輔といふ。

【泉田氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を篠嶋資氏の子資清といふ。

【庵原氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の後胤頼清五世の孫、俊忠駿河國庵原郡に住し在名を苗字の地とす。家紋舞鶴

【壹岐氏】(姓)天兒屋根命十一世孫、雷大臣の後なり、伊伎氏と仝し。

【飯河氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る。豊田光廣二男資光能登國に住し、のち美濃國岩瀧郷下川飯河庄に住し飯河を稱す。家紋洲濱 九曜 越前笠

資光……吉胤(足利家に仕ふ)……盛定—盛之—盛政—盛澄……

【飯田氏】姓は藤原氏、傳へいふ、伊達氏より出づ、子孫伊達郡桑折邑に住み桑折を稱へ、宗季の次子宗親、仝郡南飯田邑に住し、在名を苗字の地とす。

【飯塚氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流にして佐野氏の支流なりと、下野國佐野國飯塚村を苗字の地とす。

【齋部氏】(姓)高皇產靈命の子、天太玉命の後なり。大同の頃、齋部廣成あり著

家紋丸に揚羽蝶 左三巴

はる、もと忌部氏と稱せり。

【稲生氏】 姓は藤原氏、式家、宇合の末流なりと、平賀俊親の孫、光定を立家の祖とす、尾張國春日井郡稲生村を苗字の地とす。 家紋七星(一に丸内七星)扇の骨三本

【稲生氏】 姓は物部氏、饒速日命の後胤物部守屋の後なり、和田氏より出づ。 家紋丸に蔦三扇

【稲毛氏】 姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を職泰といふ。 武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【稲用氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、工藤、狩野の族、立家の祖を祐盛といふ。

【稲富氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を頼貞といふ。

【稲津氏】 姓は藤原氏、北家藤原魚名の後、利仁の流なり、齋藤より分る、立家の祖を實澄といふ。

【稲島氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周より出づ、立家の祖を武者行綱の弟友行といふ。 武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【稲澤氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を資家といふ。

【稲葉氏】 姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり長谷川長次の四男長安二男昌勝より出づ。 家紋三頭左巴上藤

昌勝―勝信―敬勝―敬長―氏勝……

【櫟木氏】 姓は渡會氏、神皇產靈尊の後なり、渡會神主より分る。

【櫟野氏】 姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を村山家康の弟親家といふ。

【礒部氏】 (姓) 渡會氏より出づ、神皇產靈尊の後なり。

【礒田氏】 姓は藤原氏、北家、藤原隆家の流なり、菊地武重の弟內膳正重正を立家の祖とす。

【礒谷氏】 姓は藤原氏、鎌足の後裔、淺井政廣次男政之、外家礒谷石見守某の苗字を冒して礒谷と稱す。 家紋丸に揚羽蝶

【礒貝氏】 姓は藤原氏、北家、秀鄉の流なり、大友氏泰二男氏重礒貝を稱す。

【諫早氏】 姓は藤原氏、北家、藤原秀鄉の流なり、季俊のとき國分を稱し、家益のとき龍造寺を名乘り、家晴に至りて諫早に改む、筑後國諫早を苗字の地とす。

うの部

【卜部氏】 (姓) 藤原氏と同祖、天兒屋根命の後なり。 藤原鎌足の父を御食子といひ、其弟に國子あり、國子四代の孫、諸魚卜部流の祖なり。

可多能祐大連―國子大連―國足―
―意美麻呂―清麻呂―諸魚(卜部)…

【上木氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後、工藤狩野等の族なり。

【上田氏】　姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を佐泰といふ。　猶大江氏の條下を見るべし。

【上田氏】　姓は大伴氏、高皇産靈命の五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を貞永といふ。

【上田氏】　姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を上田三郎といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【上田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の後なり、宇都宮氏より分る、立家の祖を小田治光の子、治知といふ。

【上杉氏】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤の後なり、勸修寺家より分る、立家の祖を重房といふ、犬懸、山内扇谷三家に分れ、足利時代の歴史上、有名の氏族なり、其食邑丹波國上杉莊を苗字の地とす。　家紋竹に飛雀 菊桐　◉菊桐は謙信參內のとき勅許ありしによりこれより桐を以て家紋に並べ用ふといふ

藤原良門—高藤—定方—朝頼—爲輔……
　說孝—(六代略)……上杉重房—頼重—
　　重顯—朝定—顯定(扇谷)—氏定—
　　　持定—持朝—顯房—定政—朝良……
　　憲房—憲藤(犬懸)—朝宗—氏憲……
　　憲顯—憲方(山內)—憲定—憲基—
　　　憲實—房顯—顯定—憲房—憲政—
　　　　景虎……

景虎は長尾爲景の二男なり、上杉憲政より上杉の稱號及び管領職を讓らる、これより長尾を改めて上杉と稱し、平氏を改

めて藤原氏とす。

【上野氏】姓は藤原氏、藤原冬嗣の子、良門の後なり、立家の祖を井伊行直の弟直助といふ。

【上野氏】姓は物部氏、饒速日命の子、可美眞手命の後なり。

【上野氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を忠康といふ

【上野氏】姓は伴氏、天押日命三代の孫道臣命の後胤にして、伴資兼の後なり。

家紋 横木瓜下に二つ引龍 十三葉裏菊 横木瓜 丸内二引龍

【上野氏】姓は藤原氏、北家、高藤の後なり、上杉重房の後胤、伊豫守秀俊の後なり

家紋 左巴 七曜

【上野田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を忠俊といふ。

【氏家氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の後なり、宇都宮氏より分る、立家の祖を信房といふ。 下野國鹽谷郡に氏家の城趾あり、これ此氏の居城地にして其苗字の由つて來れる所なり。

【牛込氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、足利成行の男、重俊上野國大胡を領せしより大胡を稱し、重行のとき武藏國牛込に移り住し、男勝行在名を苗字の地とす。 家紋缺

重俊—成家—俊行…勝行—勝重—俊重…

【内田氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を清實といふ。

【内田氏】（姓）饒速日命六世の孫、伊香色雄命の後なり。

【内田氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を資知といふ。

【内田氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を宗朝といふ。

【妥女氏】（姓）饒速日命六世の孫、大水口宿禰の後なり。

【臼戸氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を朝村といふ。

【臼杵氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、大伴氏より分る、立家の祖を時直といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【臼杵氏】姓は大神氏、大國主命の後なり、立家の祖を大神惟基の男惟盛といふ

【宇井氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を良圓といふ。

【宇井氏】姓は穗積氏、饒速日命の後なり。

【宇佐氏】（姓）高皇產靈命の後なり。

【宇田氏】姓は藤原氏北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を片田賴基弟成貞といふ。

【宇利氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を資成といふ。

【宇治氏】（姓）饒速日命六世の孫、伊香

色雄命の後なり。

【宇野氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を泰近といふ。

【宇津氏】姓は藤原氏、北家、藤原道兼の後なり、立家の祖を道意といふ。

【宇田川氏】姓は藤原氏、北家高藤の後、上杉重房の後裔、朝昌男、幼名千代丸故ありて武州荏原郡大井實相寺に入り、出家して東榮坊と稱し、後還俗して宇田川圖書亮親定と改む。　家紋丸の内抱柏 龜線

【宇佐美氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の四男、乙麻呂の後なり、工藤狩野等と全族、立家の祖を祐茂といふ、伊豆國田方郡宇佐美を苗字の地とす。

家紋三瓶子内に橘 丸に根なし橘　狩野維次—家次—
—祐次—祐茂(宇佐美)……長二(家康に仕ふ)……

【宇都野氏】もとは、宇都宮と號すと、然れば藤原道兼の後か、傳へきく道昌其子辰若を携へ、三河國松平に至り信光に仕ふ辰若入となり八郎右衛門と稱す、これ正勝の先祖なりと。　家紋三頭左巴 鳥居井垣

正勝(家康に仕ふ)正成—正信—正恒—正富　正季……

【宇治部氏】(姓)饒速日命六世の孫、伊香色雄命の後なり。

【宇都宮氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼より出づ、立家の祖を宗圓といふ門葉頗る廣し。

藤原道兼—兼隆—兼房—宗圓—宗綱—
—朝綱—成綱……

【宇都宮氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を爲光といふ。

【畝尾氏】　（姓）　天辭代命の子、國辭代命の後なり。

【馬杉氏】　姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を中井實景の弟爲賴といふ。

【浦田氏】　姓は荒木田氏、津速魂命の後なり。

【浮穴氏】　（姓）　移受牟受比命の後なり。

【梅園家】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、公季の後なり、西園寺家より分る、立家の祖を實清といふ、實清の薨去は後西院天皇の寛文二年にあり。　西園寺通季―
―（五代畧）―橋本實俊―（七代畧）―實清（梅園）…

【梅小路家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男高藤の後なり勸修寺家より分る、立家の祖を定矩といふ、定矩の薨去は東山天皇の元祿八年にあり。

【梅小路家】　姓は藤原氏、同上、高藤の後なり、葉室家より分る、この家號は宗隆より始まる。

【植田氏】　姓は大神氏、大國主命の後なり、立家の祖を阿甯惟季の弟季定といふ。

【菟狹氏】　（姓）　高皇產靈命の孫、宇佐都彥命の後なり。

【菟道氏】　（姓）　饒速日命の後なり、宇治氏に同し。

【裏松家】　姓は藤原氏、北家、藤原內麻呂

の子、眞夏の後なり、日野家より分る、立家の祖を資清といふ、資清の薨去は、靈元天皇の寛文七年にあり。

豊光(烏丸)—(五代畧)—光賢—資清(裏松)……

【裏辻家】　姓は藤原氏、北家藤原師輔の子、公季の後なり、西園家より分る、立家の祖を季福といふ、季福の薨去は後光明天皇の正保元年にあり。

正親町實明—(十代畧)—秀康—季福—(裏辻)……

【鵜本氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、大友氏より分る、親矩を祖とす。　猶大友氏の條下を見るべし。

【鵜殿氏】　姓は穗積氏、饒速日命の後なり。

【鵜殿氏】　姓は藤原氏、藤原忠平の子、師平の後なり、熊野別當湛增の末流にして數代三河國柏原に住すといふ。

家紋　獅子牡丹　蔦　丸に三石疊

某(一に長祐氏眞に仕ふ)—長忠—長次—長堯—長寛

えの部

【江口氏】　姓は藤原氏、北家、秀郷の流なり、其先水谷正村の支族にして水谷を稱し、輝久のとき江口に改む。

家紋　三頭左巴　水文字三

【江戸氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後藤原秀郷の流なり、立家の祖を通高といふ、

【江原氏】　姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の

後なりと。　家紋隅切角の内に七梶葉一枚 丸に二葉柏の間に鏑矢　◉家傳に杵の紋は先祖利全軍功あり東照宮より戦場に於て柏葉に鏑矢を添へられ子孫長く家紋とすべしとて與へらるよりてこれを用ふ

利全—金全—宣全—全村—全玄—富親……

【朴井氏】(姓)　榎井氏に同し榎井氏の條下を見よ。

【役氏】(姓)　高皇産靈命の後なり。

【荏原氏】姓は藤原氏、北家藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を伊王野資長弟、朝資といふ。

【笑原氏】(姓)　饒速日命の後なり。

【榎本氏】(姓)　高皇産靈命の五世の孫天押日命の後なり。

【榎本氏】姓は穗積氏、饒速日命の後なり。

【榎下氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の後なり、上杉氏より分る、立家の祖を上杉憲清の男憲直といふ。

【榎井氏】(姓)　饒速日命の四世の孫、大矢口根大臣命の後なり。

【榎室氏】(姓)　天火明命の後なり。

お の 部

【乙石氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり。

【大山氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり、立家の祖を景綱といふ

【大木氏】姓は三枝氏、野呂守將の後裔なり、三枝親實六代の後、佐渡守親光武田信虎に仕へ、甲斐國西郡大木郷に住せるにより在名を苗字とす。　家紋丸に梶葉二引

【大方氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を政家といふ。

【大友氏】 其系圖に異説あり、尊卑分脈によれば、姓は藤原氏、北家、魚名の後、藤原秀郷の流にして、立家の祖能直とあり。又諸家系圖纂に出てたる系圖によれば藤原道長の子、長家の後、立家の祖を能直となす。然るに又大友能直、實は源頼朝の子、母は大友四郎大夫經家の娘となすとあり。右の内有力なる説は、秀郷流となすと、長家流となすとの二なり。而して二説とも積極的に其眞を證明すべき材料に乏し。故に本書には、比較的信をおくべき尊卑分脈の説により、秀郷流となす。 家紋 五七桐 杏葉

秀郷―千常―文修―文行―修行(近藤)―
　├行景―景親―景頼―能成―能直(大友)
　└親季―頼泰―親言―貞親―貞宗―氏泰

【大内氏】 姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、結城廣綱の子、新左衛門宗重を立家の祖とす。

【大平氏】 姓は藤原氏、北家藤原兼家の子、道兼の流なり、立家の祖を親朝といふ。

【大竹氏】 姓は藤原氏、藤原良方の後なり、立家の祖を有政といふ。

【大宅氏】 (姓) 饒速日命五世の孫、大綜杵命の後なり。

【大見氏】 姓は藤原氏にて、藤原魚名の流、齋藤氏の分流なり、立家の祖を松山宗

保の子、範廣といふ。

【大田氏】姓は藤原氏、南家、藤原、武智麻呂の流、工藤狩野等の族なり、立家の祖を家清といふ。

【大田氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を公定といふ。

【大谷氏】姓は藤原氏、藤原魚名の流にして、齋藤氏の分流なり、立家の祖を竹田頼成の子、基家といふ。

【大伴氏】（姓）高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、子孫の分岐甚だ多く大伴氏より出てたる複姓には、大伴大田氏、大伴山前氏、靫大伴氏、大伴行方氏、大伴莂田氏、大伴柴田氏、大伴白河氏、大伴亘理氏、大伴安積氏、大伴山田氏、大伴宮城氏、大伴櫟津氏、伴良田氏等あり。大伴氏は上世より中世の始め頃まで、極めて有名なる氏族にして、大伴武日、室屋、談、金村、狹手彥を始め、族人、家持等、著名の人物頗る多し。

【大枝氏】（姓）土師氏と同祖、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり。

【大江氏】（姓）同上、天穗日命の後なり始め大枝氏と稱す、前條を見よ。然るに大江氏の系圖に異說あり、皇胤紹運錄には平城天皇の皇子、阿保親王の子、大江音人となす、而して其註に先祖、本姓、土師、延曆天子、外祖たるを以て改めて大枝音人となす。又大枝を改めて大江と爲すとあり、これ平城天皇より出づとなす說に

疑を挿めるなり。又公卿補任には、大枝音人正六位上本主の男、母は中原氏、阿保親王の待女と見ゆ。而して大日本史には、音人の母中原氏、阿保親王に嬖せられ孕むことあり、本主に嫁せしかと疑ふ、又大江氏系圖には、『平城天皇―阿保親王―本主(賜二大枝姓一)―音人』とあり、一定せず要するに、天穂日命より出てたる大枝氏あるは、新撰姓氏錄の記載既に明かなり唯疑の點は、大江音人が大枝氏より出でたるものなりや、又は阿保親王より出でたるものなりやにあり。然るに今明證なければ充分考ふるを得ず、故に本書に於ては大枝氏の本系たる、天穂日命の後となし茲に入れ、皇別の部に入れず。然れども猶兩說を存し、參考に供することゝせり、猶後、編神別大江氏の部を見よ、

【大村氏】(姓) 神魂命五世の孫、天道根命の後なり。

【大村氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長良の流、長良四代の孫、伊豫掾藤原純友が後裔なり、これ九州に於て有名なる大村氏なり、肥前國東彼杵郡大村鄕を苗字の地とす。家紋瓜葉

藤原長良―遠經―良範―純友…直澄(大村)…純忠―喜前―純頼―純信―純長…(肥前大村)

【大室氏】姓は藤原氏、魚名の後なり、立家の祖を關戸賴景弟景村といふ。

【大宮家】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男末茂の後なり。四條家より

分る、立家の祖を隆綱といふ。

【大宮家】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、公季の流なり、西園寺家より分る、立家の祖を季光といふ、季光は卒去は靈元天皇の貞享元年にあり。

西園寺通季―(十八代畧)―公益―季光(大宮)……

【大家氏】　(姓)　大中臣氏と同祖、天兒屋根命の後なり。

【大家氏】　(姓)　神皇産靈命の後なり。

【大庭氏】　(姓)　神魂命八世の孫、天津麻良命の後なり。八咫鏡を作りを以て名を知らる。

【大原氏】　姓は大伴氏、高皇産靈命の孫天押日命の後なり、立家の祖を貞景といふ。　家紋丸に二引両　三葉橘

【大原氏】　姓は藤原氏、工藤爲憲の流なり、天野長重五男長行、大原作久右衛門某の家を繼ぎ、改めて大原を稱す。

家紋丸に三本松三日月　井桁の内花菱

長行―親長―長規―昌應―昌顯……

【大草氏】　姓は藤原氏、北家、房前の後、忠平の流なり、忠平九代御神本國兼より出づ、立家の祖を兼利といふ。

【大草氏】　姓は藤原氏、もと大江廣元の末流、長田廣正遠州新貝村に居住し藤原氏に改む、政次のとき家康より苗字大草を與へらる。

【大神氏】　(姓)　素戔嗚命の子、大國主命の後なり。

【大神氏】肥は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、立家の祖を朝直といふ。猶大友氏の條下を見るべし。

【大和氏】（姓）神知津彦命より出づ。

【大鳥氏】（姓）天兒屋根命の後なり。

【大野氏】姓は大神氏、大國主命の後なり、立家の祖を臼杵維盛の弟基平といふ。

【大森氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子。伊周の後なり、立家の祖を親家といふこれ北條早雲に滅されたる大森藤頼の家なり、駿州鮎澤庄大森を苗字の地とす。

家紋 二頭左巴 五七桐（◉桐紋は關東御所より賜りたるなりと）

伊周—忠親—惟康—親康—親家—頼忠……頼直—頼隆—頼重……

【大條氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、伊達氏より分る、立家の祖を植宗の弟景宗の子景頼といふ、伊達郡大條邑を苗字の地とす。

【大岡氏】姓は藤原氏、北家、藤原道家の後なり、立家の祖を忠教といふ、忠教三河國八名郡宇利郷に居住せしとき大岡と稱す、これ徳川八代將軍の時、良判官として知られたる大岡忠相等の家なり。

家紋 把稲ノ下當離（一に束稲下間狭） 丸に劍輪違 四銀杏

忠教—喜吉—忠勝—忠政—忠行……

【大桑氏】姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を林光家の子、利光といふ。

【大賀氏】姓は大神氏、大國主命の後な

り、立家の祖を惟重といふ。

【大貞氏】（姓）饒速日命の後なり。

【大阪氏】（姓）神皇産靈命の後なり。

【大貫氏】（姓）津速魂命の後なり。

【大沼氏】姓は藤原氏、藤原伊周の流なり、立家の祖を親直といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【大胡氏】姓は藤原氏、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を薗田成實弟重俊といふ。

【大屋氏】姓は藤原氏、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を秀忠といふ。　家紋下藤丸釘抜

【大浦氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を家高といふ。

【大淵氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を秩父行高の男高重といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【大澤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、立家の祖を重景といふ。

【大澤氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗の流なり、立家の祖を基久といふ丹波國大澤を苗字の地とす。

【大槻氏】姓は藤原氏、秀鄕の流なり、立家の祖を松田有經の子高義といふ。
家紋丸に杏葉角大文字　浮泉花

【大濱氏】姓は藤原氏、藤原伊周の流なり、立家の祖を義助といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【大熊氏】姓は神氏、其先信濃國諏訪郡

大熊村に住せしを以て在名を苗字とす
もと清和源氏なりしが故ありて神氏に
改むといふ。家紋葉釼梅輪内抱銀杏

【大類氏】姓は藤原氏藤原伊周の流な
り、立家の祖を武者行綱の男行義といふ
武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【大縣氏】(姓)天津彥根命の後なり。

【大中臣氏】(姓)藤原氏と同祖、天兒屋根
命の後なり。始め中臣氏を稱す、清麻呂
の時に至り、姓に大の字を賜はり、大中臣
氏を稱す、門葉頗る廣し。清麻呂薨去の
年は、桓武天皇の延曆七年にあり。

可多能祜大連—國子大連—國足—
—意美麻呂—清麻呂(大中臣)今麻呂……

【大久保氏】姓は藤原氏、北家、藤原道兼の
流、宇都宮氏より分る、これ德川氏に仕へ
し有名なる大久保氏の家なり、三河國大
窪を苗字の地とす。

家紋上藤丸に大文字鳥居左巴 ⦿左近將監泰藤のとき家紋は左巴を用ひ鳥居を副紋とすのち藤の丸に眞大文字に改め鳥居左巴を以て副紋とす康任の時より草書の大文字を用ひ嫡庶を分つ

宇都宮泰藤六代孫忠茂—忠俊(大久保)
—忠員(大久保)—忠世—忠鄰—忠常—
—忠職—忠朝—忠增……(相模小田原)⦿家紋上藤の内古文字の大文字
—教寬……(同荻野山中)⦿家紋丸に古文字の大文字
—忠爲—忠知—忠高—常春……(下野烏山)⦿家紋上藤
丸に釼大文字九曜 ⦿釼大文字の紋は忠知の時より用ひ九曜は忠高の時よりこれを用ふと

【大久保氏】姓は藤原氏、藤原利仁の流な
り、加藤景廉より出で加藤を稱す、忠景と
き外戚の號に改め大久保を稱し、忠世の

族臣となる。

【大河原氏】　姓は藤原氏、藤原伊周の流なり、立家の祖を左馬允經重の男行家といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【大河原氏】　姓は藤原氏、もと楠氏にして大河原有重後醍醐天皇に從ひ、笠置の城に籠る、其後裔正良のとき柴田を稱し藤原氏となり、大河原に復す。

家紋　鳥居の内に割劔花菱　丸に割劔花菱
　　　丸に鳥居　三菱の内に割劍花菱

【大河戸氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を行光といふ。

【大河邊氏】　姓は藤原氏、藤原秀鄕流のなり、立家の祖を行方といふ。

【大和田氏】　姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を俊證といふ。

【大隅隼人】　（姓）　火闌降命の後なり。

【大曾禰氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、安達氏より分る、立家の祖を盛長の子時長といふ。

【大世古氏】　姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【大三輪氏】　（姓）　大國主命の後なり、大神氏に同し。

【大島國造】　（姓）　天穗日命の後なり。

【大炊御門家】　姓は藤原氏、北家藤原道長四代の孫、忠成これを稱す、忠成は鳥羽天皇頃の人なり。

藤原道長―長家―忠家―俊忠―
―忠成(大炊御門)―光能……

【大炊御門家】姓は藤原氏、北家、藤原師實の子、經實より出づ。經實は【崇德天皇の天承元年に薨したる人なり。

【大谷木氏】姓は藤原氏、其先毛呂より出づ、武藏國大谷木を苗字の地とす。

家紋 丸に二雁金 丸に左萬字

【大縣主氏】(姓)天津彥根命の後なり。

【大田祝山氏】(姓)天枝命の子、天爾支命の後なり。

【大伯國造】(姓)神皇產靈命の後なり。

【大村直田氏】(姓)同上、神皇產靈命の後なり。

【大椋置始氏】(姓)同上、神皇產靈命の後なり。

【大炊刑部氏】(姓)天火明命の後なり。

【太田氏】(姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を行則といふ。

【太田氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、祖を景直といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【太田氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、結城氏より分る、立家の祖を宗重といふ。

【太田氏】姓は藤原氏、藤原魚名の後、利仁の流なり、立家の祖を爲則といふ。

【太田氏】、姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、足利有綱の四男太田秀頼より出づといふ。家紋 井桁の内丁違 鷹羽丸に桔梗

秀頼……信盛(家康に仕ふ)—

—盛次—盛征—盛平—盛照—盛勝……

【凡海氏】(姓)海神豐玉彥神の子、穗高

見命の後なり。

【凡河内氏】（姓）天津彦根命の後なり。

【巨椋氏】（姓）神魂命の後なり。

【正親町家】（姓）は藤原氏、藤原公季より出づ、西園寺家より分る、立家の祖を實明といふ、實明の薨去は、北朝崇光天皇の觀應二年にあり。

西園寺通季―（四代畧）―公守（洞院）―
　實明（正親町）……

【正親町三條家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、冬季の流なり、三條家より分る、立家の祖を公氏といふ、公氏の薨去は四條天皇の嘉禎三年にあり。

三條實行―公教―實房―公氏（正親町三條）―

【刑部氏】（姓）火明命十七世の孫、屋主宿禰の後なり。

【忍壁氏】（姓）饒速日命の後なり。

【押垂氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、野木時基の子、十郎重基を祖とす。

【押小路家】姓は藤原氏、北家、藤原公季の流なり、三條家より分る、立家の祖を公音といふ。公音の薨去は中御門天皇の享保元年にあり。

公時（三條西）―（七代畧）―公勝―
　公音（押小路）……

【音羽氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、蒲生氏の族、秀順これを稱ふ。

【恩智氏】（姓）高魂命の子、伊久魂命の

後なり。

【息津氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流、興津氏と同一のものなるべし、興津氏參照。

【荻生氏】 姓は物部氏、もと清和源氏加茂義綱の後胤なり、子孫に至り荻生を稱し、物部氏に改め景明に至り故ありて尾崎を稱し、のち荻生に復す。 家紋番矢釘拔

【奥氏】 姓は大伴氏、天忍日命の後なり、立家の祖を岩尾景家の弟家行といふ。

【奥山氏】 姓は藤原氏、工藤祐經の男、祐長より九代の孫、工藤和能、武田家に仕ふ其男重和遠江國奥山に住せるを以て苗字の地とす。 家紋横木瓜十曜(一に庵木瓜)

重和―重次―安重―重正―友治―和佐―

和隆……

【奥山氏】 姓は藤原氏、北家、利仁の流なり、遠山直景の三男三郎景政を立家の祖とす。

【奥平氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を定政といふ其先、村上源氏、赤松氏より養子せるものゝ故に村上源氏の方にも擧げあり。

【意岐國造】 (姓) 大國主命の後なり。

【落合氏】 姓は藤原氏、もと清和源氏にして木曾義仲の後胤、落合兼行の末葉なり、後に藤原氏に改むといふ。

家紋丸に一文字九曜 道久(家康に仕ふ)―道次―道勝―

―道直―道富……

【興津氏】姓は藤原氏、北家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤狩野等の族立家の祖を維道といふ、駿河國興津を苗字の地とす。家紋九曜 銀花菱 八劔

維道（船越清房の男）―清道―維房―國房―國清……

【興野氏】（姓）饒速日命の後なり。

【興道氏】（姓）高皇產靈尊の後なり、門部氏より出づ。

【隱岐氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長良の流なり。

【隱曾氏】姓は三枝氏、天津彥根命の後ならん。

第二章　頭音か行に屬する姓氏

かの部

【川上氏】（姓）火明命の後なり。

【川井氏】姓は藤原氏、南家武智麻呂の後胤なり、宗久遠江國川井村に住せしより在名を苗字の地とす。

家紋 黑餅内に鳩酸草 上藤丸内に鎌

通憲―宗忠―宗久……宗俊―忠吉―久成―久定（義元に仕ふ）久吉……

【川口氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり。立家の祖を川口次郎大夫といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【川北氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、工藤氏より分る、立家の祖を光直といふ、伊勢國川北を苗字の地とす

【川村氏】姓は藤原氏、藤原秀郷より出づ、河村秀高九代の孫、重忠織田信長に仕

ふ。家紋菊桐 左三巴 藤丸 橘蜘蛛手 輪違の

重忠—重久—重正—秀郷—賢親—富昭……

【川村氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、波多野義通の二男、川村高義の後なり。家紋丸に鍬葵

【川田氏】姓は渡會氏、神皇產靈命の後なり、渡會神主より出づ。

【川枯氏】(姓) 阿目加伎表命の後なり。

【川跨氏】(姓) 津速魂九世の孫、梨富命の後なり。

【川瀨氏】(姓) 神魂命五世の孫、天道根命の後なり。

【川邊氏】姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【上山氏】姓は大江氏、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を泰經といふ。

【上原氏】姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり、信濃國諏訪郡上原の地を苗字の地とす。

【上村氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を頼村といふ。

【上泉氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、宇都宮氏より分る、立家の祖を頼基といふ。

【上曾氏】姓は藤原氏同上、道兼の流なり、宇都氏より分る。

【上妻氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の後なり、高木氏より分る、立家の祖を顯定

といふ。

【上條氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり宇都宮氏より分る、立家の祖を成綱の男時綱といふ。

【上條氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男高藤の流なり、上杉氏より分る、立家の祖を景義といふ。

【上總氏】（姓）天穂日命の後なり。

【上遠野氏】姓ば藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、小山氏より分る、立家の祖を政朝といふ、奥州菊上遠野を苗字の地とす。

【上三河氏】姓は藤原氏、藤原道兼の流宇都宮氏より分る、立家の祖を時綱弟頼業といふ。

【上冷泉家】姓は藤原氏、藤原道長の子、御子左長家の裔、冷泉爲相の後なり立家の祖を爲之といふ。爲之は足利初代の人なり。

【上海上國造】（姓）天穂日命の後なり。

【方保田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を重兼といふ。

【刈敷氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の後なり、狩野氏より分る、立家の祖を廣榮といふ。

【河原林氏】姓は菅原氏、菅原道眞の男、瀧左馬頭良行（河原林と稱す）の末流なり、河原林兵庫吉成を祖とす。家紋蔦柏

【片山氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を秩父行重の

男、行村の弟行時といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【片山氏】姓は藤原氏、藤原道長の子、頼通の流なり、立家の祖を師綱といふ。

【片平氏】姓は藤原氏、伊東祐氏次男綱成を祖とす、奥州安積郡菱沼庄山井郷片平に住す、依て苗字の地とす。

【片角氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を隆親といふ。

【片田氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を行宗といふ。

【片原氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を勝憲といふ

【片倉氏】姓は藤原氏、加藤景繼美濃國片倉郷に住し、在名を苗字とす。

【片賀瀬氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を直時といふ。

【甲斐氏】姓は藤原氏にて、藤原隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を式本といふ。

【甲賀氏】姓は大伴氏、高皇産靈命五世の孫、天押日命より出づ、大伴狹手彦の後なり、立家の祖を善頼といふ。

【甘露寺家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を爲輔といふ、爲輔の薨去は華山天皇の寛和二年にあり。

【加江氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を能隆の子隆時といふ。

【加納氏】姓は藤原氏、もと清和源氏、松平久親（泰親の庶子）の後胤なり、代々三河國加茂郡加納村に住す、久直のとき加納を稱へ、藤原氏に改む。家紋丸に違輪寶（違相）

【加藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、立家の祖を景道といふ、其加賀介たりしにより、加藤と號す。

叙用（齋藤）―吉信―重光―貞正―正重―景道（加藤）

猶、徳川時代の大名として有名なるをあぐれば

加藤光泰―貞泰―泰興―泰義（伊豫大洲）◉家紋蛇目　上藤 鰹本
光直―泰直―泰昭……（同新谷）◉家紋蛇目　上藤

加藤嘉明―明成―明友……（近江水口）◉紋蛇目　下藤

【加々爪氏】姓は藤原氏、北家藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を政定といふ、政定今川範政の猶子となり、これより上杉を改めて加々爪と稱す。家紋竹の丸に舞雀 九曜 五三桐

政定（上杉滿定の男）―忠定……定澄―直澄―直清……

【合志氏】姓は藤原氏、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を經明といふ。

【角折氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり立家の祖

を茂綱といふ。

【巫部氏】（姓）饒速日命の後なり。

【苅谷氏】姓は菅原氏、天穂日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、久松氏より分る、立家の祖を吉重といふ。

【河口氏】姓は藤原氏、藤原魚名の後、利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を竹田基康の弟範員といふ。

【河井氏】姓は藤原氏、北家藤原冬嗣の子、良門の流なり、立家の祖を直氏といふ

【河田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の流なり、那須氏より分る、立家の祖を資成といふ。

【河田氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の流なり、伊東祐親の後胤、越中國松倉庄金山の城主河田長親の後なり。家紋庵木瓜 五三桐

長親―泰親（上杉謙信に仕ふ）―政親―親重―親風―親良……

【河合氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を清經といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【河合氏】姓は藤原氏北家、藤原房前の子、魚名の後藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を吉原則重の子助宗といふ。

【河村氏】姓は藤原氏、藤原魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、立家の祖を波多野義通の弟秀高といふ。家紋丸に抱柏 根竹打違

【河尻氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、工藤狩野等の族、立家の祖を

祐景といふ。

【河島氏】　姓は藤原氏、藤原魚名の後、利仁の流、齋藤の分派なり、立家の祖を都筑利用の子利繼といふ。

【河津氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、立家の祖を祐親といふ、伊豆國田方郡河津庄を苗字の地とす。

狩野維次―家次―祐家―祐親(河津)……

【河津氏】　姓は藤原氏にて、藤原魚名の後、利仁の流なり、加藤氏より分る、

【河崎氏】　姓は渡會氏、神皇産靈神の後なり、立家の祖を守康といふ。

【河崎氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を忠言といふ。

【河鰭氏】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、公季の後なり、三條家より分る、立家の祖を公清といふ、公清の薨去は後堀河天皇の安貞二年にあり。

滋野井實國―公清(河鰭)……

【河原田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を朝綱といふ。

【河原林氏】　姓は菅原氏、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を良行といふ。

【河郡名氏】　姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流、宇都宮氏より分る、立家の祖を田中知氏の弟知胤といふ。

【門川氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤氏の族、立家の祖を祐景といふ。

【門部氏】（姓）牟須比命の兒、安牟須比命の後なり。

【金丸氏】姓は藤原氏、北家、長家の流なり、那須資藤の子、資國を立家の祖とす。

【金山氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を時祐といふ。

【金屋氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名より出づ、少式氏より分る、立家の祖を資治といふ、但これを以て藤原道長の子、長家の後となす說あり、猶少式氏の條下を見よ。

【幸賀氏】姓は藤原氏、藤原道兼の流、宇都宮氏の族なり、立家の祖を親時といふ。

【幸島氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を下河邊行平の子、朝行といふ。

【狩野氏】姓は藤原氏、南家、武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、立家の祖を維次といふ、其族頗る多し、伊豆國田方郡狩野を苗字の地とす。

工藤爲憲―時理―維景―維職―維次（狩野）―家次

【狩野氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の後なり、工藤爲憲の後裔、二階堂行政より出づ、伊豆國加茂郡狩野村を苗字の地とす、祖狩野景信永享の頃將軍義教に仕へ近侍となる。 家紋 丸に三矢 劍三菱 三桔梗

二階堂行政……景信（義教に仕ふ）━正信（義政に仕ふ）┳元信━宗信━直信（弟）━重信━光信
┣孝信┳守信（探幽）
┗尙信━常信━周信━古信━玄信……

【柿原氏】　姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より出づ、立家の祖を能行といふ。

【香取氏】（姓）　津速魂命の後、中臣氏の族なり。

【柏尾氏】　姓は三枝氏、天津彦根命の後なるべし。

【柏原氏】（姓）　饒速日命六世の孫、伊香色雄命の後なり。

【風早氏】（姓）　饒速日命の後なり。

【風早家】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、公季の後なり、閑院家姉小路より分る立家の祖を實種といふ、實種の薨去は中御門天皇の寶永七年にあり。

姉小路公宣━實尙━公朝━實次┳公夏━實廣━公景━實種（風早）……

【海住山家】　姓は藤原氏、北家、冬嗣の子、良門の二男、高藤の後なり、勸修寺家より分る、勘解由小路家の一名なり。

【海東氏】　姓は大江氏、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を忠成といふ。

【紙屋川家】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、立家の祖を顯氏といふ。

顯家(九條)─知家
　　└顯氏(紙屋河)─重氏─顯教…

【烏丸家】姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏より出づ、日野家より分る、立家の祖を豐光といふ、豐光の薨去は後花園天皇の永享元年にあり。

日野資康─豐光(烏丸)─資任─冬光─
　　　　　　　　　　　　　└光康……

【烏丸家】姓は藤原氏。北家、藤原師實の子、家忠の後なり、花山院家より分る、立家の祖を信家といふ。

家忠(花山院)─忠宗─忠雅─兼雅─
　　└家經(五辻)─信家(烏丸)……

【唐橋家】姓は菅原氏、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、この家號を稱へたるは在良より始まる、在良の薨去は鳥羽天皇の保安三年にあり。

【兼松氏】姓は藤原氏、先祖越前國北庄兼松村に住せるにより苗字とす、正盛のとき尾張國葉栗郡島村に住す、秀清は其四代の孫なりと。　家紋(丁違柏の内に露三丸に二柏)

秀清─正吉(信長に仕ふ)─正成─正尾─正春─
　　　　　　　　　　　　　　　　　└正定……

【兼重氏】姓は大江氏、治部少輔豐元妾腹の子、元鎭、文明中藝州吉田兼重に生る成人の後吉川家臣笠間某の子分となり笠間を名乘り、後兼重に改む。

【神氏】神皇産靈命の後なり。

【神氏】・(姓)大國主命の子、健御名方命の後なり、其苗裔諏訪社に仕ふ、此姓よ

り、出てたる苗字頗る多し。

【神山氏】姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を親茂といふ。

【神奴氏】(姓)津速魂命の後なり。

【神生氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、宇都宮氏より出づ、立家の祖を泰宗といふ。

【神谷氏】姓は藤原氏、北家、藤原道兼より出づ、宇都宮朝綱の後裔なり、神谷高朝の時より三河國碧海郡に住し、其子孫宗弘に至るといふ。　家紋上藤丸に揚羽蝶 雁木丸に揚羽蝶

宗弘―清次(寛永元年死す)―清正―清房―清頼……

【神尾氏】姓は藤原氏、もと加納氏、累代賀茂神職なり、元久のとき神尾と改む、天重は其末孫にして寛永中故ありて藤原氏に改む。　家紋丸に蔓桃 横木瓜　元重(今川氏輝に仕ふ)―

―久吉―忠重―守世―守勝―守好……

【神門氏】(姓)天穂日命の後なり。

【神服氏】(姓)天火明命の後なり。

【神松氏】(姓)道臣命八世の孫、金村大連の後なり。

【神宮部氏】(姓)葛城猪石岡に天降りし神、天破神の後なり。

【笠氏】姓は菅原氏、天穂日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を惟光といふ。

【笠原氏】姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【笠間氏】姓は藤原氏、藤原兼家の子、道兼の流なり、宇都宮氏より分る、立家の祖、

を時朝といふ。

【鹿股氏】姓は藤原氏、北家、魚名の後、利仁の流なり、坂戸氏より分る、立家の祖を助隆といふ、奥州高野郡田村庄鹿股邑を苗字の地とす。

【鹿背氏】姓は熊野氏、饒速日命の孫、味饒田命より出づ。

【鹿之木氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る立家の祖を師員といふ。

【掃守氏】(姓)振魂命四世の孫、天忍人命の後なり。

【堅田氏】姓は藤原氏、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を澤村滿隆の弟、義隆といふ。

【勘解由小路家】姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏の後なり、日野家より分る、立家の祖を資忠といふ、資忠の薨去は靈元天皇の延寶七年にあり。

豊光烏丸)—(四代畧)—光廣—
—資忠(勘解由小路)……

【勘解由小路家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を高清といふ。

【粥見家】姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を爲連といふ。

【開野氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を資信といふ。

【閑院家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、公季これを稱ふ、子孫、三條家、西園寺家

徳大寺家等大に著はる、公季の薨去は後一條天皇の長元二年にあり。

【寒河氏】 姓は藤原氏、北家、秀郷の流なり、結城朝光の後胤、寒河光宗の後なり。
家紋下、餅に角折敷算木 丸に裏桔梗

【賀茂氏】 (姓) 神魂命の孫、武津身命の後なり、世々賀茂御祖社の禰宜たり。

【賀茂氏】 (姓) 大國主命の後なり、中世の頃より世々陰陽家として著はる、加茂氏ともかく。

【賀茂宮氏】 一に加茂宮、姓は藤原氏、工藤爲憲より出づ相良維兼の後胤、頼之三河國高橋庄を領する故高橋を稱し、藤廣北條氏綱に仕へ、相摸國賀茂宮鄕を領し、始めて賀茂宮を稱ふ、直勝は其三代の孫なり。 家紋丸に九字 ◉もと菅笠を用ゐ藤廣賀茂宮を稱せしより九字に改む

直勝(北條氏に屬す)—直重—直能—直定—直强……

【勝氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼通の後なり、本多助定より出づ。 家紋細輪に抱茗荷獅子頭

重信—重久—重昌—重定—忠宗—忠重……

【勝田氏】 姓は藤原氏、北家藤原秀郷の流なり、佐藤庄司元春の四男元信陸奥國勝田庄に住せるを以てこれを稱す。

【勝田氏】 姓は藤原氏、もと秦氏なり、先祖勝田祐清足利直義に屬し、直義の命により藤原氏に改むといふ。 家紋丸に蔦

【蒲生氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を俊賢といふ、これ蒲生氏鄕等の家なり近江國蒲生郡を苗字の地とす。

秀郷—千時—千清—頼清—頼俊—季俊—
—俊賢(蒲生)—俊綱……定秀—賢秀—
—氏郷—秀行—忠郷
　　　　　　—忠知

【蒲生氏】（姓）天津彦根命の後なり。

【蒲原氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、工藤狩野の族、立家の祖を入江清定の子清實といふ。

【葛木氏】（姓）高魂命五世の孫劒根命の後なり、大和葛城郡を苗字の地とす。

【葛野氏】（姓）饒速日命の後なり。

【葛城氏】（姓）高皇産靈命の五世の孫劒根命より出づ、葛木氏に同じ。

【綺氏】（姓）火明命の子、天香山命の後なり。

【輕部氏】（姓）饒速日命の後伊香色雄命より出づ。

【鴨氏】（姓）神皇産靈尊の後なり、賀茂氏と同じ。

【糟屋氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり、立家の祖を元方といふ相模糟屋庄を苗字の地とす。

家紋 三頭左巴 三盛左三巴 九曜

藤原冬嗣—良方—
—常興—輔相—如丘—元方(糟屋)—盛季

【鎌田氏】姓は藤原氏、北家、藤原魚名の後裔、山内經俊の男、首藤俊晴より十一代清俊義滿の命により先祖俊晴の外家、鎌田通清の領せし地をたまひ、これより鎌田を稱す、正久は其六代の後裔なりと。

家紋 揚羽蝶 丸に松皮菱 五三巴 下藤丸

【鏡作氏】（姓）天糠戸命の後なり。

【龜井氏】姓は穗積氏、饒速日命の後なり、これ後に宇多源氏を稱へし、龜井茲矩の祖なり

【龜井氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命より出づ、立家の祖を增井資孝の後資氏といふ。

【懸田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、立家の祖を宗直といふ鎌田氏と同族なり、鎌田氏にして前述の如く秀鄉の流ならば、此等の氏も自然秀鄉流に入るなるべし。

きの部

【木西氏】姓は藤原氏、道隆の子、伊周の流なり武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す

【木付氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、立家の祖を親重といふ。

【木村氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉より出づ、立家の祖を阿曾沼廣綱の弟信綱といふ。

家紋（三頭左巴 五三桐）　信綱（足利有綱の男保延年頃）—雅綱—時綱—信經—行親—義綱……

【木田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、齋藤氏の支流なり、立家の祖を實重といふ。

【木野氏】姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を菊池武重の弟武茂といふ。

【木脇氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、工藤狩野の族、立家の祖を祐頼といふ。

【北山家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤の流なり、葉室家より分る、姉小路家の一名なり。

【北野氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、高木氏より分る、立家の祖を宗貞といふ。

【北島氏】　姓は出雲氏、天穗日命四十九世の孫清孝より出づ、清孝二子あり、一は孝宗千家氏を稱へ、一は貞孝北島氏を稱す、世々出雲大社の神主として著はる。

【北小路家】　姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子眞夏の流なり、日野家より分る、立家の祖を德光といふ、德光の薨は中御門天皇の享保十一年にあり。

【吉川氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流、工藤氏の後なり、立家の祖を經義といふ、これ安藝の吉川氏の先なり、吉川元春(毛利氏よりの養子)等頗る著はる、始め吉香氏と稱せるは次に述ぶ、苗字は經義もと駿河吉川邑に住せしより來る。

【吉香氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を經義といふ、後吉川氏と改稱す。

【衣縫氏】　(姓)　饒速日命六世の孫、伊香色雄命の後なり。

【京極家】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の

子、爲光に始まる。

【京極家】姓は藤原氏、北家、道長四代の孫、俊成の後、即ち御子左家より出づ、俊成の曾孫、爲敎これを稱す、爲敎は鎌倉時代龜山天皇頃の人なり。

俊成御子左―定家―爲家―爲敎(京極)
―爲兼―忠兼……

【岸和田氏】姓は大中臣氏、藤原氏と同、祖天兒屋根命の後なり。

【紀氏】(姓)天道根命の後なり。

【紀井氏】姓は大伴氏、道臣命の後なり。

【紀伊忌部氏】(姓)祖を彥狹知命といふ。

【城原氏】(姓)神魂命五世の孫、大廣目命の後なり。

【城所氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり、立家の祖を盛員といふ。

【桐原氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、立家の祖を茂明といふ。

【清内氏】(姓)天津彥根命の後なり。

【清久氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀鄕より出づ、小山氏の族なり、大河戸行高の子、三郎秀行を祖とす。

【清田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を直時といふ、大友氏の族なり。

【清垣氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を貞連といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【清關氏】姓は菅原氏、天穗日命十二世

の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を長時といふ、長時の薨去は中御門天皇の享保三年にあり。

【清須氏】姓は菅原氏、土師清定の後胤にして清須彈正幸政を祖とす。 家紋桔梗釘貫

【黄加野氏】姓は藤原氏、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を惟綱といふ。

【菊池氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を重治といふ。 家紋丸扇内鷹羽打違檜扇

【菊池氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、これ有名なる肥後の菊池氏なり、立家の祖を則隆といふ、菊池武時、武重を始め著名の人物多く、又其一族の分岐頗る多し、此苗字は則隆肥後國菊池郡に居りしより來れるものなり。

藤原隆家—良頼—經輔—政則—則隆菊池……隆泰—武房—時隆—武時—武重—武士—武光—
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　├武政—武朝……
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　└武敏

【菊池氏】姓は藤原氏、同上藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を泰次といふ

【菊亭家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、西園寺家より分る立家の祖を兼季といふ。

【菊麻國造】(姓) 天穗日命の後なり。

【喜多川氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流、尾藤景氏の後なりといふ。 家紋寄九曜藤巴

【絹分氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤氏の族、立家の祖を祐頼といふ。

くの部

【九條家】姓は藤原氏、北家、藤原忠通の子、兼實の後なり、攝關家として其名大いに著はる、兼實の薨去は土御門天皇の承元元年にあり。藤原忠通―兼實

┃兼實(九條)―良經―道家 教實
┃忠家―忠教―師教……

【九條家】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、立家の祖を顯家といふ。

顯輔(六條)…顯家(九條)―知家―行家……

【九條家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男高藤の後なり、勸修寺家より分る、立家の祖を光長といふ、光長は源平時代の人なり。

【九條家】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を隆定の子隆光といふ。

【九鬼氏】家傳に曰はく、姓は藤原氏、先祖は紀州熊野八庄司の一なりと、九鬼嘉隆の家はこれなり、其先紀州牟婁郡九鬼の地に住せしより苗字とす。

家紋 七星 三七桐 裏錢 ◎もとは左巴を用ふ守隆のときより七星に改む

藤原師尹 定時 實方……隆眞……澄隆

┃嘉隆―守隆……(攝津三田)

【口羽氏】姓は大江氏、志道元良次男通

良(元正十年死)を立家の祖とす。

元良―通良―廣通―春良―元智―元武……

【久米氏】(姓)高御魂命八世の孫、味耳命の後なり。

【久貝氏】姓は藤原氏、北家、魚名の流なり、越前國司、民部卿時長の男、時兼寛平年中山城國乙訓郡を受領す、これより子孫同郡久貝村に住して久貝を稱す、正好は其後胤なりと。　家紋(三頭左巴 帆立貝)

正好―正勝(家康に仕ふ)―正後―正世―正方―
―正順……

【久保氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流藤原秀郷の後なり、大友氏より分る、其先時直より出づ。

【久賀氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、中江川高綱の弟、七郎左衛門某を祖とす。

【久野氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の後なり、二階堂氏より出づ、祖を宗能といふ
家紋(瓜の内に三頭左巴 山形に横木瓜)

【久慈氏】津輕氏の先、これを稱す、津輕氏の條下を見よ。

【久下塚氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり。

【久留米氏】姓は大江氏、毛利隆光の末弟小早川光包筑後國久留米城に居り、久留米を稱す。

【久志本氏】姓は渡會氏、神皇產靈命の後なり、立家の祖を常任といふ。
家紋(菊輪に三柏 五三桐)　季光(號仁頭)―常親―常季―

「―常任―常行……

【久須美氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、立家の祖を祐光といふ、曾我祐成の後なりと。　家紋庵木瓜十曜

【久比岐國造】(姓)椎根津彦命の後なり。

【久努國造】(姓)饒速日命の後なり。

【久自國造】(姓)同上饒速日命の後なり

【工藤氏】姓は藤原氏、南家藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、立家の祖を爲憲といふ、木工助たりしにより工藤と號す

藤原武智麻呂―乙麻呂―是公―雄友―
―弟河―高扶―清夏―維幾―爲憲(工藤)

【日下部氏】(姓)火闌降命の後なり。

【奥氏】(姓)天相十二世の孫、香太臣命の後なり。

【花山院家】姓は藤原氏、北家、藤原師實の子、家忠に始まる家忠の薨去は崇德天皇の保延二年にあり。　家忠(花山院)―
―忠宗―忠雅―兼雅―忠經―定雅……

【沓間氏】姓は藤原氏、藤原道隆の子尹周の流なり、立家の祖を親隆といふ。

【郡戸氏】姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を章貞といふ。

【倉光氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後藤原利仁の後なり、齋藤氏より分る、立家の祖を板津成景の弟成澄といふ。

【倉橋氏】姓は藤原氏、もと安倍氏、孝元天皇の皇子、大彦命の後、安部倉橋麻呂四世の孫、安仁の末孫家仁大和國十市郡下

居原(此地を後に倉橋山といふ)に生れ始めて武家にうつり、養祖倉橋麻呂の名をとりて苗字とす、其後裔某後鳥羽院の時盆に茗荷三を載せて奉りしかば藤原氏を賜ひ、且捧ぐる所の茗荷を家紋に賜ふ。

家紋 丸に三茗荷 五三桐

【倉賀野氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周より出づ、立家の祖を高俊といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【栗栖氏】(姓)饒速日命の子可美眞手命の後なり。

【栗栖氏】姓は藤原氏、北家、藤原伊周の流なり、立家の祖を阿佐美實高の男經家といふ。

【栗栖氏】姓は菅原氏、菅原道眞二男淳茂五代の孫忠貞の末流なり。

家紋 丸に丁字巴 四ツ木瓜

【栗生田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり立家の祖を小見野盛行の弟行直といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【草刈氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、氏家氏より分る、立家の祖を基進といふ。

【草野氏】姓は藤原氏、藤原隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を長岡といふ。

【桑山氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、結城朝光十二世の孫久貞これを稱す

家紋 桔梗 左巴 五三桐

【桑名氏】（姓）天津彦根命の男天久之比命の後なり。

【桑内氏】（姓）天火明命の後なり。

【桑原氏】姓は菅原氏、天穂日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、この家號を稱へたるは長義に始まる、長義の薨去は櫻町天皇の天元二年にあり。

【桑原氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流、工藤相良の族なり、立家の祖を頼重の弟長俊といふ。

【桑島氏】姓は藤原氏、工藤爲憲の流にして狩野光信上總國桑島村に住せしより苗字とす、親義は其後裔なりといふ。

家紋竹の丸に花菱　丸に矢筈　（◉家傳に竹丸に割菱なり是吉宗の養父親永の家紋竹に雀實父駒井勝正の家紋は割菱に井桁たる故に兩家の紋を併せ用ふと）

【桑島氏】姓は藤原氏、岡本正重の後なり。　家紋三巴　丸に蔦　蝶

忠直（元禄年頃）—忠久—忠陳—忠純—忠眞—

【桑島氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、田原忠綱の後裔にして宗重のとき外家の號桑島に改む。　家紋上藤の内三木　九曜　五三桐

【黒木氏】姓は藤原氏、北家魚名の後、利仁の流なり、利仁八世孫俊元七世、掛田俊仁の後胤晴親を祖とす。

【黒瀬氏】姓は伴氏、天押日命の後なり立家の祖を惟資といふ。

【國氏】（姓）天津彦根命の後なり。

【國岡氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を泰廣といふ。

【國栖氏】(姓)石穂別神より出づ。

【葛見氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を憲榮といふ。

【葛山氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周より出づ、立家の祖を惟忠といふ

【葛濱氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を行平といふ。

【椋氏】(姓)天火明命の後なり。

【椋垣氏】(姓)津速魂三世の孫天兒屋根命の後なり。

【楠本氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を泰隆といふ。

【熊本氏】姓は藤原氏、支族高橋氏より分る、立家の祖を行重といふ。

【熊坂氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を疋田以成の子以永といふ。

【熊谷氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の流なり、那須氏より分る、立家の祖を高春といふ、同族に鎌田氏あり、前述の如く鎌田氏にして秀郷流ならんには自然この苗字も秀郷流なるべし。

【熊倉氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、小山朝政の後裔なりといふ。

家紋丸に四石萬字 ◉はじめ丸に寺の文字を用ひのち丸に四石に改む

【熊野氏】(姓)饒速日命の後、味饒田命

の後なり。

【熊野別當家】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、立家の祖を藤原實方の子、長快といふ。

【櫛笥家】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、立家の祖を隆憲といふ、隆憲の薨去は天正十九年にあり。

【勸修寺家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門に始まる、支族頗る多し、良門は淸和天皇頃の人なり。

【勸喜氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり、立家の祖を勸喜四郎某といふ。

けの部

【毛牧氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を景廣といふ、江州毛牧鄕を苗字の地とす。

【儀俄氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を俊光といふ、近江國甲賀郡儀俄を苗字の地とす。

この部

【小出氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流、爲憲より出づ、先祖信濃國伊那郡小井氏庄に住せしより苗字とし、其後尾張國愛知郡中村に移りて小出に改む。

家紋（領に二八文字　一重櫻　八重梅鉢　十六葉菊）

正重―秀政（秀吉に仕ふ）―吉政―吉秀―吉重―

―英安―英益……

【小出氏】姓は三枝氏、三枝守國の後、甲斐國住人三枝守全、外戚の稱、小出に改む

家紋丸の内二八の文字
丸の内櫻の花

【小林氏】姓は藤原氏、神谷正次の三男祐繼故ありて小林に改む。

家紋上藤丸に揚羽蝶
丸に揚羽蝶

【小島氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を則隆の男保隆といふ。

【小泉氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を家宣といふ。

【小泉氏】姓は藤原氏、始め新見を稱す重勝の男忠勝、小泉吉次の妻の姪たるにより吉次より釆地を分ち與へられ小泉を稱す。家紋丸の内蝶

【小峰氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、結城氏より出づ、立家の祖を朝常といふ

【小堀氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の後裔にして光道近江國坂田郡小堀邑を領せるにより苗字とす。家紋丸に万字
花輪違

家傳にもと鶴の丸を以て家紋とす正次のとき丸に万字に改め政一のときゝり花輪違を用ふと

光道—善光—直隆—直房—正房—正次—政一—政元—政恒

【小磯氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流、藤原秀郷の後なり、立家の祖を時廣といふ。

【小中山氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す、立家の祖を栗栖經家の弟經實

といふ。

【小宮山氏】 姓は藤原氏、蒲生盛秀これを稱す、盛秀十一代の孫、内膳忠道は宣正の父にして武田勝頼に仕ふ。 家紋松ヶ菱上藤

【小梁川氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、伊達氏より分る、立家の祖を宗近といふ、伊達郡小梁川を苗字の地とす。

【小一條家】 姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり。

【子部氏】 (姓) 天御中主命の後なり。

【子部氏】 (姓) 天火明命の後なり。

【久我氏】 (姓) 神皇產靈尊の後、天璧立命より出づ。

【五條家】 姓は藤原氏、北家、藤原道長の後、御子左家より出づ、立家の祖を爲實といふ。

定家—(御子左)—爲家—爲氏—爲實(五條)—
　爲嗣—爲孝……

【五條家】 姓は菅原氏、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を高長といふ、長高の薨去は後宇多天皇の弘安七年にあり。

【五味氏】 姓は藤原氏、北家、魚名の後、藤原秀郷の流なり、始め山内氏を稱ふ、山内盛豐の五男、政直の男政義、信玄の命により五味常運の名跡を繼ぎ五味を稱す。

家紋白黒一文字

【戸福寺氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の

祖を為隆といふ。

【兒山氏】姓は藤原氏、藤原道兼の流、宇都宮氏より分る、立家の祖を朝行といふ。

【兒玉氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を家弘といふ武藏七黨の一なる兒玉黨とは此族をさすなり、武藏國兒玉郡を苗字の地とす。

【狛島氏】姓は藤原氏、藤原伊周の流なり、立家の祖を友時といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【狛人野氏】(姓)　大國主命の後なり。

【近衛家】姓は藤原氏、北家藤原忠通の子、基實に始まる、攝關家として大に著はる、基實の薨去は六條天皇時代なり。

藤原忠通―基實(近衛)　基通―家實―
―兼經―基平―家基……

【近藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、立家の祖を有信といふ。

【近藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を修行といふ、近江國に居りしを以て近藤を號とす。

秀郷―千常―文修―文行―修行(近藤)……
―直滿―滿乘―滿用―忠用―庸用―
―秀用―季用―貞用―德用……

家紋　鹿角の丸　下藤丸　唐人笠　◉鹿角の紋は乘直淸康君に從ひて三河國宇利の丸山に獵せしとき鹿頭を吊へ其角を引裂く君は武勇なるを感じたまひ鹿角を以家紋とすべき樣仰を蒙るこれより一族皆鹿角を以て家紋に用ふといふ

【金剛寺氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の

子、師尹の流なり、熊野別當家より分る立北の祖を成基といふ。

【後藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、立家の祖を則明といふ。

叙用（齋藤）―吉信―伊博―公則―則經―則明（後藤）……

【後藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長良の流なり、立家の祖を親盛といふ。

【後藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流、藤原秀郷の後なり、立家の祖を助宗といふ。

【後閑氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子伊周の流なり、立家の祖を政行といふ

【高志氏】（姓）高魂命九世の孫、日臣命の後なり。

【高志壬生氏】（姓）高皇産靈命の後なり。

【桑折氏】姓は藤原氏、北家、山蔭より出づ、伊達氏より分る、立家の祖を政長といふ、奥州伊達郡桑折を苗字の地とす。

【國司氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後保昌の後胤なり、立家の祖を師武といふ。

【國府氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、中沼宗政の子、左衞門尉政能を立家の祖とす。

【國領氏】姓は藤原氏、高橋權頭某駿河國住人にして賴朝より近江國神崎郡に於て釆地を賜はり國領村の城に住す、これより國領を稱す、政吉は其後裔なりと。

家紋丸に五葉の茗荷

【惟岳氏】（姓）津速魂命の後なり。

【越生氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、祖を淺羽行業の弟有行といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【評氏】（姓）津速魂命三世の孫、天兒屋根命の後なり。

【駒木根氏】姓は藤原氏、藤原秀鄕の流にして大友能直の後なり、親就のとき始めて駒木根を稱す、利政は其四代の孫なりと。 家紋丸に違杵 丸に二引 ◎違杵の紋ハ文次大坂陣に從ひしとき手杵の紋つきたる母衣をかけ台德院殿の御馬前に於て武勇を現はし御感を蒙るこれより家紋とせよの仰によりて用ふと

利政（上杉景勝に仕ふ）—政次—政武—政方—政親
—政永

【薦田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【權太氏】姓は藤原氏、南家、巨勢麻呂の男黑麻呂の後胤なり、丹波守保昌八代權駄保國上野國吾妻郡權駄に住せるにより苗字とし、後權田に改め又權太と稱す。

家紋鶴ノ丸 九曜

【權田氏】姓は藤原氏、山蔭中納言政朝の後、小野田氏より分る、立家の祖を國廉といふ。

第三章 頭音さ行に屬する姓氏

さの部

【三枝氏】姓は三枝部、先祖守國甲斐國山梨郡能路に居り子孫同郡に住す、守國柏尾を稱し、のち三枝に改むといふ。

家紋丸（三枝松 丸に二引両）

守國—守將—守久—守明—守氏—寛覺……

【三枝部氏】（姓）天津彦根命の子、明立天御影命の後なり、顯宗天皇の御世、諸氏の人等を集め、饗醼を賜ふ、時に三莖の草の宮庭に生ひたるを採りて奉る、仍りて姓三枝部造を賜ふ、この子孫甲斐に蕃衍せり。

【三條家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、公季五世の孫、實行三條を稱ふ、支流多し、實行の薨去は應保二年にあり。

公季—實成—公成—實季—公實—實行（三條）……

【三條家】又九條とも稱す、姓は藤原氏北家、藤原師實の子、經實より出づ、即ち大炊御門よりの分れなり、立家の祖を成定といふ。

【三條家】姓は大中臣氏、藤原氏と同祖天兒屋根命の後なり、この家號は能宣より始まる。

【三條西家】姓は藤原氏、公季の後なり、三條家より分る、この家號は公時より始まる、公時の薨去は北朝後小松天皇の永徳三年にあり。

公氏（正親町三條）—公時（三條西家）—實清……

【三本寺氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を憲清といふ。

【左井氏】 姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、足利氏の族なり。

【西郷氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を則隆の男政隆、

【西園寺家】 姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季より出づ、此家號は公季五世の孫、通季より出づ、支流多し、通季は鳥羽天皇頃の人なり。

公季…實成―公成―實季―公實―┐

└通季(西園寺)……

【向坂氏】 姓は藤原氏、參議中將共實の男、十郎則實の後裔にして、遠江國豊田郡向坂村に住す、長勝より系現はる。

家紋 丸に三巴 五重鱗甲 二輪違

長勝(今川家に仕ふ)―長政―政勝―政定―寛政―┐

└宅政……

【佐山氏】 姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、結城朝光の庶流にして其先下總國那須郡佐山に住せるを以て在名を苗字の地とす。 家紋 五分筋 三頭左巴 角の内三頭左巴

【佐田氏】 姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を爲清といふ。

【佐見氏】 姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る。

【佐治氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を俊守といふ。

【佐原氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻

呂の後なり、相良長頼の子、六郎兵衛頼忠を立家の祖とす。

【佐野氏】 姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を基綱といふ、下野國安蘇郡に佐野の城趾あり、これ其居城にして其苗字の依て出づる所なり。

家紋 蝶 三頭左巴 蛇目 (右の蝶の紋は淸盛より賜ふところなりと)

基綱―國綱―實綱―成綱―廣綱―貞綱……
……房綱―信吉―久綱―盛綱……

【佐野氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を赤星經俊の弟經繼といふ。

【佐野氏】 姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を行忠といふ。

【佐々氏】 姓は菅原氏、天穗日命より出づ、織田信長の頃、佐々成政あり。

【佐奈氏】 姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を輔仲といふ、輔仲の弟、輔俊も佐奈氏を稱す。

【佐貫氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流、藤原秀郷より出づ、足利氏よりの支族なり。

【佐貫氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤狩野等の族立家の祖を林行房の子、四郎大夫成綱といふ。

【佐貫氏】 姓は藤原氏、北家藤原魚名の後、藤原利仁の流齋藤氏より出づ、立家の祖を大桑利光の子光行といふ。

【佐都氏】 姓は藤原氏、藤原魚名の流、藤原秀郷の後なり、立家の祖を通直といふ。

【佐伯氏】 (姓) 大伴氏と同祖、天忍日命の曾孫、道臣命七世の孫、室屋大連の後なり、佐伯石湯、佐伯今毛人等の人物著はる。惟家の男、三郎惟康、豊後國大野郡佐伯庄に住し、始めて佐伯と稱す。

【佐伯氏】 姓は大神氏、大國主命の後なり。

【佐爲氏】 (姓) 饒速日命六世の孫、伊香色雄命の後なり。

【佐島氏】 姓は藤原氏、北家、長家の流なり、森田光隆の弟、次郎泰隆を祖とす。

【佐橋氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、佐野基綱、五代春綱上野國舟橋庄に住し、舟橋を稱す、子吉綱より代々足利家に仕ふ、其九代吉春義政に仕へ、命により佐野舟橋の内二字を取り佐橋と稱す。

家紋 丸に六星 三頭左巴 ◉もとは丸に三星の紋なり慶長十年台徳院殿御入洛のとき命により諸組の頭各家の紋を記して呈す、このとき久吉の家紋は御紋に疑ひあれば改むべしとの仰によりてのち丸に六星を用ふといふ

【佐藤氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を公清といふ。 家紋 源氏車 三本傘

秀郷—文修—文行—公光—公清、佐藤……
師則—師信—師治—元治—繼信—經信

【佐藤氏】 姓は藤原氏、北家、那須宗隆の後、資忠四男池澤忠藤、下野國池澤郷に住し池澤を稱し其後裔貞信の男下野國佐藤郷に生る、依て佐藤信重と稱す。

家紋源氏車

【佐々部氏】姓は藤原氏にて藤原長家の後なり、立家の祖を元宗といふ。猶此苗字につきては懸田、熊谷等の苗字と同一の疑問を立つるを得べし、懸田、熊谷等の部參照せよ。

【佐夜部氏】(姓)伊香雄命の後なり。

【佐牟田氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を頼俊といふ。

【佐久間氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子伊周の流なり、立家の祖を定頼といふ

【佐久山氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を乘隆といふ。

【佐久良氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後也、立家の祖を助俊といふ。

【佐渡國造】(姓)天湯津彥命の後なり。

【里　氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司家よりの支族なり。

【里岩氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を鳴瀨有平の男、有光といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【坂　氏】姓は大江氏、大江廣元の流なり、毛利元春の弟、大膳大夫匡時藝州坂城に居り坂を稱す。

【坂井氏】姓は藤原氏、はじめ赤川を稱

し成利のときより坂井を稱す。

家紋丸に九枚笹井桁　三郎右衛門某、(信長に仕ふ)

―正利―正家―正定―正忠―正勝―正武

【坂戸氏】　姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、後藤則明の後なり。

【坂本氏】　姓は藤原氏、南家藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤狩野の族、立家の祖を祐氏(始め二階堂氏)といふ。

【坂原氏】　姓は藤原氏、始祖景直は梶原景時の末孫にして横關を稱し、平氏なりしが故ありて藤原氏に改む、其三代景定のとき始めて坂原を稱す。

家紋三頭右巴　丸に万字　丸に竪松葉

【坂南氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流、藤原利仁の後なり、齋藤氏より分る、立家の祖を成行といふ。

【坂合部氏】　(姓)天火明命の後なり。

【坂合部氏】　(姓)火闌降命の後なり。

【幸弘氏】　姓は藤原氏、北家、藤原魚名の後、秀郷の流也、大友氏より分る、立家の祖を重秀といふ

【相良氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、立家の祖を維兼といふ、遠州相良を苗字の地とす。　家紋瓜の内六引　劍梅鉢

工藤爲憲―時理―維兼(相良祖)―維頼―

―周頼……忠房―長毎―頼寛―長武(肥後人吉)

【相樂氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を定共といふ。

【相模氏】　姓は中臣氏、天兒屋根命の後

なり、立家の祖を兼輔といふ。

【相武國造】（姓）天穗日命の後なり。

【狹山氏】（姓）天兒屋根命の後なり。

【娑婆氏】（姓）天穗日命の後なり。

【酒井氏】姓は藤原氏、北家藤原秀郷の流、波多野義通三代、松田有經の後胤なり貞重相模國酒井郷を領し、後丹波國多紀郡酒井郷に移り住す、子孫尊氏に仕へ、酒井を苗字とす。家紋五枚篠上はつれ雪三頭巴左

貞重―貞氏―家貞―信貞―貞敏―信敏―信房―政敏……

【眞方氏】姓は藤原氏、北家房前の末孫實方朝臣の後胤なり、もと實方を稱し、正義のとき眞方に改む。家紋丸に追雁金

【寒河氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を結城朝光の男時光といふ。

【寒河江氏】姓は大江氏、廣元の後なり、立家の祖を時氏といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【猿女氏】（姓）天鈿女命の後なり。

【榊原氏】姓は藤原氏、篠瀨吉次の二男直政の後なり。家紋源氏車藤巴

直政―直榮―直矩―鎭休―鎭候……

【榊原氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の後なり、佐藤基重伊勢國一志郡榊原村に住す、二男、基氏のときより、榊原を稱す。家紋八本骨源氏車

基氏　具政―經定（一に占政）―利經―元經……

【澤氏】姓は藤原氏、もと淸和源氏に

して足利の流、廣澤義實の孫を義盛といひ、苗字を佐和と稱し、のち澤に改め義親のとき藤原となる、

家紋八星の内丸に二引 ⊙古くは丸の内二引両なりと

義盛(正平年頃)—義忠—義賢—義秀—義親—
|—義孝……

【澤氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を基弘といふ。

【澤田氏】姓は大伴氏、高皇産靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を實繼といふ。

【澤村氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の流なり、那須氏より分る、立家の祖を滿任といふ。

【澤俣氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を足利兼行の子、師種といふ。

【篠山氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、大原貞景の弟盛景の後裔景元、篠山を稱し、男景春笹字を篠に改む。 家紋桐木瓜二引両

【篠川氏】姓は藤原氏、藤原鎌足より十四代の孫、古勢部道末より十一代氏詮は足利尊氏の五男にして、其後裔松原就貞が次男、就芳篠川を稱し、後に篠を笹に改む。

【篠葉氏】姓は藤原氏、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を惟季といふ。

【篠瀬氏】姓は藤原氏、とも奥山を稱し、吉のとき、遠江國篠瀬を領せしにより苗字とす。 家紋丸に井桁丸に橘 某—重吉(今川義元に仕ふ)—吉—

―吉次―吉久―直吉

【齋藤氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、利仁の子叙用齋宮頭たりしにより齋藤氏を稱す

藤原魚名―鷲取―藤嗣―高房―時長―利仁―叙用(齋藤)……

【薩摩氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり菊池氏より分る、立家の祖を經遠といふ。

【櫻井家】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、水無瀨家より出づ、立家の祖を兼里といふ、兼里の卒は靈元天皇の天和三年にあり。

【櫻井氏】　姓は藤原氏、北家、藤原爲家の後、大納言忠家より出づ、中納言爲秀の男勝家三河國碧海郡櫻井村に住せしより苗字の地とす。

家紋　丸に三引　井桁に櫻

勝家…勝光―勝次(家康に仕ふ)―勝成―勝政―勝次……

【櫻井氏】　姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を永信といふ。

【櫻町家】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、立家の祖を成範といふ。

【櫻島氏】　(姓)　饒速日命の後なり。

【讃岐忌部氏】　(姓)　手置帆負命の後なり。

【讃岐國造】　(姓)　高皇産靈命の後なり。

しの部

【七見氏】　姓は中臣氏、天兒屋根命の後

なり、立家の祖を公基といふ。

【七條家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、隆家の後なり、水無瀬家より分る、立家の祖を隆脩といふ。隆脩の卒は靈元天皇の寛文九年にあり。

【七澤氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を朝昌といふ。

【下元氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、泉忠衡の後、正衡を祖とす。

【下妻氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を長政といふ。

【下郡氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、大伴氏より分る、立家の祖を時直といふ。

【下島氏】姓は藤原氏、北家、秀郷の流なり、秀衡の子、泉忠衡六代の孫、下島次郎の後なり。家紋丸の内三蓋松茶實

【下冷泉家】姓は藤原氏、藤原道長の子、御子左長家の裔、冷泉爲相の後なり、立家の祖を持爲といふ、持爲の薨去は後花園天皇の享德三年にあり。

【下郡山氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、結城氏より分る、立家の祖を朝重といふ、岩代國安積郡下郡山を苗字の地とす。

【下須房氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり立家の祖を秀方といふ。

【下河邊氏】姓は藤原氏、同上、藤原秀郷の

流なり、立家の祖を行義といふ、此苗字は行義下總國下河邊の莊司たりしより來れるものなり、行義は鎌倉初代の人なり。

秀郷―千常―文修―兼光―頼行―行尊―行政―行義（下河邊）―行平―行綱―能光

【下海上國造】（姓）天穗日命の後なり。

【四宮氏】姓は藤原氏北家、藤原冬嗣の子、良方の流なり、立家の祖を光久といふ。

【四宮氏】姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【四條家】姓は藤原氏、魚名の三男、末茂の後なり、立家の祖を隆季といふ、これ四條隆資等の家なり、隆季は平安朝時代の末頃の人なり。

隆季（四條）―隆房―隆衡―隆親―隆顯―隆實―隆資――

【四條家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、葉室より分る、立家の祖を顯俊といふ。

【四條家】姓は大中臣氏、藤原氏と同祖天兒屋根命の後なり、立家の祖を輔親といふ。

【四方田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を弘長とす、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【白石氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、伊達氏より分る、立家の祖を宗貞といふ。

【白尾氏】姓は藤原氏、南家藤原武智麻呂の流なり、工藤等の族、立家の祖を行政といふ。

【白江氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を景平といふ。

【白河氏】一に白川に作る、姓は藤原氏北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、結城氏より分る、立家の祖を祐廣(朝光の子、朝廣の男)といふ、奥州白川を苗字の地とす。

【白河家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗より出づ、頼宗七代の孫、伊輔始めて白河を稱す。

宗通(防門)—伊通—伊實—伊輔—伊時……

【白莖氏】姓は大江氏、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を滿敎といふ、猶大江氏の條下を見るべし

【白倉氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を高山行高の弟成季といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【白堤氏】(姓)天櫛玉命八世の孫、大熊命の後なり。

【白根氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり。立家の祖を信季といふ

【白津氏】姓は藤原氏、北家、魚名の流なり、白石氏より分る、立家の祖を安直といふ。

【白河國造】(姓)天湯津彥命の後なり。

【庄氏】姓は藤原氏、北家、伊尹の後なり、兒玉家弘の男、權守弘家を立家の祖とす。

【庄氏】姓は藤原氏、北家、道隆の子、伊周の流なり、其先植木を稱し良資のとき庄に改む、良資は元祿年間の儒者なり。

家紋三引團扇

【志比氏】姓は藤原氏、北家、藤原魚名の後、藤原利仁の流、齋藤氏より出づ、芦島元貞の弟、大夫爲隆を祖とす。

【志原氏】姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を實近といふ。

【志貴氏】（姓）饒速日命の孫、日子湯支命の後なり。

【志賀氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を能郷といふ。

【志和氏】姓は藤原氏、北家、房前の後、基經の流なり、立家の祖を宗茂といふ、土佐高岡郡志和を苗字の地とす。

基經……道長……宗勝—嘉詮—宗茂……

【志道氏】姓は大江氏、大江廣元の流なり、毛利元春の弟、坂匡時の後裔、坂廣秋の男元良を立家の祖とす、藝州高田郡志道村を苗字の地とす。

【宍戸氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の後なり、小田氏より分る立家の祖を宗政といふ、常陸國西茨城郡宍戸を苗字の地とす。

【芝山家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長良の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を宣豊といふ、後に家號

を今園と改稱す、宣豊の薨は東山天皇の元祿三年にあり。

【芝田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、佐野氏より分る、立家の祖を家繼といふ。

【思國造】(姓)天湯津彥命の後なり、大日本史には、思は信夫にあらざるかといふ。

【委文氏】(姓)神魂命の後、大味宿禰より出づ。

【信夫氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を隆治といふ。

【信乃氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を信乃七郎といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【信夫國造】(姓)天湯津彥命の後なり。

【島氏】姓は藤原氏、乙麻呂の後なり工藤爲憲の男、源三郎爲行を祖とす。

【島名氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を家親といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【島田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、立家の祖を景親といふ。

【島田氏】姓は藤源氏、同上、藤原魚名の後、藤原利仁の流、後藤氏より分る、立家の祖を維重といふ。

【島崎氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の

祖を長瀬武成の弟武經といふ。

【島森氏】姓は藤原氏、工藤氏より分る立家の祖を光茂といふ、奥州三戸郡嶋森を苗字の地とす。家紋三引龍

【島津國造】(姓)天穗日命の後なり。

【城氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を加江隆時の子、隆經といふ。

【城井氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を景直といふ。

【重富氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を武村といふ。

【師長國造】(姓)天津彥根命の後なり。

【柴田氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の後、下河邊行平より出づ、祖を行綱といふ常陸國鹿島庄柴田を苗字の地とす、代々鹿島の神職たり。家紋上藤内一文字 五行撫子花 ◉家傳に始め上藤内根笹を用ふ、康正清康君に仕へ戰功あり一の字を與へられ根笹を一に改む

【柴橋氏】姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を懷廣といふ、猶大江氏の條を見るべし。

【柴垣氏】(姓)饒速日命の後なり、

【鹿生氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼より出づ、宇都宮より分る。

【清水谷氏】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の流なり、西園寺家より分る立家の祖を實有といふ、實有の薨去は龜山天皇の文應元年にあり。

西園寺通季―公通―實宗―公經―

―實有(淸水谷)……

【設樂氏】姓は大伴氏、高皇産靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を助高といふ。

【設樂氏】姓は菅原氏、天穗日命の後なり、貞衡の二男時淸より出で、三河國設樂郡川路城に住せしより設樂を苗字とす。

家紋 十六葉裏菊 梅鉢 五七桐 ⦿家傳に菊桐の紋は禁裏より賜ふ處なりと

【莊氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を弘高といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【滋野氏】(姓)神魂命五世の孫、天道根命の後なり、

【滋野井家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、三條家より分る、立家の祖を實國といふ。滋野井實國の薨去は安德天皇の壽永二年にあり。

三條實行―公敎―實國―公時……

【進藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁より出づ、齋藤氏より分る。立家の祖を爲輔といふ、修理進たりしにより、進藤氏を稱す。

叙用(齋藤)―吉信―伊博―爲延―

―爲輔(進藤)……

【新莊氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を俊名といふ、寛永系圖傳に新庄氏、藤原秀郷の流、祖を正俊といふとあるは、これと同一の氏なるべし、此苗字は俊名、近江

國坂田郡新庄郷に住せしより稱へたるものなり。 家紋左藤巴 橘 揚羽蝶 菱葉 夕顔花 ◉菱葉の紋は先祖直寛万松院義晴の命により近江國伊吹山に出陣のさき菱の浮葉を賜はりしより家紋とすといふ

新庄後名……直昌—直頼—直完—直好……（常陸麻生）

【新良貴氏】（姓）稻飯命の後なり。

【敷地氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂より出づ、工藤狩野等の族なり。

【澁川氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤狩野の族、立家の祖を池越景兼の後、權守遠景といふ。

【澁澤氏】姓は藤原氏、藤原、乙麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を義知といふ。

【澁谷氏】姓は藤原氏、中將實方より出づ、實方都を出で東國に下り、陸奥國南部の澁谷に住せしより在名を苗字とす。

【篠木氏】姓は藤原氏、北家、秀郷の流なり、小山政光二男長沼宗政の後胤、宗光を祖とす。 家紋左三巴 鎧蝶

【篠田氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司より分る、立家の祖を星野季茂の孫能茂といふ。

【篠田氏】姓は藤原氏、北家、伊尹の流なり、成田長泰四代孫長親の子長久を祖とす、三河國篠田村を苗字の地とす。

家紋一文字 三引龍 大洲流

【篠崎氏】姓は大伴氏、高皇産靈命の五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を資

氏といふ。

【繁澤氏】 姓は藤原氏、南家、武智麻呂の流、工藤氏の後なり、吉川元春二男、宮内少輔元氏を祖とす。

【鹽谷氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、宇都宮氏より分る、立家の祖を成綱の孫朝業といふ、下總國鹽谷郡に鹽谷城趾あり、これ其居城にして苗字の依つて起れる所なり。

家紋 破車夕顏 左巴輪違

【鹽谷氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を兒玉家弘の弟家遠といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

すの部

【主藤氏】 姓は藤原氏、首藤氏に同し、同條を見よ。

【末元氏】 姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼直といふ。

【末吉氏】 姓は藤原氏、もと坂上氏、田村麻呂より出づ、廣野麻呂の後裔、平野利吉四代の孫、行增といへり、後藤原氏に改め攝津國平野庄に住せり、利方のとき秀吉の命により末吉を稱す。 家紋 丸に井筒 三橘

【次田氏】 (姓) 火明命の子、天香山命の後なり。

【杉氏】 姓は藤原氏、北家、高藤の後なり、上杉重房の後胤、弘憲に至り上の一字

を去り杉と稱す。

【杉杜氏】　姓は大江氏、はじめ志道なりしが就茂のとき杉杜を稱す。

【杉枝氏】　姓は藤原氏、其先齋藤氏にして眞一杉山檢校が弟子となり杉枝に改む、眞一は元祿の頃の鍼醫なり。

【周布氏】　姓は藤原氏、北家、御神本國兼家紋上藤の内齋文字 丸に梶葉五代の孫、兼季次男兼定石見國那賀郡周布地頭職たり、依つて苗字の地とす、長次のとき松岡に改め、兼宣に至り周布に復す。

【周敷氏】　（姓）　火明命の後なり。

【周防國造】　（姓）　天津產根命の後なり

【首藤氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を助清といふ、主馬首たりしによりこの號を用ふ。

秀郷─文修─文行─公光─公清(佐藤)─助清(首藤)……

【珠流河國造】　（姓）　饒速日命の後なり。

【菅原氏】　（姓）　もとは土師氏、天應元年古人等、菅原の姓を賜はる、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり。

【菅田氏】　（姓）　天久斯麻比土都命の後なり。

【菅生氏】　姓は藤原氏、傳へいふ、下野國主小山高朝の後にして伯耆某を祖とす伯耆國柴田郡菅生邑を苗字の地とす。

【菅生氏】　（姓）　天兒屋根命の後なり。

【菅沼氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を蓮心といふ。

【椙谷氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を憲房といふ。

【須原氏】姓は渡會氏、神皇産靈尊の後なり、渡會神主より分る。

【須屋氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を若宮隆郡の弟隆冬といふ。

【須藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長一の後なり、伊豫守道家(一に通家)の長男權守資家下野國那須に住して那須須家と稱し、これより代々須藤を稱す、資家の後、資隆の弟、須藤隆良より十五代資光、大森氏頼、實頼父子に屬し、後北條長氏に仕ふ。 一紋 丸に十六葉菊 横木瓜

資光―盛永―盛良―盛勝―盛政―盛信―盛連……

【須崎氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を親盛といふ。

【須惠國造】(姓)天津彥根命の後なり。

【鈴木氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、立家の祖を惟時といふ、紀伊國牟婁郡鈴木庄を苗字の地とす。

【鈴木氏】姓は穗積氏、饒速日命の後なり、穗積雅行の後裔、基行より出づ、

家紋 抱稻穗 下藤丸 三雁の丸

【諏訪氏】姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

せの部

【千本氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を資持といふ。 家紋扇地紙の内日の丸一文字

【千田氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を英朝といふ。

【千田氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を疋田爲永の子爲忠といふ。

【千家氏】 姓は出雲氏、天穗日命四十九世の孫、清孝より出づ、清孝の二子、孝宗、貞孝あり、前者は千家氏を稱へ、後者は北島氏を稱ふ、出雲大社の神主として世々著はる。

【少貳氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、立家の祖を資頼といふ、大宰少貳たりしより、此號起る、然るに、小貳氏の出自をまた、藤家道長の子、長家の流となす系圖あり、本書には尊卑分脈の説に從ふ。

武藤頼平—資頼—資能—經資—盛經—貞經—賴尚……

【世尊寺家】 姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師輔の長子、伊尹の後なり、藤原行成等著はる。

【清閑寺家】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家よ

り分る、立家の祖を資房といふ、資房の薨去は北朝光明天皇の康永三年にあり。

【勢多氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を實景といふ。

【勢多氏】姓は藤原氏、同上、藤原魚名の後、秀郷の流なり、立家の祖を俊光といふ。

近江國栗本郡勢多を苗字の地とす。

【瀬上氏】姓は藤原氏、北家、山蔭より出づ、伊達氏より分る、立家の祖を行綱といふ。

【關氏】姓は藤原氏、魚名の後、藤原秀郷の後なり、立家の祖を俊平といふ。

俊平の弟―政直―政泰―成次―長政……

【關戸氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、立家の祖を城介義景の子、頼景といふ。

【關本氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の後なり、立家の祖を義忠といふ。

【關屋氏】姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【關野氏】姓は伴氏、天押日命の後なり立家の祖を資信といふ。

その部

【外越氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を氏高といふ。

【外島氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、安達氏より分る、遠景の

子、左衛門尉遠基を立家の祖とす。

【添　氏】（姓）津速魂命の後なり。

【染羽國造】（姓）天湯津彦命の後なり。

【祖父江氏】（姓）は藤原氏、其先加治田或は松永を稱し、のち外家の號、祖父江に改む。

家紋 五本骨三扇 丸に扇地紙 桔梗

【曾木氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を家持といふ。

【曾井氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、工藤狩野等の族祖を祐朝といふ。

【曾根氏】（姓）饒速日命の後なり、曾禰氏に同じ。

【曾根氏】姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【曾根氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の流なり、もと興津を稱し、吉重のとき親族、曾根吉次の家號を受け曾根に改む。

家紋 丸に花菱 九曜 劔花菱 三頭左巴 ◉巴は曾根の家紋吉重曾根を稱せしよりこれを用ふ

【曾谷氏】姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、もと富樫を稱し、のち曾谷に改む、宗祐始めて醫門に入り、熊谷壽仙の家號を繼ぐも、なほ本氏を改めずといふ。

家紋 入重桔梗 三扇

【曾禰氏】（姓）饒速日命の六世の孫、伊香色雄命の後なり。

【園　家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗の後なり、持明院家より分る、立家の祖を基氏といふ、基氏の薨去は後宇多

天皇の弘安五年にあり。

基頼(持明院)―通基―基家―基氏(園家)……

【園田氏】姓は荒木田氏、天兒屋根命の後、天見通命より出づ。

【園池家】姓は藤原氏、北家、藤原魚名の三男、末茂の後なり、四條家より分る、立家の祖を宗朝といふ、宗朝の薨去は後西院天皇寛文元年にあり。

【薗田氏】姓は藤原氏、同上、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を足利成行の子、成實といふ。　家紋瓜に唐花

【薗田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を經世といふ。

第四章　頭音た行に屬する姓氏

たの部

【大道寺氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流、通憲の後なり、通憲のち出家して信西と稱し、山城國田原の奥、大導寺に住す、依て苗字とす。　家紋丸に揚羽蝶 丸に大文字

信西……發專(今川氏に屬す)―某―政重―直次―
―直數……

【工氏】(姓)火明命の後なり。

【丹比氏】(姓)火明命三世の孫、天忍男命の後なり。

【丹波國造】(姓)火明命の後なり。

【立花氏】姓は藤原氏、北家、魚名の後、藤原秀郷より出づ、大友氏より分る、立家の

祖を貞載といふ、これ立花宗茂等の家なり、貞載筑後國立花城に居りしにより苗字とす。

立花貞載……鑑連―宗茂―忠茂……（筑後柳河）
◉家紋　祇園守　蘘容　扇祇園守
◉祇園守は宗茂のときより家紋とす
―直次―種次……（陸奥手渡）
◉家紋　祇園守　十寶の内花菱

【立川氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を駄所宗時の男宗恒といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【立河氏】姓ば三枝氏、天津彦根命の後ならん。

【立野氏】（姓）饒速日命十三世の孫、建彦の後なり。

【田井氏】（姓）饒速日命八世の孫、金弓より出づ。

【田口氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、田原氏と同しく、泰廣の後なり。

【田口氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を由木重直の男、田口太郎といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【田中氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を能職といふ。

【田中氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長門の後なり、立家の祖を井伊泰直の弟直家といふ。

【田中氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、小田氏より分る、立家の祖を宍戸家政の弟知氏といふ、駿河國田

中を苗字の地とす。　家紋三頭左巴 四菱柏

知氏……某(信玄に仕ふ)─政利─政長　政重─

正貞─理勝─理信─理長─理以……

【田代氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、工藤狩野等の族、立家の祖を信綱といふ。

【田北氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大伴氏より分る、立家の祖を親泰といふ。

【田原氏】　姓は藤原氏同上、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、祖を泰廣といふ

【田原氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、立家の祖を通經といふ然るに同族鎌田氏、一方には秀郷流とあり、若し然る時には、この氏も自然其流に入ることゝなるべし。

【田村氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を吉澤重能の弟仲教といふ。

【田村氏】　姓は大氏、天穂日命の後なり、立家の祖を仲能といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【田村氏】　姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を忠輔といふ。

【田村氏】　姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を弘綱といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【田島氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を祐明といふ。

【田島氏】　姓は尾張氏、天火明命の後なり、立家の祖を員頼といふ。

【田野氏】　姓は藤原氏、藤原武智麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を祐朝といふ。

【田野氏】　姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流、宇都宮氏より分る、立家の祖を重繼といふ。

【田野氏】　姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、藤原師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を行慶といふ。

【田沼氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を重綱といふ。佐野氏より分る、田沼意次意知等の家なり、下野國安蘇郡田沼邑を苗字の地とす。　家紋七曜九曜丸に一文字

意行—意次—意知—意明—意壹

【田部氏】　(姓)　饒速日命十四世の孫、倭古より出づ。

【田屋氏】　姓は忌部氏、紀伊忌部の後なり。

【田澤氏】　姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流、もと武藤を稱し、監物太郎某より系を起す、七代の後師氏松尾を稱し、其後裔常直田澤を稱すと。　家紋八重楊花黑餅

【田澤氏】　姓は藤原氏、藤原良門の後なり、立家の祖を直通といふ。

【田邊氏】　姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を信輔といふ。

【田邊氏】　姓は藤原氏、藤原師尹の後な

り、熊野別當家より分る、立家の祖を湛快といふ。

【田邊氏】（姓）神魂命五世の孫、天日鷲命の後なり。

【田總氏】姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を重廣（長井時廣次男泰廣の三男）といふ、備後國田總を苗字の地とす猶大江氏の條下を見るべし。

【田那部氏】姓は藤原氏、中將實方の後胤にして敎心（紀州熊野別當）を祖とす。

家紋 丸の内一文字 五本骨扇の内日丸 丸日の扇上に小松二本

敎心—且增—永且—儀且—光且—道且……

【玉井氏】姓は藤原氏、藤原伊尹の後、成田氏より出づ、立家の祖を助實といふ、猶成田氏の條下を見よ。

【玉作氏】（姓）高御魂命の孫、天明玉命の後なり。

【玉祖氏】（姓）高御魂命十三世の孫、大荒木命の後なり。

【只懸氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、藤原高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を憲國といふ。

【竹下氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を西橋賴照の弟長滿といふ。

【竹中氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、大友氏より分る、立家の祖を利根賴親の弟賴直といふ。

【竹本氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀鄕の

後胤なりと。　家紋釘抜桔梗　正重（家康に仕ふ）

─正吉─正時─正參─正森─正頼……

【竹内氏】姓は菅原氏、天穗日命の後、菅原長成二男成光竹内に改む。

家紋丸の内三引梅鉢

【竹田氏】（姓）神魂命十三世の孫、八束脛命の後なり。

【竹田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を頼基といふ。

【竹田氏】姓は藤原氏、北家、藤原公季の後なり、山城守昌慶山城國竹田に蟄居し竹田を稱す。　家紋折入菱　五七桐　十六葉菊　下藤　◉家傳に菊桐は勅許ありて之を用ふと

【竹田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり祖を政長といふ、山城國宇治郡竹田郷を苗字の地とす、　家紋十六葉菊　上藤　五七桐

政長……政次（一に豊政信長に仕ふ）─政長─政清─

─政盛─政武……

【竹尾氏】姓は藤原氏、先祖より三河國竹尾郷に住し、在名を苗字の地とす。

家紋片輪車　某（家康に仕ふ）─元成─清正……

【竹島氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を泉田資清の子資家といふ。

【竹林氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の後なり、宇都宮より出づ、立家の祖を實義といふ。

【竹原氏】（姓）角凝魂命の後なり。

【竹彦氏】　姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼時といふ。

【竹屋家】　姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏の後なり、日野家より出づ、立家の祖を兼俊といふ、兼俊の子、冬俊の薨去は後花園天皇の寛正五年にあり。

仲光(勘解由小路)―兼俊(竹屋)―冬俊―治光―光繼……

【竹澤氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を行高といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【竹田川邊氏】　(姓)　天火明命の後なり。

【多米氏】　(姓)　神魂命五世の孫、天日和志命の後なり。

【多子氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周より出づ、立家の祖を經遠といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【多氣氏】　姓は大伴氏、高皇産靈命五世の孫、天押日命の後なり。

【多氣氏】　(姓)　天八坂彦命の後なり、麻績氏と同族なり。

【多彌氏】　姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼政といふ。

【多良木氏】　姓は藤原氏、南家藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流、工藤相良の族、立家の祖を相良長頼の子、高橋頼行の弟頼氏といふ。

【多賀山氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、立家の祖を通近といふ但其出自につきての關係は懸田氏等と

同じ。

【多羅尾氏】姓は藤原氏、北家、近衛家の流なり、左大臣經平の男、師俊始め高山を稱し、のち近江國甲賀郡信樂庄を領し、多羅尾を苗字とす、師俊十三代の孫を光吉といふ。家紋牡丹藤巴

【宅間氏】姓は藤原氏、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏の支流なり、立家の祖を能俊といふ。

家紋竹の丸に舞雀五七桐　上杉重兼（上杉憲房の養子）
能俊（宅間）—憲重—憲俊……

【宅間氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を行覺といふ。

【伊達氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の玄孫、山蔭より出づ、立家の祖を朝宗といふ、實宗常陸國眞壁郡伊佐庄中村に住す、故に伊佐或は中村を稱す、朝宗に至り、陸奥國伊達郡に住し在名を苗字の地とす。

藤原山蔭……朝宗（伊達）……政宗—氏宗—
—持宗—成宗—尙宗—植宗—晴宗—
—輝宗—政宗—
—秀宗—宗利—京贇……（伊豫宇和島）◉家紋 竹雀 三引兩 鷺鷥
◉鷺鷥瀞は近衛家より讓り受くといふ
—宗純—宗保……（同吉田）◉家紋 竹雀 三段頭 九曜
—忠宗—綱宗—綱村……（奥州仙臺）◉家紋 牡丹 竹に雀 九曜 三引兩 雪薄

◉朝宗の時賴朝より幕紋二段頭を賜はりのち三引兩に改めて家紋とし晴宗また竹に雀を用ひ綱村に至りて近衛基熙公より牡丹の紋を與へられ菊桐は政宗の時太閤より許され九曜雪薄も政宗の時より用ふといふ

┌宗良(田村)……(奥州一の関)◉家紋 三引両 五七桐 茗荷

【但馬海部氏】(姓)天火明命の後なり。

【谷津氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、立家の祖を田中直家の弟直村といふ。

【武島氏】一に竹島に作る、姓は菅原氏美濃部氏より出づ、祖を茂家といふ。

家紋 梅輪内 十六葉裏菊に斧　茂吉(一に茂直佐々木承禎に屬す)─┐
└茂幸─茂成─茂正─茂次─茂敦……

【忠宗氏】(姓)天火明命の後なり。

【垂井氏】姓は大伴氏、高皇産霊命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を家村といふ。

【託摩氏】姓は藤原氏。北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を武敏の子武平といふ。

【託摩氏】「姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、大友氏より分る、立家の祖を親秀といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【高山氏】姓は藤原氏、北家、伊周より出づ、稲島友行の弟、五郎行高を立家の祖とす。

【高木氏】姓は藤原氏、同上、藤原隆家より出づ、立家の祖を文貞といふ、肥前佐賀郡高木を苗字の地とす。

【高市氏】(姓)天津彦根命の後なり。

【高丘氏】(姓)物部麁鹿火大連の後なり。

【高丘氏】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の

子、閑院公季の後なり、四辻家より分る、立家の祖を季起といふ、季起の薨去は中御門天皇の正徳五年にあり。

季定末男―季起―季敦―啟季―紹季……

【高田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道兼の後なり、小田知重の子、八郎左衛門泰重を立家の祖とす。

【高田氏】姓は藤原氏、北家藤原秀郷の流なり、佐藤繼信の末義にして家祖武藏國友成村を領せしより友成を稱し、久重のとき外家の號高田に改む。

家紋丸に桔梗下藤

【高家氏】（姓）神魂命五世の孫、天道根命の後なり。

【高野氏】（姓）大名草彦命の後なり。

【高野氏】姓は藤原氏、藤原兼家の子、道兼の後裔なり、小田氏より分る、立家の祖を田中知氏の弟時家といふ、常州高野庄を苗字の地とす。

【高野家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗の後なり、持明院家より分る、立家の祖を保春といふ、保春の薨去は中御門天皇の正徳二年にあり。

基頼（持明院）（十七代略）―基定
―保春（高野）……

【高辻家】姓は菅原氏、天穂日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を是綱といふ、是綱の薨去は鳥羽天皇の天仁二年にあり。

【高坂氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の

子、伊周の流なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【高崎氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、祖を景直といふ、大友氏より分る。

【高柳氏】　姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を行基といふ。

【高原氏】　姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を景政といふ。

【高原氏】　（姓）饒速日命の後なり、もと韓國氏、桓武天皇の時かく改稱せしものあり。

【高岡氏】　姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の後裔なり、宇都宮の流、山鹿氏より出づ、立家の祖を泰重といふ。

【高倉氏】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を朝方といふ。

【高倉氏】　姓は藤原氏、藤原隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を經泰といふ。

【高倉家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長良の後なり、立家の祖を永季といふ、永季の薨去は北朝後小松天皇の明德三年にあり。

【高倉家】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗の後なり、頼宗六代の孫、重通よりこれを稱す、重通は後白河天皇頃の人なり。

宗通（防門）―重通（高倉）―家通―敦通……

【高倉家】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の後なり、この家號は範季より始まる、範季は鎌倉時代の初期、土御門天皇頃の人なり。

【高城氏】　姓は藤原氏、工藤爲憲の流、二階堂胤行紀伊國に住す、その男胤忠高城に改む、家紋九曜井桁　巴　胤忠―胤辰（北條氏康に屬す）―胤時―胤則　重胤―貞胤……

【高屋氏】　（姓）饒速日命十世の孫、伊己止足尼大連の後なり。

【高屋氏】　姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を元詮といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【高屋氏】　姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を家康といふ。

【高屋氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀鄕より出づ、足利氏の族なり。

【高橋氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を經政といふ。

【高橋氏】　姓は日奉氏、高皇產靈命の後なり、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【高橋氏】　（姓）饒速日命七世の孫、大新河命の後なり。

【高瀨氏】　姓は藤原氏、藤原隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を武尙といふ。

【高瀨氏】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の

後なり、立家の祖を久盛といふ。

【高狩氏】（姓）饒速日命の後なり。

【高貞氏】（姓）天火明命の後なり。

【高松氏】姓は伴氏、天押日命の後なり立家の祖を資綱といふ。

【高松家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、三條家より分る、立家の祖を重季といふ。重季の薨去は櫻町天皇の延享二年にあり。

公時（三條西）―（七代略）―公種（武者小路）―實陰―重季（高松）

【高嶽氏】姓は大江氏、大江廣元の後なり、立家の祖を知廣といふ。猶大江氏の條下を見るべし。

【高國造】（姓）天穗日命の後なり。

【高智尾氏】姓は大神氏、大國主命の後なり、立家の祖を植田季定の弟政季といふ。

【當世氏】（姓）饒速日命の後なり、もと巫部氏、仁明天皇の時此姓を賜はりしものなり。

【楯縫氏】大日本史に從へば、紀伊忌部氏の後なりといふ。

【駄所氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を由井宗弘の男、將貞の子、爲貞といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【橘氏】姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を師篤といふ。

【蝮部氏】（姓）火明命十一世の孫、蝮壬生犬手の後なり。

【舘野氏】姓は藤原氏、北家、魚名の後、藤

原秀鄕の流なり、亘經淸の後裔俊淸の末流なり。　家紋九曜三巴

【醍醐家】　姓は藤原氏、北家、藤原忠通の子、兼實の後なり、攝家一條家より分る、昭良の二男冬基始めてこれを稱す、冬基の薨去は東山天皇の元祿十年にあり。

【瀧田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を貞隆といふ。

【瀧本氏】　姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師平の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を快命といふ。

【瀧川氏】　姓は大伴氏、天押日命より出づ、其先を資淸といふ。　これ瀧川一益等の家なりといふ。

【鷹司家】　姓は藤原氏、北家、藤原家實の子、兼平に始まる、近衛家の分流なり、攝關家として名高し、兼平の薨去は伏見天皇の永仁二年にあり。

基實(近衛)—基通—家實—┬兼平(鷹司)—┬基忠—冬平—冬敎……
　　　　　　　　　　　└兼經

【鷹司家】　姓は藤原氏、北家、藤原師實の子、經實より出づ、大炊御門家より分る、立家の祖を賴平といふ、賴平は後堀河天皇頃の人なり。

經實(大炊御門)—經宗—賴實—賴平(鷹司)……

【鷹尾氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、大友氏より分る、立家の祖を禪能といふ、猶大友氏

の條下を見るべし。

【鷹司流松平氏】 姓は藤原氏、鷹司太閤信房の子、信平徳川將軍家光より松平の號を授けられ、これを稱す。

信平—信正—信清—信友……(上野矢田)

ちの部

【力石氏】 姓は藤原氏、北家道兼五代の孫、八田知家男、茂木知基六代兵庫某の子力石重正の後なり。

【千秋氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の四男、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司家より分る、立家の祖を範時といふ。

熱田大宮司季兼—季範—範信—憲朝—範時—範頼……

【千秋氏】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を頼成といふ。

【千野氏】 姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【千若氏】 姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を行村といふ。

【中條氏】 姓は藤原氏、北家、冬嗣の子、長良の流なり、樋口信孝の男信慶、外家の稱を冒して中條に改む。 家紋釣巴 九枚篠龍膽

【近岡氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を横江基光の弟利明といふ。

【知々夫國造】（姓）高皇産靈命の後なり。

【長　氏】（姓）大國主命の子、事代主命の後なり。

【長　氏】姓は物部氏、初め治承の亂、兵衛尉長谷部信連、勇を以て聞ゆ、頼朝これを賞し、邑を能登に賜ふ、子孫こゝに居り長を以て號とす、猶皇別長氏の條下を見よ。

【持明院家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗の後なり、此家號は基頼より始まる、基頼の薨去は鳥羽天皇の保安三年にあり。

藤原道長─頼宗─俊家─基頼(持明院)─┐
┌──────────────────┘
└通基─基家……

【秩父氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周より出づ、立家の祖を行重といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【税部氏】（姓）神魂命の子、角凝魂命の後なり。

【道守氏】（姓）饒速日命の後、物部氏の族なり。

つの部

【土田氏】姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【土御門家】姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏より出づ、日野家より分る、立家の祖を保光といふ。

資明(柳原)─保光(土御門)─資家……

【土御門家】姓は大中臣氏、藤原氏と同祖

天兒屋根命の後なり、立家の祖を蔭直といふ。

【月輪家】 姓は藤原氏、北家、藤原忠通の子、兼實これを稱ふ。攝關家として有名なる九條家等は、これより出でたるものなり。

【坪内氏】 姓は藤原氏北家、藤藤房前の子、魚名の後藤原利仁流なり、富樫氏より分る、其先を長康といふ。 家紋上藤内左鎌丸の内洲濱

【妻住氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、高木氏より分る、立家の祖を守光といふ。

【津氏】 (姓) 饒速日命六世の孫、伊香我色男命の後なり。

【津島氏】 (姓) 津速魂命三世の孫、天兒屋根命の後なり。

【津守氏】 (姓) 火明命八世の孫、大御日足尼の後なり。

【津守氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、秀郷の流なり、大友氏より分る、祖を貞能といふ。

【津門氏】 (姓) 饒速日命六世の孫、伊香我色男命の後なり。

【津輕氏】 姓は藤原氏、祖を政信といふ關白藤原尚通の猶子となり、藤原氏を稱せしなり、其先、久慈氏、又大浦氏を稱す、爲信の時より津輕に改む。 家紋魚葉牡丹杏葉牡丹

政信(天文十年死す)—守信—爲信—信枚—信義—

—信政—信壽……

【津大江氏】 (姓) 天津彦根命の後なり。

【都筑氏】　姓は藤原氏、藤原魚名の後、利仁の流なり、齋藤氏より出づ、立家の祖を成利といふ、武藏國都筑郡を苗字の地とす。　家紋一文字の下に三ツ丸、一文字下に鱗

成利……景久―景成(信長に仕ふ)―泰景―法景……

【都野氏】　姓は藤原氏、北家、宇都宮氏の末流なり、先祖石見國那賀郡都野郷に住せるを以て在名を苗字の地とす。

【春米氏】　(姓)　饒速日命の後なり。

【筑紫國造】　(姓)　饒速日命の後なり。

【筑紫氏】　(姓)　饒速日命の子、味眞治命の後なり。

【筑紫氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、初め武藤を稱し、尙門のとき筑前國筑紫村に住せしより在名を苗字とす。　家紋寄掛目結弓矢

【堤家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を輝長といふ、輝長の卒は靈元天皇の延寶五年にあり、

【堤氏】　姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【筒井氏】　姓は藤原氏、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を湛曉といふ。

【塚目氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、伊達氏より分る。

【椿井氏】　姓は藤原氏、北家、房前の後、賴通の流、賴經の三男氏房大和國椿井に住せしより苗字とす。　家紋十六葉裏菊下藤

政勝（足利氏に仕ふ）—政吉—政長—政次—正興……

【對馬氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、少貳氏より分る、猶小貳氏の條下を見るべし。

【對馬縣主】（姓）天穂日命の後なり。

【築井氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を親茂といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【積組氏】（姓）饒速日命の後なり。

【鶴田氏】姓は藤原氏、北家、秀郷の後、下河邊行義の裔、幸島行時の末葉なり、祖を武久といふ。　家紋（三柏葉抛筆 鶴の丸）

【鶴見氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を時直といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【鶴原氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり。熊野別當家より分る、立家の祖を行範といふ。

ての部

【寺氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司家より分る。

【寺部氏】姓は藤原氏、北家藤原道長の子、長家の後なり、立家の祖を有俊といふ此苗字につきても、懸田氏の如く同一の疑を述ふるを得、猶懸田氏の條下を参照せよ。

との部

【戸川氏】姓は藤原氏、もと越智氏にして河野通信の後胤、稲葉通弘四代富川正實備中國兒島に仕し、宇喜多能家に仕ふ定安より藤原氏となり、男秀安のときより戸川に改む。家紋梅鉢 丸に二引 三本杉 五九桐

定安―秀安―逵安―正安―安宣……

【戸矢氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を有綱といふ。

【戸田氏】家傳に曰はく、其先祖は閑院公季の流なる、三條家より出づと、然れば姓は藤原氏北家の流なり、此苗字は宗光尾張國戸田邑に配せられしより來りしものなり。

閑院公季……實光―宗光(戸田)―憲光―
- ―政光―康光―
- ―宣光―重貞―忠重……(信州松本)◎家紋 六星 蔦 連翹 唐花 ◎東照宮より葵の紋を許さると雖も後代に至りて之を用ひず
- ―光忠―忠次―清光―尊次―忠能―
  - ―忠昌……(下野宇都宮)◎家紋 六星 蛇目 連翹 唐花
  - ―忠利……(下野足利)◎家紋 同前
- ―一氏―氏輝―氏光―一西―氏鐵―
  - ―氏信……(美濃大垣)◎家紋 九曜 三柏 七星 菊菱 蛇目 ◎始め六星を用ひ氏鉄のとき九曜に改む
  - ―氏經……(同大垣新田)◎家紋 九曜 蛇目

【戸田氏】姓は藤原氏、其先黑田を稱し由俊のとき戸田に改む。家紋六星 藤巴

【戸室氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、芝田行綱の弟、七郎親綱を立家の

祖とす。

【戸倉氏】 姓は藤原氏、藤原道兼の流、宇都宮氏の族なり、立家の但を時朝といふ。

【戸祭氏】 姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、佐野氏より分る、立家の祖を景綱といふ。

【戸澤氏】 姓は藤原氏、立家、藤原秀郷の流なり、大友親秀の男、左近大夫重秀を立家の祖とす。

【戸奈良氏】 姓は藤原氏、藤原房前の子、魚名の後、秀郷の流なり、立家の祖を宗綱といふ。

【戸屋子氏】 姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、足利氏の族なり。

【斗内氏】 姓は藤原氏、北家、道兼より出づ、宇都宮氏より分る、立家の祖を綱彦といふ。 家紋三頭左巴

【外山家】 姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏より出づ、日野家より分る、立家の祖を光顯といふ、光顯の薨去は櫻町天皇の元文三年にあり。

日野資實……(十六代略)—弘資—光顯(外山)……

【伴氏】 (姓) もと大伴氏、天押日命の後なり、淳和天皇の朝に至り、大伴國道天皇の諱大伴を避けて單に伴といふ。

【伴田氏】 姓は藤原氏、藤原魚名の後なり、立家の祖を伊傳といふ。

【伴野氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、安達氏より分る、立家の

祖を遠弘といふ。

【利光氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、大友氏より分る、其先を泰廣といふ、猶大友氏の條下を見よ。

【利根氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、大友氏より分る、立家の祖を賴親といふ、猶大友氏の條下を見よ。

【利根氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を成次といふ。

【泊江氏】姓は日奉氏、神魂命の後なり、立家の祖を泊江大夫といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【洞院家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、西園寺家より分る、立家の祖を公守といふ、公守は花園天皇頃の人なり。　西園寺通季―公通―實宗―公經―實雄―公守(洞院)……

【迹見氏】(姓)　饒速日命の後なり、登美氏に同じ。

【砥川氏】姓は藤原氏、北家、藤原隆家の後なり、菊地隆定の弟、三郎秀直を立家の祖とす。

【都佐國造】(姓)　大國主命の後なり。

【鳥見氏】(姓)　饒速日命の後なり、登美氏に同じ。

【鳥方氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を義家といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【鳥谷氏】姓は藤原氏、久慈氏より分る、祖を宗但といふ、陸前九戸郡鳥谷村を苗字の地とす。家紋七曜梅鉢

【鳥部氏】(姓)饒速日命の後なり。

【鳥取部氏】(姓)神皇産靈命の後なり。

【得永氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先を時直といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【富田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を鹽谷家遠の弟親家といふ。武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【富田氏】姓は藤原氏、藤原師輔の後なり、立家の祖を範仁といふ。

【富田氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、幡豆氏より分る、立家の祖を助弘といふ。

【富田氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を善家といふ。

【富永氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、大友氏より分る、其先を泰廣といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【富永氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を設樂資時の子、資隆といふ

【富澤氏】姓は藤原氏、北家、秀郷の流、佐藤公光の後裔なり、奥州富澤の住人、富澤新太郎光利の後なり。家紋九曜釘貫

【富樫氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の

子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を家國といふ、此苗字は加賀國石川郡富樫鄕の地名より來れるものなり。

叙用(齋藤)—吉信—忠頼—吉宗—宗助—家國(富樫)……

【富小路家】姓は藤原氏、北家、藤原兼實の後なり、攝關家二條道平の子、道直より出づ。

【等禰氏】(姓)椎根津彦命の後なり。

【登美氏】(姓)饒速日命六世の孫、伊香我色雄命の後なり。

【殿村家】姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を爲仲といふ。

【遠山氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、加藤氏より分る、立家の祖を景氏といふ、加藤景廉の孫なり。家紋丸に二引◉(家傳に始めは丸に九字を用ふといふ)

【遠田氏】姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼種といふ。

【遠江國造】(姓)天穗日命の子、建比良鳥命の後なり。

【遠淡國造】(姓)饒速日命の後なり。

【德大寺家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、公季五世の孫、實能より、此家號は起れり、實能の薨去は後白河天皇の保元元年にあり。

公季—實成—公成—實季—公實—實能(德大寺)……

【豐田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏よ

り分る、立家の祖を大桑利光の弟光成といふ。

【豊田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を武光といふ。

【豊岡家】　姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏の後なり、日野家より分る、立家の祖を有尚といふ、有尚の卒は靈元天皇の天和二年にあり。

日野資實―(十六代略)―弘資―有尚(豊岡)―

【豊饒氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、大友氏より分る、其先を景直といふ猶大友氏の條下を見るべし。

【豊國造】　(姓)　天穗日命の後なり。

【藤堂氏】　藤原氏の支流なりと、これ藤堂高虎の家なり、然るに一方には宇多源氏佐々木氏の流となすあり、今兩說を併用し參考に供ふ。

第五章　頭音な行に屬する姓氏

なの部

【中山氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の流なり、立家の祖を通元といふ此苗字につきて、懸田氏、熊谷氏の如く、同一の疑問を提する得べし、それ等の氏を參照せよ。

【中山氏】　家傳に曰はく、姓は藤原氏、高藤十代の孫中山中納言顯時の後なりと

家紋三文字松皮

顯時……重時—勝時（信長に仕ふ）—勝政—重時—
　—幸時……時長—政時……

【中山家】　姓は藤原氏、北家、藤原師實の子、家長の後なり、花山院家より分る、立家の祖を忠親といふ、忠親の薨去は後鳥羽天皇の建久六年にあり。

家忠（花山院）—忠宗—忠親（中山）—兼宗—
　—忠定……

【中山氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る立家の祖を蛇塚定氏の子、經村といふ。

【中山氏】　姓は伴氏、天押日命の後なり立家の祖を景弘といふ。

【中臣氏】（姓）　津速魂命三世の孫、天兒屋根命より出づ、子孫大に繁榮せり、就中中臣鎌足の流、藤原氏を稱し、最も著はる又中臣氏より出でたる復姓には、中臣宮處氏、中臣酒人氏、中臣方岳氏、中臣志斐氏中臣大家氏、中臣高良比氏、中臣束氏、中臣藍氏、中臣大田氏、中臣酒屋氏、中臣表氏、中臣殖栗氏、中臣小殿氏、中臣鹿島氏、中臣丸氏、中臣殿來氏中臣美濃氏等頗る多し。

【中井氏】　姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を伴景氏の子、實景といふ。

【中川氏】　姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

【中川氏】　姓は藤原氏、南家巨勢麻呂の後にして、淸兼の庶流なりといふ。

家紋　鳩酸草　丸に鳩　七曜　牡丹花　花菱

【中方氏】　姓は中臣氏、天兒屋根命の後

なり、立家の祖を盛家といふ。

【中村氏】(姓) 同上、天兒屋根命の後なり。

【中村氏】 姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を助隆といふ。

【中村氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を實光といふ。

【中尾氏】 姓は藤原氏、南家、乙麻呂の後爲憲の流なり、工藤の支族にして伊勢國長野庄に住し、長野を稱し、後同國中尾鄕に移り中尾と改む。

【中原氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道兼の後なり、宇都宮宗綱の弟大和守宗房を立家の祖とす。

【中馬氏】 姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を忠廣といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【中畠氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を晴定といふ。

【中宮氏】 姓は藤原氏、式家、藤原宇合の後、忠文の流なり、立家の祖を時方といふ。

【中岩氏】 姓は藤原氏、北家、藤原師輔の流なり、立家の祖を範秀といふ。

【中地氏】 姓は藤原氏、北家、閑院公季の後なり、滋野井實國十三世の孫、友古を祖とす。

【中坊氏】 姓は藤原氏、南家、武智麻呂の男、豐成三代秀淸大和國吉野奈良に生る

るにより奈良を稱し秀祐に至り中坊に改む。家紋繫梅鉢（◉もと五梅を用ひしも繫梅鉢に改む）

秀友—秀定—盛祐—秀祐（筒井順慶に屬す）—秀政……

【中岡氏】姓は三原氏、北家、藤原秀郷流なり、その先日野邊或は木下を稱す、光利紀伊國根來寺の住職なりしが、後還俗して中岡に改む。家紋井筒の內上藤釘拔澤瀉

【中野氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を景信といふ。家紋丸に三階葵

【中野氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、立家の祖を井伊忠直の男直房といふ、三河國中野村を苗字の地とす。家紋鷹羽八枚車丸に鳩鳩草

重直—重吉（一に尹重）—重弘—弘吉—尹政—

—尹久—尹良……

【中野氏】姓は日奉氏、高皇產靈命の後なり、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【中條氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の後なり、小田氏より分る、立家の祖を宗長といふ。

【中條氏】姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を經盛といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【中條氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を設樂資兼の弟、致弘といふ。

【中沼氏】姓は藤原氏、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を小山政光の男宗政といふ。

【中莊氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻

呂の子、乙麻呂の後なり、工藤、狩野等の族より出づ、立家の祖を橋爪維次の子、維忠といふ。

【中島氏】　姓は大江氏、天穂日命の後なり、麻原實廣弟、左馬介忠廣を祖とす。

【中島氏】　(姓)　神皇產靈命の後なり、鴨氏より出づ。

【中島氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、秀郷の流なり、波多野義通の男、伊勢守義職(一に義元)の五男義泰を祖とす。

・家紋　龜甲劔花菱　九曜巴

【中園家】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、四辻家より分る、立家の祖を季定といふ、季定の薨去は靈元天皇の貞享三年にあり。

【中江川氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を舟越增綱の弟高綱といふ。

【中御門家】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、賴宗の後なり、賴宗の孫、宗俊始めて中御門家を稱す、宗俊は平安朝時代末頃の人なり。

藤原道長―賴宗―俊家―宗俊(中御門)―
―宗忠―宗能……

【中御門家】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、立家の祖を家成といふ。

【中御門家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を經繼といふ、經繼の薨

去は後醐醍天皇の嘉曆元年にあり。

【中臣習宜氏】（姓）饒速日命の孫、瓊杵田命の後なり

【中臣熊凝氏】（姓）同上、瓊杵田命の後なり

【中縣國造】（姓）神皇產靈命の後なり

【內藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、行俊に至り、其父賴俊、內舍人たりし故を以て、內藤氏を稱す。

藤原千晴—千淸—賴淸—賴俊—行俊（內藤）……義晴—淸長—家長—政長—忠興—義泰……

（日向延岡）◉家紋　下藤丸　桐　卷絹　唐鳩酸草　◉桐は小田原陣のとき大閤より賜ふ鐵砲の紋なりしを家紋とすまた唐鳩酸草は義考の時より用ふと

—政亮……（陸奥湯長谷）◉家紋　桐　下藤の丸

—信成—信正—信照……（越後村上）◉家紋　下藤丸　軍配團扇　万字

—淸政—忠政—淸成……（信濃高遠）◉家紋　下藤丸　丸に十文字　五七桐

—正次……（信濃岩村田）◉家紋　下藤丸

◉正勝のとき丸に一文字を家紋とす子重賴忠松殿の傳たりしときこの紋の服を着せしとき堅に一畫を加へこれを家紋とせよとの仰あるにより十文字に改めその子淸枚に下藤內に十文字を用ひ子賴稍に至りて五七桐を加ふといふ

【中草氏】姓は渡會氏、神皇產靈命の後なり、廣雅に至りこれを稱ふ。

【永井氏】姓は大江氏、長井氏に同じ、後條長井氏の條下を見よ。

【永里氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を基季といふ。

【永富氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻

呂の子、乙麻呂の流、工藤相良の族なり、立家の祖を相良頼親の子頼明といふ。

【永島氏】 姓は藤原氏、北家、秀郷の流、結城朝光の後胤、酒井高利の末男、光林北條氏直に仕へ、後永島一雲と改む。

【永野氏】 姓は藤原氏、北家、藤原隆家の流なり、菊池隆直の子、太郎隆永を祖とす。

家紋丸の内劔酸漿 左三巴

【仲氏】 (姓) 高皇産靈命の後なり。

【仲丸子氏】 (姓) 同上、高皇産靈命の後なり。

【成田氏】 姓は藤原氏、藤原伊尹の後なり、立家の祖を助高といふ、成田氏を以て道長の孫、任隆の後とするものあり。

藤原伊尹―○―基忠―宣直―家忠―道宗―助高(成田)―助廣―廣能……

【成松氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先重秀より出づ、猶大友氏の條下を見よ。

【成瀬氏】 姓は藤原氏、北家、攝家なる二條道平の男、良基三河國加茂郡足助庄に寓居し二子を設く、長を公達、次男を基久といふ、共に足助庄成瀬鄕に住し在名を苗字の地とす。 家紋下藤丸 丸に一文字 丸に鳩酸草

基久―元直―政直―直庸―國平……

【成瀬氏】 姓は藤原氏なり、系譜燃亡其先を知る能はず、正賴を以て始めとすといふ。

【那波氏】 姓は大江氏、天穂日命の後な

り。立家の祖を宗元といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【那波氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、足利氏の族なり。

【那須氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、初め須藤を稱す、立家の祖を宗資といふ、一族頗る廣く、那須與一宗隆等の家なり、下野國那須郡那須城は其居城地なり。　家紋一文字の下十六葉菊 丸に一文字 左三巴

須藤貞信(道家の男)―資通―資滿―資房―

宗資(那須)―資隆―宗隆―資之……

【那須氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を資永といふ、此那須氏と前項の那須氏とは、もと同一の流なるを錯誤のため二流に分れたるならんか。

【那珂氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、立家の祖を通資といふ。

【波田氏】　姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼國といふ。

【奈良氏】　姓は藤原氏、藤原伊尹の後、成田氏より出づ、立家の祖を高長といふ、猶成田氏の條下を見よ。

【直下氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【直尻家氏】　（姓）　神皇産靈命の後なり。

【長山氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻

呂の子、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司家より分る、立家の祖を能藤といふ。

【長井氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後藤原利仁の流なり、齋藤實盛武藏國幡羅郡長井庄に仕せるにより長井の齋藤と稱す、其子盛房、子實忠八代則經二男を利經といふ、其七代實通の弟則通四代の孫利季といひ、武田信玄に仕ふ

家紋 組井桁 八藤 藤丸 降雪 吉文字 ◉家傳に組井
軍配團扇 丸に七曜 井桁 菱 桁は吉昌駒井
家より出で長井家を繼ぎしを以て武田勝頼の命に
より駒井長井の井文字を重ねて家紋とすといふ

利季—吉成—吉昌—吉次—吉勝—吉章……

【長井氏】 同上實通の男正實より出づ。

家紋 角切角の内五本骨開き扇 下藤

正實(信玄勝頼に仕ふ)—實久—盛實—正實—實直……

【長井氏】 姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を廣元二男時廣といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【長合氏】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤の後なり、上杉氏より分る、立家の祖を藤明といふ。

【長坂氏】 姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、祖を藤田經家の子經綱といふ。

【長坂氏】 姓は物部氏、饒速日命の後なり。

【長柄氏】 (姓) 大國主命の子、天乃八重事代主神の後なり。

【長和氏】 姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を泰經といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【長沼氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、立家の祖を孝綱といふ、此苗字はもと下野國芳賀郡長沼の地を食みしより來れるものなり。

【長沼氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を職任といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【長倉氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、工藤狩野等の族、立家の祖を祐氏といふ。

【長岑氏】姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

【長野氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤親光これを稱す。

【長瀧氏】藤原氏の支流なりといふ、正治（天正年頃の人）といふものより系現はる。家紋丸に三鱗右三巴

【長岡氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を盛行といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【長岫氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【長鹽氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の末流、足利房長長墟を稱す、房長より十代秀綱の後なり。家紋丸に左上文字五本骨總扇　三柏

某（一に正平信玄に仕ふ）―某―正家―正勝―正武……

【長澤氏】姓は藤原氏、北家、眞夏より出

づ、日野弘資男外山光顯二男資親長澤を稱す。家紋鶴丸

【長瀨氏】姓は藤原氏、藤原道家より出づ、菊池氏の支流なり、立家の祖を甲斐式本の弟武成といふ。

【長國造】(姓) 大國主命の後なり。

【鳴瀨氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を越生有行の男有年といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【南條氏】姓は藤原氏、北家、藤原隆家の後なり、薩摩祐能の子、十郎祐廣を立家の祖とす。

【鍋島氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後藤原秀鄕の流なり、左衞門尉季喜、肥前國小津鄕龍造寺村に住し龍造寺を稱し、後代に至り鍋島加賀守直茂其家を相續し、これより鍋島を稱す。

直茂—勝茂—忠直……(肥前佐賀)◉家紋 杏葉 茗荷丸 桐
　　　　　　◉龍造寺家紋は日に日足なりと
　　　　├元茂……(肥前小城)◉家紋 四目結 入角の內茗荷丸
　　　　└直澄……(同蓮池)◉家紋 十二日足 茗荷丸
　　└忠茂—正茂……(同鹿島)◉家紋 牡丹 茗荷丸

にの部

【難波家】姓は藤原氏、北家、藤原師實の子、忠敎より起る、忠敎の薨去は崇德天皇の永治元年にあり。

【二宮氏】姓は日奉氏、高皇産靈命の後なり、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【二宮氏】　姓は藤原氏、北家、藤原隆家の後なり、西郷隆基の男、式部少輔隆季を立家の祖とす。

【二條家】　姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道綱の後なり、この家號は五代の孫、定能より始まる、定能は鎌倉時代初頃の人なり。　藤原兼家―道綱―兼經―敦家―敦兼―季行―定能（二條）……

【二條家】　姓は藤原氏、北家、藤原兼實の後なり、道家の子、良實始めてこれを稱す攝關家として有名なる家なり、良實の薨去は龜山天皇の文仁七年にあり。
兼實（九條）―良經―道家―敦實
―良實（二條）―師忠―兼基―道平―
―實經

【二條家】　姓は藤原氏、北家、藤原道長四代の孫、俊成の後なり、御子左家より出づ俊成の曾孫爲氏これを稱す。

【二條家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を定高といふ。

【二階堂氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、立家の祖を維遠といふ。　工藤爲憲―時理―時信―維遠（二階堂）―維兼―維行―行遠―行政―行光―行盛……

【丹生氏】　（姓）　神皇產靈命の後なり。

【丹生氏】　姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、宇都宮氏より分る、立家の祖を時綱といふ。

【丹羽氏】 姓は藤原氏、始め武藤兒玉黨(藤原道隆の子伊周の後)中頃、尾張に移り斯波氏に仕ふ、尾張國丹羽郡を苗字の地とす。 家紋違棒三木瓜 三葉笹 ◉長秀の時より違棒を用ふ

長政―長秀―長重―光重―長次……(陸奥二本松)

【西氏】 姓は藤原氏、北家、藤原隆家の後なり、菊池武政の子、右馬介良政を立家の祖とす。

【西氏】 姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を宗守といふ、武藏七黨の一なる西黨とは此族をいふ。

【西山氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、後藤氏より分る。

【西山氏】 姓は藤原氏、藤原道兼の流、宇都宮氏より分る、立家の祖を賴綱といふ

【西目氏】 姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を吉川親光の弟公廣といふ猶大江氏の條下を見るべし。

【西方氏】 姓は藤原氏、藤原道兼の流、宇都宮氏の族なり、立家の祖を武藤泰宗の子、景泰といふ。

【西守氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を季綱といふ。

【西原氏】 姓は藤原氏、始め吉村を稱し後西原に改む、吉村清延を祖とす、土佐國高岡郡仁井田庄西原を苗字の地とす。

【西宮氏】 姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を貞正といふ、武藏七黨の一な

る西黨に屬す。

【西島氏】 姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を時忠といふ。

【西橋氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤祐良の族、立家の祖を頼照といふ。

【西河原氏】 姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【西木戸氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後藤原秀郷の流なり、秀衡の子國衡を以て祖とす。

【西大路家】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、四條家より分る、立家の祖を隆政といふ、隆政の薨去は北朝光嚴天皇の正慶元年にあり。

【西四辻家】 姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、西園寺家より分る立家の祖を公碩といふ。

【西邉部氏】 (姓) 神皇産靈命の後なり。

【西大立目氏】 姓は藤原氏、南家、乙麻呂の後なり、二階堂宗貞の子、貞宗次男行直を祖とす。

【如法寺氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先秦廣より出づ、猶大友氏の條下を見るべし。

【和太氏】 (姓) 天兒屋根命の後なり。

【新生氏】 姓は藤原氏、藤原伊周の後なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【新屋氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の

子、伊周の後なり、立家の祖を行村といふ

武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【新屋氏】（姓）饒速日命の後なり。

【新里氏】姓は藤原氏、藤原伊周の後なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【新海氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良方の流なり、立家の祖を義久といふ

【新治國造】（姓）天穗日命の後なり。

【蜷川氏】姓は宮道氏、物部守屋の後なり、親直に至り、氏を蜷川と稱す、越中國新川郡蜷川を苗字の地とす。

家紋 盒子箸丸に五松皮菱

親直（建久年頃）—親綱—親順—親世—親長—親滿—親房

【錦戸氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、和泉義郎道衡の弟、太郎頼衡を祖とす。

【錦部氏】饒速日命の十二世の孫、物部目大連の後なり。

【錦織氏】姓は卜部氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を從久といふ、從久の薨去は桃園天皇の寶曆五年にあり。

【贄土師氏】（姓）天穗日命十六世の孫、意富曾婆より出づ。

ぬの部

【沼田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を實經といふ。

【沼間氏】天兒屋根命の後、大中臣清浦より出づ、始め沼一字なりしが清春に至

りて沼間と稱す。家紋丸に間の文字左藤巴

清春―清定―行清……與清―清許―清芳……

【沼邊氏】姓は藤原氏、太田資道の男、資寛次男資仲を祖とす、陸前柴田郡沼邊を苗字の地とす。

【怒麻國造】（姓）天湯津彦命の後なり。

【貫名氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、立家の祖を井伊盛直の三男政直といふ。

【漆部氏】（姓）饒速日命の後なり。

【額田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を通榮といふ。

【額田部湯坐氏】（姓）天津彦根命の後なり。

【額田部河田氏】（姓）天津彦根命の後なり。

ね の 部

【根木氏】（姓）津速魂命の後なり。

の の 部

【野上氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を師則といふ。

【野木氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を片田頼基の後時員といふ。

【野矢氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を俊綱といふ。

【野内氏】姓は大伴氏、神皇産靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を時兼といふ。

【野本氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の

子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を基員といふ。

【野田氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司家より分る、立家の祖を季兼といふ。

【野呂氏】　姓は三枝氏、天津彦根命の後なり、三枝守國の子守將野呂介と稱すこれより後、野呂と稱す。　家紋（菴の内勝一の文字向蝶）

【野宮家】　姓は藤原氏、北家、藤原師實の子、家忠の後なり、花山院家より分る、立家の祖を定逸といふ、定逸の薨は明曆四年にあり。

【野津氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を賴宗といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【野間氏】　姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流、波多野義通の後裔にして宗善尾張國に仕し野間を稱す。　家紋（蕘菜茗荷）（一に丸に茗荷或は打違鷹羽）

宗善（永祿頃）―宗安―某（織田信包に仕ふ）―成岑―
|―成大―成之……

【野邊氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂より出づ、工藤狩野等の族なり、立家の祖を太田清家の子家貞といふ。

【野邊氏】　姓は藤原氏にて藤原秀郷の流なり、立家の祖を義行といふ。

【野邊氏】　姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

第六章　頭音は行に屬する姓氏

はの部

【八田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の後なり、小田氏より分る、立家の祖を知家といふ。　宗圓(宇都宮)―宗綱―知家(八田)―知尚―知定―重家……

【八條家】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、四條家より分る、立家の祖を隆英といふ。　隆英の薨去は桃園天皇の寶曆六年にあり。

【八條家】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、三條家より分る、立家の祖を公清といふ、公清は順德天皇頃の人なり。　公季―實成―公成―實季―公實―實行(三條)―公教―實國(滋野井)―公清(八條)……

【八條家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、葉室家より分る、立家の祖を長方といふ。

【八條家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長良の後なり、立家の祖は長良の子、國經なり。

【八條氏】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を朝顯といふ。

【土師氏】　(姓)　天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の子、野見宿禰より出づ。

【丈部氏】　(姓)　神魂命の孫、武津見命の

後なり。

【爪工氏】(姓) 神魂命の後なり。

【羽太氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、立家の祖を保範といふ。

【羽太氏】姓は藤原氏、北家、藤原利仁の後裔なりと。家紋井筒の内に花澤瀉鶴丸

正次(家康に仕ふ)―正俊―正成―正忠―正員―正方……

【早川氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤氏より分る立家の祖を祐光といふ。

【初鹿野氏】姓は藤原氏、北家藤原利仁の流、加藤景廉の後胤なり、昌久のとき信玄の命により初鹿野と稱す。家紋丸に花菱

【伯伎國造】(姓) 天穂日命の後なり。

【坊門家】姓は藤原氏、北家藤原兼家の子、道隆の後なり、道隆六代の孫、信隆に至りこれを稱す、信輔は平安朝時代末頃の人なり。

藤原道隆…隆家―經輔―師信―經忠―信輔―信隆(防門)……

【坊門家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗の後なり、この家號は宗通に始まる。

基頼(持明院)―通基…宗通(坊門)……

【坊城家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勧修寺家より分る、立家の祖を俊實といふ俊實の薨去は北朝崇光天皇の觀應元年にあり。

【伴氏】姓は大伴氏、大伴宿禰武持の後裔、伴國道の末流なり。家紋丸に林檎 菊木爪

兼景—賓勝—盛兼（信長に屬す）—重盛—盛政
—政繼—政信—定政……

【花井氏】姓は藤原氏、祖は鎌足十代の孫、季兼なりといふ。

【花園家】姓は藤原氏、北家、師輔の子、閑院公季の後なり、三條家より分る、立家の祖を實敦といふ、公久の薨去は明正天皇の寛永九年にあり、

公氏（正親町三條）—（十一代略）—公兄—實敦—公久（花園）……

【長谷部氏】（姓）饒速日命十一世の孫、千速見命の後なり。

【長谷川氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、小河邊政義二男小川政平より三代、政宣大和國長谷川に住せるにより在名を苗字の地とす。家紋左三藤巴釘拔

正長（今川義元に仕ふ）—正成—正登—正定
—正利—正冬—正直……

【長谷川氏】姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を貞言といふ。

【長谷川氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を宗重といふ、家傳に宗重十五代の孫、宗茂、義政より長谷川の稱號を賜ふといふ。

家紋丸の内に堅三引三藤左巴

公澄—知基……宗仁—守知—正尚—守俊……

【長谷山氏】（姓）饒速日命の後なり。

【長谷置始氏】（姓）同上、饒速日命の後なり。

【波多家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、賴宗の後なり、中御門家より分る、立家の祖を基維といふ、後六角家と稱す。

【波多野氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後藤原秀郷の流なり、立家の祖を經範といふ、波多野秀治の家なり。

秀郷—千常—(三代畧)—經範—經秀—秀遠—遠義……

【波多門部氏】 (姓) 神皇產靈命の後なり。

【波久岐國造】 (姓) 天湯津彥命の後なり。

【林氏】 (姓) 天押日命の後、大伴室屋大連の子、御物宿禰の後なり。

【林氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷より出づ、立家の祖を行房といふ。

【林氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を貞宗といふ。

叙用(齋藤)—吉信—忠賴—吉宗—宗助—貞宗(林)……

【林氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を蛇塚定氏の子隆香といふ。

【林氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、工藤狩野等の族立家の祖を家俊といふ。

【林部氏】 姓は三枝氏、天津彥根命の後ならん。

【林原氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を菊池隆定の子隆益といふ。

【服部氏】 (姓) 天御中主命十一世の孫天御桙命の後なり、允恭天皇の御宇織部

司に任し諸國の織部を摠領するにより服部連と號し、其子孫伊賀國阿拜郡服部鄕を領し、諸國に遊仕すと。家紋八桁車の内堅矢筈二

保安（一に正種・義晴）（一に仕ふ）―正成―正就……

【春江氏】（姓）高皇産靈命より出づ、浮穴氏の後なり。

【春澄氏】（姓）饒速日命の後なり。

【春道氏】（姓）饒速日命の後なり。

【原氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を赤星經知の子經能といふ。

【原氏】姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を範佐といふ。

【原氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、工藤狩野等の族より出づ、立家の祖を工藤維仲の子師淸といふ。

【原田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、高家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を經兼といふ。

【原田氏】姓は菅原氏、天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命の後なり、立家の祖を忠貞といふ。

【拜田氏】姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【馬場氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、武藤氏より分る、立家の祖を經員といふ、猶武藤氏の條下を見よ。

【馬場氏】 姓は尾張氏、天火明命の後なり、立家の祖を信頼といふ。

【狭間氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を有重といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【祝部氏】 (姓) 神魂命の孫、建角身命の後なり。

【秦氏】 (姓) 饒速日命の後なり。

【秦氏】 家傳に姓は大江氏、のち田中を稱し、また内藤を稱すといふ。

家紋 鳳凰丸 五七桐

善秀(丹波の太守内藤氏の家臣となり戰功ありたりしより内藤の稱を受く慶長十四年死す)—宗巴—徳隣—秦石—子清—子堅……

【袴田氏】 姓は藤原氏、北家、家原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先を景直といふ、猶大伴氏の條下を見るべし。

【葉山氏】 姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、河村義秀の男、秀基の四男、行朝十六代親綱のときより武田氏に仕へ葉山を稱す。 家紋 割花菱 一重菊

親綱……重親—久綱—勝綱—公綱—貫綱……

【葉室家】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を顯隆といふ、顯隆は鳥羽天皇頃の人なり。

【葉室氏】 姓は菅原氏、天穗日命の後なり、笠氏より分る、祖を善賢といふ。

【葉若氏】 藤原氏の支流なりといふ、葉

若清敬(延寶八年御徒)といふものより其系現はる。

家紋轡十文字

【間人氏】(姓)神皇産靈命の後なり。

【迫氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を經平といふ。

【筥屋氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を時村といふ。

【萩袋氏】姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を冬政といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【萩原氏】姓は卜部氏、大中臣氏と同祖天兒屋根命の後なり、立家の祖を兼從よりいふ、兼從の薨去は中御門天皇の寶永七年にあり。

【萩原氏】姓は菅原氏、天穗日命の後、野見宿禰より出づ、古人九代河内守忠良近江國萩原に住し在名を苗字とす。

【蜂田氏】(姓)天兒屋根命の後なり。

【蜂屋氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の流なり、熱田大宮司家より分る、立家の祖を範親といふ。

【墓崎氏】姓は藤原氏、藤原魚名の後、利仁の流なり、立家の祖を範門といふ、肥前國墓崎を苗字の地とす。

【幡羅氏】姓は藤原氏、藤原伊尹の後、成田氏より出づ、立家の祖を道宗といふ、猶成田氏の條下を見よ。

【幡豆氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を助光といふ。

【箱森氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、御舘氏より分る、立家の祖を清政といふ。

【橋爪氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤狩野等の族より分る、立家の祖を原清仲の子維次といふ。

【橋本家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、西園寺家より分る立家の祖を實俊といふ、實俊の薨去は北朝光明天皇の暦應四年にあり。

西園寺通季―公通―實宗―公經―
―實氏―公相―實俊(橋本)……

【濱尾氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の後なり、二階堂種泰の後なり、祖を續泰といふ、相州鎌倉濱尾を苗字の地とす。

ひの部

【人面氏】(姓)天八千千媛命の後なり

【久野氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、工藤狩野等の族より出づ、立家の祖を宗仲といふ。

【久松氏】姓は菅原氏、家傳によれば、菅原道眞の後裔なりといふ、其先道定といふものより出づ、徳川時代の始め康元、康俊、定勝等家康より松平の號を賜はる。

久松俊勝―康元―忠良―良尙……

―康俊―勝政―勝義……（下總多古）
―定勝―定行―定長―（伊豫松山）
　　　　―定綱―定良―（伊勢桑名）
　　　　―定房……（伊豫今治）

【日田(ひだ)氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を親勝(ちかかつ)といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【日奉(ひまつり)氏】（姓）高魂命(たかみむすび)の後なり、子孫の分岐頗る多し。

【日長(ひなが)氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司家より分る。

【日根(ひね)氏】姓は藤原氏、其先日根野(ひねの)弘就(ひろなり)より出づ、弘就三男弘正(ひろまさ)日根と改め、代々これを稱す。　家紋鶴丸に鶴の丸

弘正―正吉―正重―正福―正明……

【日野(ひの)家】姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏(まなつ)より出づ、子孫繁榮、支族頗る多し、眞夏の薨去は淳和天皇の天長七年にあり。

藤原内麻呂―眞夏（日野）―濱雄―家宗―
―弘蔭―繁時―輔道―有國……

家紋鶴丸 笹丸 松丸 鶴丸

【日野西(ひのにし)家】姓は藤原氏、同上、眞夏の後なり、日野家より分る、この家號は總盛(ふさもり)より始まる、總盛の卒は明正天皇の寛永十二年にあり。

【日根野(ひねの)氏】姓は藤原氏、これ日根野弘就(ひろなり)の家なり、もと源氏なりしが基遠(もとどほ)のとき

故ありて藤原氏となる、其先和泉國日根郡中庄湊浦に住し、日根と稱し、のち日根野に改む。　家紋立鶴

永盛—國季……基遠—弘就—高吉—吉明……

【火爪氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を秀衡といふ。

【匹田氏】　姓は藤原氏、同上、魚名の後、藤原利仁の流なり、後にあぐる疋田氏と同一のものにあらざるか。

【比企氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を能貴といふ、武藏國比企郡を苗字の地とす。

【比留氏】　姓は中臣氏、天兒屋根の後なり、立家の祖を宣能といふ。

【比田町氏】　姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を行祐といふ。

【比多國造】　（姓）高皇産靈命の後なり。

【平山氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を蛇塚定氏の子秀世といふ。

【平山氏】　姓は日奉氏、高魂命の後なり、立家の祖を直季といふ、平山武者所季重の後なり、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【平川氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、其先を秀重といふ。　大友氏より分る、猶大友氏の條下を見よ。

【平井氏】姓は藤原氏、同上、藤原秀郷の流なり、少貳氏より分る、立家の祖を尙經といふ、猶少貳氏の條下を見るべし。

【平丘氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を宣將といふ。

【平目氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を貞賴といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【平佐氏】姓は大江氏、中馬忠廣が次男廣貞を立家の祖とす。

【平岩氏】姓は弓削氏、饒速日命の後なり、守屋より出づ、照氏始めて上野を稱し氏貞の時に至りて平岩を稱す。

家紋丸に結雁金 丸に張弓

照氏……氏貞（今川家に屬す）—泰元—光吉—重益—

—親重……

【平泉氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、祖を淸衡といふ。

【平松氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を善平といふ。

【平岡氏】姓は藤原氏、南家、爲憲の流なり、政高伊勢國安濃郡北長野鄕に住して長野を稱し、範正のとき平岡に改む、正元は其八代の孫なり、正友のとき叔父、島金助某の養子となりて島を稱し、正親に至り平岡に復す。　家紋角餅に横木瓜 五七桐

某（正元）—某（正治）—正成（一に正友）—正次

—正則—正親……

【平岡氏】（姓）津速魂命十四世の孫、鯛身臣の後なり。

【平岡氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を隆乘といふ。

【平賀氏】姓は藤原氏、北家、房前の後裔なり、立家の祖を隆宗といふ。

弘保—興貞—隆宗(平賀)—廣和—元和—┐
└元忠……

【平野家】（姓）天兒屋根命の後なり、世々平野社を預るにより、かく稱す。

【平澤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、立家の祖を實綱といふ。

【疋田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を爲頼といふ。

【必佐氏】姓は藤原氏、同上魚名の後、藤原秀鄉の流なり、祖を永信といふ、近江國浦生郡必佐を苗字の地とす。

【弘岡氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を豊田光成の子、利成といふ。

【氷氏】（姓）饒速日命の後なり。

【尾藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、立家の祖を知廣といふ、尾張守たりしによりこの號あり。　家紋下り藤抱澤瀉

佐藤公清—公澄—知基—知昌—知忠—┐

—知廣(尾藤)

【東山氏】姓氏藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を親朝といふ。

【東園家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、賴宗の後なり。この家號は基敦より始まる、基敦の卒は明正天皇の寛永十三年にあり、

【東坊城家】姓は菅原氏、天穗日命の後なり、この家號は茂長より始る、茂長の薨は北朝光明天皇の康永二年にあり。

【蛭河氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を定重といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【斐蛇國造】(姓)火明命の後、建稻種命の後なり。

【蒜田氏】姓は渡會氏、神皇產靈尊の後なり、渡會神主より分る。

【廣戶氏】姓は藤原氏、南家、爲憲の流にして二階堂行村の八代久行の後なり、遠江國廣戶鄉を苗字の地とす。家紋檜扇七曜

【廣澄氏】(姓)饒速日命の後なり。

【廣峯氏】姓は凡河內氏、天津彥根命の後なり。

【廣橋家】姓は藤原氏、北家、藤原內麻呂の子、眞夏の後なり、日野家より分る、立家の祖を賴資といふ、賴資の薨去は四條天皇の嘉禎二年にあり。

【廣澤氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、立家の祖

を河村秀高の弟實方といふ。

【稗田氏】（姓）天鈿女命の後なりといふ、稗田阿禮著はる。

【稗田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を幹隆といふ。

【檜垣氏】姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【檜前舍人氏】（姓）天穂日命の後なり。

【樋口家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長良の後なり、高倉家より分る。立家の祖を信孝といふ。信孝の薨去は萬治元年にあり。

ふの部

【二方國造】（姓）天穂日命の後なり。

【二見氏】（姓）火闌降命の後なり。

【二河氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を義景といふ。

【二橋氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を重顯といふ。

【古内氏】姓は藤原氏、もと源氏にして佐竹義信長男義武下總國豊田郡古河邑に住み、在名を苗字の地とす、其後裔古内實綱伊達盛重の季子、重廣を養ひて嗣とす、これより姓を藤原に改む。

【古田氏】姓は藤原氏、先祖五郎左衛門某、伊勢國員辨郡古田村に住せしより在

名を苗字とす、重則は其男なり。

家紋丸に三引　三唐人笠　◉家傳に元祿元年朝鮮の役重勝力戰して敵將の首三級を獲たりさきに太閤より唐人笠を以て家紋とすべき旨賞譽の命を蒙るといふ

【古坂氏】　姓は藤原氏、北家、長家の流なり、那須氏より分る、味岡貞元の男直秀古坂と改む。　家紋蔦

重則―重勝―重治―重恒……

【古河氏】　姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を親元といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【古澤氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を能成といふ。

【古海氏】　姓は藤原氏、同上、藤原秀郷の流なり、立家の祖を家秀といふ。

【布施氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、蒲生氏の族なり。

【舟越氏】　姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を增綱といふ。

【舟橋氏】　姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を佐野景綱の子、春綱といふ。

【冬田氏】　姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先を重秀といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【伏見氏】　姓は菅原氏、始め津戸を稱す爲長の孫爲則伏見長景に養はれ其家を繼ぎ伏見を稱す。

家紋丸に梅鉢　咬合蝶　丸に向合蝶　◉梅鉢は津戸の紋なり爲則菅原氏に復せしよりこれを用ふ

【吹上氏】　姓は渡會氏、神魂命の後なり

渡會神主より分る。

【吹田氏】姓は藤原氏、藤原魚名の後、藤原秀郷の後なり、波多野氏の族、立家の祖を村氏といふ。

【武藤氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を景頼といふ、武者所たりしにより、かく稱す、然るに一方には武藤氏を以て、藤原道長の子、長家の後となすものあり、本書には尊卑分脉の説に從ひ、上述の如く秀郷流となす。

近藤修行—行景—景親—景頼—頼平……

【笛吹氏】(姓)火明命の後なり。

【船越氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、工藤、狩野等の族立家の祖を清房といふ。家紋三頭左巴

【船江氏】姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

【船橋氏】姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

【深川氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家より出づ、菊池氏より分る、立家の祖を武義といふ。

【深井氏】姓は藤原氏、南家藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司家より分る。

【深谷氏】姓は藤原氏、北家、良門の流、上杉重房の後胤なり、祖を憲高といふ、武藏國深谷の城に住せしより苗字とす。

家紋丸に劍花菱 輪違

憲高—吉次—盛吉—吉政—吉永……

【深栖氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を足利成行の子、郷綱といふ。

【深澤氏】姓は藤原氏、南家、爲憲の流なりといふ。家紋上藤の内左鐶黒餅に横木瓜

正利（家康に仕ふ）—正吉—正信—正武—正直—正照……

【深澤氏】姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【淵名氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を兼行といふ。

【福光氏】姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼繼といふ。

【福田氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤狩野等の族より分る。

【福原氏】姓は大江氏、毛利元春六男、小山元淵の後、季直これを稱す。

【福原氏】姓は大江氏、天穂日命の後なり、立家の祖を中島忠廣の後廣世といふ猶大江氏の條下を見るべし。

【福原氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の流なり、那須氏より分る、立家の祖を芋淵幹隆の弟久隆といふ、久隆初め下野國福原を領せしより之を稱す。

家紋一文字圓相

須藤資信の六代那須資隆四男久隆—資廣—資時—資義—資繼…資保—資盛—

—資清……

【福島氏】姓は藤原氏、もとは平氏にして正則秀吉より豊臣氏羽柴の稱號を與へられ、藤原氏に改むといふ。

家紋 澤瀉 巴 中白瓜に文字 牡丹 ⦿家傳に菊五七桐 寛永通寶錢 菊 五七桐 牡丹の紋は太閤より正則に與へたるなりと

正信—正則—正友
　　　　　—正之
　　　　　—忠勝—正長—正勝
　　　　　—正利

【福屋氏】姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼廣といふ。

【藤川氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、もとは工藤氏、重安に至り、藤川氏を稱す。家紋 丸に横木瓜

重義—重安(織田信雄に仕ふ)—重勝—重之—重定……

【藤井氏】姓は藤原氏、北家、藤原基實の曾孫致嗣に始まる。

—嗣家……

粟田口忠良—基良—致嗣(藤井)—嗣實—

【藤井氏】姓は卜部氏、天兒屋根命の後なり、始め猪熊氏を稱せしが、後、兼充に至り藤井と改稱せり、兼充の薨去は中御門天皇の享保元年にあり。

【藤井氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏よりの分派なり、立家の祖を豊田光廣の子光基といふ。

【藤内氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を有信といふ。

【藤田氏】　姓は藤原氏、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を秀村といふ。

【藤田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を經家といふ。

【藤田氏】　姓は藤原氏、北家、師輔の流、本多助秀後裔、忠正の三男師政藤田を稱ふ

丸内左附立葵　丸の内本字　下藤丸

【藤北氏】　姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、大江氏より分る、其先を能職といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【藤本氏】　姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【藤谷家】　姓は藤原氏、北家、藤原道長五代の孫、俊成より出づ、冷泉家より分る、立家の祖を爲賢といふ、爲賢の薨去は後光明天皇の承應二年にあり。

【藤波家】　姓は大中臣氏、藤原氏と同祖天兒屋根命の後なり、立家の祖を景忠といふ、景忠の薨は中御門天皇の享保十二年にあり。

【藤地氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大江氏より分る、立家の祖を氏直といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【藤並氏】　姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

【藤島氏】　姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、坂南成實の男、實信子左衞門尉助近を祖とす。

【藤林氏】 姓は大神氏、大國主命の後なり、もと臼杵を稱へ、惟榮より緒方を稱し、文光のとき藤林を稱す、子孫或は緒方を名乘るあり、綱光より藤林となる。

家紋 三鱗形 三本杉 左巴

某─惟基─惟盛─惟衡─惟周─惟榮─維兼……綱光─守清……

【藤沼氏】 姓は藤原氏、北家、秀郷の流、泉忠衡の後裔なり、立家の祖を通勝といふ。

家紋 寄九曜 三巴

【藤澤氏】 姓は神氏、大國主命の後、健御名方命の後なり。

【藤原氏】 (姓) 津速魂命三世の孫、天兒屋根命より出づ、始め中臣氏を稱す、兒屋根命廿一世の孫、中臣鎌足、天智天皇の朝藤原氏を賜はり、子孫これを稱し、今日に至る。

天兒屋根命─天押雲命─天種子命─宇佐津臣命─大御食津臣命─伊香津臣命─梨津臣命─神聞勝命─久志宇賀主命─國摩大鹿島命─臣狹山命─雷大臣命─大小橋命─阿麻毗舍卿─阿毗古大連─眞人大連─加麻大夫公─黑田大連公─常盤大連公─加多能子大連公─御食子大連公─藤原鎌足……

【藤原南家】 藤原不比等の子、武智麻呂これを稱す、これ北家に對しての家號なり子孫頗る繁榮す。

【藤原北家】 同上、不比等の子、房前に始ま

るこれ南家に對しての家號なり、子孫最も繁榮す。

【藤原式家】同上、不比等の子、宇合に始まる、宇合式部卿たりしにより、この家號あり。

【藤原京家】同上、不比等の子、麻呂に始まる麻呂左京大夫たりしによりこの家號あり。

への部

【日置氏】（姓）天穗日命の後なり。

【戸次氏】姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を親秀の男重秀といふ、猶大友氏の條下を見るべし。此苗字は祖重秀、豊後國戸次城に居りしにより稱へしものなり。

【兵藤氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を經賴といふ。

【別府氏】姓は藤原氏、藤原伊周の後、成田氏より出づ、立家の祖を行隆といふ、猶成田氏の條下を見よ。

【蛇塚氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり。菊池氏より分る、立家の祖を定氏といふ。

ほの部

【本庄氏】姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、伊周より出づ、立家の祖を弘季といふ

【本多氏】 姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、兼通の後なり、立家の祖を助秀といふ、本多平八郎忠勝等の家はこれなり、豊後國本多郷を苗字の地とす。

本多助秀—助定—助政—
定通—定忠 定助—助時—助豊—
忠豊—忠高—忠勝—忠政—
政朝—政勝……(三河岡崎)◉家紋 丸に立葵 一本形 丸に本の字
政信……(播磨山崎)◉家紋 丸に立葵 丸に本の字 一本杉
忠義……(陸奥泉)◉家紋 同前
正時—正助—正忠—忠俊—忠次—
康俊—俊次—康長……(近江膳所)◉家紋 丸に立葵 本字
康將……(伊勢神戸)◉家紋 同前
正通—俊正—正信—正純
正重……(駿河田中)◉家紋 丸に立葵 本文字 丸本文字
定正—定吉…廣孝……(信濃飯山)◉家紋 本の字 丸に立葵

【本郷氏】 姓は藤原氏、北家、藤原隆家の後なり、城隆經の弟四郎左衛門實熈を立家の祖とす。

【本阿彌氏】 姓は菅原氏、天穂日命の後なり、五條家より出づ、立家の祖を妙本阿彌といふ、これ人名を以て苗字となせるものなり。

【本願寺家】 姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏の後なり、日野家より分る、立家の祖を範宴(親鸞上人)といふ、淨土眞宗の始祖なり、本願寺家今東西の二家に分る、範宴は後深草天皇の頃の人なり。

日野有範—範宴—如信—宗昭—慈俊—

―俊玄―時藝―玄康―圓兼―兼壽

―光兼―光融―光致―光佐―光壽……東
　　　　　　　　　　　―光昭……西

【北條氏】　姓は藤原氏、藤原道兼の流、宇都宮氏より分る、立家の祖を道知といふ

【朴澤氏】　姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、立家の祖を經家といふ、陸前宮城郡國分庄朴澤邑を苗字の地とす。

【保土原氏】　姓は藤原氏、南家、乙麻呂の後なり、二階堂行村次男行義を祖とす。

【法性寺家】　姓は藤原氏、北家、藤原師通の子、家政の後なり、家政四世の孫、雅平これを稱す、雅平は鎌倉時代中頃の人なり。

藤原師通―家政―雅致―雅長―家信―

―雅平(法性寺)……

【法性寺家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、葉室家より分る、立家の祖を顯雅といふ。

【保科氏】　姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【星野氏】　姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、巨勢麻呂の後なり、熱田大宮司家より分る、立家の祖を範信といふ。

熱田大宮司季兼―季範―範信(星野)―

―範清……

【堀氏】　姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、立家の祖を、季高といふ、これ堀秀政等の家なり、越前國堀庄を苗字の地とす。

藤原利仁―叙用(齋藤)―吉信―忠頼―

—則高—秀重—秀政—秀治◉家紋 三鱗甲 抱澤瀉 抱茗荷

—親良—親昌—親貞……(信州飯田)◉家紋 梅花丸 抱澤瀉 抱茗荷

他一家、もと清和源氏、斯波滿種の苗裔某尾張國奥田に住して奥田を稱し、直政のとき藤原氏に改め堀と稱す。 直政—

—直寄—直時……(越後村松)◉家紋 釘抜 龜甲の内に花菱

—直之—直景……(越後椎谷)

—直重—直朝—(信州須坂)◉家紋 龜甲万字(一に圏内万字) 二重龜甲花菱

【堀川家】 姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、頼宗これを稱す、頼宗は平安朝時代末頃の人なり。

【堀川家】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の長子、長良の後なり、高倉家より分る、立家の祖を康胤といふ、康胤の薨去は靈元天皇の寛文十三年にあり。

【堀川氏】 姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を秀直といふ。

【堀内氏】 姓は藤原氏、中將實方の末葉敎眞堀内を稱す、後白河院の時始めて熊野新宮別當職に補せらる。 家紋 鳳凰の丸 桐

氏虎—氏善—氏久—氏衡—氏成……

【堀江氏】 姓は藤原氏、北家、良門の流なり、井伊共保の後裔、玄休の末流五郎大夫某のとき堀江と稱す。 家紋 三笹丸 茶實

【堀河家】 姓は藤原氏、北家、藤原師實の子、經實の後なり、大炊御門家より分る立家の祖を經定といふ。

【堀河家】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の

子、良門の二男、高藤より出づ、葉室家より分る、立家の祖を光雅といふ。

【堀籠氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【細戸氏】 姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、山川重光の子、十郎朝村を立家の祖とす。

【細田氏】 姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流、相摸守公光の男、首藤公清の後裔なり先祖より世々甲斐國に仕し、武田家に仕へ細田を稱す。 家紋下藤の内に万字 三頭左巴

正時（勝頼に仕ふ）―吉時―重時―成時―時德―時昭……

【細井戸氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の流なり、水無瀬家の庶流にして、先祖大和國廣瀬郡細井戸郷に住せしにより在名を苗字とす。 家紋丸蔦 五三桐 井筒

【穗積氏】（姓） 饒速日命の後なり。

【穗波家】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を經尙といふ、經尙の薨去は東山天皇の寶永三年にあり。

第七章 頭音まに屬する姓氏

まの部

【丸毛氏】 姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼忠といふ。

【丸目氏】 姓は藤原氏、南家藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立

家の祖を頼書といふ。

【丸野氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を今村頼而の弟、頼成といふ。

【丸澤氏】 姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を元時といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【丸橋氏】 姓は藤原氏、北家、秀郷の流なり、益田政義の後裔行後の二男行安を祖とす。 家紋 丸内釘貫 丸内酢漿 結雁金

【毛利氏】 姓は大江氏、天穗日命の後、大江廣元の流なり、立家の祖を季光といふ、これ毛利元就、輝元等の先祖なり、猶大江氏の姓につきての疑は、大江氏の條下を見るべし。

大江廣元―季元(毛利)―經光―(八代略)―弘元―元就―

隆元―輝元―秀就―綱廣……(長門萩)

⊙家紋 澤瀉 一文字三星 ⊙永祿三年正親町院より元就に菊桐の御紋を勅許せられ又義昭より輝元に桐の紋を賜はり代々惣領となるもの用ふと

就隆―元賢……(周防德山) ⊙家紋 同前

吉川元春

小早川隆景

元清―匡廣―師就……(長門府中) ⊙家紋 三文字三星 抱澤瀉 五七桐

政苗……(長門清末) ⊙家紋 澤瀉 一文字に三星

【正木氏】 姓は藤原氏、北家、高藤の後なり、勸修寺家より分る、上杉重房の六代、氏憲男持房四代義時を祖とす。

【目色部氏】 (姓) 神魂命十二世の孫、大足

尼命より出づ。

【末羅國造】(姓) 饒速日命の後なり。

【町口家】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を國房といふ。

【町口家】 姓は藤原氏、同上、藤原高藤より出づ、葉室家より分る、立家の祖を宗頼といふ。 宗頼は後鳥羽天皇頃の人なりといふ。

【町尻家】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、水無瀨家より分る、立家の祖を具英といふ、具英の卒は靈元天皇の寛文十一年にあり。

【松山氏】 姓は藤原氏、北家、利仁の流なり、稻津氏の後、立家の祖を實隆の子、五郎宗保といふ。

【松木家】 姓は藤原氏、北家、藤原道家の子、頼宗の後なり、中御門家の一名なり。

【松本氏】 姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を宗保といふ。

【松本氏】 姓は渡會氏、神皇產靈命の後なり、彥盛に至りこれを稱す。

【松本氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、工藤相良の族、立家の祖を長利といふ。

【松永氏】 姓は藤原氏、戰國の頃松永久秀著はる、阿波三好氏の家人なり、其源流明かならざるを以て末定の部に入るべきなれども暫くこゝに存す。

【松任氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の

子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を豊田光成の弟雅光といふ。

【松田氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、波多野氏より分る、立家の祖を義經といふ。

【松田氏】 姓は大中臣氏、大兒屋根命の後なり、立家の祖を助兼といふ。

【松尾氏】 姓は中臣氏、松尾社家の流なり、立家の祖を金政といふ。

【松原氏】 姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【松波氏】 姓は藤原氏、北家、眞夏の後裔日野資宣の男忠光、のち出家して賴宣と稱し、其後日野界寺の別當となり、權大僧都法伊淨俊と稱す、居所の傍に松の並木あるを以て時人松並と呼ぶ、後松波に改む忠光八代の孫、光政故ありて齋藤を稱し入道して道三と號す、其二男政綱信長に仕へ松波に復す。 家紋（丸に鷹舞鶴 瓜 (イ)家傳に瓜 (ロ)紋に織田）

（右府より政綱に與へられたりと）

政綱―勝直―勝安―勝介―勝正―勝春―

【松岡氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、大友氏より分る、立家の祖を戸澤重秀の男重親といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【松屋氏】 姓は藤原氏、藤原秀鄉の流なり、大友氏より分る、立家の祖を秀直といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【松野氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼家の

子、道兼より出づ、宇都宮氏より分る、立家の祖を業兼といふ。

【松野氏】姓は藤原氏、藤原秀郷流なり大友吉統の二男正照父の領國を除かるゝ後大友を改めて松野と稱す。

【松野氏】姓は壹岐氏、天兒屋根命の後なり。家紋 五七桐 笹龍膽 杏葉

【松野氏】姓は中臣氏、松尾社家の流なり、立家の祖を國方といふ。

【松倉氏】姓は藤原氏、松倉重政等の家なり、前項に同じく詳くこゝに存す。

【松津國造】(姓)健津日命の後なり。

【松崎家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男高藤より出づ、勧修寺家より出づ、甘露寺家の一名なり。

【牧西氏】姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、伊周の流なり、祖を弘季といふ、本庄氏の祖、弘季、またかく、牧西を稱せしなり。

【牧野氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分ると、猶考ふべし。

【前田氏】姓は菅原氏高辻長量の二男長泰の後なり。家紋 劔梅鉢 五七桐 斧薬 三階松

【前田氏】姓は穗積氏、其先紀伊國熊野新宮より出づ、宇井判官兼純の後裔、民部重次郎、伊勢國安濃郡前田村に住せしより苗字とす。家紋 下稲打違内丸文字 丸に丸文字

定明……定久(家康に仕ふ)—定良—定時—定勝—定玄

【前田氏】姓は藤原氏、北家、利仁の流、齋藤叙用の後胤、季基のとき美濃國安八郡前田に住せしより在名を苗字とす、其末孫基光は玄次の父なり。家紋花橘 五七桐 瞿麥

【前田氏】姓は菅原氏、天穗日命の後なり、立家の祖を仲章といふ、前田利家に至り大に著はる。

前田仲章―利昌―利家
　―利長　利常　光高……（加賀金澤）⊙家紋　菊桐　鳩酸草
　―利次……（越中富山）⊙家紋　梅輪内　⊙前者菊桐は太閤より與へらるといふ
　―利治……（加賀大聖寺）⊙家紋　同上
　―利高―利與　利廣……（上野七日市）⊙家紋　桐　寄梅輪内
　はじめ梅輪内を用ひ利廣のときより寄梅輪内に改む

【前野氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏の族、富樫重純これを稱ふ。

【益戸氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、結城氏より分る、立家の祖を義益といふ。

【益戸氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、下河邊氏より分る、立家の祖を政義といふ。

【益田氏】姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼高といふ。

【益田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を政義といふ、上野國益田郷を苗字の地とす。家紋丸の内鳩酸草 三巴 向雁

【益城氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の

子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を眞武といふ。

【馬來田國造】（姓）天津彦根命の後なり。

【眞下氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を基行といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【眞野氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、行景の子駿河太郎親通としそれより五代正永近江國眞野邑を領せしより眞野を稱す。家紋下藤丸（葉割菊、一に丸内茗荷）

正永―正俊（信長に仕ふ）―正次―正重―正治……

【眞神田氏】（姓）饒速日命六世の孫、伊香我色雄命の後なり。

【眞髮部氏】（姓）饒速日命の後なり。

【間部氏】姓は藤原氏、其先鹽川を稱し詮光のとき外家の號眞鍋を稱し、のち間鍋と記す、淸貞のとき星野を稱し、のち西田に改め、詮房に至りて間鍋に復しのち間部に改む。家紋丸に横三引三銀杏

【萬里小路家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を資通といふ、資通の薨去は後一條天皇の德治元年にあり。

資通（萬里小路）―宣房―藤房
　　　　　　　　　　　｜季房―仲房―
　　　　　　　　　　　｜嗣房……

【增山氏】姓は藤原氏、はじめ丹治氏にて青木を稱し、正利のとき外家の號、增山を稱し藤原氏に改むと。家紋丸に二雁金丸に山文字

【增井氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世

の孫、天押日命の後なり、立家の祖を資安といふ。

み の 部

【三木氏】 姓は阿波忌部氏、天日鷲命の後なり。

【三木氏】 姓は藤原氏、藤原忠平の子、師尹の後なり、立家の祖を直頼といふ、飛彈國司の家なり。 家紋丸に劔花菱

師平(姉小路)—頼基—頼時—尹綱—
—師言—持言—勝言—煕綱—宗煕—
—直頼(三木)—……

【三石氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、工藤狩野等の族、立家の祖を祐綱といふ。

【三好氏】 姓は藤原氏、北家、藤原公季の流なり、もと淺井を稱すと。
家紋丸に井桁 丸に丁文字 牡丹 政高(秀吉に仕ふ)—直政—
—政盛—勝政—勝敬—善政……

【三雲氏】 姓は藤原氏、北家、藤原伊周の流なり、家傳によれば元は大河原と稱す實乃に至り近江國三雲に仕せるにより三雲と改むといふ、 家紋軍配團扇の内一文字

【三島氏】 (姓) 神魂命十六世の孫、建日穂命の後なり。

【三野氏】 (姓) 神皇産靈命の後なり、美努氏に同し。

【三橋氏】 姓は藤原氏、北家、房前の後裔なり、三橋信季頼朝に仕へ、代々三河國に住す、信季末孫を信盛といひ、其男は信久

なりと。家紋丸に向兎角万字　信久(北條氏政に仕ふ)――

――信次―信勝―信重―信道―信安……

【三隅氏】　姓は藤原氏、北家忠平より九代、御神本國兼の後なり、兼高に至り石州益田七尾城に住し、益田を稱し、兼信に至り石州三隅庄に住し、在名を苗字の地とす。

【三崎氏】　姓は日置氏、天穗日命より出づ、立家の祖を政高といふ。

【三富部氏】　(姓)　天火明命の後なり。

【三室戸家】　姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏の後なり、日野家より分る、立家の祖を誠光といふ、誠光の薨去は東山天皇の元祿二年にあり。

【三河國造】　(姓)　饒速日命の後なり。

【三野後國造】　(姓)　饒速日命の後なり。

【壬生家】　姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、賴宗の後なり、園家より分る、立家の祖を基起といふ。基起の薨去は靈元天皇の延寶七年にあり。

基賴(持明院)―(二代畧)　基氏(園家)

―(十二代畧)―基起(壬生)……

【水田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、立家の祖を昌明といふ。

【水江氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、龍造寺氏より分る、立家の祖を家兼といふ。

【水谷氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏の族なり、立家の祖を重輔といふ。

【水谷氏】姓は藤原氏、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、田村氏より出づ、立家の祖を親實といふ。

【水谷氏】姓は藤原氏、家傳に清和源氏足利尊氏二男、基氏より五代成氏二男水谷氏盛故ありて奥州磐城郡水谷に住し結城家の養子となり、下總國結城に移り氏を藤原に改め、結城を稱し、水谷と一代毎に交互これを稱ふといふ。

【水巻氏】姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る。

【水野氏】姓は藤原氏、同上、魚名の後、藤原利仁の流なり、立家の祖を加藤重光の子、忠正といふ。

【水島氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、小川政平の後裔にして忠意のとき外家の號、水島に改む。

【水無瀬家】姓は藤原氏、北家藤原道隆の子、隆家より出づ、隆家五代の孫、親信これを稱す、親信の薨去は後鳥羽天皇の建久八年にあり。

藤原道隆―隆家―經輔―師信―經忠―信輔―親信(水無瀨)

【光長氏】姓は大江氏、坂匡時が男、廣秋三男秀時を祖とす。

【民氏】(姓)天兒屋根命の後なり。

【民氏】(姓)天穗日命の後なり。

【身人部氏】(姓)天火明命の後なり。

【美努氏】(姓)角凝魂命の後なり。

【美和氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の

子、長家の後なり、立家の祖を通弘といふ。此苗字につきては、懸田氏等と同一の疑問を述ふるを得べし。

【美濃部氏】 姓は菅原氏、天穂日命の後なり、立家の祖を氏茂といふ。

家紋 梅輪内(一に梅の花)菊斧

古人—清公—是善—道眞—兼茂—是兼
—家兼……信茂—氏茂—貞茂……

【皆川氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を宗成といふ、下野國都賀郡皆川村の地に一城趾あり、これ皆川氏の居城地にして其の苗字の依つて起れる所なり。

家紋 二頭左巴

【皆野氏】 姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【神人氏】 (姓) 大國主命五世の孫、大田々根子命の後なり。

【宮川氏】 姓は藤原氏、北家、道兼の流、八田知家四男、宍戸四郎左衛門尉家政の後出雲守元政宮川と稱す。

【宮永氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を倉光成澄の弟國員といふ。

【宮田氏】 姓は藤原氏、北家、藤原利仁の流、齋藤實盛の後なり。

家紋 下藤丸に三文字 藤三巴 ⦿もとは下藤丸に川文字を用ひのち三文字に改むといふ

吉次(北條氏直に仕ふ)—吉連—義行—利由—義豊
—宣員……

【宮田氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周より出づ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【宮武氏】 姓は藤原氏、藤原魚名の後利仁の流なり、齋藤の族、立家の祖を成忠といふ。

【宮部氏】 (姓) 天壁立命の子、天背男命の後なり。

【宮道氏】 (姓) 饒速日命の後、物部守屋より出づ。

【宮崎氏】 姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を行遍といふ。

【宮城氏】 姓は大江氏、天穂日命の後なり、大江維明の後裔、奥州宮城に居住し、以て稱號となす、子孫頼朝に仕へ、後尊氏に屬せしより以來、累代近江國に住す。

家紋 丸に揚羽四足蝶 九枚柏 五七桐

山城守某―某―重甫―堅甫―正重―和甫―和治……

【御井氏】 (姓) 天穂日命の後なり。

【御代氏】 姓は藤原氏、藤原魚名の流、藤原秀鄉の後なり、立家の祖を通知といふ。

【御名氏】 姓は藤原氏、藤原、伊周の流なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【御庄家】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を顯賢といふ。

【御宿氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を重朝といふ

武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【御牧氏】姓は藤原氏、昌忠に始め川村を稱し、後御牧に改む、山城國御牧邑を苗字の地とす。家紋丸に末古文字丸に齊

【御館氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、立家の祖を賴淸といふ。

【御神本氏】姓は藤原氏、北家、忠平より九代國兼を祖とす。

【御野氏】（姓）神皇產靈命の後なり、美努氏に同し。

【御子左家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、長家御子左を家號となす、長家の薨去は後冷泉天皇の康平七年にあり。

藤原道長─長家─忠家─俊忠─俊成(御子左)─定家……

【御手代部氏】（姓）天御中主命十世の孫、天諸神命の後なり。

【道島氏】（姓）高皇產靈命の後なり。

【道口岐閉國造】（造）天津彥根命の後なり。

【道奥菊多國造】（姓）天津彥根命の後なり。

【蓑曲氏】姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【箕田氏】姓は渡會氏、神皇產靈命の後なり、貞雄に至り、これを稱ふ。

むの部

【六人部氏】（姓）火明命五世の孫、建力米命の後なり。

【向山氏】姓は藤原氏、其先神氏なりしが、のち甲斐國向山に住せしを以て在名を苗字の地とす。家紋丸に劔花菱 五三桐 雪笹

【向高氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、工藤狩野等の族、其先を祐朝といふ。

【村上氏】姓は大伴氏、高皇産靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を家康といふ。

【村山氏】(姓) 津速魂命十四世の孫、雷大臣命の後なり。

【村山氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を幸慶といふ。

【村山氏】姓は藤原氏、藤原隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を經村といふ。

【村中氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、龍造寺氏より分る、立家の祖を家員といふ。

【村田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子。魚名の後なり、伊達氏より分る、立家の祖を高好といふ。

【村田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を藤田經家の弟經秀といふ。

【村松氏】姓は渡會氏、神魂命の後なり渡會神主より分る。

【宗形氏】(姓) 大國主命の後なり、子孫九州に於て著はる、宗形又宗像に作るも

同し。

【武茂氏】　姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、宇都宮氏より分る、下野國那須郡武茂庄を苗字の地とす。

【武者氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を行綱といふ

【武藏氏】　姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を維俊といふ。

【武藏氏】　姓は藤原氏、工藤爲憲の後裔工藤祐次の二男助信の末葉、氏井成助三男を氏井武藏某といふ、其子吉正父の名を以て苗字とす。　家紋細輪の内揚羽蝶丸に二引

武藏―吉正(家康に仕ふ)―吉勝……吉次……吉高……

【武者小路家】　姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏より出づ、日野家の支流なり、立家の祖を敬光といふ。

資明(柳原)―敬光(武者小路)―資俊―隆光……

【武者小路家】　姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、三條家より分る、立家の祖を公種といふ、公種の卒は東山天皇の元祿五年にあり。

公時(三條西)―(六代略)―實條―┬公種(武者小路)……

【武藏國造】　(姓)　天穗日命の後なり。

【室氏】　姓は菅原氏、天穗日命の後なり、始め葉室氏を稱せしが、子孫に至り、單に室氏を稱するに至れり。

【室木氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を爲泰といふ。

【室町家】姓は藤原氏、北家、藤原師通の子、家政の後なり、家政四世の孫なる雅継始めてこれを稱す、雅継は鎌倉時代中頃の人なり。

藤原師通―家政―雅教―雅長―家信―雅継(室町)―

【室町家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、西園寺家より分る立家の祖を實藤といふ、又四辻とも稱す實藤は後宇多天皇頃の人なり。

【麥生氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先を泰廣といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【陸奥磐瀬氏】(姓)天津彥根命の後なり。

めの部

【目黒氏】姓は藤原氏、北家、伊周の流なり、兒玉氏より分る、立家の祖を家資といふ、武州荏原郡目黒を苗字の地とす。

【目賀田氏】姓は藤原氏、其先近江國目賀田に住して目賀田を稱し、守政のとき故ありて内藤を稱へ紀伊頼宣に仕ふ、男守咸のとき目賀田に復す。　家紋 杏葉鐶丸 蛇目

もの部

【水主氏】(姓)天火明命の後なり。

【水取氏】(姓)饒速日命六世の孫、伊香我色雄命の後なり。

【毛呂氏】姓は藤原氏、大宰權帥季仲の後裔なり、武藏國入間郡毛呂を苗字の地

とす。　家紋上輪丸に三文字獅子の古文字　雁金

【元吉氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、立家の祖を有直といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【本西氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を經季といふ

【本吉氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を高衡といふ。

【本須氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る。

【守永氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤狩野等の族立家の祖を祐氏といふ。

【守田氏】姓は藤原氏、同上、藤原乙麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を祐貞といふ。

【守部氏】（姓）振魂命の後なり。

【百舌鳥氏】（姓）天穗日命の後、土師氏の族なり。

【門奈氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の後、波多野三郎義通の後裔なり。

家紋丸に左鷹羽の打違丸に橘樹

門奈昌通―秀直（今川義元に仕ふ）―直宗―直友―

―直勝……

【物部氏】（姓）饒速日命の後なり、この氏族は、上世の歴史に於て、蘇我氏、大伴氏と相並びて、最も有名なる氏族にして、物部十千根、膽咋等より尾輿守屋に至るま

で、著名の人物頗る多し、又物部氏より出でたる復姓には、物部肩野氏、物部韓國氏物部依羅氏、物部飛鳥氏、物部多藝氏、物部石上氏、物部射園氏、物部淨志氏、物部海氏物部鏡氏、物部匝嵯氏、物部中原氏、贄田物部氏、相模物部氏、坂戸物部氏、二田物部氏等多くあるを見て、以て其一族の繁榮分岐の蹟を知るべきなり。

【物忌氏】（姓） 椎根津彦命九世の孫、矢田宿禰の後なり。

【茂木氏】 姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、小田氏より分る、立家の祖を伊志良有知の弟知基といふ。

【基崎氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子。魚名の後、藤原利仁の流なり、後藤氏より分る。

【森山氏】 姓は藤原氏、北家、秀郷の流なり、小山朝政の後胤、實光男實久を祖とす 家紋山形に二引丸に竪木瓜

【森田氏】 姓は藤原氏、北家、長家の後なり、那須資隆の子、太郎光隆を祖とす。

【森田氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の流なり、工藤狩野等の族、立家の祖を祐永といふ。

【森本氏】 姓は藤原氏、藤原秀郷十八代の後胤、森本爲時を祖とす。 家紋輪貫檜扇

第八章　頭音や行に屬する姓氏

やの部

【八代氏】 姓は藤原氏、北家藤原道隆の

子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を砥川秀直の弟隆俊といふ。

【八谷氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、立家の祖を重綱といふ

この苗字にも、懸田氏と同一の疑問を與ふるを得べし、懸田氏の部を參照せよ。

【八名氏】姓は大伴氏、高皇產靈命の五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を助親といふ。

【八木氏】（姓）海神豐玉彥命の後なり。

【八椚氏】姓は伴氏、天押日命の後なり立家の祖を重實といふ。

【八木坂氏】姓は神氏、大國主命の子、健御名方命の後なり。

【山氏】姓は藤原氏、北家、藤原道兼の後なり、宍戸家宗の二男、五郎左衛門家時を立家の祖とす。

【山氏】（姓）天穗日命の後なり。

【山氏】（姓）天津彥根命の後なり。

【山口氏】姓は大江氏、大江廣元の後なり、立家の祖を忠時といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【山丸氏】姓は藤原氏、南家、乙麻呂の流なり、相良宗賴の子、五郎左衛門賴平を立家の祖とす。

【山川氏】姓は藤原氏、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、立家の祖を寒河時光の弟重光といふ。

【山上氏】姓は藤原氏、藤原秀鄉の流なり、立家の祖を足利家綱の子高綱といふ

家紋丸に三文字 九曜

【山上氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を安田惟光の弟光隆といふ。

【山下氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷流なり、立家の祖を經高といふ。

【山下氏】姓は藤原氏、もと清和源氏にして淺利義利の後胤なり、義勝(信玄に仕ふ)のとき甲斐國山下村に住せしより山下を稱へ、藤原氏に改むといふ。

家紋丸に三扇 三扇 左巴

【山本家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、阿野家より分る、立家の祖を勝忠といふ、勝忠の薨は後光明天皇の承應三年にあり。

滋野井實國—阿野公佐—(十二代畧)—實顯—勝忠(山本)……

【山本氏】姓は大伴氏、高皇產靈命五世の孫、天押日命の後なり、立家の祖を兼貞といふ。

【山名氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周より出づ、祖を親行といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【山内氏】姓は藤原氏、藤原魚名の後、秀郷の流なり、秀郷十世の孫、首藤義通始めて山内氏を稱す、これ土佐侯として有名なる山内氏なり。 家紋白黒一文字 丸に三葉柏 ◉先祖の家紋は黑白一文字なり丸に三葉柏を用ふることは先祖某丹波國に於て合戰し味方敗北すこのとき某怒を發し鎗を取て相戰ふ先手の軍兵

指忽ちに指物を打ち折り引退かんとするとき柏の葉を取て殘物とし引返し戰ひ勝利を得たりこのとき柏の葉僅に三つりたるを吉例とし黑白一文字を改め是を以て家紋に用ふ傳に黑白一文字及び丸に三葉柏は一豊の時よりこれを用ふそれより上何れの世より用ひし事を詳にせずといふ

【山内氏】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤の後なり、上杉氏にして鎌倉山内に居りしもの、これを稱す、祖を憲方といふ。

【山井家】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、水無瀨家より分る、立家の祖を兼仍といふ、兼仍の薨去は中御門天皇の享保四年にあり。

【山角氏】　姓は藤原氏、南家、乙麻呂より出ず、二階堂維遠の後裔定澄山城國宇治郡山角村に住す、依て在名を苗字とす。

家紋　九曜藤丸　輪違山形　定澄―定吉―定次―

―定吉―勝成―定勝

【山代氏】　（姓）天津彦根命の後なり。

【山村氏】　姓は大江氏、天穗日命の後、大江定基（或はいふ大江匡房）の後裔なり、近江國山村鄕を苗字の地とす。

家紋　丸に一文字　杏葉　良道―良利（慶長頃）―

―良候（木曾義昌に仕ふ）―良勝―良安―良豊……

【山村氏】　姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を宗宣といふ。

【山科家】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、この家號は實敎より始まる、實敎は鎌倉時代の初め順德天皇頃の人なり。

實敎（山科）―敎成―敎房―資成―資行

【山門氏】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を範義といふ。

【山岸氏】姓は藤原氏、南家藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤野狩等の族より出づ。

【山鹿氏】姓は藤原氏、北家。藤原兼家の子、道兼の後なり、宇都宮氏より分る、立家の祖を家政といふ。

宇都宮朝綱―家政(山鹿)―時家　資時……

【山鹿氏】姓は藤原氏、藤原隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を二宮隆季の子、經政といふ、肥後國鹿本郡山鹿を苗字の地とす。

【山城氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の後なり、工藤狩野等の族、其先を祐親といふ。

【山岡氏】姓は大伴氏、天押日命の後なり、立家の祖を景廣といふ。

【山岡氏】姓は大伴氏、天押日命の後、道臣命より出づ、三河大介兼實のとき富永又設樂を稱し、貞景のとき大原、景廣のとき毛牧、景通とき大鳥居、資廣に至り近江國勢多の山田岡に住し山岡を苗字とす

家紋 丸に横木瓜 二引両 ⦿家傳に二引両の紋は先祖大島居景通延元元年筑前多々羅濱合戰のとき戰功により尊氏より與へらると

【山越氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を戸室親綱の弟爲綱といふ

【山邊氏】(姓) 天火明命の後なり。

【山幡氏】姓は大中臣氏、藤原氏と同祖

天兒屋根命の後なり、立家の祖を親隆といふ。

【山幡氏】姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

【山野宇氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、宇都宮氏より分る、立家の祖を家時といふ。

【矢乃氏】姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

【矢田氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、那須氏より分る、立家の祖を資氏といふ。

【矢部氏】家傳に曰く、姓は藤原氏、藤原冬嗣の子、良門の三代、堤中納言兼輔の後裔なりと、對島定則駿河國有渡郡矢部村に住せしより在名を苗字の地とす。

家紋三頭左巴 五三桐

【矢部氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後なり、伊達氏より分る。

【矢集氏】（姓）饒速日命の後なり。箭集氏に同じ。

【矢俣氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を幸島行時の子時綱といふ。

【矢古宇氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流なり、藤原秀郷より出づ、近藤氏の族なり。

【矢田部氏】（姓）饒速日命六世の孫、伊香色雄命の後なり。

【矢田部氏】（姓）神魂命の孫、武津之身命

の後なり。

【矢田部氏】姓は大中臣氏、藤原氏と同祖天兒屋根命の後なり、立家の祖を親眞といふ。

【安井氏】姓は中臣氏、松尾社家の流なり、立家の祖を重勝といふ。

【安原氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を實景弟實利といふ。

【安田氏】姓は藤原氏、同上、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を林光明の子惟光といふ。

【安野氏】姓は藤原氏、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を時秀といふ。

【和山守氏】（姓）神皇産靈命の後なり。

【保見氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先を泰廣といふ、猶大友氏の條下を見るべし。

【柳原家】姓は藤原氏、北家、藤原内麻呂の子、眞夏の後なり、日野家より分る、立家の祖を資明といふ、資明の薨去は北朝後光嚴天皇の文和二年にあり。

日野俊光―資明(柳原)―忠光―資衡―
―行光……

【柳家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を經任といふ。

【柳川氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖

を則實といふ。

【柳生氏】姓は菅原氏、天穂日命の後なり、これ柳生但馬守の家なり、累代大和國春日社の神領小柳生を領すといふ。

家紋 和禮茂香 二階笠 雪笹 ◉家傳に二階笠はもと坂崎直盛の家紋なり直盛生害の後彼家の武器を宗矩に賜はり且其紋を以て副紋とすべき旨仰を蒙りたるといふ

永家—永珍—家重—道永—家宗—光家—重永—家慶—宗嚴—宗矩……

【屋形氏】(姓)饒速日命の後なり。

【屋形氏】姓は宇佐氏、高皇產靈命の孫宇佐都彥命の後なり。

【梁川氏】姓は藤原氏、北家、山蔭より出づ、伊達氏より分る、立家の祖を宗清といふ、伊達郡梁川を苗字の地とす。

【倭田中氏】(姓)天津彥根命の後なり。

【楊梅家】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道綱の後なり、道綱五代の孫、重季これを稱す。

藤原兼家—道綱—兼經—敦家—敦兼—季行—重季(楊梅)……

【箭集氏】(姓)饒速日命の後なり。

【藪氏】姓は藤原氏、其先伊賀守某、織田信長に仕へ、山城國伏見の藪谷に住せしより藪と稱す、其三代正利紀伊賴宣に仕ふ。 家紋 右萬字 鉄線

【藪家】姓は藤原氏、北家藤原師輔の子、閑院公季の後なり、西園寺家より分る立家の祖を嗣良といふ、嗣良の薨去は後光明天皇の承德二年にあり。

【藥師寺氏】姓は藤原氏、北家藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、小山氏よ

り分る、立家の祖を長村の男政村といふ
下野國河内郡藥師寺村を苗字の地とす

ゆの部

【弓削氏】（姓）饒速日命の後なり、弓削道鏡は其裔ならんか、皇胤紹運錄には、弓削道鏡及ひ弓削淨人を以て、天智天皇の皇子、施基皇子の子となす、古來かゝる傳説ありしものゝ如し。

【由木氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を重直といふ、武藏七黨の一をる西黨に屬す。

【由井氏】姓は伊香氏、天兒屋根命の後伊香津臣命の流なり、立家の祖を保房といふ。

【由井氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を宗賴二男宗弘といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【結城氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、小山氏より分る、立家の祖を朝光といふ、此苗字は朝光下總國結城郡結城の地を食みしより稱へしものなり。

小山政光─朝光（結城）─朝廣─
─廣綱─時廣─貞廣……
祐廣 宗廣 親光……

【湯上氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀鄉の流なり、先祖攝津國有馬郡湯上鄉に住せるを以て苗字とす、兼政は正保頃の人なり。 家紋 下藤の内上文字 槙木瓜

【湯淺氏】姓は紀氏、神皇産靈尊の後、天道根命のより出づ。

【湯母竹田氏】（姓）天火明命の後なり。

【遊佐氏】姓は藤原氏、小山氏の庶族なり、畠山氏に隷し、世々河内に居る、遊佐信教の後なり。家紋二頭左巴輪抜

よの部

【四辻家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、西園寺家より分る祖を實藤といふ、又この家を室町家とも呼ひ、後には一般にしかいへり、實藤の薨去は伏見天皇の永仁六年にあり。

西園寺通季―公通―實宗―公經―實藤（四辻）……

【四瀬氏】姓は渡會氏、大神宮社家なり神皇産靈命より出づ、立家の祖を雅高といふ。

【世木氏】姓は渡會氏、神皇産靈命の後なり、雅彦に至りこれを稱ふ。

【吉川氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、立家の祖を高景といふ其苗字につきては、懸田氏熊谷氏等と同一の疑問を發することを得べし、夫れ等の條下を參照せよ。

【吉水氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を國綱といふ。

【吉井氏】姓は藤原氏、北家、道隆の子、隆家の流なり、菊池武重の末裔にして伊豫

の吉井に住し、在名を苗字の地とす。

【吉田家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を資經といふ。

【吉田家】姓は卜部氏(大中臣氏の分流)天兒屋根命の後なり、兼煕に至り吉田と稱す、世々神道を以て著はる。

【吉田氏】姓は藤原氏、北家、藤原伊周の流なり、立家の祖を吉島行保の男保延の弟保弘といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【吉田氏】姓は藤原氏藤原伊周の流なり、立家の祖を俊平といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【吉田氏】姓は藤原氏、藤原利仁の流なり、後藤氏より分る、立家の祖を景重といふ。

【吉江氏】姓は藤原氏、北家、良門の後なり、上杉憲政の後裔、吉江政房を祖とす。

家紋 藤の丸 竹雀 龜甲内左三巴 菊桐 丸内根笹

【吉島氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の流なり、立家の祖を行遠といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【吉田東家】姓は藤原氏、藤原高藤の後なり、勸修寺家より分る、立家の祖を經長といふ。經長は後伏見天皇頃の人なり。

【吉弘氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先を泰廣といふ、猶大友氏の條下を見よ。

【吉原氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を則光といふ。

【吉澤氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流、藤原秀鄉より出づ、大友氏の族なり、立家の祖を重能といふ、猶大友氏の條下を見よ。

【米澤氏】　姓は藤原氏、もと清和源氏にして三河郡司、米澤時濟十一の孫、義道尾張國の住人古渡正忠の養子となり、藤原氏に改め、正重と稱す。其男正種三河國に移り住すといふ。　家紋十一枚櫻欄葉五星

正種—勝政（家康につかふ）—政信—康勝—正守—
　正義……

【余語氏】　姓は菅原氏、菅原道實の後、中江長與近江國余語庄に住し、其子守長のときより余語と稱す。　家紋陽劔梅鉢丸に三梅花

【良階氏】　（姓）饒速日命の後なり。

【依羅氏】　（姓）同上、饒速日命の後なり。

【善友氏】　（姓）同上、饒速日命の後なり

【喜世氏】　（姓）掃守氏より出づ、掃守氏は振魂命の後なり。

【善淵氏】　（姓）饒速日命の後なり。

【善淵氏】　（姓）天火明命より出づ。

【善道氏】　（姓）天火明命の後なり。

【善滋氏】　（姓）　もとは賀茂氏、大國主命の後なり、爲政の時に至り善滋氏を稱ふ。

【寄木氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、立家の祖を親時といふ。

【與嶋氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周の後なり、立家の祖を保延といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【慶滋氏】（姓）もとは賀茂氏、大國主命の後なり、保胤に至りかく稱す。

【横江氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を山上光隆の弟、基光といふ。

【横田氏】姓に藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の流なり、宇都宮氏より分る。立家の祖を時綱の弟賴業といふ、下野國河内郡横田鄉を苗字の地とす。

【横田氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、蒲生氏の族、立家の祖を秀賴といふ。

【横道氏】姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼綱といふ。

第九章　頭音ら行に屬する姓氏

りの部

【李癸氏】（姓）饒速日命の後なり。

【龍造寺氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄉の流なり、立家の祖を季家といふ、戰國時代九州に於て有名なる氏族なり、此苗字は肥前國佐賀郡龍造寺邑の地名より來れるものなり。

【靈山家】姓は藤原氏。北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家の分れなり、立家の祖を定長といふ。

れの部

【冷泉家】姓は藤原氏、北家、藤原道長四代の孫、俊成の後なり、俊成の曾孫爲相これを稱ふ、上下の二に分る、上冷泉は爲之を祖とし、下冷泉は持爲の後なり、歌道の家として名高し、爲相の薨去は後醍醐天皇の嘉曆三年にあり。

俊成（御子左）—定家—爲家—爲相（冷泉）—
　爲秀—爲尹……

【冷泉家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を經賴といふ。

【冷泉家】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、長良の後なり、この家號は永經より始まる。

ろの部

【六條家】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、この家號は顯季より始まる。

顯季（六條）—顯輔—重家—經家……

【六角氏】姓は藤原氏、北家、日野眞夏の支族、烏丸光廣二男、廣賢六角を稱す。

【六角家】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、賴宗の後なり、中御門家より出づ、立家の祖を基維といふ、始め江多家と稱せり、基維の薨去は東山天皇の元祿八年にあり。

【六郷氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、二階堂氏より分る、立家の祖を道行といふ、出羽國仙北郡

六郷を苗字の地とす。

家紋　三鱗甲の内七曜　蔦　一鱗甲の内七曜

第十章　頭音わ行に屬する姓氏

わの部

【分部氏】　其先、工藤氏より出づと、然れば姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり。

分部光嘉　光信━嘉治━喜高
┗信政　（近江大溝）

【亘氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を經清といふ。

秀郷━千時━千清━正頼━頼遠
┗經清（亘）━清衡……

【亘理氏】　姓は藤原氏、前條亘氏に同じ

【和田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を後影といふ。　近江國甲賀郡和田を苗字の地とす。

【和田氏】　姓は物部氏、饒速日命の後胤物部守屋の後なり。

【和田氏】　姓は大中臣氏、藤原氏と同祖天兒屋根命の後なり、立家の祖を助正といふ。

【和田氏】　姓は熊野氏、饒速日命の後なり、世々熊野本宮の社司たり。

【和田氏】　（姓）神皇産靈命の後なり。

【和仁古氏】　（姓）大國主命の後なり。

【若水氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の

子、伊周の流なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【若宮氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆藤の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を隆顯といふ。

【若宮氏】姓は藤原氏、秀鄉の流なり、近江國坂田郡新庄村若宮に居る、由りて氏とす、立家の祖を俊成といふ、有名なる山内一豊夫人若宮お松はこれより出づ。

家紋　藤巴

【若犬養氏】（姓）火明命十六世の孫、尻調根命の後なり。

【若湯坐氏】（姓）饒速日命の後なり。

【若倭部氏】（姓）神皇産靈命の後なり。

【若倭部氏】（姓）天火明命の後なり。

【若櫻部氏】（姓）饒速日命三世の孫、出雲色男命の後なり。

【度會氏】（姓）神皇産靈命の後なり、後にあぐる渡會氏に同じ。

【涌喜氏】姓は藤原氏、北家、藤原道長の子、長家の後なり、立家の祖を通秀といふ猶此苗字につきては懸田氏、熊谷氏等と同一の疑問を述ぶるを得べし。これ等の條を參照せよ。

【脇本氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、立家の祖を都筑成利の弟、成重といふ。

【脇坂氏】姓は藤原氏、安明近江國淺井郡脇坂庄に住し、在名を苗字とす。

家紋 輪違 桔梗 ◉家傳にもとは桔梗を用ふ安治播磨國三木城攻めのとき太閤白き輪違ひの紋付きたる赤き母衣を諸士に示し望むものあらば與ふべしとありしかば安治進み出で御母衣を汚がすまじとてこれを乞ひ受け其日の戰に高名ありしより太閤これを感じ今より後輪違ひを以て汝の家紋とすべしとこれより桔梗を副紋とし家紋を輪違に改むといふ

安明―安治―安元―安照―安清―安興―
―安弘―安實……

【渡會氏】(姓) 神皇産靈命の後なり、前條度會氏と同じ、大神宮社家として有名なり、子孫分岐多し、

【鷲尾家】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の三男、末茂の後なり、四條家より分る、立家の祖を隆良といふ。隆良の薨去は伏見天皇の永仁四年にあり。

四條隆親―隆良(鷲尾)―隆嗣―隆職……

【鷲宿氏】 姓は藤原氏、藤原道兼の流、宇都宮氏の族なり、立家の祖を貞朝といふ。

ゐの部

【井氏】 姓は藤原氏、井伊氏を單に、かく稱ふることあり。

【井上氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、大友氏より分る、其先を景直といふ。猶大友氏の條下を見るべし。

【井上氏】 姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を俊村といふ。

【井上氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、利仁の流なり、もと齋藤を稱し、利隆のときより長井を稱し、正利に至り齋藤に復し、定利に至り井上に改む。

家紋　丸に瞿麥　十六葉菊　九曜　五七桐　矢筈　⦿家傳に利長の母始め太閤に仕ふ太閤伏見の亭にありて大に地震せしときこれに從ひ刀を以て庭上に走り出でしかば感悅の餘り汝男子たらばこの賞として一城の主ともなすべきを女子なれば甲斐なしのち子孫あらば之れを與へよとて菊桐の紋を授けられしといふ

正利—道利—定利—利義—利景—利盛
　｜利忠—利守—利恭……

【井出氏】姓は藤原氏、南家、爲憲の流なり、二階堂政重駿河國富士郡井出鄕に住し、子政種に至りて在名を苗字の地とす。

家紋　山形　花輪違　村紺　井桁　井筒　稻穗の丸に井桁　⦿家傳に正直のとき外家鈴木氏の紋を合せて稻穗の丸に井桁を用ふと

正直（今川義元に仕ふ）—正次—正成—正陳—正府
　｜正辰……

【井平氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、立家の祖を田中直家の弟直時といふ。

【井戸氏】姓は藤原氏、式家、藤原百川の後なり、立家の祖を公時といふ。

【井田氏】姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼保といふ。

【井芹氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を村田經秀の弟經益といふ。

【井伊氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、立家の祖を共保といふこれ德川氏の臣として有名なる井伊氏の先なり。遠江國引佐郡井伊谷を苗字の地とす。

良門—（五代畧）—共保（井伊）……直親—
　｜直政—直勝……（越後與板）橘　⦿家紋
　　　　—直孝……（近江彦根）橘　⦿家紋

◉家傳に橋の紋はそのかみ共保の出生所の手洗井の傍に橋一類ありしかばこれを共保の産衣の紋となすにより子孫衣服に用ひ井桁を旗幕の紋となせしといふ

【井村氏】 姓は藤原氏、御神本より出づ立家の祖を兼冬といふ。

【井面氏】 姓は中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を能親といふ。

【井面氏】 姓は荒木田氏、天兒屋根命の後なり。

【井野氏】 姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を俊久といふ。

【井藤氏】 姓は穂積氏、饒速日命の後なり、龜井氏より分る、立家の祖を忠雄といふ。

【院相氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の流、藤原秀郷より出づ、林行房の子、五郎兼綱を祖とす。

【猪子氏】 もと清和源氏、源頼政の男、仲綱の末流生田某の後裔なり、某始め攝津國生田に住して生田を稱し、後猪子に改む、其藤原氏となりし理由は不明なり。

家紋 龜甲

【猪熊家】 姓は平野氏、天兒屋根命の後なり。兼充に至り、かく稱す、後、藤井と改む。

【猪野氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の後なり、立家の祖を俊基といふ。

【猪名部氏】 (姓) 饒速日命六世の孫、伊香色雄命の後なり。

ゑの部

【殖栗氏】（姓）天兒屋根命の後なり。

【遠藤氏】姓は藤原氏、北家、秀鄕の流、首藤公淸三代康淸の末後なりと。

家紋丸の内花澤瀉

【遠藤氏】姓ば藤原氏、式家藤原宇合の後、藤原忠文より出づ、立家の祖を井戸公時の男爲方といふ、これ遠藤盛遠（文覺上人）の後なり。

【遠藤氏】姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり、工藤狩野等の族立家の祖を維兼といふ、其遠藤氏を稱するは、遠江守たりしによつてなり。

【繪所家】姓は藤原氏、北家藤原冬嗣の子、良門より出づ、立家の祖を隆能といふ隆能、繪所預たりしによりこの家號あり

をの部

【小山氏】（姓）高魂命の子、櫛玉命の後なり、

【小山氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀鄕の流なり、立家の祖を政光といふ、下野國都賀小山を苗字の地とす。

秀鄕―千常―文修―兼光　賴行―行尊―
　行政―政光（小山）―朝政　長朝―長村……

【小山氏】姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を元淵といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【小山氏】姓は藤原氏、北家、藤原道隆の

子、隆家の後なり、立家の祖を出田經信の弟經親といふ、菊池氏の支族なり。

【小川氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の後なり、大江氏より分る、其先を重秀といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【小川氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の後なり、立家の祖を政平といふ。

【小川氏】姓は日奉氏、高魂命の後なり立家の祖を宗弘といふ、武藏七黨の一なる西黨に屬す。

【小川氏】姓は菅原氏、天穗日命の後なり、久松氏より分る、立家の祖を定秀といふ。

【小原氏】姓は藤原氏、小原丹後氏綱を祖とす、其先磐城國刈田郡小原村に住す依て苗字の地とす、

【小川氏】姓は藤原氏、小河政吉の二男正則より出づ。家紋 尾長鳥尾を以て丸とし内に一文字 丸に三向松 丸に一文字

正則―久高―康明―康存―康慶……

【小田氏】姓は藤原氏、北家、藤原兼家の子、道兼の後なり、道兼五代の孫、知家これを稱す、然るにこゝに有力なる一說あり知家もと源義朝の子なり、其外曾祖、八田權守藤原宗綱、養ひて子となす、是れ知家なりと、故に小田氏を源氏に系するものあり、玆には再說を存し、參考に供することゝせり、此苗字は知家常陸國筑波郡小田の地を食みしよりこれを稱す。

藤原道兼―兼隆―兼房―宗圓―宗綱―

—知家(小田)—知重—泰知—時知—宗知—
—貞宗—高知—氏朝……

【小代氏】姓は藤原氏藤原伊周の後なり、立家の祖を淺羽行業の弟遠廣といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【小見氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の後なり、立家の祖を阿曾沼廣綱の子是綱といふ。

【小谷氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の後なり、立家の祖を俊房といふ、近江國淺井郡小谷を苗字の地とす。

【小河氏】一に小川に作る、姓は藤原氏工藤爲憲の後なり、もと天野を稱し、政勝宇野を稱へ、政吉に至りて外家の號小川に改む。家紋丸に三向松丸に一文字　◉一に三枝松また三日月或は三星を用ふと

家次—政勝—政吉—康眞—康庸—康次……

【小倉家】姓は藤原氏、北家、藤原師輔の子、閑院公季の後なり、西園寺家より分る立家の祖を公雄といふ、公雄の薨去は龜山天皇の文永九年にあり。

西園寺通季　公通　實宗—公經—
—實雄—公雄(小倉)……

【小道氏】姓は藤原氏、御神本氏より出づ、立家の祖を兼弘といふ。

【小澤氏】姓は大江氏、天穗日命の後なり、立家の祖を廣顯といふ、猶大江氏の條下を見るべし。

【小國氏】姓は藤原氏、藤原隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を經世といふ。

【小國氏】姓は藤原氏藤原秀郷の流なり、立家の祖を俊衡といふ。

【小貫氏】姓は藤原氏、藤原魚名の流、藤原秀郷の後なり、立家の祖を通伯といふ

【小塞氏】(姓)天火明命の後なり。

【小須氏】姓は渡會氏、神皇產靈命の後なり、渡會神主より分る。

【小關氏】姓は小塞氏、天火明命の後なり。

【小萱氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の後なり、立家の祖を重廣といふ。

【小館氏】姓は藤原氏、北家、藤原秀郷の流なり、中御館基衡の弟家淸を祖とす。

【小幡氏】姓は藤原氏、北家、藤原速隆の子、伊周の後なり、立家の祖を行賴といふ武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【小幡氏】姓は藤原氏、北家藤原兼道の子、道兼の流なり、小田氏より分る、立家の祖を光重といふ、上野國小幡を苗字の地とす、久重のとき小畑に改め、男泰久小幡に復す、泰久始め今川家に仕へ、後北條氏康に仕ふ、男泰淸も亦北條氏政に仕ふ。

家紋 軍配團扇の内七五三の笹 丸に桔梗 丸に花菱　泰淸—正俊—

—正次—爲貞—正重—正光—正豊……

【小野寺氏】姓は藤原氏、須藤俊通の後裔なり、其先を秀次といふ、出羽國小野寺城に居り、これを號とす。

【小野田氏】姓は藤原氏、北家、魚名の玄孫中納言山蔭の後なり、立家の祖を兼廣といふ。　家紋 寄懸鉢 五三桐

【小坂部氏】（姓）饒速日命の後なり、刑部氏に同じ。

【小治田氏】（姓）饒速日命の後なり。

【小田河氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の流なり、立家の祖を泰親といふ。

【小見野氏】姓は藤原氏、藤原伊周の後なり、淺羽氏より分る、立家の祖を盛行といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【小山田氏】姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、上杉氏より分る、立家の祖を藤成の子定重といふ。

【小山田氏】姓は藤原氏、藤原隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を經遠といふ。

【小河原氏】姓は藤原氏、藤原伊周の後なり、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す、立家の祖を重長といふ。

【小野崎氏】姓は藤原氏、藤原隆家の後なり、菊池氏より分る、立家の祖を隆定の子隆光といふ。

【小野崎氏】姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原秀郷の流なり、立家の祖を通盛といふ。

【小野宮家】姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、實頼の流をいふ。

【尾上氏】姓は渡會氏、大神宮社家なり神皇産靈命より出づ、立家の祖を春彦といふ。

【尾林氏】姓は菅原氏、天穗日命の後なり、立家の祖を行正といふ。

【尾羽氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道兼の流なり、宇都宮氏より分る、立家の祖を綱輝といふ。

【尾張氏】 (姓) 天火明命の男、天賀吾山命の後なり。

【牡鹿氏】 (姓) 高皇産霊命の後なり。

【岡氏】 姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の後なり、立家の祖を井伊忠直の弟直藤といふ。

【岡氏】 姓は藤原氏、北家、藤原房前の子、魚名の後、藤原利仁の流なり、齋藤氏より分る、安原實利の弟、太郎友利を立家の祖とす。

【岡山氏】 姓は伴氏、天押日命の後なり立家の祖を貞和といふ。

【岡本氏】 姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、隆家の流なり、菊池氏より分る、立家の祖を季隆といふ。

【岡本氏】 姓は藤原氏、岡本正親等の家にして宇都宮芳賀の支流、信濃守富高の後なり。 家紋左巴

正重(天文年頃)—正親—義保—義政……

【岡田氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の流なり、工藤相良の族、立家の祖を頼照といふ。

【岡村氏】 姓は藤原氏、北家、山蔭より出づ、伊達氏より分る、立家の祖を直光といふ、伊達郡岡村を苗字の地とす。

【岡部氏】 姓は藤原氏、南家、藤原武智麻呂の子、乙麻呂の後なり。工藤狩野等の族

立家の祖を清綱といふ。　家紋三頭左巴

工藤爲憲—時理—時信—清綱(岡部)—
—泰綱…正綱—長廣—宣勝—行隆（和泉岸和田）

【岡崎家】　姓は藤原氏、北家、藤原冬嗣の子、良門の二男、高藤より出づ、勸修寺家より分る、立家の祖を宣持といふ、宣持の薨去は靈元天皇の寛文十一年にあり。

【岡崎氏】　姓は藤原氏、北家、藤原道隆の子、伊周より出づ、立家の祖を里岩有光の弟、有基といふ、武藏七黨の一なる兒玉黨に屬す。

【岳田氏】　姓は大中臣氏、天兒屋根命の後なり、立家の祖を家宣といふ。

【長田氏】　姓は藤原氏、北家、藤原忠平の子、師尹の後なり、熊野別當家より分る、立家の祖を親行といふ。

【桶田氏】　姓は藤原氏、北家、利仁の流なり、齋藤氏より分る、吉原則重の弟則貞を立家の祖とす。

【麻績氏】　(姓)　天八坂彦命の後なり、多氣氏と同族なり。

【荻生氏】　姓は物部氏なり、これ荻生徂徠の家なり。

【越智氏】　(姓)　饒速日命の後なり。

【雄儀氏】　(姓)　神皇產命の後なり。

【緒方氏】　姓は大神氏、大國主命の後なり。　立家の祖を臼杵惟隆の弟惟榮といふ、この一族九州に大に著はる。

第三部　蕃別諸氏

第一章　頭音あ行に屬する姓氏

あの部

【天草氏】姓は大藏氏、坂上氏と同祖、阿智使主の後なり、立家の祖を種氏と云ふ

【安達氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の裔阿智使主の後なり、立家の祖を滋野と云ふ

【安堺氏】(姓)後漢獻帝の後なり。

【安敕氏】(姓)百濟王魯王の後なり、安敕又阿直に作る。

【足立氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主の流なり、立家の祖を氏勝と云ふ

【赤染氏】(姓)燕王、公孫淵の後なり。

【飛鳥部氏】(姓)百濟の人、木吉士の後なり。

【秋月氏】姓は大藏氏、坂上氏と同祖、阿智使主の後なり、立家の祖を種雄といふ、筑前國朝倉郡秋月村を苗字の地とす。

大藏種材—種弘—種資—種生　種直—
　|—種雄(秋月)—種幸—種方—種實—種長—
　|—種春……(日向高鍋)家紋 唐菱 瞿麥

【荒荒氏】(姓)任那、豐貴王の後なり。

【荒田井氏】(姓)坂上氏と同祖、後漢靈帝

の男、延王の後なり、應神の朝、來朝せる阿智使主より出づ。

【麻田氏】（姓）朝鮮王准の後なり。

【栗村氏】（姓）後漢、靈帝の後、阿智使主より出づ。

【朝日氏】（姓）淳仁天皇の時、高麗人、牛養等此姓を賜はる。

【朝原氏】（姓）秦氏より出づ、秦の始皇帝三世の孫、孝武王の後、融通王の流なり。

【朝妻氏】（姓）韓國人、都留使主の後なり。

【朝治氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗人、前部貞麿等此姓を賜はる。

【新井氏】姓は大藏氏、坂上氏と同祖、阿智使主の後なり、立家の祖を種向といふ

【飽波氏】坂上氏と同祖漢、後靈帝の後阿智使主より出づ。

【漢人氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【葦屋氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢、靈荷の後、阿智使主より出づ。

【葦屋氏】（姓）百濟意寶荷羅支王より出づ、

いの部

【一宮氏】姓は三善氏、百濟、速古大王の後なり。

【今木氏】姓は三宅氏、新羅天日杵より出づ、三宅氏の族に兒島氏あり、今木氏は其分派なり。

【今來氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢、靈帝の後、阿智使主より出づ。

【石川氏】（姓）桓武の朝、百濟人、若蟲に此姓を賜はる。

【石川氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖、を光貞といふ

【石占氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢、靈帝の後、阿智使主より出づ。

【石村氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【石野氏】（姓）百濟、近速古王の孫、憶賴福留の後なり。

【生地氏】姓は坂上氏、後漢、靈帝の後、阿智使主より出づ。

【市往氏】（姓）百濟國、明王の後なり。

【伊吉氏】（姓）長安の人、劉楊雍の後なり。

【伊部氏】（姓）周の魯公、伯禽の後、努理使主より出づ。

【伊覩縣主】新羅、天日桙の裔、五十迹手より出づ。

【出水氏】（姓）高麗人、後部能致元の後なり。

【池邊氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢、靈帝の後、阿智使主の後なり。

【岩門氏】姓は大藏氏、坂上氏と同祖、阿智使主の後なり、立家の祖を種平といふ

【庵原氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を正雄といふ

【綵井氏】（姓）新羅の皇子、天日桙の後

なり。

【飯尾氏】姓は三善氏、百濟速古大王の後なり。

うの部

【太秦氏】（姓）秦始皇帝三世の孫、孝武王の孫、功滿王より出づ。功滿王仲哀天皇の八年に來朝し、其子融通王（一に弓月君といふ）應神天皇の十四年に二百十七縣の人民を率ゐて來朝す、天皇これを諸に分置し、蠶を飼ひ絹を織らしめ、姓を波多公と賜ふ。雄畧の朝に至り、姓を禹都万佐と賜ふ。

【内藏氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後阿智使主の後なり。

【宇奴氏】（姓）百濟の人、彌奈曾富意彌の後なり。

【宇野氏】姓は多々良氏、琳聖太子の後なり。大内盛房五男、盛長右田を稱し、弘詮のとき陶を稱し、元弘のとき宇野に改む周防國宇野を苗字の地とす。

【宇喜多氏】姓は三宅氏、新羅の王子、天日桙の後なり、三宅氏より出でたる兒島氏よりの支派なり。これ浮田秀家等の家なり。

【畝火氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【浮田氏】姓は三宅氏、宇喜多氏に同じ其條下を見るべし。

【海原氏】（姓）新羅の人、進廣肆金加志

毛禮の後なり。

【雲梯氏】(姓) 三國時代の魏王曹操の子、文帝の裔、寶德公より出づ。

【臺氏】(姓) 後漢獻帝の後、白龍より出づ。

【鵜殿氏】姓は秦氏、秦の始皇帝の後なり、紀州熊野新宮七人の内、常香院新九郎長持の末流、大隅守長次の後なり。

えの部

【江木氏】姓は多々良氏、百濟の王族、琳聖太子の後なり、多々良氏より出でたる大内氏の分派なり、立家の祖を弘房といふ。猶大内氏の條下を見るべし。

【朴市秦氏】(姓) 秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【榎井氏】(姓) 坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【榎並氏】姓は坂上氏、後漢、靈帝の後、阿智使主の後なり、立家の祖を仲清といふ。

おの部

【大山氏】(姓) もとは廣陵高穆の人なり。

【大西氏】姓は秦氏、秦始皇帝の後、融通王より出づ。

【大内氏】姓は多々良氏、百濟の王族、琳聖太子の後なり、立家の祖を正恒と云ふ、然るに一説あり、即ち姓氏錄には、多々良氏を以て、任那國王、爾利久牟の後なりとなす。其何れが是なるを知らず。大内氏は足利時代盛なる氏族にして、一族の

分岐また多し。周防國吉敷郡大内を苗字の地とす。

琳聖太子……正恒(大内)……弘幸―弘世―
―義弘―持世―教弘　政弘　義興―義隆……

【大井氏】(姓) 淳仁天皇の時、高麗人、家部高吳野等に、此姓は賜はる。

【大友氏】(姓) 後漢獻帝の後なるべし。

【大石氏】(姓) 廣陵の高穆の後なり。

【大石氏】(姓) 坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【大丘氏】(姓) 百濟、速古王十二世の孫思率高難延子の後なり。

【大市氏】(姓) 任那國人、都賀阿羅斯止の後なり。

【大伴氏】(姓) 任那國、佐利王の後なり。

【大原氏】(姓) 漢人、西姓令貴の後なり

【大里氏】(姓) 魏の司空、王昶の後なり。

【大狛氏】(姓) 高麗氏の族なり、高麗氏の條下を見るべし。

【大崗氏】(姓) 魏の文帝の後、安貴公より出づ、安貴公、雄略の朝、四衆を率ゐて歸化す、男龍(一名辰貴)繪をよくす、武烈の朝姓を首と賜はり、天智の朝、姓を倭畫師と賜はり、稱德の朝、大崗忌寸姓を賜はる。

【大縣氏】(姓) 百濟國人、和德の後なり

【大瀧氏】(姓) 奈良古智氏より出づ、奈良己智氏の條下を見るべし。

【大藏氏】(姓) 坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、大藏種材等著はる。一族の分岐頗る多し。

阿智使主─都加使主─山木直（大藏）……
……春實　種光─種材─光弘─種弘……

【大屋野氏】姓は大藏氏、後漢、靈帝の裔阿智使主の後なり、立家の祖を種能といふ。

【太田氏】姓は三善氏、百濟速古大王の後なり、鎌倉時代の始め、三善康信あり、太田氏は其後なり、祖を康連といふ。

【凡人中家氏】（姓）後漢、獻帝の後、白龍より出づ。

【刑部氏】（姓）呉人、李牟意彌の後なり

【刑部氏】（姓）百濟國王、酒王より出づ

【忍坂氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢、靈帝の後、阿智使主の後なり。

【面氏】（姓）百濟國王、比流王の後なり。

【路氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢、靈帝の後、阿智使主の後なり。

第二章　頭音か行に屬する姓氏

かの部

【上氏】三國時代、魏の武帝の子、陳思王植の後なり。

【上勝氏】（姓）百濟の人、多利須須の後なり。

【上日佐氏】（姓）百濟の人、久爾能古使主の後なり。

【河内氏】（姓）高麗王、安劉王の後なり。

【河内氏】（姓）後漢の光武帝七世の孫愼近王の後なり。

【河内氏】（姓）後漢主獻帝の子、白龍よ

り出づ。

【河内氏】（姓）三國時代、魏の武帝の子陳王植の後なり。

【河内氏】（姓）百濟都慕王の子、陰太貴首王の後なり。

【河原氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【河原氏】（姓）三國時代、魏の武帝の子陳王植の後なり。

【河勝氏】一に川勝に作る、姓は秦氏、秦の始皇帝の後融通王の後なり、始皇帝より十五代廣隆の後胤なりと。

家紋桐に鳳凰　釘抜　五三桐

【交野氏】（姓）漢人庄員の後なり。

【金作氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【門氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【門倉氏】（姓）同上、阿智使主の後なり

【柿井氏】（姓）淳仁天皇の朝、前部選理等に此姓を賜はる。

【柿並氏】姓は多々良氏、琳聖太子の後なり、大内義弘次男持盛の後弘慶これを稱す、長州阿武郡川上村柿並谷を苗字の地とす。

【香山氏】（姓）百濟國人、達率荊員常の後なり。

【香登氏】（姓）秦の始皇帝の後、融通王の後なり。

【狩氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝

の後、阿智使主の後なり。

【狩高氏】（姓）淳仁天皇の朝、新羅人須布呂比滿麻呂等に、此姓を賜はる。

【柏原氏】（姓）鞍作氏より出づ、東漢の族なり。

【神前氏】（姓）百濟國人、賈受君の後なり。

【兼康氏】姓は丹波氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、丹波康賴の後裔、典藥頭左京大夫兼康の男、能糺父名を以て氏とす。家紋松皮菱の內日丸

【海頭氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を義種といふ。

【蚊屋氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後阿智使主の後なり。

【高氏】（姓）高麗人、元羅郡杵王九世の孫、延拏王の後なり。

【葛野秦氏】（姓）秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【堅部氏】（姓）孝德天皇の時、狛堅部子麻呂あり、高麗人の裔なり。

【雁高氏】（姓）百濟、貴晉王の後なり。

【賀羅氏】（姓）加羅國人、午理和斯の後なり。

【勝氏】上勝氏と同祖、百濟人多利須須の後なり。

【輕氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【龜川氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり、立家の祖を稱光といふ。

【龜崎氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を種能と云ふ。

きの部

【木原氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を景村といふ。

【木津氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【北山氏】長崎の人、道長（友松子と號す）等の家なり、もと閩人、明の亂を避けて、歸化せしものゝ後なり。

【北郷氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿知使主の後なり、立家の祖を種忠といふ。

【衣縫氏】（姓）神靈命の後なり。

【金氏】（姓）新羅人の裔なり。新羅の王族なりしなるべし。

【淨山氏】（姓）唐人、沈淸庭の後なり。

【淨村氏】（姓）陳の袁濤塗の後なり。

【淨野氏】（姓）淳仁の朝百濟人高牛養等、此姓を賜はる。

【淨野氏】（姓）漢の高祖の後、鸞王より出づ、王仁の後なり。

【城篠氏】（姓）百濟人、達率友母末惠遠の後なり。

【淸川氏】（姓）唐人、盧如津の後なり、この人は光仁の朝に見ゆ。

【淸宗氏】（姓）唐人、李元環の後なり、此人は淳仁の朝にあり。

【淸任氏（姓）淳仁天皇の時、新良木舍姓縣麻呂等に、此姓を賜はる。

【淸田氏】（姓）淳和の朝、百濟人科野友麻呂等、此姓を賜はる。

【淸江氏】（姓）臺氏より出づ、後漢獻帝の子、白龍の後なり。

【淸海氏】（姓）唐人、沈惟岳の後なり、この人は光仁の朝に見ゆ。

【淸端氏】（姓）淳仁の朝、百濟人、圭河內等、此姓を賜はる。

【淸根氏】（姓）百濟の人、阿直支より出づ、仁明の朝、此姓を賜はりしものあり。

【淸岡氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗人、下部文代等に此姓を賜はる。

【淸道氏】（姓）百濟人、恩率納比且止の後なり。

【黃文氏】（姓）高麗人、久斯那王の後なり。

くの部

【久保寺氏】姓は三善氏、百濟國速古大王の後なり、先祖信濃國久保寺鄕に住せるより苗字の地とす。家紋丸に三引

【百濟氏】（姓）百濟王、都慕王三十世の孫、惠王の後なり。

【吳服氏】（姓）百濟人、阿漏史の後なり。

【吳原氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【桑原氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【桑原氏】（姓）漢の高祖七世の孫、万德使主の後なり。

【桑田氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を種積といふ。

【栗村氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【栗栖氏】（姓）漢の高祖の後、鸞王より出づ、王仁の後なり。

【栗栖氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【草氏】（姓）東漢の族なり、齊明の朝に草直足島あり。

【倉門氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【國中氏】（姓）百濟人、德率國骨富の後なり。

【國看氏】（姓）金氏の族なり、聖武の朝金宅良等、此姓を賜はる。

【國覔氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【國澤氏】姓は秦氏、秦始皇帝の後なり國澤能明といふもの土佐國澤城主秦元親に仕ふ。能明―能春―能則―能直……

【黒丸氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【藏氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【藏垣氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【鞍手氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を種宗と云ふ

【鞍作氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝

の後、阿智使主の後なり。

こ の 部

【小俣氏】 姓は多々良氏、百濟の人、琳聖太子の後なり、大内義隆の末葉にして、のち上野國小俣に住し在名を苗字の地とす。 家紋丸に行違鷹羽

政重—政信（武田家に仕ふ）—
政勝—政貞……

【小高氏】 （姓） 百濟人、毛甲姓加須流氣の後なり。

【小森氏】 姓は丹波氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、丹波康頼の後裔、頼重を祖とす。

【己智氏】 （姓） 秦の始皇帝の子、二世皇帝、胡亥の後なり。

【己紋氏】 （姓） 百濟速古王の孫、汶休奚より出づ。

【今春氏】 姓は大藏氏、能樂家として有名なり。 始め圓滿井氏を稱し、次に金春氏と稱し、後今春氏と改めたり。

【古志氏】 （姓） 漢の高祖の後、王仁より出づ。

【古賀氏】 漢の高祖の苗裔にして劉氏なり、始め甲斐國に住す、子孫筑後國三潴郡古賀村に移住し古賀を稱す。

【伊統氏】 （姓） 惟宗氏に同じ、惟宗氏の條下を見よ。 家紋丸に二重釘拔三鱗形

【兒島氏】 姓は三宅氏、新羅の王子、天日桙の後なり、兒島高德等著はる。 此族備

前兒島地方に著はる、

【金春氏】（姓）姓は大藏氏、今春氏に同じ、其條下を見よ。

【狛　氏】（姓）高麗氏に同じ、其條下を參照せよ。

【郡　氏】（姓）三國時代、魏の武帝の子文帝の後なり。

【高麗氏】（姓）高句麗王、好台七世の孫延興王の後なり。

【惟良氏】（姓）百濟速古王の後なり、錦部氏より出づ。

【惟宗氏】（姓）秦の始皇帝の後、功滿王の子、融通王の後なり、島津氏は惟宗氏なりといふ說有力なり、猶皇別、島津氏の條下を見よ。

【惟道氏】（姓）もと百濟人、道祖氏より出づ、淸和朝此姓を賜はれるものあり。

【薦口氏】（姓）百濟、坂田白城君の後なり。

第三章　頭音さ行に屬する姓氏

さ　の　部

【匝嵯氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主の流なり、立家の祖を高雄といふ

【早良氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【坂上氏】（姓）後漢靈帝の男、延王の後なり、應神の朝、來朝せる阿智使主より出づ、坂上苅田麻呂及ひ其子田村麻呂等著はる。　坂上苅田麻呂─田村麻呂─廣野─

【坂井氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後裔阿智使主の後なり、立家の祖を種遠といふ。

【坂田氏】（姓）百濟國人、頭貴村主の後なり。

【坂原氏】（姓）淳仁の朝、百濟人、竹志麻呂等此姓を賜はる。

【坂碕氏】姓は三宅氏、新羅の王子、天日桙より出づ、宇喜多氏より分る、これ坂碕成正等の家なり。

【佐太氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【佐原氏】（姓）阪上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主の流なり、立家の祖を種益といふ。

【佐良良氏】（姓）百濟人、久米都彦の後なり。

【佐波多氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【沙田氏】（姓）百濟人、意保尼王の後なり。

【里川氏】姓は多々良氏、百濟の人、琳聖太子の後なり、多々良氏より出たる大內氏より分る、立家の祖を貞保といふ、但多々良氏の出自につき二說あり、多々良氏又は大內氏の條下を參照せよ。

【相賀氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主の流なり。

【酒人氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝

の後、阿智使主より出づ。

【榮山氏】（姓）桓武天皇の時、唐人晏子欽等、此姓を賜はる。

【榮井氏】（姓）高麗國人、伊利須使主の後なり。

【櫻田氏】（姓）秦の始皇帝の子、二世胡亥の後なり。

【櫻井氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【櫻野氏】（姓）漢の高祖の後、王仁の孫阿浪古首の後なり。

しの部

【下氏】（姓）後漢光武帝七世の孫、愼近王の後なり。

【下曰佐氏】（姓）漢の高祖の子、齊王肥の後なり。

【白石氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【白河氏】（姓）狛氏より出づ、狛氏はもと高麗の王族なり。

【白鳥氏】（姓）周の魯公、伯禽の後なり

【白鳥氏】（姓）坂上氏と同族、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり。

【白原氏】（姓）白鳥氏より出づ、これまた伯禽の後なり。

【白猪氏】（姓）百濟貴首王の後なり、後葛井氏と稱す、葛井氏の條下を見よ。

【庄屋氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿使主の流なり、立家の祖を正村といふ。

【志賀氏】（姓）後漢献献帝の後なり。

【志賀閇氏】（姓）周の靈王の太子、晋の後なり。

【信太氏】（姓）百済人、百午の後なり。

【島氏】（姓）高麗人、和興の後なり。

【島木氏】（姓）高麗人、伊利須使主の後なり。

【島岐氏】（姓）高麗能祁王の後なり。

【島野氏】（姓）淳仁天皇の朝、朝日氏を賜はりしもの、後かく改稱す。

【清水氏】（姓）任那國人、都賀阿羅斯止の後なり。

【神保氏】姓は惟宗氏、秦の始皇帝の後融通王より出づ、神保長城畠山政長に仕ふ、其後裔能登守氏弘といふあり、歌道に通ず、世々鎌倉に住す。家紋丸に竪一引尾長の丸

【莊屋氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後阿智使主の流なり。

【斯佐氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【篠井氏】（姓）桓武天皇の時、高麗人、前部秋足等に此姓を賜はる。

すの部

【末武氏】姓は多々良氏、百済の人、琳聖太子の後なり、大内氏より分る、立家の祖を弘藤といふ。猶多々良氏の出自につき二説あり、其條下を見よ。

【杉谷氏】（姓）百済人、堅祖州耳の後なり。

【須須岐氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗人眞老等に、此姓を賜はる。

【陶氏】姓は多々良氏、百濟の王子、琳聖太子の後なり、大内氏より分る、立家の祖を弘政といふ。猶多々良氏の出自につき二説あり、其條下を見よ。

【菅野氏】（姓）百濟都慕王十世の孫、貴首王の後なり。

【嵩山氏】（姓）光仁天皇の朝、唐人張道光、此姓を賜はる。

【鈴木氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主の流、坂上田村麻呂より出づ、立家の祖を維親といふ。

せの部

【施薬院氏】姓は丹波氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を全宗といふ世々醫を業とせり。

その部

【宗氏】姓は惟宗氏、秦の始皇帝の後融通王より出づ。

【苑部氏】（姓）百濟國、知豆神の後なり

【園人氏】（姓）同上、知豆神の後なり。

第四章 頭音た行に屬する姓氏

たの部

【工氏】（姓）呉人田利須須の後なり

【丹波氏】（姓）後漢の靈帝八世の孫、孝日王の後なり、後世醫を以て世々朝に仕ふ。猶後編を見るべし。

【玉川氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗の人上部豊人等に此姓を賜はる。

【玉井氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗の人上部色夫知等に此姓を賜はる。

【田井氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【田村氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を古哲といふこれ奥州三春に居りし田村家なり。

家紋 巻龍 車前草 菊 桐 左巴 蝶 蔦 梅鉢
　　 丸に車前草 竹に雀 丸に三引 九曜

坂上田村麻呂—淨野—内野—顯麻呂—┐
—古哲(田村)—顯谷—義顯—隆顯—清顯—┐
—宗顯—宗良(伊達氏より入嗣ぐ)……(奥州一の關)

【田村氏】（姓）嵯峨の朝、高麗人の裔、高田首清足等此姓を賜はる。

【田河氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗の人後部牛養等に此姓を賜はる。

【田尻氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を實種といふ

【田部氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【田邊氏】（姓）漢王の後、知摠より出づ

【田母神氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、田村持顯次男刑部少輔重顯を祖とす、奥州三春田母神城を苗字の地とす。

【多可氏】（姓）始め高麗使主といふ、高麗人の裔なるべし。

【多々良氏】（姓）任那國王爾利久牟王の後なり。以上は新撰姓氏錄の說にして

系圖本によれば、多々良氏を以て百濟の王族、琳聖太子の後なりといふ、今両説を存し、參考に供ふ。

【多記氏】姓は丹波氏、阿智使主より出づ、はじめ兼康を稱し、玄康のとき金保に改め元孝に至り多記を稱す。家紋五三桐向梅

俊雅—俊通—季俊……元勝—元燕—元孝……

【谷氏】(姓) 後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【武丘氏】(姓) 後漢光武帝七世の孫、愼近王より出づ。

【武生氏】(姓) 漢の高祖の後、王仁の孫阿浪古首より出づ。

【高井氏】(姓) 高麗國王、鄒牟王の後なり。

【高丘氏】(姓) 廣陵の高穆の後なり。

【高代氏】(姓) 淳仁の朝、百濟人、陽麻呂等此姓を賜はる。

【高里氏】(姓) 淳仁の朝、高麗人、後部王安成等に此姓を賜はる。

【高田氏】(姓) 高麗人、多高子使主の後なり。

【高田氏】(姓) 後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【高田氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり、立家の祖を賴正といふ

【高向氏】(姓) 魏武帝の太子、文帝の後なり。

【高向氏】(姓) 後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【高宮氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【高村氏】（姓）漢の魯恭王の後なり。

【高帝氏】（姓）仁明天皇の朝、高麗人の後松川造貞嗣に此姓を賜はる。

【高庭氏】（姓）渤海人、高多佛の後なり

【高安氏】（姓）後漢章帝の後なり。

【高尾氏】（姓）秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【高倉氏】（姓）高麗の朝臣、福信より出づ。

【高道氏】（姓）劉邦の子、齊王肥の後なり。

【高野氏】（姓）百濟國人、佐平余自信の後なり。

【高橋氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、秋月太郎晴種の男九郎元種を祖とす。

【高槻氏】（姓）百濟國人、達率名進の後なり。

【蓼原氏】（姓）後漢靈帝の後、阿朝使臣より出づ。

【橘守氏】（姓）新羅の王子、天日桙の後田道間守より出づ。

ちの部

【千代氏】（姓）唐人陳懷王の後なり。

【長氏】（姓）東漢より出づ、齊明天皇の時、長直漢利麻あり。

【長曾我部氏】家傳に云ふ、姓は秦氏、秦河勝

の後胤なりと、子孫世々土佐に住す、長曾我部元親等著はる。此苗字は土佐國長岡郡宗部郷の地名より來れるものなり

【茅沼山氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、坂上氏と同族なり。

【張氏】漢高祖の臣、張良より出づと張忠の子、思朝毛利輝元に仕ふ。

つの部

【津氏】（姓）百濟郡慕王十世の孫、貴首王の後なり。

【常澄氏】（姓）後漢章帝の後なり。

【筑紫氏】（姓）魏の武帝の男、陳思王植の後なり。

【調氏】（姓）周の脅公、伯禽の後なり應神の朝、來朝せる努理使主より出づ、顯宗の朝、調首の姓を賜はる。

【調氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

との部

【戸板氏】姓は多々良氏、琳聖太子の後なり、大内氏の族なり、祖を刑物左衛門重俊といふ。

【東儀氏】姓は秦氏、秦の始皇帝の末葉河勝の苗裔なり。家紋二巴下藤

【取石氏】（姓）百濟の人、阿麻意彌の後なり。

【時原氏】（姓）秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【砥上氏】姓は大藏氏、後漢靈の後、阿智使主より出づ、立家の祖を種祐といふ。

【鳥井氏】（姓）高麗人、伊利須使主の後なり。

【鳥木氏】（姓）高麗人、伊利和須使主の後なり。

【得地氏】姓は多々良氏、帝濟の人、琳聖太子の後なり、大内氏より分る、立家の祖を遠盛といふ。猶多々良氏の出自につき二説あり、多々良又は大内氏の條下を見るべし。

【常世氏】（姓）燕國王、公孫淵の後なり

【豊田氏】（姓）淳仁の朝、百濟人、調阿氣麻呂等此姓を賜はる。

【豊原氏】（姓）高勾麗人、上部玉忠麻呂の後なり、此人は淳仁の朝、姓を豊原と賜はる。

【豊原氏】（姓）新羅人、壹呂比麻呂の後なり。

【豊岡氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗人、後部黒足等こ此姓を賜はる。

【豊岡氏】（姓）漢の高祖の裔、伊須久牟治使主の後なり。

【豊津氏】（姓）韓人、左李金の後なり。

第五章　頭音な行に屬する姓氏

なの部

【中山氏】（姓）百濟人、韓智遠の後なり

【中西氏】姓は三宅氏、新羅の王子、天日桙の後なり、三宅氏より出てたる兒島氏

より分る。

【中科氏】（姓）百濟、都慕王十世の孫、貴首王の後なり。

【中野氏】（姓）百濟國人、汗率答他斯智の後なり。

【永野氏】（姓）後漢献帝の後なり。

【奈良氏】（姓）秦氏より出づ、秦始皇帝の後、融通王より出づ。

【奈良己智氏】（姓）己智氏と同祖、秦の始皇帝の子、二世胡亥の後なり。

【長田氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、坂上氏と同族なり。

【長岑氏】（姓）魯公伯禽の後、努理使主の後なり。

【長尾尾】（姓）後漢靈帝の後阿智使主より出づ、坂上氏と同族なり。

【長岡氏】（姓）秦の始皇帝の子、胡亥の後なり。

【長島氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり、立家の祖を種親といふ。

【長野氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、秋月元種の弟、三郎左衛門種信を祖とす。

【長野氏】（姓）周の靈王の太子、晉の後なり。

【長野氏】（姓）魏の司空、王昶の後なり。

【長背氏】（姓）高麗國王、鄒牟王の後なり。

【長沼氏】（姓）淳仁の朝、百濟人、延爾豊成等此姓を賜はる。

【長國氏】（姓）唐人、正税兒の後なり。桓武の朝、此姓を賜はる。

【直道氏】（姓）狛人より出づ、清和の朝に、此姓を賜はれるものあり。

【夏身氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、坂上氏と同祖なり。

【難波氏】（姓）高麗國王、好太王の後なり。

にの部

【新長氏】（姓）唐人、長清朝の後なり、桓武の朝、此姓を賜はる。

【新城氏】（姓）高麗人、高福裕の後なり。

【新家氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、坂上氏と同族なり。

【新宮氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後阿智使主より出づ、立家の祖を種主といふ。

【錦部氏】（姓）百濟國王、速古大王より出づ。

【錦織氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、坂上氏と同族なり。

【錦織氏】（姓）韓國人、波努志の後なり。

【錦小路家】姓は丹波氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、丹波氏は中世以後醫をよくせるを以て名あり、錦小路の家號は長直に始まる。

ぬの部

【沼垂氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を高岡といふ

【額田氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、坂上氏と同祖なり、

【額田氏】（姓）吳國人、天國古の後なり。

の の 部

【野上氏】（姓）魏の武帝の子、陳思王植の後なり。

【野本氏】姓は秦氏、川勝の後胤、和州奈良の住人、今春四郎次郎より六代、大藏虎明の男虎重を祖とす。家紋丸の内違鷹羽 丸の内向梅

【野田氏】姓は狛氏、狛光高の男、野田則高の後なり、代々樂人なり。家紋丸に杏葉 五三桐 ◉もと抱茗荷なりしが諸成のとき杏葉に改む

【野條氏】姓は清川氏、唐人盧如律の末孫なりといふ。家紋丸に三蔦

某―成宣（家康に仕ふ）―成元

第六章 頭音は行に屬する姓氏

は の 部

【八戸氏】（姓）後漢章帝の後なり。

【土師氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を正任といふ。

【半昆氏】（姓）百濟國沙半王の後なり

【羽倉氏】姓は秦氏、漢の始皇帝の後、融通王より出づ。

【伯禰氏】（姓）西漢の人、伯尼姓光金の後なり。

【林氏】（姓）百濟國人、木貴公の後なり。

【林氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主

より出づ。

【波多氏】（姓）百濟人、佐布利智使主の後なり。

【春井氏】（姓）後漢光武帝七世の孫、愼近王の後なり。

【春良氏】（姓）後漢献帝の後なり。

【春科氏】（姓）淨村氏より出づ、淨村氏の條下を見よ。

【春瀧氏】（姓）後漢光武帝七世の孫、愼近王の後なり。

【春野氏】（姓）百濟速古王の孫、比流王の後なり。

【原氏】（姓）百濟國、福德王の後なり

【原氏】姓は惟宗氏、秦の始皇帝の後融通王より出づ。

【原田氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、春種といふもの筑前國御笠郡原田村に住せしより原田を苗字とす、其後裔原田種直、平清盛に仕へ、後三河國久木村に住す。家紋丸に三引

【秦氏】（姓）秦始皇帝の後、孝武王より出づ、孝武王の孫、融通王（一は弓月君といふ）應神天皇の十四年に二百二十七縣の人民を率ゐて來朝す、天皇諸國に分置し、蠶を飼ひ絹を織らしめ、姓を波多君と賜ふ、即ち秦氏の祖なり。秦氏の分岐頗る多く、諸國に散在す。

【秦人氏】（姓）同上、秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【秦原氏】秦の始皇帝の後、融通王より

出づ。

【秦勝氏】（姓）秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【秦長藏氏】（姓）同上、秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【秦井手氏】（姓）秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【秦中家氏】（姓）秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【祓川氏】姓は秦氏、秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【蜂田氏】（姓）三國時代、呉王孫權の後なり。此氏は和泉國大鳥郡蜂田鄉より來れるものなり。

【幡文氏】（姓）魏の文帝の後、安貴公より出づ。其先繪を善くす、幡文は職名を以て氏に負はせたるなり。

【蕃良氏】（姓）葛井氏（百濟國都慕王十世の後なり）より出づ、葛井氏の條下を見よ。

ひの部

【日根氏】（姓）新羅人國億斯富使主の後なり。此氏は和泉國日根郡より來れるものなり。

【火撫氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【平方氏】（姓）同上、阿智使主の後なり坂上氏と同祖なり。

【平田氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主

より出づ、坂上氏と同祖なり。

【平松氏】（姓）魏の武帝の男、陳思王植の後なり。

【辟田氏】（姓）任那の人、都努賀阿羅斯止より出づ。

【廣階氏】（姓）魏の武帝の男、陳思王根の後なり。

【廣井氏】姓は秦氏、始祖能俊七代兼光の弟某を立家の祖とす。

【廣井氏】（姓）百濟速古王の孫、比流王の後なり。

【廣田氏】（姓）百濟國人、辛臣君の後なり。

【廣宗氏】（姓）嵯峨天皇の朝、東部黒麻呂に此姓を賜ふ。

【廣原氏】（姓）後漢献帝の男、都德王の後なり。

【廣野氏】（姓）百濟人夫子より出づ。

【廣篠氏】（姓）淳仁天皇の朝、前部蟲麻呂に此姓を賜ふ。

【廣津氏】（姓）百濟國、近貴首王の後なり。

【廣海氏】（姓）韓王信の後、須敬の裔なり。

【廣瀨氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主の後なり、立家の祖を維通といふ。

【檜前氏】（姓）漢の高祖の子、齊王肥の後なり。

【檜前氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、坂上氏と同祖なり。

【檜原氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、坂上氏と同祖なり。

ふの部

【文氏】（姓）漢の高祖の後、鸞王より出づ、王仁の後なり。王仁は、應神天皇の十六年來朝し、論語十卷千字文一卷を献せり、子孫河内に居り、西文氏といふ。

【文氏】（姓）後漢靈帝の後、應神の朝に來朝せる阿智使主より出づ、子孫大和に居り、東文氏と稱す。

【文部谷氏】（姓）同上、阿智使主より出づ。

【不破氏】（姓）百濟國王比有より出づ。

【不破氏】（姓）百濟人、淳武止等の後なり。

【不麻氏】（姓）朝鮮王、准の後なり。

【古市氏】（姓）百濟國、虎王の後なり。

【布施氏】姓は三善氏、百濟速古大王より出づ、三善康信の後なり。　家紋丸に打違鷹羽（一に井筒中鷹羽）五三桐

【伏丸氏】（姓）新羅燕努利使主の後なり。

【船氏】（姓）百濟都慕王十世の孫、貴首王の後なり、辰爾より出づ。

【深見氏】齊の渤海王、高歡の苗裔にして高氏なり、先祖高壽覺は明の福建の人にして、慶長の始め薩摩國に來り、松平家久に仕ふ、始め渤海と稱し、のち深見に改む。　家紋九文錢 角緊

【深根氏】（姓）吳王孫權の後なり。

【葛井氏】（姓）百濟都慕王十世の孫、貴首王の後なり。

【道祖氏】（姓）百濟の人、主孫許里公より出づ。

【福當氏】（姓）高麗人、前部能莘の後なり。

【福地氏】（姓）淳仁の朝、百濟人、伊志麻呂此姓を賜はる。

への部

【日置氏】（姓）高麗人、伊利須意彌の後なり。

【別府氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後阿智使主より出づ、立家の祖を種辨といふ。

ほの部

【本多氏】姓は清川氏、野條成宣の長男利友、本多忠政の烏帽子子となり本多を稱す。家紋丸に立葵丸に本字

利友（家康に仕ふ）—利之—利直—利豊—利國—利秋—利安……

【朴氏】朴好仁の子、秋月長左衛門元赫より出づ。

第七章　頭音ま行に屬する姓氏

まの部

【毛利氏】姓は秦氏、秦の始皇帝の後、融通王より出づ。

【町野氏】姓は三善氏百濟速古大王の後なり、立家の祖を康俊といふ、近江國蒲生郡日野庄町野村を苗字の地とす。

【松本氏】姓は秦氏、融通王の後なり。

【松井氏】(姓) 淳仁の朝、百濟人、戸淨道等此姓を賜はる。

【松野氏】(姓) 吳王、夫差の後なり。

【松崎氏】姓は三宅氏、新羅の王子、天日槍より出づ、三宅氏より出でたる兒島氏の分れなり。

【益成氏】姓は多々良氏、琳聖太子の後裔、盛房の八男、能盛の末葉なりと、祖を重憲(慶長元年死)といふ。

【眞神氏】(姓) 漢禰徳王の後なり。

【眞城氏】(姓) 新羅人、金子尊より出づ。

【眞野氏】(姓) 百濟國、速古王の後なり

【眞道氏】(姓) 仁明の朝、百濟人の後、備前の人、韓部廣公に此姓を賜はる。

【茨田氏】(姓) 吳王夫差の後なり。

【當宗氏】(姓) 後漢献帝四世の孫、山陽公の後なり。

みの部

【三宅氏】(姓) 新羅の王子、天日桙の後なり、此族備前兒島地方に居るもの著はる、兒島氏これなり。

【三宅氏】同上、先祖は備前國兒島より出づ、藤五三郎三河國賀茂郡廣瀬城に居・住す、隼人正某は其苗裔なりと。

家紋島形の内に兒の字輪寶　隼人正某(一に師貞天文頃)—政貞—康貞—康信—康盛—康勝……

【三善氏】(姓) 百濟速古大王の後なり平安朝の中頃より、筭道の家として名高

し、三善清行、康信等著はる。

【三林氏】（姓）秦の始皇帝の太子、胡亥の後なり。

【三原氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を種俊といふ

【三野氏】（姓）百濟人、布須麻乃古意彌の後なり。

【水海氏】（姓）魯公伯禽の後、努理使主より出づ。

【水雄氏】（姓）淳仁の朝、百濟人、鳥那龍神此姓を賜はる。

【民氏】（姓）魯公伯禽の後、努理使主より出づ。

【民氏】（姓）後漢靈帝の後阿智使主より出づ。

【民使氏】（姓）魏の武帝の子、文帝の後なり。寶德公より出づ。

【宮原氏】（姓）百濟都慕王十世の孫、貴首王の後なり。

【御井氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗人、高麗家繼等に此姓を賜ふ。

【御笠氏】（姓）高麗人、高莊子の後なり

【御杖氏】（姓）魏の武帝の後なり、河内畫師より出づ。

【御春氏】（姓）百濟王、混伎より出づ。

【御坂氏】（姓）淳仁天皇の朝、高麗人前部白公等に此姓を賜ふ。

【御郷氏】姓は多々良氏、琳聖太子の後なり、大内正恒の後、康政を祖とす。

【御船氏】（姓）もと船氏、百濟貴首王の

後なり。

【道田氏】（姓）任那國賀室王の後なり

むの部

【六人部氏】（姓）百濟酒王より出づ。

【牟古氏】（姓）百濟人、片禮吉志の後なり。

【牟佐氏】（姓）吳王孫權の男、高の後なり。

【村上氏】（姓）桓武天皇の朝、高麗人、前部黑麻呂より出づ。

【村山氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿知使主の流なり、立家の祖を雄弘といふ

【村治氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を正清といふ

【武射氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を繼雄といふ

【席田氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を稗生といふ

もの部

【本砥氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を種胤といふ

【紋斯氏】（姓）百濟國、比流王の後なり

第八章　頭音や行に屬する姓氏

やの部

【八坂氏】（姓）高麗人、久留久麻乃意利佐の後なり。

【八清水氏】（姓）唐の左衞郎將、王文度の

後なり。

【山口氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を種家といふ

【山口氏】姓は多々良氏、百濟の人琳聖太子の後なり、大内氏より分る、立家の祖を盛幸といふ、周防國吉敷郡山口を苗字の地とす、猶多々良氏の條下を見るべし

家紋唐菱（世々大内菱といふ）竹の丸に飛雀二羽

大内持盛…盛幸…重政—重貞—重雅…（常陸牛久）

【山口氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【山本氏】宋の張季明の後裔にして張氏なり、近江國の仕人、桂元隆金昌、天文の頃醫を以て淺井長政に仕へ、後山本に改む。家紋九に梶葉蝙蝠

【山田氏】（姓）周の靈王の太子、普の後なり。

【山田氏】（姓）魏の司空、王昶の後なり

【山田氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、立家の祖を種弘といふ

【山田氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を維貞といふ

【山代氏】（姓）魯國白龍王より出づ、白龍王は後漢獻帝の子なり。

【山村氏】（姓）秦の始皇帝の太子、胡亥の後なり。

【山河氏】（姓）百濟人、素禰志夜麻美乃君の後なり。

【山城氏】（姓）山代氏と同じ、山代氏の條下參照せよ。

【山田御井氏】（姓）周の靈王の後なる、山田氏より出づ。

【矢田氏】姓は多々良氏、琳聖太子の後なり、大内弘貞の男弘家を祖とす。

【矢野氏】姓は三善氏、百濟速古大王の後なり、立家の祖を倫重といふ。

【安永氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を種永といふ

【安岑氏】（姓）仁明の朝、百濟人の裔、左近衞戸島守に此姓を賜はる。

【安坂氏】（姓）桓武の朝、高麗人、前部綱麻呂に此姓を賜はる。

【和氏】（姓）高麗人、伊利須使主の後なり。

【和氏】（姓）百濟國都慕王十八世の孫、武寧王の後なり。

【和樂氏】（姓）呉王照淵の孫智聰の後なり。

【倭漢氏】（姓）後漢靈帝の後、阿智使主より出づ。

【倭畫師氏】（姓）魏の文帝の後、安貴公より出づ、後大崗氏を稱ふ。

【楊津氏】（姓）唐の左衞郎將、王文度の後なり。

【楊候氏】（姓）隋の煬帝の後、達率楊候阿了王より出づ。

【陽胡氏】（姓）同上、達率楊候阿了王の後なり、楊候氏と同一なり。

ゆの部

【湯江氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を種元といふ

よの部

【吉水氏】（姓）前漢魏郡の人、盎寛饒の後なり。

【吉井氏】（姓）高麗人、伊利須使主の後なり。

【吉井氏】（姓）稱德の朝、新羅人、午足等に此姓を賜はる。

【吉田氏】姓は丹波氏、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、丹波康賴よりの後胤、賴基の後なり、先祖數代近江國志賀に住し志賀を稱す、のち淨勝のとき外戚の號、吉田に改む。家紋（向梅、一に鳩酸草）十六葉八重菊　五七桐　◉葉桐の紋は稱光院御惱平愈ありしときその賞として賜ふ所なりといふ

【米生氏】姓は大藏氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を宗綱といふ

【依羅氏】（姓）百濟人、素禰志夜麻美乃君の後なり。

第九章　頭音ら行に屬する姓氏

れの部

【冷泉氏】姓は多々良氏、百濟人、琳聖太子の後なり、大内氏と同族、與豊始めてこれを稱ふ、猶多々良氏の出自につき二説あり、多々良氏の條下を見るべし。

第十章　頭音わ行に屬する姓氏

わの部

【王氏】（姓）高麗人、王仲文の後なり。

【和田氏】姓は三宅氏、新羅の王子、天日槍の後なり、三宅氏より出でたる兒島氏より分る。

【若江氏】（姓）後漢靈帝の苗裔、奈率張安力の後なり。

【脇氏】姓は多々良氏、大内氏十五六代の嫡男、若狹守某、周防國安藝境脇村に住し脇を稱す。

【鰐口氏】姓は多々良氏、百濟の人、琳聖太子の後なり、大内氏より分る、立家の祖を盛家といふ、猶多々良氏の出自につき二説あり、多々良氏の條下を見るべし。

【鷲頭氏】姓は多々良氏、百濟人、琳聖太子の後なり、大内氏より分る、立家の祖を長弘といふ、猶多々良氏の出自につき二説あり、多々良氏の條下を見るべし。

ゐの部

【井上氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝の後、阿智使主より出づ、大内氏の庶流なり。　家紋大内菱井桁

【爲奈部氏】（姓）百濟人、中津波手の後なり。

をの部

【小川氏】（姓）淳仁の朝、百濟人、佐魯牛養等此姓を賜はる。

【小市氏】（姓）坂上氏と同祖、阿智使主の後なり。

【小谷氏】（姓）坂上氏と同祖、後漢靈帝

の後、阿智使主より出づ。

【丘上氏】（姓）淳仁の朝、百濟人、刀利甲斐麻呂等此姓を賜はる。

【岡氏】（姓）百濟國明王の後なり。

【岡本氏】（姓）臺氏より出づ、後漢献帝の子、白龍より出づ。

【岡田氏】姓は坂上氏、後漢靈帝の裔、阿智使主の後なり、立家の祖を重盛といふ。

【岡屋氏】（姓）百濟國、比流王の後なり

【岡原氏】（姓）百濟國、辰斯王の後なり

【男krahz氏】（姓）高麗人、高道士より出づ

【雄坂氏】（姓）淳仁の朝高麗人、上部君足等に此姓を賜はる。

第四部　未定の諸氏

第一章　頭音あ行に屬する姓氏

あの部

【穴太氏】(姓)　曹氏賓德公の後なりといふ。

【有宗氏】(姓)　もと大窪氏より出づ(清和の朝)然れども大窪氏の出自不明なり

【有浦氏】　姓は藤原氏、有浦政春の後なりといふ。　家紋上藤瓜

【有道氏】(姓)　丈部氏より出づ、然れども丈部氏の源流數種あり、其何れよりなるか不明なり。

【有壁氏】　姓は藤原氏、有壁勝收の後なりといふ。　家紋丸ノ内割蔦桔梗

【安食氏】　源氏にして、忠正といふものより系現はる。　家紋地紙ノ内十文字二瓶子

【安間氏】　德川家臣にて庄助といふものゝ後なり。

【安久津氏】　歌丸又七某より出で、のち安久津に改む、奥州伊達郡安久津城を苗字の地とす。

【芦屋氏】　姓は藤原氏、上總國芦屋國重の後なりと。　家紋三頭左巴雪根笹

【赤間氏】　藤原氏にして、赤間河内良遠

を祖とす、長州赤間關を苗字の地とす。

【足奈氏】（姓）百濟人、足奈眞己の後なりといふ。

【足羽氏】（姓）光仁の朝、足羽臣黒葛あり、然れども其源流明かならず。

【足澤氏】源氏にして、南部家の臣、直長といふものの後なり。家紋割菱如葉

【我妻氏】源氏にして、我妻喜左衞門某を祖とす。

【我孫氏】（姓）崇神天皇の皇子、豐城入彥命の子、八綱田の後なりといふ。

【阿刀部氏】（姓）山都多祁流比女命の後なりといふ。

【靑田氏】平氏にして、靑田信濃明治を祖とす。

【靑砥氏】これ北條時政時代の人、靑砥藤綱の家なり、藤綱は上總の人、其源流明かならず。

【有光氏】姓は藤原氏、鎌足の後裔、有光の後なりといふ。

【油井氏】源氏にして、油井善右衞門某を祖とす。

【東氏】傳へ言ふ、藤原氏にして、東休可盛嘉の後なりと。

【相原氏】姓に藤原氏にして、越後國住人、謙信の軍士相原次政の後なりと云ふ。家紋丸の内向柏 丸の内蔦

【相原氏】姓は藤原氏にして、伊豫國松山に住す相原常道の後なりといふ。家紋丸の内五三桐 丸の内釘貫

【相内氏】もと沼山を稱す、相内八郎右衛門某の後なり、隆奥三戸郡相内村を苗字の地とす。家紋抱柏

【相島氏】毛利家臣の相島仕右衛門某といふものゝ後なり、

【秋田氏】姓は藤原氏、魚名の末流にして、山城國秋田秀政の後なりといふ。家紋獅子に牡丹四方石

【秋原氏】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後我孫氏より出づといふ。

【秋岡氏】元祿年間の人にて猿樂のもの、喜助といふものゝ後なり。

【秋間氏】村上源氏にして先祖飽間と書したりといふ。家紋丸に桔梗琴柱二

【秋野氏】姓は藤原氏にして、伊賀國住人秋野保忠の後なりといふ。家紋丸に二引

【淺井氏】（姓）陽成天皇の時、淺井直筑紫雄あり、然れども其源流明かならず。

【淺石氏】源氏にして、一戸氏より出づといふ。家紋丸の内割花菱

【淺岡氏】姓は藤原氏なりといふ、其先淺岡正直といふもの松平定行に仕ふ。家紋九曜の星

【淺見氏】これ戰國時代、京極氏に屬せし淺見俊孝の家なり、其出自明かならず。

【朝宗氏】（姓）文德の朝、朝宗宿禰吉繼あり、然れども其源流明ならず。

【朝山氏】これ儒者、朝山素心の家なり姓は源氏清仁親王より出づとなすも不

詳なり、清仁親王は花山天皇の皇子なり

【朝戸氏】（姓）百濟、胸廣使主朝戸の後なりといふ。

【朝明氏】（姓）高麗帶方國主、氏韓法史の後なりといふ。

【朝倉氏】（姓）孝德の朝、朝倉臣あり、然れども其源流明かならず。

【新田目氏】南部家の臣にして、甚三郎某の後なり。家紋水車

【飽海氏】（姓）聖武の朝、飽海古良比あり、然れども其源流明かならず。

【葦田氏】（姓）天津彦根命の子、天麻比止津命の後なりといふ。

【網代氏】藤原氏にして、網代因幡某を祖とす。

【縣氏】（姓）文武天皇の時、縣造紫あり、然れども其源流明かならず。

【蘆立氏】藤原氏にして、總右衛門某を祖とす、陸前柴田郡蘆立郷を苗字の地とす。

いの部

【一來氏】毛利家の臣にして一來就之といふものゝ後なり、

【一場氏】姓は藤原氏なりといふ、其先義基といふものより現はる。

【一方井氏】其出自明かならず、安元といふもの後なり、陸中岩手郡一方井村を苗字の地とす。家紋違鷹の羽扇

【五十嵐氏】清和源氏、義光の流なりといふ

【五日市氏】南部家の臣にして又兵衛某

といふもの丶後なり。立家（木瓜）

【五十幡】姓は藤原氏、秀郷の流なりといふ、忠業はじめ白岩を稱し、後五十幡に改むと。家紋（丸に澤瀉三藤巴）

【今田氏】藤原氏にして、今田藏人といふものを祖とす。

【今堀氏】坂上田村麻呂の後裔にして後平氏となりて今堀に改めしといふ。

【生野氏】藤原氏にして友重といふものより系現はる。家紋（割茗荷、下藤丸）

【石田氏】藤原氏にして、石田勘七某を祖とす、奥州伊達郡石田邑を苗字の地とす。

【石寺氏】源氏にして先祖近江國石寺に住せしより石寺を稱す、助重といふものより系現はる。家紋（輪違の内丸黒餅に七寶）

【石見氏】これ赤松氏の臣、石見雅助の家なり、其出自明かならず。

【石渡氏】清原氏なりといふ。太田康資の臣某より其系現はる。

家紋（蔦菜　丸に三引、丸に中切三引）

某―元正（一に元房）―元次―元詮―元興――

【石澤氏】平氏にして、石澤修理亮顯常を祖とす。

【石場氏】姓は藤原氏、石橋伊賀守定明の臣にして定豊より石場と改むといふ。

【糸永氏】毛利家の臣にして糸永壹岐守某の後なり。

【伊谷氏】姓は藤原氏、伊與久政次の後裔、政勝のときより伊谷と改むといふ。

【伊氣氏】（姓）崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なりといふ。

【伊奈利氏】（姓）聖武天皇の時、伊奈利臣牛麻呂あり。然れども其源流明かならず。

【伊豫田氏】其出自明かならず、繁正といふものより其系現はる。

【伊埸野氏】源氏にして、伊埸野宮内某を祖とす、陸前志田郡伊埸野を苗字の地とす。

【池谷氏】姓は藤原氏なりと、遠江國郷士、池谷彦兵衛利運の後なり。

【池野氏】これ池野大雅の家なり、其先明かならず。

【池後氏】（姓）天彦麻須命の後なりといふ。

【岩泉氏】其出自明かならず南部家の臣にして甚六某といふものゝ後なり。

【岩佐氏】清和源氏なりといふ、吉助某より系現はる。　家紋五七桐

【岩堀氏】源氏にして先祖房明三河國岩堀村に住み岩堀を稱す、房徳といふものより系現はる。　家紋横木瓜

【岩淵氏】平氏にして、大和某を祖とす。

【岩瀬氏】藤原氏にして家康の臣氏俊といふものより系現はる。　家紋丸に三本形九曜

【板安氏】（姓）元正天皇の時、板安忌寸犬養あり、然れども其源流明かならず。

【板花氏】先は福田を稱す、喜津一といふものより板花を稱すといふ。

家紋五三桐　三笠の内左巴　丸に蔦　三頭左巴

【砂金氏】菅原氏にして、砂金常重を祖とす。

【泉本氏】姓は藤原氏、泉本内膳正忠の後なりといふ。

【家原氏】（姓）元明の朝、家原音那あり然れども其源流明かならず。

【斑鳩氏】これ上杉謙信に仕へし斑鳩平次の家なり、其姓明かならず。

【飯淵氏】藤原氏にして、中山宗義次男宗繼を祖とす、羽州最上郡飯淵を苗字の地とす。

【飯河氏】桓武平氏なりといふ。

【飯野氏】清和源氏なりといふ、忠順といふものより系現はる。家紋丸に抱茗荷追澤瀉

【稲田氏】藤原氏にして織田信長の臣正時より系現はる。家紋五本骨扇五七桐◉もと月に龜を用ふ、正信のとき後水尾院桐の紋を賜ひしよりこれを家紋とすといふ

【稲治氏】姓は藤原氏なりといふ、其先政豊といふものより現はる。

【磯野氏】これ戰國時代、淺井氏に任へし磯野員正の家なり、其出自明かならず。

【磯兼氏】はじめ末長を稱へ、景道のとき小早川隆景に仕へ磯兼に改む。

【廬井氏】（姓）弘文天皇の時、廬井造鯨あり、然れども其源流明かならず。

うの部

【上羽氏】徳川氏の家臣にて與兵衛といふもの丶後なり。

【牛坂氏】平氏にして、佐渡守某の子、牛坂佐渡某を祖とす、奥州信夫郡牛坂館を苗字の地とす。

【内　氏】（姓）孝謙天皇の時、等美王、此姓を賜はる、然れども其出自明かならず

【内方氏】藤原氏にして高珍といふもののより系現はる。家紋三澤瀉

【内原氏】（姓）狹山命の後なりといふ

【内河氏】藤原氏なりといふ、武田信玄の臣正吉といふものより其系現なる。

【内馬場氏】源氏にして内馬場重信といふものより出づ。家紋丸に帆掛船丸に七曜

【宇努氏】（姓）新羅王子、金庭興の後なりといふ。

【宇垣氏】徳川家臣にて孫右衛門某といふものゝ後なり。

【宇山氏】毛利家の臣にして久兼といふものゝ後なり。

【宇津志氏】其出自明かならず、宇津志刑部某を祖とす。

【有度氏】（姓）聖武天皇の時、駿河有度郡小領有度君あり、然れども其源流明かならず。

【味部氏】（姓）嵯峨天皇の時、味部廣河あり、然れども其源流明かならず。

【畝火氏】（姓）嵯峨天皇の時、畝火眞人菀原あり、然れども其出自明かならず。

【茨木氏】（姓）天津彦根命の後なりといふ。

【浦田氏】南部家の臣にして、光休といふものゝ後なり。

【浮島氏】（姓）村上天皇の時、浮島仲陳あり、然れども其源流明かならず。

【梅内氏】もと工藤氏を稱ふ、南部家臣にあり。家紋三引龍

【梅本氏】南部家の臣にして、喜白といふものゝ後なり。家紋抱柊

【梅村氏】出自明かならず、梅村彥左衞門某より出づ。

【梅津氏】其先梅津右近某より出づ。

【梅森氏】源氏にして、梅森彌左衞門某を祖とす。

【植林氏】姓は藤原氏、植林小八郎某の後胤、實道の後なりといふ。

家紋丸の内鳩酸草三本傘

【植崎氏】姓は清和源氏、政直といふものより現はる。家紋黑餅の内上羽蝶黑餅の內竪網

【漆原氏】姓は藤原氏、漆原安藝某（家康に仕ふ）の男吉春の後なりといふ。家紋桔梗の丸内十の字龜甲の內十の字

【漆崎氏】姓は藤原氏、漆崎正房の後なりといふ。家紋抱茗荷五三草

【鵜沼氏】源氏にして山村辰元を祖とす、後に鵜沼に改む。

【鵜飼部氏】（姓）武内宿禰の子、許勢男柄の後なりといふ。

えの部

【江口氏】姓は藤原氏、はじめ水谷を稱し、源氏なりしが秀吉の男輝久に至り江

ロに改むといふ。家紋三頭左巴 水の字三

【江本氏】藤原氏にして、はじめ村上氏を稱ふ、江本治盈といふもの、後なり。

家紋井桁 源氏車

【江守氏】姓は桓武平氏、江守正永といふものより系現はる。家紋七寶 蔦

【江村氏】これ江村專齋の家なり、其出自明かならず。

【江坂氏】姓は橘氏なりといふ、江坂正貞といふものより系現はる。

家紋丸の内蔦 枯橘

【江柄氏】藤原氏にして川村秀清の末流なりといふ。家紋違釘貫 違棒

【江藤氏】藤原氏なりといふ。

【榎原氏】（姓）清和天皇の時、榎原忌寸金吉あり、然れども其源流明かならず。

おの部

【大平氏】足利義輝の臣、大平俊家といふものより系現はる。家紋丸に橘

【大友氏】（姓）百濟國白猪奈世の後なりといふ。

【大辛氏】（姓）天押立命の後劔根命の後なりといふ。

【大岩氏】平氏にして先祖中井を稱しのち大岩に改む、盛政といふものより系現はる。家紋丸に二瓶子 陰矢筈 丸に打違

【大坪氏】南部家の臣にして、理右衛門某といふもの、後なり。

【大波氏】藤原氏にして、はじめ栗原を

稱し、成信のとき大波と稱す。

【大町氏】もと山田を稱す、大町助經を祖とす。

【大畠氏】藤原氏にして、勝信といふものより系現はる。家紋（丸に釼鳩酸草・丸に蔦）

【大前氏】藤原氏にして、重職といふものより系現はる。家紋（丸に四目結・杏葉蔦・三蔦）

【大柴氏】其出自明かならず、昌次といふものより其系現はる。

【大釜氏】其出自明かならず、大釜政綱といふものゝ後なり。家紋（一つ蔦）

【大堀氏】源氏にして、大堀壹岐某の後なり。

【大鹿氏】(姓) 津速魂命三世の孫、天兒屋根命の後なりといふ。

【大辟氏】(姓) 津速魂命三世の孫、大田諸命の後なりといふ。

【大部氏】(姓) 膽杵磯丹穗命の後なりといふ。

【大屋氏】(姓) 稱德天皇の朝、寺間臣大蟲に大屋朝臣の姓を賜ふ、然れども其出自明かならず。

【大窪氏】(姓) 元正天皇の時、大窪史王百足あり、然れども其源流明かならず。

【大柳氏】藤原氏にして、昌紹といふものより系現はる。家紋（丸に鳩酸草・三頭左巴）

【大瀨氏】藤原氏にして、宗行といふものより系現はる。家紋（菱の內大字・澤瀉）

【大塲氏】姓は桓武平氏、大塲正賢の後なりといふ。

【大立目氏】藤原氏にして、はじめ二階堂を稱ふ、大立目下野守朝安(永祿年頃)といふものより其系現はる。

【大松澤氏】藤原氏にして、先祖飯田八左衛門より奥州伊達郡宮澤に住し、宮澤を苗字とし、時實黒川郡大松邑に住し、在名を苗字の地とす。

【大田代氏】藤原氏にして、清也といふものゝ後なり。家紋違鷹羽 三ツ柏

【凡海氏】(姓)火明命の後なりといふ

【凡人氏】(姓)神汗久宿禰命の後なりといふ。

【男谷氏】宇多源氏にして、佐々木高氏の末孫なりといふ。家紋重澤瀉 茗荷巴

【忍坂氏】(姓)火明命の後なりといふ

【音羽氏】源氏にして、音羽(女子)といふものゝ男、親成これを稱ふ。

【鬼柳氏】其出自明ならず、鬼柳藏人義滿といふもの南部利直に仕ふ。家紋石疊

【奥山氏】藤原氏にして、はじめ目々澤氏を稱し、兼清のとき奥山と稱す。

【奥寺氏】其出自明かならず、左衛門助某といふものゝ後なり。家紋亂蝶 丸の字

第二章　頭音か行に屬する姓氏

かの部

【川前氏】(姓)後冷泉天皇の時、川前宿禰兼清あり、然れども其源流明かならず

【川添氏】宇多源氏、佐々木氏の流なり

といふ。

【川部氏】(姓) 光仁天皇の時、川部酒麻呂あり、然れども其源流明かならず。

【川守田氏】其出自明かならず、南部家の臣、兵庫某といふものゝ後なり。家紋茗荷

【川原田氏】(姓) 聖武天皇の時、川原田宿禰忍國あり、然れども其出自明かならず

【川内漢人氏】(姓) 火明命九世の孫、否井命の後なり。

【上原氏】(姓) 聖武天皇の時、上原首玉賣あり、然れども其源流明かならず。

【上倉氏】源氏にして、宗重といふものより系現はる。家紋丸に三龜甲 十六菱裏菊

【上斗米氏】南部家の臣なり。家紋四目詰 葉

【上郡山氏】藤原氏にして、上郡山景爲を祖とす。

【刈田氏】(姓) 仁明天皇の時、刈田首種繼あり、然れども其源流明かならず。

【欠端氏】南部家の臣、欠端七兵衛某の後なり。家紋丸内三引龍

【片岸氏】陸中閉伊郡の住佐々木の流なりといふ。家紋四目結

【片寄氏】藤原氏にして、片寄理右衛門隆茂を祖とす。

【甲可氏】(姓) 孝謙天皇の時、近江甲可郡の大領甲可臣乙麻呂あり、然れども其源流明かならず。

【甲田氏】源氏にして、甲田帶刀勝信を祖とす。

【甲田氏】藤原氏にして、甲田十兵衛重次を祖とす。

【加々江氏】これ天正頃の人、加々江重望の家なり、其姓明かならず。

【貝山氏】平氏にして、貝山河内守貞信の後なり、奥州貝山を苗字の地とす。

【貝原氏】これ貝原益軒の家なり、其姓明かならず。

【角舘氏】南部家の臣にして、角舘高如といふものゝ後なり。

【河尻氏】これ河尾鎮吉の家なり、其姓明かならず、鎮吉は織田信長に仕へし人なり。

【河上氏】(姓) 桓武天皇の朝、永嗣王等此姓を賜はる、其源流明かならず。

【河東田氏】藤原氏にして、河東田重恒を祖とす。

【金保氏】姓は丹波氏なりといふ。

【金元氏】慶安年間の人にて口科醫休庵といふものゝ後なり。

【金矢氏】藤原氏にして、南部家の臣、金矢丹治といふものより系現はる。

家紋菅笠

【金成氏】はじめ加成と書す、藤原氏にして金成甚藏某の後なり。

【金須氏】藤原氏にして、金須廣親といふものより出づ。

【金目氏】源氏にして、門目小太郎某を祖とす。

【苅部家】徳川家臣にて徳兵衛といふ

ものゝ後なり。

【垣見氏】 これ豊臣時代の人、垣見家純の家なり、其姓明かならず。

【垣部氏】 藤原氏なりといふ。

【垣津氏】 (四) 聖武天皇の時、垣津連比奈あり、然れども其出自明かならず。

【香取氏】 其出自明かならず、香取元勝といふものゝ後なり、下總國香取郡を苗字の地とす。

【柏山氏】 平氏にして、はじめ千葉を稱す明廣といふものゝ後なり。 家紋三葉柏

【柿沼氏】 清和源氏なりといふ、柿沼久勝といふものより系現はる。 家紋丸に揚羽蝶 九星

【柿澤氏】 姓は藤原氏、柿澤宗長の後なりといふ。

【春日部氏】 (姓) 津速魂命三世の孫、大田諸命の後なりといふ。

【釜石氏】 南部家の臣にして、通茶といふものゝ後なり。 家紋四目結

【釜澤氏】 其出自明かならず、南部家の臣孫四郎某の後なり。 家紋松皮菱

【桂田氏】 これ天正頃の人、桂田長俊の家なり、其姓明かならず。

【神原氏】 源氏にして、神原德門といふものより系現はる。 家紋丸に二引 葡萄の葉

【神社氏】 (姓) 元明天皇の時、神社忌寸河内あり、然れども其源流明かならず。

【神沼氏】 姓は藤原氏、神沼縫殿之助美茂の後なりといふ。 家紋丸に三笹雀 蔦

【神屋氏】姓は橘氏なりといふ、正継といふものより其系現はる。

【鹿野氏】藤原氏にして、始め大原を称し、孫右衛門清時のとき鹿野に改む。

【鹿島氏】（姓）持統天皇の時、鹿島臣檪樟あり、然れども其出自明かならず。

【梶山氏】荻藩士にして、重政といふもののより系現はる。

【梶野氏】姓は藤原氏、梶野藤左衛門秀道の後なりと。家紋亀甲葉菱、輪違内菱

【帷子氏】藤原氏にして、もと佐藤を称す、帷平吉平といふものゝ後なり。
家紋水車

【笠品氏】（姓）仁明天皇の時、清友宿禰眞岡等此姓を賜はる、然れども其源流明かならず。

【勘野氏】徳川氏の家臣にして、喜之助といふものゝ後なり。

【堅田氏】（姓）仁明天皇の時、堅田連石成あり、然れども其源流明かならず。

【賀禰氏】（姓）光仁天皇の時、賀禰公雄津麻呂あり、然れども其源流明かならず。

【陰山氏】姓は清和源氏なりといふ、持氏といふものより其系現はる。

【勝本氏】姓は藤原氏、荒川氏の後なりといふ。家紋轡十文字、三ヘ割梅

【勝又氏】又勝間田と書す平氏にして清勝といふものゝ後なり。

【勝木氏】藤原氏にして、もと榎本を称す、勝木宗影といふものゝ後なり。

家紋丁子巴

【勝間田氏】毛利家の臣にして、盛道といふものゝ後なり。

【葛山氏】姓は藤原氏、葛山宗貞の後なりと。家紋丸の内打違鷹羽山形に一鶴

【葛野氏】(姓) 孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なり。

【筧氏】姓は藤原氏なりと、筧清兵衛正綱といふものより系現はる。家紋左三頭巴釘貫

【萱場氏】平氏にして、萱場出雲某を祖とす。

【嘉村氏】其出自明かならず、彌治兵衛社方といふものゝ後なり。家紋梅鉢

【樫井氏】德川家臣にして、元祿頃の人次大夫といふものゝ後なり。

【樫田氏】姓は源氏近江國住人、樫田作兵衛直重より系現はる。家紋丸の内四石五三桐

【鴨部氏】(姓) 崇神天皇の後なりといふ。

【鴨田氏】(姓) 淳仁天皇の時、神部鴨田連島人あり、然れども其流明かならず。

【鴨澤氏】藤原氏にして、左馬之助某といふものゝ後なり、奥州鴨澤村を苗字の地とす。家紋違鷹の羽

【龜ケ森氏】其出自明かならず南部家の臣、市郎兵衛某より出づ。家紋四目結

【鷄冠井氏】源氏にして、南部家の臣、勘右衛門某といふものゝ後なり、山城國乙訓郡西岡鷄冠井を苗字の地とす。家紋桜笹

きの部

【木氏】（姓）津留木の後なりといふ

【木下氏】豊臣秀吉の少時これを稱す秀吉の出自明かならず。

【木山氏】これ豊臣時代の人、肥後木山城主木山紹宅の家なり、其姓明かならず

【木内氏】姓は藤原氏、信州の住人、木内頼直の後なりといふ。家紋丸の内龜甲六つ木字

【木谷氏】寶永年間の猿樂のもの、又三郎某といふもの丶後なり。

【木原氏】姓は平氏、木原又右衞門利次の後なりといふ。家紋丸の内打違鷹羽丸の内矢筈桐

【木室氏】姓は藤原氏、木室佐重の後なりといふ。家紋丸の内松皮菱五つ割松皮菱

【木城氏】姓は藤原氏、木城彥右衞門四代久勝の後なりといふ。家紋六星割菱

【木澤氏】これ足利時代の末、畠山氏に任へし木澤長政の家なり、其出自明かならず。

【北氏】藤原氏にして、はじめ青田と稱す、北右京を立家の祖とす。

【北見氏】德川家臣、北見彌右衞門といふの丶後なり。

【北條氏】藤原氏にして、秀鄕の流なりといふ、高明といふものより系現はる。家紋丸に立木瓜丸に洲濱

【北角氏】姓は淸和源氏、里見の庶流なりといふ。

【北田氏】其出自明かならず、北田周家といふもの丶後なり。家紋六間輪寶

【切田氏】藤原氏にして、切田兵庫助某の後なり。家紋井桁

【衣笠氏】其出自明かならず、南部家の臣にして景連といふものゝ後なり。
家紋竹輪に五七桐六つ百足

【岸氏】藤原氏にして、はじめ上遠を稱し、帶刀可玄のとき岸に改む。

【岸井氏】元祿年間の醫師にて芳庵といふものゝ後なり。

【淨額氏】（姓）桓武天皇の時、眞原王等此姓を賜はる、其源流明かならず。

【城部氏】（姓）嵯峨天皇の時、城部公小野麻呂といふものあり、然れども其源流明かならず。

【桐間氏】はじめ加賀野井を稱し、のち木部を稱へ、利卓のとき桐間に改む、山内一豊の臣なり。

【桐窪氏】藤原氏にして、中務少輔某を祖とす、奥州伊達郡桐窪莊を苗字の地とす。

【清岳氏】（姓）桓武天皇の時、坂野王等此姓を賜はる。其源流明かならず。

【清科氏】（姓）淳和天皇の時、清科朝臣笠主あり、然れども其源流明かならず。

【清庭氏】（姓）淳和天皇の時、清庭朝臣眞豐あり、然れとも其源流明かならず。

【清岡氏】（姓）光仁天皇の時、清岡連廣島あり、然れども其源流明かならず。

【清野氏】清和源氏、義光流なりといふ

【清須氏】藤原氏にして、幸信といふも

のより系現はる。家紋桔梗 釘拔

【清海氏】(姓)桓武天皇の時、駿河王等此姓を賜はる、然れども其出自明かならず。

【貴志氏】寛永系圖傳によれば安倍氏なりといふ。

【菊田氏】平氏にして、菊田彌平左衞門直吉を祖とす。

【橘川氏】大江氏なりといふ、房常のとき橘川を稱す。

くの部

【久間氏】もと隈と書し、平氏にして、平忠度の後裔なりといふ。家紋丸に五本矢車 丸に鳩酸草

【久島氏】姓は清和源氏、福島氏盛の末流にして、正常のとき久島に改むといふ。家紋三鱗形 丸に釘貫 三桔梗

【久隅氏】姓は藤原氏、織田家の浪人久隅恒久の後なりといふ。家紋丸に三本矢 丸に木瓜

【久野氏】姓は平氏なりといふ、其流明かならず、孝知といふものゝ後なり。

【日下部氏】(姓)天日鷲命六世の孫、保都禰命の後なりといふ。

【孔王部氏】(姓)安康天皇の後なりといふ。

【車氏】これ佐竹氏の老臣、車忠次の家なり、其出自明かならず、忠次は慶長頃の人なり。

【呉氏】(姓)百濟德率呉伎側の後なりといふ。

【沓屋氏】毛利家の臣にして、沓屋奥種

といふもの、後なり。

【紅林氏】　姓は橘氏にして、今川義元の臣、紅林吉永の後なりといふ。　家紋丸に橘三瓶子

【栗隈氏】（姓）　天智天皇の朝、栗隈首徳方あり、然れども其源流明かならず。

【栗生氏】　これ新田義貞の臣、栗生顯友の家なり、顯友は上野の人其源流明かならず。

【栗前氏】（姓）　仁明天皇の朝、栗前眞人永子あり、其源流明かならず。

【栗谷川氏】　藤原氏にして、はじめ工藤を稱ふ、光勝のとき栗谷川に改む。

家紋三引龍

【倉氏】（姓）　孝德天皇の朝、倉臣小米あり、然れども其源流明かならず。

【倉林氏】　姓は藤原氏、刑部大輔友則の後なりといふ。　家紋蛇目

【倉兼氏】　藤原氏にして、倉兼小兵衛直言を祖とす。

【倉館氏】　其出自明かならず、久右衛門某といふものゝ後なり。　家紋丸内木瓜

【桑山氏】　寛永系圖傳には、藤原氏の部に入れあり。

【黒江氏】　藤原氏にして、はじめ齋藤を稱す。豊江基成を祖とす。

【黒岩氏】　もとは安喜氏、主斗といふもの土佐の安喜城外の黒岩といふ所に住み、在名を苗字の地とす、

【黒部氏】　藤原氏、秀郷の流なりといふ爲榮といふものより系現はる。

家紋丸に花楔 五七桐 結柴

【國安氏】 源氏にして、國安師明を祖とす。

【國常氏】 長曾我部元親の臣にして國常新左衛門といふものゝ後なり。

【椋椅部氏】 (姓) 孝靈天皇の皇子、吉備津彦命の後なりといふ。

【葛岡氏】 其先葛岡十郎兵衛重成より出づ。

【窪寺氏】 寛文年間の人にて、四郎左衛門子、正光といふものゝ後なり。

【窪島氏】 姓は清和源氏にして武田勝頼の家臣、窪島作右衛門成信の後なりといふ。 家紋丸の内梶葉

【熊原氏】 其出自明かならず、助市某といふものゝ後なり。

【熊澤氏】 姓は藤原氏、もと藤田を稱す山城國郷士、藤田伊左衛門某の後なり。

家紋丸に三引 藤の丸

【櫛部氏】 先祖大内家に仕へ、後毛利家に仕ふといふ、重信(慶安年間の人)といふものの後なり。

【藏田氏】 藤原氏にして、藏田卯右衛門某を祖とす。

けの部

【氣太氏】 (姓) 聖武天皇の時、氣太十千代等あり、然れども其源流明かならず、

【氣比氏】 これ新田義貞の臣、氣比氏治の家なり、越前の人、其源流明かならず。

【煙山氏】藤原氏にして、もと工藤を稱ふ、如光といふものゝ後なり。家紋三引両

【劍持氏】源氏にして、劍持新五左衞門武伴を祖とす。

この部

【小南氏】また木南と書す、橘氏にして紀州海士郡和歌村の鄕士、小南源右衞門某の後なりといふ。家紋五七桐一つ巴

【小谷氏】姓は淸和源氏、蒲生家の臣、小谷朝榮の後なりといふ。家紋丸内四目結丸に三柏

【小杷氏】享保年間の小杷園右衞門某といふものゝ後なり。

【小向氏】平氏にして、南部家の臣、政氏といふものゝ後なり。家紋蛇目九曜

【小塚氏】源氏にして、小塚監物某を祖とす。

【小森氏】淸和源氏なりといふ、小森致一といふものより系現はる。家紋丸に鷹羽花篠

【小森氏】丹波氏なりといふ、賴英といふものより系現はる。家紋嶋鵲草向梅

【小和田氏】源氏にして、小和田美濃某を祖とす、會津小和田城を苗字の地とす。

【小宮山氏】淸和源氏、義光の流にして、武田信玄の幕下、小宮山昌友の後なり。

【五藤氏】橘姓にして山内一豐の臣、爲重といふものゝ後なり。

【木幡氏】藤原氏にして、木幡木工助を祖とす。

【米田氏】源氏にして大和國住人、米田正次の後なりといふ。家紋（茗荷杏葉 白字杏葉）

【許西部氏】（姓）文武天皇の時、許西部直龍賣あり、然れども其源流明ならず。

【惟良氏】（姓）陽成天皇の時、惟良宿禰安宗あり、然れども其源流明かならず。

【國分氏】藤原氏にして、國分庄司仲信を祖とす、信州小縣郡國分庄を苗字の地とす。

【御座氏】毛利家の臣にして御座掃部（慶長二年死）といふものゝ後なり。

【菰田氏】德川氏の家臣にて半左衞門といふものゝ後なり。

【駒井氏】藤原氏にして、駒井氏俊を祖とす、江州駒井鄉を苗字の地とす。

【薦集氏】（姓）天津彥根命の後なりといふ。

第三章 頭音さ行に屬する姓氏

さの部

【佐山氏】源氏にして正豐といふものより系現はる。家紋（鳩酸草 花菱）

【佐合氏】橘氏にして宗諄といふものより系現はる。家紋（丸に三龜甲の內花菱 琴柱）

【佐保氏】（姓）聖武天皇の時、高橋王此姓を賜はる、然れども其出自明かならず。

【佐嘉氏】（姓）景行天皇の時、佐嘉縣主祖大荒田あり。然れども其源流明かならず。

【佐瀨氏】平氏にして、佐瀨伯耆某を祖

【佐々井氏】源氏にして佐々井久實の後なりといふ。家紋丸の内井桁

【佐々竹氏】源氏にして佐々竹昌久の後なりといふ。家紋五本骨三扇 山形木瓜　輪寶

【佐羽内氏】源氏にして能州某の後なり陸奥三戸郡佐羽内村を苗字の地とす。家紋四目結 三柏

【佐自努氏】（姓）崇神天皇の皇子、豊城入彦命の後なりといふ。

【里村氏】姓は藤原氏にして、里村昌休の後なりといふ。

【坂入氏】藤原氏にして重信といふものより系現はる。家紋丸に違丁字 二丁字巴

【坂川氏】姓は藤原氏、もと坂井を稱す坂井胤光の後胤にて坂川光貞の後なりといふ。家紋七葉抱茗荷 源氏車

【坂尾氏】藤原氏なりといふ。

【坂牛氏】藤原氏にして、もと工藤を稱す、祐貫のとき坂牛に改む、陸中三戸郡坂牛邸を苗字の地とす。家紋三引龍 木瓜

【坂野氏】源氏にして高慶といふものより系現はる。家紋丸に鳩酸草 菊水

【指田氏】藤原氏なりといふ、久俊といふものより系現はる。家紋丸に三葉柏

【酒向氏】藤原氏にして、勝茂といふものより系現はる。

【酒波氏】（姓）聖武天皇の時、酒波人麻呂あり、然れども其源流明かならず。

【酒人小川氏】（姓）繼体天皇の皇子、菟王の後なりといふ。

【眞井氏】 姓は藤原氏にして眞井弼勝の後なりといふ。家紋丸の内二瓶子

【笹本氏】 平氏にして笹本行久の後なりといふ。家紋丸の内二引 丸の内九枚笹の葉 九曜

【笹瀬氏】 源氏にして笹瀬貞重の後なりといふ。

【猿賀氏】 其出自明かならず、南部家の臣にして喜齋某といふもの丶後なり。家紋丸内木瓜

【榊田氏】 藤原氏にして、榊田重能を祖とす。

【澤口氏】 菅原氏なりといふ、澤口伊賀常性といふもの丶後なり。

【澤崎氏】 其先赤澤を稱へ、義任のとき澤崎に改む。

【螺江氏】 (姓) 元正天皇の時、螺江臣夜氣女あり、然れども源流明かならず。

【雜賀氏】 毛利家の臣にして雜賀十右衞門といふもの勝屋を稱し、正親のとき雜賀に復す。

【櫻田氏】 平氏にして櫻田下野某を祖とす、家傳に北條氏の一族なりといふ。

しの部

【十二村氏】 平氏にして、細川助左衞門某を祖とす、助左澤門某、葦名盛氏に仕へ、會津北方十二郷を領す、依て苗字とす。

【七宮氏】 藤原氏にして、七宮木工助某を祖とす。

【下田氏】 姓は大江氏なりといふ。

【下井氏】(姓) 稱徳天皇の時、下井連立足あり、然れども其源流明かならず。

【下枝氏】姓は藤原氏、下枝正綱の後なりといふ。家紋左一巴井桁

【下神氏】、姓「葛城襲津彦の後なりといふ。

【下杉氏】南部家の臣にして、茂右衛門某といふものゝ後なり。

【下斗米氏】南部家の臣にして、甚四郎某といふものゝ後なり。家紋[illegible]

【白岩氏】其姓明かならず、南部家の臣にして石見某の後なり。家紋四目結

【白幡氏】源氏にして、白幡平馬某を祖とす。

【白根澤氏】源氏にして、白根澤丹波重綱を祖とす、奥州伊達郡日根澤を苗字の地とす。

【庄子氏】藤原氏にして、庄子備後某を祖とす。

【志田氏】藤原氏にして、正量といふものゝ後なり。

【宍倉氏】徳川家臣宍倉與右衛門といふものゝ後なり。

【芝氏】源氏にして淺井政國二男正清、外家の號を冒して芝と改むといふ。家紋丸内横二引九曜星

【芝田氏】藤原氏にして、はじめ柴田を稱し、常春のとき芝田に改む。

【重田氏】藤原氏にして信正といふものより系現はる。家紋丸に杏葉牡丹花輪違

【後部高氏】（姓）高麗人、後部高子金の後なりといふ。

【島　氏】（姓）天穂日命の後なりといふ。

【島川氏】藤原氏にして、南部家の臣、豊成といふものゝ後なり。家紋馬櫛

【島岡氏】其出自明かならず、七左衛門清虎を祖とす。

【宿谷氏】徳川家臣にて武兵衛といふもゝの後なり。

【鹿討氏】もと河野氏、兵部某、鹿討の名手なりしにより、これを稱すといふ、のち獅々内と書す。家紋四日結

【鹿倉氏】姓は藤原氏、鹿倉有信の後なりといふ。家紋十二本骨扇鹿角

【雫石氏】其出自明かならず、はじめ志和を稱し、伯耆某のときより雫石と稱す。家紋一つ蔦

【椎津氏】姓は桓武平氏、相馬の流なりといふ。

【新家氏】姓は藤原氏、新家知定の後なりといふ。家紋丸ノ内開扇左右疊扇左三巴

【滋世氏】（姓）清和天皇の時、於公浦雄等に滋世宿禰の姓を賜はる、然れども其源流明かならず。

【滋岡氏】（姓）文徳天皇の時、刀伎直雄貞等、此姓を賜はる、然れども其源流明かならず。

【獅々内氏】鹿討氏に同じ。

【滋民氏】藤原氏にして南部家の臣、秀

抹といふもの丶後なり。家紋下藤

【篠澤氏】村上源氏にして忠知といふものより系現はる、もと富永を稱したりといふ。家紋丸に堅二引 丸に向梅

【篠瀬氏】藤原氏なりといふ。

【鎮目氏】清和源氏、義光の後なりといふ。

【塩氏】徳川家臣にて加兵衛といふもの丶後なり。

【鹽入氏】姓は藤原氏、藤原秀郷の後胤なりといふ、重秀といふものより系現はる。家紋丸内横木瓜 八劍輪寶

すの部

【末光氏】安岡氏の支流にして、與三衛門といふものより其系現はる。

【末高氏】藤原氏なりといふ正長といふものより系現はる。家紋八藏手の内丸に三引 梶の葉

【末國氏】毛利家の臣にして光氏、天文年間の人といふものより系現はる。

【杉山氏】藤原氏にして杉山正時の後なりといふ。家紋庵の内左三巴 庵の内枝柏 三雪笹

【杉沼氏】源氏にして、右馬助重信を祖とす。

【杉澤氏】もと工藤を稱ふ、掃部某の後なり、陸中三戸郡杉澤村を苗字の地とす。家紋三引龍

【杉江氏】源氏にして勘兵衛某の後なりといふ。家紋丸内桔梗

【杉島氏】姓は藤原氏、杉島氏宗の後な

りといふ。家紋撫子下藤

【杉島氏】源氏にして檢校、杉島之成の後なりといふ。家紋丸内向笹向角

【住道氏】姓、素盞嗚尊の後なりといふ。

【須江氏】源氏にて亦五郎某を祖とす。

【須磨氏】元祿年間の鍼醫、良川といふもの、後なり。

【菅屋氏】これ織田信長に仕へし、菅屋長賴の家なり、其出自明かならす。

【菅浪氏】佐竹義重、義宣に仕へし菅浪重次の家なり。家紋丸に三地紙(一に丸に地扇)軍配團房

重次—重勝—重後……

【椙原氏】源氏にして、椙原賢盛を祖とす、播州椙原を苗字の地とす。

【摺澤氏】平氏にして、摺澤左馬助某を祖とす。

【數原氏】橘氏にして、數原尙白の後なりといふ。家紋丸の内二雁金鶴の丸

【勝氏】平氏なりといふ、政元(一に正元)といふものより系現はる。家紋丸に釘抜裏蔦

せの部

【千氏】これ千利休家なり、其出自明かならず、千といふ族稱は、其先足利幕府に仕へ同朋たりし千阿彌の名より起る

【妹尾氏】次の瀨尾氏に同じ、その條下を見よ。

【關川氏】藤原氏にして、長昌といふものより系現はる。家紋丸の内九枚笹雀丸

【關根氏】　桓武平氏にして、平貞盛より出づといふ。　家紋上羽蝶抱澤瀉

【瀨川氏】　藤原氏にして、南部家の臣、意敬といふもの丶後なり。　家紋五三桐

【瀨尾氏】　これ源平時代、瀨尾兼康の家なり。備中瀨尾莊を食みしより、此苗字あり、其源流明かならず。

【瀨成田氏】　源氏にして、丹後氏を祖とす

【攝待氏】　其出自明かならず、南部家の臣にして治光といふもの丶後なり。
家紋幸菱

その部

【反町氏】　藤原氏にして、依俊といふものより系現はる。　家紋源氏車九曜

【染木氏】　朝鮮の人にして姓は季氏なりといふ、正信のとき染木と改むと。
家紋丸に四石鷹羽打違

【染戸氏】　源氏にして、正常といふもの丶後なり。　家紋輪寶或は花輪違万字

【袖岡氏】　もと源氏にして、のち橘氏となりしといふ、正景といふものより系現はる。　家紋丸に橘鷹羽

【祖式氏】　寛永頃の人にして、毛利輝光の臣、祖式元信の後なり。

【添田氏】　もと楢崎を稱へしといふ、豊壽（醫を業とす）といふものより系現はる
家紋丁子巴舞鶴

【薗田氏】　（姓）　聖武天皇の時、薗田首八島あり、然れども其源流明かならず。

【薗部氏】藤原氏にして、先祖家澄丹波國船井郡薗部庄に住せるにより苗字とすと。家紋 根芹 三鱗甲 重菱

第四章　頭音た行に屬する姓氏

たの部

【大坊氏】其出自明かならず、南部家の臣にして、又兵衛某といふものゝ後なり。
家紋 鬼蔦

【大光寺氏】源氏にして、正親といふものゝ後なり、陸奥津輕郡大光寺村を苗字の地とす。家紋 九曜

【大膳亮氏】平氏の支流にして、始め安藝を稱し、道峻のとき大膳亮に改むといふ。
家紋 丸に三鱗

【丹野氏】丹治氏にして、善右衛門某を祖とす。

【工氏】（姓）神皇彦靈命の後なりといふ。

【玉川氏】玉川與惣兵衛といふものを祖とす、和州郡山の内、玉川郷を苗字の地とす。

【玉山氏】藤原氏にして、はじめ川村を稱ふ、玉山秀般といふものゝ後なり。
家紋 瀧棒 下藤

【玉見氏】南部家の臣にして、喜悦某といふものゝ後なり。

【玉田氏】藤原氏にして、播磨國住人、玉田十郎左衛門忠久の後なりといふ。
家紋 丸内三鱗 六つ丁子

【玉置氏】藤原氏にして、玉置彈正左衛門範武の後なりといふ。家紋洲濱稻の丸

【只野氏】源氏にして、はじめ毒澤を稱し、次に多田を稱へ、勝吉のとき只野に改む。

【田手氏】藤原氏にして、田手土佐親次を祖とす。

【田頭氏】藤原氏にして、祐秀といふもの丶後なり。家紋三引龍木瓜

【田使氏】(姓) 光孝天皇の時、田使首良雄あり然れども其源流明かならず。

【田原部氏】(姓) 文武天皇の時、田原部小山あり、然れども其源流明かならず。

【竹川氏】甲斐の國人、清和源氏なりといふ。

【竹生氏】また竹尾に作る、藤原氏にして今川義元の臣、竹生某より系現はる。家紋丸に九枚笹五丁子車

【竹原氏】(姓) 新羅阿羅羅國主の弟、伊賀都君の後なりといふ。

【竹垣氏】藤原氏にして、喜長といふもののより系現はる。家紋三頭左巴竹雀

【竹鼻氏】南部家の臣にして、藤七某といふもの丶後なり。

【竹腰氏】始は藤原氏なりといふ、竹腰助九郎光昌といふものより系現はる。

【多門氏】嵯峨源氏なりといふ。

【多川氏】牛坂氏と同祖なり。

【多谷氏】・藤原氏にして、はじめ淡輪(淡一に谷に作る)を稱し、舍友のとき外家の

多谷に改む。

【谷國氏】藤原氏にして、正次といふものより系現はる。
家紋 車の内横矢筈 車の内片假名多文字打違 六角の内釘抜

【谷崎氏】其出自明かならず、南部家の臣にして、甚内某といふものゝ後なり
家紋 木瓜

【但木氏】又只木と書す、橘氏にして、但木顯行を祖とす、常州但木邑を苗字の地とすといふ。

【武山氏】始め鈴木を稱す、和泉守信光の後、重成のとき武山と稱す。

【武市氏】越智氏にして、武市三郎右衛門通次を祖とす。

【武安氏】毛利家の臣にして、武安元種號といふものゝ後なり。

【武澤氏】藤原氏にして、武澤山城守守綱を祖とす。

【高向氏】（姓）與人小君王の後なりといふ。

【高安氏】（姓）阿智王の後なりといふ。

【高付氏】清和源氏なりといふ。

【高松氏】（姓）淳仁天皇の時、高松連笠麻呂あり、然れども其源流明かならず。

【高桑氏】（姓）文武天皇の時、高桑臣姪賣あり、然れども其源流明かならず。

【高圓氏】（姓）正六位上廣世の後なりと、然れども其源流明かならず。

【高澄氏】（姓）平城天皇の時、高澄眞人名守あり、然れども其源流明かならず。

【高平氏】藤原氏にして、高平大學某を祖とす。

【高淵氏】萩藩士にして、高州盛賢の後なり。

【高須氏】高淵氏と同祖なり。

【高城氏】藤原氏にして、宮城宗綱を立家の祖とす、陸前宮城郡高城を苗字の地とす。

【高成田氏】藤原氏にして、高成田大學助某を祖とす。

【爲井氏】源氏にして、祐安といふものより系現はる。家紋細輪に菱井桁

【當野氏】（姓）文德天皇の時、當野忌寸平麻呂あり、然れども其源流明かならず

【舘氏】村上源氏なりといふ、結城晴朝の家臣、舘某より系現はる。家紋三巴に星

【瀧氏】藤原氏にして、利仁の末葉なりといふ。

【瀧氏】源氏にしてはじめ大黒を稱す、恒房のとき家康より瀧又助と名苗字を授けらるといふ。

【瀧村氏】源氏にして、朝由といふものより系現はる。家紋角切角に水車

【瀧野氏】藤原氏にして、先祖爲伯某より系現はる。家紋鳩酸草澤瀉

ちの部

【千賀氏】淸和源氏なりといふ、久賴（醫を業とす）といふものより系現はる。

家紋丸に骨扇に日丸

【中坊氏】清和源氏なりといふ。

【乳井氏】もと大內を稱す、正清といふもの丶徒なり。家紋桔梗

【近內氏】源氏にして、光明といふもの丶後なり、陸中閉伊郡近內村を苗字の地とす。家紋四目結

【近義氏】(姓) 新羅角折王の後なり。

つの部

【土山氏】藤原氏にして、昌紀といふものより系現はる。家紋丸に揚羽蝶 浮線蝶

【土川氏】其出自明かならず、市右衛門某といふもの丶後なり。家紋三巴

【角懸氏】藤原氏にして、はしめ菊地を稱す、角懸右近某の後なり、陸中江刺郡角懸邑を苗字の地とす。

【恒川氏】藤原氏にして、恒川正重の後なりといふ。家紋梅鉢 輪違 鳩酸草

【津島氏】(姓) 天兒屋根命十二世の孫雷大臣の後なりといふ。

【津輕石氏】太郎左衛門某の後なり、陸中閉伊郡津輕石を苗字の地とす、一戸氏の支流なりといふ。

【常氏】(姓) 聖武天皇の時、常臣子赤麻呂あり、然れども其源流明かならず。

【常見氏】藤原氏にして、常見氏明の後なりといふ。家紋丸内生文字 丸に蔓柏

【築山氏】藤原氏にして、築山甚五左衛門の後なりといふ。家紋下藤山の字 鹿角

【蔦木氏】藤原氏なりといふ。

ての部

【天竺氏】源氏にして、細川禪門の末、花氏(天竺右近頭三位少將京師西山の人)の後なりといふ。

【手代森氏】藤原氏にして、南部家の臣秀親といふものゝ後なり、陸中志和郡手代森村を苗字の地とす。家紋違棒

【出口氏】姓は藤原氏、出口正元の後なりといふ。家紋三星雞鳴丸に短册

【出井氏】姓は藤原氏、出井正豐の後なりといふ。家紋丸の内井筒稻穗打違

【出淵氏】南部家の臣にして助之尉某といふものゝ後なり。家紋丸内釘貫菱四つ目

【寺西氏】淸和源氏なりといふ、封元といふものより系現はる。家紋笹文字一巴

【寺本氏】南部家の臣にして、正勝といふものゝ後なり。家紋三輪違

【寺村氏】土佐家の臣にして、相摸といふものより系現はる。

【寺坂氏】これ赤穗淺野氏の臣、寺坂信行の家なり、其姓明かならず。

【照井氏】藤原氏にして、武治といふものゝ後なり。家紋二瓶子

【豊島氏】(姓)後一條天皇の時、豊島眞人時通あり、然れども其源流明かならず

との部

【土左氏】(姓)元正天皇の時、土左朝臣宮子あり、然れども其源流明かならず。

【斗ケ澤氏】もと工藤を稱す、惣左衞門某

の後なり。家紋三引龍

【戸川氏】姓は菅原氏なりといふ、定安といふものより其系現はる。

【戸塚氏】清和源氏にして、爲義の流なりといふ、忠春といふものより系現はる
家紋丸に雙鳩鷹羽打違

【戸石氏】藤原氏にして、戸石久右衛門某の後なり。

【戸津氏】藤原氏にして、戸津外記某、馬術(師)を祖とす。

【戸田内氏】もと村田を稱す、吉種といふものゝ後なり。家紋對菊

【外村氏】德川家臣にて惣右衛門某といふものゝ後なり。

【伴田氏】(姓)稱德天皇の時、伴田朝臣仲刀自あり、然れども其源流明かならず

【杤内氏】藤原氏にして、村田吉時といふものゝ後なりといふ、陸中志和郡杤内村を苗字の地とす。

【利岡氏】長曾我部元親の臣、利岡辰已といふものゝ後なり。

【虎岩氏】源氏にして、播磨守賴孝を祖とす、信州伊那郡虎岩郷を苗字の地とす

【時貞氏】姓は宇多源氏、純任(弘安年間の人)といふものゝ後なり。

【野老山氏】天文年間、野口長善といふもの本國伊賀國より土佐に來り、安藝備後守橋國虎に仕へ、國虎の命により野老山に改む。

【鳥谷氏】もと久慈を稱す、宗但といふ

ものゝ後なり、陸前鳥谷村を苗字の地とす。家紋七曜梅鉢

【鳥谷部氏】又鳥屋部と書す、もさ鰕を稱ふ、南部家の臣にして吉右衛門某の後なり。家紋抱鰕

【常盤氏】平氏にして、常盤甲斐某を祖とす。

【富見氏】藤原氏にして、光順といふもののより系現はる。家紋丸に梶葉 丸に桔梗

【富津氏】其先中吉を稱し、後富津に改むといふ、定重といふもののより系現はる家紋播磨花菱 丸

【豊山氏】（姓）桓武天皇の時、攝津の人乙麻呂等豊山忌寸の姓を賜はる。

【豊井氏】（姓）淳和天皇の時、豊井連安智あり、然れども其源流明かならず。

【豊臣氏】（姓）天正十三年羽柴秀吉、此姓を賜はり關白となる、秀吉の源流は不明なり。

- 彌助
  - 豊臣秀吉
    - 秀勝（養子）
    - 秀次（養子）
    - 秀秋（養子）
    - 鶴松丸
    - 秀頼—國松丸
  - 秀長
  - 朝日姫

【豊村氏】（姓）百濟德率古魯文佐の後なりといふ、

【豊任氏】（姓）淳和天皇の時、豊任朝臣綿成あり、然れども其源流明かならず。

【豊永氏】姓は清和源氏、小笠原氏の庶流なりといふ。

【豊巻氏】其出自明かならず、南部家の

臣にして助左衛門某といふものゝ後なり。家紋三柏

【徳江氏】源氏にして、市大夫高次の後なり。

【徳永氏】徳永親輔といふもの大内家に屬し、のち毛利家に屬す、親尋のとき藝州吉敷郡白松村周田に住して周田を稱す。

【徳弘氏】土佐家の臣にして、徳弘主水正といふものゝ後なり。

第五章 頭音な行に屬する姓氏

なの部

【中目氏】姓は藤原氏、兵庫頭康長といふものより其系現はる。

康長―長政―長重―長次―長清……

【中江氏】これ中江藤樹の家なり、其源流明かならず。

【中里氏】其出自明かならず、中里半兵衛某の後なり。家紋三階菱

【中星氏】藤原氏にして、中星備後某より出づ。

【中條氏】（姓）桓武天皇の時、中條忌寸豊次等あり、然れども其源流明かならず

【中塚氏】藤原氏にして、中塚中兵衛茂親を祖とす。

【中名生氏】源氏にして、中名生備後某を祖とす。

【中津川氏】其先中津川和泉重勝の後なり。

【中臣栗原氏】（姓）天兒屋根命十二世の孫雷大臣の後なりといふ。

【永見氏】姓は小野氏、永見新右衛門重成の後なりといふ。家紋永樂錢

【永尾氏】桓武平氏なりといふ。

【永倉氏】源氏にして、永倉實忠の後なりといふ。家紋丸の內雁金釘貫

【永道氏】（姓）淳和天皇の時、永道朝臣末繼あり、然れども其源流明かならず。

【永野氏】平氏にして、永野下總介植政を祖とす。

【生方氏】又ウブカタともいふ、藤原氏にして南部家の臣家勝といふものゝ後なり。家紋下藤篆書生の字

【生江氏】平氏にして、生江縫殿允某を祖とす。

【名倉氏】清和源氏にして、はじめ松村を稱すといふ、正義といふものより系現はる。家紋丸に鳩酸草丸に三松

【名久井氏】南部家の臣、名久井三政の後なり。家紋木瓜花菱

【仲氏】（姓）淳仁天皇の時、仲眞人石伴あり、其源流明かならず。

【成相氏】（姓）敏達天皇の皇子難波王の後なりといふ。

【長井氏】（姓）桓武天皇の時、船木王此姓を賜はる、其出自明かならず。

【長束氏】これ豊臣氏の臣、長束正家の家なり、其出自明かならず。

【長牛氏】源氏にして、もと一戸を稱す

長牛正用といふものゝ後なり、家紋丸内重菱

【長内氏】源氏にして、南部家の臣、景刑といふものゝ後なり。家紋劍花菱

【長倉氏】（姓）韓人天師命の後なりといふ。

【奈良氏】（姓）孝謙天皇の時、大井王此姓を賜はる、然れども出自明かならず。

【奈良松氏】毛利秀就の臣にして良嘉といふものゝ後なり。

【奈須氏】護良親王の後裔なりといふ。

【南倉氏】其出自明かならず、弘晴といふものより其系現はる。

【竝槻氏】（姓）桓武天皇の時、竝槻忌寸荻麻呂あり、然れども其源流明かならず

【梨羽氏】萩藩士梨羽壹岐守景宗の後なり。

【楢原氏】藤原氏にして克文といふものより系現はる。家紋丸に横木瓜源氏草

【難波田氏】藤原氏なりといふ。

にの部

【西原氏】姓は藤原氏、西原清延を祖とす、本國紀州日高庄吉村に住し、吉村を稱へ、のち土佐國高岡郡仁井田庄西原に住し、在名を苗字とす。

【西門氏】藤原氏なりといふ。

【西野氏】姓は紀氏、孝元天皇の皇子、彦太忍信命の後なりといふ、久充といふものより系現はる。家紋丸に櫻花

【西梅枝氏】平氏にして、もと三浦を稱す一明といふものゝ後なり。家紋三引龍

【苦竹氏】義光の流にして小笠原支流なりといふ。

【新木氏】（姓）百濟伊居留君の後といふ。

【新家氏】藤原氏にして與五左衛門某（紀伊家に仕ふ）といふものより系現はる。家紋丸に井桁

【新國氏】藤原氏にして、赤沼或は沼倉を稱す、新國上總介貞通を祖とす。

【新渡戸氏】南部家の臣にして傳助某といふものゝ後なり。

【新渡部氏】源氏にして、もと多田を稱す南部家の臣、内膳某といふものゝ後なり。

【贄氏】藤原氏にして贄掃部氏信の後なりといふ。家紋丸内三笠

ぬの部

【布下氏】武田信玄の臣、布下豐正の後なりといふ。家紋九曜

【漆島氏】（姓）聖武天皇の時、漆島大名あり、然れども其源流明かならず。

【糠塚氏】其出自明かならず、義相といふものゝ後なり。家紋四葉桐石疊

ねの部

【根本氏】其出自明かならず、正成といふものより、其系現はる。

【根來氏】藤原氏にして盛重といふものゝ後なりといふ。家紋丸の内抱茗荷 六葉の内山字 龜丸に山字

【根岸氏】藤原氏にして衞直といふものより系現はる。家紋蛇目

【根井澤氏】南部家の臣にして、庄十郎某といふものゝ後なり。家紋鞠挾

の の 部

【野實氏】（姓）大國主命の後なりといふ。

【野々村氏】其出自明かならず、中興の祖を幸許といふ。

【野邊地氏】源氏にして、七戸直次の後なりといふ。家紋井桁の内劍花菱 割菱

【登坂氏】藤原氏にして、登坂式部少輔勝長を祖とす。

第六章　頭音は行に屬する姓氏

は の 部

【半田氏】菅原氏にして半田越後守某の後なりといふ。

【孕石氏】土佐家の臣にして、元泰といふものより系現はる、遠州孕石村を苗字の地とす。

【早井氏】其出自明かならず、越中某を祖とす。

【早坂氏】源氏にして、早坂彥左衞門某を祖とす。

【早瀨氏】橋氏にして下野國住人早瀨

十郎某の後なりといふ。

【羽倉氏】　羽倉主膳正重利の後なりといふ。

【羽柴氏】　木下藤吉郎秀吉、始めてこれを稱す、秀吉の源流は不明なり。

【波根氏】　清和源氏にして波根豊政の後なりといふ。

【波根氏】　毛利家の臣にして湯原三河守嘉信三男康信を祖とす、石州波根を苗字の地とす。

【波多祝氏】　（姓）　高皇產靈命の後なりといふ。

【波々泊部氏】　其出自明かならず、南部家の臣にして、次郎右衞門某といふものゝ後なり。

【長谷氏】　（姓）　桓武天皇の時、田村王等・此姓を賜はる、其源流明かならず。

【花口氏】　（姓）　聖武天皇の時、花口宮麻呂あり、然れども其源流明かならず。

【花木氏】　もと細川を稱すと、政全といふものより系現はる。　家紋五三桐櫻花

【花坂氏】　藤原氏にして、花坂親吉といふものゝ後なり。　家紋藤巴

【花形氏】　藤原氏にして勝好といふもののより系現はる。　家紋丸に打違三本鷹羽

【畑氏】　これ新田義貞の臣、畑時能の家なり、時能は武藏の人、其源流明かならず。

【畑中氏】　藤原氏にして、畑中丹後某を祖とす。

【春田氏】姓は源原なりといふ。

【春岑氏】（姓）嵯峨天皇の時、出臣廣津麻呂等、此姓を賜はる、然れども其源流明かならず。

【春岡氏】（姓）嵯峨天皇の時、春岡眞人廣海あり、然れども其源流明かならず。

【春宗氏】（姓）仁明天皇の時、春宗連繩あり、然れども其源流明かならず。

【春海氏】（姓）陽成天皇の時、春海連奥雄あり、然れども其源流明かならず。

【春淵氏】（姓）光孝天皇の時、文部谷直忠直等、其姓を賜はる、然れども其源流明かならず。

【原木氏】桓武平氏の部に入れあり。

【畠中氏】又ハタケナカと稱す、藤原氏にして畠中太郎左衛門某を祖とす。

【針生氏】はじめ山崎を稱へ、三四郎景久のとき針生に改む、其先佐竹氏より出ずといふ。

【速水氏】藤原氏にして吉成といふものより系現はる。家紋丸に蔦

【番氏】これ池田氏の臣、番氏明（豐臣時代）の家なり、其姓明かならず。

【萩野氏】其出自明かならず、解祐大夫（文治年間）といふものより十二代の孫、萩野織部（土佐家山田丹波守の家老職）といふものゝ後なり、世々土佐萩野村を領す。

【幡野氏】源氏にして幡野彌太郎忠遠・の後なりといふ。

【橋村氏】源氏にして正運といふもの

より系現はる。　家紋一文字に十六葉菊

【濱氏】源氏にして民部少輔春利といふものより其系現はる。

【濱田氏】清和源氏なりといふ、恒之といふものより系現はる。　家紋丸に田文字 丸に橘

【濱田氏】藤原氏にして、濱田景雄を祖とす、豆州濱田を苗字の地とすといふ。

【濱川氏】其出自明かならず、南部家の臣にして重高といふものゝ後なり。　家紋花澤瀉

【蝿出氏】藤原氏にして、南部家の臣、喜右衛門氏といふものゝ後なり。

家紋丸内三引龍

ひの部

【人見氏】藤原氏なりと、先祖武藏國人見郷を領せる故に人見を稱すといふ、道德といふものより系現はる。　家紋丸に六曜 六瓜

【人首氏】其出自明かならず、南部家の臣にして通喜某といふものゝ後なり。

家紋三葉柏

【久永氏】加茂氏にして大内家の幕下葛山勝成石見國久永庄に住してこれを稱すといふ。　家紋丸の内猪首雁金 丸挾

【久住氏】藤原氏にして、久住彌市右衛門重成を祖とす。

【久貝氏】藤原氏なりといふ。

【日戸氏】藤原氏にして、南部家の臣、秀恒といふものゝ後なり、川村周防次郎の末流なりといふ。　家紋下藤 百足　違棒

【比留間氏】藤原氏にして比留間正景の

後なりといふ。家紋九曜三巴

【平手氏】これ織田信長の傅、平手清秀の家なり、其出自明かならず。

【平野氏】、姓、稱德天皇の時、平野阿佐美あり、然れども其源流明かならず。

【平原氏】其出自明かならず、南部家の臣、彌左衛門某といふものゝ後なり。家紋違鷹羽

【平渡氏】其先平渡安藝某より出づ、陸前志田郡松山平渡を苗字の地とす。

【左氏】これ左甚五郎の家なり、甚五郎もと伊丹氏、伏見の人なり、彫工に名あり、子孫左を以て族稱とす。

【弘世氏】(姓)淳和天皇の時、弘世連彌足あり、然れども其源流明かならず。

【常道氏】(姓)仁明天皇の時、常道眞人兄守あり、然れども其源流明かならず。

【菱沼氏】藤原氏にして、菱沼駿河某を祖とす。

【廣木氏】藤原氏にして、廣木保行の後なりといふ。家紋丸内亀甲花菱

【廣江氏】(姓)仁明天皇の時、廣江連乙枚あり、然れども其源流明かならず。

【廣岡氏】(姓)光仁天皇の時、武藏新羅郡の人沙良等、廣岡造の姓を賜はる、然れども其出自明かならず。

【廣幡氏】(姓)百濟國、津王の後なりといふ。

【樋渡氏】平氏にして、持高を祖とす、奥州會津郡稻川莊樋渡城を苗字の地とす。

ふの部

【古山氏】源氏にして、古山治兵衛重次といふものより出づ。

【伏谷氏】德川家臣胤昵といふもの丶後なり。

【伏屋氏】清和源氏なりといふ。

【舟山氏】其先、舟山二兵衛某より出づ。

【舟越氏】其出自明かならず、舟越安秀といふもの丶後なり。家紋三階菱

【府川氏】其先明かならず、六左衛門といふものより系現はる。

【船子氏】(姓)百濟、久爾君の後なりといふ。

【船田氏】これ新田義貞の臣、船田義昌の家なり義昌は上野の人、其源流明かならず。

【深見氏】清和源氏、義光流なりといふ。

【筆氏】(姓)燕人衛滿の後なりといふ。

【葛江氏】(姓)桓武天皇の時、葛江我孫馬養あり、然れども其源流明かならず。

【豊前氏】藤原氏にして森蘭丸の臣、豊前正次の後なりといふ。家紋抱柏

【富紀氏】(姓)聖武天皇の時、富紀朝臣馬主あり、然れども其源流明かならず。

【富士卷氏】延寶年間の人にて眼科醫安清といふもの丶後なり。

【福井氏】藤原氏にして秀郷の後胤久行の後なりといふ。家紋矢筈井筒

【福王氏】姓は藤原氏なりといふ、其先

信正(一に信忠)といふものより系現はる
家紋五環輪違ひ内に十六葉菊 島居内十六葉菊 藤丸

【福守氏】平氏にして伊賀國郷士福守保政の後なりといふ。家紋車の内矢筈 丸内折烏帽子

【福生氏】藤原氏なりといふ。

【福岡氏】慶其先江州長濱に於て一豊に仕ふ、福岡孝政といふものゝ後なり。

【福地氏】源氏にして山城國住福地信盛の後なりといふ。

【福間氏】慶安頃の人にして、毛利秀就の臣、福間元明次男、元之の後なり。

【福留氏】土佐家の臣にして、隼人佐(田邊島在城)といふものゝ後なり。

【福富氏】姓は橘氏なりといふ。

【藤方氏】村上源氏なりといふ。

【藤寺氏】其出自明かならず、南部家の臣にして章之といふものゝ後なり。
家紋藤巴

【藤根氏】南部家の臣にして、清八某といふものゝ後なり。家紋六つ石

【藤枝氏】藤原氏にして方孝といふものより系現はる。家紋重菱甲の内釘抜 左巴

への部

【日置部氏】(姓)天櫛玉命の後なりといふ。

【別役氏】土佐國別役領主岡本彦次といふものゝ末流なり。

【閇伊口氏】南部家の臣にして、直忠といふものゝ後なり。

ほの部

【本名氏】藤原氏にして、本名實信を祖とす。

【本賀氏】藤原氏にして貞保といふもののより系現はる。家紋本文字 九枚笹 五松

【保木氏】藤原氏にして公富といふもののより系現はる。家紋丸に三鍋甲の内花菱 菱裏菊

【星氏】藤原氏にして、星佐渡といふものを祖とす。

【星川氏】其出自明かならず、星川吉長といふものゝ後なり。家紋七曜

【星田氏】源氏にして、正種といふものより系現はる。家紋丸に三星 水車

【洞内氏】其出自明かならず、内藏之丞某といふものゝ後なり。家紋五瓜

【堀本氏】源氏にして、代々肥後國に住居、堀本善意義長の後なりといふ。

【堀谷氏】平氏にして、正厚といふものより系現はる。家紋丸に揚羽蝶 五三桐

【堀屋氏】平氏にして、常習といふものより系現はる。家紋丸に三柏 丸に蝶

【堀切氏】其出自明かならず、英敦といふものゝ後なり、陸中岩手郡堀切村を苗字の地とす。家紋丸内に二本扇

【細目氏】平氏にして、細目修理某を祖とす。

【細谷氏】其出自明かならず、細谷甚兵衞某の後なり。

【細越氏】藤原氏にして、もと菊池を稱

ふ、廣正といふもの丶後なり。家紋違鷹羽

第七章　頭音まに屬する姓氏

まの部

【又重氏】藤原氏にして、もと木村を稱す、直秀といふもの丶後なり、陸奥三戸郡又重村を苗字の地とす。家紋二巴

【万城目氏】藤原氏にして、稗貫大隅守盛基の後なり、盛耀に至り萬丁目を稱へ、のち万城目に改む。

【町谷氏】藤原氏にして、町谷師清の後なりといふ。家紋丸の内十六菊 藤巴

【松山氏】源氏にして、松山直正の後なりといふ。家紋剣梅鉢 釘貫

【松居氏】源氏にして、松居宗光の後なりといふ。家紋丸内五葉根笹 梶葉

【松林氏】平氏なりといふ、松林永吉(劍士)を祖とす。

【松坂氏】藤原氏にして、坂上長貞の男松坂則長の後なりといふ。

【松風氏】藤原氏にして、松風正廣の後なりといふ。家紋三鱗甲 澤瀉

【前島氏】源氏にして、政明といふものより系現はる。家紋抱澤瀉

【前島氏】藤原氏にして、前島宮内某の後なりといふ。家紋擬寶珠具 角引違

【前田氏】(姓)文德天皇の時、前田臣市成あり、然れども其源流明かならず。

【前塲氏】越前朝倉の流なりといふ、織田信長の臣勝秀といふものより系現は

る。家紋藤丸藤巴

【斑目氏】其出自明かならず、斑目信濃重次を祖とす。

【茨田氏】（姓）敏達天皇の皇子、大股王の後なりといふ。

【眞山氏】藤原氏にして、眞山六郎右衛門を祖とす。

【眞春氏】（姓）仁明天皇の時、長谷王等此姓を賜はる、其源流明かならず。

【眞苑氏】（姓）嵯峨天皇の時、眞苑宿禰雜物あり、然れども其源流明かならず。

【眞髪部氏】（姓）天穗日命の後なりといふ。

【益田氏】（姓）天武天皇の時、益田金鐘あり、然れども其源流明かならず。

【馬淵氏】源氏にして、馬淵隼人常時を祖とす。

【馬島氏】藤原氏にして、馬島大智坊奠帆（眼科醫）の後なりといふ。家紋蛇目及鳩酸草

【間瀬氏】嵯峨源氏なりといふ。家紋丸に笹龍膽丸に三星一文字

【圓子氏】丹治姓なりといふ、九右衛門某の後なり、陸中九戸郡圓子村を苗字の地とす。家紋蛇目

【萬年氏】藤原氏より出づといふ。

【蒔内氏】其出自明かならず、南部家の臣にして、庄左衛門某の後なり、奥州津輕郡蒔内村を苗字の地とす。

【增田氏】これ豐臣氏の臣、增田長盛の家なり、其出自明かなず。

【増澤氏】平氏にして、はじめ黒木を稱し、朝重のときより増澤を稱す。

みの部

【三井氏】桓武平氏にして、武田家の臣山縣昌景に仕へし三井吉盛(後に正武)の後なりといふ。家紋角四目結

【三村氏】その何姓なるか明かならず三村家親等の家なり、此人は備中の人、成羽の城主なり。

【三神氏】藤原氏なりといふ、信久といふものより系現はる。家紋三星

【三野氏】(姓)元正天皇の朝、三野眞人三島あり、其出自明かならず。

【三輪氏】毛利家の臣にして、はじめ美和を稱し、就昌のときより三輪を稱すといふ。

【三ケ尻氏】其出自明かならず、南部家の臣加賀某といふものゝ後なり。家紋三葉柏

【三村部氏】(姓)仁明天皇の時、三村部綿女あり、然れども其源流明かならず。

【三間名氏】(姓)天兒屋根命十一世の孫雷大臣の後なりといふ。

【三間名氏】(姓)任那牟留知王の後なりといふ。

【三歳祝氏】(姓)大田田根子の後なりといふ。

【壬生氏】(姓)崇神天皇の皇子、豐城入彦命の後なりといふ。

【壬生部氏】（姓）崇神天皇の後なりといふ。

【耳梨氏】（姓）孝徳天皇の時、耳梨道徳あり、然れども其源流明かならず。

【明神氏】尾張の人にして、長曾我部元親の臣、明神六郎左衛門といふものゝ後なり。

【南氏】藤原氏にして、南治郎吉政吉を祖とす。

【南村氏】これ儒者、南村梅軒の家なり其出自明ならず。

【美松氏】其出自明かならず、南部家の臣にして長門某といふものゝ後なり。家紋鉄線

【美和氏】（姓）孝謙天皇の朝、壬生王等此姓を賜はる、然れども其出自明かならず。

【美海氏】（姓）桓武天皇の時、田邊王等此姓を賜はる、其源流明かならず。

【宮氏】其出自明かならず、南部家の臣總脩といふものゝ後なり。家紋三巴

【宮手氏】源氏にして、はじめ多田を稱し、總實のとき宮手を稱す、陸中志和郡宮手村を苗字の地とす。家紋唐獅子抱柏

【宮杜氏】はじめ菊池を稱へ、祐吉のとき宮杜に改む。

【宮井氏】藤原氏にして、玄則といふものより系現はる。家紋丸に左三巴

【宮村氏】徳川家臣彌左衛門といふものゝ後なり。

【宮河氏】 藤原氏にして、次郎左衛門孝乘の後なりといふ。 家紋九枚笹井筒

【宮門氏】 (姓) 陽成天皇の時、宮門有常あり、然れども其源流明かならず。

【宮重氏】 藤原氏なりといふ、信成といふものより系現はる。 家紋向鶴丸

【宮長氏】 源氏にして、もと宇野を稱ふ宮長吉玄といふもの丶後なり。

家紋丸に十文字

【宮森氏】 もと菊地を稱す、宮森吉道といふもの丶後なり。 家紋立引龍

【神子田氏】 もと屋代を稱ふ、神子田忠房といふもの丶後なり。 家紋丸に上文字

【御山氏】 (姓) 光仁天皇の時、燕乙麻呂御山造の姓を賜はる、然れども其源流明かならず。

【御中氏】 (姓) 桓武天皇の時、御中眞人廣岳あり、然れども其出自明かならず。

【御原氏】 (姓) 敏達天皇の皇子、彦太大兄王の後なりといふ。

【御常氏】 (姓) 清和天皇の時、御常朝臣氏雄あり、然れども其出自明かならず。

【御井原氏】 (姓) 光孝天皇の時、御井原史淨氏あり、然れども其源流明かならず。

【御手洗氏】 藤原氏にして、武田信虎の臣正重といふものより系現はる。

家紋丸に折入五三の桐

【御代田氏】 平氏にして、御代田下野といふものを祖とす。

【湊氏】 藤原氏にして、湊八大夫高光

の後なりといふ。家紋五本骨開三扇檜扇

【溝邊氏】（姓）欽明天皇の時、溝邊直あり、然れども其出自明かならず。

むの部

【村松氏】源氏にして、小島歳篤の後、村松歳房の後なりといふ。家紋丸の内抱丁子扇地紙

【村島氏】藤原氏にして、村島猶基の後なりといふ。家紋丸の内井桁五三桐

村角氏】其出自明かならず、如廣といふもの丶後なり。家紋丸内梅花

【村國氏】（姓）天武天皇の時、村國連男依あり、然れども其源流明かならず。

【村瀨氏】藤原氏にして、磯貝小三郎重治村瀨を稱すといふ。家紋三追澤瀉九曜

【宗次氏】安藝備後守橋國虎の臣、宗重といふもの丶後なり。

【宗高氏】（姓）仁明天皇の時、春男王此姓を賜はる、其源流明かならず。

【室原氏】（姓）桓武天皇の時、十二月王等此姓を賜はる、其源流明かならず。

【棟方氏】はじめ宗方を稱す、平氏にして、淸右衛門盛則を祖とす。

めの部

【女鹿氏】もと小笠原を稱す、長宗のとき女鹿に改む、陸中三戶郡女鹿村を苗字の地とす。家紋三階菱

【目時氏】源氏にして、はじめ津島を稱し、正朝のときより目時に改む。

家紋九曜

【目々澤氏】藤原氏にして、太郎左衛門定常を祖とす、傳へ言ふ相馬の族臣、目々澤丹後常清の後なりといふ。

【米良氏】藤原氏にして、菊池石見守國重の後なりといふ。 家紋丸内揃鷹羽左巴

もの部

【本・山氏】橘氏にして、本山正房の後なりといふ。 家紋源氏車丸に橘

【本康氏】平氏にして、本康德長の後なりといふ。 家紋角切角の内本の字丸内立波

【守山氏】平氏にして、近江國守山住人守山俊盛の末流なりといふ。
家紋丸内洲濱瓜

【守屋氏】源氏なりといふ武田信玄の臣昌成(一に政武)といふるのより系現はる。
家紋丸に釘拔松皮菱

【百岡氏】其出自明かならず、種四郎某といふものゝ後なり。 家紋七曜

【物集氏】(姓) 秦の始皇帝の後なりといふ。

【持田氏】藤原氏なりといふ、

【師山氏】源氏にして、師山伊豫守某を祖とす、陸前志田郡師山城を苗字の地とす。

【桃尾氏】(姓) 孝謙天皇の時、桃尾臣井麻呂あり、然れども其源流明かならず。

【裳咋氏】(姓) 光仁天皇の時、裳咋臣足島あり、然れども其源流明かならず。

【森能氏】源氏にして、森長次の後、森能に改むといふ。家紋五三桐九曜

【森崎氏】姓は藤原氏、利仁の流にして森崎秀之を祖とす。家紋藤丸の内山の字花菱

第八章　頭音や行に屬する姓氏

やの部

【八島氏】（姓）高倉天皇の時、八島宿禰末國あり、然れども其源流明かならす。

【八島氏】源氏にして、八島七郎左衛門某を祖とす。

【八木氏】毛利家の臣にして、八木就正（寛永十八年死）といふものゝ後なり。

【八乙女氏】藤原氏にして、八乙女淡路某を祖とす。

【八木澤氏】其出自明かならず、光興といふものゝ後なり。家紋五徳

【八木橋氏】其出自明かならず、南部家の臣備中某といふものゝ後なり。家紋蛇目中三本杉

【八重盛氏】清和源氏にして、先祖信濃國八重盛郷に住せりより苗字とせりと、政武といふものより系現はる。家紋丸に洲濱片藤

【山氏】（姓）火明命十一世の孫、尾張屋主都久代命の後なりといふ。

【山川氏】藤原氏にして、石龜貞之の後なりといふ。家紋丸内三引花巴三頭三巴

【山川氏】平氏にして、江守左京亮某の後なりといふ。家紋丸の内山字右卷三巴　洲濱の内雁金二

【山木氏】桓武平氏なりといふ。

【山寺氏】其出自明かならず。

【山岸氏】藤原氏にして、山岸宗成を祖とす、

【山科氏】（姓）桓武天皇の朝、八上王等此姓を賜はる、其源流明かならず。

【山菅氏】藤原氏、秀郷の後裔にして、山菅正次の後なりといふ。家紋丸内上羽蝶三巴

【山路氏】藤原氏にして、山路長門能時より出づ。

【山瀬氏】橘氏にして楠正成の後裔なりといふ、正家（一に正信）といふものより系現はる。家紋丸に蔦菊水

【矢作氏】（姓）經津主命の後なりといふ。

【矢橋氏】桓武平氏なりといふ。

【矢田堀氏】平氏にして、上野國矢田堀郷士、矢田部貞高の後なりといふ。
家紋丸内矢打違丸内桔梗

【安見氏】藤原氏にして、元道といふものより系現はる。家紋丸に違鷹羽丸に十六葉菊

【安原氏】（姓）淳和天皇の時、安原宿禰諸勝あり、然れども其源流明かならず。

【安岡氏】長曾我部氏の臣にして、重宗といふものより其系現はる。

【安道氏】（姓）淳和天皇の時、安道宿禰嗣雄あり、然れども其源流明かならず。

【谷邊氏】藤原氏にして、朝比奈泰近の支流なりといふ。

【柳瀬氏】其出自明かならず。

【倭川原氏】（姓）彦根命の後なりといふ

【簗田氏】これ簗田政信の家なり、其出自明かならず、政信は元龜天正頃の人、關宿城主なり。

ゆの部

【弓削多氏】其出自明かならず、其先昌吉といふものより現はる。

【由比氏】其出自明かならず、光正といふものより其系現はる。

【由田氏】源氏にして先祖は柴合を稱へしとふ、清房といふものより系現はる　家紋源氏車

【油田氏】藤原氏にして、油田鼠庵重之(茶道業)といふものゝ後なり。

【湯川氏】藤原氏にして永貞といふものより系現はる。家紋丸に角内花菱 丸に花菱

【湯目氏】藤原氏にして湯目重久を祖とす。

【湯村氏】其出自明かならず、湯村信濃守某(醫を業とす)を祖とす、奥州伊達郡湯村之城を苗字の地とす。

【湯原氏】（姓）桓武天皇の時、乃山甘次猪養湯原造の姓を賜はる、然れども其源流明かならず。

【靭編氏】（姓）神志波移命の後なりといふ。

よの部

【米村氏】これ大野治長の臣、米村權右衛門の家なり、其姓明かならず。

【米内氏】南部家の臣にして、勝良といふものの後なり。

【米津氏】其姓明かならず、勝政といふものより其系現はる、三河米津邑に住せしより來れるものなり。

米津勝政―政信―田政―田盛―政盛……（出羽長靜）

【米野氏】橘氏にして康武といふものより系現はる。家紋丸に茶の實 丸に稻穗 橘

【吉岡氏】越智にして道利といふものより系現はる。家紋丸に繁一文字 丸に十文字

【依光氏】土佐家の臣にして依光伊兵衛といふものの後なり。

【善原氏】（姓）桓武天皇の時、善原忌寸依あり、然れども其源流明かならず。

【善根氏】（姓）仁明天皇の時、美縣貞繼善根連の姓を賜はる、然れども其源流明かならず。

【義村氏】源氏にして勝休といふものより系現はる。家紋丸に打違鷹羽左重 義の古文字

【横尾氏】藤原氏にして、横尾新十郎を祖とす。

【横江氏】（姓）光仁天皇の時、横江臣成人あり、然れども其源流明かならず。

【横田氏】（姓）聖武天皇の時、横田臣大宅あり、然れども其源流明かならず。

【横地氏】清和源氏なりといふ、横地元次の後なりといふ。家紋丸に龜甲の内花菱 三羽鶴丸

【横濱氏】はじめ七戸を稱す、慶則のとき横濱を稱す。家紋丸内抱銀杏の葉 割菱

【横澤氏】藤原氏にして、横澤平左衛門臣の後なり、奥州伊達郡横澤を苗字の地とす。

第九章 頭音わ行に屬する姓氏

わの部

【分部氏】清和源氏なりと、先祖伊勢國安濃郡分部村に住す、光直より系現はる。
家紋丸に三引三引龍 庵に木瓜

【若林氏】藤原氏なりといふ。

【若生氏】藤原氏にして、石川太郎左衛門某の後、治郎左衛門某若生を稱ふ。

【若宮氏】(姓) 清和天皇の時、若宮臣秀雄あり、然れども其源流明かならず。

【和智氏】毛利家の臣にして和智元周といふものの後なり。

【和井内氏】源氏にして、光積といふものの後なり、陸中閉伊郡和井内村を苗字の地とす。 家紋四目結

【渡部氏】姓は源氏なりといふ、光といふものより其系現はる、光は天正頃の人なりといふ。

【藁氏】藤原氏なりといふ。

【藁科氏】藤原氏支流にして今川氏眞の臣藁科某より系現はる。
家紋上藤丸に一文字寶珠

ゐの部

【井原氏】(姓) 淳和天皇の時、井原宿禰繼足あり、然れども其源流明かならず。

【井狩氏】藤原氏なりといふ、佐々木家の臣、宗清といふものより系現はる。

家紋丸に橘

【井澤氏】清和源氏なりといふ、爲水といふものより系現はる。

家紋黒餅に八鷹羽車丸に二雁金

【井關氏】菅原氏なりといふ、淺井長政の臣、親政といふものより系現はる。

【井氣多氏】藤原氏なりといふ。

家紋丸に陽劒梅鉢

【猪川氏】平氏にして直繼のとき井川を稱し、のち猪川に改む。

【猪狩氏】橘氏にして、猪狩紀伊守之を祖とす。

【猪飼氏】宇多源氏なりといふ、正光といふもの義晴に仕ふ。家紋釘抜

【猪甘部氏】(姓)天足彦國押人命の後なりといふ。

ゑの部

【惠我氏】(姓)天穗日命の後なりといふ。

をの部

【乙幡氏】源氏なりといふ。

【小木氏】德川氏家臣にて藤兵衛某といふものの後なり。

【小方氏】毛利秀就の臣にして小方元信の子、元忠の後なり。

【小田氏】(姓)聖武天皇の時、小田臣根成あり、然れども其出自明かならず。

【小神氏】 細川氏の支流、天竺氏(土佐國土佐郡大津城主)の後なり、祖を花吉といふ。

【小高氏】 清和源氏なりといふ、重吉といふものより系現はる。 家紋丸に一引鬼蔦

【小城氏】 清和源氏なりさといふ、正秀といふものより系現はる。 家紋丸に藤蛇目

【小橋氏】 (姓) 新羅國人の後なりといふ。

【小關氏】 源氏にして、小關加賀を祖とす。

【小濱氏】 寛永系圖傳には、藤原氏の部に入れあり。

【小瀨氏】 これ小瀨清長の家なり、其出自明かならず、清長は天正頃の人なり。

【小崎氏】 姓は藤原氏秀郷の流なりといふ、正俊といふものより系現はる。 家紋五三桐菊

【小櫛氏】 滋野氏にして、はじめ小串を稱し、忠守のとき小櫛に改むといふ。

【小田代氏】 源氏にして、滿實といふものの後なり。 家紋花菱桔梗 松皮菱

家紋丸に橘 丸に小の字

【小田島氏】 其出自明かならず、內記某といふものの後なり。 家紋石疊

【小田島氏】 藤原氏にして、小田島清兵衛重庸を祖とす。

【小田邊氏】 藤原氏にして、小田邊大學勝成を祖とす。

【小野目氏】 阿部氏にして、阿部善左衛門

某より出で、其女眞成院の養子(善左衛門の孫彦右衛門某の子)小野目を稱す。

【小野木氏】 これ豊臣頃の人、小野木重勝の家なり、其出自明かならず。

【他戸氏】 (姓) 陽成天皇の時、他戸首千與本あり、然れども其出自明かならず。

【及川氏】 源氏にして伊豆冠者成綱を祖とす、但州及川庄を苗字の地とす。

【折原氏】 姓は藤原氏、武藏國崎玉郡臺村郷士折原義正の後なりといふ。

【尾川氏】 毛利家の臣にして始め小河原、つぎに景山を稱し、のち尾川に改む。

【尾津氏】 (姓) 漢の高祖の後なりといふ。

【尾島氏】 清和源氏なりといふ、信英といふものより系現はる。 家紋丸に桔梗

【尾越氏】 毛利家の臣にして朝實といふものの後なり。

【尾崎氏】 清和源氏にして信重(家康に仕ふ)より系現はる。 家紋丁字車 藤巴

【弟國部氏】 (姓) 持統天皇の時、弟國部弟日あり、然れども其源流明かならず。

【岡上氏】 藤原氏なりといふ、北條氏政の臣、景行より系現はる。 家紋輪違

【岡井氏】 藤原氏にして道薫といふものより系現はる。 家紋梅輪内 唐花

【岡谷氏】 藤原氏なりといふ、法泰といふものより系現はる。 家紋左巴三頭

【岡原氏】 (姓) 桓武天皇の朝、永世王等此姓を賜はる、其出自明かならず。

【岡室氏】平氏なりといふ、政徳といふものより系現はる。家紋丸に鳩酸草

【尚氏】（姓）仲哀天皇の時、岡縣主の祖、熊鰐あり、然れども其出自明かならず。

姓氏明鑑中編終

後編　著名姓氏の類別

第一章　皇別諸氏

第一節　神武天皇よりの支流

神武天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

神武天皇
- 手研耳命
- 神八井耳命＝島田氏、阿蘇氏、科野國造等の祖、
- 綏靖天皇
- 彦八井耳命＝茨田氏、手島氏、松浦氏等の祖、

上記の內、神八井耳命の子孫、分岐最も多く、以上の外、多氏、小子部氏、志紀氏、園部氏、大分氏、火氏、筑紫三家氏、雀部氏、伊勢船木氏、尾張丹羽氏等猶多くあり。又右の內、阿蘇氏の裔は、世々阿蘇神社の宮司として、又科野國造の裔は、諏訪神社の神官として、傳はり、其名殊に著はる。

第二節　安寧天皇よりの支流

安寧天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

安寧天皇
├息石耳命
├懿德天皇
└磯城津彦命＝猪使氏、中原氏等の祖、

右の內中原氏最も著はる。但、中原氏の出自につきて、異說あることは、中編皇別の部に述べたれば就いて見るべし。中原氏の本流は、世々朝廷に仕へ、平安朝の中頃以後は明法道の家として、坂上氏と相並び、又明經道の家としても著はれたり。次に中原氏より出でたる苗字には、井口、分瀨、宮部、土橋、矢原、尾本、淵上、甲良、多賀、宮內、長江等、猶多し。

第三節　孝昭天皇よりの支流

孝昭天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

孝昭天皇
├天足彦國押人命＝小野氏、粟田氏、柿本氏等の祖、
└孝安天皇

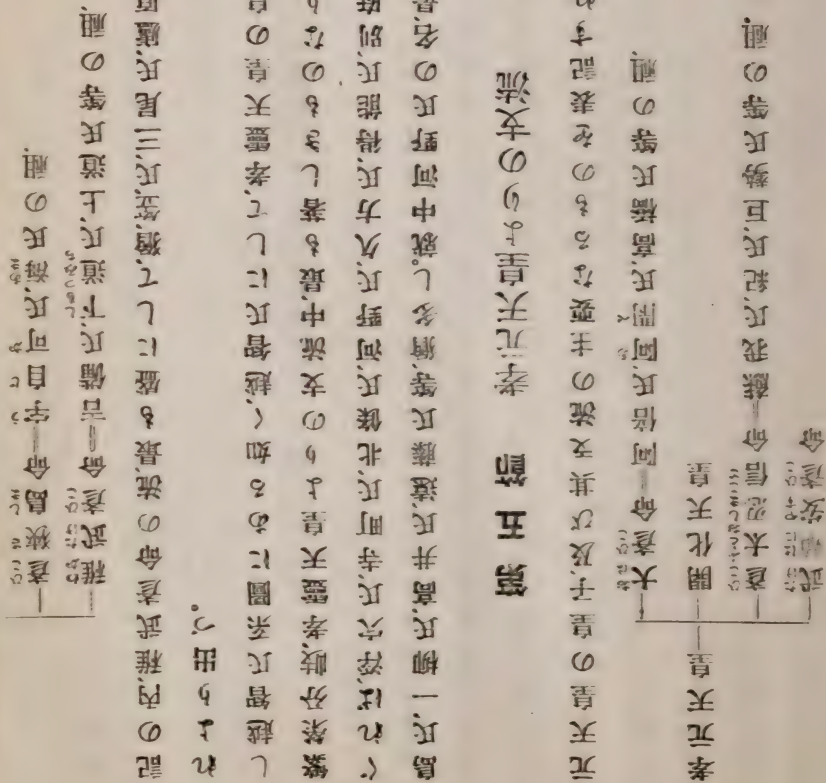
上記の外、天足彦國押人命よりの支流には、大春日氏、吉田氏、丈部氏、壹師氏、飯高氏、多紀氏多知氏、額田氏、山上氏、眞野氏、野中氏、大宅氏、都怒山氏、布留氏、久米氏、井出氏等、猶多くあり分岐頗る多し。

右の諸氏族中、分岐の最も大なるは、小野氏にして、武藏七黨の內なる、橫山黨、猪股黨は、これより出づ、橫山黨には、石川氏、平子氏、平山氏、海老名氏、田名氏、藍原氏、擇田氏、野邊氏、山崎氏、鳴瀨氏、小俣氏、大貫氏、古郡氏、小倉氏、菅生氏、糟屋氏等猶多くの氏族これに屬し、猪股黨には、男衾氏、友庄氏、橫瀨氏、木里氏、尾園氏、河勾氏、荏原氏、太田氏、人見氏、甘糟氏、藤田氏岡部氏、內島氏、蓮沼氏、飯塚氏、井沼氏等の氏族、これに屬す。

第四節　孝靈天皇よりの支流

孝靈天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

孝靈天皇─┬孝元天皇
　　　　　├日子刺肩別命＝高志利波氏の祖、
　　　　　└彦五十狹芹彦命＝葦北氏、國前氏の祖、

―彦狹島命―宇自可氏、海氏の祖、
―稚武彦命―吉備氏、下道氏、上道氏等の祖、

上記の内、稚武彦命の流、最も盛にして、猶、笠氏、三尾氏、廬原氏、賀陽氏、三野氏、苑氏等の氏族これより出づ。

若し越智氏系圖にある如く、越智氏にして、孝靈天皇の皇子、伊豫皇子の後なりせば、其流の繁榮分岐、孝靈天皇よりの支流中、最も著しきものなり。今越智氏より出でたる苗字をあぐれば、浮穴氏、寺町氏、北條氏、河野氏、久方氏、得能氏、別府氏、南氏、土居氏、平岡氏、稻葉氏、久留島氏、一柳氏、高井氏、遠藤氏等、猶多し。就中河野氏の名、最も著はる。

第五節　孝元天皇よりの支流

孝元天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

孝元天皇―
―大彦命―阿倍氏、阿閉氏、高橋氏等の祖、
―開化天皇
―彦太忍信命―蘇我氏、紀氏、巨勢氏等の祖。
―武埴安彦命

皇子大彦命、彦太忍信命の二流は、子孫の繁榮分岐共に多し、先づ大彦命の流をあぐれば上記三氏の外、布勢氏、宍人氏、竹田氏、那須氏、佐々貴山氏、名張氏、伊賀氏、他田氏、若櫻部氏、宇太氏、境部氏等、猶多くあり。

次に彦太忍信命の流は、我が國政治史上、最も重要の位置に立つものなり。今重要なる大氏の出自を表記すれば、次の如し。

彦太忍信命―屋主忍男武雄心命―武内宿禰
- 紀角宿禰＝紀氏の祖、
- 羽田八代宿禰＝波多氏の祖、
- 巨勢小柄宿禰＝巨勢氏の祖、
- 平群木菟宿禰＝平群氏の祖、
- 蘇我石川宿禰＝蘇我氏の祖、
- 葛城襲津彦＝葛城氏の祖、

次にこれ等の諸祖より分れ出でたる氏族には、猶角氏、坂本氏、大宅氏、林氏、道守氏、山口氏雀部氏、都保氏、馬工氏、石川氏、高向氏、櫻井氏、玉手氏、的氏、布師氏、生江氏等、頗る多し。

次に又これ等の諸氏族中、後世に繁榮せしものは、紀氏を以て最とす、今紀氏より分出し

たる苗字をあぐれば、芳香氏、池田氏、榎下氏、高幡氏、高井氏、陸田氏、安東氏、中村氏、伊坂氏、品川氏、春日部氏、潮田氏、堺氏、安万氏、安富氏、細見氏、浦上氏、堀田氏、菅谷氏、芳賀氏等多し。又別に石清水神主の一派あり、田中氏、竹氏、竹西氏、西竹氏、東竹氏等、猶多く分岐す。

第六節　開化天皇よりの支流

開化天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

開化天皇
- 彦湯産隅命＝忍海部氏の祖、
- 崇神天皇
- 彦坐王＝豊階氏、日下部氏、大私市氏等の祖、
- 建豊波豆羅和氣命＝道守氏、今木氏等の祖、

開化天皇の諸流中、其分派の多きは、彦坐王の流にして、上記の氏族の外、治田氏、三野國造稲葉國造、甲斐國造、但遅間國造、佐々氏、鴨氏、堅井氏、川俣氏、依羅氏等、猶多くの分岐あり。又右の諸氏族中、後世まで著はれ、分岐の多きは、日下部氏、大私市氏の後なりとす、今日下部氏より分岐せる苗字をあぐれば、千巻氏、礒部氏、小谷氏、立脇氏、山口氏、原氏、小笛氏、柏尾氏、糸井氏、横野氏、小泉氏、三方氏、日下氏、高田氏、小山氏、輕部氏、朝倉氏、山本氏、建屋氏、廣瀬氏

石和田氏、太田垣氏、稻津氏、土田氏、八木氏等、猶多し。

又大私市氏の後には、武藏七黨の一なる私市黨あり、成木氏、久下氏、市田氏、楊井氏、等多くの苗字分出し、其名高し。

第七節　崇神天皇よりの支流

崇神天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

崇神天皇
- 豐城入彥命（とよきいりひこ）　上毛野氏、下毛野氏、都氏等の祖、
- 垂仁天皇
- 大入杵命（おほいりき）＝能登氏、加宜國造等の祖、
- 八坂入彥命（やさかいりひこ）
- 倭彥命（やまとひこ）

上記の內、上毛野氏、下毛野氏等の流最も著はれ、子孫、上野、下野の地を始めとし、奧州にかけて大に蕃殖せり、猶上表に揭げざる豐城入彥命の流には、池田氏、住吉氏、池原氏、大網氏桑原氏、川合氏、垂水氏、商長氏、吉彌候部氏、輕部氏等多くの氏族分岐す。

第八節　垂仁天皇よりの支流

垂仁天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

垂仁天皇
- 譽津別命
- 五十瓊敷入彦命
- 景行天皇
- 大中津日子命＝山邊氏、稻木氏、飛鳥氏等の祖、
- 鐸石別命＝和氣氏、稻城壬生氏等の祖、
- 祖父別命＝小槻山氏、三川衣氏等の祖、
- 五十日足彦命＝春日山氏、春日部氏等の祖、
- 磐衝別命＝羽咋氏、三尾氏等の祖、

垂仁天皇の諸流中、最も著はれたるは和氣氏なり。奈良朝の頃に、和氣清麻呂あり、大に著はれ、平安朝の中頃以後、醫術を以て著はれ世々朝臣として典藥頭たり。

第九節　景行天皇よりの支流

景行天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

景行天皇
- 櫛角別王＝茨田下氏の祖、
- 大碓皇子＝守氏、大田氏、島田氏等の祖、
- 日本武尊＝犬上氏、建部氏、綾氏等の祖、
- 成務天皇
- 五百城入彦皇子＝御使氏、御立氏等の祖、
- 神櫛皇子＝讃岐氏、酒部氏等の祖、
- 五十狹城入彦皇子＝三河長谷部氏の祖、
- 稻背入彦皇子＝播磨氏、佐伯氏等の祖、
- 武國凝別皇子＝御村別氏、水間氏等の祖、
- 日向襲津彦皇子＝阿牟氏、奄智氏等の祖、
- 國乳別皇子＝水沼別、伊豫宇和別等の祖、
- 豐戶別皇子＝火國別、粟氏等の祖、
- 豐門入彦命＝大田別の祖、

景行天皇の皇子、八十子あり、日本武尊、稚足彥尊（成務天皇）、五百城入彦命の三王の外、七十七王は、皆悉く國々に別け賜ふ、因りて某國別といふ。以て其分布の大なるを知るべく

又其子孫の地方に蔓延したるを察するに、然れども後世大に著はれたるは少し。

第十節　應神天皇よりの支流

應神天皇の皇子、及び支流の主要なるものを表記すれば、左の如し

應神天皇
- 額田大中彦皇子　深川氏の祖、
- 大山守皇子　日置氏、榛原氏、土形氏等の祖、
- 仁德天皇
- 根取皇子　大田氏の祖、
- 菟道稚郎子
- 稚渟毛二派皇子　息長氏、山道氏、八多氏等の祖、
- 隼總別皇子

應神天皇の支流には、後世大に著はれたるもの少し。

第十一節　宣化天皇よりの支流

宣化天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、左の如し。

宣化天皇─┬─上殖葉皇子＝多治比氏の祖、
　　　　　└─火焔皇子＝爲名氏、川原氏、椎田氏等の祖、

上記の内、多治比氏の流最も著はる。後世武藏に家し、武蔵七黨の一なる丹黨の名を以て有名なり。丹黨に屬する苗字には中村氏、古郡氏、大河原氏、鹽屋氏、黑谷氏、岡田氏、坂田氏、瀧瀨氏、大窪氏、栗毛氏、横瀨氏、彌部氏、薄氏、織原氏、勅使河原氏、堀口氏、南荒居氏、青木氏、新里氏安保氏、長濱氏、加治氏、榛原氏、小島氏等、猶多くあり。

第十二節　敏達天皇よりの支流

敏達天皇の皇子、及び其支流の主要なるものをあぐれば、左の如し。

敏達天皇─┬─忍坂彥人大兄皇子─舒明天皇
　　　　　├─難波皇子＝橘氏、守山氏、大宅氏等の祖、
　　　　　├─春日皇子＝香山氏、春日氏、高額氏等の祖、
　　　　　└─○───百濟王＝大原氏、島根氏、吉野氏等の祖、

上記の内、難波皇子の後、橘氏の流最も著はる。

難波皇子─栗隈王─美努王─┬葛城王橘姓を賜はり橘諸兄といふ)
　　　　　　　　　　　　　└佐爲王(橘姓を賜はる)

橘諸兄の後、平安朝の始め頃には、一族顯達せしもの多かりしが、藤原氏の大に勢を張りし頃より、朝臣として仕へし事は依然たりしも、其勢衰へ、顯達せしもの無かりき。又橘氏より出でたる氏族中、最も著はれたるは楠木氏、和田氏等なり。楠氏の歴史につきては、世人の記憶最も强固なるものなり。然れども正成以前の系圖に至りては、諸說紛々一定せず。

第十二節　天智天皇よりの支流

天智天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば左の如し。

天智天皇─┬元明天皇
　　　　　├持統天皇
　　　　　├弘文天皇─┬葛野王＝淡海氏の祖、
　　　　　│　　　　　└與多王＝大友氏の祖、
　　　　　├施基皇子─光仁天皇
　　　　　└川島皇子＝淡海氏、春原氏の祖、

天智天皇の流には、後世著はれたるもの少し、春原氏より出でたる苗字には、小野氏、小栗栖氏、栗栖野氏等あり。

第十四節　天武天皇よりの支流

天武天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば左の如し。

天武天皇
- 草壁皇子
- 大津皇子　粟津王　公連豐原氏の祖、
- 長親王―栗栖王
  - 智努王（文屋淨三といふ）＝文屋氏の祖、
- 舍人親王―淳仁天皇
  - 御原王―和氣王＝岡氏の祖、
    - 細川王＝岡氏の祖、
    - 小倉王―淸原夏野＝淸原氏の祖、
  - 貞代王＝淸原氏の祖、
- 新田部親王＝氷上氏、三原氏の祖、

高市皇子―長屋王―┬―桑田王＝高階氏の祖、
　　　　　　　　└―安宿王＝高階氏の祖、
―穗積親王
―忍壁親王＝清瀧氏、御高氏の祖、
―磯城皇子＝三園氏、笠原氏の祖、

上記の如く、天武天皇の流は頗る多く、又後世まで繁榮せしものも少からず。就中、豐原氏清原氏、高階氏の流最も著はる。

豐原氏は、始め甚だ著はれざりしが、平安朝の中葉以後、豐原時光、其子時秋の出でし頃より著名となり世々朝廷に仕へ、伶官を以て名ありき。

清原氏は、天武天皇の諸流中、最も繁榮を極めしものなり、本流は世々朝臣として著はれ平安朝の中葉以後は、明經道の家として、世々明經博士に任ぜられたり。今清原姓より出でたる家號出自の有樣を示せば左の如し。

清原夏野……………秀賢(船橋家)―┬―秀相
　　　　　　　　　　　　　　　　└―賢忠(伏原家)―○―┬―宣通
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　└―忠量(澤家)

又清原氏の支流として、多くの苗字あり、即ち、山田氏長野氏、飯田氏、恵良氏、野上氏、古後氏平井氏、生葉氏、竹野氏、日出氏、大隈氏、帆足氏、清田氏、平田氏、矢部氏、石島氏等、猶多し。又奥州清原氏の一流あり。これ清原武則、武貞等の族にして、これより出でたる苗字には荒河、海道、岩城、岩崎等のものあり。

高階氏の流は朝臣としてよりも、武家として著はれしものあり。高師直等の家の如き、これなり。今高階氏より出でたる苗字を列記すれば、大高氏、泉氏、大平氏、高氏、窪田氏、瀧口氏彦部氏、芦屋氏、田中氏、岡松氏、小高氏、南氏、大多和氏等なり。但し玆に一言注意すべきことあり。高階氏は前述の如く、天武の流なりしも、茂範の時に至り、在原業平の子、師尚を以て子と爲せしにより、其血統は平城天皇の流に移るに至れり。故に以上の苗字は、皆業平の系を引けるものなり。然れども、本書には、上述の如く、これを本源の出自たる天武の流にかけ、其旨を附記することとせり。

第十五節　桓武天皇よりの支流

【第一項】總觀　桓武天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを總括し表記すること左の如し。

桓武天皇
- 平城天皇
- 嵯峨天皇
- 淳和天皇
- 伊豫親王
- 葛原親王―平高棟＝平氏の祖、
  - 高見王 平高望＝平氏の祖、
- 賀陽親王＝平氏の祖、
- 萬多親王＝平氏の祖、
- 明日香親王＝久賀氏の祖、
- 仲野親王＝平氏の祖、
- 長岡岡成＝長岡氏の祖、
- 良峯安世＝良峯氏の祖、

上表示すが如く、桓武平氏にも諸流あるを知るべし、就中著はれたるは、葛原親王の皇子高見王の裔にして、次は、同じく平高棟の後なり。

又桓武の流には、平氏以外、久賀氏、長岡氏、良峯氏等の流あり。良峯氏最も著はる。今良峯氏

より出でたる苗字をあぐれば、前口氏、長鹽氏、和田氏、成海氏、前部氏、榎社氏、林氏、池上氏、羽黒氏、岩部氏、箱羽氏、前野氏等の諸氏あり。

（附記）平氏には、桓武平氏の外、仁明平氏、文德平氏、光孝平氏の數流あれども、大に著はれたるものなし。

【第二項】平氏平高棟の流　葛原親王の子、高棟王、淳和天皇の天長二年、姓を平氏と賜はり子孫世々朝臣たり。後世西洞院家を以て聞ゆ。今家號出自の有樣を表記すれば、左の如し

平高棟……行時（西洞院家）……時庸（平松家）……行豊（石井家）
　　　　　　　　　　　　　　　忠康（長谷家）
　　　　　　　　　　　　　　　時貞（交野家）

【第三項】平氏平高望の子國香の流　高見王の子、高望王、宇多天皇の寛平元年、姓を平氏と賜はり、子孫世々武臣を以て著はる。今其主要なる氏族を表記し、以て其出自源流の大畧を示さん。

平國香―貞盛―維衡……清盛―重盛―維盛＝小松氏、色川氏等の祖、

維將＝北條氏の祖

資盛

繁盛―維茂　城氏の祖、(仁科氏、奥山氏、加治氏等これに出づ)

維幹―大掾氏の祖(下妻氏、東條氏、眞壁氏、豊田氏、小栗氏、行方氏、鹿島氏等これに出づ)

盛國＝關氏、龜山氏、神戸氏、峯氏、長崎氏等の祖、

親眞＝津田氏、織田氏等の祖、

次に北條氏よりの分派につき、大略を表記する事、次の如し。

平維將―維時(北條)―直方―維方
　　　　　　　　　　　　時家

時政―義時―泰時―時氏―時頼

朝時＝名越氏の祖、

重時―赤橋氏の祖、

政村＝常磐氏の祖、

實泰―實時＝金澤氏の祖、

時治＝阿曾氏の祖、

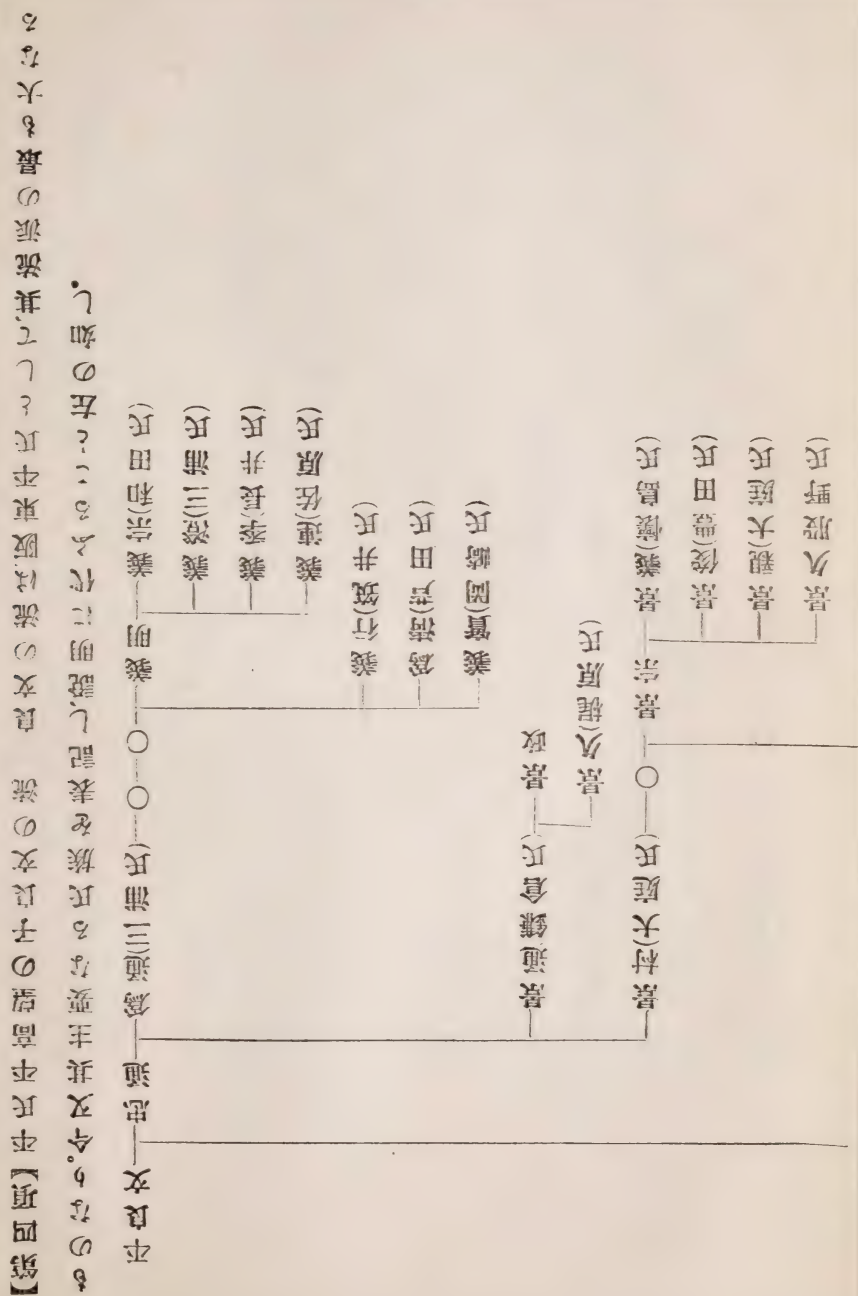
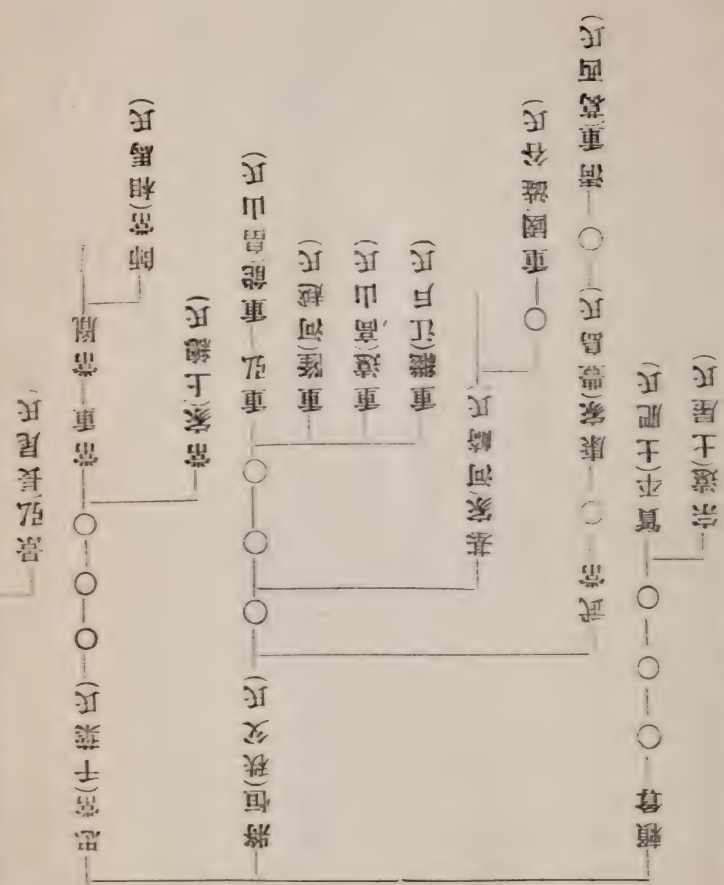
時房＝大佛氏の祖、

【第四項】平氏平高望の子良文の流　良文の流は、阪東平氏として、其流派の最も大なるものなり。今又其主要なる氏族を表記し、説明に代ふること左の如し。

平良文―忠通―為通（三浦氏）―○―○―義明
- 義明―義宗（和田氏）
- 義明―義澄（三浦氏）
- 義明―義季（長井氏）
- 義明―義連（佐原氏）

○―義行（筑井氏）
○―為清（芦田氏）
○―義實（岡崎氏）

忠通―景通（鎌倉氏）
- 景通―景政
- 景通―景久（梶原氏）

忠通―景村（大庭氏）―○―景宗
- 景宗―景義（懐島氏）
- 景宗―景俊（豊田氏）
- 景宗―景親（大庭氏）
- 景宗―景久（股野氏）

上記の諸氏は、良文流中最も著名なるものを擧げたるなり。猶是等の諸氏より分岐したる支族、頗る多し。殊に三浦氏、千葉氏の流に於て、然りとなす。然れども煩を厭ひ總べてこ

れを畧せり。

又以上の外、良文流として有名なるは、武藏七黨の一なる野與黨、及び村山黨なり。共に忠賴の子胤宗より出づ。胤宗の孫に、基永、賴任の二人あり、基永野與氏を稱し、賴任村山氏を稱す。野與黨に屬するものには、多名氏、金平氏、鬼窪氏、萱間氏、道智氏、多賀谷氏、大藏氏、西脇氏、白岡氏、澁江氏、利生氏、高柳氏、箕勾氏、柏崎氏、須久毛氏、八條氏、金重氏、野崎氏等の分岐あり。又村山黨には大井氏、宮寺氏、金子氏、山口氏、荒波田氏、須黑氏、横山氏、廣屋氏、久米氏、仙波氏等の分岐あり。

第十六節　嵯峨源氏

嵯峨天皇皇子皇女を有すること、極めて多く、皇胤紹運錄擧ぐる所に從へば、總べて五十人を數ふ。天皇其府庫を空費せんことを恐れ、弘仁五年、其一部の皇子に親王の號を授くるを停め、直に源朝臣の姓を賜ふ。其後多くの皇子に對し、此例を襲ぎ、源姓を賜はりき。今嵯峨天皇の皇子及び主要なる支流を表記すれば、左の如し。

嵯峨天皇─┬─仁明天皇
　　　　　└─秀良親王

┬業良親王
├基良親王
├忠良親王
├源信
├源弘
├源常
├源寛
├源明
├源定
├源融─昇─仕─宛(箕田氏)─綱(渡邊氏)─久(松浦氏)
├源勤
└源繼等

嵯峨源氏、其源流多しと雖も、後世まで著はれたるは、源融の流のみなり。融の玄孫、綱、渡邊氏を稱へ名あり。綱の子、久、松浦氏を稱へ、其裔九州に著はる。其他渡邊氏の支流には、中屋氏、白井氏、曾根崎氏、赤田氏等あり。又松浦氏の庶流として御厨屋氏、瀧口氏、峯氏、田平氏、佐

志氏、原氏、神田氏、波多氏、志佐氏、大河野氏、有田氏、鷹島氏、鮎河氏、佐世保氏等の苗字あり。

第十七節　文德源氏

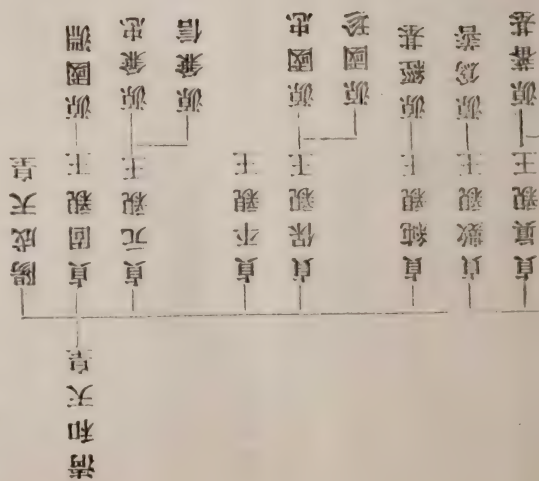
文德源氏を述ぶるに當つて、先づ天皇の皇子の主要なるものを表記すること、左の如し

文德天皇
- 惟高親王
- 惟條親王
- 惟彥親王(子孫に平氏あり)
- 淸和天皇
- 源能有
- 源時有
- 源本有
- 源定有
- 源載有等

天皇の皇子にして、上記の外、源姓を賜はりしもの源行有、源富有等あれども、後世著はれたるもの少し。但し上記の內にていへば、比較的、源能有の流著はる。能有の流には、坂戶氏

松尾氏、鳥羽氏、福田氏等の氏族あり。

第十八節　清和源氏

【第一項】總觀　清和源氏を述ぶるに當つて、天皇の皇子の主要なるものを表記すること左の如し。

清和天皇
- 陽成天皇
- 貞固親王—源國淵
- 貞元親王—源兼忠
  - 源兼信
- 貞平親王
- 貞保親王—源國忠
  - 源國珍
- 貞純親王—源經基
- 貞數親王—源爲善
- 貞眞親王—源蕃基

源蕃固

　源長淵
　源長鑒等

上表記する所によりて、淸和源氏にも、諸流あるを知るべし。其内、著はれたるは、無論、源經基の流なり。經基は村上天皇の天德五年、姓を源氏と賜はり、後世其氏族の大なる諸多の源氏中、第一となす、而して其著名なるや、朝臣としてにあらずして、武家としてなるも、世人のよく知る所なり。以下項を分ち述ぶるに先だち、大綱を掲ぐること、次の如し。

源經基―滿仲
- 賴光（賴光の流）
- 賴親（賴親の流）
- 賴信―賴義
  - 義家
    - 義親―爲義（爲義の流）
    - 義國
      - 義重（義重の流）
      - 義康（義康の流）
  - 義綱
  - 義光（義光の流）
  - 賴淸
  - 賴淸の流
  - 賴季（賴季の流）
- 滿政（滿政の流）
- 滿季（滿季の流）
- 滿快（滿快の流）

上表何の流と書したるは、特に項を分ちて說明したるものなり。又その何の流といふは一般に襲用する所なれども、唯爲義の流とはあまり言はず、然れども本書には便宜上爲

義の子孫を一括して、かく命名することとせり。

【第二項】滿政の流　滿政の流は、美濃、尾張、三河の邊に、大に蕃殖す。今其主要なるものを表記すれば、左の如し。

滿政─┬忠重─定宗─重宗─┬重實(八島氏)
　　　│　　　　　　　　　├重長(木田氏)
　　　│　　　　　　　　　└重時(小島氏)
　　　└忠隆─齊頼─┬惟家(善積氏)
　　　　　　　　　　└隆祐

上記の內、八島氏の流、最も廣く、山田氏、浦野氏、河邊氏、原氏、泉氏、葦敷氏、生津氏、小河氏、彥坂氏、高田氏、鏡氏等猶多くの分派あり。又善積氏の流には、辻、岡、雨谷、辻、豊田等の氏族分れ、隆祐の後にも、富塚、與利井、周波部、澤股等の氏族、出でたり。

【第三項】滿季の流　滿季の流は、近江、越前の邊に蕃殖す。今其主要なるものを表記すれば、左の如し。

滿季　致公─┬定遠─重綱(岸本氏)─┬景綱(平井氏)
　　　　　　│　　　　　　　　　　└實賢(山田氏)
　　　　　　└景實(小椋氏)

―景遠（小椋氏）
　　　　　┬孝綱（小椋氏）
　　　　　└範廣（御園氏）

上記の內、實賢、範廣、景遠等の流、比較的多くの苗字の分派あり。

【第四項】滿快の流　滿快の流は、信濃國に發達す。今其主要なるものを表記すれば、左の如し。

滿快─滿國─○─○┬爲衡（中津氏）
　　　　　　　　├爲扶（伊那氏）＝林氏、泉氏、室賀氏等の祖、
　　　　　　　　├爲邦（村上氏）＝二柳氏、夏目氏等の祖、
　　　　　　　　├爲實（依田氏）─手塚氏、諏訪氏等の祖、
　　　　　　　　├爲基（片切氏）＝岩間氏、飯島氏等の祖、
　　　　　　　　└爲氏（堤氏）＝駒澤氏等の祖、
　　　├行賴＝東氏、西氏等の祖、
　　　└賴季＝土水氏、大屋氏、猪本氏等の祖、

上記の內爲扶の流、分岐最も多く、諏訪部氏、三刀屋氏、芳美氏、瀨橋氏、埴田氏、手塚氏、松本氏洗波氏、飯田氏、小田氏、佐那田氏、飯間氏等あり。其他の分岐につきては、猶あれども一々述

べす。

【第五項】賴光の流　賴光は滿政の長子にして、源氏の正嫡たるもの、然れども源氏の本流は、弟賴信の家に移れり。賴光の流、攝津多田に居るものは攝津源氏の名を以て著はれ美濃に居るものは美濃源氏の名を以て著はる。今其主要なるものを表記すれば、次の如し。

賴光─賴國─┬賴資（溝杭氏）
　　　　　　├賴實（井上氏）
　　　　　　├賴綱（多田氏）─┬明國＝野瀨氏、倉垣氏等の祖、
　　　　　　│　　　　　　　　├仲政（馬場氏）─賴政＝分派多し
　　　　　　│　　　　　　　　└國直（山縣氏）＝分派多し
　　　　　　├國房、美濃源氏祖）─光國─光信（土岐氏）＝分派多し
　　　　　　└師光＝福島氏の祖

以上其大綱なり、就中土岐氏の流、最も廣し。故に今土岐氏につき、其主要なるものの出自を掲ぐべし。

光信─○─光衡─┬光行─┬國衡（猿子氏）
　　　　　　　　│　　　└光俊（饗場氏）

- 光時(淺野氏)
- 光定
  - 國時(隱岐氏)
  - 定親(蜂屋氏)
  - 頼貞
    - 頼直(福光氏)
    - 周崔墨股氏
    - 頼清
      - 頼雄(揖斐氏)
      - 頼忠(池田氏)
    - 頼基—頼重(明智氏)
  - 頼重(船木氏)

【第六項】頼親の流　頼親大和守として、大和に居りしより、此流を大和源氏と稱す。頼親の子に、頼房、頼遠、頼基等あり。頼房の後、分岐最も多く、竹田氏、岑田氏、宇野氏、豊島氏、廣瀬氏入野屋氏、土方氏、大森氏、辛川氏、大野氏、朝日氏、岩井氏、楊梅氏、大田氏等の諸族これに出づ。次は頼遠の流にして、石川氏、成田氏、大寺氏、小高氏、坂地氏、河尻氏、矢澤氏等の諸族、これに出づ。又頼基の流よりは、二河、麻生等の族分岐せり。

【第七項】賴清の流　賴清の曾孫、爲國始めて村上氏を稱し、其流信濃國附近に蔓延す。今其流より分岐したる苗字をあぐれば、古池氏、吉田氏、上野氏、西川氏、大藤氏、安藤氏、吾妻氏飯田氏、下條氏、上條氏、屋代氏、平地氏、寄合氏、入山氏、島本氏、出浦氏、山田氏、平屋氏、今里氏、小野澤氏、栗田氏、小野氏、岡田氏、近江氏、千田氏等あり。

【第八項】賴季の流　賴季信濃に居り、井上氏を稱し、子孫其地方に蕃殖す。即ち、時田氏、窪氏、桑洞氏、矢井氏、小坂氏、佐久氏、閑山氏、安木田氏、葦田氏、高梨氏、芳美氏、須田氏等は、皆この井上氏より分岐したる氏族なり。

【第九項】義光流　義光の流は、淸和源氏中、其分岐の大なる點に於て、極めて有名なる氏族なり。其流の大なるものには、佐竹氏、武田氏、小笠原氏、平賀氏等あり。其分流常陸甲斐信濃邊を始とし、諸國に蔓延せり。今其主要なる分岐を表記すること、次の如し。

義光─義業─┬昌義(佐竹氏)─隆義─秀義
　　　　　　└義定(山本氏)─義經─┬義明(箕浦氏)
　　　　　　　　　　　　　　　　　├義兼(柏木氏)
　　　　　　　　　　　　　　　　　├義高(錦織氏)
　　　　　　　　　　　　　　　　　└義成(大島氏)

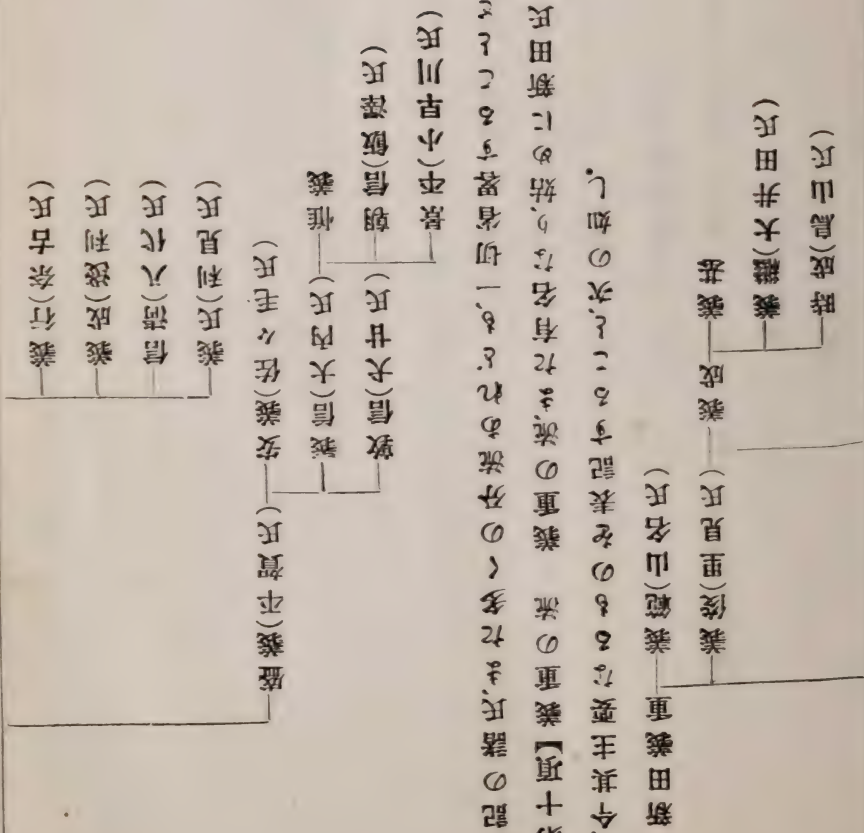
- 義淸(武田氏)
  - 淸光
    - 信義
      - 忠賴
        - 行忠(廿利氏)
      - 兼信(板垣氏)
      - 信光
        - 信政
        - 信長(一條氏)
        - 信隆(岩崎氏)
    - 光長(逸見氏)
    - 遠光(加賀美氏)
      - 光朝(秋山氏)
      - 長淸(小笠原氏)
      - 光行(南部氏)
    - 義定(安田氏)
    - 淸隆(安井氏)
    - 長義(田井氏)
    - 嚴尊(曾禰氏)
- 義春(早水氏)
- 宣義(眞島氏)

義行（奈古氏）
義成（淺利氏）
信淸（八代氏）
義氏（利見氏）

盛義（平賀氏）―安義（佐々毛氏）
　義信（大內氏）―惟義
　　朝信（飯澤氏）
　　景平（小早川氏）
　敦信（犬甘氏）

上記の諸氏、また多くの分流あれども、一切省畧することとせり。

【第十項】義重の流　義重の流、また有名なり、始めに新田氏著はれ、後に德川氏大に盛なり、今其主要なるものを表記すること、次の如し。

新田義重―義範（山名氏）
　義俊（里見氏）―義成
　　義基
　　義繼（大井田氏）
　　時成（鳥山氏）

―義清(田中氏)
―義兼―義房―政義―政氏―基氏―朝氏―義貞
　　　　　　　　―家氏(大舘氏)―義助(脇屋氏)
　　　　　　　　―家貞(堀口氏)―貞政(一井氏)
―義季(德川氏)―頼氏(世良田氏)
―經義(額戸氏)

【第十一項】義康の流　義康の流、足利氏を以て、天下に鳴る。其支族細川氏、斯波氏、畠山氏等また大に名あり、今其主要なるものを表記すれば、左の如し。

足利義康―義清―義實―實國(仁木氏)
　　　　　　　　　　―義季(細川氏)
　　　　―義兼―義純(畠山)―泰國
　　　　　　　　　　　　　―時朝(田中氏)
　　　　　　　　　　　　　―時兼(岩松氏)
　　　　　　　―義氏―長氏―滿氏(吉良氏)
　　　　　　　　　　　　　―國氏(今川氏)

義胤（桃井氏）
泰氏——家氏（斯波氏）——義利（石橋氏）
義顯（澁川氏）——宗家
賴氏——家時——貞氏——尊氏
直義
賴茂（石塔氏）
公深（一色氏）
義辨（上野氏）
賢寶（小股氏）
基氏（加古氏）

猶仁木氏、斯波氏、今川氏、を始め其他の諸氏より出でたる苗字、多けれども總べて省畧せり。

【第十二項】爲義の流　爲義の流は、これ清和源氏の正嫡たるものなり。然れども、賴朝の子、賴家實朝に至り滅びたるは、人のよく知る所なり、今其支流の主要なるものを表記すること左の如し。

爲義——義朝——賴朝
範賴——吉見氏の祖、

―全成＝阿野氏の祖、
―圓成＝愛智氏の祖、
―義經
―義賢―義仲＝木曾氏の祖、
―義廣＝志田氏の祖、
―爲宗＝丹波氏の祖、
―爲成＝八幡氏の祖、
―爲朝―舜天王＝琉球國王尙氏の祖、
―行家＝新宮氏の祖、
―爲家＝垣京氏の祖、

第十九節 宇多源氏

【第一項】總觀　宇多源氏は、淸和源氏につぎ、有名なる大族なり。今宇多天皇の皇子、及び其流の大異を表記すること、次の如し。

―醍醐天皇

- 宇多天皇
  - 齊中親王
  - 齊世親王
    - 源英明
    - 源庶明
  - 敦慶親王
    - 源後古
    - 源方古
  - 雅明親王
  - 敦固親王
    - 源宗室
    - 源宗成
  - 敦實親王
    - 源雅信
    - 源重信
    - 源寛信

上記の内、敦實親王の子、源雅信の流、最も著はる、其流公家を以て名あるもあり、又武家を以て著はれしもあり、次にこれを示さん。

【第二項】公家　宇多源氏より出でたる公家には、綾小路家、庭田家、五辻家、大原家、慈光寺家あり。今其出自の有様を表記すること左の如し。

源雅信─時仲……有資─經資(庭田家)
　　　　　　　　　├信有(綾小路家)─榮顯(大原家)
　　├扶義(佐々木氏の祖)
　　└時方(五辻家)……仲貞……仲清(慈光寺家)

【第三項】武家佐々木氏の流　佐々木氏は、源雅信の子、扶義の後なり、扶義五世の孫に、秀義あり、秀義の流極めて廣く、一々擧ぐるに堪へず、今其主要なるものを、表記すれば左の如し。

佐々木秀義─定綱─廣綱─惟綱(万木氏)
　　　　　　　　　　└爲綱(葛岡氏)
　　　　　├定重─尙綱(鏡氏)
　　　　　├定高(澤田氏)
　　　　　└信綱─重綱(大原氏)
　　　　　　　　├高綱(高島氏)
　　　　　　　　├泰綱(六角氏)
　　　　　　　　└氏信(京極氏)

廣定（馬淵氏）
時綱（佐保氏）
行綱（伊佐氏）
賴定（山中氏）

經高（蒜間氏）
盛綱（加地氏）
高綱（野木氏）
義清（出雲氏）
嚴秀（吉田氏）

第二十節　醍醐源氏

醍醐天皇の皇子、及び其支流の主要なるものを表記すれば、次の如し。

醍醐天皇
- 克明親王
  - 源博雅
  - 源正雅
- 保明親王

―代明親王―源重光―長經
　　　　　├源保光
　　　　　└源延光
―重明親王―源邦正
―有明親王―源忠清
　　　　　└源守淸―高雅
―朱雀天皇
―行明親王―源重熙
　章明親王―源尊光
　　　　　└源近光
―村上天皇
―盛明親王―源則忠―兼長―淸長
　　　　　└源致忠
―兼明親王―源伊渉
　　　　　└源伊行

源高明―忠賢―守隆
　　　└俊賢―隆國

以上記するが如く、醍醐源氏にも、源流種々あるを知るべし、此等の内比較的著はれたるは、盛明親王の流及び源高明の流なり。而して此源氏は始めは、朝臣として續きしも、後世には著はれたるものなし。

第二十一節　村上源氏

【第一項】總觀　村上源氏につき、述ぶるに當り、先づ村上天皇の皇子及び其支流の主要なるものを表記すれば左の如し。

村上天皇┬冷泉天皇
　　　　├致平親王┬源成信
　　　　│　　　　└源致信
　　　　└爲平親王┬源憲定
　　　　　　　　　├源頼定
　　　　　　　　　└源顯定

圓融天皇
├具平親王─源師房
│　　　├俊房
│　　　└顯房─雅實（久我家）

上記の内最も著はれたるは、具平親王の子、源師房の流なり。後世公家及び武家として、其名著はる。此源氏は、宇多源氏と共に清和源氏に繼ぎ、最も有名なるものなり。

【第二項】公家　村上源氏中、公家として有名なりしは、師房の子、顯房の流なり。顯房の子雅實家號を久我と號す。今久我家より出でたる家號の主要なるものを擧ぐれば。堀川、六條、久世、東久世、梅溪、岩倉、千種、植松、土御門、中院、愛宕、北畠、冷泉、大河内等の、諸家なり、今これ等家號出自の有樣を大畧表記すれば、次の如し。

雅實（久我家）─雅定─雅通─通親
├通具（堀川家）
└通光（久我家）
　├通忠
　│├通有（六條家）
　│├通式（久世家）
　│└季通（溪梅家）
　└○
　　├具起（岩倉家）
　　└有能（千種家）─有雅

定通(土御門家)
通廉(東久世)
雅永(植松家)
通方(中院家)
顯方
通福(愛宕家)
雅家(北畠家)
持房(冷泉家)
顯雅(大河内家)

なり。

【第三項】武家　村上源氏にして武家として著はれしは赤松氏、名和氏、及び北畠氏の流なり。

赤松氏は、源顯房の玄孫、師季より出で、播磨國に著はる。支流頗る多し、即ち別所氏、三枝氏、宇野氏、得平氏、佐用氏、豊島氏、中島氏、淡河氏、大村氏、明石氏、江見川原氏、柏原氏、櫛田氏、上月氏、間島氏、太田氏、氷田氏、福原氏、萩原氏、釜内氏、安室氏、加屋氏、神吉氏、廣瀬氏、永良氏、七條氏、上原氏等是れなり。

名和氏は、源顯房の子、雅兼の後なり。長年に至り、大に著はる、長田氏、鏡氏、大石氏、筑見氏、葦高氏、上神氏、犬井氏、加悦氏、布施氏、二谷氏、竹方氏等は皆其一族なり。

北畠氏は、もと公家なりしが、北畠顯能の裔伊勢に國司たるに及び、子孫武家として著はる。木造田丸、坂内、岩内等の諸氏これなり。

（附記）源氏には、上記の外、猶仁明源氏、陽成源氏、光孝源氏、冷泉源氏、華山源氏、三條源氏、後三條源氏、順德源氏、後嵯峨源氏、等多くの流派あれども、格別重要ならざるを以て、總べてこれを省畧せり。

第二章　神別諸氏

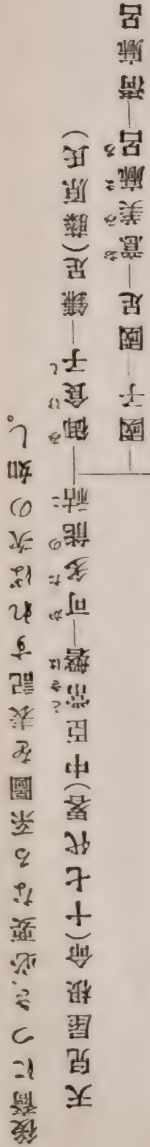
第一節　中臣氏

中臣氏は、津速魂命三世の孫、天兒屋根命より出でしことは、中編既にこれを述べたり。天兒屋根命は、天祖天照大神に仕へ、天磐戶の變には、祝詞を申し、大功を立て、又天孫降臨の時には、供奉輔弼の任に當れり。孫、天種子命に至り、神武天皇に仕へ、祭政を掌り、爾來子孫其職を世襲せり。

子孫、中臣氏を稱へし始は、仲哀紀に、中臣烏賊津連とある此人よりなるべし。此人は、姓氏錄に、中臣連、天兒屋根命十一世孫、雷大臣命之後也とある、雷大臣命と同一の人なり。今其

後裔につき、必要なる系圖を表記すれば次の如し。

天兒屋根命(十七代畧)中臣常磐(ときは)—可多能祜(かたのこ)—御食子(みけし)—鎌足(藤原氏)
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　├國子—國足—意美麻呂(おみまろ)—淸麻呂
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　└糖手子

天智の朝、中臣鎌足、藤原氏を賜はりし以來、暫くの間は、嫡庶に通じて中臣とも藤原とも云來れるを、文武の朝に至り、藤原氏は專ら鎌足の子、不比等をしてこれを承けしめ、意美麻呂の流、即ち主として神事に與れるものは、舊姓中臣に復せられたり。これより中臣氏藤原氏、相分れ別々に發達の道を取れり。稱德の朝に至り、中臣淸麿、大中臣氏の姓を賜はり、子孫世々これを稱せり。

次に中臣氏より出でたる、小氏頗る多きも、こは、中編によりて知るべく、又中臣氏より出でたる苗字には、和田氏、岸和田氏、七見氏、大田氏、山幡氏、內田氏、佐田氏、佐奈氏、須崎氏、小泉氏、櫻井氏、田邊氏、山村氏、麻田氏等、頗る多し。

(附)卜部氏、

卜部氏系圖によれば、卜部氏は、大中臣氏と同祖なり。今其源流を示すこと左の如し。

大中臣淸麻呂—諸魚—智治麻呂—平麻呂(卜部氏の祖)

―今麻呂（大中臣氏）

然れと共、平麻呂以前、既に卜部氏を稱ふるものあり、猶考ふべき餘地存す。後卜部氏は兼延に至り、一條天皇の時、吉田社の社務家となり兼延十三代の孫、兼熙、家を吉田と稱へ、世々神祇大副として、其名著はる。今卜部氏より出でたる諸家號を示せば次の如し。

卜部平麻呂……兼熙（吉田家）―兼治―兼英……

兼従（萩原家）―員従―兼澄……

従久（錦織家）……

又卜部兼延の孫、兼國の流、平野社の社務家となる、此流、家號を藤井と稱す。

第二節　齋部氏

齋部氏は、高皇産靈命の子、天太玉命より出づ、天太玉命は、中臣氏の祖なる天兒屋根命と共に、天祖天照大神及び天孫瓊々杵命に仕へ、神事を掌り。其孫天富命また天種子命と共に、祭政の職に當り、子孫其職を世々にせり。齋部氏始めは、忌部氏とかけり。其何人より稱へ始められたるかは不明なり。其齋部と改められしは、桓武天皇の朝にあらんか、日本逸

史に國史を引いて、延暦二十二年三月、右京の人正六位上、忌部宿禰濱成等忌部を改めて齋部となすとあり。此説可なるか如し。天富命以來、齋部氏大に著はれたるを聞かず、其勢微々たり。平城天皇の朝、齋部廣成、これを憤慨し、古語拾遺を上り、己れの氏族の位置を明かにせしも、其後遂に振はず終りぬ。

忌部の族の、多く蕃息せしは、阿波、及び安房、上總、下總邊の地なるべし。神武天皇の時、天富命をして、天日鷲命を率ゐ、阿波國に遣はし穀、麻の種を殖ゑしめ、更に阿波の忌部を率ゐ東國に往きて、穀、麻を播殖せしめたり。其時、好麻の生ひたる地を、總國といひ、穀の木の生ひたる地を結城といひ、阿波忌部の居る所を、安房といふ旨、古語拾遺に見えたり。其他、讃岐忌部、紀伊忌部等あり。

第三節　大伴氏

大伴氏は、高皇産靈命五世の孫、天押日命より出づ、天押日命は、天孫降臨の時、天津久米命と共に、弓矢を執りて護衛の任に當りし神なり。神武天皇東征の時、また天押日命三世の孫、道臣命、先驅し、中州全く平定し天皇即位の時には、大伴部を率ゐ、宮門を守り、爾後子孫世々軍事を以て朝廷に奉仕せり。今其系圖につき、主要なる部をあぐれば次の如し。

道臣命—味日命—稚日臣命—大日命—角日命—豊日命—大伴武日

—武以—室屋—談—金村—磐

　　　　　　　　　　　　—狹手彦

　　　　　　　　　　　　—阿被布古

次に金村の孫に、大伴咋あり、其父明かならず。

大伴咋—長德—御行

　　　　　—馬來田—安麻呂—旅人—家持

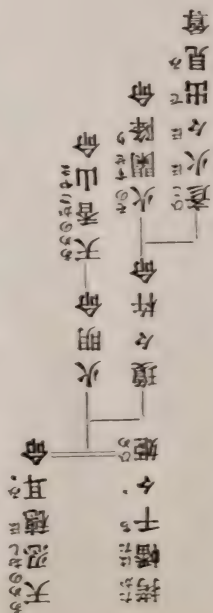
　　　　　—吹負　　　　　—道足

其後淳和天皇の時、大伴國道あり、姓を伴氏と改む、これ天皇の諱を避けたるなり。國道の子に、善男あり應天門を燒きしを以て著はる。其後大に著はれたるもの尠し。大伴氏より出でたる苗字には、榎本氏、幡豆氏、富田氏、設樂氏、八名氏、中條氏、富永氏、大原氏、中井氏、毛牧氏、高屋氏、平松氏、甲賀氏、佐久良氏等、猶多し、又大伴氏より分れたる小氏は、中編について見るべし。

第四節　物部氏

物部氏は、饒速日命より出づ、饒速日命は天神なり、神武天皇東征以前早く大和に降り、鳥見の地に居る。此命其出自明かならず、一說に從へば、此命を以て瓊々杵尊の皇兄となし火明神と同一神なりといふ。これ舊事記天孫本紀の說にして、天孫降臨以前天祖の命により、大和に降り、天香語山命、宇摩志麻治命等を生むとなす。其火明神と同一神といふは天照國照彥火明櫛玉饒速日命などと書けるにても知るべし。火明命は、普通は瓊々杵尊の皇子となせども、又舊事紀の說の如く皇兄となす說なきにあらず。日本紀天孫降臨の章一書の說に從へば、次の如き關係となる。

天忍穗耳命 ═ 拷幡千々姬
├ 火明命 ─ 天香山命
└ 瓊々杵命
  ├ 火闌降命
  └ 彥火々出見尊

此說は大體に於て、天孫本紀の說と一致するものなり、以上參考の爲掲ぐる事然り。神武東征の時に當り、饒速日命、衆を帥ゐて歸順し、其子可美眞手命また大動あり。天皇即位の時には、內物部を率ゐ、殿內に親衞す。爾來子孫世々軍事を以て朝に仕へ、大化以前に於ては、政治上有力なる一氏なり。今其主要なる系圖を、左に掲ぐ。

其物部氏を稱へし始は、垂仁の朝、大新河、十千根、共に姓を物部連と賜はりしに起る。伊莒弗、履中の朝大連となり、天上の大政に預り、守屋の時に及ぶ。守屋の滅後、物部氏の本宗、衰へたれども、其支族弓削氏、石上氏等、名あり。稱德天皇の朝の弓削道鏡は、皇胤ならんとの說もあれども、此流の人なるべし。石上氏には、光仁の朝、石上宅嗣等、著はる。

第五節　菅原氏

菅原氏は天穗日命十三世の孫、可美乾飯根命の子、野見宿禰より出づ。出雲氏、土師氏、秋篠

氏、大枝氏等と、其祖を同うす。天穗日命は、天照大神の御子にして、天忍穗耳命の弟なり。天孫降臨に先ち、出雲に使し、遂に其地に留まる。其裔野見宿禰に至り、垂仁の朝、土師臣を賜はり、土師氏を稱せしが、光仁の朝、古人等居住の地名により、菅原氏を賜はる。子孫世々文學の家として著はる。其系圖につき始めの方の主要なるものをあぐれば次の如し。

菅原古人—清公—是善—道眞—高規—雅規—資忠—孝標—定義—高綱
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　—在良
　　　　　　　　　　　　—淳茂—在躬

猶菅原氏より出でたる家號には、高辻、唐橋、五條、東坊城、淸岡、桑原等の諸家あり、今其出自の有樣を表記する時は、次の如し。

菅原定義—是綱(高辻家)—宣忠—長守—爲長—長成……
　　　　—高長(五條家)—長經—季長—爲視　爲綱—爲守—爲淸—
　　　　—爲賢—爲親　爲學—爲康　爲名　爲適—爲庸—
　　　　—爲致……
　　　　—長時(淸岡家)……
　　　　—長義(桑原家)—
　　　　—茂長(東坊城家)

┌在良(唐橋家)……

次に菅原氏より出でたる苗字には、前田氏、久松氏、美濃部氏、河原林氏、尾林氏、伊那氏、原田氏、等猶多くあり。

(附)出雲氏

菅原氏と同族、天穗日命の後なり、世々出雲に居り、出雲六社の神主たり、後村上天皇の時に至り、千家、北島の二家に分れ、以て今日に至る。

第六節　大江氏

大江氏は天穗日命十四世の孫、野見宿禰より出づ、菅原氏と同じく、始め土師氏を稱す。桓武天皇の延暦九年、外祖母、土師宿禰の姓を改めて、大枝朝臣となす。此時最近親のもの、大枝朝臣を賜はりしもの多し。後大枝音人に至り、貞觀中大枝を改めて、大江となす。この音人を以て、平城天皇の皇孫となす說につきては、中編大江氏の條下を見よ。次に音人以後大江氏の系圖につきて、主要なる部を左に揭ぐべし。

大江音人─千古─維時─重光─匡衡─擧周─成衡─匡房─維順─
┌維光─廣元─親廣

─┬時廣(長井氏)
　├宗元(那波氏)
　├季光(毛利氏)
　├忠成(海東氏)
　└重清(小谷氏)

猶支族として、親廣の流には、上田氏、小澤氏、古河氏、西目氏、柴橋氏、岩田氏、丸澤氏、荻袋氏、寒河江氏、高嶽氏、高屋氏、等の諸氏あり。以上の内、後には毛利氏の流、最も著はる。

第七節　賀茂氏

賀茂氏に二流あり、共に有名なり。一は、神皇産靈尊の流にして、一は、大國主命の流なり。前者は、神皇產靈尊の孫、鴨武津身命の後なり。鴨武津身命の一名また八咫烏といふ。神武天皇東征の時、先導を以て名あり。其苗裔、世々賀茂御祖社の禰宜として、名あり。後者は、大國主命の後、大田田根子より出づ。後裔、加茂保憲頃より、世々陰陽師として著はる。又文學を以て名あり。加茂氏にして、博士たりしもの或は天文博士あり、或は曆博士あり、或は漏刻博士あり、或は文章博士あり、以て其家學の風を知るべし。今其主要なる系

の一部をあぐれば、次の如し。

加茂忠行―保憲―光榮―守道―道平(以下加茂氏の本流として最著はる)
　　　　―保胤(姓を慶滋と改む)
　　　　―保章―爲政(姓を善滋と改む)

第八節 藤原氏

【第一項】總觀　神別諸氏中、藤原氏の流、最も著はる。天兒屋根命二十三世の孫、中臣鎌足天智の朝、藤原氏を賜はりしことは、中編に述べたり。藤原氏これを大別して四家となす今其畧系を示せば、次の如し。

藤原鎌足―不比等―武智麻呂(南家)―豐成
　　　　　　　　　　　　　　　　―仲麻呂
　　　　　　　　　　　　　　　　―乙麻呂
　　　　　　　　　　　　　　　　―巨勢麻呂
　　　　　　　―房前(北家)―眞楯
　　　　　　　　　　　　　―魚名

- 宇合（式家）
  - 廣嗣
  - 良繼
  - 百川
  - 藏下麻呂
- 麻呂（京家）

右の內、北家の流最も著はる。公家として有名なるものは、皆此流にあり。今公家中、主要なるものの出自を擧ぐること、左の如し。

- （北家）房前
  - 眞楯
    - 內麻呂
      - 眞夏（日野家）
      - 冬嗣
        - 長良（高倉家）
        - 良房─基經─忠平
          - 實賴（小野宮家）
          - 師輔
            - 伊尹（世尊寺家）
            - 兼通
            - 兼家
            - 公季（閑院家）
          - 師尹（小一條家）
        - 良門（勸修寺家）
  - 魚名（四條家）

```
道隆─┬─伊周
     └─隆家（水無瀬家）
道兼
道長─┬─頼通───師實─┬─師通─忠實─忠通（攝關家）
     │              ├─家忠（花山院家）
     │              ├─經實（大炊御門家）
     │              └─忠敎（難波家）
     ├─頼宗（中御門家）
     ├─敎通
     └─長家（御子左家）
```

又武家として、有名なるものには、南家武智麻呂の流、北家魚名の後利仁の流、同じく秀郷の流、及び冬嗣の流、忠平の流。道兼の流、伊周の流、隆家の流、長家の流等、著はる。

【第二項】攝關家　此家は、此名の示す如く、世々攝政關白たる家にして、藤原氏一族中、最も尊貴なるものなり。今其源流を示すこと、次の如し。

```
忠通─┬─基實（近衞家）─基通─家實─┬─兼經（近衞家）
     │                          └─兼平（鷹司家）
     └─兼實（九條家）─良經─道家─┬─敎實（九條家）
                                └─良實（二條家）
```

実経（一条家）

【第三項】閑院家　閑院家は、三條家、西園寺家、德大寺家の三流に分る。今此三家を始め、閑院家より派出したる諸家を示すこと、次の如し。

閑院公季―實成―公成―實季―公實

- 實行（三條家）
  - 公宣（姉小路家）
    - 實種（風早家）
  - 公氏（正親町三條家）
    - 實敎（花園家）
    - 公時（三條西家）
      - 公音（押小路家）
      - 公種（武者小路家）
        - 重季（高松家）
- 實國（滋野井家）
  - 公清（河鰭家）

公佐（阿野家）
勝忠（山本家）
通季（西園寺家）
季光（大宮家）
兼季（今出川家）
實俊（橋本家）
實淸（梅園家）
實有（淸水谷家）
實雄
公雄（小倉家）
公守（洞院家）
實明（正親町家）
季福（裏辻家）
實藤（四辻家）
公碩（西四辻家）
實能（德大寺家）

【第四項】花山院家　花山院家は、藤原師實の子、家忠より出づ、師實の後には、花山院家の外、大炊御門家、及び難波家あり、今併せて左に表記すべし。

家忠（花山院家）

師實―忠長―定逸(野宮家)……
　　―忠親(中山家)……爲親―○―定淳(今城家)……
　　―經實(大炊御門家)……經定(堀川家)……
　　―忠教(難波家)……雅經(飛鳥井家)

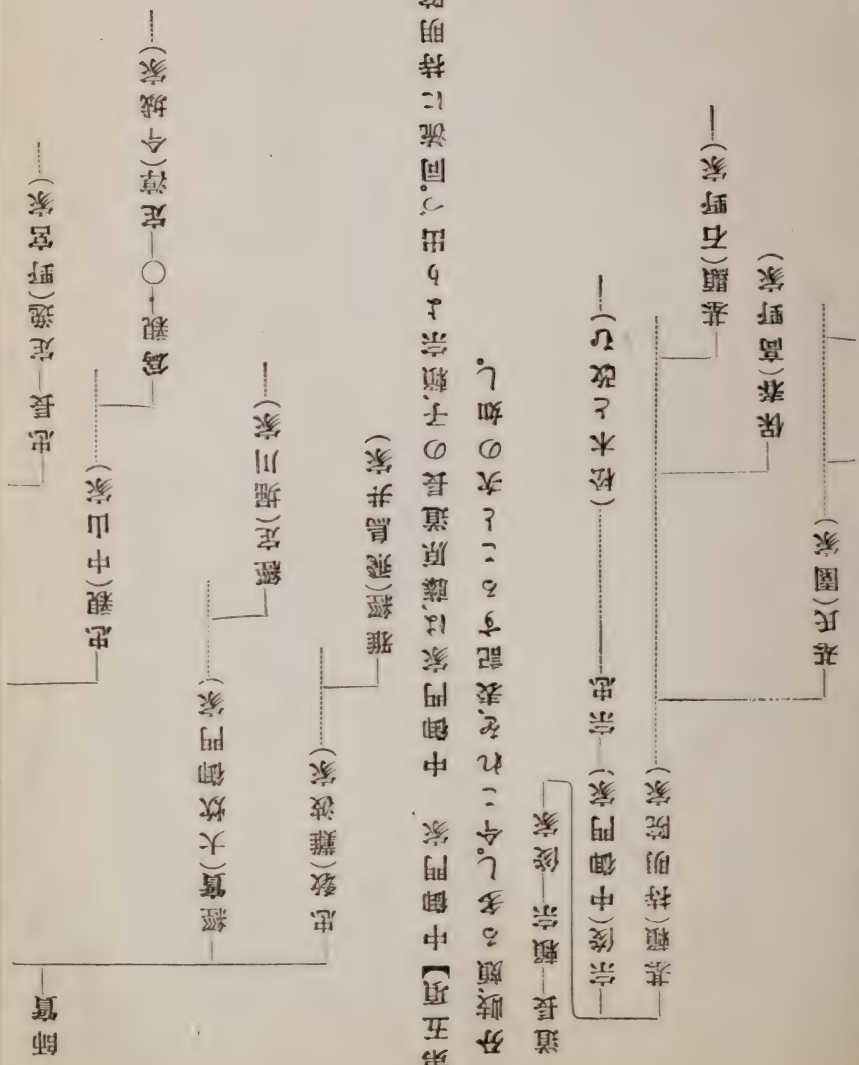
【第五項】中御門家　中御門家は、藤原道長の子、賴宗より出づ。同流に持明院家あり。家號の分岐頗る多し。今これを表記すること次の如し。

道長―賴宗―俊家―宗俊(中御門家)―宗忠……(松木と改む)……
　　　　　　　　―基賴(持明院家)……基氏(園家)……
　　　　　　　　　　　　　　　　……保春(高野家)
　　　　　　　　　　　　　　　　……基顯(石野家)……

基起（壬生）
師香（石山）
基維（六角）

基敎（東園家）

【第六項】御子左家　此家は、世々歌學家として、著はる。今其畧系を左に掲ぐ。

道長—長家—忠家—俊忠—俊成—定家—爲家—爲氏（二條家）
爲敎（京極家）
爲相（冷泉家）—爲之（上冷泉家）—爲賢（藤谷家）—相尙（入江家）
持爲（下冷泉家）

【第七項】日野家　此家は、內麻呂の子、眞夏より出づ。今、日野家より出でたる家號の、分岐狀態を示すこと、左の如し。

眞夏—日野資業—資長—兼光
—資實（日野家）

光顯（外山家）

有尙（豐岡家）

豐光（烏丸家）

資淸（裏松家）

資忠（勘解由小路家）

資明（柳原家）

誠光（三室戶家）

德光（北小路家）

賴資（廣橋家）

兼俊（竹屋家）

總盛（日野西家）

【第八項】勸修寺家　此家は、冬嗣の子、良門より出づ、今家號出自の有樣を示すこと、次の

良門―高藤―○―爲房……（勸修寺家・甘露寺家）

貞長—輝長（堤家）……

定房（吉田家）—資房（清閑寺家）……

共孝（池後家）……

定矩（梅小路家）……

經俊（勸修寺家）……

經尙（穗波家）……

宣豊（芝山後に今園家）……

俊實、坊城家）……

經繼（中御門家）……

宣持（岡崎家）

資通（万里小路家）……

顯隆（葉室家）……

【第九項】四條家　此家は、魚名の子、夫茂より出づ、今主要なる家號の出自を示すこと、次の如し

鷲取（武家利仁流）

魚名―夫茂―顯季（六條家）―長實（八條家）
　　　　　　　　　　　　└家保―家成
　　└藤成（武家秀郷流）
　　└隆季（四條家）……隆政（西大路家）……隆蔭（油小路家）……
　　　　　　　　　├隆親（四條家）……隆憲（櫛笥家）……隆英（八條家）
　　　　　　　　　└隆良（鷲尾家）……
　　└實教（山科家）……

【第十項】水無瀨家　此家は、道隆の子隆家より出づ、今家號出自の有樣を示すこと、次の如し。

道隆―隆家……信輔（坊門系）……
　　　　　└親信（水無瀨家）……具英（村尻家）……
　　　　　　　　　　　　　　└兼里（櫻井家）……

――隆脩（七條家）……
――兼仍（山井家）……

【第十一項】高倉家　此家は、冬嗣の長子、長良の後なり。家號出自の有様を示すこと、次の如し。（他流にも高倉家あり）

長良……永季（高倉家）……┬親具―康胤（堀川家）……
　　　　　　　　　　　　　　└信孝（樋口家）……

【第十二項】南家武智麻呂の流　南家の流、北家の盛に及ばずと雖も、亦頗る蕃息蔓延せり。就中、武智麻呂の子、乙麻呂の流、及び同じく巨勢麻呂の流、最も著はる。今此二流につき、主要なる氏族を次にあぐべし。

（乙麻呂の流）

乙麻呂……爲憲（工藤氏）―時理―┬時信―┬維清―船越氏、岡部氏等の祖、
　　　　　　　　　　　　　　　　　│　　　└維遠―二階堂氏の祖、
　　　　　　　　　　　　　　　　　└維景　維職―維次（狩野氏）―

――家次―祐次―祐經（工藤氏）

祐茂（宇佐美氏）
祐家―祐親（河津氏）―祐泰
祐清（伊東氏）
家光―家俊（林氏）
茂光（狩野氏）

（巨勢麻呂の流）

巨勢麻呂……實範―季兼―季範（熱田大宮司家）
季綱
友實―能兼―範季（高倉家）
實兼―通憲

上表の如く季範の系は、世々熱田大宮司家となり、有名なり。子族、野田、星野、千秋等、猶多くの分岐あり。又範季の後は、公家として家號を高倉と稱へ、其支流に櫻町家あり、又通憲は保元平治の亂に有名なる人物にして、大道寺氏は、其流なりといふ。

【第十三項】魚名の後、山蔭の流　魚名の流には、其子、鷲取、末茂、藤成等の流共に盛なり。末茂の流は、四條家の項に於て、既に前述せり。以下専ら武家としての諸氏を述ぶべし。鷲取の後、著はれたるは、山蔭の流、及び利仁の流なり。玆には主として、山蔭の流を見ん。

魚名─鷲取─藤綱─高房─時長─利仁（利仁流）
　　　　　　　　　└山蔭＝安達氏、伊達氏等の祖、
　　├末茂
　　└藤成

山蔭の流最も著はれたるは、上表の二氏なり、安達氏は、鎌倉時代に最も著はれ、伊達氏は、戰國時代後、殊に名あり。又安達氏の族には、大曾禰氏、關戸氏、大室氏等の支族あり。伊達氏にも多少の支族あれども、特にあぐべき程のものもなし。

【第十四項】魚名の後、利仁の流、　此流は山蔭の流よりも、分岐多く、齋藤氏、加藤氏、後藤氏等、著名の氏族あり。今其内主要なるものを表記すれば、次の如し。

利仁─叙用（齋藤氏）─吉信─忠頼─則高＝堀氏、大田氏、石浦氏等の祖、
　　　　　　　　　　　　　└吉宗─宗助─貞宗─貞光（林氏）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　└家國（富樫氏）
　　　　　　　　├重光＝加藤氏、遠山氏等の祖、
　　　　　　　　└伊傳─公則＝後藤氏、坂戸氏等の祖、
　　　　　　　　　　└爲延─爲輔（進藤氏）
　　　　　　　　　　　　└爲頼（匹田氏）

┗則光（吉原氏）

以上の內、林氏、後藤氏、匹田氏、吉原氏等の流、頗る廣く、林氏の後には、安田氏、山上氏、橫江氏、大桑氏、佐貫氏、石浦氏、豊田氏、藤井氏、倉光氏、板津氏等、猶多く、後藤氏の後には、西山氏、島田氏、吉田氏等、頗る多し。又匹田氏より出でたる苗字には、竹田氏、千田氏、熊坂氏、野本氏、大谷氏等、猶多くあり。次に吉原氏よりは、河合氏、長井氏、勢田氏、都筑氏、脇本氏、木田氏等、猶多くの苗字、分岐せり。

【第十五項】魚名の後、秀鄉の流　藤原氏より出でたる武家、尠からずと雖も、其流の盛なる、秀鄉の流を以て最とす。今これを、千晴の流、及び千常の流の二つに分つ。千晴千常までの系圖は、次の如し。

魚名━藤成━豊澤━村雄━秀鄉┳千晴
　　　　　　　　　　　　　┗千常

（千晴の流）今其主要なるものを示すこと、次の如し。

千晴……賴遠━經淸━淸衡━基衡━秀鄉━泰衡
　　　┗賴淸━○┳行俊（內藤氏）
　　　　　　　┗季俊┓

―○―俊賢（蒲生氏）

以上の內、秀衡、泰衡の流は、源平時代陸奥の藤原氏として、有名なるものなり。其支族、錦戶、泉、本吉、平泉、火爪等あり。又蒲生氏の流には、和田氏、井上氏、勢田氏、小谷氏、狗月氏、儀俄氏、佐治氏、青山氏、井野氏、岩室氏、必佐氏、猪野氏、室木氏等、多くの分岐あり。

（千常の流）千常の子族は、分流最も多し。今其大要を左に揭げん。

千常―文修―文行―公光―公清（佐藤氏）―助清（首藤氏）―親清―義通（山內氏）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　―通清―（鎌田氏）
　　　　　　　　　　　　　　　　　―公澄―○―知昌―○―知廣（尾藤氏）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　―基景（伊藤氏）
　　　　　　　　　　　―經範―○―○―遠義―義通（波多野氏）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　―秀高（河村氏）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　―實方（廣澤氏）
　　　　　　　　　　　―公季……光季（伊賀氏）
　　　　　　―修行（近藤氏）―○―○―景賴―能成―能直（大友氏）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　―重能（吉澤氏）

以上は、千常の流につき、大綱を擧げたるものなり。猶これ等の諸氏、例へば大友氏の如き、足利氏の如き、結城氏の如きを、始めとし、其他の諸氏より分岐したる苗字、多きも總べて缺畧せり。

【第十六項】冬嗣の流、　此流の中、公家としての勸修寺家、高倉家等につきては、前既に述

べたり。故に玆には、武家としての流派を見るべし。

冬嗣の長子に、長良あり。天慶の亂に有名なる純友は、この長良の裔なり。純友の後、九州にあり、有馬、大村二氏となる。然れども、此流は餘り門葉大なりといふを得ず。

次に冬嗣の第三子に、良方あり、この良方の裔には、糟屋氏、關本氏、四宮氏、大山氏、朝岡氏、新海氏、白根氏、伊木氏、城所氏、大竹氏、板戸氏、歡喜氏、乙石氏等、多くの苗字分岐せり。

又冬嗣の第六子に、良門あり。この流、勸修寺家として著はれし事は、既に知る所なり。この家より分岐したる武士には、上杉氏あり、足利時代に有力なる氏族として著はる。その山內、扇谷の二家に分れしことは、皆人のよく知る所なり。又良門の流に、井伊氏あり。是れより分岐したる苗字には、赤佐氏、貫名氏、石野氏、田中氏、井平氏、谷津氏、上野氏、石岡氏、田澤氏、岡氏、河井氏、中野氏等あり。

【第十七項】忠平の流　忠平の子に、實賴、師輔、師尹等あり。實賴の家を小野宮家と稱し、師尹の家を小一條家といふ。こゝに述ぶるは、この師尹の流なり。師尹の後に、實方中將あり其子、長快、熊野別當となり、世々其職を世襲す。この熊野別當家には、多くの分岐あり。即ち鶴原氏、長田氏、金剛寺氏、富田氏、山門氏、岩本氏、宇井氏、瀧本氏、平岡氏、岩野氏、宮崎氏、佐野氏、岩田氏、田野氏、宅間氏、千若氏、二河氏、比田町氏、片田氏、田邊氏、筒井氏、栫原氏、等是れなり。猶

實方中將の後に、姉小路家あり、飛彈國司家として著はる。

【第十八項】道兼の流　此流より出でたる武家は、宇都宮氏なり。道兼の子、兼隆、其子、兼房、其子、宗圓、宇都宮座主となり、氏孫宇都宮氏を稱す、今宇都宮氏より出でたる支流を、大畧左に示さん。

- 宗圓—宗綱—朝綱(宇都宮氏)—成綱
  - 頼綱
    - 泰綱
      - 景綱—貞綱—公綱
        - 泰宗(神生氏)
      - 経綱(武生氏)
    - 頼業
      - 泰親
      - 業義(松野氏)
      - 實業(竹林氏)
      - 秀業(大久保氏)
      - 頼基(上泉氏)
    - 時綱(舟生氏)
  - 朝業(鹽屋氏)
    - 親朝(大平氏)
    - 時朝(笠間氏)

知家（八田氏又小田氏）──知重……治久
- 有知（伊志良氏）
- 知基（茂木氏）
- 知尚（八田氏）
- 知氏（田中氏）
- 時家（高野氏）

【第十九項】伊周の流　武蔵七黨の一に兒玉黨あり。これ伊周の子、伊行の後なり。今兒玉黨に屬する苗字をあぐれば、吉島氏、山名氏、島名氏、宮田氏、竹澤氏、岩城氏、輿島氏、御宿氏、吉田氏、河合氏、多子氏、菅沼氏、小幡氏、神山氏、大淵氏、大森氏、倉賀野氏、葛山氏、後閑氏、葦澤氏、新屋氏、上野氏、大沼氏、片山氏、奥平氏、大河原氏、小河原氏、武者氏、稲島氏、狛島氏、白倉氏、木西氏大類氏、御名氏、大濱氏、眞下氏、鳥方氏、秩父氏、入西氏、高坂氏、若水氏、淺羽氏、小代氏、越生氏、藤内氏、鳴瀬氏、里岩氏、岡崎氏、吉田氏、小見野氏、粟生田氏、長岡氏、堀籠氏、鹽谷氏、富田氏、蛭河氏等、猶多し。

【第二十項】隆家の流　此流、公家として坊門家、水無瀬家等あることは前述せり。故にこゝには武家としての菊地氏の流を見んとす。菊池氏は隆家の後なり。隆家の孫、則隆、肥後

菊地郡に居り、これを氏とす。今菊池氏より出でたる苗字をあぐれば、西郷氏、小島氏、山鹿氏、高橋氏、兵藤氏、合志氏、殖氏、天草氏、藤田氏、長坂氏、出田氏、小山氏、薩摩氏、村田氏、井芹氏、西守氏、永里氏岡本氏、石坂氏、楠本氏、高木氏、北野氏、草野氏、上妻氏、妻住氏、小國氏、赤星氏、佐野氏、小山田氏、原氏、高倉氏、堀川氏、八代氏、薗田氏、加江氏、城氏、若宮氏、須屋氏、甲斐氏、中山氏、村山氏、片角氏、九條氏、　蒲氏、重富氏、長瀬氏、嶋崎氏、伊倉氏、舩城氏、小野崎氏、林原氏、蛇塚氏、方保田氏、平山氏、林氏、木野氏、詫摩氏、豊田氏、深川氏、高瀬氏、千田氏、宇都宮氏、原田氏等、多し。

【第二十一項】長家の流　此家、御子左家につきては前述せり。猶長家の流には武家として那須氏あり。長家の孫、貞信の後なり。今那須氏の分流をあぐれば、佐久山氏、福原氏、瀧田氏、澤村氏、竪田氏、稗田氏、伊王野氏、荏原氏、味岡氏、稲澤氏、矢田氏、本須氏、千本氏、須藤氏、芋淵氏、戸福寺氏、河田氏等あり。

第三章　蕃別諸氏

第一節　秦　氏

秦氏は、秦の始皇帝の後なり。我が國歸化の人民を見るに、秦以前周代の人の系を引ける

ものあり。例へば、周の靈王の後といふが如き、呉王夫差の後といふが如き、魯公伯禽の後といふが如き、是れなり。然れども是等は甚だ著はれずと雖も、秦人の裔に至りては、分布頗る廣きものあり。先づ秦氏につき述べん。

秦氏は中編に述べし如く、秦の始皇帝の後、孝武王より出づ、孝武王の子功滿王仲哀天皇の八年に歸化し、其子融通王、應神天皇の十四年に、百二十七縣の人民を率ゐて歸化す。融通王の孫に、普洞王あり、仁德天皇これに秦の姓を賜ふ。普洞王の子に、秦酒あり、當時秦氏分散して臣、連、諸家に驅使せられ、見在するもの十に一を存せざる有樣なりしかば、雄略天皇使を諸國に遣はし、秦氏、九十二部一万八千六百餘人を搜索し得て、これを酒に賜ひ、養蠶、織絹に從事せしむ。程なく、絹を織進すること、山の如くなりしかば、天皇これを賞し、姓を禹都萬佐と賜ふ。禹都萬佐また太秦とかく。是れより秦氏の裔、益盛なり、後世土佐の長曾我部氏は、秦氏なりといふ。又山城紀伊郡稻荷の神社は、秦氏の立てしものにして、其後裔世々社司となり、松本氏、大西氏、祓川氏、羽倉氏、毛利氏等の諸氏に分るといふ。

第二節　惟宗氏

惟宗氏は、前述秦氏より出づ。淸和天皇の朝、秦忌寸善子、伊統朝臣の姓を賜はり、陽成天皇

の時、秦君直宗等、また惟宗朝臣の姓を賜はる。惟宗氏の裔、島津氏最も著はる、島津氏の祖は忠久なり。島津家傳によれば、忠久は源頼朝の子となす。然れども、其說頗る疑ふべく、忠久は惟宗廣言の子といふ方、却つて信ずべしとは、中編島津氏の條下に擧げおけり。(但便宜上皇別の部に入れおけり)、島津氏の流、頗る廣く、宮里氏、山田氏、大野氏、佐多氏、中沼氏、町田氏、宮丸氏、阿蘇谷氏、給黎氏、伊集院氏、伊佐氏、新納氏、末弘氏、石坂氏、河上氏、題橋氏、津守氏、始良氏、碇山氏、智覺氏、宇宿氏、樺山氏、北郷氏、大島氏、吉豊氏、桂氏等は、皆その分派なりとす。

第三節　坂上氏

坂上氏は漢人の裔なり。漢人の裔、我が國に歸化せるもの多し。今其主要なるものを擧ぐれば、漢の高祖の後と稱するものあり。(此派には、應神天皇の朝、來朝せる王仁の流、最も名あり)。後漢の光武帝の後と稱するものあり。同じく章帝の後と稱するものあり。同じく靈帝の後と稱するものあり。同じく献帝の後と稱するものあり。就中靈帝の後、阿智使主の流、最も盛なり。坂上氏の此流なるは、中編既に述べたる所なり。

後漢靈帝の子に延王あり、阿智使主は延王の孫なり。漢の滅ぶるに至り、出でゝ帶方に居

る。應神天皇の時、其子都賀使主と共に、十七縣の人口を率ゐて、歸化し、子孫機織又は文筆を以て、朝廷に仕へり。都賀使臣に三子あり、山木、志努、爾波伎といふ。坂上氏は志努の後なり。坂上氏と同族なるもの、坂上系圖によれば、數十氏を數ふべし。繁を厭ひて、玆に略せりと雖も、以て其繁榮の度を察すべきなり。此氏は、苅田麻呂及び其子田村麻呂に至り、大に著はる。子孫朝に仕ふるものは、平安朝の中頃より、世々明法道の家として著はる。又この流にして地方に繁殖せしもの、多き內、陸奥の田村氏の名、最も高し。

第四節　大藏氏

大藏氏は阿智使主の後なり。國史を按するに、履中の朝、內藏を建て、雄略の朝、大藏を設け、東西の文氏をして、出納を掌らしむ、これ、大藏氏、內藏氏の姓の基づく所なり。後一條天皇の朝、刀伊の賊の入寇あり。前太宰少監、大藏種材等、奮戰して功あり、種材はこの大藏氏なり、子孫九州に於て著はる。今此氏より出でたる苗字をあぐれば、三原氏、桑田氏、鞍手氏、別府氏、新宮氏、新井氏、砥上氏、早良氏、秋月氏、山田氏、田尻氏、龜崎氏、木原氏、山口氏、岩門氏、長島氏、天草氏、原田氏等の諸氏あり。

第五節　丹波氏

丹波氏も、同上阿智使主の後なり。丹波氏系圖によれば、都賀使主の子、志努の後なりとす。圓融天皇の朝、丹波矢田郡の人、丹波康頼、醫を善くし針博士となる。子孫世々醫を以て朝に仕へ、多く醫博士、典藥頭、侍醫、施藥使等の官職に預る、錦小路家といふは、此氏より出でたる家號にして、長直より始まる。又醫家に施藥院氏あり、丹波氏の族なり。

第六節　三善氏

三善氏は百濟人の裔なり。百濟人の後にして、其系百濟の國王より出づるもの多し。速古王、貴首王、比流王、近速古王、辰斯王、直支王、比有王等の子孫こいふが如きは、是れなり。又百濟の王族にあらすして、單に百濟人の裔なるも多し。三善氏は、百濟速古大王の後なり、醍醐天皇の朝、三善清行あり、文學を以て其名大に著はる。此家は、殊に算道に得意にして、爾來これを以て、朝に仕へり。後源頼朝の起るや、三善康信京より來り、これに仕へ、問注所の執事となり、子孫町野氏、矢野氏、太田氏等著はる。

第七節　多々良氏

多々良氏の出自に、二說あることは、中編これを述べたり。これを百濟の王子、琳聖太子よ

り出づとすれば、琳聖太子は、百濟王餘璋の第三子といふを以て、百濟の末より出でたるを知るべし。然れども、任那王爾利久牟より出づとなす姓氏錄の說は、其書の信用上、頗る重きをおかざるべからず。多々良氏より出でたる氏族には周防の大內氏あり、大に著はる。其族、陶氏、得地氏、鰐口氏、里川氏、江木氏、末武氏、鷲頭氏、山口氏等あり。

第八節 三宅氏

三宅氏は、新羅の王子、天日槍(あめのひぼこ)の後なり。新羅人の歸化また多し。奈良朝前後に於ては、多くこれを武藏美濃等の國に編入せり。天日槍の歸化は、其時悠久にして明かに知るに由なし。或は神代にありといひ、或は垂仁の朝にありといふ。三宅氏にして、備前兒島に居るもの、是れ兒島氏にして、兒島高德等の家は、これなりと。豐臣時代、有名なる浮田氏は、また兒島氏の流なりといふ。

姓氏明鑑後編 終

附錄

附録の一

時代と氏族

以上記述する所により、姓氏氏族に關する一般の事實を述べ終れり。然れども、時代と氏族との關係、換言すれば、如何なる時代には如何なる氏族が繁榮せしかの說明に於ては、頗缺くる所なしとせず。これ本附錄ある所以なり。但、本附錄に於ては、時代を大體左の如く分割し、一部年表の如き姿を以て說述することとせり。

第一紀　氏族政治の世

一、大和朝廷振興の時代

二、韓土服屬の時代

第二紀　公家政治の世

一、大化より奈良朝までの時代

二、平安朝時代

第三紀　武家政治の世

一、鎌倉時代

二、南北朝及足利時代

三、織田豊臣時代

四、徳川時代

第四紀　現世(略ス)

第一紀　氏族政治の世

一、大和朝廷振興の時代

代數	御謚	在位	紀元	年號
一	神武	七六	元　七六　空位三	
二	綏靖	三三	八〇　一一二	
三	安寧	三八	一一三　一五〇	

記事

○大和朝廷振興の時代とは、神代より、第十四代仲哀天皇に至る間をいふ。即ち神武天皇以來にていへば、八百六十年間なり。

○此時代は、政治上にていへば、國家成立の時代にして、大和朝廷益々振興し、版圖の膨脹著しく、西南は九州より東北は奥羽の一部まで皇化に霑ひし時代なり。

○又此時代は、氏族上にていへば、姓氏發生の時代ともいふべく、初めは單に神名人名等ありしのみなりしものが、世の進み、人の多くなる

代	天皇	在位	紀元
四	懿徳	三四	一五一 一八四 空位一
五	孝昭	八三	一八六 二六八
六	孝安	一〇二	二六九 三七〇
七	孝靈	七六	三七一 四四六

と共に、相互に他と區別する必要起り、自然と氏を稱ふるに至りし時代なり。(序說を參照せよ)。

○神代に於て、有力なる氏族は、天照大神よりの正嫡は申すまでもなき事なれば、これを略し、其他を觀察するに、一は出雲に割據せし大國主命の一族にして、命の子、事代主命、健御名方命、等大に勢力あり。子孫また繁延す。又他の一は天照大神以後、天孫に仕へし諸氏にして、天兒屋根命(中臣氏の祖)、太玉命(齋部氏の祖)、天忍日命(大伴氏の祖)、天津久米命(久米氏の祖)、等、殊に著はる。

○神武の朝に至り、政治上有力なるは、神代と大差なく、天種子命(天兒屋根命の後)、天富命(太玉命の後)、道臣命(天忍日命の後、可美眞手

八	孝元	五七	四四七 五〇三
九	開化	六〇	五〇四 五六三
一〇	崇神	六八	五六四 六三一
一一	垂仁	九九	六三二 七三〇

命（物部氏の祖）等なり。

○神武以後、歴代天皇の子孫、追々蕃殖蔓延せしも、暫くは著しきものなく過ぎしが、崇神天皇の朝に至り、四道將軍は有力なる氏族として著はる。即ち大彥命（孝元の皇子）、武停川別命（大彥命の子）、吉備津彥命（孝靈の皇子）、丹波道主命（開化の御孫）にして、子孫地方に蔓延す。就中大彥命の後、阿倍氏最も著はる。又崇神の皇子豊城入彥命の子孫も、上毛野君、下毛野君等を始め、頗る蕃殖す。

○垂仁より仲哀に至る四代間に、政治上有名なる人物は、大鹿島命、物部十市根、武內宿禰、大伴武日、同武以、物部膽咋等なり。是等は當時最も有力なる氏族なりしを知るべし。右の內、吉備武彥は孝靈天皇の皇子、稚武彥命の後にして

代數	御諡	在位	紀元	年號	記事
一二	景行	六〇	七三二 七九〇		武内宿禰は、孝元天皇の皇子彦太忍信命の孫なり。
一三	成務	六一	七九一 八五一		○要するに、此時代は、始めは、神別、中臣氏、大伴氏、物部氏等の一族、最も著はれ、後皇別諸氏漸く頭を擡げ來りし時代なり。又歸化民族に於ては、上述せざりしも天日槍の一族、有力なりしものの如く、子孫また蔓延せり。
一四	仲哀	九	八五二 八六〇		

二、韓土服屬の時代

代數	御諡	在位	紀元	年號	記事
一五	應神	一一〇	八六一 九七〇 空位二		○韓土服屬の時代とは、第十五代應仁天皇より第三十五代皇極天皇に至る間をいふ。即ち四百四十四年間なり。(八六一——一三〇四)。
一六	仁德	八七	九七三 一〇五九		○此時代は、政治上にていへば、國威益發揚し、前

代	天皇	在位年数	即位	崩御
一七	履中	六	一〇六〇	一〇六五
一八	反正	六	一〇六六	一〇七一
一九	允恭	四二	一〇七二	一一一三
二〇	安康	三	一一一四	一一一六
二一	雄略	二三	一一一七	一一三九
二二	清寧	五	一一四〇	一一四四

期仲哀天皇の末年、神功皇后の新羅征服以來、韓土我れに服屬し、我れは其統治に苦心せし時代なり。

○又此時代は、氏族上にていへば、皇別、神別併立、諸大氏爭權の時代ともいふべく、始めは格別の事なかりしも、後には激烈なる爭權起り、遂に皇別蘇我氏他を壓し、獨り優勢を占むるに至り、此頃より氏族治政の弊漸く起り、遂に次期大變化を起すに至りし時代なり。

○此時代の始めに於て、最も注意すべきは、武內宿禰、及び其一族とす。宿禰は景行、成務、仲哀、應神、仁德の五朝に仕へ、國家の元勳として、其功赫々他に比なく、其子に羽田矢代、巨勢小柄、蘇我石川、平群木菟、葛城襲津彥等あり、また有爲の人物にして、遂に皇別中一頭地を拔き、有力

三	顯宗	三	二一四五	二一四七
二四	仁賢	一一	二一四八	二一五八
二五	武烈	八	二一五九	二一六六
二六	繼体	二五	二一六七	二一九三
二七	安閑	二	二一九四	二一九五

なる神別諸氏をも壓せんとする慨ありき。

○履中より安康に至る四代間には、有力なる人物として、平群木菟、蘇我滿智、物部伊莒弗、大伴室屋等ありしも、就中、有力なりしものは大臣葛城圓なりしものゝ如し。葛城氏優勢の時代ともいふべきか。

○眉輪王の變、葛城圓殺され、雄略天皇即位するに及び、大臣大連併置せられ、大臣には平群眞鳥あり、大連には大伴室屋あり、物部目あり、朝に立つ爾後、仁賢天皇に至る四代間は、平群氏優勢の時代にして、優勢のあまり、眞鳥及び其子鮪潜上の無禮を敢てするに至る。

○武烈天皇即位に先ち、大連大伴金村と謀り、平群氏を滅せり。これより宣化天皇に至る四代間は、大伴氏優勢の時代を畫くに至れり。當時

二八	宣化	四	一一九六	一一九九
二九	欽明	三二	一二〇〇	一二三一
三〇	敏達	一四	一二三二	一二四五
三一	用明	二	一二四六	一二四七
三二	崇峻	五	一二四八	一二五二

大臣に巨勢男人あり蘇我稻目あり、大連に物部麁鹿火ありしも、其勢皆大伴金村に及ばざりしものの如し。

○然れども、大伴金村の三韓に對する政策、宜しきを得ず。欽明の元年、物部尾輿の彈劾にあひ、大伴氏振はずなりぬ。茲に物部氏優勢ならんとして、恐るべき一大强敵に遭遇したり。即ち暫く潜勢力を養ひたる蘇我氏これなり。これより、二氏の間に激烈なる爭權起り、蘇我氏は稻目、馬子の二代、進歩主義、崇佛說を標榜し、物部氏は同じく尾輿、守屋の二代、保守主義、排佛說を主張し、相爭ひしが、蘇我氏はまた皇室と姻戚の關係、牢乎として拔くべからざるものあり。用明の朝、物部氏遂に滅され、世は蘇我氏のものとはなりぬ。

三三	推古	三六	一二五三 一二八八	
三四	舒明	一三	一二八九 一三〇一	
三五	皇極	三	一三〇二 一三〇四	

○用明より、皇極に至る五代間は、蘇我氏專政の時代にして、弊政漸く多く其極大化の改新を見るに至りし時代なり。

○又此時代は、通じて支那文明の三韓の手を經て、盛に輸入せられし時代にして、三韓人、支那人共に盛に歸化せし時代なり。歸化民族中、殊に有力なるは、應神の朝歸化せし、融通王(秦の始皇帝の後と稱す)、阿知使主(漢の靈帝の後と稱す)、王仁(漢の高祖の後と稱す)等の子孫なりとす。

第二紀　公家政治の世

一、大化改新より奈良朝に至る時代

代數	御諡	在位	紀元	年號	記事
三六	孝德	一〇	一三〇五 一三一四	大化　五 白雉　五	○大化改新より、奈良朝までの時代とは、孝德天皇の大化元年より、光仁天皇の末年に至るまでの間をいふ。卽ち百三十七年間なり。（一三〇五―一四四一）。 ○此時代は、政治上にていへば、古來の氏族制の政治は壞れ、天下の土地人民を公田公民となす中央集權の制となれる時代なり。換言すれば、古來の封建の制を變じて、郡縣の制と爲せし時代なり。而して文武の朝に至り、大寶律令成り專らこれによりて政治せらる。
三七	齊明	七	一三一五 一三二一		

三八	天智	一〇	一三二一 一三三一	
三九	弘文	八ヶ月	一三三二	
四〇	天武	一五	一三三二 一三四六	白鳳　一四 朱鳥　一

□政治上の大革新は、一方には施政者の大異動を意味す。故に此時代は氏族上よりいへば、新勢力發生の時代ともいふべく、而して其最も顯著なるは藤原氏の興起なりとす。（次期參照）

○大化新政以後新舊の氏族にして、政治に預りしもの多かりしも、藤原氏を以て最とすることは前述べたり。

藤原氏は、もと中臣氏にして、天兒屋根命の後なるは、皆人の知る所なり。中臣氏は、上古祭政一致の時代には、政治上最有力なるものなりしが、其後暫く政治に遠かり著はれたるもの稀なりき。然るに鎌足出づるに及び、孝德の朝中大兄皇子と共に大化の改革を斷行して内臣となり、天智の朝内大臣となり、藤氏繁榮の

四一	持統	一〇	一三四七　一三五六	朱鳥　一〇
四二	文武	二	一三五七　一三六七	大寶　三　慶雲　四
四三	元明	七	一三六八　一三七四	和銅　七

基を開きぬ。

鎌足の子に不比等あり、持統、文武、元明、元正の四朝に仕へ、力を律令の完成に盡し、大功を立てたり。而して其四子皆朝に列し其二女また入内して、夫人、皇后となり益榮えぬ。

不比等の四子分立して、南家、北家、式家、京家の四家を立て、族望並ぶもの無かりしが、聖武の天平九年、當時流行の痲疹により四家の祖一時に沒するに及び、其勢力また動搖を免れざりき。

然れども此期の終りに式家、北家、漸次に其勢力を回復し、次期に至り、北家は遂に大盤石の如き基礎を据うるに至れり。

○此間藤原氏の外には、天武の子孫を始め、阿倍氏、蘇我氏、巨勢氏、大伴氏、紀氏、多治比氏、橘氏等

代	天皇	年数	紀元	年號
四四	元正	九	一三七五 一三八三	靈龜　二 養老　七
四五	聖武	二五	一三八四 一四〇八	神龜　五 天平　二〇 感寶　三ケ月
四六	孝謙	一〇	一四〇九 一四一八	天平勝寶　八 天平寶字　二

ありしも、其勢連續して盛ならざりき。

○天武の皇子皇孫には高市皇子、忍壁親王、穗積親王、舍人親王を始め、長屋王、鈴鹿王等、皆政治に預りしが、皇統の天智の系に移るに及び、其後著はれたるもの尠し、但、淸原氏、文屋氏の如き其後にも一般に知られたるはありき。

○阿倍氏には、此間阿倍倉梯麻呂、阿倍御主人、阿倍宿奈麿呂、阿倍廣庭等あり、朝政に預りしも、一般に振はざりき。

○蘇我氏には、此期の始めに蘇我倉山田石川麿、及蘇我赤兄等ありしが、其後遂に現はれず。

○巨勢氏には、また巨勢德太古、巨勢人、巨勢麻呂巨勢奈氏麻呂等ありしも、振はざりき。

○大伴氏には、大伴長德、大伴馬來田、大伴御行、大伴旅人、大伴家持等ありしも、其後また盛なら

四七	淳仁	六	一四一九 一四二四	天平寶字　六
四八	稱德	五	一四二五 一四二九	天下神護　二 神護景雲　三
四九	光仁	三	一四三〇 一四四一	寶龜　一一 天應　一

ざりき。

○其他、紀氏には紀麿、紀廣純、紀古佐美等あり、多治比氏には、多治比島、多治比池守、多治比縣守、多治比廣成等ありしも、全じく振はざりき。

○唯橘氏には、聖武孝謙の朝、橘諸兄あり、稍盛なりしが如きも、其後振はざるは同一なり。（但後世姓を呼ぶに一般に源平藤橘と稱へり）

○以上、此期の諸大氏の勢力の一般を見るべし。又此期の歸化民族につき觀察すれば、其數また頗る多かりしが如きも、著名の氏族は絶えてなく、唯前期の始めに歸化せし、阿知使主の裔に、坂上苅田麻呂、及び其子田村麻呂あり。此期の末より次期の始めに於て、一時著はれたり。

二、平安朝時代

代數	御諡	在位	紀元	年號	記事
五〇	桓武	二四	一四四二 一四六五	延暦二四	○平安朝時代とは、桓武天皇の即位より、安德天皇の末年に至るまでの間をいふ。即ち四百四年間の記事なり。(一四四二――一八四五)但、後の二年間は、次期の始めに入るゝを適當とす。 ○前期に完成せる律令は、固より我が國體國俗に調和せしめんと力を盡しゝ迹は多々あれども、大體は唐制を模倣せるものといふて可なるべし。故に其儘圓滿に行はるべきは到底望むべからず。此期の政治は、前期律令政治の繼續なれども、その漸次破壞變形せられつゝありし時代といふべし。
五一	平城	四	一四六六 一四六九	大同四	

五二	五三	五四
嵯峨	淳和	仁明
一四	一〇	一七
一四七〇 一四八三	一四八四 一四九三	一四九四 一五一〇
弘仁　一四	天長　一〇	承和　一四 嘉祥　三

○前時代は假りに氏族上より觀察して、新勢力發生の前期ともいふべきものにして、此時代を以て眞の發生時代となすを適當とす。其故は以下述ぶる所により明かなるべし。

○此時代、最有力なりし氏族は藤原氏なり。藤原氏の勢力は、前時代の末に於て一時動搖を免れざりしも、後繼其人を得て、間もなく勢力を回復し、北家冬嗣の出づるに及び、其基礎固まりぬ。冬嗣以後朝の要路は多く其一族を以て占め、又内には世々皇室の外戚となり、遙かに他の諸氏を凌駕するに至れり。

○奈良朝頃より此時代の始めにかけて注意すべきは、藤原氏の獨り優勢に赴くに反して、古來の諸大氏の漸次其名の失はれ行きし事こ

代	天皇	在位	紀元	年號
五五	文德	八	一五一二 一五一八	仁壽 三 齊衡 三 天安 二
五六	淸和	一八	一五一九 一五三六	貞觀 一八
五七	陽成	八	一五三七 一五四四	元慶 八

れなり。例へば阿倍氏、蘇我氏、巨勢氏、大伴氏、紀氏、多治比氏、石上氏等は古來の大氏なりしも、遂に有力なるものなきに至りしを見ても知るべし。此點より見るも、此時代の初め頃は、有力なる氏族の大變動時代なるは明かなり。

○此時代藤原氏以外、新勢力は何れの方面より來れるかを見るに、皆皇族賜姓より來れり。即ち古來の皇別神別に代はり、新皇別が勢力を得來りしなり。舊制によらざる皇族賜姓は、普通には桓武天皇を以て始めとす。即ち天皇の皇子、岡成に長岡の姓を賜ひ、安世に良峯の姓を賜ひしを以て嚆矢とす。次に嵯峨天皇の皇子女に賜姓するあり。遂に常例となる。今桓武天皇の子孫を始めとし二三賜姓の例を示さん。

代	天皇	在位	紀元	年號
五八	光孝	三	一五四五 一五四七	仁和 三
五九	宇多	一〇	一五四八 一五五七	仁和 一 寛平 九
六〇	醍醐	三三	一五五八 一五九〇	昌泰 三 延喜 二二 延長 八
六一	朱雀	一六	一五九一 一六〇六	承平 七 天慶 九

○桓武天皇の皇子に葛原親王、萬多親王、仲野親王等あり、これ等の子孫平姓を賜はる。就中、葛原親王の御子平高棟及び、高見王の流、最盛を極む。

○平城天皇の皇子に、阿保親王あり、親王の御子、在原の姓を賜はる。即ち在原行平、同守平、同業平、同仲平の如き是れなり。

○嵯峨天皇の皇子女に賜姓せしもの多きは前述せり。即ち源信、源弘、源常、源定、源融、源潔姫の如き、是れなり。就中、源融の流最も著はる。

○淸和天皇の皇子に、貞元親王、貞保親王、貞純親王等あり、子孫皆源姓を賜はる。貞純親王の御子源經基の流最も著はる。

○宇多天皇の皇子に、齊世山王、敦實親王、等多くの親王あり。子孫皆源姓を賜はる。就中敦實親

六二	村上	三	一六〇七 一六二七	天暦 一〇 天徳 四 應和 三 康保 四
六三	冷泉	二	一六二八 一六二九	安和 二
六四	圓融	一五	一六三〇 一六四四	天祿 三 天延 三 貞元 二 天元 五 永觀 二

王の流最も著はる。

○村上天皇の皇子に、致平親王、爲平親王、具平親王等あり、子孫源姓を賜はる。就中具平親王の流最も著はる。

○以上の外平氏には仁明平氏、文德平氏、光孝平氏等あり、源氏には仁明源氏、文德源氏、陽成源氏光孝源氏、醍醐源氏、花山源氏、三條源氏、後三條源氏等多くあれども一々述べず。

○以上の內始めは多く公家として有名なりしも、追々に衰微し行き後まで傳はり有名のものは、村上源氏、宇多源氏等二三あるに過ぎず。

(武家として は後にいふべし)此等の公家と藤原氏との關係は競爭的の位置にあらずして全く其下風に立つに至れり。

○公家につき此頃より注意すべきは、姓氏の外

六五	華山	二	一六四五 一六四六	寛和二
六六	一條	二五	一六四七 一六七一	永延二 永祚一 正暦五 長徳四 長保五 寛弘八
六七	三條	五	一六七二 一六七六	長和五

に、漸次に家號の稱へらるゝもの多くなりし事これなり。例へば同じ藤原氏にても、日野家、勘修寺家、閑院家、花山院家、大炊御門家等、其他色々と稱へられたるが如し。

○此期の中頃藤原氏漸く擅權を極むる頃より公家諸家の家格追々一定して世官世職の風を生ずるに至れり。例へば淸原氏、中原氏の明經道に於ける、菅原氏、大江氏の文章道に於ける、坂上氏、中原氏の明法道に於ける、三善氏、小槻氏の算道に於ける、賀茂氏、安倍氏の陰陽道に於ける、和氣氏、丹波氏の醫道に於けるが如き、是れなり。

○次に此期に於て最も注意すべきは、武家の興起なりとす、固より武家の有力なる大部は、以上述べし諸氏より分れ出でたるものなれど

六八	後一條	二〇	一六七七 一六九六	寛仁四 治安三 万壽四 長元九
六九	後朱雀	九	一六九七 一七〇五	長暦三 長久四 寛德二
七〇	後冷泉	二三	一七〇六 一七二八	永承七 天喜五 康平七 治暦三
七一	後三條	四	一七二九 一七三二	延久四

も、將來の歴史上公家と相並びて、否、公家以上に重要の位置を占むるものなれば、新勢力中の殊に新勢力として觀察せざるべからず。

○先づ武家興起の狀態を見るに、種々の原因あり。今其主要なるもの二三をあぐれば(一)武家の興起は兵制の廢頽より來れり。即ち大寶の兵制漸く、實用に遠かるに及び、聖武の朝、健兒の設あり、光仁桓武の朝大部徵兵の法を廢し募兵の法を採用するに及び、自然武門武士といふものを生ずるに至れり。(二)、武家の興起は土地の制及び國司の制の廢頽より來れり即ち土地の制弛み、莊園所々に起り、國司の制頽れ、國司地方に土着するに及び、是等は地方の豪族を生ずる好原因となれり。(三)、武家の興起は藤原氏の擅權より來れり。即ち朝廷の

代	天皇	在位年數	紀元	年號
七二	白河	一四	一七三三–一七四六	延久一 承保三 承暦四 永保三 應徳三
七三	堀河	二一	一七四七–一七六七	寛治七 嘉保二 永長一 承徳二 康和五 長治二 嘉承二
七四	鳥羽	一六	一七六八–一七八三	天仁二 天永三 永久五 元永二 保安四
七五	崇徳	一八	一七八四–一八〇一	天治二 大治五 天承一 長承三 保延六 永治一

上、高位高官は、皆藤原氏にて占められ追々一定の家格生ずるに及び、一部有爲の士は地方に出で、己れの立脚地を求むるに至れり。(四)武家の興起は中央權力の微弱及び地方中央の懸隔より來れり。即ち中央政府は地方を充分制するの力なく、全く地方の豪族に委したるが如き觀あり。以上の如きは武家の興起に與つて、力ありしものなるは明かなり。

○此期及此期以後に於て、武家の三大族とも見るべきものは、桓武平氏高望の流、清和源氏經基の流、藤原氏秀郷の流なり。而して共に東國に蟠居したるを注意すべし。これに次いで有名なるは、宇多源氏佐々木氏の流及び藤原氏利仁の流等なるべし。

○此期の中葉天慶の頃、東國には平國香、良兼、將

七六	近衛	四	一一四二	一一五五	康治・天養・久安・仁平・久壽	二・一・六・三・二
七七	後白河	三	一一五六	一一五八	保元	三
七八	二條	七	一一五九	一一六五	平治・永暦・應保・長寛・永萬	一・一・二・二・一
七九	六條	三	一一六六	一一六八	仁安	三

門、貞盛等の平族あり。又源經基、藤原秀郷等も在りて此頃より實際武家の興起を見るに至れり。而して平氏は頗る盛なるものありき。

○然るに天慶の亂後、平氏暫く振はず。これに反し源氏には經基以後、滿仲、賴光、賴信、賴義、義家等有爲の士輩出し、殊に功を東國に樹て、其根據を茲に固むるに至れり。

○後白河の院政頃より、平氏には正盛、忠盛、清盛等の名士、現はれ功を西國に立て茲に源氏と相對抗する勢を來せり。殊に清盛の偉器、當時比なく保元、平治の亂、遂に源氏を壓倒して、平氏全盛の時代を劃するに至れり。

○此間藤原秀郷の流、甚だ著はれずと雖も、陸奥に藤原秀衡の族あり。其地に割據して侮り難きものありき。

代	天皇	在位年数	紀元	年号
八〇	高倉	三	一八二九 一八四〇	嘉應二 承安四 安元二 治承四
八一	安德	五	一八四一 一八四五	養和一 壽永四

○今や此期を終へんとするに當り、苗字につき一言すべし、前述せし如く、此期は公家に於て家號の稱へ出でられしが如く、武家に取りても多くは居所により稱へられたる苗字を有すること始まれり。例へば嵯峨源氏源融の流に、箕田氏、渡邊氏、松浦氏、等出でしが如き、又平良文流に村岡氏、三浦氏、鎌倉氏等、稱へられたるが如き、是れなり。

第三紀　武家政治の世

一、鎌倉時代

代數	御諡	在位	紀元	年號	記事
八二	後鳥羽	一五	一八四四 一八五八	元暦 一 文治 五 建久 九	○鎌倉時代とは、後鳥羽天皇の即位より、後醍醐天皇の元弘三年までの間をいふ。即ち百五十年間の記事なり。（一八四四―一九九三）。 ○此時代は、政治上にていへば、武家執政の世といふべく、源頼朝の鎌倉開府以來、天下の實權は全く其手に歸したる時代なり。 ○又此時代は、氏族上より見るも政治上と同じく武家隆盛の時代にして、前期に發生したる新勢力中、武家として興起したるものが、此時に至りては確然たる位置を有し、公家と對立
八三	土御門	三	一八五九 一八七〇	正治 二 建仁 三 元久 二 建永 一 承元 四	

代	天皇	在位	紀元	年號
八四	順德	二	一八七一	建暦二
				建保六
			一八八一	承久三
八五	仲恭	七十餘日	一八八一	承久
八六	後堀河	二	一八八二	貞應二
				元仁一
				嘉祿二
				安貞二
				寛喜三
			一八九二	貞永一

したるのみならず、進んでこれを凌傷するに至りし時代なり。

○先づ公家より見んに、此時代公家には新なる氏族の發生殆ど無く、唯前期以來の氏族の分岐發展ありしのみ。この分岐發展の結果、種々の家號を生ずるに至れり。例へば近衞九條の如き是れなり。

○前期既に述べし如く公家には、追々家格あるもの定まりしが、此期以後に於て益々一定鮮明となるに至れり。今其主要なるものをあぐれば、(此時代以後に分岐せる家號もあぐ)。

(一)、攝家、即ち攝政關白たるべき家にして、近衞、九條、二條、一條、鷹司の五家これなり。

(二)、淸華又は華族、即ち大臣大將を兼ね太政大臣に昇るを得る家にして、久我、三條、西園寺、德

八七	四條	一〇	一八九三 一九〇二	天福 文暦 嘉禎 暦仁 延應 仁治	一 一 三 一 一 三
八八	後嵯峨	四	一九〇三 一九〇六	寛元	四

大寺、花山院、大炊御門、今出川家の如き是れなり。

(三)、大臣家、即ち大將を兼ねず、大臣に任ずるを先途とする家にして、三條西、中院、正親町三條家の如き是れなり。

(四)、羽林家、即ち中少將より昇進し、宰相より大中納言を先途とする家にして、四辻、中山、姉小路、阿野の如き是れなり。

(五)、名家、即ち祖先以來文筆を主として、辨官を經歷し、職事(藏人)を兼ね、大納言まで至り得る家にして、日野、廣橋、烏丸、柳原、万里小路、中御門清閑寺の如き是れなり。

六、其他六位より四位に叙し、恪勤して高官に昇進し得る諸大夫の家あり。又六位より五位まではは至るを得るも、高官に上るを得ざる侍

八九	後深草	三	一九〇七 一九一九	寶治二、建長七、康元一、正嘉二、正元一
九〇	亀山	一五	一九二〇 一九三四	文應一、弘長三、文永一〇、

の家といふもあり。以上其大要なり。斯の如くして以て德川時代の終に至れり。

○次に武家隆盛の事實を述べんには、多言を要せず。源賴朝擧兵の當時を、例にあぐれば足りなん。即ち賴朝擧兵の時、其敵味方たるに論なく、一寸著はれたる氏族をあぐれば、伊東祐親、北條時政、土肥實平、三浦義明、同義澄、和田義盛、平廣常、千葉常胤、加藤景廉、大庭景親、畠山重忠、稻毛重成、佐々木定綱、同盛綱、高綱、佐奈田義忠、工藤祐經、安達盛長、澁谷重國、比企能員、岡崎義實、天野遠景、土屋宗遠、筑井義行、佐原義連、股野景久、曾我祐信、久下直光、熊谷直實、岡部忠澄、大多和義久、長尾爲宗、梶原景時、江戶重長、河越重賴、武田信義、安田義定、一條忠賴、逸見光長、小笠

九一	後宇多	三	一九三五 一九四七	建治　三 弘安　一〇
九二	伏見	二	一九四八 一九五八	正應　五 永仁　六

原長淸等猶多くを擧げ得べし。以上擧げし人名のみを見ても、如何に武家の發達し來りしかを知るに足るべし。

○賴朝武家の棟梁として、幕府を鎌倉に開くや、北條氏、三浦氏、千葉氏、武田氏、足利氏等を始め多くの大族其部下にあり。又政所別當には大江廣元あり。問注所の執事には三善康信あり侍所別當には和田義盛あり、是等は其勢の最も盛なるものといふも可なるべし。

○然るに源氏には、骨肉相食むの惡習あると北條氏の奸策とにより、僅に三代にして滅び、以後は北條氏陪身の身を以て、永く天下の實權を掌握するに至れり。これ言ふまでもなく武家として北條氏の最隆盛を示すものにして、從つて一族、大佛氏、名越氏、赤橋氏、常磐氏、金澤

九三	後伏見	三	一九五九 一九六一	正安三
九四	後二條	六	一九六二 一九六七	乾元一 嘉元三 徳治二

氏、阿曾氏等、頗る有名なるものありき。

○次に鎌倉全代を通じて、諸氏の盛衰興亡を叙すべきなれども、煩を厭ひ左に著名氏族の、或は滅亡し、或は誅戮せられたる年代を記し、以て其大略を知らしむることとせり。

元暦元年　木曾義仲の滅亡。

文治元年　平氏、滅亡。

文治二年　源行家誅せらる。

文治五年　源義經殺さる。

同　年　陸奥の藤原氏を滅ぼす。

建久四年　源範頼誅せらる。

正治二年　梶原景時誅せらる。

建仁三年　比企氏の一族滅さる。

元久二年　畠山重忠の一族滅さる。

同　年　平賀朝雅誅せらる。

代數	御諡	在位	紀元	年號
九五	花園	一一	一九六八 一九七八	延慶三 應長一 正和五 文保二
九六	後醍醐	二〇	一九七九 一九九八	元應二 元亨三 正中二 嘉暦三 元德二 元弘三 建武二 延元三

記事

建保元年　和田義盛の一族滅さる。
承久元年　源氏滅亡。
寶治元年　三浦泰村誅せらる。
弘安八年　安達泰盛誅せらる。
○北條氏は貞時、高時に至り、失政多く天下の人心離散するに及び、後醍醐の討伐にあひ、元弘三年滅亡を見るに至れり。
○此期終に臨み、苗字につき一言すべきものあり。此期は苗字の分岐最も盛なる時にして、各氏族殊に著名なる苗字は、大部分此期に於て發生せりといふの適當なるを見るべし。

二、南北朝及足利時代

後醍醐（前出）	
九七	
後村上	
三〇	
一九九九 二〇二八	
興國七 正平二三	

○南北朝及足利時代とは、後醍醐天皇の建武元年より、正親町天皇の天正元年足利氏の滅亡までの間をいふ。即ち二百四十年間の記事なり。（一九九四—二二三三）内最初の五十餘年間は、これ南北朝時代なり。

○此時代は政治上にていへば、建武中興の一局部を除きては、矢張、鎌倉時代の連續にて、武家執政の時代なるはいふまでもなし。

○又此時代を氏族上より見るも、前期よりの連續にて、唯鎌倉時代には有力ならざりし、武家等が、頭角を露はしたるもの多し。又此時代の末は氏族上大紛亂の時代といふべし。

○此時代の公家については、述ぶべき事少なし。即ち新氏族の發生絶えてなく、唯家號の分岐稍々盛なるもののありしのみ。又家格家學等の

九八	長慶	五	二〇二九 二〇三三	正平一 建德二 文中二
九九	後龜山	一九	二〇三四 二〇五二	文中一 天授六 弘和三 元中九
北朝	光嚴	二	一九九二 一九九三	正慶二

事は前述せしが當時、公家官職の實を失ひ閑なるまゝ、益文藝伎術等を以て却つて其本分となすが如くに至れり。例へば二條、冷泉、の歌道に於ける、持明院の筆道に於ける、綾小路、四辻の和琴、郢曲に於ける、難波、飛鳥井の蹴鞠に於ける、高倉、山科の裝束に於けるが如き、是れなり。是等は皆家學を繼承して、傳授の本家たりき。

○南北朝時代武家に於て最有力なりしは、足利氏、新田氏の二とす。

足利氏は鎌倉時代に於て、既に有名なる氏族なりしが、南北朝以後殊に大に盛なり。一族、仁木氏、細川氏、畠山氏、桃井氏、吉良氏、今川氏、斯波氏、澁川氏、石塔氏、一色氏等、當時皆有力の氏族なり。

仝	仝	仝
光明	崇光	後光嚴
三	三	二〇
一九九七 二〇〇八	二〇〇九 二〇一二	二〇一三 二〇三一
暦應四 康永三 貞和四	貞和一 觀應二	文和四 延文五 康安一 貞治六 應安四

新田氏は鎌倉時代、餘り著はれすと雖も、義貞勤王の義旗を擧げし以來、大に著はれ、一族、山名氏、大井田氏、大舘氏、堀口氏、一井氏、江田氏、金谷氏、脇屋氏等、名あるもの多し。

○同時代以上二氏の外、有力なるものをあぐれば、北畠氏、楠氏、名和氏、赤松氏、菊池氏、阿蘇氏、五條氏、土居氏、得能氏、佐々木(六角、京極)氏、土岐氏、大友氏、少貳氏、大内氏、秋月氏、島津氏、上杉氏、結城氏、宇都宮氏、小田氏、小山氏、關氏、小笠原氏、井伊氏、富樫氏、武田氏等、一々擧げ盡す能はず、以上の内鎌倉時代より既に有力なるもあり、新に其勢を張れるものもあり。又もと公家にして武家となれるもあり、一様ならず。是等は或は南朝に與し、或は北朝に從ひ相爭ひしが、足利氏天下を掌握するに及び、南朝に從ひしも

仝	後圓融	一二	二〇三二 二〇四二	應安三 永和四 康暦二 永徳二
一〇〇	後小松	三〇	二〇四三 二〇七三	永徳一 至徳三 嘉慶二 康應一 明徳四 應永一九

の、漸次勢力を失ふに至れり。例へば、新田氏、北畠氏、楠氏、名和氏、菊池氏、土居氏、得能氏の如き、是れなり。

（〇）然るに一方には足利氏の基礎、固まると共に其一族部下、大に繁榮するに至れり。例へば、斯波、細川、畠山の三氏は、管領家として最も著はれ、山名、一色、下細川(阿波守護)能登の畠山、越後の上杉、赤松、大内、京極、六角、土岐、武田(安藝守護)仁木(丹波)富樫の諸氏は、國持衆といひ、或は侍所司となり、或は評定衆となる、亦有名の氏族なり。次に吉良、澁川、石橋、今川等も、一門として其名大に著はる。又典故に精通する故を以て、鎌倉以來の世職家たる攝津、二階堂、波多野、町野、太田、齋藤、飯尾、布施等の諸氏あり、政務に參與せり。

一〇一	稱光	一六	二〇七二 二〇八八	應永一五 正長一
一〇二	後花園	三六	二〇八九 二一二四	永享一二 嘉吉三 文安五 寶德三 享德三 康正二 長祿三 寛正五

○以上は京都を中心として、有力なる諸氏あるが、鎌倉を中心とせる諸氏にも、有名なるもの尠からず。先づ管領の下に執事として上杉氏あり。又京都の國持衆に對して、千葉氏、小山氏小田氏、宇都宮氏、佐竹氏、那須氏、長沼氏等ありて、管領を輔佐せるが如し。

○關東は永享の亂後、既に紛亂の域に陷りしが、應仁の亂を境として、天下大亂の裏に陷り、弱肉強食世は戰國の時代に入り、氏族上又大混亂の時代を生じ、舊族漸く衰へ、至る所今まで名もなき新氏族の興起を見るに至れり。

○同じく戰國時代といふも、甲起乙仆、頗る變遷あり。今永祿、元龜年間の群雄につき大體の觀察をなすこと、次の如し。

(一)奥羽地方にては、葦名氏、伊達氏、最上氏、秋田

代	天皇	在位	紀元	年號
一〇三	後土御門	三六	二一二五 二一六〇	寛正 一 文正 一 應仁 二 文明 一八 長享 二 延徳 三 明應 九
一〇四	後柏原	二六	二一六二 二一八六	文龜 三 永正 一七 大永 六

氏、南部氏、波岡氏を始め、相馬、田村、大崎、武藤、小野寺の諸氏割據せり。就中一方の覇者として、目すべきものは伊達氏なり。

(二)關東及び甲信越地方には、北條氏、武田氏、上杉氏、里見氏、佐竹氏を始め、千葉、結城、小山、大椽、小田、宇都宮等の諸氏、割據せり。就中、上杉、武田、北條の三氏鼎立の姿を以て、相頡頏せり。

(三)箱根以西京畿地方には、今川氏、徳川氏、織田氏、齋藤氏、三木氏、淺井氏、六角氏、朝倉氏、本願寺門徒、富樫氏、松永氏、三好氏、畠山氏、筒井氏、北畠氏等、割據せり。而して織田氏は間もなく、一頭地を拔き他の諸氏を壓服し終れり。

(四)中國地方には、波多野氏、一色氏、山名氏、赤松氏、浦上氏、宇喜多氏、尼子氏、毛利氏等あり。就中此地方の覇者たるものは毛利氏なり。

三、織田豐臣時代

代數	御諡	在位	紀元	年號
一〇五	後奈良	三一	二一八七 二二一七	大永一 享祿四 天文二三 弘治三
一〇六	正親町	二九	二二一八 二二四六	永祿一二 元龜三 天正一四

記事

(五)四國には、細川、三好、河野、長曾我部の諸氏あり。長曾我部氏最も著はる。

(六)九州には、大友氏、龍造寺氏、大村氏、松浦氏、有馬氏、伊東氏、島津氏等あり。始めは大友、島津、龍造寺三氏鼎立の姿ありしも、漸次島津氏に壓せらるゝ氣味を生ずるに至れり。

○今や此期を終へんとするに當り、苗字につき一言すべし。此期も苗字の分岐多かりしも著名の苗字に至りては、前期の終り頃までに分岐したるもの比較的多かりしが如し。

正親町

前出

○織田豊臣時代とは、正親町天皇の天正元年足利氏の滅亡より、後陽成天皇の慶長八年徳川家康征夷大將軍に任せられしまでの間をいふ即ち三十一年間の記事なり。(二二二三三一二二六三)

○此時代は、政治上にていへば、前期末の狀態たる群雄割據が、漸次統一に向ひ、秀吉に至り全く統一せられたる時代なり。

○又此時代は、氏族上より見れば、前期末よりの繼續にして、氏族大紛亂の時代といふべし。從て此時代の特徴は、姓氏明瞭を缺くもの多く、たとへ系圖あるも頗る疑ふべきもの尠からざるが如し。こは多言を要せず、德川初代に編せる寛永系圖傳を一見すれば、明かに其の然るを知るを得べし。

一〇七	後陽成	二五	二二四七	天正六
			二二七一	文祿四
				慶長一六

○此時代公家につきては、格別いふべき事なし
○武家の變遷につきては、一々述べ盡す能はざるを以て、茲には單に秀吉天下を統したる後の、著名なる大名の氏名を列擧し、以て前期及び後期と對照せしめ變遷の一般を知らしめんとす、

(一)奧羽には津輕氏、南部氏、秋田氏、最上氏、伊達氏、相馬氏、上杉氏等あり、
(二)關東及甲信越には、佐竹氏、里見氏、德川氏、淺野氏、眞田氏、堀氏等あり。
(三)箱根以西京畿地方には、中村氏、山内氏、池田氏、福島氏、織田氏、堀尾氏、前田氏、石田氏、長束氏九鬼氏等あり。
(四)中國には長岡氏、宇喜田氏、毛利氏等あり。
(五)四國にば、蜂須賀氏、加藤(嘉明氏、藤堂氏、長曾

我部氏等あり。
(六)九州には、黒田氏、小早川氏、立花氏、鍋島氏、大村氏、松浦氏、有馬氏、加藤(清正)氏、小西氏、大友氏秋月氏、島津氏等あり。
以上これを足利末世と對比すれば著しき遷變あるを知るべし。

四、徳川時代

代數	御諡	在位紀元	年號	記事
	後陽成（前出）			○徳川時代とは、後陽成天皇の慶長八年家康始めて征夷大將軍たりし時より、今上天皇の慶應三年慶喜政權奉還までの間をいふ。即ち二百六十五年間なり。(二二六三—二五二七)。

一〇八	後水尾	一八	二二七二 二二八九	慶長三 元和九 寛永六
一〇九	明正	一四	二二九〇 二三〇三	寛永一四

○此時代は政治上にていへば國内全く統一し封建制度の完成したる時代なり。

○これを氏族上より見る時は足利時代末期以來の氏族大紛亂の時代を經て、新氏族の位置漸く固定したる時代なり、但、其位置固定したりとて其系圖の曖昧なるもの多きは、前期と格別變りたる事なし。

○公家に於ては、平安朝以來分岐したる家號多しと雖も、或は家絶え、或は流離したるものも尠からず。今德川初代に於て有名なる諸家をあぐれば近衞、鷹司、九條、二條、一條、久我、三條、西園寺、今出川、德大寺、花山院、廣幡、醍醐、中院、正親町三條、三條西、富小路、六條、滋野井、河鰭、阿野、橋本、淸水谷、四辻、正親町、小倉、中山、日野、烏丸、柳原廣橋、甘露寺、勸修寺、坊城、中御門、万里小路、葉室

一一一	後西院	八	二三一五 二三二三	明暦三 万治三 寛文二
一一〇	後光明	二	二三〇四 二三一四	正保四 慶安四 承應三

松木、持明院、園、飛鳥井、難波、冷泉、四條、山科、高倉庭田、綾小路、五辻、高辻、坊城、唐橋、五條、船橋、土御門、吉田、白川、藤波、押小路、壬生、水無瀬、竹内、西洞院等の諸家なり。

○次に公家に於て注意すべきは家號分岐の多かりし事是れなり即ち花園、裏辻、梅園、山本、大宮、風早、武者小路、高松、藪、中園、高丘、今城、野宮、東園、高野、石野、石山、六角、藤谷、入江、日野西、勘解由小路、裏松、外山、豊岡、三室戸、北小路、芝山、池尻、梅小路、岡崎、穂波、堤、園池、八條、櫻井、山井、堀河、樋口大原、慈光寺、岩倉、千種、東久世、久世、梅溪、愛宕、植松、伏原、澤、平松、長谷、交野、石井、土御門、倉橋等多くの諸家皆此時代に分出したるものなり。

○徳川初代武家の有名なるものの一般を知らんには元和初年諸侯配置につき概察するの

一一二	靈元	二四	二三二三 二三四六	寛文　一〇 延寶　八 天和　三 貞享　三
一一三	東山	二三	二三四七 二三六九	貞享　一 元祿　一六 寶永　六

最も便なるを見る。今其主要なるものをあぐれば、

(一)奥羽には、津輕信枚(弘前)、南部利直(三戸)、佐竹義宣(秋田)、伊達政宗(仙臺)、最上義親(山形)、上杉景勝(米澤)、蒲生忠鄕(若松)、相馬利胤(中村)、鳥居忠政(平)等の諸侯あり。

(二)關東及び甲信越には、村上義明(村上)、松平重勝(三條)、松平忠輝(高田)、酒井重忠(前橋)、榊原忠次(舘林)、奥平忠昌(宇都宮)、本多正純(小山)、戸澤政盛(手綱)、德川賴房(水戸)、松平信吉(土浦)、土井利勝(佐倉)、本多政朝(大多喜)內藤政長(勝山)、高力忠房(岩槻)、酒井忠利(川越)、鳥居成次(谷村)、眞田信幸(上田)、小笠原忠眞(松本)等の諸侯あり。

(三)箱根以西京畿地方には、德川賴宣(駿府)、水

一一四	中御門	二六	二三七〇 二三九五	寶永 一 正德 五 享保 二〇
一一五	櫻町	二	二三九六 二四〇六	元文 五 寛保 三 延享 三

野重仲(濱松)、松平忠利(吉田)、本多廣紀(岡崎)德川義直(名古屋)、菅沼忠隆(加納)、德永重昌(高須)、石川忠總(大垣)、前田利光(金澤)、松平忠直(福井)、本多忠政(桑名)、藤堂高虎(津)、古田重治(松坂)、九鬼守隆(鳥羽)、井伊直孝(彥根)水野勝成(郡山)、淺野長晟(和歌山)、小出吉英(岸和田)、松平忠明(大阪)等の諸侯あり。

(四)中國には有馬豊氏(福知山)、京極高知(宮津)小出吉親(出石)、池田利隆(姫路)、池田忠雄(岡山)、森忠政(津山)、池田長幸(鳥取)、關一政(黒坂)、堀尾忠晴(松江)、福島正則(廣島)、坂崎眞盛(津和野)、毛利秀就(萩)、毛利秀元(長府)、等の諸侯あり。

(五)四國には生駒正俊(高松)、蜂須賀至鎭(德島)山内忠義(高知)、加藤嘉明(松山)、伊達秀宗(宇

代	天皇	年数	即位紀元	年号
一一六	桃園	一六	二四〇七 二四二三	延享一 寛延三 寶曆一二
一一七	後櫻町	八	二四二三 二四三〇	寶曆一 明和七

和島)等の諸侯あり。

(六)九州には、細川忠興(小倉)、黑田長政(福岡)、寺澤廣高(唐津)、松浦隆信(平戶)、鍋島直茂(佐賀)、田中忠政(久留米)、木下延俊(日出)、加藤忠廣(熊本)、中川久盛(竹田)、稻葉典道(臼杵)、有馬直純(縣)、秋月胤長(財部)、島津忠興(佐土原)、伊東祐慶(飫肥)、島津家久(鹿兒島)、宗義成(對馬)等の諸侯あり。

以上は三万石以上の諸侯をあげしものにて是等は皆親藩、譜第、外樣等に分れ居ることは皆人の知る所なりとす。猶以上の內三十万石以上の大諸侯の名をあぐれば、伊達氏(仙臺)、最上氏、上杉氏、蒲生氏、松平氏(高田)、德川氏(駿府)、德川氏(名古屋)、前田氏、松平氏(福井)、淺野氏、池田氏(姬路)、池田氏(岡山)、福島氏、毛利

代	天皇	在位	皇紀	年號
一二八	後桃園	九	二四三一 二四三九	明知一 安永八
一二九	光格	三七	二四四〇 二四七六	安永一 天明八 寬政一二 享和三 文化一三

氏(萩)、細川氏、黑田氏、鍋島氏、田中氏、加藤氏(熊本)、島津氏(鹿兒島)等の諸氏なり。

○德川時代諸侯の移封、及び封祿の增減等は、今一々述べ盡す能はず。唯有名なる氏族にして或は全く絕滅し、或は大に減封せられ僅かに其祀を存するものの大略を左に述べんとす。

先づ元和以前に溯り、豐臣時代の諸氏中有名なるものにして滅亡又は大に衰微したるものを擧ぐれば、慶長五年關ヶ原の戰の結果として、織田秀信、浮田秀家、石田三成、小西行長、長曾我部盛親、毛利秀包、宮部繼潤、石河貞淀、大谷吉隆、丹羽長昌、長束正家、森勝信、木下勝俊等の諸氏は、皆國を除かれたり。又當時其封土を減削せられたるものも多し。

次に慶長五年以後、元和元年までの間にて其

代	天皇	在位	紀元	年號
三〇	仁孝	三〇	二四七七 二五〇六	文化一 文政一二 天保一四 弘化三
三一	孝明	二一	二五〇七 二五二七	弘化一 嘉永六 安政六 万延一 文久三 元治一 慶應三

封を失ひたる有名のものをあぐれば、小早川秀秋、筒井定次、中村忠一、堀忠俊、平岩親吉、富田知信、石川康長、高山長行、豊臣秀頼等の諸氏なり又元和以後削封せられたる有名のものをあぐれば、松平忠輝、福島正則、田中吉政、最上義俊蒲生忠郷、菅沼忠重、加藤忠廣、堀尾忠晴、生駒高俊、加藤明成等の諸氏なり。猶德川氏の一族にして除封せられたる著名氏族多きも、これを略せり。

○次に元和以後澎脹して有力となれる諸氏、例へば會津の松平氏、柳澤氏の如きものを始めとし、猶あれどもこれも缺略する事とせり。又德川季世諸侯配置を述べ、これを元和の始めに比較する時は變遷の大略を知るを得れどもこれも省略することとせり。

三	明治	四五	二五二八 二五七三	明治	四五

時代と氏族 終

附録の二

名乘の讀み方

名乘は、姓氏とは、直接に關係なければども、各姓氏の先祖等を述ぶるに於ては、また必要なるものとす。但し名乘は、唯名乘字引等によりて勝手に讀むべきものにあらず、必ず其據り所なかるべからず。さればこそ、三成を「ミツナリ」とよむとか、「カズシゲ」とよむとか、又信雄を「ノブヲ」とよむとか「ノブカツ」と讀むとか、色々の說も起るなれ。然れども、また名乘字の普通の讀み方を大體心得居るも要用の事なりとす。故に玆には初學者の便をはかり、一般名乘字の讀み方を字畫の順序により示すこととせり。

【一畫】
一（イツ）カズ　タニ
乙（イツ）オト　ツグ　フギ

【二畫】
二（ジ）ツギ　ツグ
人（ジン）ヒト　サネ
入（ニフ）イル
又（イウ）マタ　ヤス
了（レウ）ノリ

【三畫】
士（シ）ヒト
大（タイ）オホ　トモ
子（シ）タネ　チカ　タダ　サネ
寸（スン）チカ
尸（シ）タカ　シカ
山（サン）ヤマ　タカ
工（コウ）ノリ
己（キ）コレ　スヱ
干（カン）モト　ホス
三（サン）ミツ　カズ
下（カ）モト
上（シャウ）カミ　タカ　ヒサ
丈（ヂヤウ）トモ　タケ
万（バン）カズ
丸（グワン）マル
也（ヤ）ナリ　マタ
之（シ）コレ　クニ　ユキ　ノブ
于（ウ）ユキ
兀（コツ）タカ
凡（ハン）チカ
千（セン）チ　ユキ
久（キウ）ヒサ　ヒサシ
川（セン）カハ
已（イ）コレ　スヱ
才（サイ）モチ　カタ

【四畫】
戈（クワ）モチ　カタ
戸（コ）カド
手（シュ）テ
支（シ）エダ
文（ブン）ブン　フミ　ノリ
斗（トウ）マス
斤（キン）ノリ
方（ハウ）カタ　ヨリ　ノリ　マサ
曰（ヱツ）ノリ
木（ボク）キ　シゲ
止（シ）タダ
比（ヒ）コレ　チカ　トモ　ナミ
毛（バウ）ケ
氏（シ）ウヂ
水（スヰ）ミヅ　ミ　チ
父（フ）チチ　ノリ
片（ヘン）カタ
牛（ギウ）トシ　ウシ
中（チウ）ナカ　アツ
丰（ボウ）タカ
丹（タン）アキラ
五（ゴ）ユキ　カズ
云（ウン）トキ　ヒト　コレ
亢（カウ）タカ　アツ
仍（ジョウ）ヨリ　アツ　ナホ
仁（ジン）ヒト　サネ　キミ
介（カイ）スケ　ユキ　ヨシ
今（キン）イマ
元（ゲン）モト　チカ　ユキ
允（イン）チカ　マサ　ミツ
内（ダイ）チカ　マサ　ミツ
公（コウ）キミ　キン　トモ　タダ
分（ブン）チカ
化（クワ）ノリ
匹（ヒツ）トモ
升（ショウ）ノリ
卞（ベン）ノリ
卯（バウ）シゲ
友（イウ）トモ　スケ
天（テン）タカ
太（タイ）フト　タカ　モト
夫（フ）フ　ヲ
孔（コウ）ミチ
少（セウ）マレ　ヲ
尺（セキ）カネ
尹（イン）タダ　カミ　マサ
市（フツ）ナカ
引（イン）ノブ　ヒデ
王（ワウ）キミ　キン

【五畫】

玄（ゲン）クロ ハルカ トヲ ツ子　甘（カン）ヨシ　生（セイ）ナリ イク フ タカ　用（ヨウ）モチ ナカ　田（デン）タヾ　白（ハク）アキラ アキ キヨ　目（ボク）ヨリ メ ミ　矛（ボウ）タグ　矢（シ）タヾ ナチ

石（セキ）イハ カタ アツ　示（シ）シメ トキ ミ　穴（ケツ）コレ　立（リツ）タツ　世（セイ）ヨ　丘（キウ）オカ タカ　且（シヨ）カツ　丕（ヒ）ヒロ　主（シユ）ヌシ ス　乍（サ）ハヤ　以（イ）モチ ユキ サ子 コリ

代（ダイ）ヨ ノリ　令（レイ）ヨシ ノリ ハル　仗（チヤウ）ヨリ　仕（シ）ツカフ　仙（セン）ノリ　兄（ケイ）シゲ ヨシ タヾ　冬（トウ）フユ　功（コウ）ナル ノリ アツ カタ　加（カ）マス ク　包（ハウ）カ子 カタ カツ シゲ　半（ハン）ナカ

卯（ボウ）シゲ　去（キヨ）ナル　可（カ）ヨシ　司（シ）モリ　史（シ）フミ ヒト チカ　召（セウ）ヨシ　古（コ）フル ヒサ　右（イウ）ミギ アキ スケ コレ　只（シ）タヾ　叶（ケフ）ヤス　外（グワイ）トヲ

央（イヤウ）ナカ チカ ヒサ テル　尼（ジ）チカ サダ タヾ　巨（キヨ）オホ ナヲ　左（サ）スケ　布（ホ）ノブ　平（ヘイ）ナリ ヒラ モチ　幼（イウ）ワカ　弘（コウ）ヒロ　必（ヒツ）サダ　旦（タン）アキ　本（ホン）モト

未（ビ）マス ミ　末（バツ）スヱ ヒデ　正（セイ）マサ タヾ・ミ サダ　氏（テイ）ユキ モト　民（ミン）タミ ヒト　永（エイ）ナガ ヒサ ノリ　氾（ハン）ヒロ　甲（カフ）ノブ　由（イウ）ヨシ ヨリ ユキ　申（シン）ノブ

【六畫】

竹（チク）タケ　老（ラウ）トシ オヒ　而（ジ）ユキ シカ ナヲ　聿（イツ）コレ ノブ　臣（シン）オミ トミ　自（ジ）ヨリ ヨシ サダ　至（シ）ム子 ヨシ ユキ ノリ　艮（ゴン）カタ タヾ ウシ　行（カウ）ユキ ツラ ヤス ヒラ

亦（エキ）アカ　交（カウ）カタ アフ　伊（イ）コレ コシ　任（ジン）タフ タヾ ヒデ　伐（バツ）ノリ　企（キ）モト　仰（ギヤウ）モチ　休（キウ）ヤス ヨシ　价（カイ）トモ ヨシ　先（セン）ユキ　兆（テウ）ヨシ

充（ジユウ）ミチ ミツ アツ ミツル　光（クワウ）ミツ アキラ テル アリ　全（ゼン）マタ マサ アキラ タケ　共（キヤウ）トモ　列（レツ）ツラ ノブ　刑（ケイ）ノリ　匠（シヤウ）ナル　匡（キヤウ）マサ タヾ　印（イン）オキ　名（メイ）ナ カタ アキラ　合（カフ）アフ アヒ

向（キヤウ）ヒサ　吉（キツ）ヨシ　后（コウ）キミ ノチ ミ　同（トウ）アツ トモ ヒトシ　吏（サ）サト　因（イン）ヨリ ナミ ヨシ　在（ザイ）アリ アキラ ミツル アキ　地（チ）クニ ツチ　多（タ）カズ マサ　夙（シユク）アサ ツト ハヤ トシ　夷（イ）ヒナ

如 ジョ ユキ ナホ スケ　好 カウ ヨシ タカ　存 ソン ノブ ノリ アリ ナガ　字 ジ ナ子　安 アン ヤス サダ　宅 タク イヘ　守 シュ モリ カミ サ子　宇 ウ ノキ　州 シウ クニ　年 子ン トシ　并 ヘイ カツ

式 ショク ノリ ツ子 モチ　戍 ジュ モリ チル　扞 カン モリ　收 シウ サ子 ナラ ノブ ナカ　早 サウ ハヤ サキ　旬 ジュン タヾ トキ ヒラ マサ　旨 シ ム子 ヨシ　旭 キョク アキラ　曲 キョク クマ　曳 エイ ノブ　有 イウ アリ モチ ナリ ナヲ

朴 ボク ナヲ　朶 ダ エダ　次 シ ツグ ツギ　此 シ コレ　江 コウ キシ エ　汜 シ ヒロ　汎 ハン ヒロ　牟 ム モト マス　百 ヒャク モヽ　考 カウ ナリ タヾ チカ トシ　艾 カイ ヤス ヨシ

西 セイ アキ　阡 セン ミチ ウ子

【七畫】

見 ケン ミ アキラ チカ　角 カク スミ　言 ゲン トキ ノブ ユキ ノリ　谷 コク ヒロ　赤 セキ アカ　足 ソク ユキ アシ タル　身 シン ミ チカ　車 シャ ノリ　辰 シン トキ タツ ヨシ

邑 イフ ムラ クニ サト　酉 イウ トリ ナガ　里 リ サト ノリ　亨 カウ ユキ ミチ アキラ　位 ヰ ノリ タカ クラ ヒラ　伺 シ ノブ ミ　但 タン タヾ　伴 ハン トモ スケ　似 ジ チカ ツ子 ノリ　住 ジウ スミ ヨシ モチ　作 サク ナリ アリ ナヲ

伯 ハク ノリ　伸 シン ノブ　佐 サ スケ　佑 イウ スケ　伾 ヒ ミツ　克 コク カツ ヨシ　兌 タイ ミツ　兵 ヘイ タケ　別 ベツ ワケ ワク ノブ　判 ハン サダ　删 サン サダ

利 リ トシ ヨリ カツ　助 ジョ スケ マス　君 クン キミ キン ナチ　告 コク ツグ　呂 リョ オト ナガ　吹 スヰ カゼ　呈 テイ シメ　含 ガン モチ　壯 サウ タケ　妙 メウ タヘ タフ タヾ　研 ケン ヨシ ヤス

妥 ダ ヤス　孝 カウ タカ ヨシ ノリ　孚 フ サ子　孜 シ アツ　宋 ソウ ヲキ　完 クワン サダ マタ　宏 クワウ ヒロ　尾 ビ ヲ スヱ　局 キョク チカ　岑 シン ミ子　巡 ジュン ミツ ユキ

希 キ マレ　序 ジョ ツグ ツギ ツ子　廷 テイ タカ タヾ　延 エン ノブ スケ　形 ケイ ナリ カタ カタチ ミ　役 エキ ツラ　彷 ハウ ユキ ヤス　志 シ モト ユキ　快 クワイ ヨシ ヤス　成 セイ シゲ ナリ ヒラ アキ　抑 ヨク アキラ

- 投（トウ）ユキ
- 扶（フ）スケ モト
- 抄（サウ）アツ
- 技（ギ）アヤ
- 抵（テイ）ヤス
- 攻（コウ）セム タカ ヨシ
- 旱（カン）アツ テル
- 更（カウ）ツグ トヲ
- 村（ソン）ムラ
- 材（サイ）キ
- 束（ソク）ツカ

- 杖（ヂヤウ）モチ
- 杜（ト）アリ
- 毎（マイ）ツネ カツ
- 求（キウ）モト ヤス
- 沃（ヨク）ウル ヌル
- 沖（チウ）ヲキ
- 牢（ラウ）タカ クラ カタ
- 甫（ホ）トシ モト
- 男（ダン）ヲ
- 町（チヤウ）マチ
- 秀（シウ）ヒデ

- 究（キウ）サダ ミ
- 系（ケイ）イト
- 糺（キウ）タダ
- 罕（ニン）マレ
- 肖（セウ）スヱ ノリ
- 良（リヤウ）ヨシ ナガ スケ フミ
- 迂（ウ）トホ
- 那（ナ）トモ
- 邦（ハウ）クニ
- 阮（カウ）タカ

【八畫】

- 金（キン）カネ キン
- 長（チヤウ）ナガ ヲサ ヒサ タケ
- 門（モン）カド ユキ
- 雨（ウ）フル シ
- 事（ジ）ワザ
- 亞（ア）ツグ
- 亟（キヨク）トシ カズ
- 京（ケイ）タカ
- 享（キヤウ）タカ

- 依（イ）ヨリ
- 來（ライ）キ クル
- 佳（カ）ヨシ カ
- 兩（リヤウ）モロ
- 典（テン）スケ ツネ ノリ
- 具（グ）トモ
- 刻（コク）トキ
- 初（シヨ）ハツ モト
- 制（セイ）スケ
- 刹（セツ）テラ
- 協（ケフ）ヤス

- 卓（タク）タカ ツナ
- 厔（シツ）イヘ
- 受（ジユ）ツグ
- 取（シユ）トル
- 叔（シユク）ヨシ
- 和（クワ）カズ マス ヤス タカ
- 命（メイ）ノブ ヨシ ノリ モリ
- 呼（コ）コヱ オト ヨブ
- 味（ミ）ニカ
- 固（コ）カタ
- 坦（タン）ヒロ ヤス アキラ

- 夜（ヤ）ヤス
- 奉（ホウ）トモ
- 奇（キ）ヨリ
- 奄（エン）ヒサ
- 委（ヰ）ツグ トモ モロ
- 孤（コ）カズ トモ
- 季（キ）スヱ ヒデ
- 孟（マウ）モト タケ
- 宗（サウ）ムネ トキ
- 定（テイ）サダ ヤス
- 官（クワン）ヒロ

- 宓（ヒツ）ヤス
- 尙（シヤウ）ヒサ ナホ マス タカ
- 居（キヨ）ヲキ ヤス
- 岳（ガク）タカ ヲカ
- 岡（カウ）ヲカ
- 帖（テフ）サダ タダ
- 幸（カウ）ユキ ヨシ タツ トシ
- 庚（カウ）ツグ
- 底（テイ）サダ
- 府（フ）クラ モト
- 彼（ヒ）ノブ

- 征（セイ）ユキ
- 往（ワウ）ユキ ヒサ ノリ
- 徂（シヨ）ユキ
- 忠（チウ）タダ ナル
- 性（セイ）ナリ
- 忽（コツ）タダ
- 怪（クワイ）ヨシ ヤス
- 所（シヨ）ノブ
- 房（ハウ）フサ
- 抵（テイ）ユキ ヤス アツ
- 承（シヨウ）ヨシ ツグ

- 抱（ハウ）モチ
- 拔（バツ）ヌク
- 招（セウ）アキ
- 披（ヒ）ヒラ
- 放（ハウ）ヲチ ユキ
- 政（セイ）マサ ノリ タダ ノブ
- 明（メイ）アキ アキラ ハル ミツ
- 易（エキ）ヤス カネ
- 昆（コン）ヤス スケ
- 昌（シヤウ）マサ スケ ヨシ
- 旻（ビン）トフ アキラ

昇 シヤウ ノリ ノボル	昂 カウ タカ アキラ	昔 セキ ヒサ トキ	服 フク コト ユキ	朋 ハウ トモ	松 ショウ マツ	杲 カウ アキラ	枚 マイ カズ ヒラ	杪 セウ スヱ	枝 エダ エダ シゲ	林 リン モト キミ シゲ
武 ブ タケ ヒコ	波 ハ ナミ	治 ヂ ハル	法 ハウ ノリ	河 ガ カハ	泠 レイ ホヨ	炊 スイ トギ トゲ	物 ブツ タダ	状 ジヤウ ノリ カタ	的 テキ アキラ マサ	直 チヨク ナホ タダ ナヲシ
知 チ トモ ノリ チカ	社 シヤ タカ	空 クウ タカ	穹 キウ タカ	糾 キウ タダ	肩 ケン カタ	育 イク ヤス	肥 ヒ トモ トミ	芬 フン カ	芳 ハウ フサ ヨシ カ	芝 シ シバ
虎 コ トラ	表 ヘウ スヱ ヨシ	近 キン チカ モト	返 ヘン ノブ	阿 ア クマ	附 フ マス ヨリ					
【九畫】		面 メン ツラ	音 オン オト ナリ	風 フウ カゼ	飛 ヒ タカ	首 シユ カミ	香 カウ カ	亮 リヤウ スケ アキラ	便 ベン ヤス	信 シン ノブ サネ アキラ
保 ホウ ヤス モリ	俗 ゾク ヨ	促 ソク ユキ	俊 シユン トシ	侶 リヨ トモ	前 ゼン サキ チカ	則 ソク ノリ トキ	勉 ベン ヤス カツ	勃 ボツ ヒロ	勅 チヨク トキ	勇 ユウ イサ
即 ソク ヨリ アツ	庖 ハウ アツ	厚 コウ アツ	叙 ジヨ ノブ	品 ヒン カズ タダ	咨 シ コト	咸 カン ミナ シゲ	囿 イウ ソノ	契 ケイ ヒサ	威 ヰ タケ	室 シツ イヘ
宣 セン ノブ ノリ ヨシ	宥 イウ ヒロ	客 カク ヒト	巷 カウ サト	帝 テイ タダ	度 ド ノリ ナカ	庠 シヤウ アキラ	建 ケン タケ タテ	弭 ビ ヤス	彦 ゲン ヒロ ヨシ	律 リツ ノリ
後 コウ ノチ チカ	待 タイ マツ マチ	恬 テン ヤス	恒 コウ ツネ ノブ チカ	恃 ジ ヨシ	恂 ジユン	持 ヂ モチ ヨシ	拯 シヨウ スケ	指 シ ムネ	故 コ フル ヒサ モト	施 シ モチ ノブ
春 シユン ハル アツ	是 シ コレ ユキ	昭 セウ アキ テル アキラ	映 エイ テル	昵 ヂツ チカ	昶 チヤウ ノブ アキ	柔 ジウ ナリ	柄 ヘイ モト エ	架 カ ミツ	柯 カ エダ モト	柴 サイ シバ

殆（タイ）チカ　毗（ヒ）マナ ノブ スケ　洋（ヤウ）ヒロ　活（クワツ）イク　洞（トウ）ヒロ アキラ　洗（セン）キヨ　洽（カフ）トテ　狩（シウ）カリ モリ　珍（チン）ヨシ ハル クニ　盈（エイ）ミツ ミチ ミテ アリ　相（シヤウ）ミ スケ アフ アキラ

省（セイ）ヨシ ミツ　禹（ウ）ノブ　秋（シウ）アキ トキ　科（クワ）シナ　紀（キ）ノリ トシ タダ キ　紅（コウ）イロ　美（ビ）ヨシ ミツ トミ　耐（タイ）タフ　胤（イン）タネ ツグ ツギ　胡（コ）ヒサ　致（チ）ムネ ユキ ヨシ

范（ハン）カタ　苑（エン）ソノ　茂（モ）シゲ モチ モト　英（エイ）フサ ヒデ ツネ　苞（ハウ）モト　衍（エン）ノブ ミツ　要（エウ）トシ　計（ケイ）カズ　訂（テイ）タダ　貞（テイ）サダ　赴（フ）ユキ ハヤ

軌（キ）ノリ　述（シユツ）ノリ ノブ　迪（テキ）ミチ タダ　迴（ケイ）トホ　郊（カウ）ヒロ ヲカ　重（チヤウ）シゲ

【十畫】

馬（バ）ウマ　高（カウ）タカ タケ アキラ　鬼（キ）オニ　乘（ジヨウ）ノリ　倉（サウ）クラ　倶（グ）トモ モロ　倣（ハウ）ヨリ　倫（リン）トモ ノリ ツグ　倍（バイ）マス

倭（イ）カズ フサ　修（シユウ）ナガ ノブ　俶（シユク）ヒデ　倩（セン）ヨシ　候（コウ）ヨシ キヨ　兼（ケン）カネ カタ トモ　涼（リヤウ）スケ　剛（カウ）カタ ヨシ タカ タケ　原（ゲン）モト　哲（テツ）ノリ　哥（カ）ヨシ

城（ジヤウ）キ クニ ムニ　夏（カ）ナツ　套（タウ）ナガ　娟（ケン）ヨシ　孫（ソン）マゴ タダ サネ　宮（キウ）イヘ　家（カ）イエ ヤス　容（ヨウ）カタ ヨシ ヤス カズ　晏（エン）ヨシ　宸（シン）ノキ トホ　射（シヤ）イル

屑（セツ）キヨ カル　峻（シユン）タカ ミネ　峰（ホウ）ミネ　差（サ）スケ シナ　師（シ）モロ ノリ ミツ　席（セキ）ヤス ノブ スケ ヨリ　座（ザ）ヲキ クラ　庫（コ）クラ　庭（テイ）ニハ ナホ　徒（ト）トモ　徐（ジヨ）ヤス

徑（ケイ）ミチ　恩（オン）ヲキ　息（ソク）ヤス オキ　恭（キヨウ）スケ ヤス ユキ タカ　恕（ジヨ）ノリ ヒロ ヨシ　悦（エツ）エツ　悃（コン）マサ　挾（ケフ）モチ　拏（ジヨ）モチ　敉（ビ）ヤス　料（レウ）カズ

効（カウ）ノリ カタ　時（ジ）トキ ユキ コレ　宴（アン）ヤス　晉（シン）ユキ クニ　書（シヨ）フミ ノリ ノブ　根（コン）モト ネ　校（カウ）ナリ トシ　栗（リツ）クヤ　栖（セイ）スミ　格（カク）タダ ノリ　桓（クワン）タケ

株 シユ　モト　ヨリ
桐 トウ　キリ　ヒサ
核 カク　サ子
殊 シユ　ヨシ
殷 イン　シゲ　タカ
氣 キ　トキ　キ
浪 ラウ　ナミ
流 リウ　ハル　トモ　シク
海 カイ　ウミ　ミ
浮 フ　チカ
泰 タイ　ヤス　ヨシ　ヒロ

浩 カウ　ヒロ
浦 ホ　ウラ
烈 レツ　ヤス
烝 ジヨウ　アツシ　トシ
茲 ジ　コレ
畜 チク　マス
眞 シン　サ子　マサ　チカ　マ
益 エキ　マス
矩 ク　ノリ　ツ子
祕 ヒ　ヤス　ミ
祐 イウ　スケ

祝 シク　トキ　ノリ
秦 シン　ハタ　クニ
竝 ヘイ　ナミ　ミツ
納 ナウ　ノリ
素 ソ　モト
索 サク　モト
純 ジユン　スミ　モト　ヨシ　タフ
紓 ジヨ　ノブ
紐 チウ　ヒボ
翁 ヲウ　オイ
翅 シ　ノブ　スケ

耿 カウ　アキラ
能 ノウ　ヨシ　トウ
胸 キヨウ　ムネ
荐 セン　カズ
袁 エン　ナガ
記 キ　ノリ　フサ
託 タク　ノリ
訓 クン　ノリ　クニ
起 キ　ユキ　フキ　カズ
軒 ケン　ノキ
送 ソウ　オク

追 ツイ　オフ
郡 グン　クニ　モト
配 ハイ　トモ　モツ
酒 シユ　サカ
陛 ヘイ　ヨリ　ノリ
陣 ヂン　ノブ
陞 シヨウ　ノリ
陟 チヨク　タダ　タカ
隼 ジユン　ハヤ　トシ
隻 セキ　カタ

【十一畫】

麻 マ　アサ
偶 グウ　トモ　マス
偕 カイ　トモ
健 ケン　タケ
偉 イ　ヨリ
偃 エン　ノブ
副 フク　スケ　スヒ
勘 カン　サダ
參 サン　ナカ　チカ

唯 イ　タダ
商 シヤウ　アキ
啓 ケイ　ヒロ　ヒラ　アキラ
國 コク　クニ　トキ
基 キ　モト
堅 ケン　カタ
執 シフ　モリ
堂 タウ　タカ
培 バイ　マス
寅 イン　トラ　トモ
宿 シユク　スミ

寄 キ　ヨリ
寂 セキ　ヤス
專 セン　モロ
將 シヤウ　マサ　モチ　スケ　ノブ
崇 シユウ　タカ
崔 サイ　タカ
常 ジヤウ　ツ子
帳 チヤウ　ハル
庶 シヨ　チカ　モロ　モリ
庸 ヨウ　ツ子　モチ　ノブ
康 カウ　ヤス　ミチ

張 チヤウ　ハル
强 キヤウ　コハ
得 トク　ノリ　アリ　ナリ
從 ジユウ　ヨリ
御 ギヨ　ノリ　テル　ミツ
悠 イウ　ナガ
惟 ヰ　コレ　タダ　ノブ
戞 カツ　ホコ　ノリ　ツ子
掃 サウ　ノブ
掖 エキ　スケ
捷 セフ　カツ　トシ

捧 ホウ　タカ
掠 リヤク
教 ケウ　ノリ　ミチ　カタ
敕 チヨク　タダ
敏 ビン　トシ
救 キウ　スケ　ナリ　ヤス　モリ
旆 ハイ　ハタ
旣 キ　ツキ
晝 チウ　アキラ
晨 シン　アキ　トキ
曹 サウ　ヨシ　イヘ

望（バウ）モチ　朗（ラウ）アキラ　梁（リヤウ）ヤナ　條（デウ）エダ　梢（セウ）スヱ　深（シン）フカ ミ　混（コン）ヒロ ムラ　淸（セイ）キヨ スミ　淵（エン）フチ ナミ　淨（ジヤウ）キヨ　淹（エン）ヒサ

淳（ジユン）アツ　淑（シユク）ヨシ ヒデ　液（エキ）スケ　淀（テン）ヨド　添（テン）マス　牽（ケン）トシ トキ　猛（マウ）タケ　率（シユツ）ノリ　理（リ）マサ タヾ ヨシ　現（ゲン）アリ ミ　產（サン）タヾ

皎（カウ）アキラ　眷（ケン）ミ　祥（シヤウ）ヨシ ナカ　移（イ）アキ ノブ ヨリ　章（シヤウ）アキ アキラ ユキ フミ　第（テイ）ツギ クニ　累（ルイ）タカ　終（シユウ）ツギ ノチ　紹（セウ）ツグ ツギ　絃（ゲン）フサ ヲ　翌（コク）アキラ

脩（シユウ）ナカ ナラ ノブ モロ　船（セン）フネ　莫（バク）サダ ナカ トシ トホ　莊（シヤウ）コン　莅（リ）モト　處（シヨ）スミ ヤス ヲキ　術（ジユツ）ミチ ヤス　被（ヒ）マズ　袍（ハウ）ウヘ　規（キ）ノリ タヾ キ　設（セツ）アキ ノブ

許（キヨ）モト　訪（ハウ）コト　貫（クワン）ツラ　速（ソク）ハヤ　造（ザウ）ナリ　連（レン）ツラ マサ ツギ　通（ツウ）ミチ ナラ ユキ　途（ト）ミチ トホ　逗（トウ）スム　逞（テイ）トシ　逢（ホウ）アフ

郭（クワク）ヒロ　野（ヤ）トホ ノ ナホ　陰（イン）カゲ　陸（リク）ミチ　陪（バイ）スケ マス　陳（チン）ノリ ムネ ノブ ツラ　陶（タウ）スヘ ヨシ　雪（セツ）ユキ キヨ　頂（チヤウ）カミ

【十二畫】

黃（クワウ）キ　黑（コク）クロ　傍（ハウ）カタ　備（ビ）マサ タル トモ　傅（フ）スケ　倣（ハウ）ノリ　凱（ガイ）ヨシ　剩（ジヨウ）ノリ　勝（シヨウ）カツ タウ ヨシ

博（ハク）ヒロ　喜（キ）ヨシ　啻（シ）タヾ　善（ゼン）ヨシ　喬（ケウ）タカ ヒト　單（タン）タヾ　圍（ヰ）モリ　堯（ゲフ）タカ　報（ハウ）ツグ　堪（カン）タフ ヒデ　壹（イツ）カズ

奢（シヤ）ハル　奠（テン）サダ　富（フ）トミ ヨシ ヒサ　寓（グ）ヨリ ヨル　寔（シヨク）タヾ マコト コレ　尊（ソン）タカ　尋（ジン）ヒロ ノリ ツネ　就（シウ）ナリ　巽（ソン）カゼ　幾（キ）チカ フサ　弼（ヒツ）スケ ノリ

彭（ハウ）チカ　復（フク）マタ ナホ アキラ　徧（ヘン）ユキ　惠（ケイ）ヨシ シゲ ヤス　握（アク）モチ　援（エン）スケ　揚（ヤウ）アキ　換（クワン）ヤス　揭（ケイ）ナガ　揉（ジウ）ノブ　敞（シヤウ）ヒサ

敦（トン）アツ
散（サン）ノブ
斐（ヒ）アヤ　アキラ
斯（シ）コレ
智（チ）トモ　トシ　ノリ
景（ケイ）カゲ
晴（セイ）ハル　ハレ　ナリ
普（フ）カタ
晷（キ）カゲ　カズ
曾（ソウ）ナリ　マス
最（サイ）ヨシ　イヘ

期（キ）サ子　トキ
朝（テウ）トモ　アサ　トキ　ノリ
植（シヨク）タ子　ナヲ
棲（セイ）スミ
棟（トウ）ム子　ミ子
森（シン）モリ　シゲ
棹（タウ）サホ
棐（ヒ）スケ
欽（キン）ウヤ
殖（シヨク）タ子　ナカ
湯（タウ）ノリ

測（ソク）ヒロ
渠（キヨ）ヒロ
渡（ト）タヾ
溫（ヲン）アツ　ハル
渥（アク）アツ
湛（タン）キヨ　ヤス
焯（シヤク）アキラ
爲（井）タメ　ナリ　スケ　ヨリ
猶（イウ）ナホ　ヨリ　サ子
琴（キン）コト
番（バン）ツラ　ツグ　ツギ

異（イ）ヨリ
發（ハツ）ノブ　アキラ　ヲキ
登（トウ）タカ　ナリ　トリ
睆（クワン）キヨ
皓（カウ）ツグ　テル　アキラ
盛（セイ）モリ
稀（キ）マレ
稍（セウ）ヤヽ
程（テイ）ノリ　シナ
童（トウ）ワカ
等（トウ）トモ　トシ　ヒトシ

筒（トウ）マル　ツヽ
策（サク）カズ
統（トウ）ム子　ツナ
絕（ゼツ）タフ
給（キフ）タリ
結（ケツ）カタ
絲（シ）タヘ
絜（ケツ）トヨ
絡（ラク）ツラ
絮（ジヨ）シゲ
腆（テン）アツ

舒（ジヨ）ノブ　ユキ
萃（スヰ）アツ
菊（キク）アキ　キク
衆（シユウ）モロ　モリ
視（シ）ミ
觚（コ）カド
詔（セフ）ツグ
詗（ケイ）サト
詞（シ）ノリ
評（ヒヤウ）タヾ
診（シン）ミ

詁（コ）ノリ
詖（ヒ）サト　サトシ
象（シヤウ）カタ　ノリ
貴（キ）タカ　ヨシ　アツ
貳（ジ）スケ
賀（ガ）ヨシ　ノリ　シゲ
費（ヒ）モチ
貸（タイ）カス
貯（チヨ）モル
貼（テフ）ヨシ　ナヲ
賁（ホン）ヨシ

貲（シ）ヨシ　タカ
超（テウ）ヲキ
進（シン）ノブ
逸（イツ）ハヤ　トシ
逵（キ）ミチ
逭（クワン）ヤス
都（ト）クニ　サト
量（リヤウ）カズ　トモ
開（カイ）ハル
閑（カン）ヤス　ノリ
隆（リウ）タカ　ヲキ

陽（ヤウ）ハル　アキ　キヨ
階（カイ）ヨシ　ハル
隅（グ）スミ　カド
雄（イウ）カツ　タケ　ヲ
集（シウ）チカ　タカ
雅（ガ）マサ　ツ子　ノリ　タヾ
雲（ウン）クモ
順（ジユン）ノブ　ヨシ　ヨリ　ム子
須（シユ）モチ　マツ
馮（ヒヨウ）ヨリ
馭（ギヨ）ノリ

【十三畫】

傳（デン）タヾ
勤（キン）ツトム　ノリ
嗣（シ）ツグ　ツギ
嗜（シ）タシ
圓（エン）マト　カズ　ミツ
園（エン）ソノ
塡（テン）ミツ　マス　ヤス　サダ
塗（ト）ミチ
奧（アフ）ウチ　スミ

嵩 シユウ タカ
幹 カン モト ヨシ マサ ツ子
廉 レン カド ユキ
彙 イ シゲ
微 ビ マレ
意 イ チキ ム子 モト ヨシ
愼 シン ノリ チカ ミツ
愛 アイ ヨシ チカ ツ子
愈 ユ マス マサ
慊 ケン ミツ ヨシ ヤス
愷 ガイ ヤス ヒデ

戡 カン タフ
敬 ケイ ヨシ ヒロ タカ ノリ
斟 シン マス
新 シン ヨシ
署 シヨ アツ
會 クワイ アフ モチ サダ カズ
業 ゲフ ナリ ワザ ノブ
楊 ヤウ ヤス
楚 ソ タカ
楷 カイ ノリ
歲 サイ トシ

殿 デン アト スヱ
源 ゲン モト
溢 イツ ミツ
溜 リウ タリ
滂 ハウ アワ
滋 ジ シゲ フサ
照 セウ テル ノブ ミツ
熙 キ ヒロ テル テキ
瑗 エン ミツ テル タマ
當 タウ マサ アツ
督 トク タヾ スケ マサ

睢 スヰ タヾ
祿 ロク ヨシ
稚 チ ワカ
稔 シン トシ
稜 ロウ カド
靖 セイ ヤス ノブ
筭 サン カズ トモ
粲 サン アキラ
經 ケイ ツ子 ノブ ノリ
絹 ケン マサ
置 チ オキ アズ

羣 グン トモ
義 ギ ヨシ ノリ
羨 セン ヨル ノブ
肅 シユク カ子 カタ トシ
葉 エフ ノブ
萬 マン カズ タカ ツム
葛 カツ クヅ
著 チヨ ツク ツキ アキ アキラ
董 トウ タヾ ノブ マサ
虞 グ スケ モチ ヤス
裔 エイ スヱ

補 ホ スケ
詳 シヤウ ミツ ツマ
試 シ モチ
詮 セン アキ ノリ アキラ サト
詢 ジユン トフ
該 ガイ モリ カ子 カズ
詣 ケイ ユキ
資 シ スケ ヨリ タヾ モト
路 ロ ミチ
較 カウ アツ トテ
載 サイ コト トシ ノリ

農 ノウ アツ
運 ウン カズ ユキ
道 ダウ ミチ ツ子 ノリ
遐 カ ナカ トヲ
達 タツ ミチ タツ
遒 シユウ カズ
遊 イウ ユキ
遇 グウ アフ
遄 セン ユキ トシ
鄕 キヤウ サト
酬 シウ アツ

鉅 キヨ オホ
隗 クワイ タカシ
雉 チ ノブ
雍 ヨフ チカ ヤス
電 デン アキラ ヒカリ
頌 シヨウ ノブ
預 ヨ ヤス フサ

【十四畫】

齊 セイ ナリ トキ タヾ ム子
僚 レウ アキラ トモ
像 ザウ カタ ノリ
僩 カン ヒロ
嘉 カ ヨシ
圖 ト ナリ ミツ
團 タン マロ
墅 シヨ ムラ
壽 ジユ トシ ヒサ ナガ

夥 クハ カズ
實 ジツ サ子 ミツ ミ チカ
察 サツ アキ アキラ ミ
廓 クワク ヒロ アキラ
彰 シヤウ アキラ
彭 ハウ ヨシ
慈 ジ チカ ナリ ヤス ヨシ
愿 ゲン ヨシ
態 タイ カタ
摸 モ カタ ノリ ヒロ
擒 リ ノブ ハル

字	音	名乘
暢	チヤウ	ノブ ナガ マサ
榮	エイ	ヒデ ナカ ヨシ
滿	マン	ミツ ミツル
漫	マン	ヒロ ミツ
演	エン	ノブ ヒロシ
熊	ユウ	クマ カゲ
爾	ジ	チカシ ミ
甄	ケン	アキラ
監	カン	アキ アキラ テル
碧	ヘキ	ミドリ タマ
碩	セキ	ヒロ
福	フク	ヨシ トミ
禎	テイ	ヨシ
種	シユ	タ子 カズ フサ
稱	シヨウ	ヨシ ノリ ミツ アグ
端	タン	ハシ マサ ナホ
精	セイ	キヨ アキ
粹	スヰ	キヨ タヾ
綠	リヨク	ノリ ツナ ツカ
綱	カウ	ツナ
維	ヰ	コレ ノリ シゲ
綿	メン	マサ ワタ ツラ
綰	クワン	キヌ アカ
聚	シユ	アツ
肇	テウ	タヾ ハジメ ナカ
臺	ダイ	モト
與	ヨ	トモ ヨシ モロ モト
裴	ハイ	ナガ
語	ゴ	コト
說	セツ	トキ カタ
誥	カウ	ツグ
誠	セイ	ノブ サ子 トモ シゲ
誕	タン	ノブ
認	ニン	モロ
誨	クワイ	コト ノリ
豪	カウ	ヒデ
貌	バウ	カタ
賒	シヤ	トヲ
賑	シン	トミ
賓	ヒン	ツラ ツグ
輔	ホ	スケ
輕	ケイ	トシ
遠	エン	トホ
遜	ソン	ヤス
遙	エウ	ハル トヲ ミチ
酷	コク	アツ
銀	ギン	カ子
銑	セン	サ子
閣	カク	タカ
際	サイ	キハ
需	ジユ	モト ミツ
頔	テキ	ヨシ
韶	セウ	アキ ツグ
飽	ハウ	アキ
醱	ハツ	カ

【十五畫】

字	音	名乘
齒	シ	トシ カタ
儀	ギ	ノリ ヨシ
儇	ケン	トシ
增	ゾウ	マス
墨	ボク	スミ
寬	クワン	ヒロ ノブ ノリ モト
審	シン	アキ
廣	クワウ	ヒロ ミツ
彈	タン	タヾ
影	エイ	カゲ カズ
徵	チヤウ	モト ナリ
德	トク	ノリ ナリ ヨシ ヤス
徹	テツ	トホル アキラ
慶	ケイ	ヨシ
憬	ケイ	サト トホ
憐	レン	チカ
撫	ブ	ヤス
撰	セン	ノブ
敷	フ	ノブ ヒラ
整	セイ	ナリ
暱	ジツ	チカ
模	モ	カタ
樂	ガク	セト
樓	ロウ	タカ
標	ヘウ	ヒデ タカ スヱ
槩	ガイ	ム子
毅	キ	ハタ ツヨ
澄	チヨウ	スミ キヨ スム
潤	ジユン	マス
潔	ケツ	キヨ ユキ
熟	ジユク	ナリ
稻	タウ	イナ イ子
穀	コク	コン
稽	ケイ	トキ
稺	チ	ワカ
窮	キウ	ミ
節	セツ	トキ
範	ハン	ノリ
篁	クワウ	タカ ムラ
篇	ヘン	アム カク
箴	シン	マサ
編	ヘン	ツラ
緖	シヨ	ヲ
緩	クワン	ノブ
練	レン	子リ ヨシ
緝	シフ	ツギ
翫	グワン	シゲ
蔭	イン	カゲ
蔚	ウツ	シゲ モト マサ
衞	エイ	モリ
褒	ハウ	ヨシ
論	ロン	トキ ノリ
諒	リヤウ	アキ マサ

- 調（テウ）ノリ
- 誰（スヰ）タレ
- 談（ダン）カタ
- 賞（シヤウ）ヨシ
- 賜（シ）マス
- 質（シツ）カタ ミ
- 賢（ケン）カタ ミシ タダ マサ
- 賚（ライ）ヨリ
- 賦（フ）マス
- 輪（リン）モト
- 輩（ハイ）トモ
- 輝（キ）テル
- 適（テキ）ユキ ヨリ アリ
- 鄰（リン）チカ
- 醇（ジユン）アツ
- 鋒（ホウ）サキ
- 鋭（エイ）トシ
- 鋪（ホ）ノブ ハル スケ
- 閱（エツ）カド ミ
- 閭（リヨ）サト
- 養（ヤウ）ヤス キヨ
- 駛（シ）トシ
- 駕（カ）ノリ
- 黎（レイ）タミ クロ
- 默（ヨク）クロ
- 僊（セン）トシ

【十六畫】

- 龍（リヨウ）タツ
- 龜（キ）カメ アヤ ヒサ
- 儒（ジユ）ヤス ヨシ
- 勳（クン）ノリ コト
- 圓（エン）ミツ
- 導（ダウ）ミチ
- 彊（キヤウ）タケ コワ
- 懌（エキ）ツグ
- 憲（ケン）ノリ カズ
- 憑（ヒヨウ）ヨリ ミツ
- 憖（ギン）タケ
- 擐（クワン）ツラ
- 操（ソウ）モチ
- 據（キヨ）ヨリ ヨル
- 整（セイ）ナリ
- 暹（セン）ノリ スケ アキラ
- 曉（ゲウ）トシ アキ トキ
- 曄（エフ）アキラ
- 樹（ジユ）キ ムラ シゲ
- 橫（ワウ）ミ
- 橋（キヨウ）タカ
- 歷（レキ）ツク ユキ ツネ フル
- 澤（タク）マス
- 濃（ノウ）アツ
- 燕（エン）ヨシ ヤス
- 獵（レウ）カリ
- 盧（ロ）イヘ
- 積（セキ）ツミ モチ モリ
- 穆（ボク）アツ トチ
- 篤（トク）アツ
- 縣（ケン）モト ムラ サト
- 翰（カン）モト チカ
- 興（キヤウ）オキ フサ
- 蕃（バン）シゲ
- 融（イユウ）ミチ トホ トホル
- 衡（カウ）ヒラ ヒデ
- 親（シン）チカ
- 諸（シヨ）モロ ツラ
- 諫（カン）タダ
- 諷（フウ）ヨム ヲト
- 諾（ダク）ツク
- 諭（ユ）ツグ
- 諧（カイ）ナリ
- 諶（ジン）ノブ
- 豫（ヨ）ヤス マサ
- 賴（ライ）ヨリ ヨシ
- 踰（ユ）ユキ
- 踵（シヨウ）ツグ
- 遵（ジユン）ユキ
- 遼（レウ）トホ
- 錫（セキ）スズ
- 險（ケン）タカ
- 隨（ズヰ）ヨリ ユキ ミチ
- 靜（セイ）チカ キヨ ヨシ
- 頭（トウ）カミ アキ
- 頻（ヒン）シゲ カズ フラ
- 駭（ガイ）ハヤ トシ
- 黔（キン）クロ
- 學（ガク）タカ サト モト

【十七畫】

- 優（イウ）マサ
- 嶺（レイ）ミネ
- 彌（ミ）イヤ マス ヒロ ミツ
- 應（オウ）マサ タカ
- 懇（コン）カタ
- 擣（タウ）カツ
- 擊（ゲイ）タカ モチ アグ
- 擧（キヨ）タカ ミナ
- 斂（レン）カズ

- 濟　サイ　ナリ　カネ　ヨシ　スミ
- 濱　ヒン　ハマ
- 濤　タウ　ナミ
- 營　エイ　ノリ
- 燭　シヨク　テル
- 禧　キ　ヨシ
- 穗　スヰ　ホ
- 總　ソウ　フサ　ノブ
- 縱　ジウ　ナホ
- 繁　ハン　シゲ
- 績　セキ　ノリ　ナリ
- 縮　シユク　ナホ
- 繇　エウ　ヨリ
- 繄　エイ　コレ
- 聲　セイ　モリ　カタ　ナ
- 聰　ソウ　トシ　アキラ
- 膺　イヨウ　ムネ　アツ
- 臨　リン　ミ
- 薦　セン　ノブ　シク
- 覯　カウ　ミ
- 謙　ケン　カタ
- 講　カウ　ノリ　ミチ　ツグ
- 謐　ヒツ　ヤス
- 邁　マイ　ユキ
- 闊　クワツ　ヒロ
- 闌　ラン　タケ
- 隱　イン　ヤス
- 鞠　キク　ミツ　ツゲ
- 館　クワン　イヘ
- 駿　シユン　トシ
- 鮮　セン　マレ　ヨシ
- 鴻　コウ　ヒロ
- 齋　サイ　ヨシ　キヨ

【十八畫】

- 儲　チヨ　ソヒ
- 擷　ケツ　モチ
- 斷　ダン　タツ　タフ
- 曙　シヨ　アキラ
- 曜　エウ　テル　アキラ
- 歸　キ　ユキ
- 瀉　シヤ　カタ
- 瞻　セン　ミ
- 禮　レイ　ウヤ　ヒロ　ユキ
- 簡　カン　ヒロ　アキラ
- 繕　ゼン　ヨシ
- 繙　ハン　ノブ　トキ
- 翹　ゲウ　アキ
- 翼　ヨク　スケ
- 職　シヨク　モト　ヨリ　ヨシ　ツ子
- 藏　ザウ　クラ　マサ　タダ
- 薰　クン　シゲ　シク　クル
- 謹　キン　ナリ　ノリ
- 謨　ボ　ノリ　フミ
- 豐　ホウ　トヨ　フミ
- 贅　ゼイ　サダ
- 轉　テン　ヒロ
- 邈　バク　トホ
- 釐　リ　ヨシ　タダ
- 鎌　ケン　カ子　カマ
- 鎭　チン　シゲ　ヤス　タ子　ツ子
- 闐　テン　ミツ
- 雜　サフ　トモ　カズ
- 雝　ヨウ　ヤス
- 題　ダイ　ミツ

【十九畫】

- 寵　チヨウ　ヨシ
- 廬　ロ　イヘ
- 懷　クワイ　カ子　ヤス　チカ　タカ
- 攀　ハン　ヨリ　タカ
- 曠　クワウ　ヒロ　トホ
- 瀧　ロン　タキ
- 疇　チウ　トモ　ウ子
- 疆　キヤウ　タケ
- 穩　オン　ヤス
- 繩　ジヨウ　ツナ　ナハ
- 繹　エキ　ノブ　ミツ　ツラ　ツグ
- 羅　ラ　ツラ
- 藝　ゲイ　ノリ　スケ　マサ
- 藩　ハン　カキ
- 藤　トウ　フヂ
- 識　シキ　ノリ　ツ子
- 證　シヤウ　アキラ　ミ
- 贊　サン　スケ　ヨシ　アキラ
- 贇　イン　ヨシ
- 鏡　キヤウ　ミ　トシ　アキラ
- 關　クワン　セキ
- 韜　タウ　ヨシ
- 類　ルヰ　トモ　ヨシ
- 麗　レイ　アキラ　ヨシ　ツク

【二十畫】

- 勸　クワン　ユキ
- 嚴　ゲン　ヨシ　カ子　ツ子
- 寶　ハウ　トミ　タカ
- 懸　ケン　トホ　ハル
- 瀰　ビ　ミツ
- 獻　ケン　ノブ
- 籌　チウ　カズ
- 繼　ケイ　ツグ　ツギ　ツ子
- 纂　サン　アツ

蘇 ソ イキ
覺 カク アキラ
議 ギ カタ ノリ
譜 フ ツグ
譯 ヤク ツグ
釋 シヤク トキ
鐘 シヨウ カ子 アツ
闡 セン アキラ
隲 シツ サダ
黨 タウ マサ
齡 レイ トシ

【二十一畫】
屬 ゾク ツグ マサ
巍 ギ タカ
攝 セツ カ子 カヌ
曩 ジヤウ ヒサ
續 ゾク ツダ
覽 ラン カタ タヾ ミ
護 ゴ モリ サ子
譽 ヨ タカ ヤス シゲ
辯 ベン タヾ
鐵 テツ トシ
闥 タツ カド
露 ロ アキラ
顧 コ ミ

【二十二畫】
儻 タウ ユキ
懿 イ ヨシ モロ
權 ケン ノリ
聽 チヤウ アキラ アキ
襲 シウ ヨリ
讀 トク ヨシ オト
鑑 カン アキ アキラ ミ カタ
霽 セイ ハル ナリ

【二十三畫】
巖 ガン ミチ
顯 ケン アキ アキラ
驗 ケン トシ
驚 キヤウ トシ
體 タイ ナリ ミ モト

【二十四畫】
矗 チク ノブ
讓 ジヤウ ノリ ヨシ セム
靈 レイ ヨシ
鷹 ヨウ タカ

【二十五畫】
纘 サン ツグ
觀 クワン ミ

【二十七畫】
鑾 ラン スヾ オト

名乘の讀方終

大正元年十二月　五　日印刷
大正元年十二月　九　日發行
大正貳年　六　月廿六日再版

姓氏明鑑　奥附

定價金參圓

著作權所有

編纂者　姓氏研究會

發行者　東京市牛込區市谷田町一丁目一番地　折井最一

印刷者　日本橋區箱崎町四丁目壹番地　北村兼吉

印刷所　日本橋區箱崎町四丁目壹番地　北村印刷株式會社

發行所　東京市牛込區市谷田町一ノ一　弘文書院内東京振替二三七六番　姓氏研究會

發賣所　東京市牛込區通寺町二三　振替東京一四二五五番　三友堂書店

姓氏研究會設立趣旨

我が國上下茫々三千載天祖長く統を傳へ給ひ、萬姓統を分ち、子孫相傳へて各々祖先の威靈に服從し、家系血統を重んじて萬世一系の天胤に仕へ來れり。されば我が國民の祖先は各々其子孫が仰慕敬愛の標的にして、そが相通の血脈は、一家一族の結合上に於ける天然の連鎖なり、故に古來家族の長は毎に其の子弟を戒めて己が祖先の遺風を顯彰せしめ、之をして各々光輝ある祖先の子孫たらしめんとせり、現に教育の御勅語にも「爾祖先の遺風」としも仰せられたるにあらずや、然らば則ち國民氏族の出自を辨知するは實に國民道德思想の起點にして、我が國の特有なる忠孝一本の大義も此に本くと謂ふべし、近來偶々外來の思想に驅られて、國民道德の罪人となり、敢て臣子の分を愆らんとするものなきにあらず、慨ぜざるべけんや。實に方今の急務は、國民をして我が國民道德の大本を知らしめ、各自其の業を勵み以て祖先の遺風を顯彰せしむるにあり、且や吾人日常の實踐道德も範を遠きに求めずして、之を我が祖先に求むるばかり深刻なる感動を與ふるものあらざるべし、殊に一國即一家なる我が國體特殊の家族制度の今に喧しく、祖先崇敬家系尊重の國民教育上漸く重要の度を加へ來たるの今日、此種の研鑽亦徒爾ならずと信ず、乃ち玆に我等同人相謀り、天下知名諸士の贊同を得て一會を創め、名けて姓氏研究會といひ、專ら我が國民氏族の由來出自を調査研究して聊か國民道德の振興に資することあらんを期し、先づ事業の一着手として「姓氏明鑑」を編したり、而して尙會の事業としては廣く世の依賴に應じて、諸家系統の出自其の他姓氏に關する調査に從はんとす、こゝに本會設立の趣旨を逑べて廣く天下諸士の贊同を請ふ。

大正二年一月

姓氏研究會

姓氏研究會規定要項

一 本會を姓氏研究會と名つく

一 本會事務所は假りに東京市牛込區市ヶ谷田町一丁目一番地に置く

一 本會は姓氏氏族の出自源流を調査研究し國民道德の振興に資するを目的とす

一 本會の趣旨を贊同し「姓氏明鑑」の配布を受けたるものは會員とす

一 會員は左の特權を有す
姓氏に關し質疑することを得（但返信料參錢を要す）

一 本會は左の材料を募る
(イ)姓氏(讀方並に其姓氏につき由來あらば附記すること)
(ロ)村名、字名(あざな)の由來即ち此村名字名は如何なる理由にて付けたるか等
(ハ)家紋圖及び其紋の名稱(其紋に關する傳說あらば附記する事)
右何れも出所(口碑か或は書籍なれば何々の書物)を明記する事

一 本會は詳細系譜の調査に應ず(照會返信料を要す)

一 本會は追て會報を發刊す

東京市牛込區市ヶ谷田町一丁目一番地

姓氏研究會